

第480図 5・95区ピット出土遺物

## 9. 遺構外出土遺物

遺構に帰属し得なかった遺物について、遺構外出土として以下に記載する。これらの多くは、表土掘削時や遺構確認時の掘り下げ時に検出されたもの他、次章で扱う平安時代以降の遺構より出土した縄文時代の遺物も遺構外出土遺物として併せて報告する。

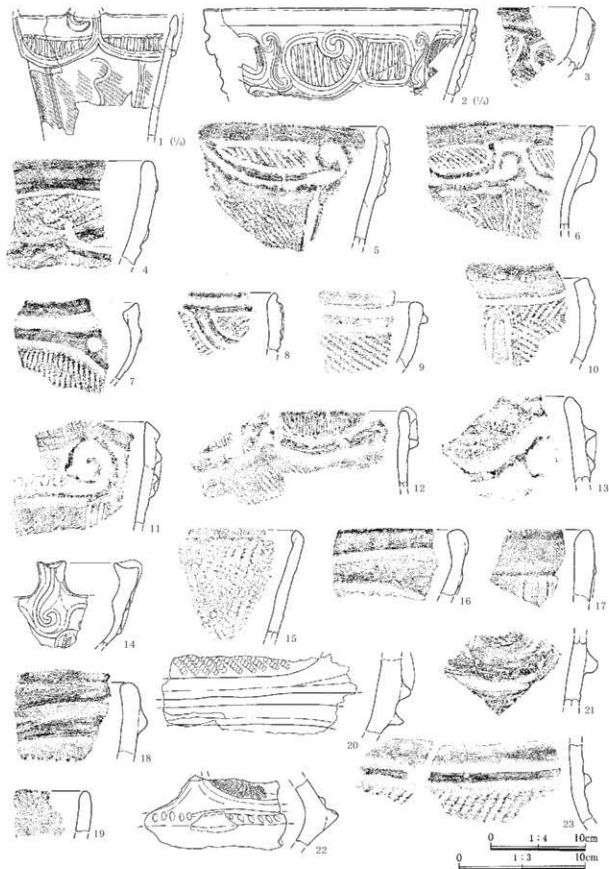
遺物は、特に調査区の南側谷地に掛かる部分から、やや下った谷の上位部分において多く出土している。また、今次の調査区では表土下遺構確認面までの黒色土層が比較的厚く、平安以降とした陥し穴等からの出土も多い。5区・95区は本来であれば同じ1つの調査区内であり、区別に記載する必要は無いかとも考えたが、これまでの記載方法に則り、土器、石器を5区・95区に分け掲載している。

### (1) 土器・土製品 (第481～503図：PL.245～258)

土器は遺構の時期が反映され、中期後葉に比定されるものが大半を占めている。隆線、矢羽根状の沈線文を多用する信州系の土器が多く含まれている。これに続いて多く見られるのが、後期初頭から前半期のものである。その他前期末から中期初頭の遺物も、僅かではあるが出土している。

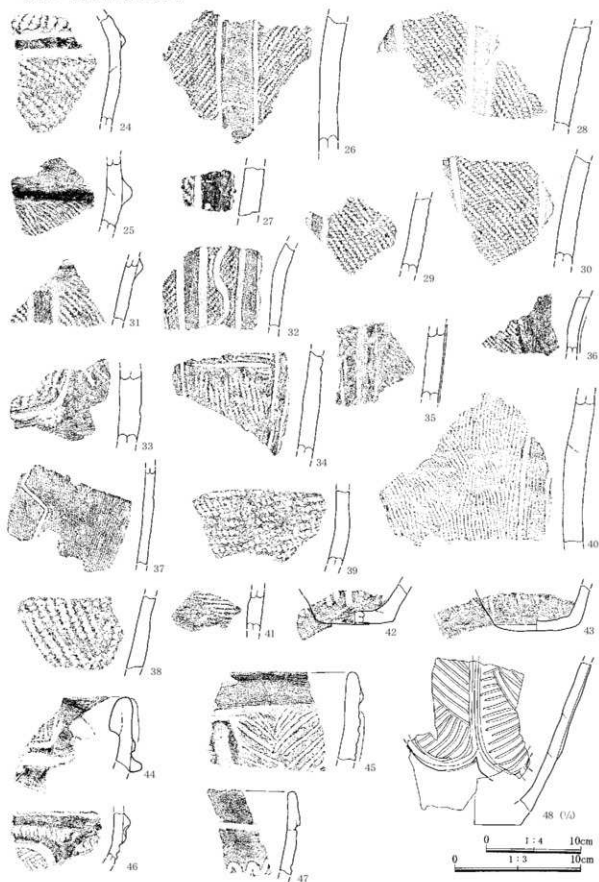
### (2) 石器・石製品 (第504～530図：PL.259～267)

石器も多く、石鎌、石錐の多さは注意されるものである。その他、打製石斧、磨石も遺構出土のものと同様主要な器種となっている。このほか石棒・多孔石なども多く見られる。

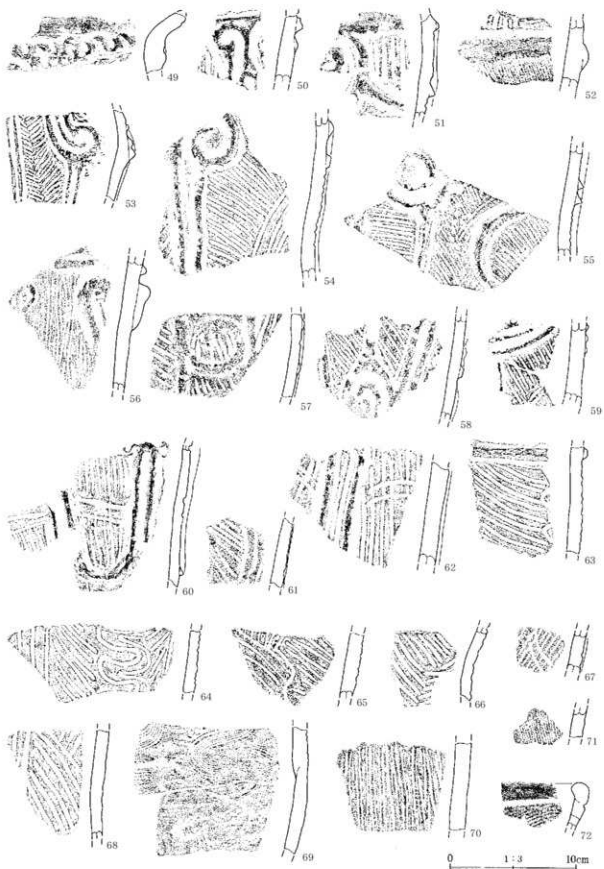


第481図 5区遺構外出土土器(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第482図 5区遺構外出土土器(2)

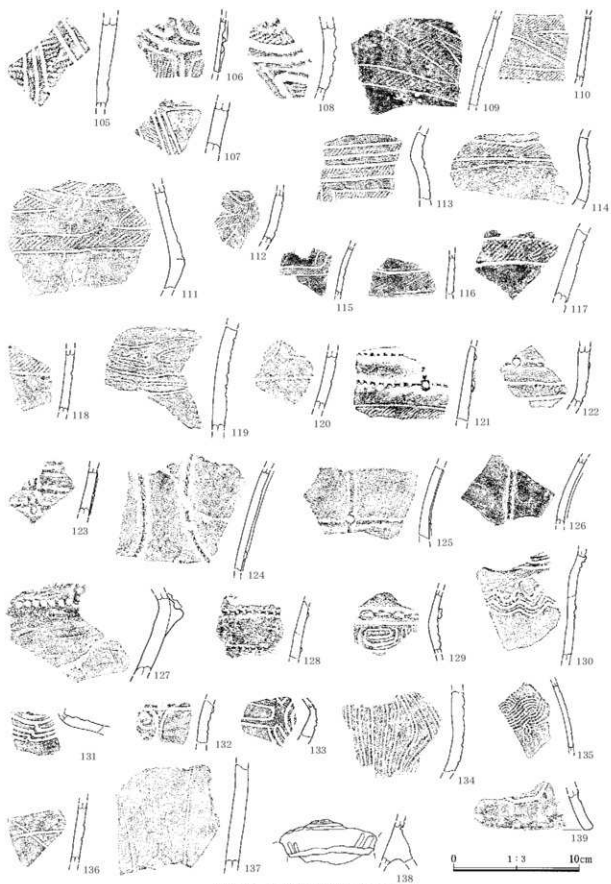


第483図 5区遺構外出土土器(3)

第3章 検出された遺構と遺物

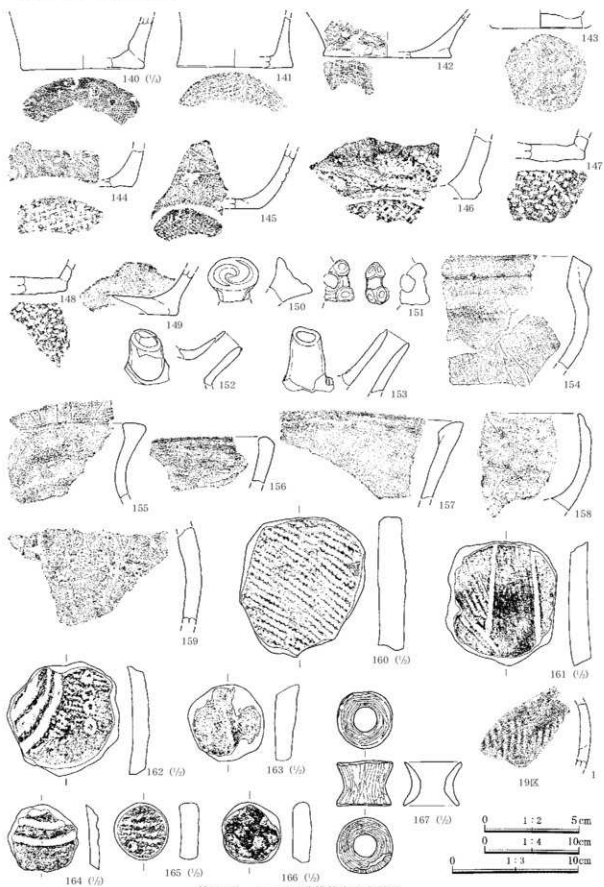


第484図 5区遺構外出土土器(4)

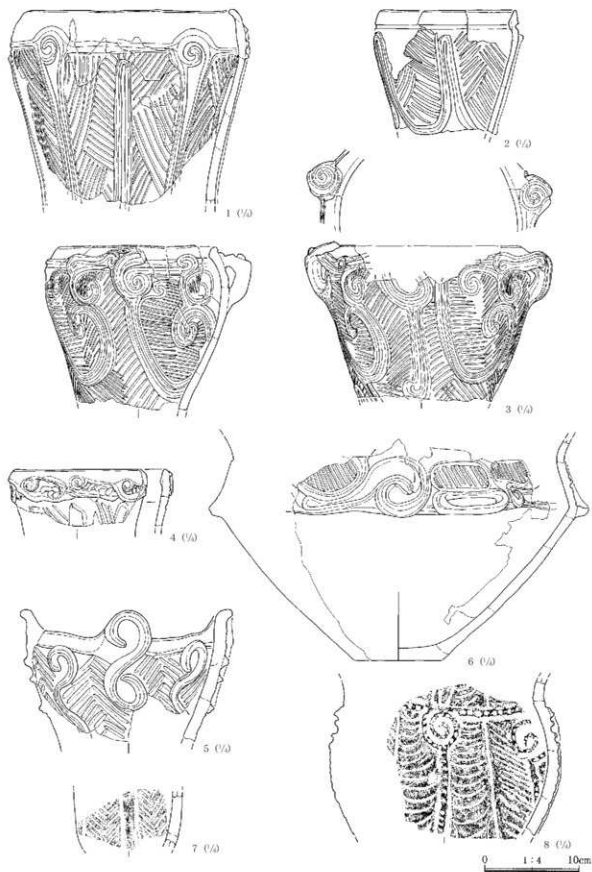


第485図 5区遺構外出土土器(5)

第3章 検出された遺構と遺物

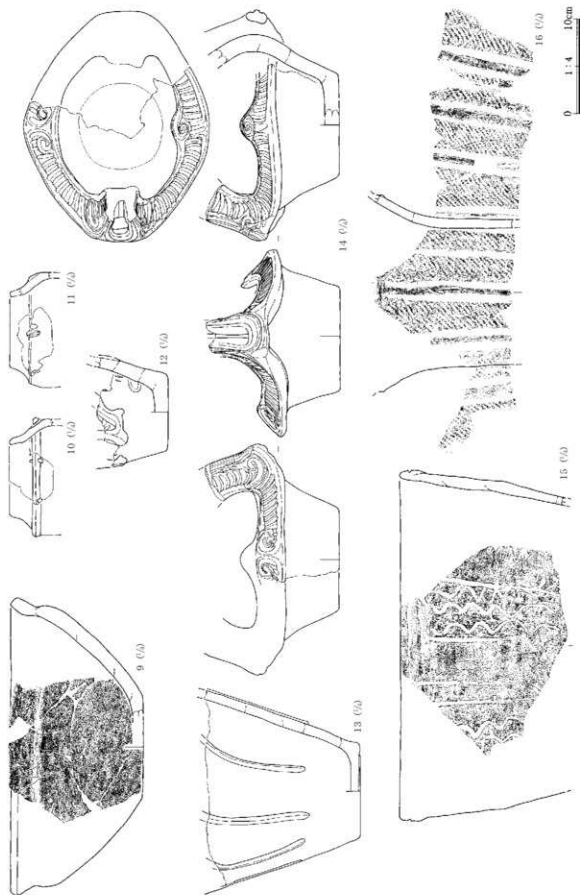


第486図 5・19区遺構外出土土器(6)

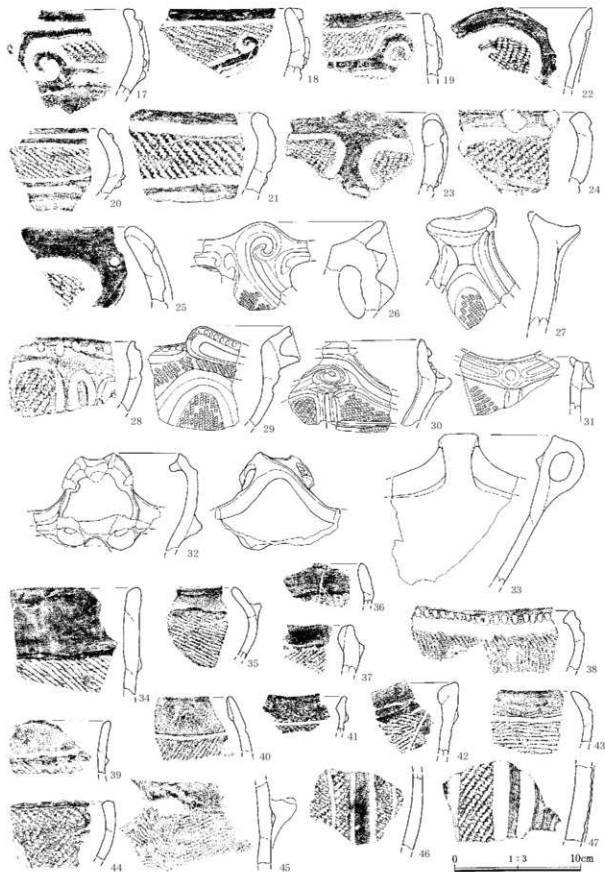


第487図 95区遺構外出土器(1)

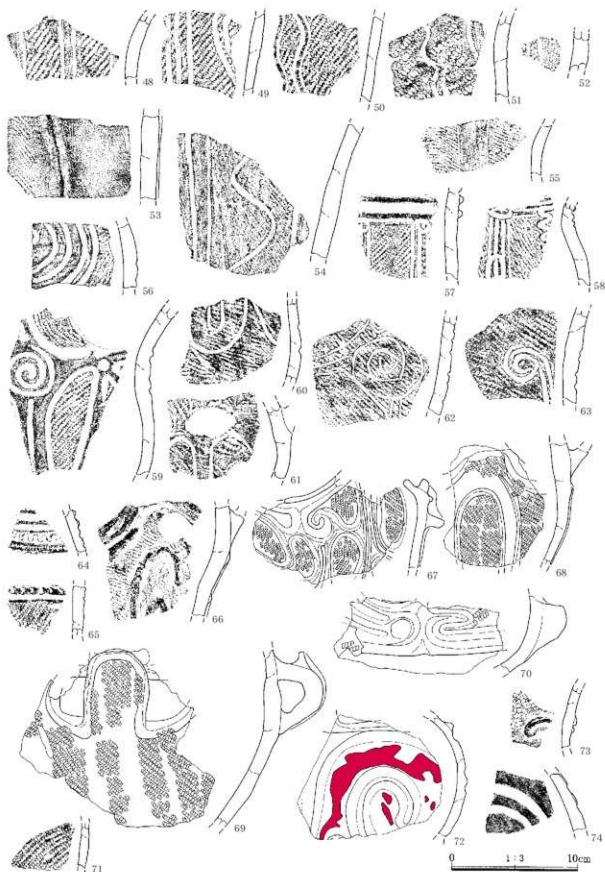




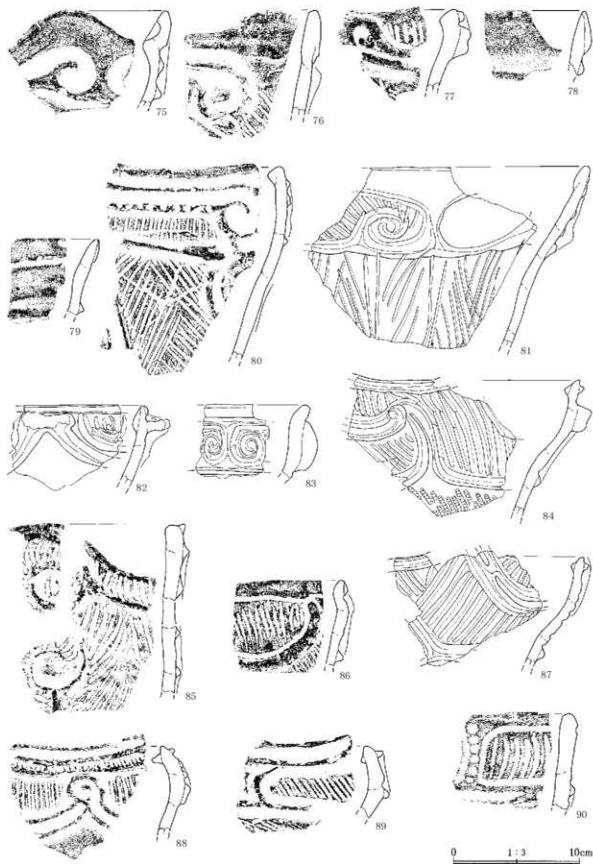
第488図 95区遺構外出土器(2)



第489図 95区遺構外出土土器(3)

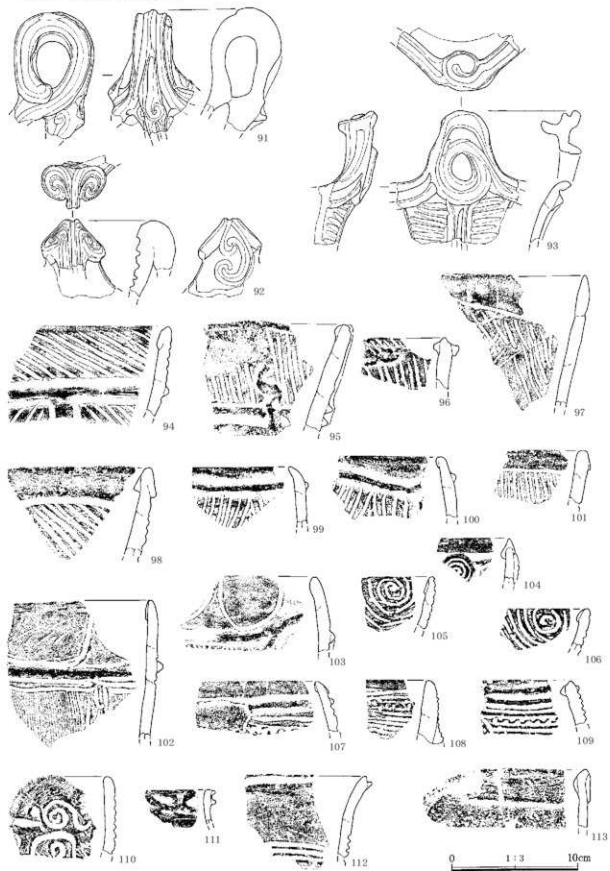


第490図 95区遺構外出土土器(4)

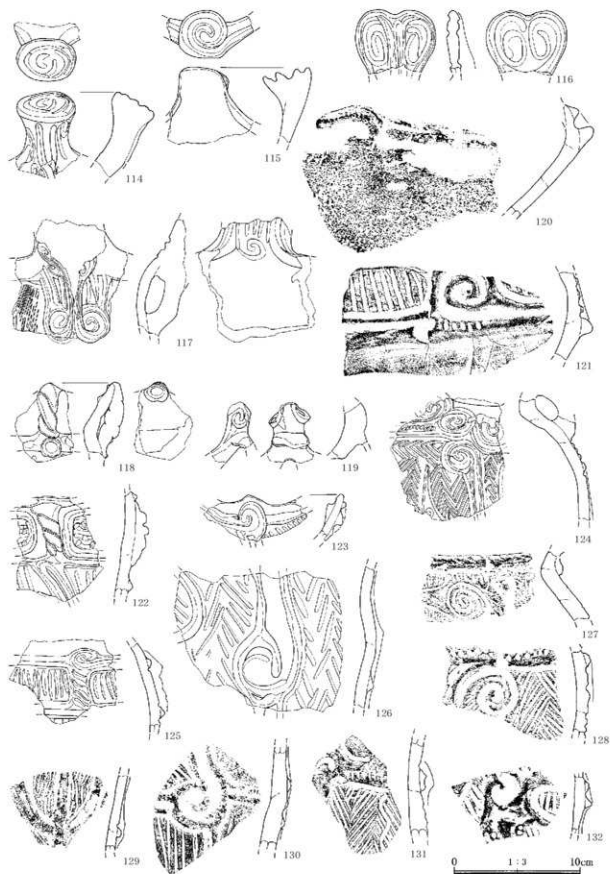


第491図 95区遺構外出土土器(5)

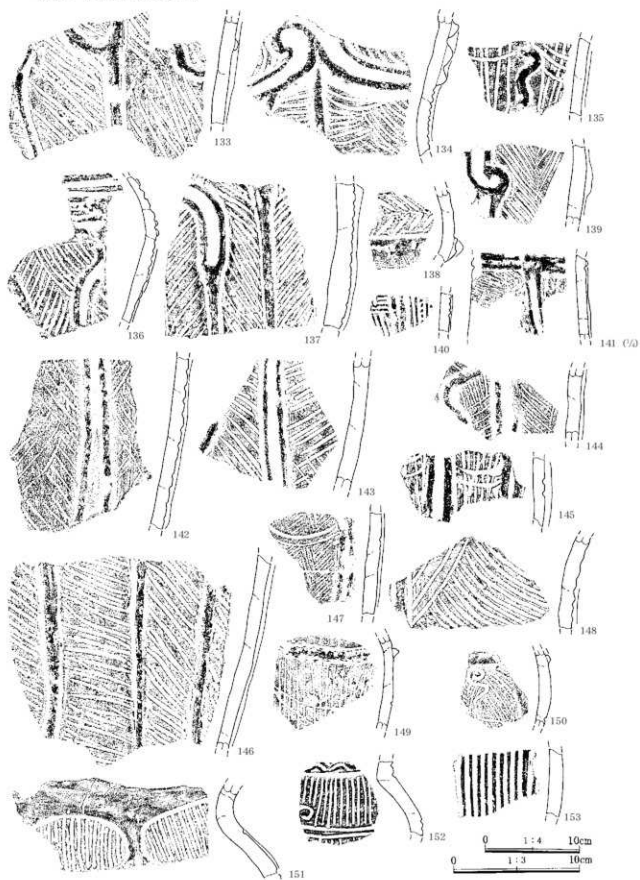
第3章 検出された遺構と遺物



第492図 95区遺構外出土土器(6)



第493図 95区遺構外出土土器(7)



第494図 95区遺構外出土土器(8)

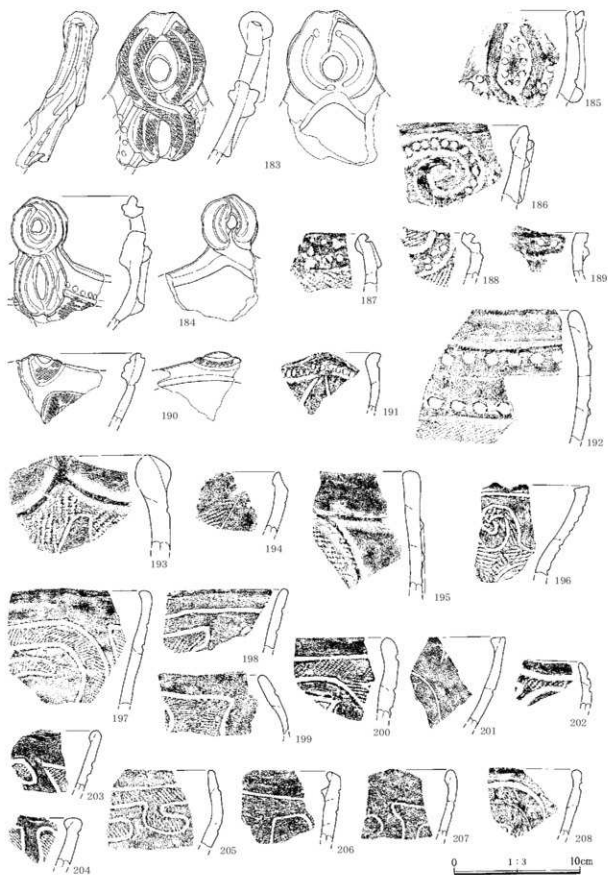
第2節 縄文時代の遺構と遺物



第495図 95区遺構外出土土器(9)



第3章 検出された遺構と遺物

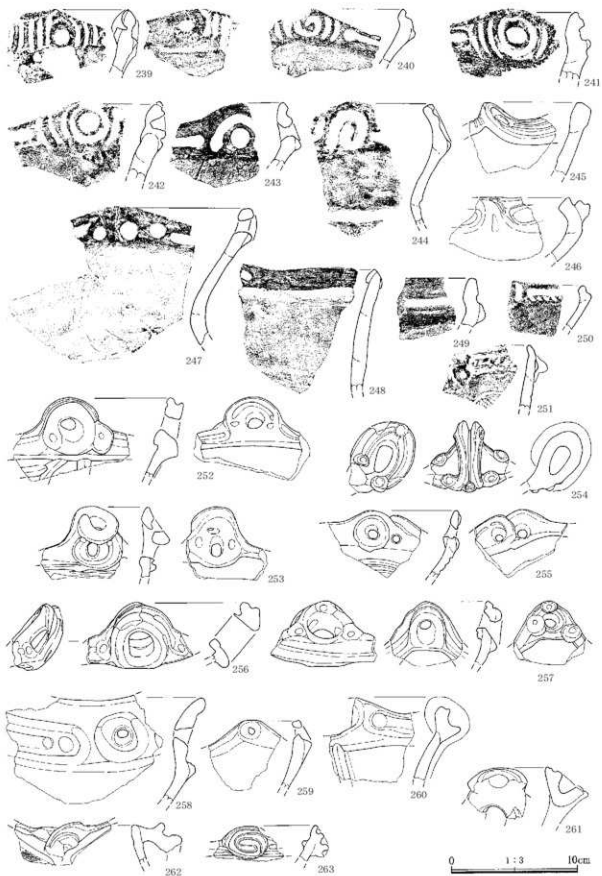


第496図 95区遺構外出土土器(10)



第497図 95区遺構外出土土器(II)

第3章 検出された遺構と遺物



第498図 95区遺構外出土土器(12)

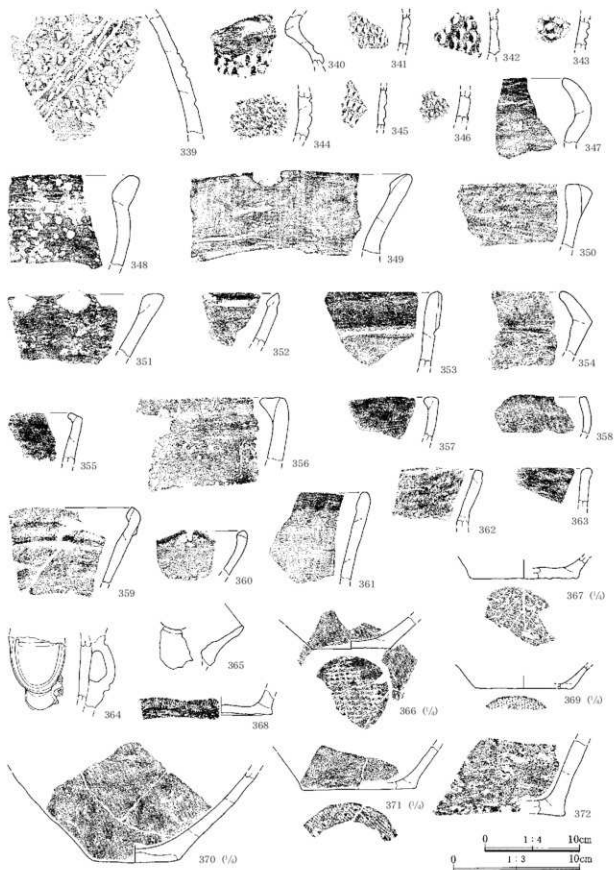


第499図 95区遺構外出土土器(13)

第3章 検出された遺構と遺物

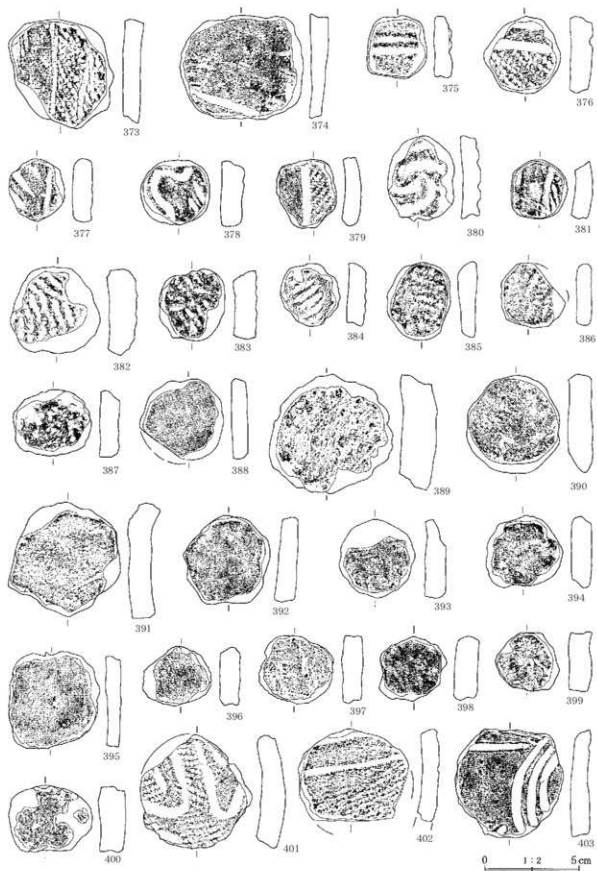


第500図 95区遺構外出土土器(14)

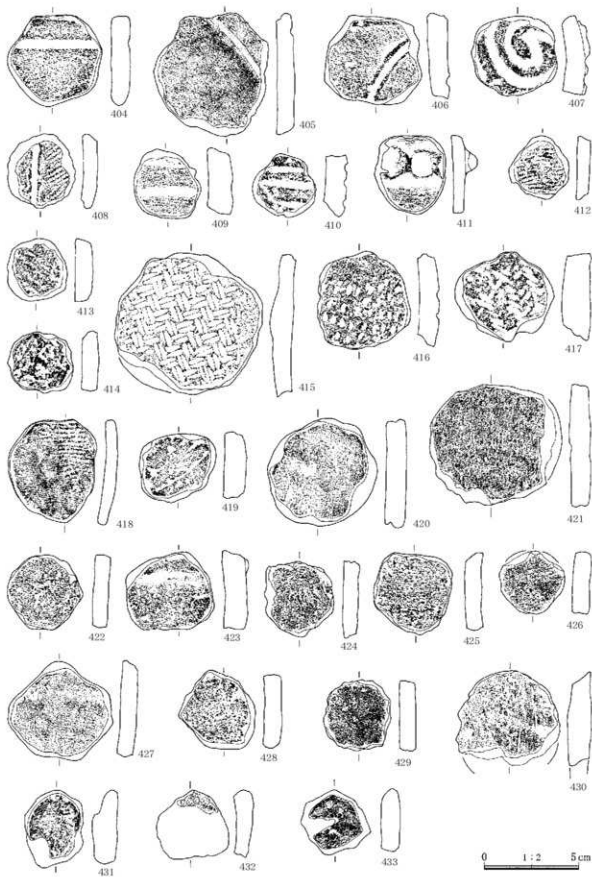


第501図 95区遺構外出土土器(15)

第3章 検出された遺構と遺物



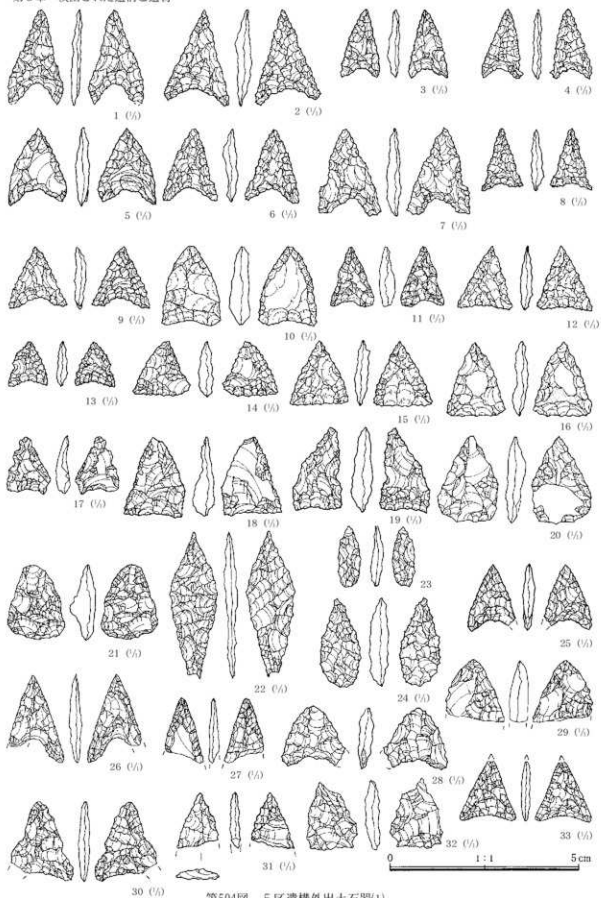
第502図 95区遺構外出土土器(16)



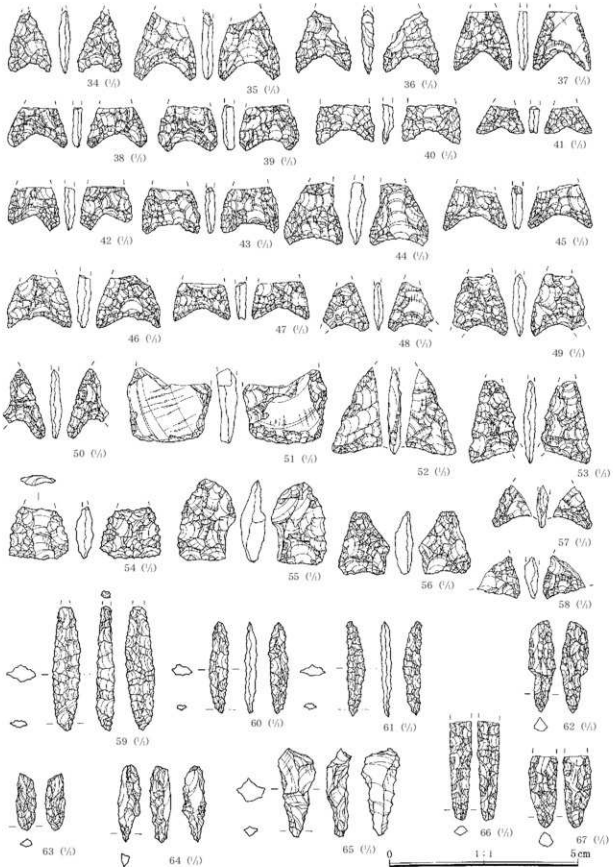
第503図 95区遺構外出土土器(17)



第3章 検出された遺構と遺物

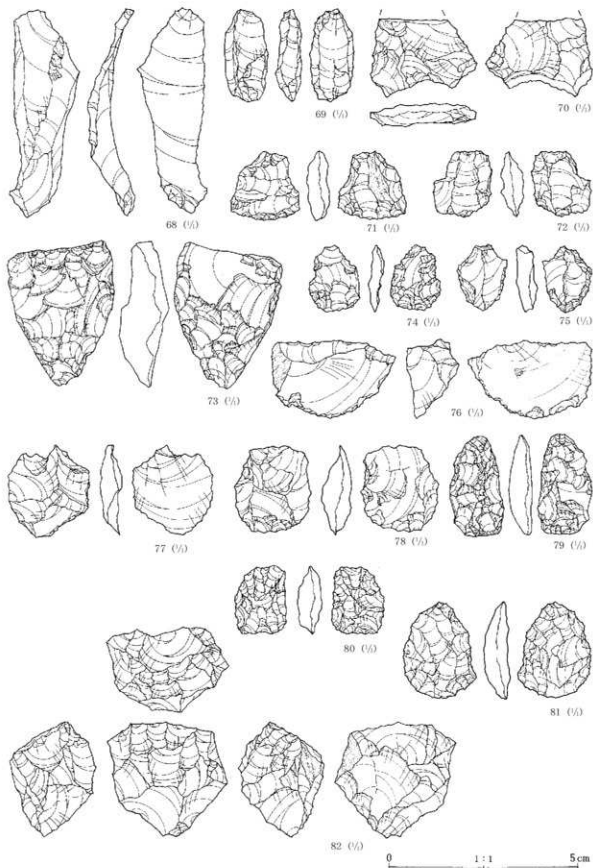


第504図 5区遺構外出土石器(1)

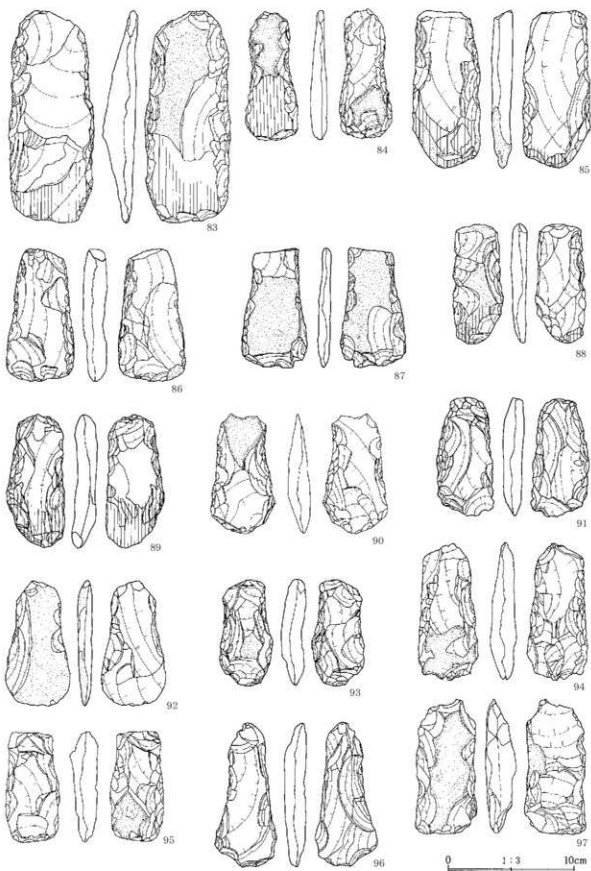


第505図 5区遺構外出土石器(2)

第3章 検出された遺構と遺物

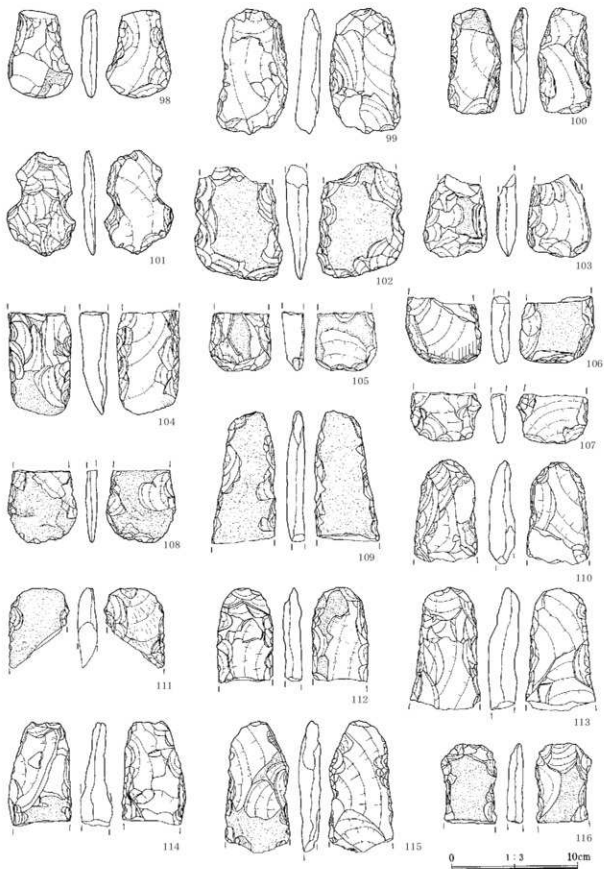


第506図 5区遺構外出土石器(3)

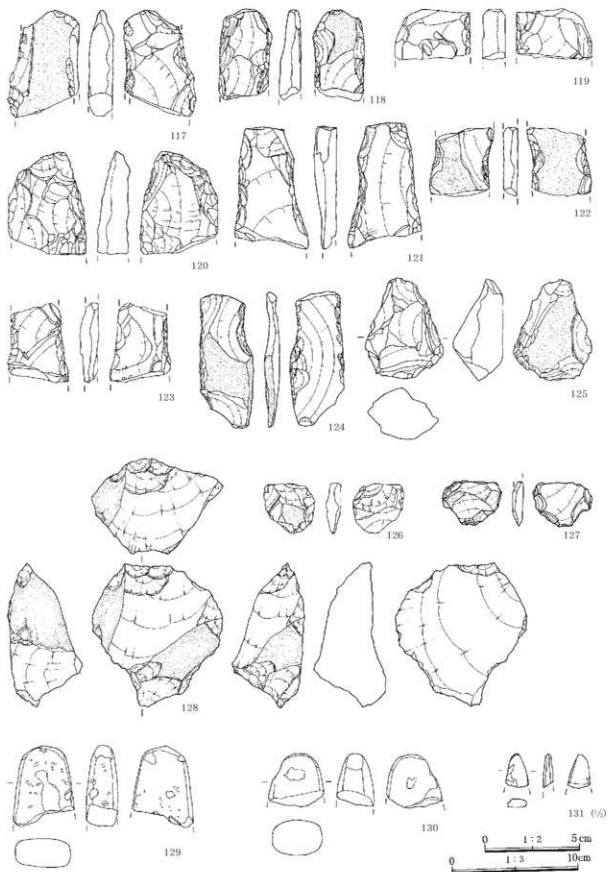


第507図 5区遺構外出土石器(4)

第3章 検出された遺構と遺物

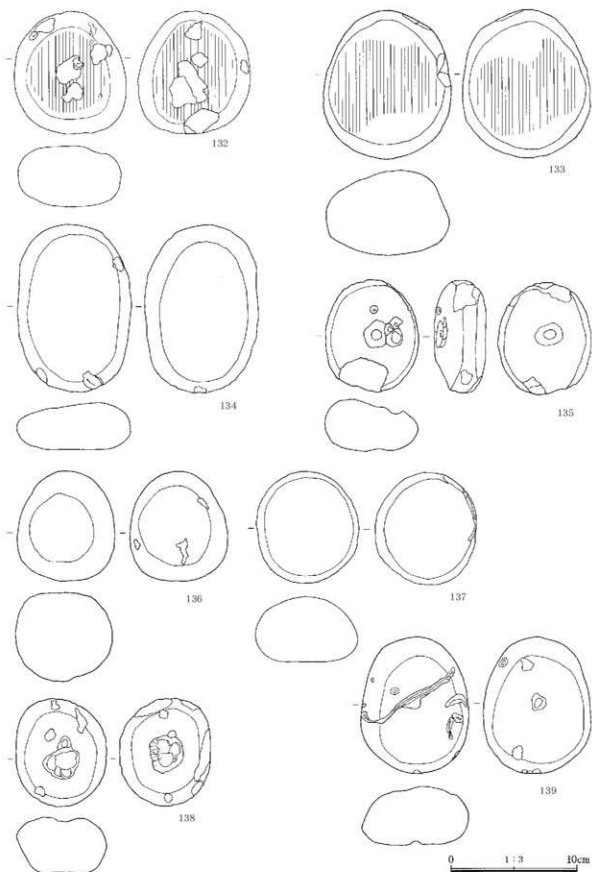


第508図 5区遺構外出土石器(5)

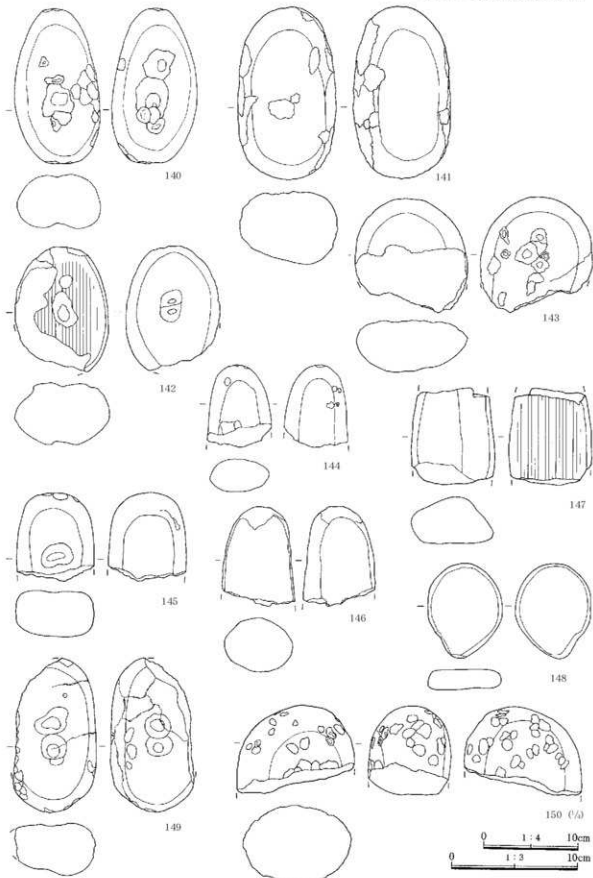


第509図 5区遺構外出土石器(6)

第3章 検出された遺構と遺物



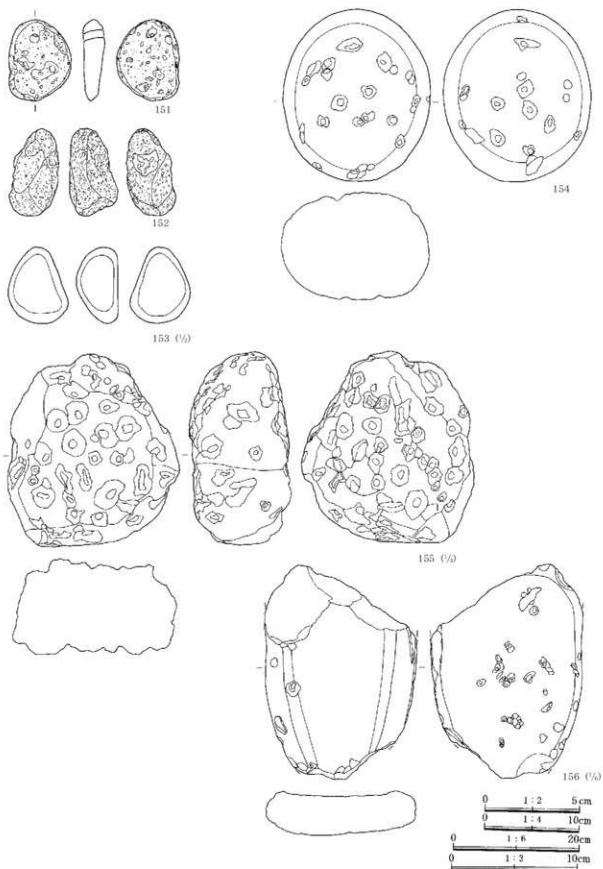
第510図 5区遺構外出土石器(7)



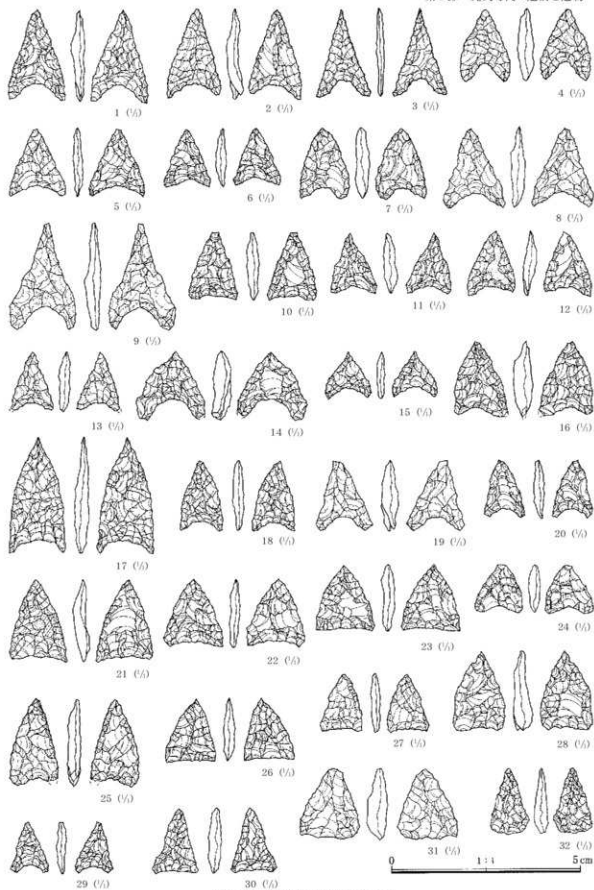
第511図 5区遺構外出土石器(8)



第3章 検出された遺構と遺物

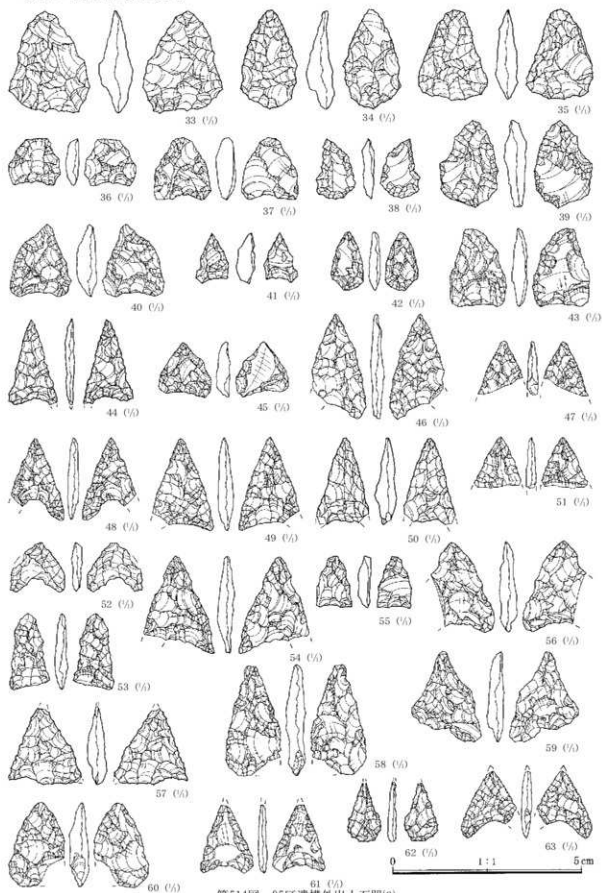


第512図 5区遺構外出土石器(9)

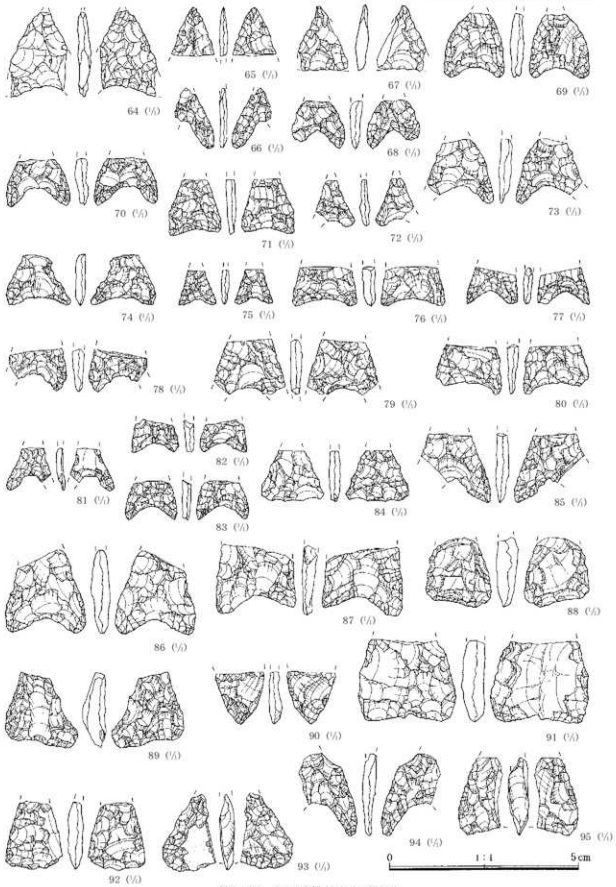


第513図 95区遺構外出土石器(1)

第3章 検出された遺構と遺物

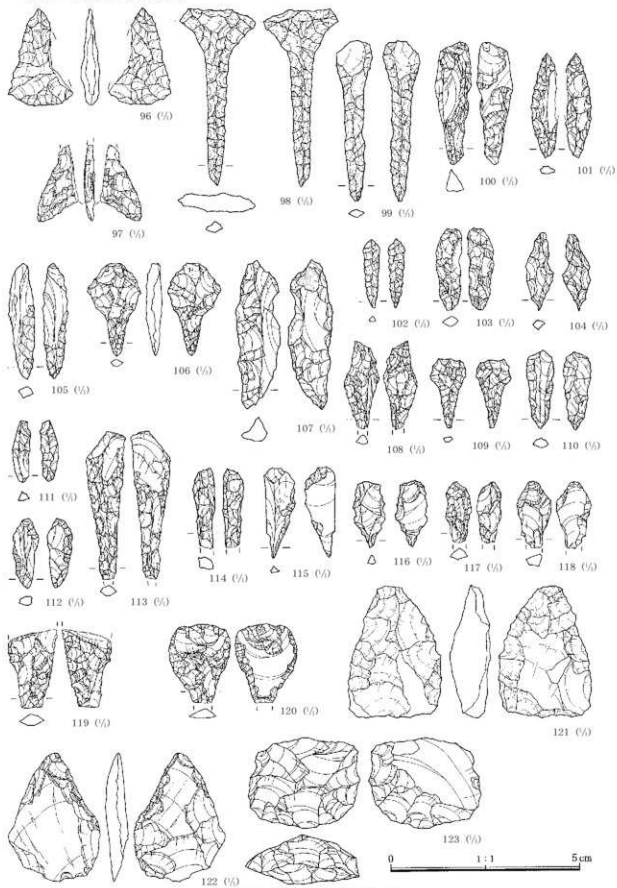


第514図 95区遺構外出土石器(2)

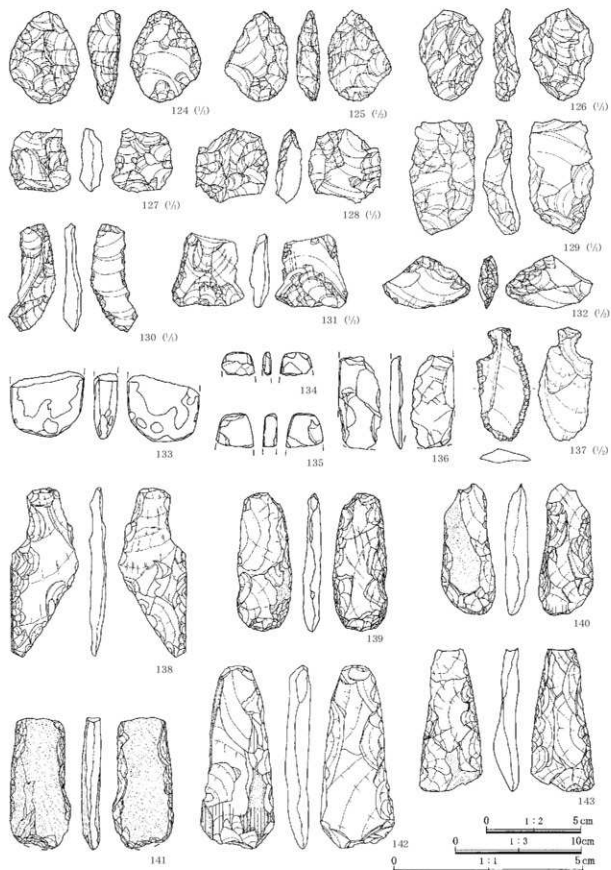


第515図 95区遺構外出土石器(3)

第3章 検出された遺構と遺物

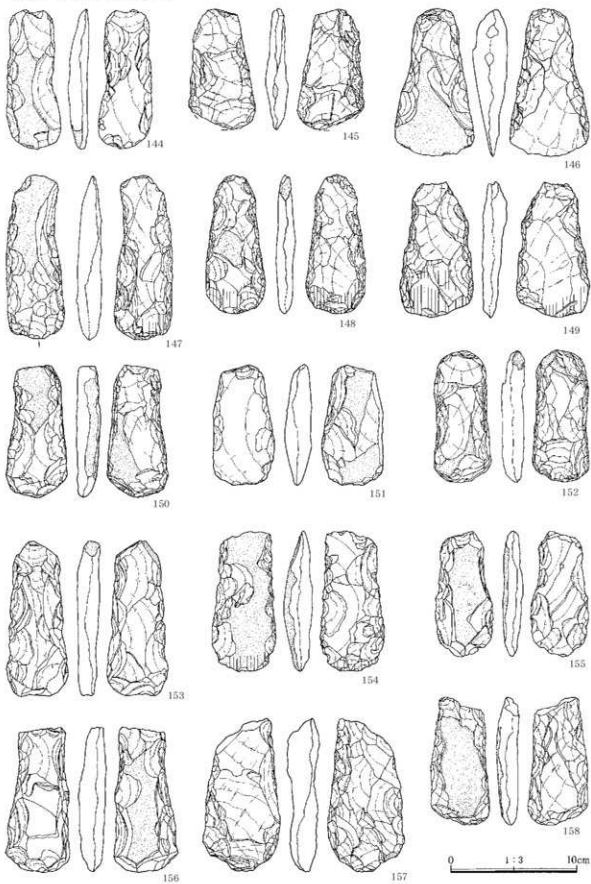


第516図 95区遺構外出土石器(4)

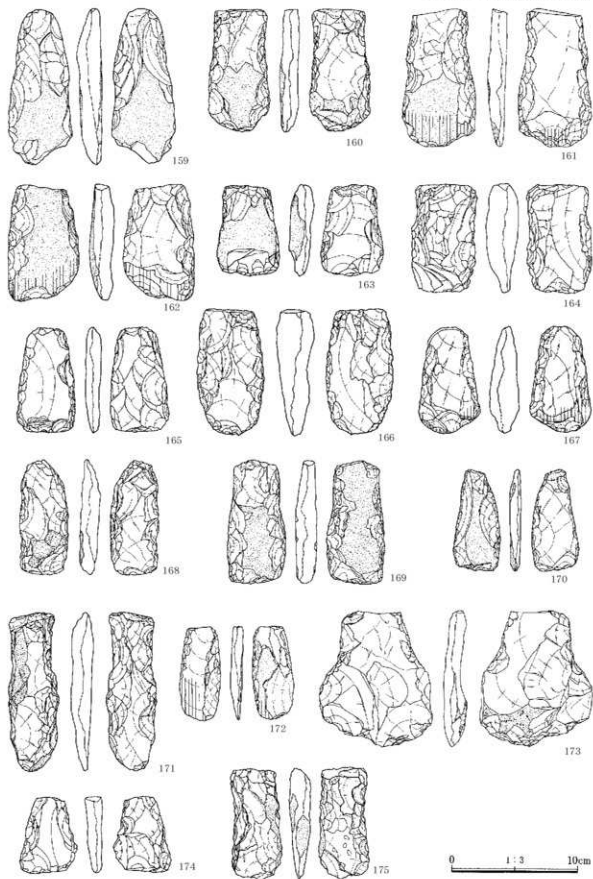


第517図 95区遺構外出土石器(5)

第3章 検出された遺構と遺物



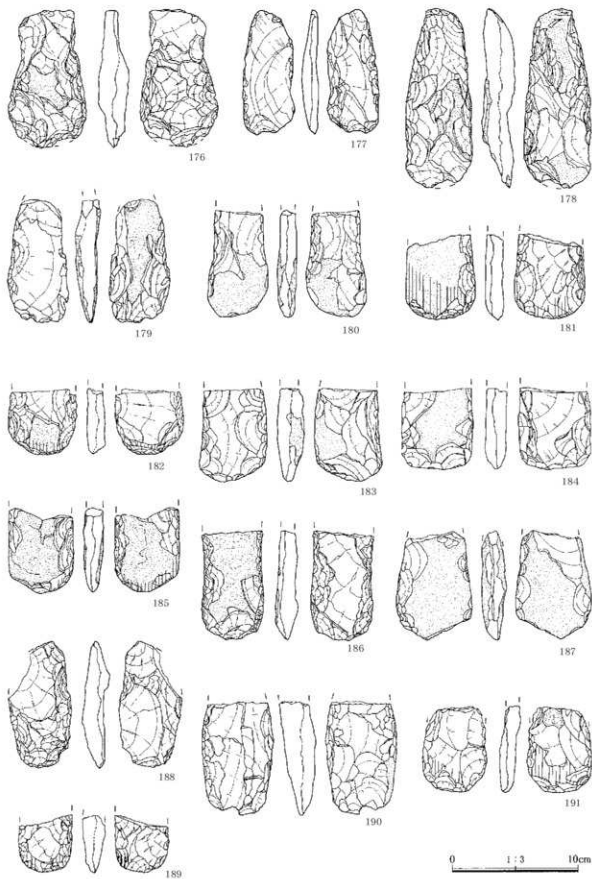
第518図 95区遺構外出土石器(6)



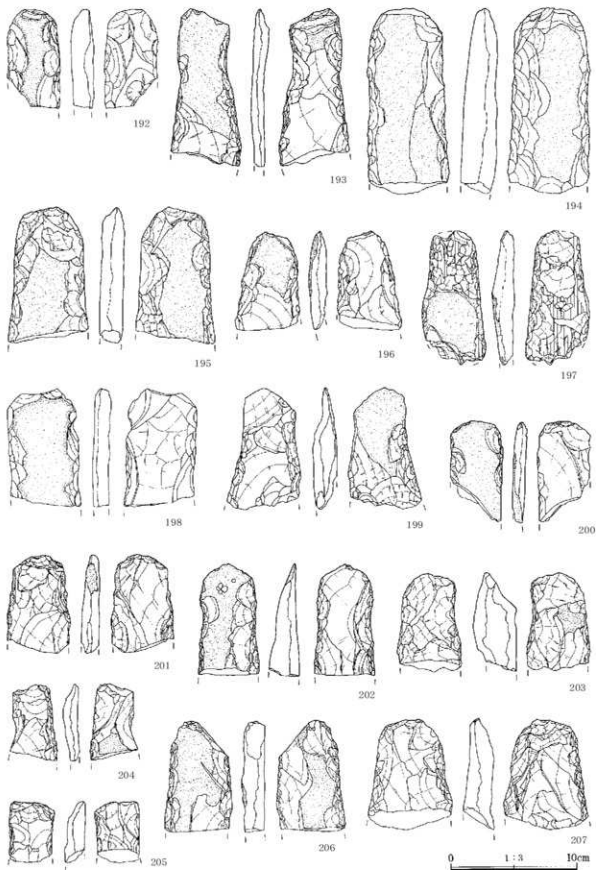
第519図 95区遺構外出土石器(7)



第3章 検出された遺構と遺物

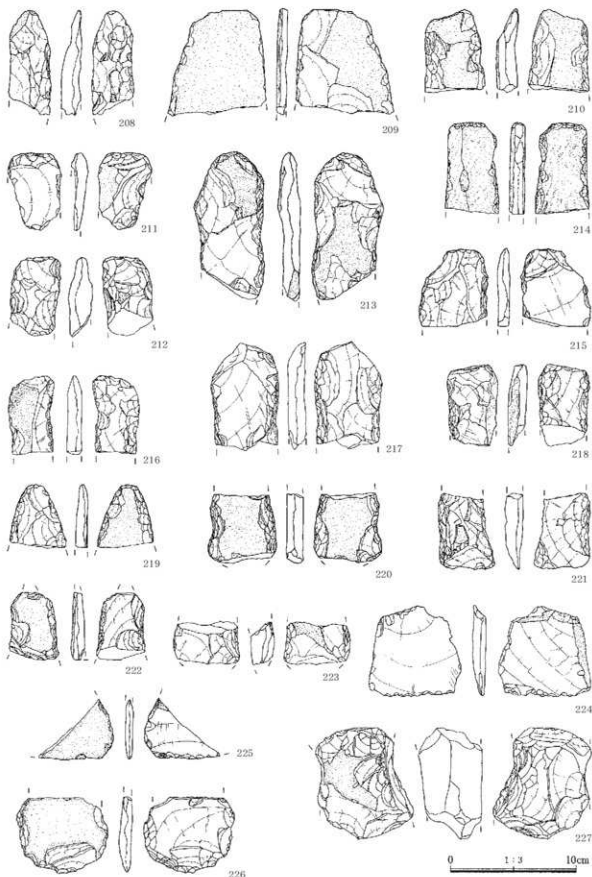


第520図 95区遺構外出土石器(8)

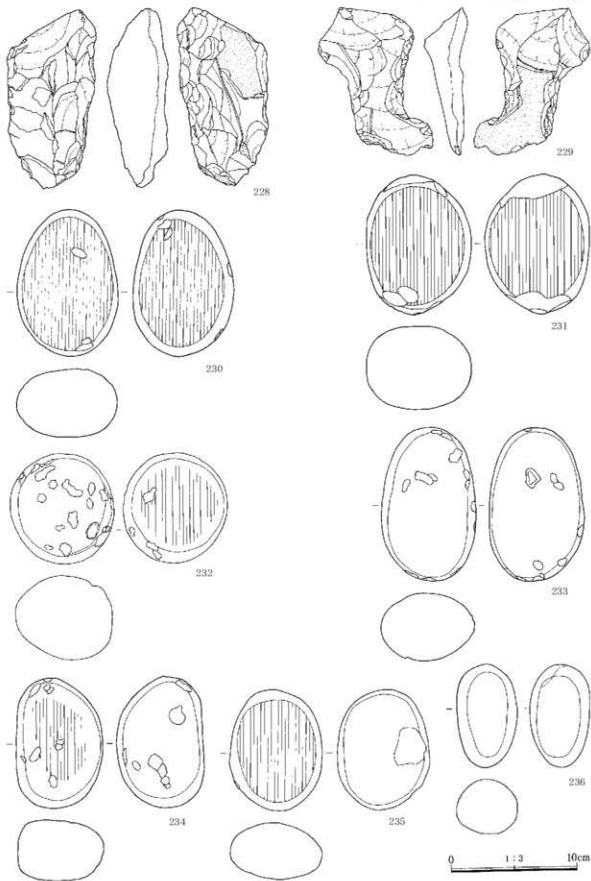


第521図 95区遺構外出土石器(9)

第3章 検出された遺構と遺物

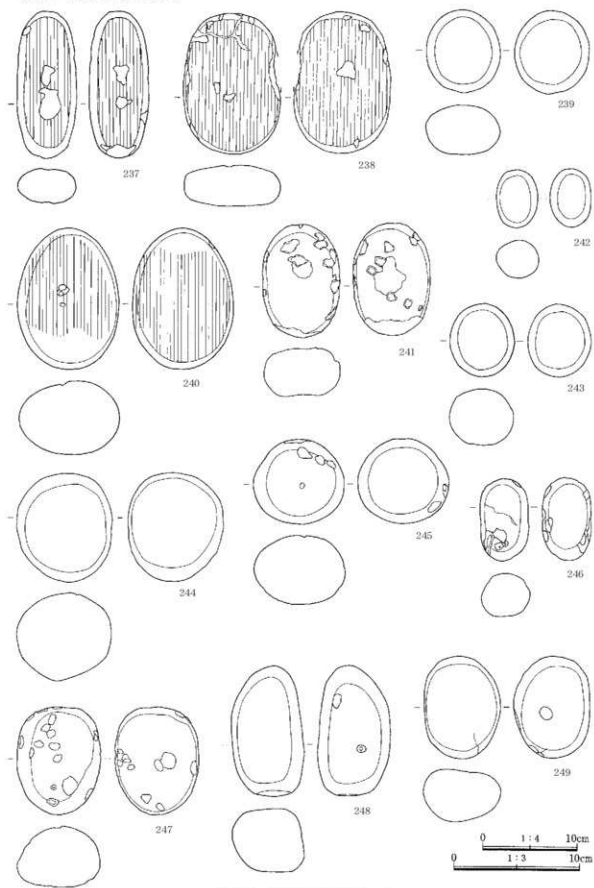


第522図 95区遺構外出土石器(10)

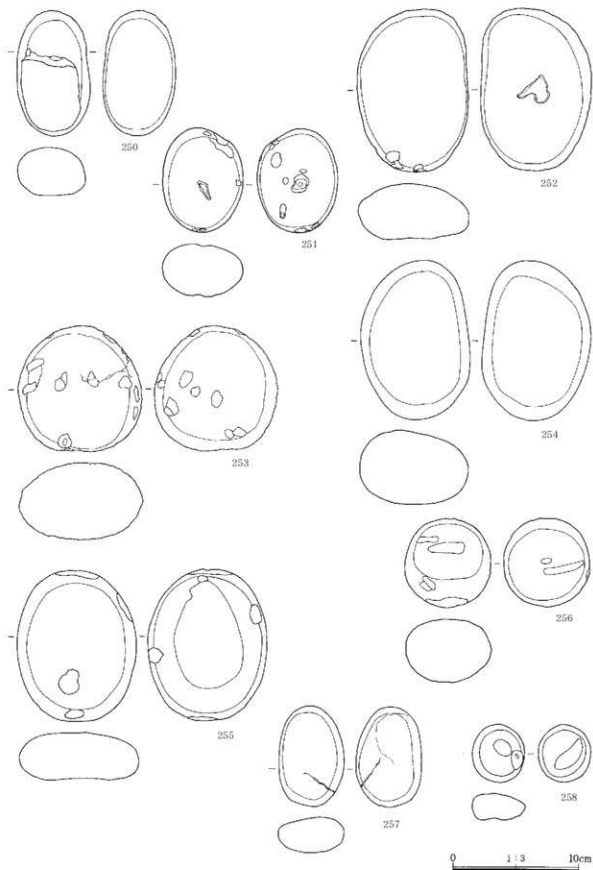


第523図 95区遺構外出土石器(II)

第3章 検出された遺構と遺物

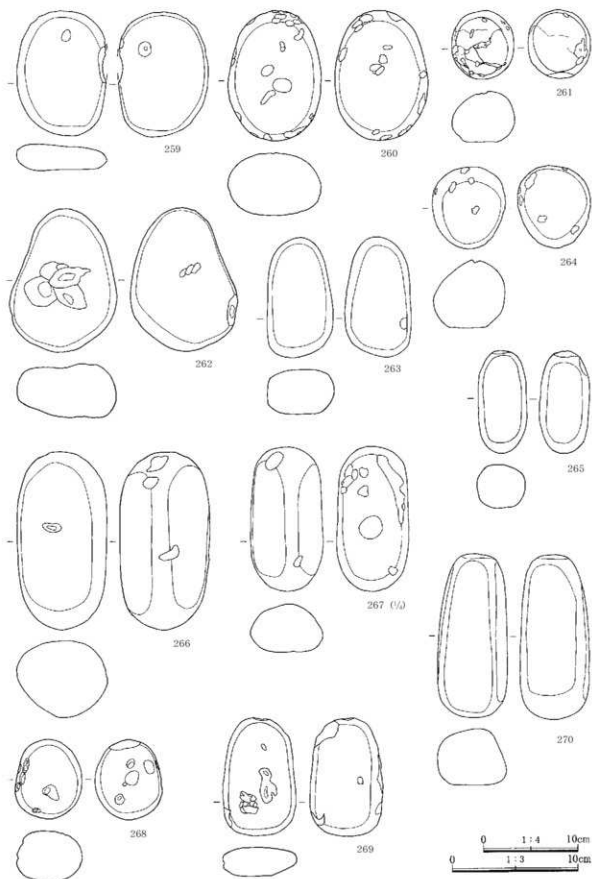


第524図 95区遺構外出土石器(12)

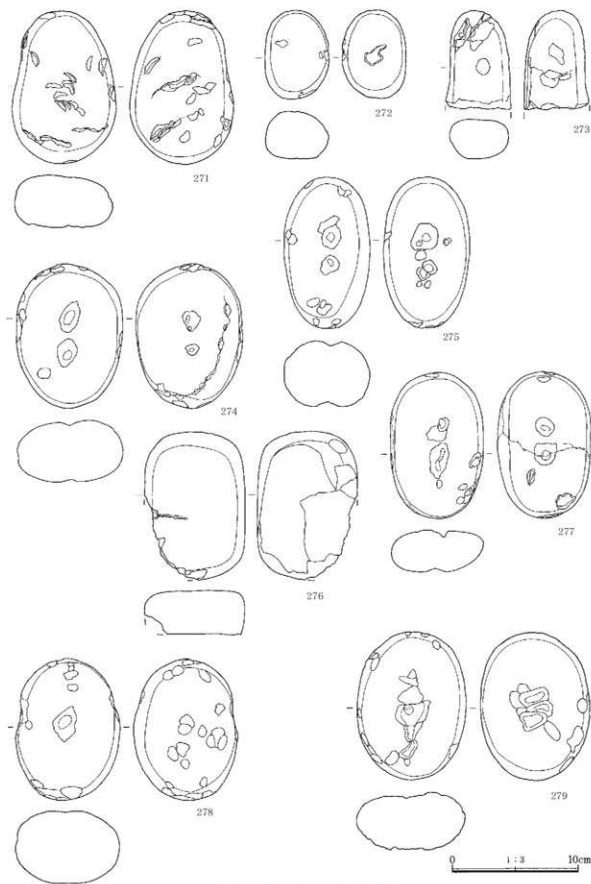


第525図 95区遺構外出土石器(13)

第3章 検出された遺構と遺物

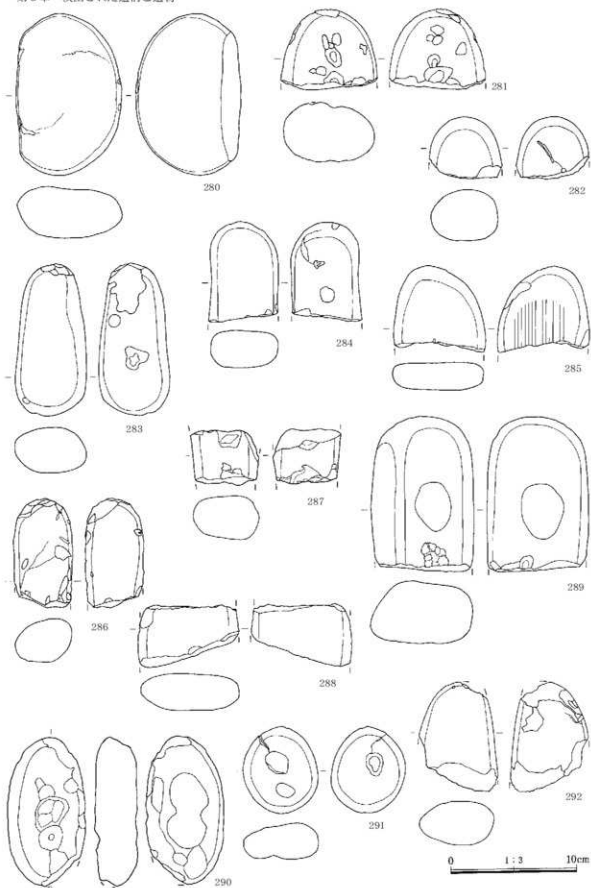


第526図 95区遺構外出土石器(14)

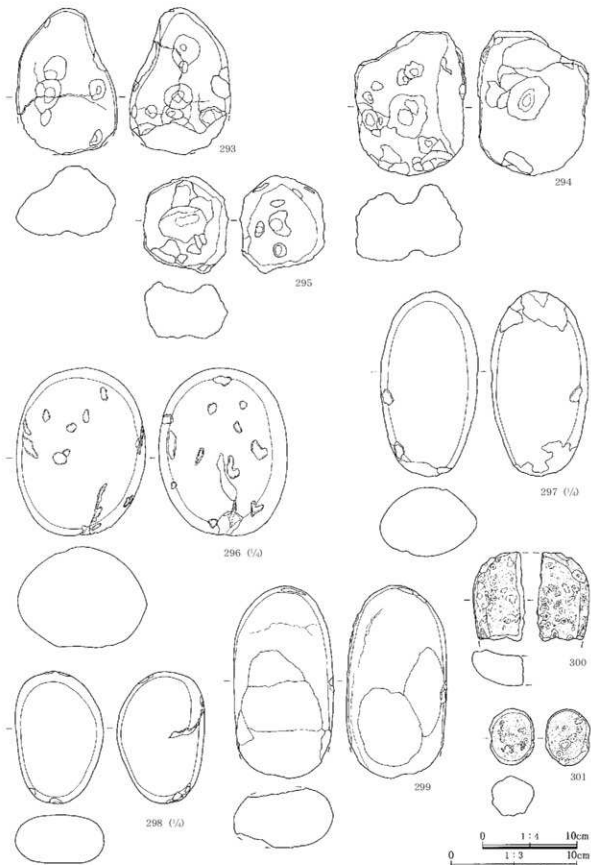


第527図 95区遺構外出土石器(15)



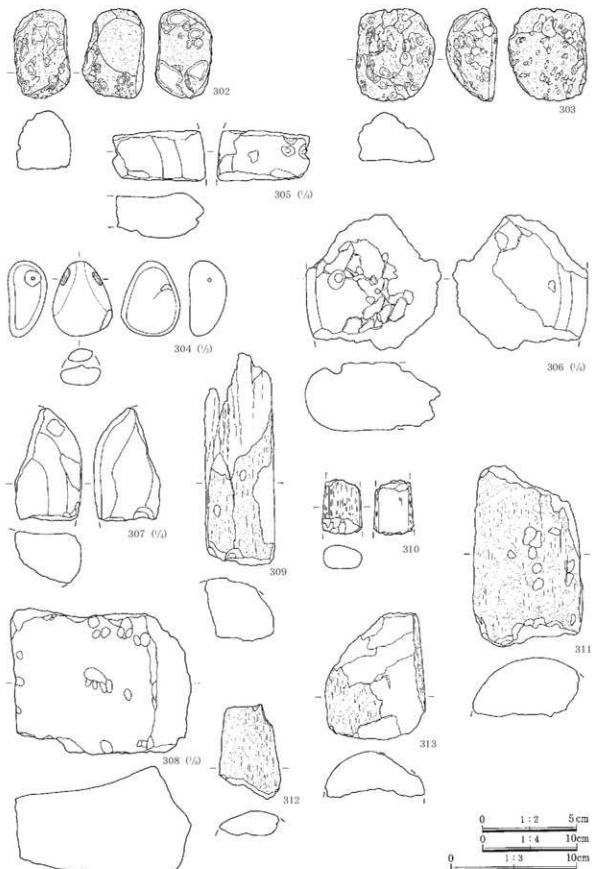


第528図 95区遺構外出土石器(16)



第529図 95区遺構外出土石器(17)

第3章 検出された遺構と遺物



第530図 95区遺構外出土石器(18)

表3 出土遺物観察表(縄文時代)

5-18号住居跡(第9~12区:PL.126~127)

調査番号 採取位置	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第9区 PL.126	1	深鉢 埋費 口縁~体部下 口: 37.4	① 石英、長石 ② 黒褐色	口縁部に無紋部設け、隆帯によるU状文、横門文交互に配す。横門文内には縦位集合沈線充填。体部は沈線により内向きの重文で満書き文様を描出。そこから波状懸垂文、斜位の沈線文が両側に充填される。これらの文様間には、両端が閉じた平行懸垂文が上下2段に挿入される。	中期後葉信州系
第9区 PL.126	2	深鉢 +17 口縁~体部 口: (31.0)	① 粗: 白色粒・雲母 ② 暗褐色	口縁部の無文帯下に連続凹四文を配した隆帯が廻る。隆帯から断面三角の隆帯で満書き文、さらに連続する懸垂文が下がり下位に満書き文の中核には斜位の集合沈線。下位にY状隆帯が見られる。左右には波状懸垂文が見られる。地文には斜位の集合沈線が方向を違えて充填施文される。口唇上端部に浅い凹線。	中期後葉信州系
第9区 PL.126	3	深鉢 +19 口縁~体部中位 残存 口: (28.6)	① 粗: 白色粒(少)・角閃石安山 岩(少) ② 黒褐色	口縁部緩やかな4単位の波状、波頂下に隆帯による満書き文を上下対に配す。体部には2条の垂下沈線による磨り消し懸垂文、縦文はLJ縦位充填施文。	中期後葉
第10区 PL.126	4	深鉢 +17 口縁~体部 ① 粗: 白色粒・褐色粒・石英 ② 明褐色	口縁部は外縁し無文で幅広、横位隆帯で文様帯を画す。突起した隆帯による満書き文から連続する区画文様を描く。隆帯部には沈線。満書き文内には沈線による横門文様さ知短線文が配される。体部には両端がU状閉塞した沈線による並行懸垂文。	中期後葉信州系 5と同一個体	
第10区 PL.126	5	深鉢 +17 体部破片	① 粗: 白色粒・石英少 ② 褐色	隆帯による満書き文、横門文様さ知短線文施文。	中期後葉信州系 4と同一個体
第10区 PL.126	6	深鉢 +19 口縁~体部破片	① 石英、長石雲母 ② 黒褐色	口唇部内側に折り返れ肥厚。口縁下隆帯による弧状文が描かれ、縦、波状の懸垂隆帯文、弧状文内には斜位集合沈線充填。体部には異方向斜位の集合沈線文充填。	中期後葉信州系
第10区 PL.126	7	深鉢 +19 口縁~体部破片	① 粗: 白色粒多 ② 暗褐色	口縁部はやや肥厚し横位沈線が廻る。隆帯によるU状懸垂文見られ、地文には横位並行沈線による区画内に斜位。縦位の集合沈線文が充填施文。外面に裸。	中期後葉信州系
第10区 PL.126	8	深鉢 +8 口縁~体部破片	① 石英・雲母粒 ② 暗褐色	突起状の小波状を呈す。波頂下から隆帯が垂下、頸部の横位隆帯に繋がる。隆帯には連続凹四角凹文。隆帯区画内には縦位集合細条線充填。	中期後葉
第10区 PL.126	9	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 暗褐色	波頂下から隆帯が垂下、頸部の横位隆帯に繋がる。隆帯には連続凹四角凹文。隆帯区画内には縦位集合細条線充填。	中期後葉
第10区 PL.126	10	深鉢 +18 口縁~体部破片	① 石英粒・雲母少 ② 黒褐色	口縁部隆帯による満書き文と下位に連続する横門文、頸部は凹線。横門文内には縦位集合沈線が左右弧状に描かれる。体部には並行懸垂沈線文、縦位欠羽根集合沈線文。	中期後葉信州系 11・12と同一個体
第10区 PL.126	11	深鉢 +27 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 黒褐色	満書き隆帯下に縦位集合沈線文。	中期後葉信州系
第10区 PL.126	12	深鉢 床 口縁~体部破片	① 石英・雲母粒 ② 黒褐色	口縁部隆帯による満書き文と下位に連続する横門文、横門文内には縦位集合沈線が左右弧状に挿入される。	中期後葉信州系
第10区 PL.126	13	深鉢 +21 口縁~体部破片	① 石英粒少 ② 暗褐色	小波状口縁、波頂下に隆帯による満書き文、口縁に沿って横に続く隆帯から下位に横門文様が形成される。縦位集合沈線充填。体部には平行懸垂文、無文帯と交互に挿入されるか。	中期後葉信州系
第10区 PL.126	14	深鉢 +20 口縁部破片	① 白色粒・石英粒 ② 褐色	やや幅広の無紋帯下に満書き文様か。	中期後葉信州系
第10区 PL.127	15	深鉢 覆土 口縁~体部破片	① 石英粒少 ② 明褐色	小波状口縁、やや幅広の無紋帯下に隆帯により、連続する満書き文様。これら文様内にも沈線で満書き文が配されている。以下体部には並行懸垂沈線、間にLJ縦位充填施文。	中期後葉 14・16と同一個体
第10区 PL.127	16	深鉢 覆土 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 明褐色	隆帯により連続する満書き文様配されている。以下体部には並行懸垂沈線、間にLJ縦位充填施文。	中期後葉信州系
第11区 PL.127	17	深鉢 +26 口縁部破片	① 石英、長石 ② 暗褐色	口縁部に無紋部設け、横位隆帯が廻り、これに接して垂下隆帯が2本見られる。区画内には斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第11区 PL.127	18	深鉢 覆土 口縁部破片	① 長石・石英 ② 褐色	口縁部緩やかに内縁、隆帯による満書き文構成の文様構成区画内内には縦位施文。	中期後葉
第11区 PL.127	19	深鉢 +20 体部破片	① 石英粒 ② 明褐色	LJ縦位充填施文後、平行竹管文による平行懸垂文。	中期後葉
第11区 PL.127	20	深鉢 +17 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 明赤褐色	体部に並行沈線による縦位磨り消し区画文、区画内には縦位LJ縦位施文。	中期後葉
第11区 PL.127	21	深鉢 +17 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 褐色	縦位波状隆帯垂下、地文には斜位集合沈線。	中期後葉信州系 2と同一個体
第11区 PL.127	22	深鉢 +17 体部破片	① 石英・雲母粒 ② 褐色	斜位集合沈線文。	中期後葉信州系 2と同一個体

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎色 土調				文 種 の 特 徴 等		備 考		
第1108 PL127	23	深鉢 +14	体部破片	① 石英・雲母粒 ② 褐色				集合沈殿文。	中期後葉信州系 2と同一個体		
第1108 PL127	24	深鉢 +18	体部	① 石英・長石粒 ② 明赤褐色				体部に並行沈線による縦位、横位の磨り消し区画文、区画内には縦位LR縄文充焼。	中期後葉		
第1108 PL127	25	深鉢 +18	体部破片	① 石英・雲母粒 ② 明赤褐色				縦位の磨り消し区画文、縦位LR縄文充焼。	中期後葉		
第1108 PL127	26	深鉢 +18	体部破片	① 石英、片岩 ② 褐色				下端口状の隆起文が並ぶ、文種内は沈線充填か。	中期後葉古		
第1108 PL127	27	深鉢 +2	体部～底部 底：4.8	① 長石・石英 ② 赤褐色				小型深鉢の底部欠損品を二次利用か、断面端部に研磨痕、縄文LR縦位施文。	中期後葉		
第1108 PL127	28	浅鉢	底部破片	① 石英粒 ② 黒色				無文底破片、浅鉢、内外面研磨痕顯著。	中期後葉		
検出番号 図説番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第1108 PL127	29	石碗	Pl7	完形	2.1	1.5	0.4	0.6	凹基無蓋、やや小型の製品で扱いは三角形。	黒曜石	
第1108 PL127	30	石碗	覆土	欠損	(1.6)	(1.4)	0.6	(1.0)	未製品か、厚手で底面を有し、側縁部に粗い割縁が見られる。	黒曜石	
第1108 PL127	31	石碗	覆土	欠損	(1.5)	1.2	0.4	(0.5)	基部、先端部を欠く、未製品か	黒曜石	
第1108 PL127	32	石碗	覆土	完形	2.7	0.8	0.5	0.9	棒状盤、やや曲がっている。	黒曜石	
第1108 PL127	33	二次加工 片	覆土	完形	1.1	2.2	0.3	0.7	小型木葉型石片の弧状下辺に細かな調整刃部作出。	黒曜石	
第1108 PL127	34	使用痕 剥片	覆土	完形	3.5	2.0	0.7	5.1	縦型剥片の片側縁部に使用による刃こぼれが見られる。	黒曜石	
第1108 PL127	35	打製石 弁	+34	完形	(10.6)	5.1	1.6	(101)	扇形、刃部摩耗し扁平。	粗粒輝石安山岩	
第1208 PL127	36	打製石 弁	+27	欠損	(11.1)	5.3	1.5	(105)	扇形、刃方で基部僅かに欠損か。	黒色安山岩	
第1208 PL127	37	打製石 弁	+21	欠損	(9.2)	5.6	1.9	(106)	扇形、刃方で基部僅かに欠損、粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第1208 PL127	38	打製石 弁	+13	欠損	(8.2)	3.8	2.1	(75)	扇形の基部片、側面を肥厚する。刃方欠損。	黒色安山岩	
第1208 PL127	39	磯部	+14	完形	16.2	8.1	3.8	819	扁平でなすび形を呈す。平面面を使用か。	粗粒輝石安山岩	
第1208 PL127	40	磯石	+20	完形	14.9	6	4.5	644	棒状盤、両端やや細くなり弱い割取痕あり、一端には指付着。	粗粒輝石安山岩	
第1208 PL127	41	磨石	覆土	完形	8.3	7.5	6.4	503	傘大の丸石。表面に僅かに打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	

5-146号住居跡(第14・1508：PL127・128)

検出番号 図説番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎色 土調				文 種 の 特 徴 等		備 考		
第1408 PL127	1	深鉢 埋焼	体部	① 石英・長石粒 ② 赤い黄褐色				2本垂直沈線による磨り消し態垂文、および波状態垂文、体部地文はLR縄文縦位施文。	中期後葉		
第1408 PL127	2	深鉢 が	口縁部破片	① 石英粒・雲母粒少 ② 明褐色				波状口縁部片、波直下に内凹押圧文か、隆起による渦巻き精円文、精円文内はLR縄文充焼施文。	中期後葉		
第1408 PL127	3	深鉢 覆土	口縁部破片	① 長石粒 ② 黒褐色				太沈線による精円文を纏うか、縄文充焼施文。	中期後葉		
第1408 PL127	4	深鉢 が	体部破片	① 長石粒 ② 褐色				縦位LR縄文施文後沈線による平行態垂文。	中期後葉		
第1408 PL127	5	深鉢 覆土	体部破片	① 石英・長石粒多 ② 赤褐色				縦位集合沈線文。	中期後葉信州系		
第1408 PL127	6	深鉢 が	体部下破片	① 微砂粒 ② 褐色				底部接合部より欠損、態垂沈線文の下端部見える。	中期後葉 が体土器		
検出番号 図説番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第1408 PL128	7	石碗	埋焼内	欠損	(1.5)	(0.6)	0.5	(0.4)	薄部片か、断面三角で先端部に簡単な調整が見られる。	黒曜石	
第1408 PL128	8	スクレイ パー	埋焼内	完形	3.9	1.6	0.6	1.7	薄い剥片でナブ形を呈す、刃部に微細な調整痕が見られる。	黒曜石	
第1408 PL128	9	打製石 弁	床	ほぼ 完形	12.0	5.6	1.7	166	扇形、片側側面は厚く無調整、未製品か。	粗粒輝石安山岩	
第1408 PL128	10	磨石	+6	完形	10.1	7.4	5.9	620	円縁利用、磨り面平滑で側縁部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第1408 PL128	11	磨石	+3	完形	7.9	7.1	4.8	412	やや扁平な円縁利用、両面平滑な使用面。	粗粒輝石安山岩	
第1508 PL128	12	多孔石	+2	完形	18.2	11.6	11.3	2,050	不定形な縦、多孔石と思われるが凹み穴は不明瞭。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-147号住居跡(第17区: PL.128)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調				文 様 の 特 徴 等		備 考		
第17区 PL.128	1	深鉢 +33	口縁部破片	① 微砂粒 ② 黒褐色	口縁下に隆帯による横S状文が連続し、以下無紋L 縄文を縦位施文。		中期後葉				
第17区 PL.128	2	深鉢 +20	口縁部破片	① 微砂粒 ② 褐色	波状を呈す口縁に隆帯両す無紋部を作る。波頂下より3本の隆帯による懸垂文。地文には縦位LR縹縄文施文。		中期後葉				
第17区 PL.128	3	深鉢 +14	口縁部破片	① 石英・微長石粒 ② 暗赤褐色	外反する無紋口縁部片。内外面研磨。		中期後葉				
第17区 PL.128	4	深鉢 +7	口縁部破片	① 微長石粒少 ② 褐色	無紋口縁部片。内外面研磨。		中期後葉				
第17区 PL.128	5	深鉢 +20	体部破片	① 砂粒、石英粒 ② 暗褐色	LR縹縄文施文後に沈帯による磨り消し渦巻き文を描く。		後期前葉古				
第17区 PL.128	6	深鉢 +35	体部破片	① 砂粒 ② 褐色	浅い横位凹線下に集合沈帯文。		中期後葉				
第17区 PL.128	7	深鉢	体部～底部破片 破：(7.8)	① 石英・微長石粒 ② にぶい黄褐色	複数の懸垂沈帯文下部部。縦位RL縄文施文。表面 荒れ。器面粗雑あり。		中期後葉				
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第17区 PL.128	8	打製石 斧	+14	欠損	(6.8)	4.9	1.5	(61)	扇形。基、刃部欠損。甚熟。	粗粒輝石安山岩	
第17区 PL.128	9	多孔石	+12	欠損	20.6	15.8	7.5	2,490	扁平な織の両面に複数の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

5-148号住居跡(第20区: PL.128)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調				文 様 の 特 徴 等		備 考		
第20区 PL.128	1	深鉢 埋蓋	口縁～体下部 口：33.4	① 石英・長石 ② にぶい黄褐色	4単位の小波状口縁。波頂下には隆帯による渦巻き 文。これに接して横位凹線文が認められる。横位内 には横位RLが充填施文。体部には2本平行磨り消し 沈帯による懸垂文。間は縦位RL縄文を充填施文。		中期後葉古				
第20区 PL.128	2	深鉢 +9	口縁部破片	① 長石粒 ② 褐色	外反する細点無文口縁。横位隆帯下に沈帯による曲 線文が連続する。		中期後葉				
第20区 PL.128	3	深鉢 +4	口縁部破片	① 長石粒 ② 暗褐色	無文口縁部片。		2と同一個体				
第20区 PL.128	4	深鉢 +3	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 黒褐色	隆帯による横位凹線文を構成し、内外面研磨粗。		中期後葉				
第20区 PL.128	5	深鉢 +4	口縁部破片	① 微石英・長石粒 ② 褐色	口唇端部が内傾する無文口縁部片。		中期後葉				
第20区 PL.128	6	深鉢 +3	体部破片	① 長石、片岩、雲母 ② 暗赤褐色	波状懸垂文。地文はLR縄文縦位施文。		中期後葉古 7と同一個体				
第20区 PL.128	7	深鉢 床	体部破片	① 長石、片岩、雲母 ② 暗赤褐色	波状懸垂文。地文は縦位LR縄文施文。		中期後葉古				
第20区 PL.128	8	深鉢 9	体部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	2本の垂下沈帯による懸垂文。地文は無部縄文Lを 縦位施文。		中期後葉				
第20区 PL.128	9	深鉢 +8	体部破片	① 微長石粒少 ② にぶい黄褐色	縦位の波状懸垂沈帯および斜位集合沈帯。		中期後葉信州系				
第20区 PL.128	10	深鉢 +6	体部破片	① 微砂粒 ② 褐色	垂下隆帯。横位に集合沈帯文。		中期後葉				
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第20区 PL.128	11	石籠	覆土	欠損	(1.2)	(1.3)	0.2	(0.3)	凹基無基。先端部および片脚部分を欠く。小型でやや 薄手。	凝灰石	
第20区 PL.128	12	スクレ イパー	+17	完形	4.4	6.2	0.8	19	不定形削片。下辺に爪状の刃部を持つ。	黒色安山岩	
第20区 PL.128	13	打製石 斧	床	完形	(11.7)	4.3	1.6	(108)	扇身の磨り。刃部の広がり弱い。	粗粒輝石安山岩	
第20区 PL.128	14	凹石	+3	完形	15.0	7.5	3.0	421	扁平でなすび形を呈す自然礫。両面に一対ずつの浅い 凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第20区 PL.128	15	磨石	床	完形	11.5	7.5	4.0	517	扁平な長円礫。片面僅かに円く肥厚し。表面に強い 複数の打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	

5-149号住居跡(第23～25区: PL.129・130)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調				文 様 の 特 徴 等		備 考
第23区 PL.129	1	深鉢 +14	口縁～体部 口：(43.4)	① 縹：白色粒多 ② 暗赤褐色	口縁部横位隆帯が細り無紋部を作る。体部には隆帯 による横位の磨り消し懸垂文と縦位LR縹縄文施文帯 が交互に描出。口縁無文部。無文帯は研磨。		中期末葉		
第23区 PL.129	2	深鉢 +30	口縁部破片	① 縹：白色粒多 ② 暗赤褐色	口縁部横位隆帯が細り無紋部を作る。体部には隆帯 による横位の磨り消し懸垂文と縦位LR縹縄文施文。 1と同一個体		中期末葉 1と同一個体		

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(採掘高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第2386 PL129	3	深鉢 口縁～底部 口：116.2 高：27.7 底：7.4	① 胎：白色粒 ② 褐色	4単位小波状口縁の一つに橋状取っ手を有す上端傾伏に深く開いた突起が付される。口縁部には波頭を繋ぐ弧状沈線が連続して描かれる。以下沈線で「字状、扇状文を交互に連続して描き、中帯縄文LRで充填施文。下位には対となる逆「字状文が連続して描かれ、縄文LRが縦位充填施文される。外面口縁縁付着。	中期末古
第2386 PL129	4	深鉢 床 口：22.2	① 胎：白色粒・石莖(少) ② 褐色	4単位の小波状口縁。波頭を繋ぐ弧状沈線が描かれ、無文部を作る。以下連続する「字状下文を連続して描き、縄文LRが縦位充填施文。下部にも対文様となる縄文充填された逆「字状文が連続して描かれる。	中期末古
第2386 PL129	5	深鉢 床 口縁～底部	① 胎：白色粒 ② 暗赤褐色	外反する幅広い無文口縁。横位隆帯で囲われ、一對の幅広い橋状取っ手が付く。体部および取っ手表面には縦位RL縄文が充填施文される。底面内面縁付着。	中期後葉新 両耳垂
第2386 PL129	6	深鉢 +8	① 石莖粒 ② 灰黄褐色	やや肥厚した口唇下に横位沈線。以下縄文LR縦位施文。	中期後葉
第2386 PL129	7	深鉢 +23	① 石莖・長石粒 ② ぶい褐色	口縁部無文部を両す横位隆帯。そこから1本の隆帯が懸垂し、両側にはRL縄文縦位施文。	中期後葉新
第2386 PL129	8	深鉢 +10	① 胎：白色粒 ② 暗褐色	外反する幅広い無文口縁。横位隆帯で囲われ、体部には縦位RL縄文が充填施文される。	中期後葉新 5と同一個体
第2486 PL129	9	深鉢 腹土	① 石莖・角閃石(安山岩) ② ぶい褐色	波状口縁。幅広い無文部を持ち、以下縄文LR縦位施文。	中期後葉新
第2486 PL129	10	深鉢 床	① 石莖・長石粒 ② ぶい褐色	無文部を横位隆帯で囲い、以下RL多条縄文を縦位施文。	中期後葉新
第2486 PL129	11	深鉢 +15	① 微石莖粒少 ② 暗赤褐色	沈線により磨り消し曲線文を描く。地文は縦位LR縄文が充填施文される。内面研削面露。	中期後葉新
第2486 PL129	12	深鉢 +15	① 長石・片岩粒 ② ぶい褐色	沈線による磨り消し懸垂文か。縦位RL縄文施文後、沈線によりS字状懸垂文を描く。	中期後葉
第2486 PL129	13	深鉢 +19	① 長石粒 ② ぶい黄褐色	沈線による磨り消し幅広い懸垂文、および波状文。地文は縦位LR縄文施文。	中期後葉 14と同一個体
第2486 PL129	14	深鉢 +11	① 長石粒 ② 褐色	沈線による磨り消し懸垂文、縦位LR縄文施文。	中期後葉新 15と同一個体
第2486 PL129	15	深鉢 +30	① 石莖・長石・片岩粒 ② 明黄褐色	沈線による幅広い磨り消し懸垂文、縄文RL縦位施文。胎部下に強化。	中期後葉新
第2486 PL129	16	深鉢 +20	① 長石粒少 ② ぶい黄褐色	無文口縁部を両す横位隆帯。以下無文縄文を縦位施文。隆帯下に幅広い撫で消し。	中期後葉新
第2486 PL129	17	深鉢 +9	① 石莖・長石 ② ぶい黄褐色	隆帯による口縁部区画文を構成。区画文内に縦位の集合沈線施文か。内面研削。	中期後葉
第2486 PL129	18	深鉢 +6	① 微砂粒 ② ぶい褐色	やや外反。無文口縁部片。内外面研削。	中期後葉
第2486 PL129	19	深鉢 +16	① 微石莖粒 ② 灰黄褐色	大きく外傾。口縁部内側に折り返されて肥厚した面に縦位3本の知沈線。両側に沈線による端部渦巻き平行線文。面を連続する短沈線で埋める。	後期前葉
第2486 PL129	20	深鉢 腹土	① 石莖・長石・片岩・雲母粒 ② 灰黄褐色	口縁部内湾。外面無文で口唇下に浅い横位沈線磨る。口縁部に僅。	中期後葉
第2486 PL130	21	深鉢 +3	① 石莖・長石粒 ② ぶい赤褐色	刻みを有す隆帯とこれに沿って1条または2条の沈線が併走し、曲線文を描く。地文には縦位懸垂文LR施文。	中期後葉古
第2486 PL130	22	深鉢 +16	① 石莖・長石粒少 ② ぶい赤褐色	横位平行沈線が多段施文され、以下懸垂文LR縦位施文。	中期後葉古
第2486 PL130	23	深鉢 +4	① 石莖・角閃石(安山岩) ② ぶい褐色	縦位懸垂文LR施文。	中期中葉新
第2486 PL130	24	深鉢 +16	① 石莖・長石粒 ② 黒褐色	沈線により三角形を基調とした幾何学文様を描き、縄文RLを充填する。	後期前葉新
第2486 PL130	25	深鉢 +16	① 胎：白色粒 ② 褐色	くの字に内屈。突起した横位隆帯に沿って端部渦巻き文を描き。上位区画文内には集合知沈線。	中期後葉
第2486 PL130	26	深鉢 +6	① 微石莖少・片岩粒 ② ぶい赤褐色	隆帯による渦巻き曲線文を描く。側縁は撫で。	中期後葉
第2486 PL130	27	深鉢 腹土	① 石莖・長石粒 ② ぶい褐色	隆帯懸垂文下端部。および斜位集合沈線文。	中期後葉信州系
第2486 PL130	28	深鉢 腹土	① 石莖・雲母粒 ② ぶい赤褐色	2本の隆帯懸垂文下端部。および縦位集合沈線文。	中期後葉
第2486 PL130	29	深鉢 腹土	① 長石・石莖粒 ② ぶい褐色	鉢の底部片。無文。内外面研削。	後期前葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第2406 PL130	30	深鉢 +13 体部～底部破片	① 胎:白色粒・石英粒少 ② ぶい褐色	縄文充填された逆り縄文が連続する。	中期未定古 4と同一個体						
第2506 PL130	31	注口土器 +21 注口破片	① 石英粒 ② 灰褐色	無文で基部に向かって僅かに太くなり、胎内も厚くなる。	後期前葉						
第2506 PL130	32	土製円盤 +10 定形	① 長石粒 ② 明褐色	LR 縄文施文。	中期後葉						
第2506 PL130	33	土製円盤 +7 定形	① 石英粒 ② ぶい褐色	LR 縄文施文。	中期後葉?						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第2506 PL130	34	石鉢	床	完形	2.3	1.7	0.4	1.2	凹基無蓋、挟りは浅い弧状を呈し両側縁がやや膨らみを有す。	黒色安山岩	
第2506 PL130	35	石鉢	覆土	欠損	(2.1)	(1.7)	0.5	0.9	石鉢の先端部片と見られる。両面中央部に縁を持つ。	黒色安山岩	
第2506 PL130	36	石鉢	覆土	欠損	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.5)	基部、先端部分を欠く。片面に割離面を大きく残し厚らな面を有す。	黒曜石	
第2506 PL130	37	スクレイパー	覆土	完形	3.1	2.5	0.6	2.9	台形を呈し弧状部分および一側縁部に調整痕、石鉢の未成品品。	黒曜石	
第2506 PL130	38	二次加工 片	覆土	欠損	3.2	2.5	0.8	6.4	肥厚する扇形の小板片、小型の石匙か。	黒色安山岩	
第2506 PL130	39	打製石 斧	覆土	欠損	(3.8)	5.8	1.3	(35)	刃部片、片面に自然面。	粗粒輝石安山岩	
第2506 PL130	40	打製石 斧	覆土	欠損	(8.3)	4.6	3.5	(155)	極めて厚手の基部片。	粗粒輝石安山岩	
第2506 PL130	41	敲石	覆土	ほぼ 完形	8.0	7.4	4.3	372	やや扁平な縁のほぼ全面に打痕による割離痕。	石英閃緑岩	
第2506 PL130	42	凹石	覆土	完形	8.8	7.8	6.2	520	立方体形の縁を利用。両面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第2506 PL130	43	台石	床	欠損	(17.5)	(17.0)	7.1	(3240)	両面を使用か。表面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第2506 PL130	44	皿	覆土	欠損	(14.1)	(8.6)	3.9	(332)	発泡質の石材を用いた石皿。やや角に丸みを有す長方形か、薄手。	粗粒輝石安山岩	

## 5-150号住居跡(第30～41層:PL130～137)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第3006 PL130	1	深鉢 床 口縁～体部2点 口:(38.8)	① 胎:白色粒・角閃石安山岩 ② 明赤褐色	平行沈線による磨湾し懸垂文。文様間に流状の磨り消し懸垂文。地文には縦位LR 縄文施文。	中期後葉
第3006 PL130	2	深鉢 +32 口縁～体部 口:(23.0)	① 胎:白色粒・石英(少) ② 赤褐色	口縁部文様は磨湾による磨湾文。これに接して楕円区画文が認められる。楕円区内は縦位無施文が縦位充填施文。体部には2本平行磨り消し沈線による懸垂文。波状垂下文。地文は縦位LR 縄文施文。	中期後葉
第3006 PL130	3	深鉢 +26 口縁～底部2点 口:(43.4)	① 胎:白色粒・角閃石安山岩 ② ぶい褐色	大型品。底部小さく体部上位に向かって大きく開く。幅広い口縁部は外縁し無文。肩部に横位平行する2本の隆帯が廻り、隆帯間にはLR 複部縄文が横位施文。体部には斜位方向のLR 複部縄文を全面施文。肩部に僅付着。	中期後葉新
第3006 PL131	4	深鉢 +26 口縁部片	① 胎:白色粒・角閃石安山岩 ② ぶい褐色	幅広い口縁部は外縁し無文。肩部に横位平行する2本の隆帯が廻り、隆帯間にはLR 複部縄文が横位施文。体部には斜位方向のLR 複部縄文を全面施文。	3と同一個体
第3106 PL131	5	深鉢 +27 口縁～体部 口:(52.6)	① 胎:白色粒・小磯 ② 褐色	大型品。幅広い口縁部は外縁し無文。断面三角の太い横位隆帯から磨湾文と連続する楕円文が認められる。楕円文内には縄文LR 縦位充填施文。内面研磨。	中期後葉 6・7・8は同 個体
第3106 PL131	6	深鉢 +27 口縁部片	① 胎:白色粒・小磯 ② 褐色	幅広い口縁部は外縁し無文。断面三角の太い横位隆帯から磨湾文と連続する楕円文が認められる。楕円文内には縄文LR 縦位充填施文。内面研磨。	中期後葉
第3106 PL131	7	深鉢 +27 体部片	① 胎:白色粒・小磯 ② 褐色	断面三角の太い横位隆帯から磨湾文と連続する楕円文が認められる。楕円文内には縄文LR 縦位充填施文。内面研磨。	中期後葉
第3106 PL131	8	深鉢 +27 体部片	① 胎:白色粒・小磯 ② 褐色	断面三角の太い横位隆帯から磨湾文と連続する。内面研磨。	中期後葉
第3106 PL131	9	深鉢 床 口縁～体部 口:(52.6)	① 胎:白色粒多 ② 黒褐色	波状口縁の波頂部に中空の楕状把手。複数の凹有し隆帯によるS状文で飾られる。さらに口縁部、胴部にも隆帯による円形文。磨湾文様が続いて磨かれる。部分的に隆帯間を磨り消している。さらに円形文内には縄文LR が充填施文されている。把手部僅付着。	中期後葉大木系



## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第3108 PL.131	10	深鉢 床	部部片	① 土: 白色粒多 ② 黒褐色	取っ手下部、隆帯による円形文、渦巻き文様が連続して描かれる。部分的に隆帯間を磨り消している。さらに円形文内には縄文LRが充填施文されている。	中期後葉大木系 9と同一個体
第3110 PL.131	11	深鉢 +23	口縁～体部破片	① 土: 白色粒少 ② 暗褐色	口縁部に隆帯による横円、渦巻き文。横円内文はLR、縄文が施文される。支様帯下部には平行沈線による磨消懸垂文、地文はLR、縄文縦施文。	中期後葉大 15と同一個体か
第3206 PL.131	12	深鉢 +31	口縁～体部	① 土: 白色粒 ② 灰褐色	小波状を呈す。隆帯による渦巻き横円文構成の文様帯。横円内文には縦位LR、縄文施文。渦巻き文状に円形押圧文。体部は磨消懸垂文、波状の沈線垂下文、地文には縦位LR、杖文施文。	中期後葉古
第3208 PL.131	13	深鉢 覆土	部部片	① 土: 白色粒 ② 灰褐色	12の体部片。磨消懸垂文、波状の沈線垂下文、地文には縦位LR、杖文施文。	中期後葉古
第3208 PL.131	14	深鉢 +36	口縁部破片	① 土: 石英粒 ② 黒褐色	波状口縁か、沈線による磨消文様描く。地文にはLR、縄文施文。	後期初期
第3208 PL.131	15	深鉢 覆土	口縁部破片	① 土: 白色粒 ② 暗褐色	口縁部に隆帯による横円、渦巻き文。横円内文はLR、縄文が施文される。支様帯下部には平行沈線による磨消懸垂文、地文はLR、縄文縦施文。	中期後葉 11と同一個体か
第3208 PL.131	16	深鉢 +36	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 赤褐色	平行沈線による磨消懸垂文。地文には縦位LR、縄文施文。	中期後葉
第3208 PL.132	17	深鉢 +36	体部破片2点	① 粗: 石英粒 ② 細かい赤褐色	2本の平行垂下沈線による磨消懸垂文。地文は縄文LRを縦位施文。体部下部は磨面風化。	中期後葉
第3208 PL.132	18	深鉢 +10	体部破片	① 土: 石英粒 ② 細かい赤褐色	横位隆帯から磨消平行懸垂文。地文はLR、縄文縦位施文。	中期後葉
第3208 PL.132	19	深鉢 +33	体部破片	① 土: 石英粒 ② 黄褐色	隆帯による磨消文様。地文にはLR、縄文充填施文。	中期後葉新
第3208 PL.132	20	深鉢 +44	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 細かい黄褐色	2本の平行垂下沈線による磨消懸垂文。地文は縄文LRを縦位施文。磨面風化。保存好。	中期後葉 11と同一個体か
第3306 PL.132	21	深鉢 +7	体部	① 粗: 小粒(少) ② 明赤褐色	体部全面に無蓋片を縦位施文後、2本の平行沈線による懸垂文を描き、間を磨り消しているが部分的に地文が残る。	中期後葉
第3306 PL.132	22	深鉢 +36	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 暗褐色	口縁部内部に、横位沈線により無文面を画す。以下沈線による磨消文様描く。地文はLR、縄文施文。	後期初期
第3306 PL.132	23	深鉢 +28	口縁部破片	① 粗: 石英・長石粒 ② 黒褐色	円形形で口縁下に縦位沈線。以下平行沈線による磨消懸垂文。地文には縦位LR、縄文施文。	中期後葉新
第3306 PL.132	24	深鉢 +13	口縁部破片	① 土: 白色粒・石英・雲母多 ② 黒褐色	口縁部厚部、隆帯による渦巻き横円文。横円内文には斜位の集合沈線、以下体部には渦巻き文から2本の沈線垂下。	中期後葉
第3306 PL.132	25	深鉢 床	口縁～体部 口: (13.6)	① 土: 白色粒 ② 明赤褐色	口縁部に隆帯による渦巻き文と連続する横円文様を描き、横円内文には縦位連続短縦文充填。以下体部は口縁部文様間から2本の平行沈線懸垂文、間を重弧状の沈線文様で埋める。	中期後葉信州系
第3306 PL.132	26	深鉢 床	口縁～体部 口: 30.6	① 粗: 白色粒・角閃石安山岩 ② 暗褐色	口縁部に横位の隆帯並り、無文部を画す。この隆帯から伸びた杖文が横に連続し、波部一つ置きに渦巻き文を描く。その下位には隆帯による磨消懸垂文が付きされる。地文には斜位の集合沈線が認められる。	中期後葉信州系
第3306 PL.132	27	深鉢 +9	口縁～体部 口: (35.2)	① 粗: 白色粒・雲母多 ② 黒褐色	口縁部下に2本の隆帯による磨消渦巻き文を描き、そこから2本の隆帯懸垂文、同じく隆帯により、中央が渦巻きとなる懸垂文が描かれる。地文および隆帯文様内には斜位集合沈線が充填される。口縁部に隆帯文様を繋ぎ交互斜文帯が廻る。	中期後葉信州系
第3306 PL.133	28	深鉢 +20	口縁～体部 口: (22.0)	① 土: 白色粒・褐色粒 ② 黒褐色	口縁部に横位の隆帯並り、無文部を画す。この隆帯上横かに突出。地文は縦位集合沈線施文後、横位平行沈線で矩形区画を描出す。	中期後葉信州系
第3306 PL.133	29	深鉢 床	口縁～体部	① 土: 白色粒(少)・角閃石安山岩(少) ② 暗褐色	4単位位の波状口縁。口縁部内外面に隆帯が廻る。波部下に隆帯による渦巻き文と連続する懸垂文が描かれる。懸垂文間にも横位の逆U字状隆帯懸垂文。地文には斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第3306 PL.133	30	深鉢 +6	口縁～体部破片	① 粗: 石英・長石粒 ② 黒褐色	隆帯による渦巻き懸垂文。口縁部に白ついで波状沈線文、以下矢羽根状、重弧状沈線文が縦位施文。	中期後葉信州系
第3406 PL.133	31	深鉢 +27	口縁～体部	① 粗: 白色粒 ② 細かい赤褐色	波状口縁。口縁部には横位沈線により無文部を画す。波部下から隆帯による渦巻き懸垂文。波部からは隆帯による逆U字状懸垂文。懸垂文間には斜位、縦位に粗い集合沈線が見られる。所々に隆帯文を繋ぎ、横位矢羽平行沈線文が描かれる。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図版番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第340E PL133	32	深鉢 +45	口縁～体部 ① 粗：白色粒・小礫・角閃石安 山岩 ② 細かい赤褐色	口縁部に浅い凹線が廻り、2本の平行隆帯による磨 消懸垂文。地文は縦位矢羽根状沈線文を先施した。	中期後葉信州系 重量がある
第340E PL133	33	深鉢 +36	口縁部破片 ① 粗：黒石英粒 ② 灰白色	やや内湾する口縁部。縄文LRを多方向施し縄文 により波状文様を置評か、内面研削。口縁部に稜付 着。	中期後葉
第340E PL133	34	深鉢 床	口縁部破片 ① 石英・長石粒 ② 黒褐色	隆帯による渦巻き柵門文様。縦位集合沈線施文。	中期後葉
第340E PL133	35	深鉢 床	口縁部破片 ① 白色粒 ② 褐色	隆帯による渦巻き文、柵門文様か。下位に平行懸垂 文か、稜付着。	中期後葉
第340E PL133	36	深鉢 +4	口縁部破片 ① 石英粒・白色粒 ② 暗赤褐色	小波頂下に隆帯による渦巻き文と連続する柵門文。 文様内には縦位集合沈線施文。	中期後葉
第340E PL133	37	深鉢 +5	口縁部破片 ① 粗：石英・白色粒 ② 褐色	口縁部に隆帯による柵門、渦巻き文。柵門文内には 横位矢羽根状沈線文か。	中期後葉信州系
第340E PL133	38	深鉢 +22	口縁部片 ① 粗：白色粒・雲母粒 ② 暗赤褐色	口縁部に隆帯による渦巻き文と連続する柵門文様を 置き、柵門文内には縦位連続短沈線文先施。	中期後葉信州系
第340E PL133	39	深鉢 +22	口縁部片 ① 粗：白色粒・雲母粒 ② 暗赤褐色	口縁部に隆帯による渦巻き文と連続する柵門文様を 置く。	中期後葉信州系
第340E PL133	40	深鉢 +27	口縁部破片 ① 石英粒・白色粒 ② 褐色	隆帯による渦巻き連続する柵門文様か。文様内 には斜位の集合沈線文、以下体部には縦位の集合赤 線文。	中期後葉
第340E PL133	41	深鉢 +26	口縁部破片 ① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② 暗褐色	小波状口縁。隆帯による渦巻き文様。区画内には 横位矢羽根状沈線文施文。稜少量付着。	中期後葉信州系
第350E PL133	42	深鉢 +28	口縁～体部破片 ① 石英・雲母粒 ② 褐色	口縁内側に隆帯が廻る、U字状連続文が隆帯により 置かれ、隆帯幅狭部には縦位刻文。両側に縦位 集合沈線文。	中期後葉信州系
第350E PL133	43	深鉢 床	口縁部破片 ① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② 暗褐色	幅狭の逆U字状隆帯文が口縁から垂下。口縁下側 に延びた平行沈線文内に交互連続刻文。以下体部 集合沈線で埋められる。稜付着。	中期後葉信州系
第350E PL133	44	深鉢 +36	口縁～体部破片 ① 粗：白色粒多 ② 暗褐色	隆帯による渦巻き柵門文様か。文様内には縦位矢羽 根状沈線で埋める。体部には沈線による平行磨消懸 垂文と垂波状沈線を矢羽根状に縦位施文。	中期後葉信州系 科と同一個体
第350E PL133	45	深鉢 +34	口縁部破片 ① 粗：石英粒・長石粒 ② 灰褐色	横位平行沈線間に縦位の連続沈線文、間に縦位波状 文が置かれる。	中期後葉
第350E PL133	46	深鉢 +31	口縁部破片 ① 粗：白色粒多 ② 細かい黄褐色・黒褐色	横位矢羽根状沈線で埋める。	中期後葉信州系 科と同一個体
第350E PL133	47	深鉢 +25	体部破片 ① 石英・長石粒 ② 暗褐色	弧状の隆帯文。波頂下に逆U字状の沈線懸垂文。 斜位の集合沈線で埋められる。	中期後葉信州系
第350E PL133	48	深鉢 床	口縁部破片 ① 石英粒・白色粒 ② 黒褐色	沈線による柵門文様か。中は斜位の羽根状沈線文で 埋める。	中期後葉
第350E PL133	49	深鉢 +25	口縁～体部破片 3点 ① 粗：砂粒 ② 褐色	口縁に横位沈線廻る。以下縦位の集合沈線文。稜付 着。体部には隆帯により日状の懸垂文。地文に縦位 の集合沈線。	中期後葉
第350E PL133	50	深鉢 床	口縁部破片 ① 粗：石英粒 ② 暗赤褐色	波状を呈す。口縁部内部に沿って隆帯が廻る。口縁 下に隆帯により縦位連続波状文および渦巻き文が見 られる。波状文内には交互刻文、斜位の短沈線文 施文。隆帯文、部分的に割れ有り。薄手で焼きは 堅固。	中期後葉信州系
第350E PL134	51	深鉢 床	体部破片 ① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② 細かい赤褐色	口縁部に2本単位の連続波状文。縦位集合沈線文 置き、以下斜位の集合沈線。渦巻き文、曲線文が置か れる。器面摩滅。	中期後葉信州系
第350E PL134	52	深鉢 +38	体部 ① 粗：白色粒多 ② 赤褐色	沈線による懸垂文を連続して置き、無文帯と斜位沈 線文交互に配す。	中期後葉信州系
第350E PL134	53	深鉢 +9	口縁～体部2点 ① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② 細かい赤褐色	波頂部に肥厚する突起有り。突起は内湾で隆帯によ る曲線文で飾られる。波頂下から隆帯による渦巻き 懸垂文。波頂部からは隆帯による幅狭逆U字状懸垂 文が見られる。懸垂文間には斜位矢羽根状の粗い集 合沈線が見られる。	中期後葉信州系
第360E PL134	54	深鉢 +19	体部破片 ① 粗：白色粒多・角閃石安山岩 ② 細かい赤褐色	隆帯による曲線文様の懸垂文。地文には斜位、横位 の集合沈線文。	中期後葉信州系
第360E PL134	55	深鉢 床	体部破片 ① 白色粒 ② 細かい赤褐色	4本単位の沈線による懸垂文および斜位の集合沈線 文。	中期後葉信州系
第360E PL134	56	深鉢 床	体部破片 ① 白色粒 ② 細かい赤褐色	平行沈線による懸垂文。縦位矢羽根状沈線施文。	中期後葉信州系

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第360E PL134	57	深鉢 +38	器部破片	① 白色粒 ② 灰褐色	平行沈線による懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第360E PL134	58	深鉢 +47	器部破片	① 白色粒 ② ぶい赤褐色	平行沈線による懸垂文、矢羽根状、重弧状沈線文が縦位施文。	中期後葉信州系
第360E PL134	59	深鉢 +10	器部破片	① 石莖・雲母粒 ② 黒褐色	隆帯による懸垂文、縦位矢羽根状の沈線文。	中期後葉信州系
第360E PL134	60	深鉢 +36	器部破片	① 白色粒 ② ぶい黄褐色	2本の平行垂下沈線による懸垂文、地文は斜位の縦位集合沈線。器面風化。	中期後葉
第360E PL134	61	深鉢 +29	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② ぶい褐色	隆帯による懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第360E PL134	62	深鉢 +47	器部破片	① 白色粒 ② 褐色	平行沈線による懸垂文、矢羽根状、重弧状沈線文が縦位施文。	中期後葉信州系
第360E PL134	63	深鉢 覆土	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② ぶい褐色	隆帯による懸垂文、斜位の集合沈線文施文。	中期後葉信州系
第360E PL134	64	深鉢 +28	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② ぶい赤褐色	平行沈線による懸垂文、矢羽根状、重弧状沈線文施文。	中期後葉信州系
第370E PL135	65	深鉢 +16	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② 黒褐色	隆帯による垂状懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第370E PL135	66	深鉢 床	器部破片	① 白色粒・石莖粒 ② 黒褐色	隆帯による平行懸垂文、矢羽根状の集合沈線文。	中期後葉信州系
第370E PL135	67	深鉢 +6	器部破片	① 粗・白色粒 ② 暗赤褐色	隆帯によるU字状懸垂文か、文様内には平行沈線懸垂文、そこから延びた斜位の集合沈線文が配される。	中期後葉信州系
第370E PL135	68	深鉢 +30	器部破片	① 細・石莖粒 ② 黒褐色	隆帯による平行、波状文様の懸垂文、地文は矢羽根状の集合沈線文。	中期後葉信州系
第370E PL135	69	深鉢 +5	器部破片	① 粗・白色粒 ② ぶい褐色	縦位重弧状の集合沈線文。	中期後葉信州系
第370E PL135	70	深鉢 +3	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② ぶい褐色	隆帯による懸垂文、矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第370E PL135	71	深鉢 +4	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② 灰褐色	隆帯による懸垂文、縦位矢羽根状沈線文施文。	中期後葉信州系
第370E PL135	72	深鉢 +4	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② 灰褐色	隆帯による縦位逆行懸垂文、間隙には縦位条線文充填。	中期後葉信州系
第370E PL135	73	深鉢 +4	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② 灰褐色	隆帯による縦位U字状懸垂文、間隙には縦位条線文充填。	中期後葉信州系
第370E PL135	74	深鉢 床	器部破片	① 石莖粒・白色粒 ② 暗赤褐色	頸部に2本の横位隆帯帯り、間に連続划み。	中期後葉
第370E PL135	75	深鉢 +28	器部破片	① 石莖・長石粒 ② ぶい褐色	隆帯によるU字状懸垂文横位連続。文様内には縦位集合沈線文。	中期後葉
第370E PL135	76	深鉢 +30	器部	① 粗・白色粒・褐色粒 ② 明褐色	口縁部欠損。隆帯による渦巻文と連続する横文文様。横文内には縦位集合沈線充填。文様下体部にも縦位集合沈線。	中期後葉 76と同一個体
第380E PL135	77	深鉢 +5	器部～底部	① 粗・白色粒多 ② 褐色	3本の隆帯で弧状懸垂文を横位連続させ中には矢羽根状の沈線文、懸垂文間には斜位の集合沈線が見える。	中期後葉信州系
第380E PL135	78	鉢 床	器部破片	① 粗・白色粒・褐色粒 ② ぶい褐色	縦位の集合沈線文。	中期後葉 76と同一個体
第380E PL135	79	口縁部破片 口：(28.0)	口縁部破片	① 細・白色粒・褐色粒・雲母 ② 褐色	肩帯跨状を呈し上下からの円孔が見られる。口縁がほぼ直立する。器面研磨。内外面赤彩。	中期後葉
第380E PL136	80	深鉢 +33	口縁部破片	① 粗・白色粒・角閃石安山岩少 ② 褐色	口縁部直立し無文。体部上半に強い内湾を持たせ、頸部に横位隆帯2条と小型横帯把手を設ける。体部は底位隆帯による弧状意匠や円文を配す。赤彩確認められる。	中期後葉古
第380E PL136	81	深鉢 +16	突起	① 細・白色粒・角閃石安山岩 ② 黒褐色	突起部、上部がY字に開き、表面に隆帯による渦巻文が見られる。	中期後葉
第380E PL136	82	深鉢 覆土	突起	① 細・白色粒 ② 黒褐色	内外面に隆帯による渦巻文垂下文。	中期後葉
第380E PL136	83	深鉢 +50	口縁部破片	① 長石・石莖粒 ② 明赤褐色	無文口縁部片。器面研磨。	中期後葉?
第380E PL136	84	深鉢 床	器部～底部 高：(18.9) 底：(9.6)	① 粗・石莖粒 ② 明褐色	底部から体部へやや外反して立ち上がる。無文、縦位方向の研磨痕。体部下位に扉付着。	中期後葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)			① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等		備 考	
		器種	部位	残存	胎色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考			
第390E PL136	85	深鉢 床		底部 高:(6.0) 底:7.0	① 粗:石英・長石粒 ② 赤褐色			無文の底部部。外面磨研。内側底部に埋付着。	中期後葉		
発掘番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第390E PL136	86	石鏃	+28	定形	2.2	1.3	0.4	0.8	凹基無茎。やや細身で袂りは小さい。	黒曜石	
第390E PL136	87	石鏃	覆土	定形	1.6	1.0	0.2	0.2	凹基無茎。袂りは僅かです。小型品。	黒曜石	
第390E PL136	88	石鏃	覆土	定形	1.4	1.4	0.2	0.4	凹基無茎。袂り深く脚が闊くハート形。	黒曜石	
第390E PL136	89	石鏃	覆土	欠損	2.5	(1.3)	0.4	(1.1)	凹基無茎だが袂りは浅い。先端部は細く尖る。片側縁部分に僅かに欠く。	黒色安山岩	
第390E PL136	90	石鏃	覆土	欠損	(1.8)	0.9	0.2	(0.4)	先端部が丸みを持つ。基部を欠く。	黒曜石	
第390E PL136	91	石鏃	覆土	定形	2.5	1.5	0.5	1.2	平基無茎。作りは粗くやや反りを持つ。下辺を方部とする形跡が。94と似る。	黒曜石	
第390E PL136	92	石鏃	覆土	定形	1.6	1.1	0.2	0.3	凹基無茎。板状の小片から全体に簡単な調整のみで作られている。	黒曜石	
第390E PL136	93	石鏃	覆土	定形	1.8	1.5	0.5	1.1	凸基無茎。中央部分が膨らみ鋭利さは見られない。	黒曜石	
第390E PL136	94	石鏃	+31	ほぼ定形	2.6	1.7	0.5	1.7	平基無茎。作りは粗くやや反りを持つ。下辺を方部とする形跡が。	黒曜石	
第390E PL136	95	石鏃	+10	欠損	(2.2)	(1.5)	0.4	(0.7)	凹基無茎。先端部および片側を欠く。	黒曜石	
第390E PL136	96	石鏃	覆土	定形	2.3	1.2	0.6	0.9	細長い三角形の剥片利用。側縁に簡単な調整痕。	黒曜石	
第390E PL136	97	二次加工片	覆土	定形	2.7	1.0	0.3	0.6	縦長小剥片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第390E PL136	98	スクレイパー	覆土	定形	2.8	2.8	0.6	3.2	扇形の剥片。弧状の刃部を作出。	黒曜石	
第390E PL136	99	石核	+9	定形	4.0	6.5	5.5	113	一部に風化自然面を有す石核(原石)	黒曜石	
第390E PL136	100	石鏃	覆土	欠損	2.0	2.9	1.0	4.9	中央部が肥厚する三角形の剥片。肥厚部に複数の鋭利。石鏃未製品か。	黒色安山岩	
第390E PL136	101	石鏃	床	定形	7.2	3.0	1.1	17	縦型。刃部は円く、つまみ部を作り出す袂りと、その下位にも袂りを有す。	黒曜石	
第390E PL136	102	打製石斧	+36	定形	11.3	4.7	2.0	139	扇形。片面に自然面。基部やや厚みを有す。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第390E PL136	103	打製石斧	覆土	定形	9.5	5.4	1.4	89	扇形。刃部。側縁ともに粗い作り。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第400E PL136	104	打製石斧	+30	欠損	(11.3)	6.0	2.0	197	扇形。刃部やや厚手で摩耗顕著。基部の一部を欠損。	粗粒輝石安山岩	
第400E PL136	105	打製石斧	+31	欠損	(4.8)	5.2	1.6	(53)	扇形の刃部部片である。摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第400E PL136	106	打製石斧	床	欠損	(4.0)	5.0	1.0	(30)	薄手で両面に自然面見られる。側縁に浅い袂りを持つ。刃部を欠損。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第400E PL136	107	打製石斧	+2	欠損	(4.7)	3.3	1.6	(28)	扇形の基部片と思われる。細身であるがやや厚み有り。	黒色頁岩	
第400E PL136	108	打製石斧	+50	欠損	(4.8)	4.8	1.3	(44)	基部片。側縁は薄く鋭利に処理されている。	粗粒輝石安山岩	
第400E PL136	109	打製石斧	床	欠損	(7.4)	5.1	1.2	(83)	板状で両面に自然面残る。側縁部がわずかに狭くなる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第400E PL136	110	打製石斧	覆土	欠損	(7.5)	4.0	1.0	(49)	薄手で片面に自然面。刃部欠く。	細粒輝石安山岩	
第400E PL136	111	打製石斧	+36	欠損	(5.4)	4.9	2.2	(66)	基部。刃部を欠く。厚手の作り。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第400E PL136	112	打製石斧	+54	欠損	(7.1)	5.1	0.9	(43)	薄手で両側縁に浅い袂りを持つ。刃部を欠損。	細粒輝石安山岩	
第400E PL136	113	打製石斧	+30	欠損	4.5	5.9	1.6	40	打製石斧の刃部片か。	黒色安山岩	
第400E PL136	114	二次加工片	覆土	定形	3.5	3.3	0.9	11	円形剥片片面に複数の剥離面見られる。縁辺部に刃部作出見られず。	黒色安山岩	
第400E PL136	115	スクレイパー	+23	定形	7.8	8.4	2.5	144	大振り不定形な剥片。側縁に粗く刃部を作出。	細粒輝石安山岩	
第400E PL136	116	磨製石斧	覆土	欠損	(3.2)	3.0	1.4	(27.4)	両端には一部磨製整形痕見られる。基部片。	蛇紋岩	
第400E PL136	117	磨製石斧	+25	欠損	(4.0)	4.9	2.8	(98)	比較的大型で厚みを有す基部部片。被熱か。	粗粒輝石安山岩	

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第408号 PL136	118	磨石	+4	ほぼ 完形	(8.4)	7.0	4.2	(381)	扁平な川原石利用。両面平滑で縁部に打痕による欠損見られる。	粗粒輝石燧石	
第408号 PL136	119	磨石	+3	完形	12.2	6.4	3.0	337	扁平な長円形の礫。片側縁部に顕著な打痕による持ち寄り。被熱。	粗粒輝石燧石	
第408号 PL136	120	磨石	+4	完形	11.6	7.4	4.8	612	やや扁平な礫。表面に顕著な使用痕は見られないが、比較的平滑。	石英閃緑岩	
第408号 PL136	121	磨石	+9	完形	7.5	6.3	6.2	446	円礫。一部打痕小。	石英閃緑岩	
第418号 PL136	122	礫部	+6	ほぼ 完形	(12.6)	5.5	4.0	(316)	棒状礫。片方の段少欠損。表面に僅かな打痕有り。表面に鉄分沈着層。	粗粒輝石燧石	
第418号 PL136	123	磨石	+8	ほぼ 完形	17.3	7.4	6.3	1,251	やや扁平い伏状の礫。両端部に弱い打痕。ひび割れ顕著。被熱小。	粗粒輝石燧石	
第418号 PL137	124	礫部	+18	ほぼ 完形	11.2	5.9	3.7	350	長円礫利用。両端及び彫する片面には、打痕による凹凸顕著。	デブサイト	
第418号 PL137	125	礫部	+4	完形	16.6	8.0	4.2	834	扁平な長円形の礫。端部に若干の打痕。	石英閃緑石	
第418号 PL137	126	凹石	+18	欠損	(8.0)	(7.4)	2.9	(192)	全体に火を受けた欠損顕著。僅かに残る面に浅い凹み穴見られる。	粗粒輝石燧石	
第418号 PL137	127	解石製品	+32	ほぼ 完形	5.0	4.7	1.2	11.8	台形を呈す板状製品。両面、側面ともに研磨による鏡面。	解石	
第418号 PL137	128	多孔石	床	完形	16.7	13.9	7.5	1,620	小さい凹み穴が数個見られる。	粗粒輝石燧石	

## 5-151号住居跡(第44図: PL137)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第448号 PL137	1	打製石斧	礫土	欠損	(7.4)	6.3	1.2	(70)	磨形小。刃部は極めて薄く片面に自然面残す。基部を欠く。	粗粒輝石燧石	
第448号 PL137	2	凹石	礫土	完形	(11.3)	8.9	5.1	(622)	やや扁平な円礫。両面に浅い凹み穴有す。側縁部に打痕。	粗粒輝石燧石	
第448号 PL137	3	台石	礫土	欠損	(13.7)	(10.1)	3.9	(322)	扁平な礫の両面を使用面とする。欠損品。被熱。	粗粒輝石燧石	

## 5-152号住居跡(第48~52図: PL137~139)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 長さ ② 幅 ③ 厚さ (g)	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第488号 PL137	1	深鉢 +19	口縁~体部 口: 16.4	① 粗: 白色粒・石英・雲母多・ 黄閃石燧石 ② 暗赤褐色	口縁部が短く立ち、強く突起した隆帯により満巻き文。横凹文が交互に構成される。横凹文内には縦凹文が付けられる。体部には口縁部文様帯から2本の隆帯による鈎状懸垂文が、また凹には隆帯による蕨手文が底部に繋がる。地文にはIR層位陶文陶文。	中期後葉古
第488号 PL137	2	深鉢 +22	口縁~底部 口: (23.9) 底: 7.5	① 粗: 白色粒多・石英多・ ② 暗赤褐色	口縁部沈状でX字状の縁状把手が付く。頸部に2本の横位隆帯が廻り隆帯から口縁に向かう縁状把手が付される。上下に対となる形で付くものと見られる。把手間には沈線による弧状文が横かれ。周部には斜突文が配される。把手下横位隆帯からやはり隆帯による、上端満巻き文の目字状懸垂文付きされる。懸垂文間には沈線による懸垂文、矢羽根状の集合沈線文が付けられる。	中期後葉信州系
第488号 PL137	3	深鉢 +20	口縁~底部 口: (25.2) 高: 33.4 底: (8.6)	① 粗: 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	口縁部に4単位の縁状把手が付く。把手内側は丸みを呈す三角状となる。口縁部および頸部に隆帯有り。所々に満巻き文を作る。隆帯間には矢羽根状の横位短沈線文。以下無文帯を設け2本単位の横位隆帯。これに連結した隆帯による上端満巻き文の目字状懸垂文4単位。懸垂文間には縦位沈線により3分割され、それぞれに縦位短沈線文が充填される。	中期後葉信州系
第488号 PL137	4	深鉢 +8	口縁~体部 口: (16.0)	① 石英粒・雲母多 ② 褐色	口縁部に隆帯。以下無文帯を設け、横位2本隆帯が通り、4単位の上部が満巻き文となるS字状懸垂帯文が繋がる。体部には縦位短沈線文が充填。	中期後葉信州系
第488号 PL137	5	深鉢 +18	口縁~体部 口: 16.4	① 粗: 白色粒少 ② 暗褐色	口縁部く字に内凹。無文で口縁部から隆帯による凹状の懸垂文が一對付される。器内外面研磨。	中期後葉
第488号 PL137	6	深鉢 +34	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 浅黄褐色	口縁部に隆帯による連続満巻き文。連結部分に凹凹押圧文。文様下体部にはLR陶文が見られる。	中期後葉
第488号 PL137	7	深鉢 +25	口縁部破片	① 粗: 白色粒 ② 黒褐色	波状口縁。波頂部に幅広い隆帯でC字状の突起を内外面に構成。口縁部満巻き文から口縁に向かう隆帯と満巻き文から垂下し、左右に分かれて延びた隆帯によりLR陶文文様を作る。口縁部の隆帯には凹形斜突文が沿う。	後期初期
第488号 PL137	8	深鉢 +27	口縁部破片	① 粗: 白色粒・石英 ② に近い褐色	幅広い環状把手。IR、陶文、沈線文。	後期初期

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

探検番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第489号 PL137	9	深鉢 +30 口縁～体部破片 3点	① 粗：石英粒・片岩粒 ② 黒褐色	口縁部内凹。沈線により口縁から不規則両面に懸垂文、さらに単位沈線、縦位置U字状の懸垂文、地文には縦文RLを縦位施文。施文は粗。	中期後葉						
第489号 PL137	10	深鉢 +43 口縁部破片	① 粗：石英・長石・雲母粒 ② 灰褐色	肥厚する口縁下に凹線這り、以下縦文RL施文。	中期後葉古						
第490号 PL137	11	深鉢 +24 体部破片	① 石英・長石粒 ② に近い赤褐色	2本の横位隆帯這り、以下RL、縦文縦位施文後、沈線による波状懸垂文這く。	中期後葉						
第490号 PL137	12	深鉢 +21 体部破片	① 粗：石英粒・長石粒 ② 褐色	隆帯による平行溝巻き懸垂文。地文はRL、縦文縦位施文。器面風化。	中期後葉信州系						
第490号 PL137	13	深鉢 +19 体部破片	① 石英・長石粒 ② 灰褐色	隆帯による懸垂文。地文にはRL、縦文縦位施文。	中期後葉						
第490号 PL138	14	深鉢 +18 口縁部破片	① 粗：白色粒・角閃石・安山岩 ② 暗赤褐色	隆帯による溝巻き横位文様構成。横位内文には縦紋沈線。文様下部には縦位矢羽根状沈線文。埋付着。	後期後葉信州系						
第490号 PL138	15	深鉢 +35 口縁部破片	① 微石英・雲母粒 ② 暗赤褐色	小波状部に隆帯による縁起曲線文。文様間に斜位の短沈線文。	中期後葉						
第490号 PL138	16	深鉢 +32 口縁部破片	① 細：石英粒・白色粒 ② に近い褐色	横位、縦位の隆帯による矩形文、中に縦位沈線文。文様下部巻き状の突起文。	中期後葉						
第490号 PL138	17	深鉢 +18 口縁部破片	① 粗：白色粒・角閃石・安山岩 ② 褐色	波頂部にX横状把手。ここから2本隆帯による懸垂文。斜位沈線文が見られる。埋付着。	中期後葉信州系						
第490号 PL138	18	深鉢 +21 体部破片	① 粗：白色粒・片岩粒・小磯 ② 暗赤褐色	大型土器。隆帯による溝巻き文、上位横位隆帯に自って沈線横溝。下位には格子状に隆帯が見られる。文様帯下くの字に割れ、体部は無文。器面研磨。赤彩痕残る。	中期後葉						
第490号 PL138	19	深鉢 +19 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色	横位隆帯から繋がるY字状の懸垂文構成。沈線によるU状文。斜位の沈線施文。	中期後葉信州系						
第490号 PL138	20	深鉢 +29 体部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	3本隆帯による懸垂文。縦位の矢羽根状沈線施文。	中期後葉信州系						
第490号 PL138	21	深鉢 +18 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 黒色	3本の横位隆帯、以下縦位矢羽根状沈線充填施文後、波状沈線懸垂文付す。埋付着。	中期後葉						
第490号 PL138	22	深鉢 +20 体部破片	① 石英・白色粒・長石粒 ② 暗褐色	磨消懸垂帯、重気状沈線施文後、幅広の沈線により波状懸垂文這く。	中期後葉						
第490号 PL138	23	深鉢 +5 体部破片	① 石英・白色粒多 ② 暗赤褐色	縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉信州系						
第490号 PL138	24	深鉢 +22 体部破片	① 粗：粗・片岩粒 ② に近い赤褐色	縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉信州系						
第490号 PL138	25	深鉢 +15 体部破片	① 粗：粗・片岩粒 ② に近い赤褐色	縦位の2本隆帯による懸垂文。体部には横位の平行縦文配し、以下縦位矢羽根状沈線充填。	中期後葉 24・26・27は同一						
第490号 PL138	26	深鉢 +30 体部破片	① 長石粒 ② 赤褐色	上位に横位の平行縦文配し、以下縦位矢羽根状沈線充填。	中期後葉						
第490号 PL138	27	深鉢 +30 体部破片	① 長石粒 ② 赤褐色	縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉						
第500号 PL138	28	深鉢 +16 体部破片	① 微石英・白色粒 ② 明赤褐色	平行磨消懸垂文。磨状工具による波状懸垂帯隆文。内面。埋付着。	中期後葉						
第500号 PL138	29	深鉢 +25 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色	多次隆文。斜位沈線文。	中期後葉						
第500号 PL138	30	深鉢 +24 口縁部破片	① 細：石英粒・白色粒 ② 黒色・暗赤褐色	口縁部やや肥厚し内面に凹線這る。内外面研磨顯著。赤彩。	中期後葉						
第500号 PL138	31	深鉢 +17 体部破片	① 白色粒・石英・長石粒 ② 明褐色	大型土器。無文の体部片。埋付着。	中期後葉						
第500号 PL138	32	深鉢 +17 体部～底部 底：(9.7) 底：6.0	① 粗：石英粒・片岩粒 ② 赤褐色	平行沈線による懸垂文、横文LR、縦位施文。内面僅少量。	中期後葉						
第500号 PL138	33	浅鉢 +15 体部～底部破片 底：(13.0)	① 石英・雲母粒 ② 暗赤褐色	無紋底部片。内外面研磨。内面に赤彩痕。	中期後葉						
探検番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第500号 PL138	34	石罐	+5	完形	3.3	1.9	0.4	1.3	凹基無茶、挟りは深く扁平な作り。	黒曜石	チャート
第500号 PL138	35	石罐	+13	完形	3.0	0.6	0.4	0.5	両端が尖った棒状。やや扁平で精緻な作り。	黒曜石	
第500号 PL138	36	石罐	覆土	欠損	2.7	1.0	0.6	1.6	先端部を欠く石鏝と思われる。つまみ部は縦長方形。	黒曜石	
第500号 PL138	37	石罐	覆土	欠損	(1.6)	0.6	0.2	(0.2)	扁平の棒状品。基部を欠損している。	黒曜石	
第500号 PL138	38	石罐小	覆土	未製品	4.0	1.8	0.5	2.2	縦長割片、一端が細く、両側縁に細かい割線。石鏝の未製品小。	黒曜石	
第500号 PL139	39	石造	+25	完形	8.9	3.3	1.3	36.2	縦型石造、つまみ端部の膨らみ見られず。中央部に厚み、両側縁に刃部を作り出す。先端部は切断されたような形状を持つ。	黒色安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第508E PL139	40	二次加工 刀片	雑土	完形	3.2	1.8	0.7	2.9	縦長割片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第510E PL139	41	打製石 斧	雑土	ほぼ 完形	14.8	5.8	1.9	189	磨面。片面ほぼ全面が自然面。側縁に僅かな整形のみの痕な作り。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	42	打製石 斧	+20	完形	12.4	5.6	2.3	242	短冊形。やや厚手で。片面自然面残り丸みあり、鋭利さは見られない。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	43	打製石 斧	+25	完形	11.3	4.9	1.3	108	短冊形。片面に大きく自然面が残りの残りや反りを持つ。粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	44	打製石 斧	+29	完形	9.3	5.3	1.3	91	磨面。刃部は比較的薄手で扁角。刃部磨耗。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	45	打製石 斧	+7	欠損	(5.8)	4.3	1.5	(57)	基部片。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	46	打製石 斧	+12	欠損	(8.3)	5.0	1.8	(100)	先端が薄くなる基部片。片面に自然面。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	47	打製石 斧	+14	欠損	(5.5)	3.7	0.7	(19)	薄手の基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	48	打製石 斧	+14	欠損	(10.3)	4.8	2.4	(173)	短冊形。基部が厚く刃部に向かってやや薄く作られる。刃部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	49	打製石 斧	雑土	欠損	(6.3)	4.9	1.3	(45)	基部片と思われる。剥離したものか。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	50	スクレイ パー	+31	完形	3.2	7.0	0.7	18	横長割片の下辺部に刃部を作出。	黒色頁岩	
第510E PL139	51	スクレイ パー	+20	完形	7.4	3.6	1.4	38	半月形で端かに低状を呈す下辺部にやや粗い刃部を作出。	黒色安山岩	
第510E PL139	52	楔形石 器	+17	欠損	4.2	2.8	0.7	11	薄い板状片の両側縁に、鋭い狭り状の剥離が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	53	スクレイ パー	+31	完形	6.5	3.3	0.9	13.5	ほぼ蓋形を呈す割片の一边に刃部を作出。	流紋岩	
第510E PL139	54	磨製石 斧	+8	欠損	(5.5)	(4.0)	1.9	(41)	側縁の部分片。成形面は丁寧な研磨が見られる。	蛇紋岩	
第510E PL139	55	織部	床	完形	7.8	3.6	2.2	117	小型棒状織。両端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	56	磨石	+18	完形	8.8	7.8	4.2	396	やや扁平な円織。両面に平滑な使用面。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	57	磨石	雑土	完形	5.9	5.5	4.6	198	小型の円織。顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	58	磨石	+17	完形	12.0	6.2	3.9	467	扁平な長円織。両面平滑な使用面。端部に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第510E PL139	59	織部	+20	完形	6.5	5.2	3.6	157	小円織。側縁部に打痕か。	粗粒輝石安山岩	
第520E PL139	60	織部	+10	完形	14.3	7.3	5.5	916	棒状織。両端部に鋭い打痕。	石英閃緑岩	
第520E PL139	61	織部	+3	完形	9.1	3.0	3.0	138	小型棒状織。両端部に鋭い打痕。	石英閃緑岩	
第520E PL139	62	磨石	+25	完形	13.0	9.8	4.1	723	扁平な円織。片面やや丸みを帯び、中央部に打痕状の凹み有す。	粗粒輝石安山岩	
第520E PL139	63	台石	+18	完形	24.5	20.6	7.5	6,200	台石。使用面は平滑。側縁に打痕あり。	石英閃緑岩	
第520E PL139	64	石皿	+15	完形	20.6	13.4	5.8	2,310	不定形な扁平織利用。使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第520E PL139	65	多孔石	+19	欠損	16.8	12.5	9.3	2,370	数眼の凹み穴が見られる。裏面は剥落顕著。	粗粒輝石安山岩	
第520E PL139	66	片岩	+19	欠損	(5.5)	3.8	2.4	(41)	石皿の小破片か。	結晶片岩	

#### S-153号住居跡(第56～60図：PL139～142)

検出番号 図説番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 胎色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第560E PL139	1	深鉢 が 口縁～体部 口：21.2	① 胎：白色粒・角閃石安山岩 ② 胎色	隆帯により渦巻き模文を描く。側縁は沈線。精門文内は垂弧状の沈線文施文。体部は、隆帯による平行懸垂文で分割し、縦位矢羽根状沈線文で増める。口縁部に1対の補修孔有り。	中期後葉信州系
第560E PL139	2	深鉢 +14 口縁～体部 口：(17.2)	① 胎：白色粒・角閃石安山岩 ② 胎色	4単位の変状を呈し、口縁内側には隆帯が廻る。波頂部に隆帯による渦巻き文配を呈し、これらは連続した長文で増える。底状文で画された懸垂文部或は部には沈線による平行垂下沈線。口縁には渦巻き文が認められる。体部には渦巻き文から下がる2本の隆帯懸垂文。懸垂文間には平行沈線による懸垂文と側縁には斜位集合沈線が見られる。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第5609 PL139	3	深鉢 +10	口縁～体部 口：23.6	① 粗：白色粒(多)・角閃石安山 粒 ② 暗赤褐色	4単位の小波文を呈す。炭部部に隆帯による渦巻き文。また口縁下に付された隆帯は1列の渦巻き文から体部に延びる懸垂文を構成する。口縁部隆帯に沿って連続斜突文。体部には平行縦文、渦巻き文、蛇行懸垂文、斜位波線文が付される。	中期後葉信州系
第5609 PL140	4	深鉢 +13	口縁～体部 口：18.0	① 粗：大粒白色粒多 ② 赤褐色	口縁部に右端部が渦巻き文の隆帯による連続弧状文付し、弧状文内には横位波線文。体部には弧状文から隆帯による蛇行懸垂文(4)本。間を斜位波線で埋める。	中期後葉
第5609 PL140	5	深鉢 埋没	口縁～体部 口：15.0	① 粗：白色粒多 ② にぶい褐色	口縁斜となる位置に捻り隆帯これから左右に連続して波状隆帯文が廻り、波部部には渦巻き文が附加。以下体部には、隆帯による平行懸垂文、波状文が付され、空帯を斜位、矢羽根状の集合波線文で埋める。縦線による?折高。	中期後葉信州系 斜位土器
第5609 PL140	6	深鉢 +16	口縁部破片	① 細：石英・長石粒 ② 黒褐色	口縁部折り返され肥厚。口縁から隆帯によるS字状懸垂文。これに接して左右に、2本の折みを有す横位隆帯が延びる。体部には異方向の斜位集合波線が組み合わされる。	中期後葉信州系
第5609 PL140	7	深鉢 +18	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 暗褐色	口縁部に隆帯による端部渦巻き文の連続文。区内には縦位の集合波線充填。体部には平行縦線、蛇行懸垂文が見られる。	中期後葉信州系
第5609 PL140	8	深鉢 +17	口縁部破片	① 粗：石英多・雲母多 ② 暗赤褐色	口縁部に円孔を有す突起が付く。表面は隆帯による横位の渦巻き文が付き突起上面の渦巻き文に繋がる。突起下位から口縁部に沿って隆帯が左右に延び、さらに下位にも延びる。隆帯で画かれた口縁部には渦巻き文、矢羽根状文が認められ、間を縦位波線で埋める。また体部には懸垂隆帯間を斜位の集合波線で充填する。	中期後葉信州系
第5609 PL140	9	深鉢 +5	口縁部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 暗赤褐色	隆帯による弧状渦巻き文様構成。隆帯に沿って連続斜突文。また渦巻き文下、隆帯に繋がる垂下隆帯文。地文には斜位集合波線文。	中期後葉信州系
第5609 PL140	10	深鉢 +20	口縁部破片	① 微石粒・雲母粒 ② にぶい褐色	口縁内側肥厚。隆帯による渦巻き横位文構成。文様内斜位の短波線。	中期後葉信州系
第5609 PL140	11	深鉢 +10	口縁部破片	① 細：石英粒、雲母粒少 ② 暗褐色	隆帯による弧状文並列。口縁部に文様を両す横位波線。文様内には斜位波線。以下体部には蛇行懸垂文。地文にはLR細縦縦位文。	中期後葉
第5609 PL140	12	深鉢 +9	口縁部破片	① 微石英粒 ② 褐色	口縁部に隆帯による弧状渦巻き文。中に2本の斜位の集合波線文。	中期後葉信州系
第5609 PL140	13	深鉢 +11	口縁部破片	① 石英・長石粒多 ② 黒褐色	隆帯による渦巻き横位文構成。横位文内には斜位の集合波線文。	中期後葉信州系
第5609 PL140	14	深鉢 +16	口縁部破片	① 白色粒少 ② 黒褐色	隆帯による渦巻き横位文構成。横位文上位は波線により描かれ、中は上下2段位斜位の短波線充填。以下体部は斜位集合波線文。	中期後葉信州系
第5609 PL140	15	深鉢 +4	口縁部破片	① 粗：石英多・雲母多 ② 暗赤褐色	突起した隆帯による渦巻き懸垂文。および押印文有す懸垂文見られる。口縁部内側に肥厚。	中期後葉信州系
第5709 PL140	16	深鉢 +13	体部破片	① 粗：白色粒多・雲母多 ② にぶい赤褐色	口縁部隆帯による矩形文描き。中に2本の横位波線、波状文、波線文を重層に描く。矩形文間には板形隆帯が付され、その下部は横位隆帯に繋がる。下位には波線による重波状文、断面風化。	中期後葉
第5709 PL140	17	深鉢 +13	口縁部破片	① 細：石英粒、白色粒 ② 浅黄褐色	内湾しや肥厚した口唇端部は僅かに内屈。口縁下横位。以下縦位に縦線LR全面に施文。	中期後葉
第5709 PL140	18	深鉢 +7	口縁部破片	① 砂粒・長石粒 ② 明赤褐色	隆帯による渦巻き文か。直上口縁が三角に突起し口縁上面部には波線が付される。渦巻き文様内には懸垂文文が縦位文。	中期後葉古
第5709 PL140	19	深鉢 +17	口縁～体部破片	① 石英粒多 ② 暗赤褐色	口縁に横位2条波線。上位に渦巻き文、渦巻き文間および下位に並行字状波線。地文には集合波線が横位。縦位に描かれる。	中期後葉 20と同一個体
第5709 PL140	20	深鉢 斜	体部破片	① 石英粒多 ② 暗赤褐色	波線による垂下文様。地文には集合波線が横位。縦位に描かれる。	中期後葉
第5709 PL140	21	深鉢 +24	体部破片	① 石英粒多 ② 明褐色	横位2本の隆帯から、やはり2本の隆帯による上部渦巻き文の懸垂文。地文は縦位矢羽根状波線。外面厚付着。	中期後葉信州系
第5709 PL140	22	深鉢 +10	体部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色	2本の隆帯による懸垂文。地文には縦位矢羽根状波線文。外面厚付着。	中期後葉信州系
第5709 PL140	23	深鉢 +23	体部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 褐色	隆帯により渦巻き懸垂文、弧状文を描き、斜位、矢羽根状の集合波線で埋める。	中期後葉信州系
第5709 PL140	24	深鉢 +16	体部破片	① 石英・角閃石安山岩 ② 赤褐色	波線による平行、蛇行懸垂文。地文には斜位、横位に集合波線文。	中期後葉信州系
第5709 PL141	25	深鉢 +21	体部破片	① 細：石英・長石粒 ② 黒褐色	波線による平行、蛇行懸垂文様。地文には縦位LR縦文がまばらに看取される。	中期後葉信州系
第5709 PL141	26	深鉢 +24	体部破片	① 粗：白色粒・片岩粒・小磯 ② にぶい褐色	口縁支線部部分の字に内屈。隆帯による文様成か、小形部に画かれた文様内縦位の短波線文。断面研削。	中期後葉古



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	No.	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第578号 PL141	27	深鉢 +20 体部破片	① 石英・白色粒 ② 褐色	寛敷沈線による懸垂文、間には矢羽根状集合沈線を描文する。	中期後葉信州系						
第578号 PL141	28	深鉢 +20 体部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色	隆線による渦巻文、曲線文様懸垂文、文様内に斜位集合沈線で埋める。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	29	深鉢 +16 体部破片	① 石英・角閃石安山岩 ② 黒褐色	隆線による曲線文様、地文には斜位の集合沈線、器面の荒れ目立つ。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	30	深鉢 +7 体部破片	① 石英・雲母少 ② 黒褐色	平行隆線による懸垂文、地文は縦位の条線文充填後、中に横位沈線を持つ幅狭横格門文置く。内面研着。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	31	深鉢 +10 体部破片	① 胎：石英・長石粒 ② ぶい赤褐色	隆線によるU字懸垂文を横位連続。文様内は異方向斜位の集合沈線で埋める。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	32	深鉢 +13 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 暗赤褐色	隆線による曲線懸垂文様、地文には斜位の集合沈線。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	33	深鉢 +10 体部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 褐色	隆線により渦巻き懸垂文、弧状文を置き、斜位、矢羽根状の集合沈線で埋める。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	34	深鉢 +20 体部破片	① 石英・白色粒 ② 褐色	沈線による渦巻文、複数の懸垂筋線文が描かれ、内部に斜位沈線。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	35	深鉢 履土	① 石英・白色粒 ② 褐色	沈線による渦巻文、内部に斜位沈線。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	36	深鉢 +17 内面	① 石英・白色粒 ② 褐色	沈線による渦巻文、複数の懸垂筋線文が描かれ、内部に斜位沈線。	中期後葉信州系						
第580号 PL141	37	深鉢 +17 体部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	沈線によるU字状文、逆U字状文を上下に置き、縦位の短い沈線を描く。沈線の描きは良く顔面磨出。	中期後葉						
第580号 PL141	38	深鉢 +11 口縁部破片	① 微石英粒・酸化鉄 ② 褐色	口縁部近くの字に外縁、僅かに内湾する。無文で外面研着。	中期後葉						
第580号 PL141	39	深鉢 +13 口縁部破片	① 胎：石英・長石粒 ② 灰褐色	口縁部厚し凹線認め。無文で研着痕顯著。赤彩痕。	中期後葉						
第580号 PL141	40	深鉢 +16 口縁部破片	① 微石英・長石粒 ② 褐色	口縁部内部に隆線認め。外面無文。	中期後葉						
第580号 PL141	41	深鉢 +7 底部 底：7.4	① 胎：石英粒 ② 褐色	無文底破片。外面研着。	中期後葉						
第580号 PL141	42	深鉢 +10 底部 底：8.6	① 砂粒多 ② 赤褐色	無文底破片。	中期後葉?						
第580号 PL141	43	深鉢 +18 底部 底：7.2	① 胎：石英・長石粒多 ② ぶい赤褐色	無文底破片。底端部分剥落。	中期後葉						
第580号 PL141	44	深鉢 +3 底部 底：6.8	① 胎：長石粒少 ② 灰褐色	無文底破片。内外面研着。	中期後葉?						
検出番号 図版番号	No.	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第580号 PL141	45	石 碾	履土	欠損	2.0	1.4	0.4	0.9	凹基無基、挟り浅い、片脚を僅かに欠く。	黒曜石	
第580号 PL141	46	石 碾	履土	完形	1.8	1.4	0.3	0.6	凹基無基、挟りが浅い小型品。	黒曜石	
第580号 PL141	47	石 碾	履土	欠損	(1.9)	(1.2)	0.4	(0.4)	凹基無基、両脚を欠く。	珪質変質岩 (流紋岩質英岩)	
第580号 PL141	48	石 碾	履土	欠損	(1.4)	1.5	0.3	(0.4)	凹基無基、挟りはU字を呈し先端部を欠く。	黒曜石	
第580号 PL141	49	石 碾	砂	欠損	(2.1)	1.9	1.6	(1.4)	凹基無基、やや厚みを有し、先端部を欠く。	黒曜石	
第580号 PL141	50	石 碾	+16	欠損	(2.0)	1.6	0.3	(0.8)	凹基無基、挟り浅い、やや細長く先端部を欠く。	黒曜石	
第590号 PL141	51	石 碾	履土	完形	3.5	1.2	0.6	1.4	扁平な三角錐。先端部分の調整は僅か。	黒曜石	
第590号 PL141	52	スクレイパー	履土	完形	3.1	1.5	1.0	2.5	中央が盛り上がったなすび状を呈す。片面は平ら、断面が。	黒曜石	
第590号 PL141	53	石 碾	履土	完形	1.8	0.7	0.3	0.3	小型の棒状錐。板状片の両側縁を調整し剥離。	黒曜石	
第590号 PL141	54	二次加工片	履土	完形	2.5	2.1	0.8	3.2	基部が厚い三角形の剥片側縁に使用痕。	黒曜石	
第590号 PL141	55	スクレイパー	履土	欠損	1.9	(1.0)	0.3	(0.8)	半月状の剥片利用、弧状の縁部辺に反対側作ら。	黒曜石	
第590号 PL141	56	二次加工片	履土	完形	2.5	2.1	0.7	2.3	やや丸みを呈す剥片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第590号 PL141	57	二次加工片	履土	完形	2.9	2.1	0.3	1.3	不定形の薄型剥片、側縁部僅かに使用痕。	黒曜石	
第590号 PL142	58	水晶	履土	完形	2.5	0.9	0.7	2.0	角棒状の水晶片。下端にV字の切れ込み。	水晶	
第590号 PL142	59	打製石斧	+9	完形	10.6	4.7	1.9	97	楕円。片面に彫らみ有す。刃部単純。	細粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第5908 PL142	60	打製石 斧	+13	定形	10.7	5.3	1.8	125	脛形、基部先端が尖る。刃部厚く、自然面残り摩耗面	安山岩	
第5908 PL142	61	打製石 斧	+11	欠損	(8.0)	5.0	2.2	(122)	比較的厚みがある。刃部片、粗い作り。	黒色頁岩	
第5908 PL142	62	打製石 斧	+15	欠損	5.6	4.4	1.2	27	刃部片と見られる。	黒色頁岩	
第5908 PL142	63	打製石 斧	+17	欠損	(7.3)	5.1	1.9	(83)	脛形の基部片。	黒色頁岩	
第5908 PL142	64	打製石 斧	+17	欠損	(8.9)	4.9	1.3	(100)	板状、両面に自然面が残る。刃部を欠く。	磐前舞石普通輝 石安山岩	
第5908 PL142	65	打製石 斧	+14	欠損	(8.6)	4.8	1.7	(97)	脛形か、刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第5908 PL142	66	打製石 斧	+10	欠損	(7.0)	4.3	1.9	(61)	やや肥厚する基部片。	黒色頁岩	
第5908 PL142	67	打製石 斧	+10	欠損	(6.3)	4.9	1.5	(36)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第5908 PL142	68	磨製石 斧	+14	定形	10.7	5.0	2.3	225	刃部欠損後、刃部を敲打具として再利用か、側縁部打痕顕著。	凝灰岩	
第6008 PL142	69	磨石 礎土	定形	11.2	9.9	5.6	904	やや扁平な円盤、両面磨り面として使用。片面やや膨らむ。	細粒輝石安山岩		
第6008 PL142	70	織部	+19	定形	7.8	6.4	2.4	183	扁平な小円錐、側縁に打痕、鉄片層付着。	細粒輝石安山岩	
第6008 PL142	71	磨石 礎土	定形	7.6	7.0	6.1	438	円盤。顕著な使用痕は見られず。	細粒輝石安山岩		
第6008 PL142	72	織部	床	定形	13.3	6.5	4.0	499	棒状、やや扁平で顕著な使用痕は見られず。僅かに層付着か。	細粒輝石安山岩	
第6008 PL142	73	軽石製 品	+17	定形	5.4	4.8	3.8	29	やや楕円形の短柱状を呈す。断面、下面に平らな複数の磨り面、砥石として使用か。上面中央に小さな浅い凹みの凹み、裏面付着か。	軽石	
第6008 PL142	74	石皿	+27	欠損	(15.9)	(11.6)	5.5	(1250)	石皿の手前側部分の破片か、縁の高まりは弱い。焼熟。	細粒輝石安山岩	

## 5-154号住居跡(第63・64区: PL142・143)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土質	文 様 の 特 徴 等	備 考
第6308 PL142	1	深鉢 +15 口縁～体部 口: (18.0)	① 雲母粒 ② 黒褐色	口縁部折り返され肥厚。口縁から隆線による横位連続短弧状文、弧状文間から繋がる幅狭U字状平行懸垂文、弧状文内、縦位集合状線充填、体部懸垂文間には縦位矢羽根集合状線文を施す。	中期後葉信州系
第6308 PL142	2	深鉢 が 口縁～体部 口: 12.3	① 胎: 白色粒 ② 明赤褐色	4単位の高伏呈す。隆線による満巻き指目文を4単位施文。指目文内縦位短弧状文。体部には2本沈線によるU字状懸垂文を6単位、間には平行懸垂文、さらにその下に満巻き文が描かれる。U字状文内は矢羽根状沈線文で埋める。器壁新落着しい。	中期後葉 砂土土器
第6308 PL142	3	深鉢 床 口縁～体部	① 胎: 石英・長石粒 ② 暗褐色	口縁部折り返されやや肥厚。横位隆線に接して満巻きぎぎ形平行懸垂文。地文は斜位の集合沈線文。器面荒れる。	中期後葉信州系 7と同一個体
第6308 PL142	4	深鉢 が 口縁部破片	① 石英・雲母粒 ② 赤褐色	口縁横位隆線間に隆線によるS字状文。縦位連続短弧状文。隆線下には弧状、縦位の沈線施文。器面荒れる。	中期後葉
第6308 PL142	5	深鉢 +6 口縁部破片	① 石英・白色粒 ② 赤褐色	口縁部内側隆帯が細り肥厚。口縁横位隆線間に縦位連続短弧状文。隆線下には弧状、縦位の沈線施文。器面荒れる。文様構成4と似る。	中期後葉
第6308 PL142	6	深鉢 +22 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	口縁部平坦に整えられ、端部が短く立ち上がる。斜位の集合沈線施文。	中期後葉
第6308 PL142	7	深鉢 床 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 明褐色	隆線による曲線文様。地文には斜位の集合沈線。器面の荒れ目立つ。	中期後葉信州系 3と同一個体
第6308 PL142	8	深鉢 +18 体部破片	① 石英粒・白色粒多 ② 灰黄褐色	3本の隆線による懸垂文。地文には縦位矢羽根状集合沈線。器面の荒れ目立つ。	中期後葉信州系
第6308 PL142	9	深鉢 +10 体部破片	① 石英粒・白色粒多 ② 灰黄褐色	隆線による懸垂文。これに繋がり斜位隆線文。地文には斜位の集合沈線。器面の荒れ目立つ。	中期後葉信州系
第6308 PL142	10	深鉢 +19 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 灰黄褐色	横位沈線文から、変化した満巻き隆線文を伴う平行懸垂文。下位には縦位集合沈線。2次被焼。	中期後葉
第6308 PL142	11	深鉢 床 体部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 黒褐色	隆線による曲線文様を描く。側縁は沈線。文様間には縦位集合沈線文。	中期後葉
第6308 PL142	12	深鉢 +9 体部破片	① 石英・長石粒 ② ぶい黄褐色	隆線による曲線懸垂文。地文はR1、縄文施文。	中期後葉
第6308 PL142	13	深鉢 床 体部破片	① 胎: 石英粒 ② 赤褐色	沈線による懸垂文。地文にはR1、細線文縦位地文。	中期後葉
第6308 PL142	14	深鉢 床 底部 底: S2	① 胎: 石英粒 ② 明褐色	縦位の細沈線懸垂文下部が見える。	中期後葉

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種	出土位置 残存 出土位置(床面高)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考	
第630E PL142	15	石 礎	覆土	未製品	3.0	2.1	0.6	2.5	側縁部分調整痕見られるが、全体に厚みを残す。	黒曜石	
第630E PL142	16	二次加工片	覆土	完成	3.5	2.8	0.9	4.8	やや大振りの割片側縁に使用部。	黒曜石	
第630E PL142	17	石 礎	覆土	未製品	1.9	1.2	0.4	0.8	角が丸みを持つ三角形を呈す、部分的に調整割縁が見られる。	黒曜石	
第630E PL142	18	二次加工片	覆土	完成	3.5	2.1	0.6	2.5	方形割片の両側縁に使用部。	黒曜石	
第630E PL143	19	二次加工片	覆土	完成	2.2	2.1	0.6	1.9	未製品の破断片か、側縁に調整部。	黒曜石	
第630E PL143	20	二次加工片	覆土	完成	3.0	1.5	0.6	1.8	紡錘形割片の弧状部分に使用部。	黒曜石	
第630E PL143	21	打製石斧	+13	完成	8.6	3.2	1.8	26	廻身の小型打製石斧か、薄手で基部、刃部がやや細くなる。	黒色安山岩	
第640E PL143	22	打製石斧	+18	欠損	(7.7)	5.3	1.8	(102)	基部片、粗い作り。基部から両面に自然面が残る。	磐梯群石斧通輝石安山岩	
第640E PL143	23	礎部	+9	完成	13.4	7.2	4.2	606	なすび形の扁平礎。顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第640E PL143	24	礎部	床	完成	14.0	11.8	10.9	2,220	やや大形の円礎。顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	

## 5-155号住居跡(第68~77E: PL143~148)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 質	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第680E PL143	1	深鉢 床	口縁~体部 口: (36.0)	① 粗: 白色粒・角閃石安山岩 ② 暗赤褐色	口縁部文様は、隆帯による渦巻き柵目文構成。柵目文内には斜位の集合沈線文。体部は2条沈線による磨消懸垂文。RL縄文縦位施文。	中期後葉古
第680E PL143	2	深鉢 +20	口縁~体部 口: (27.0)	① 粗: 白色粒・角閃石安山岩 ② 暗褐色	4単位の波状口縁。口縁下やや中幅迄の無文帯を帯出し、隆帯による横渦巻き柵目文様を抽出する。区画文内には逆波状の短沈線文を充填するが、渦巻き部分狭縁部は刺突文となる。文様帯下部部には、平削磨消懸垂文で8分割し、縦位LRが充填施文。	中期後葉
第680E PL143	3	深鉢 +10	口縁~体部 口: (15.6)	① 粗: 白色粒・角閃石安山岩 ② 褐色	隆帯による横渦巻き文様。渦巻きから続く2本の隆帯が垂下し体部を4分割。隆帯には連続押圧文。施文には縦位RL充填施文。煤付着。	中期後葉
第680E PL143	4	深鉢 +4	口縁~体部	① 粗: 白色粒 ② 褐色	上縁に面を持つ渦巻き状突起を口縁部より付し、円孔を有す。突起下部より垂下する沈線により体部を4単位の区画文構成。区画文内はLR・縦縄文を横位。縦位に充填施文。内面底部に煤付着。	中期後葉新
第680E PL143	5	深鉢 +8	口縁~体部	① 石英・長石粒 ② 黒褐色	口縁部4単位波状。突起。直頂部および底底部に隆帯による渦巻き文。ここから繋がる懸垂文が下方に延び、体部中位にも渦巻き文構成を為す。中位の渦巻き文には斜突文が付される。施文には縦位LR施文。	中期後葉
第680E PL143	6	深鉢 +21	体部	① 粗: 白色粒・褐色粒 ② 暗褐色	上部に続く垂る縦位沈線。全周せず途中で細く断つて途切れる。体部は懸垂文しを縦位全面に施文。	中期後葉
第680E PL143	7	深鉢 +34	口縁~体部2点 口: (35.6)	① 粗: 白色粒多・褐色粒 ② 暗褐色	口縁部は外縁し無文。以下隆帯による渦巻き柵目文抽出。文様下位部分のは隆帯が突起状に膨厚し半渦巻き文。横柵目文状を呈す。区画文内には重要状の沈線を組み合わせた充填施文。体部は無文。	中期後葉
第690E PL143	8	深鉢 #1	口縁~体部 口: 14.5	① 粗: 白色粒・雲母 ② 赤褐色	口縁部対になる部分が突起。そこに隆帯で縁いた両端部渦巻きとなるS字状文配す。上の渦巻きから横に延びた隆帯端部も渦巻き文となる。この隆帯が下方に引つて2段連続刺突文が配される。下の渦巻き文から引いた2本の懸垂隆帯は互いに連続するし字文を成さず、中を斜位の集合沈線で埋める。熟による白化見られる。	中期後葉信州系 砂体土器
第690E PL144	9	深鉢 #1	口縁~体部 口: (27.0)	① 粗: 白色粒(多)・角閃石安山岩 ② 暗褐色	口縁部には2本隆帯による柵目渦巻き文。柵目文側縁は沈線伸縮。渦巻き文下から繋がる隆帯による幅狭打字状。蛇行懸垂文。文様間には異方向の斜位集合沈線で充填施文。内面体部下半程付着。	中期後葉信州系
第690E PL144	10	深鉢 +14	口縁~体部 口: (18.4)	① 粗: 白色粒多・角閃石安山岩 ② に近い赤褐色	口縁はやや内湾。無文帯有り。2本の縦位隆帯で連結された縦S字状文。柵目文が認められる。文様内は縦位集合短沈線で埋める。体部。S字状文から連なる2本の隆帯による懸垂文。懸垂文間は異方向斜位沈線を施文。	中期後葉
第690E PL144	11	深鉢 埋没	体部	① 粗: 白色粒 ② 黒褐色	口縁部上縁を欠く。横位の隆帯が張り、これに接して隆帯による曲線懸垂文様が見られる。文様間には細く斜位の沈線文が見られる。	中期後葉信州系
第690E PL144	12	深鉢 +3	口縁~体部 口: (39.2)	① 粗: 白色粒多・角閃石安山岩 ② 褐色	口縁はやや内湾。2本の縦位隆帯で連結された縦S字状文。柵目文が認められ、これらから連続して1又は2本の隆帯による懸垂文。懸垂文間は斜位沈線を交互斜位相対に縦位施文。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第6908 PL144	13	深鉢 +10	口縁～体部 口：16.0	① 釉：白色粒多・角閃石安山岩 ② 黒褐色	隆線による渦巻き柵文構成。柵文内には斜位の集合沈線文。体部は縦位集合沈線文施文。	中期後葉
第6908 PL144	14	深鉢 +10	口縁部破片	① 釉：白色粒・角閃石安山岩少 ② 赤い赤褐色	口縁部に隆線によるS字状渦巻き文と懸垂文。口縁に白い2本の沈線が廻る。隆垂文間には斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第7008 PL144	15	深鉢 +11	口縁～体部 口：(42.0)	① 石英・長石粒・酸化粒 ② 明赤褐色	口縁部無文で大きく外縁し、端部は僅かに内訳。文様は下側隆線により渦巻き柵文様を抽出。文様間に突起を有す。文様内は縦位集合沈線で埋める。	中期後葉新
第7008 PL144	16	深鉢 +18	体部	① 粗：白色粒多・角閃石安山岩 ② 褐色	不規則に隆線による懸垂文。2本平行内溝。また刻みをもつものも複数本見られる。隆線間には斜位の集合沈線文。	中期後葉
第7008 PL144	17	深鉢 +14	体部	① 粗：白色粒・石英・雲母 ② 暗褐色	2本の隆線による逆U字状文様。4単位か。頂部外側の隆線が太く肥厚し右側に連続する渦巻き文を置く。文様内には縦位集合沈線文。文様間には斜位の集合沈線が充填される。	中期後葉信州系
第7008 PL144	18	深鉢 +22	口縁～体部2点	① 粗：白色粒・雲母 ② 暗赤褐色	口縁から隆線による縦長のY状懸垂文を横に連続させる。上端部肥厚。側縁は沈線。地文には斜位の集合沈線文施文。口縁端部厚縁。底面面取りされ丸み有り。	中期後葉信州系
第7008 PL144	19	深鉢 +10	体部～底部 底：8.0	① 細砂粒・白色粒・角閃石安山岩 ② 褐色	2条沈線により逆U字状懸垂文を横位に置き、体部を4分割す。区画内中央に沈線で蛇行懸垂文を置き、両側に上下逆の重畳状文で埋めている。	中期後葉信州系
第7008 PL144	20	深鉢 +20	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 暗赤褐色	口縁下に横位沈線。隆線による渦巻き文。下位に細沈線による曲線文様か。地文にはLR 網文施文。椀付着。	中期後葉
第7008 PL144	21	深鉢 +10	体部破片	① 微：石英粒・酸化粒 ② 赤褐色	平行磨消懸垂文。文様間には状文LR 縦位施文。蛇行懸垂沈線文。椀付着。器内面削落。	中期後葉 22・23と同一個体
第7008 PL144	22	深鉢 +10	体部破片	① 微：石英粒・酸化粒 ② 赤褐色	平行磨消懸垂文。文様間には状文LR 縦位施文。蛇行懸垂沈線文。椀付着。器内面削落。	中期後葉
第7008 PL144	23	深鉢 +10	体部破片	① 微：石英粒・酸化粒 ② 赤褐色	平行磨消懸垂文。文様間には状文LR 縦位施文。蛇行懸垂沈線文。椀付着。器内面削落。	中期後葉
第7008 PL145	24	深鉢 +21	体部破片	① 微石英粒・酸化粒 ② 褐色	体部片、RL 網文全面に施文。	中期後葉 25と同一個体
第7008 PL145	25	深鉢 +21	体部破片	① 微石英粒・酸化粒 ② 褐色	体部片、RL 網文全面に施文。	中期後葉
第7108 PL145	26	深鉢 +20	口縁部破片	① 粗：白色粒 ② 赤褐色・黒褐色	隆線による渦巻き柵文構成。柵文内には縦位集合沈線文見られる。口唇部内側に隆線。	中期後葉
第7108 PL145	27	深鉢 +24	口縁部破片	① 石英・白色粒 ② 暗赤褐色	隆線による口縁部隆線と渦巻き懸垂文。斜位の集合沈線文付される。	中期後葉信州系
第7108 PL145	28	深鉢 +23	口縁部破片	① 粗：石英・長石粒多 ② 暗赤褐色	口縁端部内側に折り返され肥厚。口縁下に横位隆線で無文部を画す。以下2本沈線懸垂文。斜位の集合沈線施文。	中期後葉
第7108 PL145	29	深鉢 +36	口縁部破片	① 白色粒少 ② 赤い褐色	口縁部横走する隆線から下方に延び口縁部文様を構成か。横位矢羽状沈線文。	中期後葉
第7108 PL145	30	深鉢 +20	口縁部破片	① 石英・長石 ② 黒褐色	渦巻き柵文か。	中期後葉
第7108 PL145	31	深鉢 +28	口縁部破片	① 石英粒・角閃石安山岩 ② 褐色	口縁部内側に肥厚。隆線による渦巻き柵文構成か。椀付着。	中期後葉
第7108 PL145	32	深鉢 +10	口縁部破片	① 粗：白色粒・片岩粒(少) ② 黒褐色	口縁部に高く付きた突起が付く。側縁から続く隆線は上端で渦巻き文作るか。突起下位から隆線により渦巻き文から延びる懸垂文見られる。地文には斜位短沈線。波状沈線文見られる。	中期後葉信州系
第7108 PL145	33	深鉢 床	口縁部破片	① 粗：石英(多)・雲母 ② 暗褐色	隆線が付されたアーチ状把手。	中期後葉
第7108 PL145	34	深鉢 +19	口縁部破片	① 粗：白色粒・石英 ② 暗褐色	口縁部内側に隆線。外面口縁に沿って2本隆線とやや突起した渦巻き文付す。渦巻き文から下方に複数の隆線延びる。	中期後葉 35と同一個体か
第7108 PL145	35	深鉢	取っ手	① 粗：白色粒 ② 暗褐色	波状口縁部。横状取っ手。隆線による渦巻き文様施す。	中期後半 40と同一個体
第7108 PL145	36	深鉢 床	口縁部破片	① 粗：白色粒・石英・雲母 ② 暗赤褐色	三脚の横状把手。隆線で縁取られ、それぞれに沈線による渦巻き文様施す。	中期後葉
第7108 PL145	37	深鉢 +31	口縁部破片	① 粗：白色粒・(大粒)石英 ② 暗褐色	口縁から続く隆線が突起部で渦巻き文を構成。さらに下部にも延び渦巻き文を作る。また内側にも突起し隆線が付く。	中期後葉信州系 34と同一個体か
第7108 PL145	38	深鉢	体部破片	① 粗：白色粒 ② 暗褐色	口縁下に沈線による横位柵文置き。中を重畳状沈線文で埋める。以下隆線による柵文文。	中期後半 7と同一個体
第7108 PL145	39	深鉢 +22	体部破片	① 石英粒・角閃石安山岩 ② 黒褐色	隆線による渦巻き。曲線懸垂文様。さらに平行2本沈線による矢状文置き。文様間に縦位集合沈線を施文。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(体高)	① 胎 ② 色 土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第718号 PL145	40	深鉢 +10	体部破片 ① 石莖・長石粒 ② 赤褐色	弧状残線による隆線による中に渦巻き文を持つ平片懸垂文。地文は斜位の沈線文。扉付着。	中期後葉 35と同一個体
第718号 PL145	41	深鉢 床	口縁部破片 ① 粗；石莖粒・雲母粒少 ② 赤褐色	波状部の突起欠損。突起下位に隆線による渦巻き文。さらに左右の渦巻き懸垂文見られる。地文には斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第718号 PL145	42	深鉢 +25	体部破片 ① 石莖・長石・角閃石安山岩 ② 褐色	隆線による縦位渦巻き文見られ。文様下位には縦位の沈線文。器面無文。	中期後葉
第718号 PL145	43	深鉢 +28	体部破片 ① 石莖・長石粒 ② 褐色	隆線による懸垂曲線文様。斜位の集合沈線で埋める。	中期後葉信州系
第718号 PL145	44	深鉢 +8	体部破片 ① 罎；石莖粒 ② 赤褐色	隆線による曲線文。側線は沈線。斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第718号 PL145	45	深鉢 +36	体部破片 ① 罎；石莖粒・長石粒 ② 黒褐色	隆線による麻子籠懸垂文および連続する曲線文様。縦・横手文内無文。他には縦位。斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第728号 PL145	46	深鉢 47	体部破片 ① 白色粒少 ② 暗褐色	沈線による縦位。縦位の集合沈線文。下位には連続斜刺文有す縦位隆線。	中期後葉
第728号 PL145	47	深鉢 +21	体部破片 ① 石莖・長石粒 ② 黒褐色	隆線による横線文。中には横位矢羽根状沈線文。	中期後葉
第728号 PL145	48	深鉢 +10	体部破片 ① 白色粒・石莖粒石莖粒 ② 暗褐色	斜みを付す垂下隆線。左右には斜位真方向集合沈線。	中期後葉
第728号 PL146	49	深鉢 +29	体部破片 ① 白色粒・石莖粒 ② 暗褐色	2本隆線による懸垂文。横走文。地文には矢羽根状縦位沈線文。	中期後葉
第728号 PL146	50	深鉢 +26	体部破片 ① 石莖・長石粒多 ② 黒褐色	隆線による懸垂文。斜位集合沈線。内面剥落。	中期後葉
第728号 PL146	51	深鉢 +20	体部破片 ① 石莖粒・雲母粒 ② にぶい赤褐色	隆線による蛇行懸垂文。地文は斜位の集合沈線文。扉付着。	中期後葉信州系
第728号 PL146	52	深鉢 +7	体部破片 ① 罎；石莖・長石粒 ② にぶい赤褐色	隆線による曲線文様。斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第728号 PL146	53	深鉢 +17	体部破片 ① 石莖粒・雲母粒 ② 黒褐色	垂下隆線。地文は真方向の集合沈線文。	中期後葉信州系
第728号 PL146	54	深鉢 +23	体部破片 ① 石莖・長石粒 ② にぶい赤褐色	横位隆線と連続する2本の磨消懸垂文。沈線懸垂文。地文には斜位の沈線文縦位。	中期後葉 40と同一個体
第728号 PL146	55	深鉢 +32	体部破片 ① 石莖・長石粒 ② 暗褐色	隆線による曲線文。側線は沈線。斜位の集合沈線。	中期後葉信州系
第728号 PL146	56	深鉢 +20	体部破片 ① 罎；石莖粒 ② 暗褐色	隆線による懸垂文。縦位集合沈線で埋め。2本の沈線で隆線を築く弧状文様。	中期後葉信州系
第728号 PL146	57	深鉢 +6	体部破片 ① 石莖・雲母粒 ② にぶい赤褐色	2本隆線による懸垂文。縦位真方向集合沈線文。	中期後葉信州系
第728号 PL146	58	深鉢 +19	体部破片 ① 石莖粒少 ② 黒褐色	隆線による懸垂文。縦位集合沈線。	中期後葉
第728号 PL146	59	深鉢 +2	体部破片 ① 石莖・長石粒多 ② 黒褐色	2本の隆線による磨消懸垂文。地文には斜位の集合沈線文。器内面剥落多。	中期後葉
第728号 PL146	60	深鉢 +10	体部破片 ① 石莖・長石粒多 ② 黒褐色	2本の隆線による懸垂文が見られ。器面は無文。器内面剥落多。	中期後葉新 位と同一個体
第728号 PL146	61	深鉢 +21	口縁部破片 ① 罎；石莖粒少 ② にぶい黄褐色	口縁端部やや内側ぎ状を呈す。無文口縁部片。研磨。側面赤赤。	中期後葉
第728号 PL146	62	深鉢 +20	体部破片 ① 石莖・長石粒多 ② 暗褐色	隆線による懸垂文が見られ。器面は無文。器内面剥落多。	中期後葉新 位と同一個体
第738号 PL146	63	深鉢 +10	体部～底部 底：7.3 ① 粗；白色粒・石莖多・角閃石 ② 赤褐色	隆線による曲線文様。横き斜位集合沈線を埋める。器面の剥落顕著。	中期後葉
第738号 PL146	64	深鉢 47	体部～底部 底：6.8 ① 石莖・長石粒 ② 赤褐色	底部片。底端部に丸み。施文されたLR縷文の下端部見える。	中期後葉
第738号 PL146	65	深鉢 +12	体部～底部 底：8.8 ① 罎；石莖・雲母粒 ② 赤褐色	沈線による懸垂文の下端部分が削かで見える。内面に扉付着。底面に斜位縷文に残る。	中期後葉
第738号 PL146	66	深鉢 +34	底部 底：11.0 ① 粗；石莖・長石粒 ② 明黄褐色	厚手の底部片。器面の剥落顕著。底面に縷文。	中期後葉
第738号 PL146	67	深鉢 +12	体部～底部 底：(9.0) ① 石莖・白色粒多 ② 褐色	無文底部片。	中期後葉
第738号 PL146	68	深鉢 +27	体部 ① 石莖・長石粒 ② 赤褐色	無文の底部片。内面に扉付着。	中期後葉
第738号 PL146	69	深鉢 +19	体部～底部 底：9.6 ① 石莖・長石粒少 ② 赤褐色	無文の底部片。内面に扉付着。	中期後葉
第738号 PL146	70	深鉢 47	底部 底：(7.0) ① 石莖粒・長石粒 ② 赤褐色	隆線による懸垂文の下端部残る。底面に白色の付着物。	中期後葉
第738号 PL146	71	深鉢 47	底部 底：6.4 ① 粗；石莖・長石粒 ② 褐色	無文底部片。内面剥落。	中期後葉
第738号 PL146	72	深鉢 +21	体部～底部 底：9.6 ① 石莖粒・長石粒 ② 明赤褐色	小さめの底部から体部が大きく開いて立ち上がる。無文で研磨される。内面に扉付着。	中期後葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第7306 PL146	73	石 礫	覆土	完形	2.3	1.5	0.2	0.6	凹基無蓋、挟りは三角、薄手で丁寧な作り。	黒曜石	
第7306 PL146	74	石 礫	覆土	完形	(2.8)	1.7	0.3	(0.9)	凹基無蓋、挟りはV状で比較的深い、薄手で作りは丁寧。	黒曜石	
第7306 PL146	75	石 礫	床	欠損	2.3	(1.1)	0.4	0.6	凹基無蓋、挟りは浅く片側部を欠く。	黒曜石	
第7306 PL146	76	石 礫	+30	完形	(1.3)	(1.1)	0.3	(0.3)	凹基無蓋、小型品で先端部分がやや肥厚。	黒曜石	
第7306 PL146	77	石 礫	覆土	欠損	(2.1)	1.6	0.3	0.9	凹基無蓋、比較的深い挟りを持つ、先端部を欠く。	黒曜石	
第7306 PL146	78	石 礫	床	ほぼ 完形	(2.0)	1.7	0.4	(0.9)	凹基無蓋、挟りはU状で両側縁部はやや丸みを呈す。	黒曜石	
第7306 PL147	79	石 礫	覆土	未製 品	2.1	(1.4)	0.4	(1.2)	側縁部分に粗い調整、厚みを残す。	黒曜石	
第7306 PL147	80	石 礫	覆土	欠損	1.8	(1.0)	0.3	(0.4)	凹基無蓋、粗い作り、片側部分欠。	黒曜石	
第7306 PL147	81	石 礫	覆土	欠損	1.4	(1.1)	0.3	(0.4)	凹基無蓋、挟り浅く脚が大きく圓く形で片側を欠く。	黒曜石	
第7306 PL147	82	石 礫	覆土	欠損	(2.1)	(1.6)	0.6	(1.6)	平基無蓋、ほぼ三角形で角が丸みを帯びる。一部欠。	黒曜石	
第7306 PL147	83	石 礫	覆土	完形	(1.9)	0.6	0.3	(0.3)	小型棒状。つまみ部欠損小。	黒曜石	
第7406 PL147	84	石 礫	覆土	完形	2.8	1.2	0.9	1.5	腰部は三角錐形を呈し調整は粗い。	黒曜石	
第7406 PL147	85	二次加 工片	覆土	完形	1.8	1.5	0.6	1.4	やや厚手の剥片側縁に調整痕。	黒曜石	
第7406 PL147	86	二次加 工片	覆土	完形	2.6	2.5	0.6	4.3	片面に大きく水洗面。側縁に刃部調整。	黒曜石	
第7406 PL147	87	二次加 工片	覆土	完形	2.9	2.9	1.1	7.6	不定形な剥片の一端辺に刃部作出。	黒曜石	
第7406 PL147	88	楔形石 器	覆土	完形	2.1	2.6	0.7	3.0	楕円形の対となる縁辺部に細かな刃部作出。	黒曜石	
第7406 PL147	89	二次加 工片	覆土	完形	3.2	2.0	0.5	4.1	台形を呈す剥片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第7406 PL147	90	二次加 工片	覆土	完形	1.5	2.3	0.4	1.1	石礫の未製品か、片側縁に割離痕。	黒曜石	
第7406 PL147	91	打製石 斧	初内	完形	10.8	5.0	1.3	95	楕形、刃部摩耗し丸みを呈す。	粗粒輝石安山岩	
第7406 PL147	92	打製石 斧	+29	欠損	14.8	5.0	1.8	194	短楕形。やや縦身で長い、軟質の石材利用。	粗粒輝石安山岩	
第7406 PL147	93	打製石 斧	+21	完形	12.9	5.1	1.7	131	楕形、刃方でやや薄手である。	粗粒輝石安山岩	
第7406 PL147	94	打製石 斧	+26	完形	10.6	5.3	1.9	130	楕形、基部はやや厚く刃部は薄くなる。	粗粒輝石安山岩	
第7406 PL147	95	打製石 斧	+22	完形	10.1	4.3	1.5	88	短楕形、基部はやや薄く丸みを呈す。	黒色安山岩	
第7406 PL147	96	打製石 斧	覆土	完形	10.7	5.1	1.5	117	楕形、片面に大きく自然面。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第7406 PL147	97	打製石 斧	+19	完形	7.3	3.3	1.1	35	小型品。楕形であるが刃部の開きは弱い、やや厚み有り。	黒色安山岩	
第7406 PL147	98	打製石 斧	+22	完形	9.2	5.6	1.4	85	楕形、やや短身で刃は薄手である。	黒色頁岩	
第7406 PL147	99	打製石 斧	+17	完形	9.1	5.2	1.0	75	扁平で片面に自然面大きく残る。鋭利は見られず簡単な作り。	粗粒輝石安山岩	
第7506 PL147	100	打製石 斧	+16	欠損	(3.5)	6.0	1.5	(28)	刃部片。片面は自然面。	黒色頁岩	
第7506 PL147	101	打製石 斧	+26	欠損	(8.3)	5.1	1.6	(97)	短楕形、基部および刃部先端を僅かに欠く。	粗粒輝石安山岩	
第7506 PL147	102	打製石 斧	覆土	完形	(11.0)	5.3	1.1	(116)	板状礫利用、両面に自然面薄手の作り。	粗粒輝石安山岩	
第7506 PL147	103	打製石 斧	+21	完形	(15.6)	8.3	1.4	(286)	大型の板状礫利用、幅広く薄手の作り。	粗粒輝石安山岩	
第7506 PL147	104	打製石 斧	+18	完形	(10.9)	5.2	2.0	(123)	短楕形、基部がやや薄く作られる。	黒色頁岩	
第7506 PL147	105	打製石 斧	+19	欠損	(5.7)	3.8	1.0	(34)	弱い挟りが見られる基部片。	粗粒輝石安山岩	
第7506 PL147	106	打製石 斧	+18	欠損	(9.0)	5.2	1.6	(93)	楕形、刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第7506 PL147	107	打製石 斧	+13	欠損	(9.6)	4.9	1.0	(67)	板状礫利用した楕形、薄手で両面に自然面。刃部欠損。	粗粒輝石安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第7506 PL147	108	打製石 斧	+18	欠損	(10.3)	4.9	1.8	(115)	楕形、刃部の開きは狭い。刃部を欠損。	細粒輝石安山岩	
第7506 PL147	109	打製石 斧	+16	欠損	(7.9)	3.4	1.6	(97)	基部片、両面に自然面。片側縁部は自然面が残るほど無調整。	粗粒輝石安山岩	
第7506 PL147	110	打製石 斧	床	欠損	(7.2)	4.4	1.4	(67)	基部片と思われる。割れ口は新しい。	砂岩	
第7506 PL147	111	打製石 斧	覆土	欠損	(10.0)	6.6	1.9	109	比較的大型の基部片、斜めに割れている。	細粒輝石安山岩	
第7506 PL147	112	打製石 斧	+23	欠損	(8.2)	5.0	1.0	(52)	中央部が弱く括れる。薄手で両面に自然面を残す。刃部を欠損。	細粒輝石安山岩	
第7506 PL147	113	打製石 斧	+24	欠損	(6.7)	4.0	1.1	(42)	基部片、端部上面に自然面。	黒色頁岩	
第7506 PL147	114	打製石 斧	+23	欠損	(9.1)	5.1	2.0	(79)	基部を剥離。刃部欠損。	黒色頁岩	
第7506 PL147	115	打製石 斧	+18	欠損	(7.7)	4.4	1.5	(63)	基部片、端は斜めで上面は自然面。刃部を欠く。	黒色頁岩	
第7506 PL147	116	打製石 斧	+24	欠損	(6.8)	4.4	2.2	(73)	厚手の基部片。	黒色頁岩	
第7506 PL147	117	打製石 斧	+17	欠損	(5.9)	3.7	1.6	(34)	基部片と思われる。	黒色安山岩	
第7606 PL147	118	打製石 斧	+22	欠損	(7.5)	3.8	1.1	(78)	薄手で基部および刃部先端を欠損。	細粒輝石安山岩	
第7606 PL147	119	打製石 斧	+29	欠損	(7.1)	7.9	1.1	(91)	大型の板状利用。幅広く薄手の作り。刃部欠く。14に近似。	粗粒輝石安山岩	
第7606 PL147	120	石匙	+17	完形	6.3	3.6	0.6	17.5	楕形で刃部は丸く、つまみ部分やや大きく作られる。全体に薄手の作り。	黒色頁岩	
第7606 PL147	121	石匙	+11	完形	9.1	5.5	0.6	38	一次削りから作られた遺物。両面に自然面大きく残す。上部はほぼ中央に凹みのつまみが見られる。縁りはほとんど見られず。刃部は鋭利な作り。	黒色安山岩	
第7606 PL147	122	スクレイパー	床	完形	7.0	3.7	1.0	32	曲がりを持った剣内の弧状下辺部に刃部を作出。	黒色頁岩	
第7606 PL148	123	スクレイパー	+6	完形	8.3	4.6	0.7	48	板状ではほぼ四角形を呈す。下辺部分に刃部を作出。	黒色頁岩	
第7606 PL148	124	打製石 斧	+27	完形	11.9	3.2	1.0	57	細身の打製石斧か。上部に両側から浅い抉り、刃部は僅かに細くなる。	黒色頁岩	一部に煤
第7606 PL148	125	磨製石 斧	+13	欠損	(1.9)	1.5	0.8	(4.5)	小型定角式の基部片。やや厚みを有す。	蛇紋岩	
第7606 PL148	126	磨石	+13	完形	12.1	9.8	6.5	1,110	やや大型の円鏡。両面使用。比較的平坦。	粗粒輝石安山岩	
第7606 PL148	127	磨石	床	完形	10.5	7.8	6.4	792	楕形の円鏡。表面平滑。端部に研ぎによる剥離有り。すず付着。	粗粒輝石安山岩	
第7606 PL148	128	磨石	+12	完形	4.2	4.1	3.3	78	小円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第7606 PL148	129	磨石	+25	完形	11.8	10.0	7.9	1,231	やや大型の円鏡。両面使用。比較的平坦。	粗粒輝石安山岩	
第7606 PL148	130	磨石	+9	完形	13.4	7.9	3.7	942	やや細長い鏡。一端が平坦で磨打具として使用か。表面にも浅い打痕。	粗粒輝石安山岩	
第7706 PL148	131	鏡器	+22	欠損	(7.7)	5.4	4.5	(302)	棒状鏡片。表面に浅い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第7706 PL148	132	鏡器	床	欠損	(6.4)	6.1	4.9	(401)	角柱状の鏡片。	粗粒輝石安山岩	
第7706 PL148	133	凹石	+16	欠損	(10.2)	(4.2)	4.0	(209)	扁平な鏡の両面に凹み穴。また剥離部にも打痕による剥離。平分欠。	安山岩	
第7706 PL148	134	台石	砂	完形	31.2	9.5	2.7	4,100	断面楕丸方形の大型棒状鏡。平らな対面に顕著な研磨痕。砂粒に埋没。	石英閃緑岩	
第7706 PL148	135	石棒	砂	欠損	(21.8)	11.9	10.9	(4,060)	有頭。大型で頭部の一部を欠損。被熱。砂の東側面に直立。	デイサイト	
第7706 PL148	136	石棒	+16	欠損	(29.4)	(10.5)	10.3	(3,850)	大型石棒。頭部に向かってやや細くなり頭部は丸みを有す。被熱。	緑色片岩	
第7706 PL148	137	解石製品	+13	完形	6.1	3.9	1.7	14	板状で楕形を呈す。研磨による成形。	解石	
第7706 PL148	138	装身具	+38	完形	6.6	2.4	0.8	27	丸みを持った楕円の長棒形を呈す。中央に2箇所有し、片側縁の両端部に3本と4本ずつの突起込みを持つ。両面は平滑に磨かれる。	磨石	

5-156号石器群(第81~83図: PL148~150)

検出番号 図録番号	No	部種・部位 出土位置(表面高)	① 土 ② 色 土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第8106 PL148	1	深鉢 腹土	白緑~体部 口: 14.6	① 細: 白色粒 ② 暗褐色	キヤリハ型の小型品。丸。縄文を口縁部には横位。以下体部は縦位方向全面施文。内面研磨。	中期後葉
第8106 PL148	2	深鉢 腹土	白緑~体部 口: 24.0	① 粗: 白色粒・石英・角閃石 ② 暗褐色	口縁部には縦線による溝巻き弧状文。弧状文内には沈線により横文。溝巻き文様が描かれ、横文内には垂線状文溝。巻き文が描かれる。体部には縦線条文施文。2本の沈線による磨文。	中期後葉信州系
第8106 PL148	3	深鉢 腹土	体部~底面 底: 6.8	① 粗: 白色粒多・石英多・角閃石 ② 暗赤褐色	縦線により横位5単位の十字状磨文。文溝内には弧状の短沈線文を連珠状に充填施文。1方片中央に2本沈線による磨文。十字状文間に磨文し部と斜位沈線が見られる部分がある。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(取手面)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第8106 PL148	4	深鉢 腹土	口縁一部 口:(3.4)	① 粗:白色粒・石英 ② 褐色	隆縁による縦帯渦巻き文から垂下文、口縁部には縦帯文石目、沈線による扁平な横文が露出され、中を縦位短沈線で埋める。体部は斜位縦文方向集合沈線で横状に施文。口縁部に横筋孔2、1つは未貫通。	中期後葉信州系
第8106 PL148	5	深鉢 腹土	口縁一部	① 粗:白色粒(多)・石英 ② 褐色	口縁部下、横位連続して突起した渦巻き文、S字状文を施す。引となる位置には渦巻き文か連続する横状突起を有すと見られる。体部には隆縁から露出する横位連続し状文を施す。文様内を斜位の集合沈線で埋める。口縁部には横位短沈線がまた交互刺突文がそれぞれ渦巻き文を繋ぐように配される。	中期後葉信州系
第8106 PL149	6	深鉢 腹土	体部	① 粗:石英多・雲母多 ② 赤褐色	2本隆縁による渦巻き帯並に平行懸垂文交互に横出。縦位矢羽根状集合沈線や中沈線に施文。	中期後葉信州系
第8106 PL149	7	深鉢 +28	口縁部破片	① 石英・白色粒多 ② 暗赤褐色	隆縁による渦巻き帯並に横文構成。横文内、RL渦文施文。3本沈線による懸垂文。	中期後葉
第8106 PL149	8	深鉢 床	口縁一部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 赤褐色・暗赤褐色	口縁に隆縁による縦位文構成。中を縦位沈線で埋める。気状文連結部からは上端渦巻き文の蛇行沈線文が垂下。また気状部からは3本の沈線の垂下文。地文はLR渦文縦位文が、内外面保存着。	中期後葉
第8106 PL149	9	深鉢 +22	口縁部破片	① 粗:石英・雲母粒少 ② 暗褐色	隆縁による渦巻き帯並に横文構成。LR縦位文。	中期後葉
第8106 PL149	10	深鉢 +34	口縁部破片	① 粗:石英・長石粒 ② 赤褐色	隆縁による渦巻き帯並に横文構成。側縁は沈線。横文内にはLR渦文縦位文が施す。	中期後葉
第8106 PL149	11	深鉢 +34	体部破片	① 粗:白色粒 ② 褐色	口縁部に渦巻き懸垂文。地には縦位LR渦文施文。沈線による渦巻き文様などが施される。	中期後葉
第8106 PL149	12	深鉢 +28	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 黒褐色	2本沈線による渦巻き文・蛇行、屈折し状懸垂文。地文渦文は縦位LR施文。底付着。	中期後葉
第8206 PL149	13	深鉢 +3	体部破片	① 長石粒・角閃石安山岩 ② 明褐色	沈線による渦巻き文・横文。下位に4本沈線で垂下文。渦文LR縦位施文。沈線により、蛇行懸垂文露く。露な施文。器面厚縁。	中期後葉
第8206 PL149	14	深鉢 +30	口縁部破片	① 石英粒・白色粒 ② ぶい褐色	底隆縁による渦巻き帯並に横文構成。横文内、2段にぶい褐色。底付着。	中期後葉信州系
第8206 PL149	15	深鉢 +13	口縁部破片	① 石英・雲母粒・長石粒多 ② ぶい褐色	口縁部に基部渦巻き帯のS字状文が配される。帯が縦位隆縁部には斜位の短沈線に施文。	中期後葉信州系
第8206 PL149	16	深鉢 +27	口縁一部破片	① 粗:白色粒少 ② 明黄褐色	口縁部横位隆縁で画された文様帯内に、基部が渦巻き帯のS字状文が配される。左右は縦位沈線。体部には沈線による垂気状文、縦位文、気状文が施される。	中期後葉
第8206 PL149	17	深鉢 +29	体部破片	① 粗:石英粒・長石粒 ② 黄灰色	縦く押された刺突文有す横位隆縁。下位に縦位LR渦文施文。	中期後葉
第8206 PL149	18	深鉢 +9	体部破片	① 石英・長石粒多 ② 橙色	横位沈線文。地文には細渦文LRを縦位施文。	中期後葉
第8206 PL149	19	深鉢 +29	口縁部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 暗赤褐色	口唇部内側に肥厚。隆縁による横文露く。垂気状沈線施す。	中期後葉信州系
第8206 PL149	20	深鉢 +36	口縁一部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 暗赤褐色	隆縁による縦文、横文文様からは隆縁による垂下文。横方向斜位の沈線文が施す。	中期後葉信州系
第8206 PL149	21	深鉢 腹土	口縁一部破片 2点	① 粗:石英・雲母 ② 暗褐色	口縁部肥厚。隆縁によるS字状渦巻き文と上下の渦巻き文を結ぶ。隆縁上位に沈線による2条の平行帯が露出。ここに交互刺突文が2段施文される。体部隆縁文様外には斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第8206 PL149	22	深鉢 +5	口縁部破片	① 粗:白色粒少 ② ぶい黄褐色	隆縁による渦巻き帯並に横文構成。縦位沈線光斑。	中期後葉
第8206 PL149	23	深鉢 床	口縁部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 暗赤褐色	口縁部横位隆縁上に横文内。下位には蛇行懸垂文。横文内、体部には斜位集合沈線文。	中期後葉信州系 25と同一個体
第8206 PL149	24	深鉢 +31	口縁部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 赤褐色	隆縁による渦巻き帯、気状文内斜位の沈線施文。体部は斜位。気状の沈線文。	中期後葉信州系
第8206 PL149	25	深鉢 +3	口縁部破片	① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色	口縁部に隆縁による渦巻き懸垂文。連続する横位隆縁上に斜位の短沈線文。隆縁下位にも斜位集合沈線文。	中期後葉信州系 23と同一個体
第8206 PL149	26	深鉢 +19	突起	① 石英・長石・白色粒多 ② 褐色	三角形を呈す突起片。上部にも円型。三脚で隆縁。沈線で彫られる。	中期後葉
第8206 PL149	27	深鉢 +40	体部破片	① 石英・白色粒 ② 暗褐色	隆縁による縦S字状文。これから横にも複数の隆縁が露出する。器底に刺突文。	中期後葉信州系
第8206 PL149	28	深鉢 +49	体部破片	① 石英・長石粒多 ② ぶい褐色	隆縁による蛇行、平行の懸垂文。地文は斜位の沈線。	中期後葉信州系
第8206 PL149	29	深鉢 +16	体部破片	① 石英粒・雲母粒少 ② 黒褐色	上位に連続刺突文有す横位隆縁。下位には縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉信州系
第8206 PL149	30	深鉢 +37	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② ぶい赤褐色	2本隆縁による曲帯文が、地文には沈線による平行横文。斜位集合沈線文見える。	中期後葉信州系
第8206 PL149	31	深鉢 +34	体部破片	① 石英・白色粒 ② ぶい褐色	垂下隆縁。側縁に沈線。矢羽根状沈線文。底付着。	中期後葉信州系
第8306 PL149	32	深鉢 +4	体部破片	① 粗:石英・雲母粒少 ② 赤褐色	3本の垂下隆縁による縦区画。間には縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉信州系
第8306 PL149	33	深鉢 床	体部破片	① 石英・長石・雲母粒少 ② 黒褐色	隆縁懸垂文。縦位垂気状の沈線文。	中期後葉信州系
第8306 PL150	34	深鉢 +4	体部破片	① 雲母粒 ② 黒褐色	間を磨り消した2本隆縁の懸垂文。地文は斜位の集合沈線文。	中期後葉信州系
第8306 PL150	35	深鉢 +28	体部破片	① 石英・白色粒 ② ぶい褐色	異方向の斜位集合沈線文。	中期後葉



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・裏面)	① 土 質			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			① 土 質	② 色	③ 土 質						
第830E PL150	36	深鉢 床	体部破片	① 細：黄石英粒 ② 黒色		2本の隆線による曲線文様。保存。中期後葉					
第830E PL150	37	深鉢 +24	体部破片	① 石英・長石粒多 ② ぶい赤褐色		隆線による曲線文様から左右に3本の横位隆線が延びる。下位には横位重低状隆線。器内面割断。中期後葉信州品					
第830E PL150	38	深鉢 +32	口縁部破片	① 石英粒・白色粒 ② ぶい赤褐色		口縁部外側断面三角に肥厚。内外面丁寧な研磨。中期後葉					
第830E PL150	39	深鉢 +20	体部～底部 底：5.4	① 細：石英・長石粒少 ② 赤褐色		小型土器。無文。外面研磨。内面に保存。中期後葉					
第830E PL150	40	深鉢 +32	体部～底部 底：10.0	① 長石粒・雲母粒 ② 赤褐色		隆線懸垂文。斜位波文。器面割断。中期後葉					
第830E PL150	41	深鉢 +25	肥手破片	① 粗：白色粒・雲母少 ② ぶい赤褐色		大ぶりの楕圓把手。低伏を呈す丸棒状のものに台つて、3本の隆線を断面三角になるように貼り付ける。中期後葉					
第830E PL150	42	耳栓 覆土	完形 長：2.25 幅：2.3	① 細：夾雑物少 ② ぶい褐色		鼓状。両面に沈線による組み合わせ渦巻き文。研磨。中期後葉？					
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第830E PL150	43	石 罐	覆土	ほぼ 完形	(1.6)	2.0	0.3	(0.8)	円基無蓋。短頸で脚が大きく開く。先端部分を僅かに欠く。	黒曜石	
第830E PL150	44	石 罐	床	完形	2.0	1.3	0.4	0.7	小型の平基無蓋。二等辺三角形を呈す。	黒曜石	
第830E PL150	45	石 罐	覆土	欠損	(1.4)	1.5	0.4	(0.8)	未製品か。欠損品。	黒曜石	
第830E PL150	46	石 罐	覆土	欠損	(1.6)	1.7	0.4	(1.0)	平基無蓋。先端部分を欠く。	黒曜石	
第830E PL150	47	二次加工 刀片	覆土	欠損	1.4	1.4	0.5	0.8	小型台形の剥片。破断品か。側面に刃部作出。	黒曜石	
第830E PL150	48	石 罐	覆土	欠損	(1.6)	1.1	0.3	(0.5)	片面に自然面残る。側縁部分に割断見られるが部分的。	黒曜石	
第830E PL150	49	石 罐	覆土	欠損	(1.9)	0.6	0.5	(0.5)	棒状罐の欠損品。	黒曜石	
第830E PL150	50	石 罐	床	完形	2.4	1.9	0.5	1.6	一見石罐に見えるが小型楕圓型石罐の可能性が高い。	黒曜石	
第830E PL150	51	打製石 斧	覆土	完形	9.9	4.9	1.7	97	楕形。刃部厚鈍。	細粒輝石安山岩	
第830E PL150	52	打製石 斧	覆土	完形	10.0	5.2	1.5	95	楕形。比較的薄手で作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第840E PL150	53	打製石 斧	覆土	完形	12.6	5.8	2.8	266	片面に大きく自然面。基部および片側側縁が厚い形。未製品か。	細粒輝石安山岩	
第840E PL150	54	打製石 斧	覆土	欠損	(4.3)	4.7	1.5	(36)	刃部片。刃先部分は薄く尖る。	細粒輝石安山岩	
第840E PL150	55	打製石 斧	覆土	欠損	(5.5)	4.6	1.8	(48)	基部片と思われる。端は片面を呈す。	細粒輝石安山岩	
第840E PL150	56	打製石 斧	床	欠損	(10.4)	4.6	2.2	(150)	楕形。厚手で側縁部は平らで角張る。反りを持ち、刃部は欠損する。	黒色頁岩	
第840E PL150	57	打製石 斧	覆土	欠損	(7.3)	4.7	1.7	(84)	楕形か。片面に自然面残る。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第840E PL150	58	打製石 斧	覆土	完形	11.1	5.3	1.5	99	片面に大きく自然面。基部がやや折れた形。成形割断は僅かに粗い。	細粒輝石安山岩	
第840E PL150	59	スクレイ パー	覆土	完形	7.3	5.6	1.2	59	片面自然面のハマグリ形剥片利用。下辺部に簡単な刃部作出。	黒色安山岩	
第840E PL150	60	磨石	覆土	完形	11.4	10.1	8.7	1,450	円鏡。表面比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第840E PL150	61	鏡器	覆土	完形	12.8	4.2	3.4	268	棒状鏡。表面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第840E PL150	62	丸石	覆土	完形	7.5	6.9	6.0	449	大型の円鏡。	石英閃緑岩	
第840E PL150	63	磨石	砂	欠損	(10.3)	7.9	4.7	449	やや扁平な鏡。一部欠損。両面使用し浅い凹み穴。端部に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第840E PL150	64	磨石	覆土	完形	13.7	8.2	5.0	923	扁平で楕形の鏡利用。両面を使用面とし、浅い打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第850E PL150	65	鏡器	床	完形	13.4	8.7	4.2	585	角の丸い三角形を呈す鏡。上部に肥厚は見られず。顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第850E PL150	66	鏡器	覆土	完形	10.3	9.7	2.8	452	扁平な円盤状を呈す。顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第850E PL150	67	鏡器	覆土	欠損	(10.7)	5.2	3.9	(330)	棒状鏡。表面平滑。端部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第850E PL150	68	研石	覆土	完形	5.7	5.4	2.8	36	円盤状で厚みあり。研磨成形。両面中央に未貫通の穿孔。未製品か。	研石	
第850E PL150	69	台石	床	欠損	(11.4)	(15.3)	7.4	(2,920)	両面を使用面とする。使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第850E PL150	70	台石	覆土	欠損	(18.3)	(14.6)	7.1	(2,480)	扁平な鏡利用。平滑面有り。被熱。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-5号住居跡(第89~94図: PL151~153)

棟梁番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床高)	① 土 質 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第8900 PL151	1	深鉢 +13 口縁~体部中位 残存 口: PL12	① 粗: 石英・雲母 ② 暗赤褐色	口縁部溝巻状小突起と2条隆線による弧状区画文様成。中位。区画内に沈線と側位沈線を充填する。胴部は縦位沈線と弧状沈線2条を引ける。体部は2条隆線による溝巻状意匠と弧状沈線を配す。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第8900 PL151	2	深鉢 +16 口縁部1/3残存 口: (15.0)	① 粗: 石英・雲母少 ② 暗褐色	弧状突起が強く突出する。1単位が、他は溝巻状小突起を配す。弧状突起両下端には溝巻文を配し、横位弧状隆線と取りを加えた縦位隆線より口縁部を区画する。区画内は、交互斜交文を多段に充填する。隆線側は沈線と斜交文が加わる。体部は縦位短沈線を配す。	中期後葉信州系
第8900 PL151	3	深鉢 +21 体部上半1/2残存	① 粗: 輝石 ② 鈍い黄褐色~灰黄褐色	低位隆線による口縁部区画文。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部縦文はLR縦位充填文。	中期後葉新
第8900 PL151	4	深鉢 +3 口縁~体部中位 1/3残存 口: (25.0)	① 粗: 輝石 ② 鈍い褐色~鈍い赤褐色	薄手の磨消部を旨す。口縁部は無文で、体部は縦位弧状帯が間隔を保ち施される。分帯線は無く、磨消の凹凸が著しい。	後期前葉
第8900 PL151	5	深鉢 腹土	① 粗: 輝石少 ② 褐色	口縁部内溝、隆線による槽状区画文構成。区画内は沈線を側位とし縦位L.R.を施す。	中期後葉古
第8900 PL151	6	深鉢 +30 体部中位~下半 1/3残存	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色	内湾する体部器形。縦位L.R.が器面を覆う。	中期後葉
第8900 PL151	7	深鉢 腹土	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色	内皮沈線による垂下沈線と縦位弧状沈線。縦文は縦位L.R.	中期後葉古
第8900 PL151	8	深鉢 腹土	① 粗: 輝石 ② オリーブ黒色	垂下沈線と縦位弧状沈線による懸垂文構成。縦文は縦位L.R.	中期後葉古
第8900 PL151	9	深鉢 +6 口縁部破片	① 粗: 石英・雲母少 ② 褐色	2条隆線による口縁部区画文。区画内側位は沈線、浅い縦位・斜位平行沈線を充填する。体部は斜位平行沈線・縦位弧状沈線を施す。縦位L.R.と交互とする。	中期後葉新 古段附併行
第8900 PL151	10	深鉢 腹土	① 粗: 石英 ② オリーブ黒色	垂下沈線3条による懸垂文構成か。弧状沈線端も着取される。地文は縦位L.R.	中期後葉古
第8900 PL151	11	深鉢 +16 体部中位破片	① 粗: 輝石 ② 黒褐色	沈線で画された施文部!、逆J字状意匠。磨消部は研磨。施文部は細縦文L.R.充填施文。	後期初葉
第8900 PL151	12	深鉢 腹土	① 粗: 石英多 ② 黒色	2条の沈線で画された磨消部意匠文が配される。施文部は無彫L.R.充填施文。	後期初葉
第8900 PL151	13	深鉢 +4 口縁部破片	① 粗: シャート、石英・輝石 ② 鈍い褐色	弧状隆線か。口縁部沈線2条の間を細かな溝が充填する。下位には2条沈線による弧状意匠が施される。	後期前葉?
第8900 PL151	14	深鉢 +30 口縁部破片	① 粗: 白色粒多 ② 黒褐色	口唇部は尖る・溝巻文と2条隆線による区画文構成。区画内側位は沈線。縦位短沈線を充填する。体部は無文か。凹凸が顕著。	中期後葉信州系
第8900 PL151	15	深鉢 +31 口縁部破片	① 粗: 石英 ② 暗褐色	口縁部は沈線で画された幅状文様帯に交互斜交文を埋める。以下隆線と沈線で画された区画文が配され、斜位短沈線や矢羽短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第8900 PL151	16	深鉢 +29 口縁部破片	① 粗: 石英 ② 暗褐色	弧状隆線による口縁部区画文構成。区画内は上位が幅状文様帯で交互斜交文の充填。下位が斜位短沈線を埋める。体部は縦位弧状沈線が配され斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系 15と同一一体
第8900 PL151	17	深鉢 腹土	① 粗: 雲母多 ② 赤褐色	頸部頭部部に溝巻状小突起を付し弧状・垂下隆線を発生する。側位は斜交文。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第8900 PL151	18	深鉢 腹土	① 粗: 白色粒 ② 黄褐色	口縁部は緩やかに内湾。沈線による同心円状意匠を中核に縦位短沈線や矢羽短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第8900 PL151	19	深鉢 +6 口縁部破片	① 粗: 雲母多 ② 灰褐色	口縁部は強く内湾し無文。頸部頭部部に溝巻状小突起を付し弧状・垂下隆線を発生する。側位は沈線と斜交文。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第9000 PL151	20	深鉢 床	① 粗: 輝石・雲母 ② 黒褐色	あるいは浅鉢小。口縁部は強く開き、胴部で屈折する。頸部隆線を設ける。内外面とも丁寧研磨を施し、赤彩を加える。弧状意匠であろうか。	中期後葉
第9000 PL151	21	深鉢 +17 口縁部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部は強く内湾し無文。胴部には沈線による層状意匠を配す。隆帯には沈線が重なる。	中期後葉信州系 40と同一一体
第9000 PL151	22	浅鉢 腹土	① 粗: 石英・片岩 ② 暗褐色	隆線による頸部三内区画文。区画内側位は沈線。縦位短沈線を充填する。内外面とも丁寧研磨を施す。	中期後葉 40と同一一体
第9000 PL151	23	深鉢 +16 口縁部突起片	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色	段状突起。両下端より2条隆線が弧状に派生し、斜交文を充填する。下端より隆線が垂下する。内外面研磨。	後期初葉
第9000 PL151	24	浅鉢 腹土	① 粗: 石英 ② 明褐色	頸部部に棒状斜交文を加えた隆線を付し、口縁部文様帯は沈線による円形区画文を多段に配す。弧状沈線を充填する。	中期後葉
第9000 PL151	25	深鉢 腹土	① 粗: 石英多・輝石 ② 赤褐色	頸部頭部部より蛇行隆線が懸垂する。地文次に沈線による同心円状意匠が配される。	中期後葉信州系

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図改番号	No	器種・部位・残存 出土位置(体高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第9106 PL151	26	深鉢 +4 体部中位破片	① 粗：石英多 ② 暗褐色	3条の沈線が重なる隆部による大柄渦巻文、下部より隆部が低下する。空白部は弧状短沈線が密に充填される。厚手の器厚で大型の深鉢と思われる。	中期後葉信州系					
第9106 PL151	27	深鉢 +33 体部破片	① 粗：石英多 ② 黒褐色	2条隆線による渦巻文構成。上位に横位沈線、下部に垂下隆線を繋ぐ。空白部は横位沈線で分割され、縦位・斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第9106 PL151	28	深鉢 +23 体部破片	① 粗：石英・雲母多 ② 暗褐色	幅広隆部による蛇行状意匠。側線は沈線・連続円形文。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第9106 PL151	29	深鉢 腹土 体部中位破片	① 粗：石英・雲母多 ② 明褐色	2条隆線による懸垂文構成。側線は沈線とし、空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第9106 PL152	30	深鉢 腹土 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	横位隆線以下踏状隆線による逆U字状意匠を配す。懸垂文構成か。縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第9106 PL152	31	深鉢 +38 体部 中位 2/3 残存	① 粗：石英多 ② 鈍い赤褐色～赤褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は縦位沈線充填後横位沈線を追加区画化する。	中期後葉信州系					
第9106 PL152	32	深鉢 腹土 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 明褐色	沈線による縦位長柄状意匠を配す。上半は斜位、下半は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系					
第9106 PL152	33	深鉢 腹土 体部破片	① 粗：石英多 ② 黄褐色	外反する体部。内位沈線2条による横位波状文か。	中期後葉					
第9110 PL152	34	深鉢 +29 口縁破片	① 粗：石英・輝石少 ② 灰褐色	押圧を加えた口縁部隆線を設ける。口唇部内面は僅かに突出。内外面とも薄な研磨を施す。	後期初葉					
第9110 PL152	35	深鉢 +11 口縁破片	① 粗：白色粒 ② 黒褐色	波状線。屈曲する口縁部に横位沈線2条を施す。頸部は無文。	後期初葉					
第9110 PL152	36	深鉢 +34 口縁破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部横位沈線を設け以下垂下沈線による懸垂文構成を呈す。空白部に弧状沈線を見るが意匠は不明。	後期初葉					
第9110 PL152	37	浅鉢 +20 口縁～体部中位 破片	① 粗：石英 ② 黒褐色	口唇部に面を持ち、体部上半に僅かな湾曲を持たせる。内外面丁寧な研磨を施す。体部外面に黒色付着物。	中期後葉					
第9110 PL152	38	浅鉢 +21 口縁破片	① 細：石英少 ② 鈍い黄褐色	鉢か。無文で体部上半に湾曲を持たせる。内外面研磨を施し外面口縁部に赤彩を加える。	中期後葉					
第9110 PL152	39	鉢？ 腹土 体部破片	① 細：白色粒 ② 黒色	屈曲する体部。横位短沈線3条を施す。内外面丁寧な研磨を加える。	後期前葉					
第9110 PL152	40	浅鉢 +19 体部下半破片	① 粗：石英・片岩 ② 褐色	体部上半に湾曲を持たせる。内外面とも丁寧な研磨を施す。外面中に黒色付着物。	中期後葉					
第9110 PL152	41	深鉢 +18 体部 中位～下半 破片	① 粗：石英 ② 褐色	隆線による縦位波状懸垂文。隆線の起点・屈曲点に凹形粘付文を配す。他は無文。下半に僅かに湾曲する。	後期初葉					
第9110 PL152	42	深鉢 +23 体部破片	① 細：石英・輝石 ② 褐色	内湾する体部器形。横位沈線と斜位沈線上に刻みを入れた貼付文を配す。外面丁寧に研磨を施す。	後期末葉					
第9110 PL152	43	深鉢 +20 体部 中位～底部 1/4 残存 底：8.0	① 粗：輝石・雲母少 ② 明褐色	小型深鉢か。体部 中位で外反し、下半で緩やかに湾曲する。無文で内外後面で調整を施す。	中期後葉					
第9206 PL152	44	浅鉢 +13 体部 下半～底部 1/3 残存 底：(11.0)	① 粗：石英 ② 褐色	体部は緩やかに外反する。内外面とも器面磨減する。	中期後葉					
検出番号 図改番号	No	器種 出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第9206 PL152	45	石 礫 +35	完形	1.6	1.5	0.3	0.4	凹基無茎。狭り浅く薄手の作り。	黒曜石	
第9206 PL152	46	石 礫 +18	完形	1.5	1.4	0.4	0.6	凹基無茎。狭り浅く、やや厚みをもつ。	黒曜石	
第9206 PL152	47	石 礫 腹土	完形 (1.1)	1.3	0.3	(0.2)		平基無茎。ほぼ正三角形の小型器で器底、先端部の判別が難しい。	黒曜石	
第9206 PL152	48	石 礫 腹土	完形	1.4	1.0	0.2	0.2	凹基無茎。小型器で片面肥厚し、先端及び脚端部が失る。左右非対称。	黒曜石	
第9206 PL152	49	石 礫 腹土	欠損	1.4	(1.2)	0.3	(0.4)	凹基無茎。狭りは浅い。厚手の作りで片脚を欠く。	黒曜石	
第9206 PL152	50	石 礫 腹土	欠損 (1.1)	1.8	0.2	(0.5)		凹基無茎。狭り浅い。比較的薄手で、先端部を欠く。	黒曜石	
第9206 PL152	51	石 礫 腹土	欠損 (1.6)	2.1	0.3	(0.9)		凹基無茎。脚が大きく開く。先端部を欠く。	黒曜石	
第9206 PL152	52	石 礫 腹土	欠損 (1.3)	1.9	0.2	(0.7)		凹基無茎。狭り浅く脚も短い。薄手の作り。先端部を欠く。	黒曜石	
第9206 PL152	53	石 礫 腹土	欠損 (1.6)	(1.1)	0.2	(0.3)		凹基無茎。脚が外に張り出す器形か。片脚約半分を欠く。	黒曜石	
第9206 PL152	54	石 礫 腹土	完形 (2.0)	1.4	0.4	(1.0)		未製品か。	黒曜石	
第9206 PL152	55	石 礫 腹土	欠損 (1.8)	0.7	0.5	(0.6)		断面三角の磨片。	黒曜石	
第9206 PL152	56	石 礫 腹土	完形	2.5	1.8	0.6	2.1	つまみ口が大きく器底は短く付く。	黒曜石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構番号	No.	部材	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第929E PL152	57	石	礎土	完形	3.9	1.9	1.0	4.2	つまみ部が大きく、粗い作りで踵部も端部に簡単な調整のみ。	黒曜石	
第929E PL152	58	スクレイパー	礎土	完形	2.5	2.1	0.8	2.8	円形で片面中央が肥厚する。縁部に刃部作出。	黒曜石	
第929E PL153	59	石匙	礎土	完形	4.5	1.9	0.6	4.7	小型の縦型、つまみ部はやや小さく作られ、刃部は木の葉型。	黒色頁岩	
第929E PL153	60	打製石斧	+34	完形	14.9	6.2	2.4	273	扇形、刃部が極端に薄く作られる。片面に大きく自然面残る。	紫蘇舞石普通舞石 石安山岩	
第929E PL153	61	打製石斧	礎土	完形	9.8	4.9	1.5	90	扇形、刃部は円く、器面全体が風化。	黒色安山岩	
第929E PL153	62	打製石斧	床	完形	7.6	4.5	1.7	83	短冊形であるが短い。刃部やや薄くなる。両面に自然面、刃部厚化粧。	細粒舞石安山岩	
第929E PL153	63	打製石斧	+8	欠損	9.4	(5.8)	1.9	(124)	短冊形、刃部片、両面に自然面残り刃部薄化粧。	細粒舞石安山岩	
第929E PL153	64	打製石斧	礎土	完形	8.5	5.3	1.6	98	短冊形であるがやや短い、作りはやや粗い。	黒色安山岩	
第930E PL153	65	打製石斧	+11	欠損	(9.0)	6.0	2.6	(183)	扇形、基部片、厚みを有し片面に大きく自然面残る。	紫蘇舞石普通舞石 石安山岩	
第930E PL153	66	打製石斧	礎土	欠損	4.0	3.4	0.9	15	打製石斧の基部片か。	黒色頁岩	
第930E PL153	67	スクレイパー	+17	完形	6.8	2.8	1.0	17	横長割片利用、直刃で細かな刃部調整見られる。	黒色頁岩	
第930E PL153	68	スクレイパー	+31	完形	6.7	4.1	1.3	54	横長割片利用、刃部は弧状で片面から上縁部に自然面。	黒色安山岩	
第930E PL153	69	スクレイパー	+20	完形	6.9	5.0	1.1	46	長方形を呈し、直線的な一縁線に刃部作出。	黒色頁岩	
第930E PL153	70	スクレイパー	+32	完形	7.5	7.3	1.5	83	扇形の割片利用、粗く刃部作出。	黒色安山岩	
第930E PL153	71	軽石	+20	完形	7.0	6.3	4.3	130	不定形で黒色の火山成織、明瞭な磨り面、打痕等は見られない。	軽石	やや重みあり
第930E PL153	72	磨石	+20	完形	6.7	5.9	3.8	214	小型の扁平織利用、表面は平滑。	粗粒舞石安山岩	
第930E PL153	73	磨石	+23	完形	9.2	6.4	4.7	390	長円織利用、顕著な使用痕、打痕は見られず、被熱か。	紫蘇舞石普通舞石 石安山岩	
第930E PL153	74	砥石	礎土	完形	7.2	6.3	5.8	367	比熱しており全面に厚付着、打痕顕著、大ききわりに重量がある。	安山岩	
第930E PL153	75	磨石	+3	完形	14.6	11.3	9.6	2,290	大型の長円織を利用。	粗粒舞石安山岩	
第930E PL153	76	砥石	+10	完形	8.2	6.9	3.0	264	扁平な円織を利用、表面は数分付着し黒色、縦線に打痕見られる。	石突閃緑岩	
第940E PL153	77	磨石	+33	完形	12.0	10.2	9.6	1,461	やや目の粗い大型の円織利用。	粗粒舞石安山岩	
第940E PL153	78	磨石	炉	欠損	(13.4)	6.7	5.0	(707)	折れた棒状織。表面に若干の打痕、被熱あり。	粗粒舞石安山岩	
第940E PL153	79	軽石	礎土	完形	5.5	5.6	3.5	30	軽石の表面に腐蝕の溝状のすり切り痕見られる。	軽石	
第940E PL153	80	軽石製品	+38	完形	8.6	7.3	6.0	108	不定形な軽石の一面を平らにし中央に凹みを作る、一部ベンガツ痕か。	軽石	
第940E PL153	81	石皿	+7	欠損	(14.0)	(8.6)	3.9	(683)	使用面僅かに凹み極めて平滑、石皿片か。	緑色片岩	
第940E PL153	82	垂れ品	+34	完形	3.5	1.3	0.4	3.1	扁平な半虫形を呈す。上縁部に厚2mm程度の穿孔、片側部からか所の取れ込みを有す。このうち中央の取れ込みはほぼ全周する。	蛇紋岩	

## 95-12号住居跡(第97-101段:PL153-155)

縄文遺構番号	No.	部材・部位・残存	出土位置(床表面高)	① 胎色 ② 胎色	土質	文 様 の 特 徴 等	備 考
第979E PL153	1	深鉢 +4	底部1/4欠損 口:19.8 高:25.6 底:8.2	① 粗:石英・輝石 ② 明黄褐色		口縁部文様帯は2条隆線による溝文と区画文構成。溝文帯は6単位を拡大するが等間隔ではない。区画内筋線は浅直で、縁線上を基す。頸部肩部に区画による長柄円状意匠を連ねる。体部は枕部による割先状意匠文を3単位配し、中位に縦位波状垂れ文を配す。縁位LRを地文とする。体部下半面厚付着。	中期後葉古
第979E PL153	2	深鉢 PH1	突起・体部下欠損 口:19.6	① 粗:石英・雲母多 ② 褐色		突起・体部下半は意匠的な欠損か。突起下は棒状肥手の可能性もある。口唇部に沈線を設け、口縁部は幅広で無文。頸部頸部に3条の沈線を重ね、2単位の双溝状突起と換符文を配す。換符文は体部中位にも割かれ、空白部は縦位矢羽状短直線を充てる。	中期後葉古前
第979E PL153	3	浅鉢 +19	口縁部1/4残存 口:(27.0)	① 粗:石英 ② 褐色		口縁部は肥厚し鋭く内傾する。体部上半に溝面を持たせる。内外面とも丁寧な研磨を施し、内面に赤彩痕が顕著。円形あるいは溝巻状の意匠が配される。	中期後葉
第979E PL153	4	浅鉢 +14	口縁部・体部1/4残存 口:(33.8)	① 粗:石英 ② 暗褐色		口唇部肥厚し、鋭く内傾する。口縁部内面に浅い溝を持つ。内外面丁寧な研磨を施し、口縁部内外面に赤彩痕を見る。口縁部外面には煤が付着する。	中期後葉

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(真高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
						① 土 ② 色					
第979E PL153	5	浅鉢 床 口縁1/4残存 口：(50.0)	① 粗：輝石少 ② 鈍い褐色	あるいは、大型深鉢口縁部が、口縁部内面肥厚し外面は彫文する。内外面丁寧な研磨を施し、赤彩を加える。意匠文の肥厚には至らない。	中期後葉						
第979E PL153	6	深鉢 +13	① 粗：白色粒多・石英大 ② 褐色	2条隆線による口縁部区画文。区内内側縁は沈線。縦位LRを地文とする。	中期後葉古						
第979E PL154	7	深鉢 魔土	① 粗：石英・輝石 ② 褐色・暗褐色	波状縁か、口縁部に内折突文と縦位沈線を設ける。体部は沈線による逆J字状懸垂文と縦手状懸垂文が配される。施文部は縦位RL充満施文。	中期後葉新古 8と同一個体						
第979E PL154	8	深鉢 魔土	① 粗：石英・輝石 ② 褐色・暗褐色	波状縁か、口縁部に内折突文と縦位沈線を設ける。体部は沈線による逆J字状懸垂文と縦手状懸垂文が配される。施文部は縦位RL充満施文。	中期後葉新古						
第979E PL154	9	深鉢 魔土	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	口唇部突り気味。口縁部に横位隆線を設け、縦位刻みを連続する。体部は縦位LRが覆う。	中期後葉古						
第979E PL154	10	浅鉢 魔土	① 粗：石英少 ② 鈍い黄褐色	外面は無文。内面肥厚部に面を持ち、太い沈線2条間に差節しを充満する。	後期初期?						
第979E PL154	11	深鉢 +7	① 細：輝石 ② 鈍い赤褐色	屈曲する頸部。体部上半に隆線による半積状区画文と溝巻文を配す。区内内側縁は沈線。縦位LRを施す。頸部無文及び隆線上に赤彩を加える。	中期後葉古						
第979E PL154	12	深鉢 魔土	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	2条沈線で画された磨治部区画文。施文部はLRLを縦位充満施文。	中期後葉新古						
第979E PL154	13	深鉢 魔土	① 細：輝石 ② 赤褐色	内皮沈線による環状意匠より沈線が垂下する。RL縦位充満施文。	中期後葉最古新?						
第979E PL154	14	深鉢 魔土	① 粗：輝石 ② 赤褐色	懸垂L斜位施文。	中期後葉最古新?						
第979E PL154	15	深鉢 魔土	① 細：石英・輝石 ② 灰青褐色	2条沈線で画された磨治部区画文。施文部はLRLを縦位充満施文。薄手の彫磨。	後期初期						
第980E PL154	16	深鉢 +4	① 粗：石英少・輝石 ② 鈍い赤褐色	体部中位に横位内皮沈線を4条設計。上位には縦位沈線による方形区画文が配される。地文は懸垂L。	中期後葉古						
第980E PL154	17	深鉢 +26	① 粗：石英・雲母多 ② 黒褐色	3条の隆線による懸垂文構成。溝巻文と前立状意匠も配される。空白部は矢羽状沈線を充満する。	中期後葉信州系						
第980E PL154	18	深鉢 +2	① 粗：白色粒多 ② 黒褐色	横位付細隆線を設け、斜位平行沈線と浮線による斜線文を配す。	中期後葉信州系						
第980E PL154	19	深鉢 +20	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	横位付細隆線に溝巻状突起を付し下端より刻みを付する垂下隆線が懸垂する。横位隆線上半斜位沈線と浮線による斜線文。下位は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系						
第980E PL154	20	深鉢 +10	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	縦位沈線を見る。懸垂文構成か。空白部は矢羽状沈線を充満する。施文は沈い。	中期後葉信州系						
第980E PL154	21	深鉢 魔土	① 粗：石英多・輝石 ② 暗褐色	横位隆線の形態で、中位に溝を設ける。上端環状で沈線による溝巻文を施す。両側に隆線を付し沈線が沿う。	中期後葉古						
第980E PL154	22	深鉢 +26	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	横位隆線の下端部を見る。懸垂文構成。	中期後葉信州系						
第980E PL154	23	深鉢 +20	① 粗：石英・雲母 ② 赤褐色	口縁部に付される縦位2条の横状把手。両側に沈線を付し、左右の側面には沈線による溝巻文が施される。	中期後葉信州系						
第980E PL154	24	浅鉢 +13	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部強く内折し、幅広い面を持ち3条の沈線を施す。長積円状の意匠か。内外面とも研磨を施し、赤彩を加える。軟質付帯巻を得る。	中期後葉						
第980E PL154	25	深鉢 魔土	① 粗：石英・雲母多 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。口縁部は幅広い無文部を設ける。	中期後葉信州系						
第980E PL154	26	浅鉢 +8	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	口縁部は肥厚し鋭く内縮する。体部上半に緩やかな湾曲を持たせる。内外面丁寧な研磨。内面赤彩が顕著。	中期後葉						
第980E PL154	27	浅鉢 魔土	① 石英・輝石 ② 暗褐色	口唇部内面大きく肥厚。内外面研磨を施し赤彩を加える。	中期後葉						
第980E PL154	28	浅鉢 床 口縁～体部1/5残存 口：(43.0)	① 粗：白色粒・石英少 ② 赤褐色	大型の浅鉢。口唇部面に面を持ち、内面突出する。頸部が強く屈曲する。内外面丁寧な研磨を加え、入念な赤彩を施す。	中期後葉						
第980E PL154	29	浅鉢 魔土	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部僅かに肥厚する。内外面研磨。赤彩を加える。	中期後葉						
第980E PL154	30	浅鉢 魔土	① 粗：石英 ② 黒褐色	口縁部僅かに肥厚。体部上半に強い湾曲を持たせる。内外面研磨を施し、赤彩を加える。	中期後葉						
第980E PL154	31	浅鉢 床	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	内面に赤彩痕が良好に残る。内外面研磨。	中期後葉						
第980E PL154	32	深鉢 魔土 底部1/3残存 底：(7.0)	① 粗：白色粒多・石英多 ② 褐色	垂下隆線下部を見る。懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈線を充満する。	中期後葉信州系						
検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	高さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第999E PL154	33	石核	魔土	欠損	(1.3)	0.9	0.3	(0.2)	先端部片と思われる。	黒曜石	
第999E PL154	34	石核	魔土	定形	2.6	0.9	0.4	1.3	断面3角の棒状。作りは粗く、欠損品の可能性もある。	黒曜石	
第999E PL154	35	石核	魔土	欠損	3.7	(1.3)	0.4	(1.0)	いわゆるT字型。舞部は長く貫直ぐに作られる。つまみ部片削を欠く。	黒色頁岩	
第999E PL154	36	石核	+19	定形	8.7	4.0	2.9	115.5	やや細長い角柱を呈す。複数面に風化面残る。	黒曜石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第999E PL154	37	石核	+3	定形	7.4	6.8	3.7	162.2	ほぼ五角形を呈し、中央部が肥厚。	黒曜石	
第999E PL155	38	石核	+14	定形	8.3	4.2	2.3	104.9	台形の厚い板状で、両面はほぼ平ら。	黒曜石	
第999E PL155	39	石核	+22	定形	8.7	5.3	2.4	95.5	板状の不正台形を呈す。	黒曜石	
第999E PL155	40	石核	+4	定形	7.0	4.0	2.7	80.8	片側が薄くなる角錐状で、一面に風化面残る。	黒曜石	
第999E PL155	41	石核	+25	定形	10.2	4.1	2.1	87.8	やや細長い紡錘状を呈す。	黒曜石	
第999E PL155	42	石核	+30	定形	6.9	5.4	1.9	80.8	四角形の板状を呈す。	黒曜石	
第999E PL155	43	石核	+14	定形	6.5	5.5	2.5	99.3	ほぼ四角形を呈し、一側縁が刃状に薄くなり、粗い鈹跡が見られる。	黒曜石	
第1000E PL155	44	磨製石 弁	伊	欠損	(8.5)	4.9	3.2	(150)	基部片、縁はやや丸みを持つ。基部部および側縁に弱い打痕有り。	蛇紋岩	
第1000E PL155	45	打製石 弁	伊	定形	10.6	4.2	1.2	59	短冊形、刃部薄く割られている。刃部摩耗。	黒色頁岩	
第1000E PL155	46	打製石 弁	雑土	定形	13.7	5.0	1.6	129	短冊形、刃部僅かに広がりが刃めとなる。	黒色安山岩	
第1000E PL155	47	打製石 弁	+3	ほぼ 定形	10.1	4.3	1.8	99	短冊形、片面に丸みを有す自然面。	黒色安山岩	
第1000E PL155	48	打製石 弁	+15	ほぼ 定形	9.2	4.9	1.3	77	扇形、一面に大きく自然面残る。刃部摩耗、基部部欠損。	黒色頁岩	
第1000E PL155	49	打製石 弁	雑土	欠損	(6.4)	4.2	1.1	(30)	扇形、両側縁部分薄くなる。基部片。	黒色安山岩	
第1000E PL155	50	打製石 弁	雑土	欠損	(6.8)	6.7	2.5	(117)	比較的大型品の基部片と思われる。	黒色安山岩	
第1000E PL155	51	打製石 弁	雑土	欠損	(6.2)	3.5	0.5	(17)	短冊形、かなり薄手に作られる。刃部欠く。	黒色安山岩	
第1000E PL155	52	打製石 弁	雑土	欠損	(3.7)	3.7	0.9	(14)	基部片と見られる。片面に自然面。	黒色頁岩	
第1000E PL155	53	敲石	雑土	欠損	(5.5)	(3.5)	3.8	(81)	棒状鑿の破片。磨製石弁の基部の可能性も、断面は精門形を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第1000E PL155	54	磨石	雑土	定形	6.8	6.3	5.0	292	やや扁平小円鏡利用、両面を使用。	粗粒輝石安山岩	
第1000E PL155	55	凹石	床	定形	13.5	11.0	6.2	1,045	やや扁平な鑿を使用。両面に浅い凹み穴を有し、磨石としても利用可。	粗粒輝石安山岩	
第1000E PL155	56	磨石	雑土	欠損	(9.3)	(5.9)	3.7	(233)	長円鏡利用。欠損品。塚付着。	粗粒輝石安山岩	
第1018E PL155	57	磨石	+22	定形	16.3	8.2	4.6	975	扁平な長円鏡、両面使用面とし側縁、両端部に打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第1018E PL155	58	磨石	+18	ほぼ 定形	22.3	8.5	6.5	1,613	やや大型の棒状鑿、端部、側縁に若干の打痕、被熱有。	粗粒輝石安山岩	
第1018E PL155	59	丸石	+4	定形	27.9	26.8	22.3	23,60	大型の円鏡。	粗粒輝石安山岩	

第13号住居跡(第105～112区; PL155～158)

検出番号 図説番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第1050E PL155	1	深鉢 +3 頸部1/3・体部破片多数 重:38.0	① 粗:石英多・輝石 ② 鈍い赤褐色～褐色	頸部は半楕円状隆起により画される。頸位隆起部を付し斜位隆起と浮線による斜格子文を配す。体部は胎みを付す半下隆起と縦位隆起による懸垂文構成。空白部は斜位隆起を充填する。	中期後葉信州系
第1050E PL155	2	深鉢 +4 口縁1/6・体部上半残存 口(22.0)	① 粗:白色粒多・石英 ② 明赤褐色	口縁部は無文。頸部に横位隆起を付し、斜位隆起と斜位浮線による斜格子文を配す。2条の縦位隆起以下体部は胎みを付す半下隆起5単位による懸垂文構成。空白部は縦位平行隆起を充填する。	中期後葉信州系
第1050E PL156	3	深鉢 +40 口縁部破片	① 粗:石英・片岩 ② 暗褐色	液状突起頂部に滴垂文を施す。頂部より派生した隆起が頸部滴垂文に繋ぐ。口縁部区画文は2条隆起で画され、沈線を側縁とし横位LRを充填する。頸部は無文。	中期後葉古
第1050E PL156	4	深鉢 +46 口縁部破片	① 粗:白色粒多・輝石 ② 褐色	やや大型の滴垂状突起を上方に付す。2条隆起が派生し口縁部区画文を構成する。区内には沈線を側縁とする。地文は縦位・斜位LRで突起貼付前施文を呈す。	中期後葉古
第1050E PL156	5	深鉢 +16 口縁部破片	① 粗:石英・雲母少 ② 暗褐色	2条隆起による滴垂文帯を頸部に付す。口縁部区画内は沈線を側縁とし横位LRを充填する。	中期後葉古
第1050E PL156	6	深鉢 雑土 口縁部破片	① 粗:石英・雲母 ② 暗褐色	隆起による口縁部区画文。区内側縁は沈線・斜位LRを地文とする。	中期後葉古
第1050E PL156	7	深鉢 伊 口縁部破片	① 粗:白色粒 ② 明褐色	口縁部隆起を設け、鋭い斜突文を施す。体部は斜位LRを施す。	後期前葉

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 調査番号	No	部種・部位・残存 出土位置(採出面)	① 土質 ② 土色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第10506 PL156	8	深鉢 +3 口縁部突起	① 粗:石英・輝石 ② 暗赤褐色	小型の横状把手と一体化した柱状突起。内面中央に孔を穿ち、隆縁による内縁を付す。口唇部に沈線・突起上縁、把手両側面に渦巻文を配す。体部は縦位LRを施す。	中期後葉東北系
第10508 PL156	9	深鉢 +33 口縁部破片	① 粗:石英 ② 暗褐色	2条隆縁による口縁部区画構成。区画内側縁は沈線。地文は縦位LR。	中期後葉古
第10508 PL156	10	深鉢 +30 体部破片	① 粗:石英・輝石 ② 明褐色	2条の垂下沈線と平行沈線による懸垂文構成。地文は縦位LR。	中期後葉古
第10508 PL156	11	深鉢 腹土 体部破片	① 粗:石英少 ② 赤褐色	縦位平行沈線による懸垂文構成。地文は縦位LR。	中期後葉古
第10508 PL156	12	深鉢 +10 体部中位破片	① 粗:白色粒 ② 鈍い黄褐色	隆縁による渦巻状突起下縁より2条隆縁が懸垂する。沈線による渦巻文も施される。地文は縦位LR。	中期後葉古
第10606 PL156	13	深鉢 +31 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	小型深鉢は、隆縁による渦巻文と区画構成。区画内側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。	中期後葉古 14と同一個体
第10606 PL156	14	深鉢 +31 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部屈曲気味に立つ。隆縁による渦巻文と区画文構成。幅狭区画内側縁には、縦位短沈線を充填する。	中期後葉古
第10606 PL156	15	深鉢 +10 口縁部 1/4 残存 (口:23.2)	① 粗:石英・輝石・雲母少 ② 暗赤褐色	隆縁は外反し、口縁部に横位隆縁と沈線を設け円形斜突文を重ねる。胴部は広く無文。	中期後葉信州系
第10606 PL156	16	深鉢 +57 口縁部破片	① 粗:石英 ② 黒褐色	口唇部欠損。3条の横位隆縁を設け、渦巻状突起を付す。体部は縦手状沈線による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第10606 PL156	17	深鉢 +23 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口唇部内反し、無文の口縁部を広く設ける。胴部に横位短沈線を設け、以下斜位沈線と浮線による斜位短沈線を配す。	中期後葉信州系
第10606 PL156	18	深鉢 +34 口縁部破片	① 粗:白色粒 ② 褐色	幅狭の口縁部区画。2条隆縁で画され、側縁破片を施すのみである。胴部は無文。	中期後葉古
第10606 PL156	19	深鉢 腹土 口縁部破片	① 粗:石英 ② 鈍い赤褐色	突出する口縁部突起。隆縁による渦巻文を配す。隆縁による内縁も付す。	中期後葉古
第10606 PL156	20	浅鉢 腹土 頸部破片	① 粗:石英 ② 黒褐色	頸部隆縁上位に沈線による区画文を配す。区画内は縦か横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第10606 PL156	21	浅鉢 床 口唇部破片	① 粗:石英大 ② 褐色	頸部隆縁突出。縦位隆縁による横状突起と区画文を多段に配す。横状意匠下縁は3条の短沈線を垂下する。胴部隆縁及び区画内は菊か状の短沈線を施す。	中期後葉信州系
第10606 PL156	22	深鉢 +26 口縁部破片	① 粗:石英大多 ② 黒褐色	2条隆縁による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内は斜位短沈線を充填する。地文は深い。	中期後葉古
第10606 PL156	23	深鉢 +18 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部直下に横状突起を付し、3条の隆縁を横位・縦位に派生させる。横位条線を地文とする。	中期後葉古
第10606 PL156	24	深鉢 +9 口縁部把手	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部突起より縦位に配された3連の把手。内面中央に孔を配す。把手縁辺、口唇部に沈線が沿う。	中期後葉信州系
第10606 PL156	25	深鉢 +43 口縁部突起	① 粗:石英多・輝石 ② 褐色	横状把手を下縁に配した横状突起。突起、把手縁側に沈線による渦巻文を配す。内面に隆縁による内縁を付す。	中期後葉東北系
第10606 PL156	26	深鉢 腹土 口縁部突起	① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色	外面四角孔。内面中央孔を設けた中空突起。各孔を隆縁が縁取り、渦巻状沈線が垂なる。内面も渦巻文が施される。	中期後葉信州系
第10606 PL156	27	深鉢 +32 口縁部突起	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	横状把手を下縁に配した横状突起。内面中央に孔を配す。突起縁側に把手下縁、などに沈線による渦巻文。内面に縦手状沈線を施す。体部は縦位隆縁上縁を見る。地文は縦位・斜位LR。	中期後葉東北系
第10606 PL156	28	浅鉢 +42 口唇部破片	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	頸部屈曲部に隆縁による大柄の渦巻状突起を配し、太い沈線が垂なる。突起上面と内面に赤彩を加える。内面赤彩は縦位短沈線。	中期後葉
第10606 PL156	29	深鉢 +8 口縁部突起	① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色	横状の突起で中央に孔を配す。上縁は隆縁による渦巻文と平行文が付する。	中期後葉信州系
第10706 PL156	30	深鉢 +3 口縁部破片	① 粗:輝石 ② 褐色	幅狭の口縁部区画文。2条隆縁による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。	中期後葉古
第10706 PL157	31	深鉢 床 体部上半破片	① 粗:輝石 ② 鈍い赤褐色	横位隆縁を配し、隆縁による渦巻文下縁より2条隆縁が懸垂する。弧状意匠も配される。隆縁間には菊か文を加える。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第10706 PL157	32	深鉢 +27 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	波頂部欠損。波底部に弧状・渦巻状の突起を設ける。波頂部より2条隆縁が垂下し、口縁部を画す。区画内は沈線を前後し縦位短沈線を充填する。胴部は広く無文。	中期後葉信州系
第10706 PL157	33	深鉢 01 体部上半破片	① 粗:石英・雲母多 ② 明褐色	2条隆縁による懸垂文構成。隆縁上側縁縁線から斜位短沈線が施される。沈線を前後し空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第10706 PL157	34	深鉢 +14 体部破片	① 粗:輝石 ② 赤褐色	2条隆縁による斜位短沈線下縁より隆縁が懸垂する。斜位短沈線には菊か文を加える。空白部は縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第10706 PL157	35	深鉢 +18 体部上半破片	① 粗:石英・雲母多 ② 赤褐色	2条隆縁以下渦巻文を配し、下縁より垂下隆縁が派生する。空白部は縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第10706 PL157	36	深鉢 +19 体部破片	① 粗:石英 ② 赤褐色	2条隆縁による懸垂文構成と渦巻状意匠。空白部は斜位平行沈線を充填する。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 調査番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 質		文 様 の 特 徴 等	備 考					
			① 胎色	② 土質							
第1070E PL-157	37	深鉢 床	口縁部破片	① 粗:石英 ② 明赤褐色	2条の横位隆線で作られた文様帯内に隆線による渦巻文を配す。斜位短沈線を充填し2条隆線間は斜位文を施す。	中期後葉信州系					
第1070E PL-157	38	深鉢 腹土	体部破片	① 粗:石英 ② 褐色	縦位短沈線による懸垂文構成。地文は縦位沈線。	中期後葉信州系					
第1070E PL-157	39	深鉢 +40	体部上半破片	① 粗:石英多・輝石 ② 赤褐色	横位短沈線と2条隆線間に挟まれた文様帯内に斜位沈線と斜位浮線による斜斜字文が埋める。以下縦位平行沈線が施される。	中期後葉信州系					
第1070E PL-157	40	深鉢 +17	体部上半破片	① 粗:石英 ② 赤褐色	頸部外反。横位隆線以下2条隆線間による弧状区画が配され下端より隆線が垂下する。側縁は無く縦位短沈線を密に充填する。内面厚付き。	中期後葉信州系					
第1070E PL-157	41	深鉢 腹土	体部破片	① 粗:石英・雲母 ② 鈍い褐色	縦位沈線間に精削状意匠を配す。縦か矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第1070E PL-157	42	深鉢 +13	体部破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	縦位短沈線による懸垂文構成。縄文は縦位L状を施す。	中期後葉古					
第1070E PL-157	43	深鉢 +26	体部下半~底部 1/2残存 底:8.0	① 細:白色粒 ② 褐色	2条隆線による懸垂文構成。隆線間には斜位文を重ねる。空白部は2条隆線により3分割され、縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第1070E PL-157	44	浅鉢 +25	口縁~底部1/2 残存 口:45.0 高:16.2 底:8.8	① 細:白色粒 ② 褐色	大型の浅鉢。口縁部は肥厚し、体部上半に湾曲を持つ。体部が強く固く、身浅の印痕を得る。内外面とも丁寧な横位磨研を施し、赤彩を加える。内外面とも弧状意匠を基調とした模様を見る。口唇部の赤彩意匠は良好である。	中期後葉					
第1080E PL-157	45	浅鉢 唇	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部肥厚し強く固く、体部上半に湾曲を持つ。内外面磨研後赤彩。赤彩意匠は不明。	中期後葉					
第1080E PL-157	46	浅鉢 +26	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部肥厚。体部上半に湾曲を持つ。内外面磨研後赤彩。赤彩意匠は内面波状か。	中期後葉					
第1080E PL-157	47	浅鉢 +12	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い褐色	口縁部肥厚し直立気味。体部上半に湾曲を持つ。内外面磨研後赤彩。赤彩意匠は不明。	中期後葉					
第1080E PL-157	48	浅鉢 +14	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 黒灰色	口縁部は強く肥厚し、体部上半に湾曲を持たない。内外面磨研。赤彩は内外面に見られ、内面が顕著。弧状ないしは渦巻彩の意匠か。	中期後葉					
第1080E PL-157	49	深鉢 +31	口縁部1/4残存 口:(25.0)	① 粗:石英多・輝石 ② 暗褐色	口唇部に横位隆線と沈線を設け、口縁部に縦位平行沈線2条をスリット状に配す。4単位か、頸部隆線を付す。	中期後葉信州系					
第1080E PL-157	50	深鉢 床	口縁部破片	① 粗:石英 ② 明褐色	口唇部内屈し、無文の口縁部を広く設ける。器面薄。	中期後葉信州系					
第1080E PL-157	51	深鉢 +40	口縁部破片	① 細:白色粒 ② 黒褐色	口縁部横位隆線と沈線を設ける。以下は無文。	中期後葉信州系					
第1080E PL-157	52	深鉢 腹土	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	口唇部に横位隆線を付す。以下は無文。	中期後葉信州系					
第1080E PL-157	53	深鉢 +24	口唇部破片	① 粗:白色粒 ② 黒褐色	頸部外反。下端の2条隆線による精削状意匠。接点か突起となる。	中期後葉信州系					
縄文遺物 調査番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第1090E PL-157	54	石 器	腹土	欠損	3.4	(1.8)	0.3	(1.8)	凹基無蓋。やや大型の縁で頸部部分を欠く。	黒色安山岩	
第1090E PL-157	55	石 器	床	完形	2.8	0.8	0.4	0.8	有蓋。楕円形。	輝石	
第1090E PL-157	56	石 器	腹土	完形	3.2	1.3	0.9	3.2	断面三角の紡錘形を呈す。太めで作りは粗い。	輝石	
第1090E PL-157	57	打製石 斧	+14	完形	18.5	7.5	2.8	523	基部および片側縁に自然面残り未調整である。未製品か。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第1090E PL-158	58	打製石 斧	腹土	完形	11.7	5.6	2.4	232	厚手で片面に大きく自然面残り片側縁のみ調整。未製品と思われる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第1090E PL-158	59	打製石 斧	床	完形	10.9	4.5	1.2	70	磨研。全体に薄手であるが、刃部は極めて薄くなる。	黒色安山岩	
第1090E PL-158	60	打製石 斧	+20	完形	8.8	4.6	1.1	66	磨研。小型品で全体に薄手である。刃部は円く磨削している。	細粒輝石安山岩	
第1090E PL-158	61	打製石 斧	+39	完形	10.6	5.8	2.7	135	磨研。基部は厚く作られ、横位の刃部は薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第1090E PL-158	62	打製石 斧	腹土	完形	8.2	4.9	0.9	38	薄手で、粗い作り。	黒色安山岩	
第1090E PL-158	63	打製石 斧	+20	欠損	(8.0)	5.0	2.7	(117)	片側が肥厚した刃部片。全体に粗い作りである。	黒色安山岩	
第1090E PL-158	64	打製石 斧	腹土	欠損	(9.2)	5.0	1.6	(76)	磨研。基部を欠く。刃部は斜めで磨削見られる。	黒色安山岩	
第1090E PL-158	65	打製石 斧	腹土	欠損	(6.4)	5.6	2.8	(129)	厚手で粗い作りの刃部片。	黒色安山岩	
第1090E PL-158	66	スクレイパー	腹土	完形	8.2	4.0	1.4	42	一端が狭く横長削の下縁に刃部を付し。	黒色安山岩	
第1090E PL-158	67	打製石 斧	+43	欠損	(11.3)	5.3	2.9	(200)	角柱状の石材利用。側縁部に若干の調整見られる。刃部欠く。鋭熱。	細粒輝石安山岩	
第1100E PL-158	68	打製石 斧	腹土	欠損	(8.4)	6.3	2.5	(183)	やや大型の磨研。基部片で端部が角変る。	黒色安山岩	



## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第1109E PL-158	69	打製石 斧	覆土	欠損	(6.5)	5.5	2.4	(97)	やや粗い作りの基部片。	黒色安山岩	
第1109E PL-158	70	打製石 斧	覆土	欠損	(7.2)	4.6	1.1	(41)	薄手の基部片、片面に大きく自然面残す。	緑輝石貫通輝 石安山岩	
第1109E PL-158	71	打製石 斧	覆土	欠損	(5.8)	4.5	1.6	(58)	基部片。	黒色安山岩	
第1109E PL-158	72	打製石 斧	覆土	欠損	(6.5)	4.5	1.6	(70)	片面に自然面残す。基部片と見られるが、刃部の可能性もある。	粗粒輝石安山岩	
第1109E PL-158	73	スクレイ パー	覆土	定形	6.5	4.7	1.3	47	半月状を呈し下縁に粗く刃部作部。片面に自然面。	黒色安山岩	
第1109E PL-158	74	磨石	+5	定形	12.3	6.2	3.8	471	扁平な長円鏝。使用面平面で一部に打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第1109E PL-158	75	磨石	床	定形	(8.5)	4.2	2.5	(151)	小型長円鏝利用。表裏の平坦面を使用面とし、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第1109E PL-158	76	磨石	+10	定形	10.4	6.1	4.1	381	長円鏝利用。表裏の平坦面を使用面とする。被熱。	石英閃緑岩	
第1109E PL-158	77	凹石	床	定形	12.8	8.0	4.2	537	なすび形の鏝の両面に浅い複数の凹みが見られる。燻(炭分)が付着。	不明	
第1109E PL-158	78	砥石	床	定形	21.5	7.0	5.1	1,522	角柱状の棒状鏝。やや内反する面を使用面とする。使用面は極めて平滑。	粗粒輝石安山岩	
第1109E PL-158	79	磨石	床	定形	17.0	8.1	4.2	852	やや細長い不定形の鏝。端部に打痕見られる。	石英閃緑岩	
第1109E PL-158	80	磨石	+3	定形	17.6	5.0	4.0	659	角棒状鏝。明瞭な使用痕は認められず。表面炭分の付着が。	安山岩	
第1110E PL-158	81	凹石	覆土	欠損	9.4	8.4	6.1	782	角鏝。平坦な面を使用面とし、浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第1110E PL-158	82	砥石	砂内	定形	11.7	7.0	4.0	518	U字型の扁平鏝。下端平坦部分及び片側鏝部を焼き面として使用が。	流紋岩	砂石に転用
第1110E PL-158	83	磨石	覆土	欠損	(4.8)	7.4	5.4	(260)	円鏝利用使用面は平滑で浅い凹みが見られる。欠損品。被熱あり。	粗粒輝石安山岩	
第1110E PL-158	84	磨石	+31	欠損	(4.6)	8.9	5.2	(326)	扁平な円鏝。両面使用面とする。被熱。欠損品。	粗粒輝石安山岩	
第1110E PL-158	85	磨石	覆土	欠損	(7.3)	5.5	4.3	(257)	断面形状を呈す。表裏の平坦面を使用面とし、浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第1110E PL-158	86	台石	+42	欠損	(14.5)	(9.5)	(2.7)	(362)	やや大きな扁平鏝。平らな面を使用。破損品で被熱あり。	粗粒輝石安山岩	
第1110E PL-158	87	台石	砂	定形	22.6	20.9	6.3	4,355	やや扁平な円鏝。平坦な両面使用。浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	砂石に転用
第1120E PL-158	88	丸石	床	定形	40.2	23.9	17.1	25,400	卵形の大形鏝。片面に使用による平滑面が認められる。	粗粒輝石安山岩	
第1120E PL-158	89	石皿	砂	欠損	(21.0)	(13.9)	8.6	(4,520)	大型品。手前側部分の欠損品。	粗粒輝石安山岩	砂石に転用

## 95-14号住居跡(第117~121区: PL-159~161)

検出番号 図説番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床・面高)	① 胎色 ② 土質	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第1170E PL-159	1	深鉢 +39	口縁~体部上半 残存 H: 25.0	① 粗: 輝石 ② 黒褐色	底状突起4単位。底部下に沈線による渦巻文を配し、下部を横位気状沈線が繋ぐ。体部は2条沈線による方形気状文と縦手状沈線を配す。地文は縦位L状。	中期後葉古
第1170E PL-159	2	深鉢(破) +12	口縁部小破片・ 体部1/4残存 H: (15.0)	① 粗: 輝石 ② 黄灰色	口縁部片は接合していない。口縁部は外反し無文。上部は強く膨らみ小型の横位把手を4単位配す。体部施文は沈線で、逆U字状意匠による懸垂文構成を主に渦巻文と縦手状沈線を配す。横文は縦位R1充填施文。	中期後葉新
第1170E PL-159	3	深鉢 砂	体部のみ残存	① 粗: 石英・雲母多 ② 鈍い黄褐色~黒褐色	体部上半に渦巻状突起と縦位状突起を2単位設け横位気状2条を繋ぐ。縦線間に凸形刺突文を施す。体部は沈線による施文で、渦巻文や斜位意匠を配し、下半は垂下沈線による懸垂文構成で縦位気状沈線を充填する。	中期後葉信州系
第1170E PL-159	4	深鉢 +22	口縁~体部上半 残存 H: 19.0	① 粗: 石英・輝石 ② 暗赤褐色	小型深鉢。欠損するが口縁突起1単位を配す。突起下に隆線による渦巻文を配し2条隆線が懸垂し体部を2単位に分割する。空白部は沈線による施文・渦巻文と垂下沈線が配される。頸部隆線の頸線に凸形刺突文を施す。地文は縦位L状。	中期後葉信州系
第1170E PL-159	5	深鉢 +25	体部下半1/2 残存	① 粗: 石英 ② 赤褐色~鈍い赤褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。1・2単位。垂下沈線2条も分割線とすると4単位。沈線による横位気状意匠。逆U字状意匠を前後に配す。地文は横位L1縦位施文。	中期後葉古
第1170E PL-159	6	深鉢 +26	口縁部~体部上半 破片	① 粗: 石英・雲母 ② 褐色	低位隆線による口縁部渦巻文と横位気状文構成。口縁部は無印L1縦位充填施文。体部はR1縦位充填施文。	中期後葉新
第1170E PL-159	7	深鉢 +26	口縁部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色~黒褐色	低位隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内頸線は沈線。縦位R1を施す。	中期後葉新

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第11704 PL159	8	深鉢 +36 口縁部破片	① 黒 ② 鈍い黄褐色～黒褐色	底状隆起。低位隆起による口縁部半円状区画文構成。頸部には溝状文が、体部は2条隆起による面状の磨消部磨文構成。縄文は縦位RL充填施文。	中期後葉新						
第11706 PL159	9	深鉢 +9 口縁部突起	① 黒 ② 赤褐色	底状突起。底頂下に隆起による溝状文を配す。胴縁は幅広い沈線で縦位RLを充填施文とする。	中期後葉新						
第11706 PL159	10	深鉢 +22 口縁部破片	① 黒・石黄少・雲母少 ② 黒褐色	隆起による口縁部区画文構成。区内内・隆起部には幅広い沈線。体部は2条沈線による磨消部磨文構成。口縁部は横位RL充填施文。	中期後葉新						
第11706 PL159	11	深鉢 K-34 口縁～体部上半 1/4残存	① 黒・石黄 ② 褐色	底状隆起。低位隆起による口縁部溝状文と半円状区画文構成。下部の分帯部には不明確。体部は2条沈線による磨消部磨文構成。縄文はRL縦位充填施文。	中期後葉新						
第11848 PL159	12	深鉢 +16 口縁部破片	① 黒 ② 黒褐色	2条隆起による口縁部区画文と溝状文構成。区内内は斜位短沈線を充満する。体部は2条沈線による乾行磨文が、地文は無施し縦位施文。	中期後葉古						
第11848 PL159	13	深鉢 +17 口縁部破片	① 黒・石黄・雲母 ② 灰黄褐色	隆起による口縁部区画文構成。口唇部に凹線を設ける。区内内凹線は沈線。無施しを縦位施文とする。	中期後葉新						
第11848 PL159	14	深鉢 +36 口唇部破片	① 黒・石黄・輝石 ② 鈍い黄褐色	隆起による口縁部溝状文。胴縁は横位。横位凹線以下体部は2条沈線による磨消部磨文構成。口縁部横位。体部縦位RL充填施文。	中期後葉新						
第11848 PL159	15	深鉢 +26 体部破片	① 黒 ② 鈍い赤褐色	2条の弧状沈線間より十字状凹線を円形刺突文が充填される。斜位・縦位RL充填施文。	中期後葉新						
第11848 PL159	16	深鉢 +33 頸部～体部上半 破片	① 黒 ② 鈍い赤褐色	頸部外反し無文。体部上半に円形刺突文を重ねた横位隆起を設け以下隆起による半円状区画文を横位に連続する。区内内凹線は横位。横位RLを充満する。	中期後葉新						
第11848 PL159	17	深鉢～体部上半 平破片	① 黒・石黄・輝石 ② 鈍い褐色	底状線か、口唇部は隆起で囲まれる。頸部は無文で外反する。体部は横位沈線2条間を円形刺突文で連続し、以下隆起による十字状凹線と弧状沈線が配される。RL縦位充填施文。	中期後葉新						
第11848 PL159	18	深鉢 +36 頸部破片	① 黒 ② 褐色	隆起による分帯。上位は口縁部区画文か、沈線を胴縁とし横位短沈線を充満する。体部は縦位底状沈線による磨文構成。地文は斜位LR。	中期後葉古						
第11848 PL159	19	深鉢 +13 頸部～体部上半 破片	① 黒・石黄 ② 明赤褐色～鈍い赤褐色	体部上半に2条の横位隆起を配し、以下横位密接条線を施す。	中期後葉新						
第11848 PL159	20	深鉢 +13 口唇部～体部上半 平破片	① 黒・石黄・片青 ② 明赤褐色	幅広い隆起による口縁部区画文構成。胴縁は沈線で区内内には横位LRを充満する。体部は縦位密接条線を施す。	中期後葉新						
第11848 PL159	21	深鉢 床 頸部破片	① 黒・石黄・輝石 ② 褐色～鈍い赤褐色	低位隆起による分帯。上位は口縁部区画文か、沈線を胴縁とし弧状沈線・条線を施す。体部は2条沈線による磨消部磨文構成。施文は縦位密接条線を施す。	中期後葉新?						
第11848 PL159	22	深鉢 +17 口縁部破片	① 黒・石黄 ② 鈍い黄褐色	狭く深く口縁部。口唇部に2条の横位隆起を付し、以下横位沈線施文後、横位沈線を重ね多段区画の印象を与える。口唇部内面は隆起部付により突出する。	中期後葉信州系						
第11848 PL160	23	深鉢 +17 口縁～体部上半 1/4残存	① 黒・石黄・輝石・雲母 ② 黒褐色	隆起による口縁部半円状区画文構成。区内内凹線は斜位短沈線を充満する。頸部は外反し無文。	中期後葉信州系						
第11848 PL160	24	深鉢 +41 口縁部突起	① 黒・石黄 ② 赤褐色	上端溝文を付し3方角の構状把手を付す中空突起。下端より細隆起が発生する。溝状突起状と把手の欠損著しい。	中期後葉信州系?						
第11848 PL160	25	深鉢 +36 注口土器 外	① 黒・石黄・輝石 ② 暗褐色	外反する無文の口縁部。径38cm前後か。頸部屈曲は緩やか。	中期後葉信州系						
第11848 PL160	26	注口土器 内	① 黒 ② 鈍い黄褐色	外面に磨かれた。先端部欠損し、基部近くの内面も磨き剥落する。	後期前葉新						
第11848 PL160	27	ミニチュア 深鉢 底:4.0 底:17	① 黒 ② 褐色	体部無文。底面に環状の凹みを設けるため中央部が僅かに突出。内面に黒色付着物。あるいは漆か。	中期後葉						
第11848 PL160	28	鉢 +22 底部1/3残存 底:(6.0)	① 黒 ② 鈍い赤褐色～黒褐色	縁や口に両面する体部平。外面は横位。内面は丁寧な縦位磨を施す。底面器厚薄。	後期前葉新						
第11848 PL160	29	ミニチュア 器 底部1/2残存 底:4.5	① 黒 ② 鈍い褐色	径1.0cm程の孔を胴部中に穿つ。おそらく4単位か。不揃いな縦位沈線を施す。	中期後葉信州系か						
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第11904 PL160	30	石罐	覆土	完形	(2.5)	1.4	0.6	(1.6)	凸基無蓋。木の葉形を呈し基部に厚みがある。	黒曜石	
第11904 PL160	31	石罐	覆土	欠損	(1.6)	1.3	0.4	(0.6)	平基無蓋。比較的薄手の作り。先端部分を欠く。	柱貫 貫貫岩(流紋岩貫貫岩)	
第11904 PL160	32	石罐	覆土	完形	1.7	0.5	0.3	0.2	有葉形。小型。縁の部分は小さく、茎が長く作られる。		
第11904 PL160	33	石罐	覆土	完形	2.8	0.7	0.4	0.6	基部が大きく先端部が細く尖った棒状部。	黒曜石	
第11904 PL160	34	石罐	覆土	欠損	(3.2)	1.9	0.6	(4.1)	やや扁平な縦長筒形。つまみ部やや広がり頸部先端を欠損か。	黒色安山岩	
第11904 PL160	35	打製石 斧		ほぼ 完形	11.2	7.0	1.8	154	扇形。刃部は広く凹むが、左右非対称。片面に大きく自然面残す。	黒色安山岩	
第11904 PL160	36	打製石 斧		完形	(9.3)	5.9	1.5	(100)	扇形。刃部は広く円形見られる。	黒曜石	
第11904 PL160	37	スクレイパー		+21 欠損	(8.4)	4.9	1.5	(56)	約難した刃部片。	黒色安山岩	

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	器種	出土位置 残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第119図 PL160	38	打製石 斧	覆土	欠損	(4.3)	5.5	1.4	(44)	刃部片。両面に自然面。	粗粒輝石安山岩
第119図 PL160	39	打製石 斧	+3	欠損	(6.6)	4.1	1.4	(45)	磨石の基部片か。側縁片側は未調整で厚くなる。	黒色頁岩
第119図 PL160	40	打製石 斧	+13	欠損	(9.2)	5.3	2.2	(132)	短冊形。基部やや薄く作られる。刃部欠く。	黒色安山岩
第119図 PL160	41	打製石 斧	覆土	欠損	(9.6)	5.1	1.8	(104)	短冊形。両側縁に浅く抉れが見られる。	粗粒輝石安山岩
第119図 PL160	42	打製石 斧	+3	欠損	(6.0)	4.4	1.6	(60)	短冊形の基部片か。	黒色安山岩
第119図 PL160	43	打製石 斧	+17	欠損	(4.2)	3.7	1.5	(56)	基部片。	黒色頁岩
第119図 PL160	44	打製石 斧	覆土	欠損	(3.1)	4.3	1.0	(18)	基部片。	粗粒輝石安山岩
第119図 PL160	45	磨製石 斧	床	欠損	9.1	3.2	1.6	66	磨製石斧基部側面部の破損品と見られる。側縁に調整痕。再利用品か。	蛇紋岩
第119図 PL160	46	スレイ バー	覆土	完形	8.1	5.2	1.5	67	なすび形の剥片利用。一側縁に浅い刃部を作出。	黒色安山岩
第119図 PL160	47	磨石	覆土	完形	5.8	3.9	2.7	88	小円錐利用。	粗粒輝石安山岩
第119図 PL160	48	磨石	覆土	完形	6.3	3.1	3.7	162	小円錐利用。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	49	磨石	+8	完形	12.0	6.6	3.9	548	扁平な俵型。2面使用し片面は平坦でもう片面はやや膨らみ有り平滑。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	50	磨石	+19	完形	12.5	7.5	6.6	960	俵型の縄。端部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	51	磨石	+6	完形	6.8	6.3	3.2	206	扁平な円錐。両面に使用面。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	52	凹石	+13	完形	11.2	8.3	5.7	774	両面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	53	磨石	+7	完形	11.0	7.6	5.0	568	やや扁平な長円錐。両面使用面。浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	54	磨石	Pr5	完形	7.6	5.6	3.0	168	小型扁平錐。被熱。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	55	磨石	+13	完形	11.0	9.8	9.0	1469	やや大型の円錐。比較的平坦な部分を使用か。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	56	凹石	覆土	欠損	(7.0)	5.7	3.4	(179)	扁平な長円錐。両面に複数の凹みが見られる。端部には打痕。	粗粒輝石安山岩
第120図 PL160	57	磨石	砂	欠損	(11.3)	6.4	4.0	(473)	扁平な棒状錐。端部に打痕。表面に鉄分沈着層。欠損品。	不明
第121図 PL160	58	磨石	覆土	欠損	(7.9)	(8.2)	5.2	(415)	やや扁平な錐利用。両面使用面。極めて平滑である。	安山岩
第121図 PL160	59	台石	+26	欠損	16.5	8.9	3.2	738	扁平錐利用。使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩
第121図 PL161	60	丸石	+15	完形	24.0	16.0	13.9	7300	大型の長円錐。	粗粒輝石安山岩
第121図 PL161	61	台石	+4	完形	15.0	9.4	3.5	969	板状の川原石。表面の平坦面利用。	粗粒輝石安山岩
第121図 PL161	62	台石	床	完形	22.0	17.1	7.9	4850	やや扁平な不定形を呈す。両面使用面とし。平滑。	粗粒輝石安山岩
第121図 PL161	63	丸石	+5	完形	27.2	21.2	17.4	14900	大型の円錐。	黒色安山岩
第121図 PL161	64	解石製 器	覆土	完形	3.4	3.3	1.0	3	板状で台形を呈す。欠損品か。	解石

## 95-15号住居跡(第125~132図: PL161~165)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色	文 種 の 特 徴 等	備 考	
第125図 PL161	1	深鉢 覆土	口縁~体部中位 1/3残存 口: (29.0)	① 粗: 解石 ② 黒褐色	縄やかな波状線。あるいは5単位か。低位隆帯と沈線による口縁部溝帯文と区画文構成。横位線を充填する。体部は2帯に分帯され、上位は沈線によるU字状意匠を下位は逆U字状意匠と横平状意匠を配す。磨消部は研磨を加える。縄文はRL。低位隆帯充填施文。	中期後葉新
第125図 PL161	2	深鉢 覆土	口縁~体部中位 1/2残存 口: 13.4	① 細: 白色粒 ② 褐色	頸部で括れる小型の深鉢。口縁部に2条の横位沈線を設け、以下2、3条の垂下沈線による意匠文構成。縄文は縦位・斜位。RL。充填施文。頸部下部庄痕を見る。	中期後葉新
第125図 PL161	3	深鉢 覆土	口縁~体部中位 1/3残存 口: 26.2	① 粗: 石英・輝石・褐色粒 ② 褐色	波状突起4単位を配す。低位隆帯と沈線による口縁部溝帯文と区画文構成。頸部は幅広い無文部を設け体部は横位沈線である。体部は沈線による方角意匠と中位に横平状沈線文を配する。縄文は縦位。RL。充填施文。	中期後葉新
第125図 PL161	4	深鉢 が埋没	体部のみ残存	① 粗: 白色粒多・石英 ② 鈍い黄褐色	2条の垂下隆線による意匠文構成。4単位構成ながら配線は不規則。体部両部部に溝帯文を配し、側縁の沈線を上端で前兆状に変化させる。縄文は、RL。低位隆帯充填施文。内外器面加熱により膨れ割れ。	中期後葉東北系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(取手高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第12504 PL161	5	深鉢 床 口縁部中位1 /4残存 口：(52.0)	① 粗：輝石 ② 褐色～黒褐色	大型の深鉢。隆縁による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線と円形突起文。口縁に渦巻文を配し、垂下沈線2条を配する。下部は懸垂文構成。地文は縦位L.R.	中期後葉新
第12504 PL161	6	深鉢 腹土 口縁～体部中位 残存 口：13.6	① 粗：石英少・雲母少 ② 褐色～黒褐色	小型の筒状深鉢。2条隆縁による逆し字状懸垂文。5単位を配す。他に細線状文で、口縁部縦位平行沈線を設け、体部は縦位波状沈線を配する。	中期後葉新
第12504 PL161	7	深鉢 腹壁 口縁～体部中位 4/5残存 口：21.0	① 粗：石英多・輝石 ② 暗赤褐色	隆縁による渦巻文と区画文が連繋した口縁部文様構成。5単位を縦線と斜位に縦位短沈線を配する。体部は垂下沈線2条を配すが、体部中位の縦位沈線で区画化する。対気状意匠や矢羽状沈線を充満する。	中期後葉信州系
第12504 PL161	8	鉢 +18 口圓縁～体部上 半1/3残存	① 粗：石英・雲母少・褐色粒 ② 鈍い黄褐色	口縁部は直立し無文。肩部に横位隆縁を設け小型の楕状把手を付す。体部は太い沈線による地文で、渦巻文や弧状意匠を配す。体部の一部に赤彩が残る。	中期後葉新
第12498 PL162	9	浅鉢 +9 口縁～体部1 /4残存 口：(53.2)	① 粗：褐色粒・石英多 ② 褐色・赤褐色	口縁部は強く開口部で屈曲する。口縁部は隆縁による渦巻文と弧状突起を隆縁が繋ぎ上下に区画文を配す。区画内は縦位・斜位短沈線を充満する。	中期後葉新
第12498 PL162	10	深鉢 +10 口縁部破片	① 粗：石英・輝石多 ② オリーブ黒色	隆縁による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線・縦位L.R.を充満する。体部は隆縁で画され、沈線による渦巻文を配す。肩内は縦位条線を充満する。	中期後葉新
第12498 PL162	11	深鉢 +31 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	波状突起下に隆縁による渦巻意匠を配し口縁部区画文と連繋する体部は2条の垂下沈線と縦手状沈線による懸垂文構成。渦文は横位・縦位L.R.充満施文。	中期後葉新
第12498 PL162	12	口縁～体部中位 1/3残存 口：(14.6)	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	小型深鉢。口縁部波状突起を設け、隆縁による渦巻文と細線の区画文を配す。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成か。渦文は縦位・斜位L.R.充満施文。	中期後葉新
第12498 PL162	13	深鉢 床 口縁部破片	① 粗：石英多 ② 鈍い赤褐色	隆縁による口縁部渦巻文と横長区画文構成。頭部隆縁は2渦文は条を設ける。体部は垂下沈線による懸垂文構成か。渦文は縦位L.R.充満施文。	中期後葉新
第12498 PL162	14	口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色	波状突起。上端に垂渦状意匠。腹面下に隆縁と沈線による渦巻文を配す。内面は彫りL.R.充満施文。	中期後葉新
第12498 PL162	15	深鉢 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	強く内湾する体部上半。縦位隆縁間を小型の楕状把手が繋ぐ。以下沈線による逆し字状懸垂文が配される。状文は縦位L.R.充満施文。	中期後葉新
第12498 PL162	16	鉢 +2 口縁～体部上半 1/4残存 口：(6.0)	① 粗：石英・輝石・雲母少 ② 鈍い黄褐色	口縁部直立し肩部の2条隆縁に小型の楕状把手を付す。体部は隆縁による渦巻文や大柄の弧線文を配す。外面赤彩残る。	中期後葉新
第12498 PL162	17	鉢 +12 口縁部破片	① 粗：石英・輝石少 ② 鈍い赤褐色	口縁部直立し肩部の2条隆縁に小型の楕状把手を付す。内湾する口縁部。口縁部はL.R.・斜位施文。体部は条線による渦巻状意匠や弧状意匠が配される。地文は縦位条線。	中期後葉新
第12704 PL162	18	深鉢 +2 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色	内湾する口縁部。口縁部はL.R.・斜位施文。体部は条線による渦巻状意匠や弧状意匠が配される。地文は縦位条線。	中期後葉新
第12704 PL162	19	深鉢 床 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部中位に縦位沈線を施す。渦文は縦位L.R.充満施文。	中期後葉新
第12704 PL162	20	深鉢 +21 体部中位破片	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	緩やかな湾曲を持つ体部。2条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は6・7条単位の磨消状工具による縦位矢羽状文を施す。	中期後葉信州系
第12704 PL162	21	深鉢 +19 体部下半～底部 1/4残存 底：(9.0)	① 粗：輝石 ② 赤褐色	浅い垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。磨消部には縦位沈線が加わり、人念ひ研磨を重ね、施文部渦文はL.R.縦位充満施文。	中期後葉新
第12704 PL162	22	深鉢 +13 体部下半～底部 1/4残存 底：(6.0)	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部文は縦位L.R.充満施文。底面研磨は丁寧。	中期後葉新
第12704 PL162	23	深鉢 +17 体部下半～底部 1/3残存 底：(7.0)	① 粗：輝石 ② 褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。中位に縦位沈線を加える。施文部渦文はL.R.縦位充満施文。内面は丁寧な縦位研磨を施す。白色付着物を見る。	中期後葉新
第12704 PL162	24	深鉢 +29 体部下半4/5 残存	① 粗：石英 ② 褐色	垂下隆縁下部を見る。懸垂文構成。施文部文には無部L.R.縦位充満施文。無文部との交互配列は乱れる。	中期後葉新
第12704 PL162	25	深鉢 +10 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	3方に瘤状小突起を付した隆縁渦巻文を配し、下端より2条の隆縁が懸垂する。2条のL字状沈線を設け、内面に横位短沈線を施し、斜位短沈線を充満する。	中期後葉信州系
第12704 PL162	26	深鉢 +16 口縁部破片	① 粗：石英多 ② 暗褐色	隆縁による一体化した渦巻文と区画文構成。区画内は横位矢羽状短沈線を充満する。体部は2条沈線による懸垂文構成か。斜位沈線や渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第12704 PL162	27	深鉢 +11 口縁部破片	① 粗：石英 ② 暗褐色	隆縁による口縁部渦巻文。胴縁は沈線で弧状短沈線を充満する。体部は縦位沈線による懸垂文構成か。角縁短沈線を施す。	中期後葉信州系
第12704 PL163	28	深鉢 +8 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	波状突起。腹面下に隆縁による大柄の渦巻文を配す。胴縁は沈線。	中期後葉信州系
第12704 PL163	29	深鉢 +24 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部隆縁を設け、縦位L字状意匠を付す。下端より2条の隆縁が懸垂する。隆縁側縁は沈線。空白部は弧状短沈線を充満する。	中期後葉信州系

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	①土 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第1290E PL163	30	深鉢 床	① 緑部破片 ② 褐色		隆部による口縁部溝巻文と区画文が連続する。区画内側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。体部は2条沈線が懸垂し、斜位沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	31	深鉢 +14	① 緑部上平破片 ② 褐色		隆部による溝巻文より垂下隆線が懸垂する。上縁に沈線による横位短沈線を配し、斜位短沈線を基す。	中期後葉信州系 25と同一個体の					
第1290E PL163	32	深鉢 +34	① 緑部破片 ② 暗褐色		口縁部隆線を設け、縦位短沈線を懸垂する。側縁は沈線。空白部は斜位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	33	深鉢 +9	① 緑部-体部上 平破片 ② 褐色		波状突起を設け隆部による横長の区画文と溝巻文を配す。区画内縁位短沈線を充填する。体部は垂下隆部による懸垂文構成。縦位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	34	深鉢 +24	① 緑部上平破片 ② 褐色		切みを付す瘤状小突起より隆線が懸垂する。沈線による小型の横内区画文を配し、横位短沈線を充填する。以下斜位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	35	深鉢 +17	① 口頸部破片 ② 黒褐色		低位隆部による口縁部溝巻文と連続化する区画文構成。側縁は幅広い沈線。波状条線を充填する。	中期後葉新					
第1290E PL163	36	深鉢 腹土	① 緑部破片 ② 明褐色		口縁部小突起下縁より2条隆線が垂下し体部中でU字状に隆部区画する。区画内は2条の横位沈線で小区画され縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	37	深鉢 +17	① 緑部破片 ② 黒褐色		口縁部下に2条の横位隆線を設け、円形突起文を連続させる。地文は斜位・縦位短沈線を基す。	中期後葉					
第1290E PL163	38	深鉢 +40	① 緑部破片 ② 黒褐色		波状縁か、波頂下隆線による溝巻文を配し、区画文が接す。体部は切みを付す隆線が弧状垂下する。縦位・斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	39	深鉢 +38	① 緑部破片 ② 褐色		口縁部区画は沈線か、2列の円形突起文が弧状に区画し、区画内は縦位短沈線を充填する。施文は深い。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	40	深鉢 +25	① 緑部突起 ② 褐色		突出する瘤状突起か、裏面の大半を逸する。外面上縁に沈線による溝巻文を施す。下縁より隆線が懸垂する。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	41	深鉢 +19	① 口頸部破片 ② 暗褐色		頸部隆線上には沈線を併せし横位交互突起文を配す。下位は斜位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	42	深鉢 +11	① 緑部-体部上 平破片 ② 褐色		隆部による口縁部区画文。縦位沈線を充填する。体部は2条沈線による力形区画文構成。下半は懸垂文か。区画内は縦位波状沈線と縦位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	43	深鉢 床	① 緑部破片 ② 褐色		2条の沈線によるU字状区画。区画接点には溝巻文を配す。区画内は縦位短沈線を配し、縦位短沈線沈線を埋める。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	44	深鉢 床	① 緑部中位 1/3 残存 ② 明赤褐色		体部中位に湾曲を持つ。沈線構成である。対向するU字状突起と縦位短沈線による懸垂文構成。空白部は縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	45	深鉢 +6	① 緑部破片 ② 暗褐色		頸部隆線上には沈線による区画文構成か。体部は縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は横位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL163	46	深鉢 +18	① 緑部破片 ② 褐色		外反する体部器形。平行沈線による縦位波状条線が密に配される。薄な施文。	中期後葉新					
第1290E PL163	47	深鉢 +30	① 緑部破片 ② 赤褐色		2条の垂下隆線による懸垂文構成。側縁は沈線及び溝。空白部は縦位短沈線を配す。やや難な施文。	中期後葉信州系					
第1290E PL164	48	深鉢 床	① 緑部下半 1/3 残存 ② 褐色		大型の深鉢。2条の垂下隆線と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は幅広い縦位条線。全体に難な施文。	中期後葉新					
第1290E PL164	49	深鉢 +40	① 緑部破片 ② 褐色		沈線施文のみ。体部中位に2条沈線による横位短沈線状突起を配し、対向する波状突起や垂下隆線が懸垂する。地文は幅広い縦位条線。	中期後葉新					
第1290E PL164	50	深鉢 +8	① 緑部下半-底部 1/3残存 底:10.0		垂下隆線による懸垂文構成。おそらく4単位。空白部斜位短沈線を施す。底面に網代模が残る。	中期後葉信州系					
第1290E PL164	51	深鉢 +11	① 緑部下半 1/2 残存 ② 褐色		大型の深鉢。厚手で外反する体部器形。垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は斜位・縦位・縦位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL164	52	深鉢 +10	① 緑部下半-底部 1/4残存 底:3.4		垂下隆線2条による滑部懸垂文構成。おそらく4単位。施文は幅広く縦位波状条線が充たられる。	中期後葉新					
第1290E PL164	53	深鉢 +13	① 緑部破片 ② 褐色		口縁部は幅広い施文。側部は新曲し隆線を設ける。以下斜位短沈線を基す。	中期後葉信州系					
第1290E PL164	54	深鉢 +17	① 緑部破片 ② 褐色		口縁部は外反し幅広い施文部を設ける。内外面とも丁寧な磨製を施す。	中期後葉新					
検出番号 図面番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第1300E PL164	55	石礫	雑土	完形	1.9	1.8	0.3	0.8	円基無蓋。片側縁が折れ、左右非対称。片面中央部が肥厚。	黒曜石	
第1300E PL164	56	石礫	雑土	欠損	3.3	1.3	0.4	1.0	円基無蓋。折り深く先端部、側部とも欠。薄手で丁寧な作り。片脚欠。	黒曜石	
第1300E PL164	57	石礫	雑土	完形	1.5	1.2	0.3	0.8	ほぼ三角形で一部を欠く。石礫の未製品か。	黒曜石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文番号 図説番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第1309号 PL164	58	石碗	覆土	欠損	(1.8)	1.2	0.3	(0.5)	先端部片か。	黒曜石	
第1309号 PL164	59	石碗	覆土	欠損	(1.8)	(1.2)	0.2	(0.6)	凹基無蓋か、挟り浅く脚を僅かに欠。	黒曜石	
第1309号 PL164	60	石碗	覆土	欠損	(1.4)	(1.0)	0.2	(0.3)	先端部片。	黒曜石	
第1309号 PL164	61	石碗	覆土	欠損	2.6	(0.9)	0.2	(0.6)	縦半分が割れた石碗か、未製品の可能性もある。	黒曜石	
第1309号 PL164	62	石碗	覆土	完形	3.5	0.5	0.4	0.9	棒状碗。基部の端が僅かに曲がる。	黒曜石	
第1309号 PL164	63	打製石 斧	覆土	完形	10.8	5.8	1.7	151	楕形だが刃部の広がり僅か。作りは粗く板状磯から作 出。	粗粒輝石安山岩	
第1309号 PL164	64	打製石 斧	覆土	完形	13.0	5.9	2.0	169	片面に自然面残す。極めて粗い作り。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第1309号 PL164	65	打製石 斧	覆土	完形	9.1	4.7	1.3	86	短冊形。基上端部に自然面。刃部摩耗。	黒色頁岩	
第1309号 PL164	66	打製石 斧	覆土	欠損	13.3	5.8	1.6	146	楕形。板状の磯を利用。基部は細身で両面に自然面。 刃先部分を欠損。	粗粒輝石安山岩	
第1309号 PL164	67	打製石 斧	覆土	完形	11.0	4.8	1.9	109	楕形。刃部は薄手。基端部、裏面僅かに自然面残る。	黒色安山岩	
第1309号 PL164	68	打製石 斧	覆土	完形	10.7	4.5	1.3	112	短冊形。板状磯利用。両面自然面残る。刃部は薄手の 作り。	粗粒輝石安山岩	
第1309号 PL164	69	打製石 斧	床	完形	11.2	5.2	1.6	101	短冊形。片面に高まり残る。刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第1309号 PL164	70	打製石 斧	覆土	欠損	(7.8)	5.8	2.2	(147)	楕形。刃部片。厚手で刃部の摩耗顕著。	粗粒輝石安山岩	
第1309号 PL164	71	打製石 斧	覆土	欠損	(4.3)	4.3	1.3	(29)	楕形か。刃部片。	黒色頁岩	
第1309号 PL164	72	打製石 斧	覆土	欠損	(8.0)	4.4	1.8	(105)	短冊形の基部片。片面に自然面残る。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第1309号 PL164	73	打製石 斧	覆土	欠損	(6.7)	5.2	2.1	(107)	楕形。比較的厚手で、両側縁に浅い挟り有す。刃部欠 損。	黒色頁岩	
第1309号 PL164	74	打製石 斧	覆土	欠損	(5.0)	5.0	0.8	(33)	薄手の刃部片。	黒色安山岩	
第1309号 PL164	75	打製石 斧	覆土	欠損	(7.2)	4.5	1.0	(47)	基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第1309号 PL164	76	打製石 斧	覆土	欠損	(9.9)	5.5	1.1	(62)	極めて薄手の板状磯を利用。側縁に簡単な整形痕。刃 部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第1310号 PL164	77	打製石 斧	覆土	欠損	(5.1)	3.0	0.7	(22)	基部片。両面に自然面。	粗粒輝石安山岩	
第1310号 PL164	78	スクレ イバー	覆土	完形	(7.6)	5.0	0.8	(44)	長方形の長辺部分に粗い刃部作出。	粗粒輝石安山岩	
第1310号 PL164	79	スクレ イバー	覆土	完形	10.6	6.8	1.8	141	大型の一次剥片。下辺に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	
第1310号 PL164	80	打製石 斧	覆土	欠損	(5.8)	4.0	1.1	(26)	楕形。両側縁に浅い挟り有す。刃部欠損。	黒色頁岩	
第1310号 PL164	81	磨製石 斧	覆土	欠損	(6.3)	3.3	2.2	(102)	刃部片。じ字状を呈す。	蛇紋岩	
第1310号 PL164	82	磨石	覆土	完形	15.1	9.1	5.2	1201	扁平な袋形の磯。被熱し煤付着。	石英閃緑岩	
第1310号 PL164	83	磨石	覆土	完形	6.5	5.6	5.5	270	卵大の小円磯。表面使用により平滑。	安山岩	
第1310号 PL164	84	磨石	覆土	完形	11.4	8.4	5.8	819	やや扁平な磯利用。使用面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第1310号 PL164	85	磨石	覆土	完形	4.9	3.9	2.9	35	やや軽量の小板。表面鉄分沈着層。	流紋岩	
第1310号 PL165	86	磨石	覆土	完形	13.4	5.8	4.0	432	棒状磯。	安山岩	
第1310号 PL165	87	磨石	床	欠損	(6.2)	7.2	5.5	(250)	円磯利用。磯表面やや粗い。やや平坦な部分を使用面と する。	粗粒輝石安山岩	
第1310号 PL165	88	台石	覆土	完形	18.6	9.3	7.2	2,145	やや大型の磯利用。平坦な両面を使用面とする。表面 鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第1310号 PL165	89	磨石	覆土	欠損	(5.0)	6.4	4.4	(176)	磨石の端部片。鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第1320号 PL165	90	台石	覆土	完形	17.0	15.6	5.4	2,518	扁平な大型磯利用。平坦な両面を使用面とする。	石英閃緑岩	
第1320号 PL165	91	石棒	覆土	欠損	(42.6)	13.7	11.8	(3,006)	大型で頭部に向かってやや細くなる。頭頂部は比較的 平坦となる。被熱。	緑泥片岩	
第1320号 PL165	92	石皿	床	完形	40.1	31.5	11.0	13,150	大型品。表面は2面、裏面は3面の作業面が幾層で分 けられている。	粗粒輝石安山岩 (1-3cmの厚さの磯)	研手前に照 え入れられている

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-16号住居跡 (第135図: PL.165)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(係高)	① 胎 土			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			② 胎色	③ 土質	④ 色						
第135図 PL.165	1	深鉢 口縁部破片	① 胎:石黄・輝石 ② 褐色			流注状流部面に垂下する筒縁下面に流巻文を配す。区画又は縦短弧状を充填する。胎厚薄手。	中期後葉信州系				
第135図 PL.165	2	深鉢 腹土	① 胎:白色粒 ② 條暗褐色			縦やかな流注突起か、筒縁による逆J字状垂巻文か、口縁部に横位平行流注、体部は弧状流を施す。	中期後葉信州系				
第135図 PL.165	3	深鉢 +3	口縁部破片	① 胎:輝石少 ② 暗オリーブ褐色		突起剥落か、流縁による口縁部区画縁。斜位RLを充填する。	中期後葉新				
第135図 PL.165	4	深鉢 +18	体部破片	① 胎:石黄 ② 明褐色		斜位RLが胎面を覆う。	中期後葉新				
第135図 PL.165	5	深鉢 +17	体部下平~底部 1/3残存 底:5.0	① 胎:輝石 ② 暗褐色		垂下流縁2条に画された滑消部懸垂文構成。滑消部中央に垂下流縁を加える。胎文部縄文はRL&縦位充填流文。滑消部には縦巻を加える。	中期後葉新				
第135図 PL.165	6	ミニチュア 腹土	底部1/2残存 底:3.4	① 胎:石黄少 ② 明黄褐色		深鉢ミニチュアか。体部は高曲度域に立ち上がり、底面は薄手。垂下流縁下部を見る。胎面厚縁。	中期後葉新				
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第135図 PL.165	7	石碗	覆土	ほぼ 完形	1.8	(1.2)	0.3	(0.4)			
第135図 PL.165	8	石碗	都内	欠損	(1.8)	1.2	0.3	(0.4)	凹基無茎、小型品で片脚を欠く、左右非対称。	黒曜石	
第135図 PL.165	9	打製石 斧	覆土	欠損	(4.5)	5.2	1.20	(324)	基部片、比較的薄手の作り、刃部が大きく開く形状	粗粒輝石安山岩	
第135図 PL.165	10	磨石	床	ほぼ 完形	6.7	5.5	4.2	212	小型円鏡利用。やや平坦な部分を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第135図 PL.165	11	石碗	都	欠損	(26.5)	18.0	6.3	(4390)	使用面は平滑で縁は低い、裏面に複数の凹み穴を有す。被熱。	粗粒輝石安山岩	

95-17号住居跡 (第138・139図: PL.165・166)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(係高)	① 胎 土			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			② 胎色	③ 土質	④ 色						
第138図 PL.165	1	深鉢 腹土	口縁部破片	① 胎:輝石 ② 黒色		口縁部は内湾。縄文はLR&横位流文。胎厚薄手。	中期後葉新				
第138図 PL.165	2	深鉢 腹土	口縁部破片	① 胎:石黄・輝石 ② 褐色		波頭部に円形刺突文を施し、口縁部に流縁を配す。頸部隆縁には刺突文を充填する。	後期前葉				
第138図 PL.165	3	深鉢 腹土	口縁部破片	① 胎:輝石 ② オリーブ褐色		2条隆縁による口縁部区画文と流巻文構成。例は横位の流縁。縄文はLR&縦位充填流文。	中期後葉新				
第138図 PL.165	4	鉢 +40	口縁部破片	① 胎:石黄 ② 鈍い褐色~黒褐色		口縁部は直立し体部は強く張る。頸部隆縁2条に小型の楕状把手を付す。体部は把手より直立した弧状隆縁による弧状・流巻状意匠が配される。	中期後葉新				
第138図 PL.165	5	深鉢 +23	体部破片	① 胎:輝石 ② 赤褐色		垂下流縁に画された滑消部懸垂文構成。胎文部縄文はLR&縦位充填流文。外面の付着著しい。	中期後葉新				
第138図 PL.166	6	深鉢 腹土	体部破片	① 胎:石黄・輝石 ② 暗褐色		垂下流縁に画された滑消部懸垂文構成。胎文部縄文はLR&縦位充填流文。外面の付着著しい。	中期後葉新				
第138図 PL.166	7	注口土器 腹土	体部破片	① 胎:白色粒 ② 暗オリーブ褐色		円形刺突文を中核に同心円状意匠を配す。横位流縁も加わる。細縄文LRを充填する。	後期前葉				
第138図 PL.166	8	深鉢 +18	体部破片	① 胎:石黄・輝石 ② 褐色		3条の垂下隆縁。あるいは弧状突起か、空白部は横短流縁以下に縦位短流縁を施す。	中期後葉信州系				
第138図 PL.166	9	深鉢 +13	体部破片	① 胎:石黄多 ② 赤褐色		1条流縁による横位区画か。区画内外に縦位短流縁短流縁を施す。	中期後葉信州系				
第138図 PL.166	10	深鉢 腹土	体部破片	① 胎:石黄・輝石・褐色粒 ② 褐色		2条流縁による縦位短流縁懸垂文。空白部は弧状短流縁を施す。	中期後葉信州系				
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第138図 PL.166	11	石碗	+3	完形	1.7	1.5	0.3	0.4			
第138図 PL.166	12	石碗	覆土	欠損	(1.0)	1.3	0.2	(0.4)	凹基無茎、扱いは弧状で浅い、薄手作り、先端部を欠く。	黒曜石	
第138図 PL.166	13	石碗	覆土	欠損	(1.4)	2.2	0.7	(2.0)	平基無茎、やや大型品。基部に厚みがある。先端部分を欠く。	黒曜石	
第138図 PL.166	14	打製石 斧	覆土	欠損	(4.8)	4.4	1.3	(39)	基部片。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	15	打製石 斧	+38	欠損	(6.8)	5.2	2.2	(107)	基部片厚手で片面に自然面が残る。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	16	石碗	+16	完形	6.1	4.4	0.6	1.9	薄手の模型、中央つまみ有りが扱いは見られない。刃部は厚み有り。	黒色頁岩	
第138図 PL.166	17	磨石	+28	完形	13.7	8.1	4.4	829	扁平な鏡を利用。両平坦面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	18	磨石	都	欠損	13.5	7.9	3.4	547	扁平な鏡を利用。両平坦面を使用面とし、中央部が楕かに凹む。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	19	磨石	+30	完形	8.1	7.7	3.6	322	扁平な円鏡。両面使用し平滑。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	20	磨石	+25	完形	8.5	6.9	3.7	415	磨石の鏡利用。明確な使用面は見られない。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第138図 PL.166	21	轉石	+5	完形	14.4	5.5	4.0	338	轉状鏡。腹面に割・打痕。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第1394号 PL166	22	礎部	床	定形	20.4	5.2	4.5	811	丸みを持った角棒状の礎。磁石としても利用か。	粗粒輝石安山岩	
第1394号 PL166	23	礎部	+20	定形	35.6	16.7	13.2	11,450	大型の棒状礎。	石炭閃綠岩	
第1394号 PL166	24	台石	+23	定形	33.0	21.5	10.5	12,900	大型の礎。平ら部分を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	

第1-18号住居跡(第147～155号; PL166～170)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 動土 ② 色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第1474号 PL166	1	深鉢 口縁～体部上半 4/5残存 口: 22.4	① 粗: 石英 ② 暗褐色		平縁。口縁部は大きく開き、無文部を幅広く設ける。頸部が上部に渦巻状突起を設け、下部より2条隆線が垂下する懸垂文構成を示す。5単位を加える。地文は無筋1斜位施文。	中期後葉古
第1474号 PL166	2	深鉢 床	① 粗: 石英・輝石・雲母 ② 褐色		口縁部は幅広く無文。頸部に横位蛇行細隆線を設け、以下斜位沈線と斜位浮線による斜格子文を配す。体部は横位隆線2条で画され、垂下隆線3条が派生する。空白部は平行沈線による縦位条線が施される。	中期後葉石州系
第1474号 PL166	3	深鉢 +6	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色～暗灰色		2条横位隆線による体部分布。上端渦巻の連続状隆線による懸垂文構成。4単位であらう。1条の垂下隆線による小区画文を設ける。地文は縦位1L。縄文施文後焼成付。沈線施文。	中期後葉古
第1474号 PL166	4	深鉢 +18	① 細: 輝石 ② 褐色		口縁部は内湾角縁で幅広く無文部を設ける。1条の頸部隆線以下、斜位沈線と斜位浮線による斜格子文を配す。	中期後葉石州系
第1474号 PL166	5	深鉢 +18	① 細: 輝石 ② 褐色		2条隆線による口縁部渦巻文と区画文。区内内縁部は沈線。縄文は直前反巻RRL横位施文か。	中期後葉古
第1474号 PL166	6	深鉢 +3	① 粗: 石英・輝石 ② 灰褐色		口唇部欠損。口縁部隆線を付し、頸部下側に横位隆線2条を配す。地文は縦位1L。	中期後葉古
第1474号 PL166	7	深鉢 +14	① 粗: 石英 ② 鈍い黄褐色		2条隆線による口縁部渦巻突起と区画文。2等幅成か。区内内縁部は沈線。弧状短沈線を充填する。	中期後葉石州系
第1474号 PL166	8	深鉢 +21	① 粗: 石英・輝石 ② 赤褐色		内湾する体部。2条隆線による渦巻文構成。沈線を傾斜し縦位1Lと並列施文。	中期後葉古
第1474号 PL166	9	深鉢 +11	① 粗: 石英・輝石 ② 暗褐色		垂下沈線による懸垂文構成。逆口字状意匠を配す。地文は1L縦位施文。	中期後葉古
第1474号 PL167	10	深鉢 +13	① 粗: 石英 ② 灰褐色		3条の垂下沈線と縦位沈線状沈線による懸垂文構成。地文はRL縦位施文。	中期後葉古
第1474号 PL167	11	深鉢 +16	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色		小笠形鉢か。体部下に湾曲を持ち、上半は強く平く。断面を縦位1Lが下つ。	中期後葉古
第1484号 PL167	12	深鉢 Pr7	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色		隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区内内縁部は傾斜で円形刺突文を充填する。	中期後葉古
第1484号 PL167	13	深鉢 +38	① 粗: 石英・輝石 ② 暗赤褐色		平渦巻状突起両端より鎖状隆線が派生し、口縁部区画文を画す。2段の区画構成で、区画隆線は沈線で縦位短沈線を充填する。内縁を付す。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	14	深鉢 覆土	① 粗: 石英多・輝石 ② 褐色		口縁部隆線を設け以下縦位沈線を充填する。頸部に2条隆線を付し、上端渦巻文を付した2条隆線が懸垂する。2条隆線間に円形刺突文を重ねる。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	15	深鉢 +17	① 粗: 輝石少 ② 褐色		厚手で内湾する口縁部。沈線のみの施文で、弧線や	中期後葉石州系
第1484号 PL167	16	深鉢 +15	① 粗: 雲母・輝石 ② 黄灰色		波状突起下の隆線渦巻文か。口縁部は2条隆線による区画文と渦巻文を配す。区内内縁部は沈線。横位短沈線短沈線を充填する。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	17	深鉢 Pr1	① 粗: 石英・雲母 ② 褐色～黄灰色		平渦巻状突起両端より隆線が派生し、口縁部区画文を画す。区画隆線は沈線で縦位短沈線を充填する。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	18	深鉢 +14	① 粗: 石英・輝石 ② 赤褐色		隆線による重渦巻意匠。意匠内縁より内湾平行沈線を縦位に施す。	中期中葉
第1484号 PL167	19	深鉢 覆土	① 粗: 砂礫・石英 ② 明赤褐色		口縁部に2条の隆線が突出する。おそらく横長区画文か。傾斜は沈線で細かな刺突文が重なる。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	20	深鉢 床	① 細: 輝石・雲母少 ② 暗褐色		口縁部隆線は突出し、内縁を付す。口縁部は幅広く斜突文を連続させる。頸部は無文。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	21	深鉢 +20	① 粗: 石英・輝石 ② 暗褐色		口縁部は幅広く斜位隆線2条で画される。縦位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	22	深鉢 Pr7	① 粗: 雲母多 ② 黒褐色		小笠形鉢か。口縁部は縦位内縁を付す。幅状で円形刺突文を連ねる。頸部は無文。	中期後葉古
第1484号 PL167	23	深鉢 +13	① 粗: 石英・輝石 ② 暗褐色		口縁部隆線及び内縁が突出する。幅状の口縁部に刺突文を連続させる。	中期後葉石州系
第1484号 PL167	24	深鉢 +18	① 細: 輝石 ② 暗褐色		口縁部内湾し幅広く無文部を設ける。頸部隆線3条を配すが弧状に連続し長橋門状の印象を加える	中期後葉石州系
第1484号 PL167	25	深鉢 Pr1	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色		あるいは鉢か。口縁～体部一体化し内湾する。口縁部に横位隆線を設け、沈線を傾斜とする。体部は無文。	中期後葉
第1484号 PL167	26	浅鉢 +48	① 粗: 石英大 ② 赤黒色		頸部部に横位隆線2条を付し体部は太い沈線による横位区画文を配す。外縁部に赤彩を残す。	中期後葉



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 動 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第148図 PL167	27	深鉢 +30 胴部～体部1/3残存	① 粗：石英多・輝石 ② 明褐色	胴部は外反し無文。2条の横位線輪で体部を画し、2・3条の垂下線輪が直する。おそらく4単位。空白部は縦位矢羽状沈殿を充填する。	中期後葉信州系						
第148図 PL167	28	深鉢 +2 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 褐色	2条沈殿を隔てる口縁部破片状文。あるいは渦巻状直線。何実が縦位列状に在り、横位短沈殿を充填する。	中期後葉信州系						
第148図 PL167	29	深鉢 +8 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	横位短沈殿以下斜位平行沈殿と斜位浮線による格子状文を配す。体部は2条の横位線輪で画され、横位平行沈殿による条線が施される。平行沈殿は内反文。	中期後葉信州系						
第148図 PL167	30	深鉢 +18 体部上半破片	① 粗：雲母 ② 鈍い赤褐色	横位線輪3条を配し、渦巻状直線下部より垂下線輪3条が懸垂する。空白部は2条の垂下沈殿が配され、矢羽状短沈殿を充填する。	中期後葉信州系						
第149図 PL167	31	深鉢 +10 体部上半破片	① 粗：石英多 ② 褐色	胴部は2条線輪接点より垂下する線輪による懸垂文構成。胴縁は沈殿。空白部は縦位平行沈殿を密に施す。	中期後葉信州系						
第149図 PL167	32	深鉢 +33 口縁部突起	① 粗：雲母 ② 黒色	縦位線輪を帯いた雙段状突起下部に横位把手を設ける。内面孔も設け中空状となす。把手上端及び両側面に渦巻文を施す	中期後葉信州系						
第149図 PL167	33	深鉢 +16 口縁部突起	① 粗：輝石多 ② 暗褐色	上端に沈殿による渦巻文を施す柱状突起。下部にも渦巻文を配す。	中期後葉信州系						
第149図 PL167	34	深鉢 +6 口縁部突起	① 粗：輝石 ② 暗褐色	縦位短沈殿下に横位把手を付す。内面孔も設け中空状となす。突起、把手縁辺に沈殿が付着。	中期後葉信州系						
第149図 PL167	35	深鉢 +16 口縁部突起	① 粗：石英多 ② 褐色	沈殿による渦巻文を配した双段状突起。おそらく、下部は横位把手が付す。蓋面磨滅。	中期後葉信州系						
第149図 PL167	36	深鉢 +14 把手破片	① 粗：輝石・雲母少 ② 黒褐色	大型の横位把手。両側面とも沈殿が施される。	中期後葉信州系						
第149図 PL167	37	深鉢 +5 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口唇部内面突出し、口縁部は強く開く。無文。	中期後葉信州系						
第149図 PL167	38	浅鉢 +5 口縁部破片	① 細：輝石 ② 鈍い黄褐色	口唇部鋭く突出し、口縁部上で湾曲する。内外面とも横位研磨を念入に施し、赤彩を加える。変色部分から波状・風状意匠が。	中期後葉						
第149図 PL168	39	台付深鉢床 脚部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	脚部上位に2孔一対の円孔を3単位配す。体部下半は垂下線輪下部を見る。	中期後葉						
第149図 PL168	40	台付深鉢床 脚部破片2点 底：(13.6)	① 細：輝石 ② 褐色	外反意味に広がる脚部。中位に径5cm程の円孔を配す。単位は不明。	中期後葉						
第149図 PL168	41	浅鉢 +23 体部下半～底部1/3残存 底：(6.0)	① 粗：石英多 ② オリーブ褐色	強く外反意味に開く体部。外面に丁寧な研磨を施す。内面下半は磨滅剥落。外面に赤彩を僅かにみえる。	中期後葉						
第149図 PL168	42	浅鉢床 体部下半～底部1/3残存 底：(7.4)	① 細：輝石 ② 鈍い黄褐色～暗褐色	体部は強く開く。内外面とも横位方向の研磨を丁寧に施し、赤彩を加える。赤彩意匠は不明。	中期後葉						
検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第149図 PL168	43	石礫	覆土	完形	3.7	1.9	0.4	2.1	凹基無蓋。挾りは弧状。大型品で丁寧な作り。	黒色安山岩	
第149図 PL168	44	石礫	覆土	完形	1.6	1.5	0.3	0.4	凹基無蓋。挾り浅い。小型ではほぼ正三角形を呈す。	黒曜石	
第149図 PL168	45	石礫	覆土	完形	2.6	1.9	0.3	0.9	凹基無蓋。片脚がやや長い。作りは丁寧。	黒色頁岩	
第149図 PL168	46	石礫	覆土	完形	2.5	1.7	0.4	1.8	凹基無蓋。先端部分厚みがあり、鋭利さは見られない。	黒色頁岩	
第150図 PL168	47	石礫	覆土	欠損	2.9	(1.6)	0.5	(1.1)	凹基無蓋。挾りは比較的深い。片脚を欠く。片面に小瘤状の高まり残る。	黒色頁岩(流紋岩質頁岩)	
第150図 PL168	48	石礫	覆土	ほぼ完形	(1.3)	1.5	0.2	(0.6)	凹基無蓋。ほぼ正三角形を呈す。先端部分僅かに欠く。	黒曜石	
第150図 PL168	49	石礫	覆土	欠損	(2.1)	1.4	0.5	(1.3)	凹基無蓋。両側縁がやや弧状を呈す。先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第150図 PL168	50	石礫	覆土	完形	2.4	0.6	0.5	0.6	小型の棒状縁。断面は側縁部分僅かに方部調整が見られるのみ。	黒曜石	
第150図 PL168	51	石礫	床	完形	3.4	1.1	0.2	1.3	棒状縁。縦長二等辺三角形を呈しつまみ部は薄く、先端部鋭く突出する。	チャート	
第150図 PL168	52	石礫	覆土	完形	2.6	0.7	0.3	0.4	やや扁平な棒状縁。つまみ部分は薄い。全体にやや反っている。	黒曜石	
第150図 PL168	53	石礫	覆土	ほぼ完形	(5.0)	0.8	0.7	(2.4)	縦長棒状縁。断面三角で角が鋭れている。先端部僅かに欠損。	黒曜石	
第150図 PL168	54	石礫	覆土	欠損	(2.8)	1.1	0.5	(1.5)	つまみ部やや膨らむ棒状縁。先端部を欠く。	黒曜石	
第150図 PL168	55	打製石斧	覆土	完形	9.0	4.9	2.2	133	短形斧。短身で基部が厚い。片面に自然面残り、刃部は摩耗。	黒色頁岩	
第150図 PL168	56	打製石斧	覆土	完形	10.3	5.4	1.9	102	扇形。基部は細く一部に自然面。刃部は広がり、摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第150図 PL168	57	打製石斧	覆土	完形	11.0	5.0	1.2	86	扇形。やや薄手。刃部は摩耗。	細粒輝石安山岩	
第150図 PL168	58	打製石斧	覆土	完形	10.3	4.4	1.1	78	短形斧。片面に自然面。刃部丸く全体に粗い作り。	細粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

神宮寺号 図録番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第1509号 PL168	59	打製石 斧	覆土	欠損	12.4	6.6	2.5	216	楕形、やや大型で基部が厚手で刃部はやや薄くなる。 2片が接合。	細粒輝石安山岩	
第1509号 PL168	60	打製石 斧	覆土	完形	11.7	4.0	2.0	125	短冊形、やや縦身で厚み有り。刃部刃先は粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第1509号 PL168	61	打製石 斧	床	ほぼ 完形	8.4	4.8	1.7	95	短冊形、短身でやや厚手。刃部僅かに欠損か。	黒色安山岩	
第1509号 PL168	62	打製石 斧	覆土	完形	7.0	4.3	0.9	39	小型磨形、なすび形を呈す。片面に自然面。刃部は円 形で摩耗顯著。	細粒輝石安山岩	
第1509号 PL168	63	打製石 斧	覆土	完形	9.2	5.2	1.7	102	楕形、短身で基部やや厚く、刃部は薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第1509号 PL168	64	打製石 斧	覆土	完形	10.2	5.5	2.2	147	楕形、基部厚く上端部に自然面。刃先が薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第1510号 PL168	65	打製石 斧	覆土	完形	10.9	6.2	2.1	176	楕形、片面に大きく自然面。刃部刃先が薄くなる。	細粒輝石安山岩	
第1510号 PL168	66	打製石 斧	覆土	完形	8.6	4.0	1.1	78	小型磨形、基部は先端部分が尖る。刃部円形で摩耗見 られる。	黒色安山岩	
第1510号 PL168	67	打製石 斧	覆土	ほぼ 完形	10.5	5.4	2.0	146	楕形、片面に大きく自然面。偏方で鋭利は見られない。	細粒輝石安山岩	
第1510号 PL168	68	打製石 斧	覆土	完形	7.8	4.2	1.3	16	短冊形、やや短身で基部は薄い。刃部は厚く刃先は粗 い作り。	細粒輝石安山岩	
第1510号 PL168	69	打製石 斧	覆土	欠損	6.6	4.4	1.6	43	楕形の基部片と見られる。側縁に弱い切り見られる。	黒色安山岩	
第1510号 PL168	70	打製石 斧	覆土	欠損 (10.9)	7.4	2.1	(185)	幅広い打製石斧刃部片と思われる。片面に大きく自然 面残る。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	71	打製石 斧	覆土	完形 (8.5)	5.0	2.1	(110)	楕形、短身でやや厚みもある。	黒色安山岩		
第1510号 PL168	72	打製石 斧	覆土	欠損 (4.9)	4.1	0.9	(25)	薄手の刃部片と思われる。	黒色頁岩		
第1510号 PL168	73	打製石 斧	覆土	欠損 (4.9)	4.6	1.4	(45)	円形、刃部片と見られる。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	74	打製石 斧	覆土	欠損 (10.2)	7.0	2.0	(95)	楕形、大型品で板状を呈す。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	75	打製石 斧	覆土	欠損 (15.8)	6.0	1.9	(201)	楕形、片面部分的に自然面残る。刃部僅かに欠損。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	76	打製石 斧	覆土	欠損 (6.2)	4.5	2.0	(81)	楕形、片面に自然面残る基部片。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	77	打製石 斧	覆土	欠損 (8.3)	5.1	1.6	(107)	楕形、片面に自然面。刃部欠く。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	78	打製石 斧	覆土	欠損 (9.1)	6.1	2.2	(177)	楕形、片面に大きく自然面残る。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	79	打製石 斧	覆土	欠損 (7.5)	5.5	1.9	(125)	楕形か、片面に自然面大きく残る。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	80	打製石 斧	覆土	欠損 (6.3)	5.1	1.7	(65)	楕形の基部片、自然面残し、端部に丸み。	細粒輝石安山岩		
第1510号 PL168	81	打製石 斧	覆土	欠損 (6.5)	4.7	1.4	(60)	楕形、基部片。	黒色安山岩		
第1520号 PL168	82	打製石 斧	覆土	欠損 (6.5)	4.5	1.1	(53)	基部片、角はやや丸み呈す。端部に自然面。	細粒輝石安山岩		
第1520号 PL168	83	打製石 斧	覆土	欠損 (6.3)	5.1	1.7	(65)	楕形の基部片と思われる。やや厚み有り。	細粒輝石安山岩		
第1520号 PL168	84	打製石 斧	覆土	欠損 (8.5)	5.5	2.2	(101)	楕形、基部外面に自然面が残り、丸みを有す。刃部を 僅かに欠く。被熱。	細粒輝石安山岩		
第1520号 PL169	85	打製石 斧	覆土	欠損 (4.8)	4.3	1.4	(34)	基部片。	細粒輝石安山岩		
第1520号 PL169	86	打製石 斧	覆土	欠損 (4.8)	4.0	2.8	(62)	極めて厚手の基部片と思われる。一部に自然面が見ら れる。	細粒輝石安山岩		
第1520号 PL169	87	打製石 斧	覆土	完形	11.1	4.8	1.1	57	斜片から作り出される。基部が曲がり片面に自然面。 刃部は三角。	細粒輝石安山岩	
第1520号 PL169	88	スクレ イベル	覆土	完形	4.3	3.8	1.0	15	三角形の斜片下部に刃部を作出。	珩質頁岩	
第1520号 PL169	89	磨製石 斧	覆土	欠損 (5.4)	4.9	2.8	(128)	基部片、角はやや丸み呈す。	蛇紋岩		
第1520号 PL169	90	磨製石 斧	覆土	欠損 (2.3)	(3.1)	(0.6)	(6.3)	磨製石斧の刃部片。	蛇紋岩		
第1520号 PL169	91	磨石	床	ほぼ 完形	12.1	7.3	4.2	595	扁平な長円織。両面、側面共に平滑な使用面が見ら れる。被熱。	細粒輝石安山岩	
第1520号 PL169	92	磨石	覆土	完形	10.6	8.1	4.7	631	やや扁平な織。両面使用し平滑。浅い凹状の凹み が見られる。	細粒輝石安山岩	
第1520号 PL169	93	磨石	覆土	完形	12.3	7.8	4.8	743	扁平な長円織利用。使用面は極めて平滑で磨らか。	細粒輝石安山岩	
第1520号 PL169	94	磨石	覆土	完形	11.7	9.1	4.5	600	扁平な円織。やや発泡質の石を利用。顕著な使用痕は 見られず。	細粒輝石安山岩	
第1520号 PL169	95	磨石	覆土	ほぼ 完形	7.1	6.2	3.9	237	やや扁平な織。顕著な使用痕は見られず。僅かにヒビ、 割跡が見られる。	細粒輝石安山岩	

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第15300 PL169	96	磨石	床	完形	(13.7)	7.7	4.3	660	扁平な長円鏡。一端の平坦面を打面としたものと思われる。	粗粒輝石安山岩	
第15300 PL169	97	磨石	覆土	完形	12.2	9.3	5.5	911	やや扁平な鏡利用。両面平滑で銅線部わずかに打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第15300 PL169	98	磨石	覆土	完形	14.8	8.2	3.4	593	扁平でなすび形を呈す。両面に複数の凹み穴が縦位に見られる。磨耗。	粗粒輝石安山岩	
第15300 PL169	99	磨石	覆土	ほぼ完形	9.2	8.8	4.7	525	やや扁平な円鏡。銅線部打撃によるものか剥落が見られる。	安山岩	
第15300 PL169	100	鏡部	覆土	ほぼ完形	20.7	10.8	5.7	1,775	扁平でなすび形のやや大型鏡。銅線部に打痕見られる。表面鉄分沈着。	安山岩?	
第15300 PL169	101	磨石	覆土	ほぼ完形	18.0	7.4	4.0	834	扁平な扇状鏡。平坦面に浅い打痕状の凹み見られる。	粗粒輝石安山岩	
第15300 PL169	102	磨石	覆土	ほぼ完形	(10.4)	6.0	5.4	(552)	角を有す仿形の鏡。表面に打痕状の跡多し。鉄分沈着。	不明	
第15400 PL169	103	磨石	覆土	完形	13.0	8.6	3.6	623	小形形の扁平鏡。両面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第15400 PL169	104	磨石	覆土	完形	5.7	5.0	3.8	120	小円鏡。鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第15400 PL169	105	磨石	覆土	完形	9.3	7.1	4.9	472	一端が平らな鏡。丸い端部部分に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第15400 PL169	106	鏡部	床	完形	14.8	8.0	5.5	1,170	不定形な自然鏡。一部僅かに打痕観察される。	安山岩	
第15400 PL169	107	鏡部	床	ほぼ完形	14.5	7.6	(6.4)	(813)	やや細長い鏡。端部に打痕か。鉄分沈着顕著。	安山岩?	
第15400 PL169	108	磨石	覆土	完形	11.6	6.6	4.9	661	やや扁平な仿形で両面。銅線部使用し平滑。浅い打痕状の凹み有り。	粗粒輝石安山岩	
第15400 PL169	109	磨石	床	欠損	(9.3)	(4.2)	2.2	(1,08)	扁平鏡。使用面はやや凹み平滑。半分を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第15400 PL169	110	磨石	覆土	欠損	(6.8)	7.2	7.2	(478)	鏡の端部片。表面粗い石質。端部に打痕見られる。	安山岩	
第15400 PL169	111	磨石	覆土	欠損	(4.9)	(5.3)	(3.2)	(104)	磨石の端部片か。	安山岩	
第15400 PL169	112	磨石	覆土	欠損	(8.3)	(7.1)	(4.3)	(196)	長円鏡。表面は平滑で一部に打痕見られる欠損品。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第15400 PL169	113	鏡部	床	完形	29.2	6.5	6.6	2,265	両端が丸い舟形鏡。全面滑らかだが。顕著な使用痕は見られない。	粗粒輝石安山岩	
第15500 PL169	114	多孔石	覆土	完形	22.3	15.3	9.8	2,560	やや扁平な鏡の両面に複数の凹み穴が穿たれる。いわゆる浅凹石。	安山岩質燧石	
第15500 PL170	115	磨石	覆土	完形	17.2	4.9	4.0	436	船底型を呈す棒状鏡。側面やや凹みに打痕顕著。表面に鉄分沈着。	粗粒輝石安山岩	
第15500 PL170	116	台石	覆土	欠損	(19.1)	(20.4)	8.8	(3,670)	大型の扁平鏡。平らな面を使用。端に凹み穴有す。被熱。片面に保。	粗粒輝石安山岩	
第15500 PL170	117	台石	覆土	欠損	(20.4)	19.8	7.7	(3,990)	扁平な大型鏡。両面使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第15500 PL170	118	石棒	覆土	欠損	(19.4)	(13.2)	(5.4)	(1,497)	緑色片岩製の大型石棒片と見られる。側面は丸く磨らかに整形。被熱。	緑色片岩	

## 図-19号住居跡(第163～167図: PL170～172)

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床表面)	① 土質 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第16300 PL170	1	深鉢 魔土	① 粗:石瓦多 ② 黒褐色	小笠部鉢。器面磨滅し体部が著しい。小型の楕円鉢付手4単位を付す波状縁。把手は縦位S字状意匠を付し口縁部は無文である。両面に波状縁を配し斜位LRを充填する。体部は隆線による溝巻意匠を設けるが、磨滅のため判然としない。口縁部に僅か付着する。	後期初頭
第16300 PL170	2	鉢 魔土	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	口縁部は直立意味で、器部隆線以下体部は強く両面し。球脚状をなす。口縁部は無文で、器身の両面隆線を付す。体部は2条隆線による大柄の溝巻意匠が配される。側縁は横で、縄文はLR充填施文。	中期未葉
第16300 PL170	3	深鉢 魔土	① 粗:石瓦・輝石 ② 暗赤褐色	体部上半で括れ中位に両面を持つ。沈凹のみの施文で3条の垂下沈凹による分別を施入る。横位沈凹を加え小区画し、縦位波状沈凹を施入る。	中期中葉
第16300 PL170	4	深鉢 魔土	① 粗:石瓦多 ② 褐色	大型の深鉢。体部中位で両面を持たせる。隆線による波状懸垂文構成か。4単位を数える。隆線の折折点には円形貼付文を付す。	後期初頭
第16300 PL170	5	深鉢 魔土	① 粗:輝石 ② 黒褐色～暗赤褐色	隆線を相互に配した縦位楕円状突起。口縁部は波状と細隆線で画され、円形刺突文を傾斜とする。体部は斜位沈凹を施す。内面磨付着。	後期初頭
第16300 PL170	6	深鉢 魔土	① 粗:輝石 ② 褐色	波状縁を呈す。口縁部には円形刺突文が有り。口縁部隆線は器部で突出する。体部中位で縦位波状縁で画され沈凹無文で画され、上位は沈凹で画された磨消部溝巻意匠が配される。縄文はLR充填施文。	後期初頭
第16400 PL170	7	深鉢 魔土	① 粗:輝石 ② 黒褐色	波状縁。波頂部に環状突起を付し、上端は両面を持つ。突起中位は貫し、断面は短気状を呈す。口縁部は細隆線と波状縁で画れ円形刺突文を傾斜とする。体部上半は斜位沈凹で画しLRを充填する。	後期初頭

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第1648 PL170	8	深鉢 +38	口縁部破片 ① 胎:白色粒 ② 暗赤褐色	口縁部内縁部に沈線による渦巻文と横位矢羽文を配す。腰部は垂下沈線3条による懸垂文構成。LRを充填する。	後期初葉						
第1648 PL170	9	深鉢 +29	口縁部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 鈍い褐色	横位把手を配し、両下縁より派生した隆線が口縁部を両す。口縁部は無文。縄文はLR充填施文。	中期末葉						
第1648 PL170	10	深鉢 +46	口縁部破片 ① 胎:石英大 ② 鈍い黄褐色～黒褐色	低位隆線による渦巻文意匠を配す。口唇部内面も隆線帯を加える。外面の一部に赤彩斑残存。煤付着。	後期初葉						
第1648 PL170	11	深鉢 覆土	口縁部破片 ① 胎:輝石 ② 鈍い褐色	直立気味の口縁部。横位隆線帯を設ける。腰部は縦文RLを施す。	中期末葉?						
第1648 PL170	12	深鉢 覆土	口縁部破片 ① 胎:白色粒 ② 褐色	全体に多みを見る。直立気味の口縁部。横位隆線帯を設け腰部は縦文LRを施す。	中期末葉?						
第1648 PL170	13	深鉢 覆土	口縁部破片 ① 胎:輝石 ② 黒褐色	波状線。口縁部下に隆線帯を設け、腰部は横位RLを施す。器形は薄手。	中期末葉?						
第1648 PL171	14	鉢・ 覆土	口縁部破片 ① 胎:石英 ② 褐色	強く内湾する。口縁部横位沈線を重ね、弧状に区切る箇所を設ける。施文部を交互に配し、LR細縄文を充填する。	後期小						
第1648 PL171	15	深鉢 +24	口縁部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部隆線帯以下2条沈線に画された磨消部弧状意匠。縄文はLR充填施文。外面煤付着。	後期初葉						
第1648 PL171	16	深鉢 +39	口縁部破片 ① 胎:石英 ② 鈍い褐色	口縁部内縁に隆線帯を設ける。腰部は沈線で画された磨消部弧状意匠か、LR充填施文。	中期末葉						
第1648 PL171	17	深鉢 覆土	口縁部破片 ① 胎:石英 ② 明赤褐色	口唇部は鋭く外傾する。口縁部沈線帯を施し、弧状隆線帯を付す。	中期中葉末						
第1648 PL171	18	深鉢 +29	体部把手 ① 胎:輝石 ② 鈍い黄褐色	頸部隆線帯に付される大型の横位把手。上端は鋭く外反する。縄文はLR充填施文。	中期後葉新						
第1648 PL171	19	深鉢 +29	体部上半破片 ① 胎:石英・輝石 ② 褐色～黒褐色	頸部外反し、体部内湾する。頸部隆線2条を小型の横位把手が繋ぐ。腰部は縦文LRを施す。	中期末葉						
第1648 PL171	20	深鉢 +23	体部上半破片 ① 胎:石英 ② 鈍い褐色	口縁部外反し無文。頸部隆線は波状で、体部は垂下沈線による懸垂文構成か、縄文は縦位LR充填施文。	中期末葉						
第1648 PL171	21	深鉢 +3	頸部破片 ① 胎:石英少 ② 鈍い褐色	口縁部外反し無文。頸部に8字状意匠を配し、横位沈線2条を繋ぐ。破片下部には斜位に沈線を見る。細縄文LRを横位充填施文する。	後期初葉						
第1648 PL171	22	深鉢 +10	体部中位破片 ① 胎:石英・輝石 ② 明赤褐色	2条の沈線で画された磨消部弧状意匠。逆U字状意匠か、縄文はLR充填施文。	中期末葉						
第1648 PL171	23	深鉢 +45	体部破片 ① 胎:石英多・輝石 ② 鈍い褐色	沈線による同心円状意匠か、施文部は交互配置で、細縄文LRを充填する。	後期初葉						
第1648 PL171	24	深鉢 覆土	体部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色～黒褐色	押圧を加える垂下隆線による懸垂文構成か、沈線で画された波状・弧状意匠を配す。縄文はLR縦位充填施文。	後期初葉						
第1648 PL171	25	深鉢 +7	体部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 黒褐色	薄手の器厚。縦位LRが器面を覆う。	後期?						
第1650 PL171	26	深鉢 覆土	体部上半破片 ① 胎:石英 ② 明赤褐色	横位沈線2条以下2・3条沈線による薄手の弧線意匠が配される。	後期初葉						
第1650 PL171	27	深鉢 覆土	体部破片 ① 胎:輝石 ② 鈍い黄褐色	縦列の刺突文による対称状意匠が配される。	後期初葉?						
第1650 PL171	28	深鉢 +9	体部中位破片 ① 胎:石英多 ② 褐色～黒褐色	上半2条の沈線によるU字状意匠を配し、縦位矢羽状意匠を充填する。下半は縦手状懸垂文上端を見る。	中期後葉信州系						
第1650 PL171	29	深鉢 覆土	口縁部破片 ① 胎:石英少 ② 鈍い黄褐色	直立気味の口縁部。横位隆線帯を設ける。器厚は薄手。	後期初葉?						
第1650 PL171	30	深鉢 +4	口縁部 1/3 残存 IT:26.4	平縁で無文の深鉢。体部中位で緩やかな内湾を示唆する。外面磨消跡。	後期初葉?						
第1650 PL171	31	深鉢 +22	口縁部破片 ① 胎:輝石・雲母少 ② 黄褐色～鈍い褐色	浅鉢か。口縁部内面には強く突出。外面は無文で頸部に横位沈線帯を配し交互刺突文を加える。内外面研磨。	中期後葉						
第1650 PL171	32	深鉢 +35	口縁部突起 ① 胎:白色粒 ② 黒褐色	強く突出する双環状突起。両側面に意匠を。突起下縁は横位突起を配し中央が貫孔する。	中期末葉						
第1650 PL171	33	深鉢 +37	口縁部突起 ① 胎:石英 ② 暗灰褐色	突起中位を貫孔し、下端より派生した隆線が口縁部を両す。各所に凹文と沈線を施す。内湾を側面に縦位帯状小突起を付し、右側面は横位小突起を付す。	後期初葉						
第1650 PL171	34	付付深鉢 覆土	脚部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	脚部から体部は大きく突起、無文で器面研磨。脚部分は二次的な研磨で作り残る。	中期後葉?						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第1650 PL171	35	石瓶	覆土	完形	2.7	2.1	0.3	1.3	凹基無茎、やや大型品。薄手で丁寧な作り。	黒曜石	
第1650 PL171	36	石瓶	覆土	欠損	(3.0)	(1.3)	0.3	(0.8)	凹基無茎、先端部は鋭く尖り、丁寧な作り。片脚を欠れる。	黒曜石	
第1650 PL171	37	石瓶	覆土	完形	2.1	1.7	0.3	0.8	凹基無茎、扱りは弧状に深く、丁寧な作り。	黒曜石	
第1650 PL171	38	石瓶	覆土	完形	1.8	1.7	0.3	0.6	凹基無茎、扱りは弧状で浅い。全面に黒色の付着物見られる。	黒曜石	
第1650 PL171	39	石瓶	覆土	完形	1.8	1.5	0.3	0.7	凹基無茎、扱りが浅い。	黒曜石	
第1650 PL171	40	石瓶	覆土	完形	2.0	1.2	0.4	0.7	凹基無茎、基部の扱りが浅く、器身に両側縁部に僅かな突起見られる。	黒曜石	

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第165図 PL171	41	石鉢	覆土	完形	1.1	1.0	0.2	0.3	平基無茎、小型品でやや厚みを持つ。	黒曜石	
第165図 PL171	42	石鉢	覆土	欠損	2.5	(1.1)	0.2	(0.7)	凹基無茎、狭りV状で深い。薄手で作りは丁寧。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL171	43	石鉢	覆土	欠損	(2.0)	(1.4)	0.2	(0.4)	凹基無茎、狭りは深く長脚。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL171	44	石鉢	覆土	欠損	(1.9)	(1.4)	0.3	(0.6)	凹基無茎、狭り浅く薄手の作り。片側縁部分を欠損か。	黒曜石	
第165図 PL171	45	石鉢	床	欠損	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.8)	先が細く尖る先端部片。	黒曜石	
第165図 PL171	46	石鉢	覆土	欠損	(1.9)	2.0	0.4	(1.1)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第165図 PL171	47	石鉢	Pl14	欠損	1.5	(1.4)	0.4	(0.6)	凹基無茎、狭りは極浅い。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL171	48	石鉢	覆土	欠損	1.4	(1.1)	0.2	(0.4)	凹基無茎、狭り浅く脚部分丸みを有し、截利さはない。片脚を欠く。	黒曜石	
第165図 PL171	49	石鉢	覆土	欠損	(1.2)	(0.9)	0.3	(0.2)	片側部片。	黒曜石	
第166図 PL171	50	石鉢	覆土	欠損	(1.1)	(0.8)	0.3	(0.2)	凹基無茎、小型品、脚および先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第166図 PL171	51	石鉢	覆土	欠損	(1.2)	1.8	0.3	(0.8)	凹基無茎、狭り小さく、先端部を欠く。	黒曜石	
第166図 PL171	52	石鉢	床	欠損	(1.6)	(1.2)	0.4	(0.6)	凹基無茎、狭り深い。片脚部分。	黒曜石	
第166図 PL171	53	石鉢	覆土	欠損	(1.4)	(0.8)	0.3	(0.3)	側縁部片か。	黒曜石	
第166図 PL171	54	石鉢	覆土	完形	2.9	0.9	0.5	1.3	やや捻れた角棒状の棒状部。	黒曜石	
第166図 PL171	55	石鉢	覆土	欠損	(2.1)	1.3	0.5	(1.3)	扇形のつまみ部を有す。踵部は先端を欠く。全体の作りは粗い。	黒曜石	
第166図 PL171	56	石鉢	床	完形	(2.6)	1.5	0.5	(1.3)	扇形のつまみ部を持ち、踵部は先端が細く尖る。	黒色安山岩	
第166図 PL171	57	石鉢	覆土	欠損	(2.2)	(1.9)	0.4	(1.3)	大型級の先端部片か。現品見られる。	黒曜石	
第166図 PL171	58	石鉢	覆土	欠損	(2.2)	2.4	0.6	(2.7)	平基無茎、作りは細く先端部を欠く。	黒曜石	
第166図 PL171	59	石鉢	床	完形	5.4	4.0	0.5	11.7	扇形でつまみはほぼ中央に付く。本体部分は木の葉形で下辺に刃部。	安山岩	
第166図 PL171	60	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(10.0)	4.5	1.6	(8.1)	磨面、基部は斜めに作られやや薄手。先端部僅か欠損か。	黒色頁岩	
第166図 PL171	61	打製石斧	床	ほぼ完形	9.8	5.3	1.6	(7.0)	磨面、刃部磨刃で摩耗見られる。	粗粒輝石安山岩	
第166図 PL171	62	打製石斧	覆土	完形	(8.6)	4.5	1.3	(7.1)	小型磨面、基部は僅かに細く刃部摩耗。	黒色頁岩	
第166図 PL171	63	打製石斧	床	完形	9.1	4.2	1.0	4.4	磨面、小型品、刃方で若干の使用痕。	黒色頁岩	
第166図 PL171	64	打製石斧	覆土	完形	9.3	5.8	1.4	9.5	磨面、短身、刃方で若干の使用痕。	黒色頁岩	
第166図 PL171	65	打製石斧	覆土	欠損	(9.5)	4.9	1.8	(11.5)	短冊形か、刃部を欠く。	黒色安山岩	
第166図 PL171	66	打製石斧	覆土	欠損	(8.2)	3.2	1.5	(10.1)	基部片と思われる。割られるように刃部が欠損。	黒色頁岩	
第166図 PL171	67	打製石斧	覆土	欠損	(7.9)	4.7	2.0	(9.8)	基部片と見られる。厚手で粗い磨面。片面に自然面残る。	粗粒輝石安山岩	
第166図 PL171	68	打製石斧	覆土	欠損	(6.8)	3.9	1.5	(5.0)	磨面の基部片か、細くなっており片面一部に自然面。	粗粒輝石安山岩	
第166図 PL172	69	打製石斧	床	欠損	(6.3)	4.9	0.9	(4.5)	板状の基部片。両面に自然面が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第166図 PL172	70	打製石斧	床	欠損	(5.8)	5.0	1.0	(4.7)	板状の基部片。	粗粒輝石安山岩	
第166図 PL172	71	スクレイパー	覆土	完形	(5.1)	5.8	1.6	(6.2)	台形を呈す。上部やや肥厚し端部に自然面、側縁、下辺に刃部を作出。	黒色頁岩	
第167図 PL172	72	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	3.3	1.5	(3.6)	磨面の基部片。	粗粒輝石安山岩	
第167図 PL172	73	打製石斧	覆土	欠損	(8.8)	5.9	3.2	(18.2)	基部片と見られる。厚手で粗い磨面。	黒色頁岩	
第167図 PL172	74	小型磨製石斧	覆土	完形	3.5	2.1	0.6	9.1	やや薄手の定角式磨製石斧。全面丁寧に磨製が施されている。	蛇紋岩	
第167図 PL172	75	小型磨製石斧	床	完形	2.8	1.6	0.5	4.4	定角式小型磨製石斧。縁は明確で全面良く磨製されている。	蛇紋岩	
第167図 PL172	76	磨石	覆土	完形	6.3	6.2	3.6	21.9	圓頭形の小鏡。顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第167図 PL172	77	磨石	覆土	欠損	(6.0)	7.9	7.7	(41.2)	球形の鏡。表面は比較的平滑。部分的に剥落。半分を欠き破損。	粗粒輝石安山岩	
第167図 PL172	78	磨石	覆土	完形	9.7	7.8	5.4	42.2	不整形な鏡の両面に凹み穴を有す。鏡表面は粗い。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図版番号	No	器種	出土位置 残存 出土位置(床面高)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考	
第16706 PL.172	79	磨石	覆土	完形	12.5	8.1	5.8	915	やや扁平な長円錐。全面平滑。	粗粒輝石宕山岩	
第16706 PL.172	80	研石製石	覆土	完形	7.5	6.0	2.2	69	精門形を呈し厚手。研磨痕跡。裏面は平らで平滑。	輝石	
第16706 PL.172	81	石皿	床	欠損 (12.2)	(14.5)	8.7	(1,457)	大型欠損品。縁部分は手前が低くなる。裏面平らで多くの凹み穴穿つ。	粗粒輝石宕山岩		
第16706 PL.172	82	多孔石	覆土	欠損 (13.3)	(18.0)	7.9	(1,778)	大型錐の表裏に凹み穴が点在。穴は比較的小振りである。蒸熟。	粗粒輝石宕山岩		

95-20号住居跡(第172～187図:PL.172～180)

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎 ②色	土 調	文様の特徴等	備考
第17206 PL.172	1	深鉢 床	① 胎: 石英・輝石 ② 暗赤褐色		平縁のキャリパー状深鉢。口縁部文様帯は、隣縁による連続した渦巻文と区画文構成。5単位。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。9単位を数える。縄文はL1。丸底施文。	中期後葉新
第17206 PL.172	2	深鉢 床	① 胎: 石英・輝石 ② 褐色		大型のキャリパー状深鉢。平縁と考えたが、あるいは弧状突起を付すか。口縁部の内周は中弱の、口唇部は肥厚し、隣縁による連続した渦巻文と区画文を口縁部に配す。4単位か。体部は2条の垂下沈線に面した横帯磨消部懸垂文構成。施文部は縦位短沈線。縄文はL1。丸底施文。	中期後葉新
第17206 PL.172	3	深鉢 覆土	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色		平縁でキャリパー状を呈す。沈線施文で上半に連続状突起を配し、弧状頂部より垂下沈線が懸垂し、下半は3条の垂下沈線による懸垂文構成を配す。7単位を数える。地文は口縁部縦位、体部は縦位短沈線。丸底。	中期後葉新
第17206 PL.172	4	深鉢 覆土	① 胎: 石英・輝石 ② 褐色		大きく開く口縁部。体部中で微小に内溝する。沈線による方形状態懸垂文を配す。9単位か。縄文はL.R.縦位光填施文。口縁部文様帯の省略か。内面下平窪付着。	中期後葉新
第17306 PL.173	5	深鉢 床	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色		大型の深鉢。口縁部は隣縁による渦巻文と区画文構成。渦巻文単位は8単位ながら、配置は不規則。区画文の下部を数える箇所がある。体部は2条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はL.R.光填施文。器面1/3の磨削剥落著しい。	中期後葉新
第17306 PL.173	6	深鉢 覆土	① 胎: 輝石 ② 鈍い赤褐色		波状縁。口縁部は低位隣縁による連続した平渦巻状意匠と区画文構成。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。L.R.縦位光填施文。下半は無胎となる。隆起部高小傾に僅かに隆起を見る。	中期後葉新
第17306 PL.173	7	深鉢 覆土	① 胎: 石英 ② 暗褐色		口縁部沈線を沿って2条沈線による連続状意匠を配す。体部は縦位沈線以下1字状態懸垂文が配される。地文は縦位・斜位短。内面研削。	中期後葉新
第17306 PL.173	8	深鉢 +25	① 胎: 輝石 ② 褐色		平縁。口縁部に円形刺突と縦位沈線を設け、以下沈線による方形意匠を体部上半に配す。縦位沈線以下の下半は2条沈線による磨消部懸垂文構成か。上半及び縦位沈線に円形刺突が加わる。地文は縦位・縦位短。	中期後葉新
第17306 PL.173	9	深鉢 +13	① 胎: 石英・輝石 ② 黒褐色		隣縁による口縁部半渦巻文と区画文構成。口唇部には凹文を配す。体部は2条沈線に面した磨消部懸垂文構成。縄文はL1。丸底施文。	中期後葉新
第17406 PL.173	10	鉢 +22	① 胎: 石英・輝石・雲母少 ② 明褐色		唇みを付す頸部隣縁に大型の龍状把手を付す。おそらく1・2単位。体部は沈線による渦巻状意匠や弧状突起が配される。無胎土を施す。	後期前期 中期未葉?
第17406 PL.173	11	深鉢 床	① 胎: 輝石 ② 褐色		小型深鉢。弧状突起と上端渦巻状突起を付す。2単位である。口縁部は隣縁による連続した渦巻文と区画文構成。区画側縁は沈線。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。8単位を数える。施文部は縦位短沈線。丸底。丸底施文を施す。内面下平な研削。外面に研削付着。	中期後葉新
第17406 PL.173	12	深鉢 床	① 胎: 輝石少 ② 鈍い黄褐色		上端に窪を持つ渦巻状突起を口縁部に付す。単位は不明。突起下端より垂下する唇みを付す隣縁と下半の縦位隣縁で体部を画す。体部は3条の沈線と下半の縦位短区画文を交互に配す。区画内は弧状小意匠を連続する。縄文はL.R.縦位光填施文。体部下半、内面は縦位光填施文を施す。外面に研削付着。	後期前期
第17406 PL.174	13	深鉢 床	① 胎: 石英多・雲母多 ② 褐色		横状把手と渦巻状突起からなる2単位。把手下部には縦位意匠が配される。上位に弧状沈線を見る。おそらくS字状意匠か。把手・突起下端より体部2条沈線が垂下し、下半で連続する区画文構成。区画内は横位短沈線を充満する。内面下半は加熱により器面磨削。	中期後葉信州系
第17406 PL.174	14	深鉢 覆土	① 胎: 石英・輝石 ② 暗褐色		口縁部沈線以下X字状隣縁施付による精門状区画文を配す区画内には沈線を断絶とし、弧状短沈線を充満する。体部は、上端1字状の垂下沈線3条による懸垂文構成。空白部は魚鱗状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第17406 PL.174	15	深鉢 床	① 胎: 輝石 ② 褐色		波状縁。5単位を数えるが、不規則な配置を示す。口縁部は隣縁による渦巻文と区画文構成でやや扁平な印影。区画内は沈線を断絶とし縦位短沈線を充満する。体部は垂下沈線と波状沈線による懸垂文構成。空白部は縦位失羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(区画番号)	① 土質 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第17506 PL174	16	浅鉢 魔土 口縁～胴部1/3 残存 口：(56.0)	① 黒：石英少・雲母少 ② 黒褐色	口縁部は強く置き抜き、口縁部と区画線とを設計す。隆線による突出した渦巻状意匠と横紋状区画文が配され、下半は小渦巻文と連続した区画文が連なる。横紋状区画内は縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第17506 PL175	17	浅鉢 魔土 口縁部欠損・胴部 4/5欠損 底：14.0	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	大型の浅鉢、胴部で強く曲出し口縁部に文様帯を持つ。隆線による渦巻文と区画文を組み合わせた構成で、中単位を包む。一部変形の龍巻文が認められる。区画内は雲状短線文を充填する。胴部底部には横位傘状沈線を描いた横長の区画文を配す。内外面縦付着。	中期後葉信州系
第17506 PL174	18	深鉢 魔土 口縁部～体部上半 破片	① 粗：石英 ② 黄褐色	低位隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。胴縁は沈線及び横で、体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文は縦位短線文、器面磨滅。口縁部に横付着。	中期後葉新
第17608 PL174	19	深鉢 +22 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	波状突起を付し、隆線による口縁部渦巻文と区画文構成を示す。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。縦位短線文を充填する施文部に縦位波状沈線が加わる。口縁部縄文は横位短線。	中期後葉新
第17608 PL174	20	深鉢 +10 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英少・輝石 ② 褐色	波状隆、やや扁平な口縁部。隆線による半渦巻意匠と区画文の連続。胴縁は横で、体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文は縦位短線。	中期後葉新
第17608 PL174	21	深鉢 +20 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 暗褐色	大型の深鉢。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画下端は沈線。口唇部に円文を施す。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文は縦位短線文。	中期後葉新
第17608 PL175	22	深鉢 +25 口縁部破片	① 粗：小礫・石英 ② 暗赤褐色	平縁か、太い隆帯による渦巻文と区画文構成。胴縁は沈線を描き、無断しを縦位充填施文する。	中期後葉新
第17608 PL175	23	深鉢 +14 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英少 ② 黄灰色	波状隆。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。区画下端は沈線。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位短線文。	中期後葉新
第17608 PL175	24	深鉢 +30 口縁部破片	① 粗：小礫・輝石 ② 黒褐色	2条隆線による口縁部区画文構成か。区画内は広口の沈線を胴縁とし、無断しを縦位充填施文する。	中期後葉新
第17608 PL175	25	深鉢 +4 口縁部破片	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 暗褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。胴縁は横で、口唇部や区画縁部に円文を施す。縄文は横位短線文、縦線が見える。	中期後葉新 21と同一個体か
第17706 PL175	26	鉢 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部は外張り無文、胴部隆線以下連続する渦巻文と区画文が配される。区画内倒縁は横位短線文を充填する。内外面とも磨消を施し、丁寧な作りを呈す。	中期後葉新
第17706 PL175	27	深鉢 +16 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	波状突起を付し、口縁部渦巻文と区画文構成。区画内倒縁は幅広の沈線。体部は磨消部懸垂文構成か。縦位短線文を充填する施文部に縦位波状沈線の上端を見る。	中期後葉新
第17706 PL175	28	深鉢 +20 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	波状突起を付し、波頂下に隆線による渦巻文を配す。内面も沈線による渦巻文を施す。口縁部は区画文構成。縦位短線文を充填する。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位短線。波状沈線の上端を見る。	中期後葉新
第17706 PL175	29	深鉢 +32 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英 ② 赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。胴縁は横で、体部は2条沈線による幅狭の磨消部懸垂文構成。縄文は縦位短線文、充填施文。	中期後葉新
第17706 PL175	30	深鉢 +30 口縁部破片	① 粗：小礫・石英 ② 赤褐色	太い隆帯による口縁部渦巻文構成。渦巻文上端はやや突出する。胴縁は横で、体部は垂下沈線の上端を見る。	中期後葉新
第17706 PL175	31	深鉢 +31 口縁～体部上半 破片	① 粗：石英多・輝石 ② 褐色	波状突起を付し、波頂下に隆線による渦巻文を配す。区画文は多角化し無文である。体部は2条沈線が単発し、縦位上を充填する。	中期後葉新
第17706 PL175	32	深鉢 +30 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 暗赤褐色	平縁、2条隆線による口縁部区画文。区画内倒縁は沈線。縦位短線文を充填する。	中期後葉古
第17706 PL175	33	深鉢 +18 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	隆線による区画文構成。胴縁は沈線。充填文は縦位短線文。体部に垂下沈線の上端を見る。	中期後葉新
第17706 PL175	34	深鉢 +29 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色	波状突起内に沈線による渦巻文を配す。外面は隆線による渦巻文と区画文。外面は2条沈線による磨消部懸垂文構成か。区画内、体部施文部は縦位波状意匠を充填する。磨消の部材で内外面磨消を呈す。	中期後葉新
第17806 PL176	35	深鉢 +37 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部内縁。隆線による渦巻文が口唇部より盤状で下向きに区画隆線が派生する。区画内上端は縦位短線文を施す。器面磨滅著しい。	中期後葉古
第17806 PL176	36	深鉢 +38 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 暗褐色	波状隆か、上端が半渦巻状の突起を設計。隆線による渦巻文と区画文を配す。区画内は横位短線文、充填施文。	中期後葉新
第17806 PL176	37	深鉢 +29 口縁部破片	① 粗：小礫・石英 ② 灰褐色	おそらく波状部的大型の渦巻状意匠。区画文が接するが充填文は不明。沈線を胴縁とする。	中期後葉東北系
第17806 PL176	38	深鉢 +12 口縁～体部破片	① 粗：輝石 ② 暗褐色	2条の沈線による口縁部渦巻意匠。波頂間には口唇部短線文を施す。体部は波状短線文が配され、隅点状斜交文を埋める。縄文は口縁部は斜位。体部は縦位短線文を施す。体部は閉鎖施文を示す。	中期後葉新
第17806 PL176	39	深鉢 +20 胴部～体部破片	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 鈍い赤褐色	扁平な低位隆帯による口縁部区画文。沈線を胴縁とし、横位短線文を充填する。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成。縄文は縦位短線文、充填施文。	中期後葉新

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎土 ② 色 土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第1780E PL176	40	深鉢 +26	口縁部破片	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	2条の口縁部横位沈線間に斜交文を加える。体部は垂下沈線と直状沈線による懸垂文構成。地文は斜位L。	中期後葉古
第1780E PL176	41	深鉢 床	口縁部破片	① 粗：石英多 ② 暗褐色	直立気味の器用か、口縁部隆縁が突出し沈線が直う。以下縦位Lを施す。	中期後葉新
第1780E PL176	42	深鉢 +25	肩部～体部上半破片	① 粗：卵石 ② 暗褐色	隆縁による口縁部区画文構成。体部は2条沈線による滑消部懸垂文構成。縄文は縦位L。縦位Lは縦位L。体部上半に保存否。	中期後葉新
第1780E PL176	43	深鉢 腹土	体部上半破片	① 粗：石英多・雲母 ② 鈍い黄褐色	横位隆縁部高か、以下沈線施文で内皮平行沈線による。縦位沈線3条による懸垂文か。弧状意匠も配される。縄文は縦位L。充墳施文。	中期後葉 真系系？
第1780E PL176	44	深鉢 +19	体部上半破片	① 粗：卵石 ② 赤褐色	沈線による施文。縦位沈線以下逆U字状意匠と縦位S字状意匠を交互に配す。施文部は縦位L。充墳後縦手状沈線を加える。	中期後葉新
第1780E PL176	45	深鉢 +24	体部中位破片	① 粗：卵石 ② 褐色	大型の深鉢。垂下沈線2条による縦位の滑消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位L。充墳施文。	中期後葉新
第1780E PL176	46	深鉢 +27	体部中位破片	① 粗：石英多 ② 鈍い褐色	大型の深鉢。体部下半の内筒部。2条沈線による滑消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位L。充墳施文。	中期後葉新
第1780E PL176	47	深鉢 +17	体部中位破片	① 粗：卵石 ② 黄褐色	大型の深鉢。垂下沈線3条による懸垂文構成。施文部縄文は上縦位L。充墳施文。	中期後葉新
第1780E PL177	48	深鉢 +12	体部中位破片	① 粗：石英 ② 黄褐色	外反気味の体部形。2条沈線による滑消部懸垂文構成。縄文は縦位L。縦位L。充墳施文。	中期後葉新
第1780E PL177	49	深鉢 +2	体部破片	① 粗：石英 ② 褐色	2条沈線に画された滑消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位L。縦位L。充墳施文を加える。	中期後葉新 50と同一体
第1780E PL177	50	深鉢 腹土	体部破片	① 粗：石英 ② 褐色	2条沈線に画された滑消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位L。縦位L。充墳施文を加える。	中期後葉新
第1800E PL177	51	深鉢 腹土	体部中位～底部 底：6.5	① 粗：石英・卵石 ② 褐色	底面はやや不安定。2条沈線に画された滑消部懸垂文構成。9単位を数える。施文部縄文は縦位L。斜位L。縦位L。	中期後葉新
第1800E PL177	52	深鉢 腹土	底部1/2残存 底：4.8	① 粗：石英 ② 褐色	狭く深く体部下半。3条の沈線による懸垂文構成。施文部滑消部の交互配列だが、滑消部は幅不定。あるいは4単位か。施文部は無断L。充墳施文。	中期後葉新
第1800E PL177	53	深鉢 +20	底部	① 粗：石英・卵石 ② 鈍い赤褐色	小笠原深鉢形。手で端正な作り。垂下沈線下部部を見る。縄文は縦位L。充墳施文。	中期後葉新
第1800E PL177	54	深鉢 腹土	体部1/4残存 底：6.0	① 粗：小礫・石英・卵石 ② 赤褐色	大型の深鉢。上半は外反し、下半に内筒を持たせる体部形。2条の垂下沈線に画された幅狭の滑消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位L。充墳施文。	中期後葉新
第1800E PL177	55	深鉢 腹土	体部下半～底部 1/3残存 底：5.0	① 粗：石英・卵石 ② 赤褐色	小型深鉢か。内筒気味の体部下半。3条の垂下沈線による懸垂文構成。施文部縄文は縦位L。充墳施文。中に垂下沈線1条が重なる。内面保存否。	中期後葉新
第1800E PL177	56	深鉢 +26	体部破片	① 粗：小礫・卵石 ② オリーブ褐色	隆縁による滑消部懸垂文を各所に配す。下半は逆U字状懸垂文か。側縁は横で、沈線、縦位Lを施す。	中期後葉東北系
第1800E PL177	57	深鉢 +24	口縁部突起	① 粗：小礫 ② 黒褐色	弧状の中空突起。上位が4方。下位が3方からの孔。突起頂部よりS字状意匠が垂下し内筒の懸状意匠へ繋がる。体部区画内は縦位Lを施す。口唇部内面に残存。	中期後葉東北系
第1800E PL177	58	深鉢 +32	口縁部破片	① 粗：小礫・石英 ② 灰黄褐色	波頂部に弧状突起。波底部に懸状突起を付す。突起上位は4方。下位は3方からの中空状をなす。突起下部に懸状意匠を配し、頂部へ連繋する。体部は隆縁による不定形区画文で、縦位Lを施す。	中期後葉東北系
第1800E PL177	59	深鉢 +24	口縁部突起	① 粗：小礫・卵石 ② 黒褐色	波頂部突起突起。3方向の孔により中空をなす。突起下部の内筒区画に頂部が連繋する。頂部側面には不定形区画。体部は隆縁による区画文構成。	中期後葉東北系
第1800E PL177	60	深鉢 +25	口縁部破片	① 粗：小礫・石英 ② 黒褐色	波状縁。直頂部に波状突起。波状部は滑消文を配す。波状突起は中位で上位が4方。下位が3方からの孔が繋がる。隆縁による懸状意匠が配され、下筒の体部は滑消文や弧状意匠が充てられる。縄文は縦位L。	中期後葉東北系
第1810E PL177	61	深鉢 +16	口縁部1/5残存	① 粗：石英多 ② 鈍い赤褐色	波状縁。波頂部に横位破片。波底部に弧状突起を付す。口縁部は2条沈線による区画文構成で、横位L。縦位L。充墳施文を施す。頂部は無文。	中期後葉信州系
第1810E PL177	62	深鉢 +27	口明部～体部上半破片	① 粗：石英・卵石 ② 褐色	緩やかな波状縁か。口唇部欠損。隆縁による滑消文と区画文構成。区画内は無文。体部は3条の沈線による懸垂文構成。空白部は垂下沈線1条を縦位に似た矢羽状沈線を施す。	中期後葉信州系
第1810E PL177	63	深鉢 +19	口縁部～体部上半破片	① 粗：石英・卵石多 ② 黒褐色	口縁部は隆縁による滑消文と区画文構成。区画内側縁は沈線。横位L。充墳施文を施す。体部は垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位L。縦位L。充墳施文を施す。	中期後葉信州系
第1810E PL177	64	深鉢 +33	口縁部破片	① 粗：石英多・卵石 ② 暗褐色	隆縁による滑消文を配し、下位に区画文を配す。区画内側縁は沈線。縦位L。斜位L。充墳施文を施す。体部は沈線による逆U字状懸垂文か。斜位L。充墳施文を施す。	中期後葉信州系
第1810E PL178	65	深鉢 +26	口縁部破片	① 粗：小礫・石英 ② 黒褐色	波状縁。波頂部に隆縁による滑消文を配し、下部より滑消文が繋がる。波底部滑消文と隆縁で連繋するが区画文化はない。空白部は弧状沈線を埋める。	中期後葉信州系
第1810E PL178	66	深鉢 +32	口縁部破片	① 粗：小礫・石英 ② 暗褐色	波状縁か。波頂部に隆縁による縦位S字状意匠を配す。上位より横位隆縁が派生するが、区画内ではない。波頂部上端。空白部には短沈線を施す。	中期後葉信州系 50と同一体か



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 土位置(体・高さ)	① 土 ② 色 ③ 土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第181R PL178	67	深鉢 +28	口縁部破片	① 紺：石英 ② 暗褐色	渦巻状突起下端より2条隆線が派生し、口縁部区画文を形成。区画内は縦位矢羽状沈線を充填する。胴部に深い横位沈線を施す。	中期後葉古
第181R PL178	68	深鉢 +13	口縁部破片	① 紺：石英・輝石少 ② 褐色	口縁部に隆線による渦巻文を配す。胴縁に沈線、弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第181R PL178	69	深鉢 +4	口縁部破片	① 紺：白色粒・輝石 ② 鈍い褐色	波状縁。沈線を帯した2条隆線による渦巻文を配す。沈線を細線とし、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第181R PL178	70	深鉢 +5	口縁部破片	① 紺：石英・輝石 ② 褐色	平縁。口縁部に横位隆線2条を設け渦巻文と区画文を配す。区画内飾線は沈線、無筋しを充填する。	中期後葉古
第181R PL178	71	深鉢 +38	口縁部破片	① 紺：石英多 ② 鈍い赤褐色	口縁部無文。体部は隆線による渦巻状突起を配し、内皮沈線を施す。	中期後葉最古
第182R PL178	72	深鉢 +24	口縁部破片	① 紺：石英・雲母少 ② 鈍い赤褐色	低位隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。やがて扁平な渦巻線、胴縁は沈線で斜位短沈線を充填する。体部は逆し字状沈線による懸垂文構成か。	中期後葉信州系
第182R PL178	73	深鉢 腹土	口縁部破片	① 紺：雲母多 ② 暗褐色	口縁部内湾、円形斜突文と横位隆線を設け、以下隆線による区画文を配す。区画内は横位沈線を多段に重ね、交互斜突文が加わる。	中期後葉古
第182R PL178	74	深鉢 +24	口縁～体部上半 破片	① 紺：石英多・輝石 ② 黒褐色	口縁部厚し無文。隆線が垂下し、体部中位で分岐する。上半は区画文構成か。区画内は縦位U字状沈線のみ区画し斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第182R PL178	75	深鉢 腹土	口縁部破片	① 紺：石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部厚し無文。2条隆線による逆し字状懸垂文を配す。隆線間は横位短沈線、空白部は斜位短沈線を充填し、縦位波状沈線が加わる。	中期後葉信州系
第182R PL178	76	深鉢 腹土	口縁部破片	① 紺：石英多・雲母 ② 赤褐色	口縁部隆線以下突出する隆帯による口縁部区画文構成か。胴縁は沈線。区画内は横位短沈線を充填し中位に横位沈線を施す。	中期後葉信州系
第182R PL178	77	深鉢 +7	口縁部破片	① 紺：輝石多 ② 褐色	平縁。口縁部に横位隆線1条を設け、以下平行沈線と交互斜突文を重ねる。	中期後葉最古
第182R PL178	78	深鉢 +27	口縁部破片	① 紺：雲母 ② 褐色	筋形変換を見ない。2条隆線による口縁部渦巻文と区画文か。斜位短沈線を突める。体部は波状隆線上端を見る	中期後葉信州系
第182R PL178	79	深鉢 +22	口縁部破片	① 紺：石英・雲母 ② 黒褐色	隆線による区画文構成。区画接点は振り状突起を付す。区画内は斜位短沈線を充填する。無筋無文、太い内縁を付す。	中期後葉古
第182R PL178	80	深鉢 +41	口縁部破片	① 紺：輝石少 ② 褐色	縁か。口縁部は外反し下位に横位隆線を設ける。以下隆線による横位区画文を配す。区画内は上位は波状に突出。区画内は円形斜突文を充填する。体部は縦位垂線を施す。	中期後葉新
第182R PL178	81	深鉢 底	体部破片	① 紺：白色粒・石英 ② 鈍い褐色	口縁部の内湾か。横位沈線を多段に重ねる。筋文は無い。内面横位研磨を施す。	中期後葉 異系統?
第182R PL178	82	深鉢 腹土	突起破片	① 紺：石英 ② 灰青褐色	体部上半か。小型の双環状突起を付し、下端に隆線による渦巻文を配す。空白部は横位沈線を重ね、浅い筋みを加える。	中期後葉 異系統?
第182R PL178	83	浅鉢 +17	口縁部破片	① 紺：輝石 ② 鈍い褐色	胴部に横位隆線を設け、以下隆線による渦巻文と区画文を配す。区画内飾線は幅広の沈線、斜位垂線を充填する。内外面とも研磨を施す。	中期後葉新
第182R PL178	84	深鉢 +16	体部破片	① 紺：石英・輝石 ② 暗赤褐色	3条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線が施される。	中期後葉信州系
第182R PL178	85	深鉢 +16	体部破片	① 紺：石英多 ② 鈍い赤褐色	沈線のみ筋文。上半の渦巻文以下2条隆線を以て逆し字状突起が配される。斜位沈線を充填する。全体的に乱部な筋文。	中期後葉信州系
第182R PL178	86	深鉢 +21	体部片	① 紺：小粒・石英・輝石 ② 褐色	隆線が落部多し。隆線による縦位波状懸垂文を配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を以て筋文はやや乱縁。	中期後葉信州系
第183R PL178	87	深鉢 腹土	体部～底部1、 2残存 底：9.2	① 紺：小粒・石英・輝石 ② 褐色	大型の深鉢。隆線が落部多し。隆線による縦位波状懸垂文を配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を以て筋文はやや乱縁。	中期後葉信州系
第183R PL179	88	深鉢 腹土	体部下～底部 残存 底：6.7	① 紺：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	小型深鉢か。垂下隆線3条による懸垂文構成。6単位を敷入る。空白部は縦位矢羽状短沈線と斜位短沈線を配する。内面研磨を施す。	中期後葉信州系
第183R PL179	89	深鉢 +18	口縁部破片	① 紺：石英 ② 鈍い黄褐色	口唇部が深く内折する。口縁部は幅広の無筋文を設け、横位隆線以下斜位平行沈線を施す。	中期後葉信州系
第183R PL179	90	深鉢 +17	体部破片	① 紺：輝石 ② 鈍い黄褐色	横位隆線を配し上下に分層する。平行沈線による対向斜位筋文。	中期後葉 越後系か
第183R PL179	91	浅鉢 底	口縁部破片	① 紺：石英・片岩 ② 赤色	口縁部厚し体部内湾する。内外面とも丁寧な研磨を施し赤彩を加える。赤彩意匠は不明。	中期後葉
第183R PL179	92	深鉢 腹土	口縁部小破片	① 紺：石英少 ② 鈍い黄褐色	口縁部は僅かに外反し無文、赤彩筋線をはるが筋は不明。	中期後葉
第183R PL179	93	深鉢 +25	口縁部破片	① 紺：輝石 ② 鈍い赤褐色	口唇部内面肥厚。無文の口縁部で縦位研磨を施す。	中期後葉
第183R PL179	94	深鉢 +27	口縁部破片	① 紺：輝石 ② 褐色	口縁部外反し胴部曲強し。無文で、内外面とも横位研磨を丁寧に施す。	中期後葉
第183R PL179	95	深鉢 +54	口縁部破片	① 紺：石英・輝石・雲母 ② 鈍い褐色	口縁部内湾し体部一体化する。横位沈線を設けるが筋は無文である。	中期後葉新
第183R PL179	96	深鉢 +33	口縁部突起	① 紺：雲母少 ② 黒褐色	強く突出する柱状突起。下端で中突起となす。突起縁辺を隆線が縁取り、中位に縦位S字状突起を配す。空白部は横位短沈線を充填し隆線には円形斜突文を加える。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			① 胎色	② 赤褐色	③ 赤褐色						
第18304 PL179	97	深鉢 +36	腰部上平破片			① 粗:石英・輝石 ② 暗赤褐色	頸部は貝曲し、内湾する体部部形。底部沈線以下斜位沈線3条による懸垂文構成か。縦線並列も加わる。内外面縦な単位併置を基す。	後期前葉			
第18304 PL179	98	深鉢 床	底部1/3残存 底: (12.0)			① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	大型の深鉢底部。3条の垂下隆線による懸垂文構成。縄文は縦位別。強い加熱による変色を見る。	中期後葉前			
第18304 PL179	99	深鉢 +18	底部 底: (8.0)			① 粗:石英・輝石 ② 明赤褐色	大型の深鉢。内湾気味に強く開く。無文で丁寧な調整を加える。	中期後葉			
第18304 PL179	100	深鉢 +25	底部 底: 8.0			① 粗:石英・輝石 ② 赤褐色	大型の深鉢底部か。厚手でしっかりした作り。外面は縦位別り調整が残る。	中期後葉			
縄文遺構 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第18404 PL179	101	石礫	覆土	欠損	(1.8)	(1.3)	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟りは深く長脚。片脚部を欠く。		チャート
第18404 PL179	102	石礫	床	ほぼ 完形	(1.9)	1.7	0.5	(1.3)	凹基無茎、やや厚手で作りは粗い。		深緑石
第18404 PL179	103	石礫	覆土	完形	1.9	1.3	0.4	0.9	凹基無茎、片面がやや膨らむ。		深緑石
第18404 PL179	104	石礫	覆土	欠損	(1.2)	(1.2)	0.3	(0.3)	凹基無茎、小型品。両脚を欠く。		深緑石
第18404 PL179	105	石礫	床	欠損	(1.7)	(1.2)	0.4	(0.6)	先端部片。		深緑石
第18404 PL179	106	石礫	覆土	欠損	1.7	(1.2)	0.3	(0.7)	凹基無茎、薄手の作り、脚部および先端部を欠く。先端部に丸み。		深緑石
第18404 PL179	107	石礫	覆土	欠損	(1.5)	(1.5)	0.3	(0.7)	凹基無茎、両脚および先端部を欠く。		深緑石
第18404 PL179	108	石礫	覆土	欠損	(1.7)	(1.6)	0.3	(0.9)	凹基無茎、浅い挟り有す。先端部僅かに欠く。		深緑石
第18404 PL179	109	石礫	覆土	完形	(1.3)	1.0	0.3	(0.3)	凹基無茎、小型品。		深緑石
第18404 PL179	110	石礫	覆土	欠損	(1.6)	(0.8)	0.4	(0.3)	側縁部片か。		深緑石
第18404 PL179	111	石礫	覆土	完形	1.7	0.9	0.2	0.2	凹基無茎の小型品。紡錘状で先端部が尖る。特異な脚部。		チャート
第18404 PL179	112	剥片	床	完形	2.9	1.7	0.2	0.4	小型縦長剥片を利用した刃部。先端片縁に刃部。		深緑石
第18404 PL179	113	スクレイパー	覆土	完形	6.6	4.5	1.1	28.1	やや大きな剥片の長辺部分に刃部作出。		深緑石
第18404 PL179	114	石造	覆土	完形	7.9	5.3	1.1	55	縦型。つまみ部やや斜めに付き。大きく幅広。片面自然磨。粗い刃部。		細粒輝石安山岩
第18404 PL179	115	打製石斧	覆土	完形	16.5	6.1	2.4	292	磨形。長身で刃部の開き方は弱い。側縁部丁寧な刃磨し。刃部厚鈍。		細粒輝石安山岩
第18404 PL179	116	打製石斧	覆土	完形	10.2	5.3	1.7	94	磨形だが、両側縁部僅かにはらむ。刃部やや狭く、細かい刃部作出。		黒色頁岩
第18404 PL179	117	打製石斧	床	完形	9.4	4.9	1.5	68	磨形。極めて粗い作り。片側縁は無調整。刃は斜めに作る。		細粒輝石安山岩
第18404 PL179	118	打製石斧	覆土	ほぼ 完形	11.1	5.4	1.3	89	磨形。刃部は薄く作られる。厚鈍。		細粒輝石安山岩
第18404 PL179	119	打製石斧	床	完形	11.2	5.0	1.3	103	磨形。刃部はやや丸みを持つ。		細粒輝石安山岩
第18404 PL179	120	打製石斧	覆土	完形	11.0	5.3	2.6	181	磨形。基部が厚く刃部に向かって薄く作られる。		黒色安山岩
第18504 PL179	121	打製石斧	覆土	欠損	11.4	7.2	1.4	152	磨形。板状縫利用。杓文字形で薄手の作り。基部を欠損か。		細粒輝石安山岩
第18504 PL179	122	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	5.2	1.8	(68)	刃部片、若干の厚鈍。		黒色安山岩
第18504 PL179	123	打製石斧	覆土	完形	(8.1)	4.5	1.0	(38)	短形磨。短身で刃は円刃。極めて薄手の作り、若干の厚鈍見られる。		黒色頁岩
第18504 PL179	124	打製石斧	床	欠損	(5.0)	5.3	2.1	(112)	刃部片、使用痕顯著。		細粒輝石安山岩
第18504 PL179	125	打製石斧	覆土	欠損	(9.5)	6.6	2.0	(174)	磨形。基部を欠く。やや厚手の作り。		細粒輝石安山岩
第18504 PL179	126	打製石斧	覆土	欠損	(5.1)	3.7	1.5	(32)	基部片。		黒色頁岩
第18504 PL179	127	打製石斧	床	欠損	(10.1)	5.7	2.1	(112)	磨形。中央部が肥厚し刃部は薄く作られる。刃先部分を欠く。		細粒輝石安山岩
第18504 PL180	128	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	5.2	1.8	(92)	基部片と思われる。比較的厚手である。被熱。		黒色安山岩
第18504 PL180	129	打製石斧	床	欠損	(8.6)	4.2	1.0	(57)	短形磨の基部片。磨身でやや薄手の作り、両面に自然面見られる。		細粒輝石安山岩

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第185図 PL180	130	打製石斧	覆土	欠損	(5.9)	6.2	1.7	(63)	磨形基部片、片面に自然面残存。刃部が大きく開く形か。	黒色頁岩	
第185図 PL180	131	打製石斧	覆土	欠損	(10.0)	5.8	1.0	(88)	板状磨利用。基部および刃部を欠損。	粗粒輝石安山岩	
第185図 PL180	132	スクレイパー	覆土	完形	8.5	5.2	1.2	56	上端に平坦な打面を持つV字形剥片。上面に自然面。側縁に刃部作出。	黒色頁岩	
第185図 PL180	133	スクレイパー	床	完形	9.4	8.1	1.7	127	大型剥片利用。薄い側縁に鋭い側縁による刃部作出。	黒色安山岩	
第185図 PL180	134	砥石か	覆土	完形	6.5	5.0	4.5	91	軟質の角礫。一部に溝状の研磨部。	黒英岩(浅黄質岩)	
第185図 PL180	135	磨石	覆土	ほぼ完形	9.0	8.4	4.1	478	楕圓形呈す。端部打撃により割落小。	安山岩	
第185図 PL180	136	磨石	覆土	ほぼ完形	11.7	7.5	5.8	753	狭形楕。使用面平滑で浅い打痕による凹み、端部に欠けあり。被蝕。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL180	137	磨石	覆土	完形	8.4	7.2	3.3	297	扁平な円楕利用。両面平滑。	安山岩	
第186図 PL180	138	磨石	覆土	完形	8.9	7.4	4.7	459	楕圓形呈す。両面使用により平滑な面を有す。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL180	139	磯部	覆土	完形	14.7	5.0	4.0	497	棒状楕。端部に鋭い打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL180	140	磨石	覆土	完形	12.2	7.4	5.2	669	やや不定形の楕。顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第186図 PL180	141	磨石	覆土	完形	11.0	6.9	4.0	465	扁平な小円形を呈す。両面磨り面とし平滑。浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第186図 PL180	142	磨石	覆土	欠損	(5.7)	8.3	4.4	(251)	扁平な円楕利用。半分欠損。使用面平滑で小さな凹みを有す。被蝕。	安山岩	
第186図 PL180	143	磨石	覆土	ほぼ完形	15.3	8.7	5.0	881	扁平な長円楕。片面及び側縁部分に顕著な割落。	流紋岩	
第186図 PL180	144	砥石	砂	ほぼ完形	25.9	7.0	6.3	1,811	大型の棒状楕。端部および側縁部に打痕顕著。	粗粒輝石安山岩	
第187図 PL180	145	砥石	床	欠損	(10.9)	12.2	10.6	(2,130)	大型片。砥石として利用。研磨による溝が対面に見られる。	デイスサイト	
第187図 PL180	146	台石	覆土	欠損	(11.1)	(10.8)	8.7	(2,130)	大型の礫を利用した台石片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第187図 PL180	147	台石	床	完形	41.3	38.9	11.8	32,000	大型の礫。一部平坦面を使用面としている。	多孔質粗粒輝石安山岩	

#### 95-21号住居跡(第189～192図; PL180)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)		① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第189図 PL180	1	深鉢 地方	口縁部破片	① 粗:白色粒多 ② 暗褐色	隆線による渦巻文が配され、2条隆線が共生し区画文を画す。口唇部に斜位平行波線が施される。	中期後葉古					
第189図 PL180	2	深鉢 床	口縁部突起	① 細:輝石少 ② 鈍い褐色	内外面とも渦巻状意匠を配した環状突起。下位は3方からの中空状となす。突起下端及び側面も隆線による渦巻文を施す。	中期後葉信州系					
第189図 PL180	3	深鉢 床	体部破片	① 細:石英・輝石多 ② 鈍い褐色	2条の隆線面に画された磨消部懸垂文構成か。縄文はRL斜位充填施文。	中期末葉					
第189図 PL180	4	深鉢 覆土	体部破片	① 細:石英・輝石 ② 褐色	沈線に画された磨消部弧状意匠。施文部は無施L光充填施文。	後期初葉					
第189図 PL180	5	深鉢 覆土	体部破片	① 粗:石英多・輝石 ② 鈍い赤褐色	2条隆線による弧状・渦巻状意匠。隆線間は刻みを加え、空白部は短沈線を施す。	中期後葉信州系					
第189図 PL180	6	深鉢 +14	体部破片	① 粗:石英多 ② 鈍い赤褐色	隆線による渦巻状意匠。側縁は沈線小。磨面初葉者しい。	中期後葉信州系					
第189図 PL180	7	浅鉢 +7	頸部破片	① 粗:石英少 ② 鈍い赤褐色	頸部回曲する。隆線による弧状意匠小。縦位条線を充填する。	中期後葉信州系					
第189図 PL180	8	深鉢 +5	体部破片	① 細:輝石少 ② 鈍い褐色	外反する体部。縦沈線による弧線が描かれる。他は無文。	中期末葉 後期初葉					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第189図 PL180	9	打製石斧	+8	欠損	(6.6)	8.2	1.2	107	刃部片。幅広く比較的薄手の作りである。	粗粒輝石安山岩	
第189図 PL180	10	磯部	床	完形	16.9	6.0	3.5	418	やや不定形の棒状。顕著な使用痕は見られず。	安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-22号住居跡(第192図: PL.180)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			① 胎色	② 土調							
第192図 PL.180	1	深鉢 +7	口縁～体部1/4 口: 16.4	① 粗: 石英 ② 黒褐色	筒状の器形。口縁部隆線上位に刺突文が有る。下位には縦文・平字状意匠が配され下位より底面隆線が発生し区画文を有す。区内には魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第192図 PL.180	2	深鉢 P1	体部 最大: 14.8	① 粗: 白色粒多 ② 鈍い褐色	縦や斜に内湾する体部中央。縦位波状沈線による懸垂文構成。5単位を数える。地文はLR縦位施文。あるいは摺り戻りか。胴体下部は意匠的な欠損後研磨を加える。上端は加熱による剥落が内外面に及ぶ。	中期後葉新					
第192図 PL.180	3	深鉢 P1	口縁部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 暗赤褐色	口縁部隆線以下。縦位波状沈線と斜位沈線が施される。垂下隆線も看取される。	中期後葉信州系					
第192図 PL.180	4	深鉢 P11	頭部破片	① 粗: 石英少 ② 褐色	小破片のため判然としない。屈曲部下位に低位隆線を設け、沈線を源線とする。内外面研磨。	中期後葉					
第192図 PL.180	5	深鉢 P17	頭部破片	① 粗: 石英・輝石少 ② 鈍い赤褐色	小破片のため判然としない。屈曲部下位に隆線を設け、沈線を源線とする。内外面研磨。	中期後葉					
第192図 PL.180	6	深鉢 P17	口縁部破片	① 粗: 輝石 ② 鈍い赤褐色	頭部で強く屈曲し内湾気味に開く口縁部。無文で外面は丁寧な研磨を施す。	中期後葉					
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第192図 PL.180	7	石皿	却内	欠損	(2.1)	1.0	0.5	(1.0)	先端部を欠く。	黒曜石	

95-23号住居跡(第195～199図: PL.181・182)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考
			① 胎色	② 土調			
第195図 PL.181	1	深鉢 +7	口縁～体部1/3 口: (40.0) 残高: 48.1	① 粗: 石英・輝石 ② 赤褐色	平縁。口縁部は隆線による渦巻文と楕円状区画文構成。区内には沈線を源線とし縦位短沈線を充填。体部は上下2帯に分帯され。上位文様は2条沈線による区画文を配す。区内には弧状短沈線と縦位短沈線を充填する。下位文様は下帯を開放する懸垂文構成。	中期後葉信州系	
第195図 PL.181	2	深鉢 +19	口縁～体部下半 3/4 口: 30.0	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	キャリバー状深鉢。4単位波状沈。口縁部文様は低位縁帯で画された渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線2条に画された滑消部懸垂文構成。充填縄文は無部上。	中期後葉新	
第196図 PL.181	3	浅鉢 +29	口頭部～体部1/4 頭部径: (48.0) 残高: 10.0	① 細: 雲母・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部は強く開く。頸部は渦巻文と楕円状区画文の4単位構成。短沈線を充填する。屈曲部の横位沈線には円形刺突文が加わる。内外面研磨。	中期後葉信州系	
第196図 PL.181	4	深鉢 +14	口縁部破片	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い褐色	波状縁。波頂下隆線による渦巻文と楕円状区画文。源線は強い微で。体部は縦位波状沈線か。縄文はRL光輝。	中期後葉新	
第196図 PL.181	5	深鉢 覆土	口縁部破片	① 粗: 輝石 ② 鈍い褐色	隆線による口縁部楕円状区画文。区内には微で調整のみ。体部は弧状沈線を看取する。	中期後葉新	
第196図 PL.181	6	深鉢 +18	体部上半破片	① 粗: 白色粒多 ② 黒褐色	小型土器。体部は強く内湾する。頸部隆線以下隆線による逆U字状懸垂文か。斜位RLを充填する。	中期後葉新	
第196図 PL.181	7	深鉢 +35	口縁部破片	① 粗: 輝石 ② 黒褐色	口縁部は横位。体部は縦位RLを施す。体部逆U字状・傘手状沈線源部を見る。口唇部に保存する。	中期後葉新	
第196図 PL.181	8	深鉢 +14	口縁部破片	① 粗: 大粒石英 ② 黒褐色	口縁部内湾。2条の横位沈線が2段に施される。地文は黒系R縦位施文。	中期後葉古	
第196図 PL.181	9	深鉢 +15	体部上半破片	① 粗: 石英 ② 褐色	小型土器。キャリバー状を呈す。縦位RLRが断面を覆う。	中期後葉新	
第196図 PL.181	10	深鉢 +10	体部下半～底部 1/2	① 粗: 白色粒・輝石 ② 鈍い褐色	垂下沈線2条による滑消部懸垂文構成。施文部縄文は無部上縦位充填施文。縦位波状沈線も加わる。	中期後葉新	
第196図 PL.181	11	深鉢 +17	口縁～体部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 黒褐色・鈍い赤褐色	平縁か。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区内には縦位短沈線を充填。源線沈線。体部は沈線によるU字状意匠を配し矢印状意匠も加わる。懸垂文構成か。	中期後葉信州系	
第197図 PL.181	12	深鉢 +24	口縁～体部上半 1/6	① 細: 石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部隆線以下沈線による弧状意匠文が乱雑に配される。器形劣存。	後期初葉	
第197図 PL.181	13	鉢 +30	口縁部破片	① 細: 雲母少・輝石 ② 灰黒褐色	平縁。口縁部は外反し。体部は強く開く。頸部隆線を配す。内外面丁寧な研磨を施し。赤系も加わる。	中期後葉	
第197図 PL.181	14	深鉢 +5	口縁部破片	① 粗: 石英多・輝石 ② 褐色	平縁。器面磨落著しい。隆線による口縁部区画文構成か。区内には魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第197図 PL.182	15	鉢? +10	突起破片	① 粗: 石英・輝石 ② 赤褐色	双環状突起。沈線で縁取られ。接点に傘手状沈線を施す。突起部には沈線による楕円状意匠や円形刺突文を施す。内面丁寧な研磨。	中期後葉新	
第197図 PL.182	16	深鉢 P1	体部上半破片	① 粗: 石英 ② 褐色	両耳面か。強く内湾する体部。横位肥手を設け上面に渦巻文を配す。縁帯と沈線による区画文を設け縦位波状条線を充填する。	中期後葉新	
第197図 PL.182	17	深鉢 +7	突起破片	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い褐色	中空状突起。縁帯を2条隆線が縁取り。中に輪帯状意匠を配す。沈線を源線とし。短沈線を充填する。	中期後葉信州系	

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土質			文 様 の 特 徴 等	備 考					
			① 胎色	② 土質								
第19706 PL182	18	深鉢 +31	突起破片			① 胎:石英・輝石 ② 褐色	土層境の白線部突起。隆線がたすき状に交差し、 横位沈線に円形刺突文が加わる。	後期初葉				
第19706 PL182	19	貝輪状土製品?	破片			① 胎:輝石 ② 鈍い褐色	あるいは吊り手土器把柄か、内外面縁辺に円形刺 突文が連続する。	後期初葉?				
第19706 PL182	20	深鉢 底:6.6/残:3.6	底部			① 胎:石英・輝石 ② 黒褐色	外気味に立ち上がる。2条の沈線による懸垂文構 成。斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系				
第19706 PL182	21	深鉢 +9	底部			① 胎:石英・雲母 ② 鈍い褐色	小型の深鉢。傘線状の垂下沈線下部を見る。	中期後葉新				
第19706 PL182	22	深鉢 +12	底部			① 石英多・輝石 ② 鈍い赤褐色	僅かに上げ筋。外気味に立ち上がる。無文で縦位 線で調整を施す。器厚薄手。	中期後葉				
第19706 PL182	23	台付深鉢 覆土	台部破片			① 胎:白色粒多 ② 鈍い褐色	円孔を4単位配す器部。底部に横位隆線と設け、脚 部は円孔両面に沈線による輪状区画文を配す。区画 内は斜位沈線や渦巻文を充填する。	中期後葉信州系?				
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況		石 材	備 考
第19706 PL182	24	石碗	+17	完形	3.1	1.5	0.3	1.1	凹基無蓋。薄手で細身。作りは丁家。		チャート	
第19706 PL182	25	石碗	+14	完形	1.9	1.4	0.2	0.6	凹基無蓋。挟りやや深い。		輝緑石	
第19706 PL182	26	石碗	床	欠損	2.0	1.3	0.3	0.6	凹基無蓋。反りを持つ。片脚を欠く。		輝緑石	
第19706 PL182	27	石碗	振り方	欠損	(1.8)	(1.5)	0.4	(0.8)	平基無蓋。やや厚みを持つ。		輝緑石	
第19706 PL182	28	石碗	覆土	ほぼ 完形	(1.7)	0.8	0.3	(0.4)	凹基無蓋。小型で細身の作り。		輝緑石	
第19706 PL182	29	石碗	覆土	ほぼ 完形	2.2	1.6	0.4	1.2	平基無蓋。作りは軽い。		輝緑石	
第19706 PL182	30	石碗	覆土	欠損	(1.9)	(1.8)	0.4	(0.9)	平基無蓋。脚および先端部を僅かに欠く。		輝緑石	
第19706 PL182	31	石碗	+7	欠損	(3.3)	1.6	0.4	(1.7)	凹基無蓋。挟りは浅く薄手で細身。作りは丁家。先端 部を欠く。		黒色頁岩	
第19806 PL182	32	石碗	覆土	完形	2.1	1.6	0.6	1.3	先端部はほぼ作り出されているが、基部は厚く未作 成か。		チャート	
第19806 PL182	33	石碗	床	欠損	(1.5)	1.5	0.4	(0.6)	凹基無蓋。先端部を欠く。		輝緑石	
第19806 PL182	34	石碗	床	完形	3.0	0.7	0.5	1.1	棒状隆。両端状に角を丁家に落としている。		輝緑石	
第19806 PL182	35	石碗	覆土	完形	2.6	1.7	0.5	1.0	棒状隆。両端が尖る。		輝緑石	
第19806 PL182	36	石碗	覆土	欠損	(2.6)	0.9	0.5	(1.3)	棒状隆。基部先端部僅かに欠く。やや粗い作り。		輝緑石	
第19806 PL182	37	石碗	覆土	欠損	2.0	0.8	0.4	0.7	小型の棒状隆。基部先端部僅かに欠損か。		輝緑石	
第19806 PL182	38	刺片	PI14	欠損	2.7	4.3	0.8	7.4	U字状の刺片側縁部分に刃部作況。		輝緑石	
第19806 PL182	39	スクレ イパー	覆土	完形	2.4	2.1	0.9	2.7	不定形で、縁辺部分剥離見られる。		輝緑石	
第19806 PL182	40	打製石 斧	覆土	完形	9.8	5.5	2.0	113	扇形。上部両側に鋭い挟りを持つ。刃部に鋭利さは見 られない。		粗粒輝石安山岩	
第19806 PL182	41	打製石 斧	+39	完形	9.8	5.0	1.8	74	扇形。なすび形を呈し、基部厚く方は両方で摩耗見 られる。		黒色頁岩	
第19806 PL182	42	打製石 斧	+20	欠損	(6.7)	4.7	1.3	(54)	両側縁がわずかに括れる形状。基部を欠く。		黒色頁岩	
第19806 PL182	43	打製石 斧	+3	欠損	(5.5)	4.5	1.2	(44)	比較的薄手の基部片。両面に自然面が残る。		粗粒輝石安山岩	
第19806 PL182	44	打製石 斧	+17	欠損	(7.2)	6.0	2.0	(126)	基部片と思われる。比較的厚く、上端面は平らであ る。		黒色頁岩	
第19806 PL182	45	打製石 斧	+30	欠損	(4.8)	3.8	1.2	(30)	基部片。		黒色頁岩	
第19806 PL182	46	磨石	+31	完形	7.3	7.0	3.8	244	やや小面りの扁平な円盤。両面に使用面。中央部に打 痕見られる。		粗粒輝石安山岩	
第19806 PL182	47	磨石	+9	完形	13.7	7.4	6.4	1,000	供石の礫。表面比較的平滑。下部部に打痕が見ら れる。		粗粒輝石安山岩	
第19906 PL182	48	磨石	+24	欠損	(8.5)	8.8	5.5	(494)	円盤利用。両面に使用面。中央部分に打痕見られる。		石英閃緑岩	
第19906 PL182	49	凹石	+21	ほぼ 完形	11.3	9.8	4.6	620	やや扁平な円盤。両面に凹み穴を持つ。偶然によるひ び割れ顕著。		粗粒輝石安山岩	
第19906 PL182	50	軽石製 品	床	ほぼ 完形	7.8	3.9	1.1	14	凹形形の板状を呈し下部がやや薄く作られる。上部に やや大きな円孔。		軽石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第199図 PL182	51	石鉢	+17	欠損	(17.4)	14.9	14.3	(6.250)	大型石鉢の破片。上部の欠け口は角が丸く整形。再利用が想定される。	デイスait	

95-24号住居跡(第203・204図:PL182~183)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)				① 胎色 ② 土調	文様の特徴等	備考			
第203図 PL182	1	浅鉢 床	口縁部破片			① 胎:石英 ② 胎赤褐色	口唇部外面突出。体部上半に内湾を持たせる。内外面磨を施し、赤彩を加える。赤彩範囲・意匠は不明。	中期後葉			
第203図 PL182	2	深鉢 覆土	口縁部破片			① 胎:石英・輝石 ② 胎褐色	口縁部は幅広い無文部を設け以下隆線による区画文構成。縄文はR1.充填施文。	中期後葉新			
第203図 PL182	3	深鉢 +15	胴部破片			① 胎:輝石 ② 胎褐色	2条隆線を傾位に付す。下位隆線には沈線が沿う。以下傾位懸垂し施す。	中期後葉古			
第203図 PL182	4	深鉢 +6	体部破片			① 胎:石英・輝石 ② 胎褐色	垂下沈線と傾位波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位施文。	中期後葉古			
第203図 PL182	5	深鉢 覆土	体部破片			① 胎:石英・輝石 ② 胎褐色	傾位沈線2条を配す。沈線間は無文。以下無印し縦位施文。	後期前葉			
第203図 PL182	6	深鉢 Ph13	体部破片			① 胎:石英・輝石 ② 胎褐色	外反する体部。2条隆線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系			
第203図 PL182	7	深鉢 +7	胴部破片			① 胎:輝石 ② 胎赤褐色	傾位隆線に深い断面状沈線を加える。体部は傾位を付す垂下隆線による懸垂文構成。空白部は傾位沈線や傾位沈線を施す。	中期後葉信州系			
第203図 PL183	8	深鉢 伊	体部破片			① 胎:石英・雲母 ② 胎褐色	2条沈線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系			
第203図 PL183	9	深鉢 伊	体部破片			① 胎:石英・雲母 ② 胎褐色	地文状に斜位条線を施し。斜位沈線を格子状に加える。	中期後葉信州系			
第203図 PL183	10	深鉢 +7	体部破片			① 胎:石英・輝石 ② 胎褐色	幅広い隆線を弧状に配し沈線2条を重ねる。側面も沈線。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系			
第203図 PL183	11	深鉢 伊	底部 底:7.3			① 胎:石英 ② 胎褐色	緩やかに外反気味立ち上がる体部下半。無文。器厚は薄手。底面器面磨焼。	中期後葉			
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第203図 PL183	12	石碗	伊内	完形	1.7	1.6	0.2	0.6	凹基無蓋。挟り浅い。薄手で作りは丁寧。	黒曜石	
第203図 PL183	13	石碗	床	欠損	(2.2)	1.3	0.3	(0.5)	凹基無蓋。挟り浅くやや細身作りは丁寧。片脚を僅かに欠く。	黒曜石	
第203図 PL183	14	石碗	覆土	ほぼ完形	1.9	1.6	0.5	1.2	凹基無蓋。調整は側縁部のみ細い作り。	黒曜石	
第203図 PL183	15	石碗	覆土	欠損	(2.1)	1.3	0.3	(0.5)	凹基無蓋。挟り小さく薄手の作り。	黒曜石	
第203図 PL183	16	石碗	Ph15	欠損	(2.4)	(1.4)	0.3	(0.9)	凹基無蓋。片脚および先端を欠く。	黒曜石	
第203図 PL183	17	石碗	覆土	欠損	1.5	(1.6)	0.2	(0.3)	凹基無蓋。小型品。脚を欠く。	黒曜石	
第203図 PL183	18	石碗	覆土	欠損	(1.3)	1.5	0.3	(0.7)	凹基無蓋。挟り浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第203図 PL183	19	石碗	覆土	欠損	(1.4)	(1.6)	0.2	(0.6)	凹基無蓋。先端部を欠く。	黒曜石	
第203図 PL183	20	石碗	覆土	欠損	(2.1)	1.3	0.4	(1.0)	基部。先端部を欠く。縁のつまみ部の可能性も有り。	黒曜石	
第203図 PL183	21	打製石 弁	+12	完形	8.4	5.6	1.5	91	扇形。短身で器面風化。	黒色頁岩	
第204図 PL183	22	凹石	+7	完形	11.1	7.9	4.7	680	扁平磯で両面磨り面で、凹みを有し。両側面も平坦な磨り面としている。	粗粒輝石火山岩	
第204図 PL183	23	凹石	伊	完形	12.8	8.6	4.9	760	扁平な長円磯。両面に浅い凹みを有す。	粗粒輝石火山岩	
第204図 PL183	24	凹石	床	完形	11.7	8.4	4.3	620	やや扁平な磯。両面に複数の打製状の凹みを有す。被熱。	粗粒輝石火山岩	
第204図 PL183	25	磨石	伊	完形	7.5	6.3	3.8	272	扁平な小円磯。使用面平坦できわめて平滑。	粗粒輝石火山岩	
第204図 PL183	26	磨石	床	完形	14.0	11.5	9.0	1700	比較的大きな円磯。顕著な使用痕は見られない。	デイスait	
第204図 PL183	27	台石	伊	完形	19.3	16.8	7.3	3,580	扁平な大型磯。平坦面を使用面とする。片面に数箇の小さい凹み穴。	粗粒輝石火山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-25号住居跡(第207・208図：PL183・184)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第207図 PL183	1	深鉢 床	口縁部破片 ① 黒：輝石 ② 黒褐色	突起を付す。口縁部は隆線による区画文と渦巻文構成。縄文は地文なし。頸部は無文で下縁に横位沈線を入れる。	中期後葉古						
第207図 PL183	2	深鉢 +4 体部下半～底部 1/2 残存 底：8.6	① 粗：黒石 ② 鈍い赤褐色	縦位波状隆線と垂下沈線2条による懸垂文構成。4単位か。地文縄文は1段。縦位施文で隆線部付丸の施文。底面に刷代痕を見る。	中期後葉古						
第207図 PL183	3	深鉢 +7 体部破片	① 粗：石英 ② 黄褐色	垂下沈線3条による懸垂文構成。縦位施文後縦位波状沈線を施す。	中期後葉古						
第207図 PL183	4	深鉢 +2 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	垂下沈線数条による懸垂文構成。沈線間の磨り消しはやや弱い。縄文は縦位。縦位波状沈線が加わる。	中期後葉古						
第207図 PL183	5	深鉢 床	体部破片 ① 粗：輝石・褐色粒 ② 鈍い黄褐色	2条隆線による懸垂文構成か。隆線中位は連続状とする。縄文は縦位。L。	中期後葉古						
第207図 PL183	6	深鉢 +12 床	体部上半破片 ① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	横位隆線以下2条の沈線を創線とし、緩やかな横位波状沈線を配す。地文は縦位。L。	中期後葉古						
第207図 PL183	7	深鉢 +4 体部破片	① 粗：輝石少 ② 黒褐色	2条の沈線に面された横位磨擦部と下位に弧状意匠を配す。縄文は1段充填施文。内面研磨。	後期前葉新						
第207図 PL183	8	深鉢 +6 口縁部破片	① 粗：石英 ② 黒褐色	口縁文様帯は狭く、隆線による渦巻文区画文構成。区画内縦線は沈線。横位矢羽状突文を充填する。頸部は無文。	中期後葉古						
第207図 PL183	9	深鉢 跡	体部上半破片 ① 粗：石英少 ② 黒褐色	横位隆線2条より上端磨帯とした2条隆線が懸垂する。体部空白部は縦位沈線2条で小区画れ縦位矢羽状沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	10	深鉢 跡	体部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 明褐色	中位に蛇行意匠を配す垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は内皮細沈線を縦位に施し、縦位結節文を加える。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	11	深鉢 +8 体部中位破片	① 粗：石英・雲母多 ② 鈍い赤褐色	隆線による電状意匠を配し下縁より2条隆線による分岐懸垂文が新生する。意匠内は沈線による渦巻文。空白部は矢羽状沈線を施す。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	12	深鉢 +9 体部破片	① 粗：石英 ② 褐色	斜みを付す横位隆線上位に沈線2条が沿う。下位は浅い沈線による弧線が施される。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	13	深鉢 跡	体部破片 ① 粗：石英・雲母多 ② 明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。施文は内皮使用。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	14	深鉢 跡	体部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 明褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は内皮細沈線を縦位に施し、縦位結節文を加える。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	15	深鉢 +8 体部破片	① 粗：輝石 ② 明褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位矢羽状沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	16	深鉢 跡	体部破片 ① 粗：雲母多 ② 赤褐色	数条の平行沈線による懸垂文構成。無筋L縦位施文後コンパス状の波状沈線を垂下させる。	中期後葉古						
第207図 PL183	17	深鉢 Pt6	体部破片 ① 粗：石英少 ② 暗褐色	垂下隆線による懸垂文構成。2条沈線で小区画をれ、無文部と施文部は縦位矢羽状沈線を施す。	中期後葉信州系						
第207図 PL183	18	深鉢 跡	体部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色	垂下隆線の痕跡を見る。縦位矢羽状沈線を充填する。施文は丁寧。	中期後葉信州系						
第207図 PL184	19	浅鉢 床	口縁部破片 ① 粗：白色粒 ② 暗赤褐色	口唇部外面突出。直線的に体部と一体化する。内外面丁寧を施し、赤彩を加える。赤彩範囲・意匠は不明。	中期後葉						
第207図 PL184	20	浅鉢 床	口縁部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口唇部内面突出。直線的に体部と一体化する。内外面丁寧な調整を施す。赤彩粗残る。	中期後葉						
第207図 PL184	21	深鉢 床	口縁～体部上半破片 ① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	口唇部内面幅広く肥厚する。外面は無文。	中期後葉						
第207図 PL184	22	深鉢 +7 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色	口唇部内面に隆線部付による内縁を付す。外面は無文か？	中期後葉信州系？						
第208図 PL184	23	深鉢 +10 口縁部破片	① 粗：白色粒 ② 黒褐色	外反する口縁部。口唇部内面に隆線部付による内縁を付す。外面は無文。	中期後葉信州系？						
第208図 PL184	24	浅鉢 跡	口縁部破片 ① 粗：石英 ② 暗褐色	口唇部外面肥厚。体部上半の内湾か。内外面研磨を施し、赤彩を加える。赤彩範囲・意匠は不明。	中期後葉						
第208図 PL184	25	深鉢 跡	口頸部破片 ① 粗：輝石 ② 褐色	頸部外反。下位に横位隆線を付す。内外面とも研磨を施す。	中期後葉						
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第208図 PL184	26	石懸	床	完形	1.3	1.4	0.3	0.4	凹基無基。小型品。中央部分が肥厚。	黒輝石	
第208図 PL184	27	石懸	覆土	欠損	2.2	1.3	0.6	1.4	石懸の基部欠損品か。	黒輝石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-26号住居跡(第210-211図; PL.184-185)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第210図 PL.184	1	深鉢 +25 体部中位のふ残	① 粗:石英多 ② 暗赤褐色	内湾する体部相部。胴付けの2条隆線による渦巻文を配し、下腰より隆線が垂下する巻帯文様は、空白部は、短沈線及び縦位沈線を充填する。器面厚面著しい。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	2	深鉢 +37 口縁部破片	① 粗:石英 ② 黒褐色	渦巻文突起を付し下腰に2条隆線による渦巻文と短沈線を施す。突起内縁には沈線による渦巻文を配す。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	3	深鉢 +20 口縁部破片	① 粗:白色粒 ② 明褐色	口縁部は隆線による区画文構成。区内内側縁は沈線。斜位短沈線を充填する。体部は縦位条線を施す。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	4	深鉢 +32 口縁部破片	① 粗:石英多 ② 黒褐色	沈線による口縁部渦巻文と区画文。区内には縦位短沈線。斜位短沈線を施す。体部は斜位短沈線。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	5	深鉢 +27 口縁部破片	① 粗:石英多 ② 暗褐色	口縁部厚面味で無文。横位沈線を施し、以下弧状隆線と縦位・斜位短沈線を埋める。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	6	深鉢 +16 口縁部破片	① 粗:石英多 ② 褐色	口縁部厚し無文。以下隆線で画される区画文構成か。沈線を施す。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	7	深鉢 +30 口縁部破片	① 粗:石英多・輝石 ② 黒褐色	口唇部内縁を設ける。口縁部は隆線による区画文。隆線は沈線。充填文は短沈線。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	8	深鉢 +31 口縁部破片	① 粗:石英 ② 黒褐色	口縁部に渦巻文と横位隆線を配す。体部は浅い弧状沈線か。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	9	深鉢 卍 口縁部破片	① 粗:白色粒多 ② 暗褐色	内縁を付す。口縁部は隆線による反転する渦巻文を配す。上位に横位交互斜交文を施す。体部は斜位短沈線か。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	10	深鉢 +36 口縁部突起片	① 粗:雲母多 ② 黒褐色	瘤状突起。表裏面とも渦巻状意匠を配す。内外面とも瘤状の粘土帯を拵付した製作。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	11	深鉢 +30 口縁部突起片	① 粗:白色粒 ② 暗褐色	隆線による渦巻状意匠を正面・上面に配す。正面中央に孔を設け、中空状となる。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	12	深鉢 +38 口縁部突起片	① 粗:石英・輝石 ② 赤褐色	渦巻文を基調とした中空状突起。正面・上面及び右側面に渦巻状意匠を配す。孔は正面左より下位に貫通する。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	13	深鉢 +40 口縁部突起片	① 石英・雲母少 ② 黒褐色	円柱状突起。正面・上面に渦巻状意匠を配す。左右側面に及び器面より孔を穿ち中空状となる。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	14	深鉢 +18 体部破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色・赤褐色	加熱により大きく歪む。隆線によるS字状意匠より2条隆線が派生する。空白部は短沈線を埋める。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	15	深鉢 +10 胴部破片	① 粗:石英多 ② 褐色	胴部に2条隆線を沿らし、口縁部は区画文。体部は弧状沈線や魚鱗状沈線を施す。2条隆線間には斜交文を加える。口縁部区内には短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	16	深鉢 +32 体部上半破片	① 粗:石英・雲母 ② 暗褐色	隆線による渦巻文を斜位に配し、下腰より2条隆線が弧状に派生する。小渦巻文も沈線で描かれる。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	17	深鉢 +30 体部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	2条隆線による不定形区画文。区内内側縁は沈線。充填文は短沈線を充てる。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	18	深鉢 +31 体部上半破片	① 粗:石英・雲母 ② 赤褐色	隆線による渦巻文より横位2条隆線が派生する。上位には隆線と交互斜交文による区画文を配す。区内内には短沈線を密に充填する。突起斜縁頂縁を見る。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	19	深鉢 +16 体部破片	① 粗:石英 ② 褐色	加熱により著しく歪む。沈線による渦巻文や弧線が配される。短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第210図 PL.184	20	深鉢 +35 体部破片	① 粗:白色粒多・石英多 ② 褐色	加熱により著しく歪む。隆線による弧線より不定形区画文が画される。区内内には短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第211図 PL.185	21	深鉢 +31 体部下半のみ残	① 粗:石英多 ② 鈍い赤褐色	隆線によるU字状区画文。区画中に垂下隆線が分割する。区内内には斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第211図 PL.184	22	石礫	+25	完形	3.2	1.4	0.4	0.9	凹基無基、やや細身で端正な作り。	チャート	
第211図 PL.185	23	石礫	+31	欠損	2.0	(1.2)	0.4	(0.5)	凹基無基、挟り深い、片脚を欠く。	輝石	
第211図 PL.185	24	石礫	+31	完形	2.2	1.5	0.3	1.6	凸基無基、表面に平坦な自然面残す。作りは粗い。	チャート	
第211図 PL.185	25	石礫	覆土	欠損	(1.7)	(1.1)	0.3	(0.4)	先端部片。	輝石	
第211図 PL.185	26	石礫	覆土	欠損	2.2	1.5	0.3	1.6	凹基無基、先端部を欠く。	輝石	
第211図 PL.185	27	石礫	覆土	欠損	(1.4)	(1.0)	0.2	(0.2)	両脚が開いた凹基無基、脚部片。	輝石	
第211図 PL.185	28	スクレイパー	+31	欠損	8.0	4.9	1.2	4.8	半月形を呈し下辺に刃部を作出。上部に自然面、端を欠く。	黒色安山岩	
第211図 PL.185	29	打製石斧	+37	完形	10.7	4.5	10.8	113	楕円形、刃部の開きは弱い。片面に自然面のこり全体に内湾する。	黒輝石安山岩	



### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第2118号 PL-185	30	打製石 斧	+31	欠損	(5.7)	4.8	1.5	(48)	基部片か。	黒色頁岩	
第2118号 PL-185	31	磨石	+34	完形	10.5	7.7	5.5	640	やや不定形な円鏡。表面平滑な使用面有す。	粗粒輝石安山岩	
第2118号 PL-185	32	磨石	伊	完形	13.4	8.3	4.2	800	扁平な小円形の鏡。両平面面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-27号住居跡(第213・214図; PL-185)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文様の特徴等		備考
第2130号 PL-185	1	深鉢	口縁部破片	① 胎: 輝石 ② 胎赤褐色	波状突起。波頂下に隆線による渦巻文を配す。隆線は沈線で、斜位LRを充填する。薄手の器厚。		中期後葉新	
第2130号 PL-185	2	深鉢	口縁部破片	① 胎: 石英・輝石 ② 褐色	口唇部内面突出。口縁部隆線による渦巻文と区画文構成。区画内隆線は沈線。縦位短沈線を充填する。体部は2条沈線による懸垂文構成か。斜位短沈線を埋める。		中期後葉信州系	
第2130号 PL-185	3	深鉢	口縁部破片	① 胎: 輝石 ② 鈍い赤褐色	波状鉢。口唇部に凹みを付す。縦位沈線を多段に重ね、交互斜位文を重ねる。以下凹み外に縦位施文する。		中期後葉最古	
第2130号 PL-185	4	浅鉢	口縁部破片	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	頸部で強く凹出し、口縁部は大きく開く。内外面丁寧な研磨を施す。		中期後葉	
第2130号 PL-185	5	深鉢	体部下半破片	① 胎: 石英多・雲母多 ② 鈍い赤褐色	縦位LRが器面を覆う。		中期後葉	
第2130号 PL-185	6	深鉢	口縁部破片	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	沈線を測線とし、斜位短沈線を充填する。		中期後葉信州系	
第2130号 PL-185	7	深鉢	体部破片	① 胎: 石英・輝石 ② 灰褐色	平行沈線群による縦位・斜位施文。		中期後葉信州系	
第2130号 PL-185	8	深鉢	体部破片	① 胎: 石英・輝石 ② 暗赤褐色	2条の弧状沈線による区画文か。斜位平行沈線群を充填する。		中期後葉信州系	
第2130号 PL-185	9	深鉢 床	底部破片 底: (10.0)	① 胎: 輝石 ② 鈍い赤褐色	大型の深鉢底部。体部下半に垂下沈線の下端部を見る。懸垂文構成。		中期後葉新	

検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第2130号 PL-185	10	石 盤	雑土	完形	3.4	0.8	0.6	1.2	棒状鏡。基部は段を持ってやや膨らみ端部が尖る。器部は丁寧に作出。	黒曜石	
第2130号 PL-185	11	磨石	床	完形	12.3	8.3	6.7	1,040	楕形の鏡。両面および側面を使用し、端部に打痕あり。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第2130号 PL-185	12	敲石	+15	完形	12.3	6.3	4.5	520	棒状鏡。下端部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第2130号 PL-185	13	磨石	+29	欠損	(6.9)	7.5	4.7	(380)	やや扁平な小円鏡。両使用面は平滑。一部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第2130号 PL-185	14	凹石	+35	欠損	13.2	6.8	4.8	570	楕形の鏡の両面に2つの凹み穴を有し、端部に打痕見られる。	安山岩	
第2140号 PL-185	15	多孔石	伊	完形	24.5	18.0	10.8	4,800	大型自然礫の表面に大小複数の凹み穴を穿つ。	粗粒輝石安山岩	伊石に転用
第2140号 PL-185	16	多孔石	+17	完形	16.5	12.0	6.4	1,380	不定形な自然礫利用。両面に大小2、3個の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-28号住居跡(第216図; PL-185)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文様の特徴等		備考
第2160号 PL-185	1	深鉢	口縁部破片	① 胎: 石英 ② 黒褐色	口縁部内湾し、内外面とも丁寧な横位研磨を施す。無文。		中期後葉	
第2160号 PL-185	2	深鉢	体部破片	① 胎: 石英多 ② 褐色	垂下沈線による滑消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文。		中期未葉	
第2160号 PL-185	3	深鉢	体部破片	① 胎: 石英・輝石 ② 暗赤褐色	垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。縦位LRを施す。		中期後葉新	
第2160号 PL-185	4	深鉢	体部破片	① 胎: 石英 ② 褐色	縦位LRが器面を覆う。		中期後葉	
第2160号 PL-185	5	深鉢	体部破片	① 胎: 輝石・雲母少 ② 黒褐色	押圧を加えた縦位頭頸隆線による懸垂文構成。他は無文。		中期後葉	

検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第2160号 PL-185	6	打製石 斧	雑土	完形	9.2	4.4	1.7	78	楕形。端部に自然面見られる。基部がやや薄くなる。刃部摩耗。	黒色頁岩	
第2160号 PL-185	7	磨石	Pt 5	完形	8.0	7.7	6.6	530	傘大の球形礫利用。顕著な使用面は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第2160号 PL-185	8	磨石	Pt 5	完形	12.2	9.0	6.1	940	やや扁平な鏡で側縁を中心に打痕による割傷が見られる。	石英閃緑岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-29号住居跡(第218~220図; PL.186~187)

縄文遺構 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 ② 土 ③ 土	文 様 の 特 徴 等	備 考
第218図 PL.186	1	深鉢 +4 口縁~体部上半 1/4 口: (45.0)	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	大型の深鉢。平縁で長胴形の器形。口縁部隆縁以下隆縁による縁下伏線が垂下する。隆縁の交点には円形刺突文を付す。平行伏線による縦位伏線も垂下する。	後期前葉新
第218図 PL.186	2	深鉢 床	① 粗:石英 ② 灰褐色	口縁部は無文。下位に横位伏線を巡らし、2条隆縁と波状伏線が垂下する。地文は縦位L.R.	中期後葉古
第218図 PL.186	3	深鉢 床	① 粗:輝石 ② 灰褐色	口縁部精円状区画間に沈線による縦位5字文を施す。区画内隆縁は沈線。体部は垂下沈線による懸垂文横縁小。斜位L.R.を充填する。	中期後葉新
第218図 PL.186	4	深鉢 甌土	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口唇部内面。横位の2条沈線間に横位L.R.が充填する。	後期前葉新
第218図 PL.186	5	深鉢 床	① 粗:輝石 ② 灰褐色	口唇部内面に環状貼付文と弧状伏線を施す。外面口縁部に弧状伏線。体部上半に横位伏線を配す。地文は横位L.R.	後期前葉
第218図 PL.186	6	深鉢 床	① 粗:石英 ② 褐色	頸部回面下部に環状貼付文を付し弧状隆縁が繋ぐ。体部中位は大柄の弧状意匠が、縄文はL.R.充填隆縁文。	後期前葉古
第218図 PL.186	7	深鉢 +6 体部破片	① 粗:石英・輝石 ② 黄灰色	2条の沈線で画された弧状意匠。無節Lを充填する。磨消部は研磨を加える。	後期初期
第218図 PL.186	8	深鉢 床	① 粗:石英・輝石 ② 赤褐色	口縁部横位隆縁より斜位隆縁が発生する。交点に円形刺突文を施す。	後期初期
第218図 PL.186	9	深鉢 床	① 粗:白色粒 ② 黄灰色	突起上端部に面を持ち沈線を施す。下位は横位沈線と円形刺突文を交互に重ね、無節Lを施す。隆縁貼付粗も見られる。	後期初期
第218図 PL.186	10	深鉢 +16 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗赤褐色	口縁部横位隆縁に円形刺突文を加える。下端より隆縁が発生する。	後期初期
第218図 PL.186	11	深鉢 +4 口縁部破片	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	中位に孔を穿つ口縁部環状突起。内面口縁部に円形刺突文を配す。	後期前葉
第218図 PL.186	12	深鉢 床	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部無文。横位隆帯に強い押圧を加える。	後期初期
第218図 PL.186	13	深鉢 床	① 細:石英 ② 黄灰色	口縁部環状小突起を付す。内面は溝巻状意匠を配す。体部は沈線で作られた意匠土層を見る。	後期初期
第218図 PL.186	14	深鉢 +6 口縁部破片	① 粗:石英 ② 黄灰色	口縁部内縁。唇部間に弧状隆縁を付す。口縁部と頸部屈曲部に8字状貼付文が繋ぐ。	後期前葉古
第218図 PL.186	15	深鉢 +12 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部無文。横位隆帯に強い押圧を加える。磨消平手。	後期初期
第218図 PL.186	16	深鉢 119 口縁部破片	① 細:石英・輝石 ② 褐色	口縁部内外面に小型の環状貼付文を付し、横位伏線を施す。頸部下端に横位伏線を巡らす。	後期前葉古
第218図 PL.186	17	深鉢 +4 口縁部破片	① 粗:白色粒・輝石 ② 黄灰色	口縁部環状小突起に弧状短伏線と刺突文を配す。口縁部は横位伏線を施す。体部は斜位沈線2条の間を刺突文が充填する。	後期前葉
第218図 PL.186	18	深鉢 +4 口縁部破片	① 粗:石英大 ② 黒褐色	波瀾部に環状突起を配し中位に円孔を設ける。体部は沈線による弧状意匠を施す。内外面研磨により平滑。	後期初期新
第218図 PL.186	19	深鉢 床	① 粗:石英・片岩 ② 灰褐色	口唇部に柱状小突起と小波状意匠を設ける。口縁部隆縁部に8字状貼付文を付す。体部は弧状伏線文を施す。	後期前葉新
第218図 PL.186	20	深鉢 +7 口縁部破片	① 粗:輝石・褐色粒 ② 鈍い黄褐色	口縁部に2条の横位隆縁を設ける。隆縁には刻みを付す。口唇部内面に深い沈線。	後期前葉新
第218図 PL.186	21	深鉢 甌土	① 細:白色粒 ② 鈍い黄褐色	口縁部横位細隆縁を2条設け、体部に2条の横位伏線を施す。先端隆縁は不明。L.R.か。	後期前葉新
第218図 PL.186	22	深鉢 +4 口縁部破片	① 粗:石英 ② 赤褐色	口縁部横位隆縁を設ける。口縁部は無文。	後期初期
第218図 PL.186	23	柱口土器	① 細:輝石 ② 鈍い褐色	背面の横状把手。口縁部は肥厚し、浅い沈線を施す。体部は横位沈線と斜位伏線を施すが区画・意匠は不明。	後期初期
第218図 PL.186	24	深鉢 床	① 細:輝石少 ② 黒褐色	上端部に溝巻文を配す突起。小型の横状把手を頸部隆縁と繋ぐ。内面突起下端に小型の円形刺突文を施す。	後期前葉
第218図 PL.186	25	深鉢 床	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部は外反する。頸部に2条の横位伏線を設け、大柄の8字状貼付文を配す。	後期前葉
第218図 PL.186	26	深鉢 床	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	あるいは浅縁か。口縁部及び唇部隆縁は波状で、円孔を付す。あるいは中位突起か。体部は2条の隆縁が垂下する。縦縁L2を見るが対応しない配置である。	後期前葉古
第218図 PL.186	27	深鉢 甌土 体部破片	① 粗:白色粒・輝石少 ② 鈍い黄褐色	横位伏線2条の間を列点状刺突文が充填される。	後期初期
第218図 PL.186	28	深鉢 +7 体部破片	① 粗:白色粒・輝石少 ② 褐色	沈線による不定形意匠が配され、列点状刺突文を充填する。	後期初期
第218図 PL.186	29	深鉢 床 体部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い褐色	内面磨製部。縦位矢羽状刺突文を施す。	後期初期

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置 (K:全面)	① 胎 ② 色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第21906 PL186	30	深鉢 床	① 粗: 白色粒 ② 褐色		2条の垂下沈線による懸垂文構成。施文部は滴状の小型刻文を充填する。	後期前葉
第21906 PL186	31	深鉢 +6	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色		内湾する体部。肩部に横位沈線を設け、以下斜位沈線2条が発生する。沈線による環状・渦巻状意匠を配す。	後期前葉
第21906 PL186	32	鉢 床	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色		頸部傾曲し数条の横位沈線を重ねる。以下沈線で画された反する弧状意匠を配す・外面研ぎを加える。	後期前葉
第21906 PL186	33	深鉢 床	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色		斜位沈線2条と環状・渦巻状意匠を施す。	後期前葉
第21906 PL186	34	深鉢 床	① 粗: 石英多 ② 鈍い褐色		深い凹状の横位刻文が器面を密に覆う。	後期前葉越後系
第21906 PL186	35	注口土器 床	① 粗: 石英多 ② 褐色		底部は上り底で体部は内湾する。無文で内外面とも丁寧な様で調整を施す。	後期前葉

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第21906 PL186	36	石 罐	覆土	完形	1.7	1.2	0.3	0.4	凹基無蓋。片面は平らで作りは丁寧。	黒曜石	
第21906 PL186	37	石 罐	覆土	ほぼ 完形	1.1	1.5	0.3	0.3	凹基無蓋。小型品。脚が狭く短身。	黒曜石	
第21906 PL186	38	石 罐	覆土	欠損	(1.3)	(1.4)	0.3	(0.4)	先端部欠。	黒曜石	
第21906 PL186	39	石 罐	覆土	欠損	(1.6)	(1.3)	0.3	(0.3)	凹基無蓋。両脚を欠損品か。	黒曜石	
第21906 PL186	40	石 罐	覆土	欠損	(1.4)	(2.4)	0.4	(1.2)	凹基無蓋。大型級の基部。	黒曜石	
第21906 PL186	41	石 罐	覆土	欠損	(1.2)	(1.4)	0.4	(0.7)	凹基無蓋。先端部を欠く。	黒曜石	
第21906 PL186	42	石 罐	覆土	欠損	(1.3)	(0.9)	0.3	(0.3)	凹基無蓋。小型品。脚および先端部欠く。	黒曜石	
第21906 PL186	43	石 罐	覆土	完形	3.8	2.4	0.8	4.6	五角形の大きなつまみ部を持ち、上部には自然面が残る。	チャート	
第21906 PL187	44	石 罐	覆土	欠損	(1.3)	(1.1)	0.2	(0.4)	やや扁平で蓋部を欠く。石級の可能性も。	チャート	
第21906 PL187	45	石 罐	覆土	欠損	1.6	0.5	0.3	0.3	鉢状で先端部欠。	黒曜石	
第21906 PL187	46	石 罐	覆土	欠損	(1.1)	(0.5)	0.3	(0.3)	石罐の先端部欠。	黒曜石	
第21906 PL187	47	打製石 斧	床	欠損	(5.1)	6.8	0.5	(29)	幅広く極めて薄手の刃部。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	48	磨石	+5	完形	6.5	5.7	4.6	214	小型の円鏡。表面は比較的平滑で一部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	49	磨石	床	完形	9.6	9.2	5.6	700	やや扁平な鏡。側縁一部に若干の打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	50	磨石	床	完形	5.0	4.6	4.3	136	小型の円鏡。表面は比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	51	磨石	覆土	完形	5.5	5.4	2.6	99	扁平な小円鏡。両面比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	52	凹石	覆土	欠損	(9.1)	6.1	4.2	(396)	棒状を呈す。平坦面に浅い凹穴を有し、端部に打痕。欠損し扉付蓋。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	53	磨石	覆土	ほぼ 完形	8.8	8.5	3.5	416	扁平な円鏡。側縁の一部に打痕。	石英閃緑岩	
第22006 PL187	54	磨石	+12	欠損	(7.7)	6.2	3.5	(254)	やや扁平な長円鏡か。平坦面を使用面とする。打痕による凹み有り。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	55	磨石	覆土	完形	9.3	5.9	4.0	292	やや扁平な長円鏡。平坦面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	56	台石	床	完形	15.3	12.3	4.7	1,220	扁平鏡。比較的平らな面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第22006 PL187	57	硃石製 品	覆土	完形	6.3	5.7	1.4	12	板状で扇形を呈す。表面側縁共に研磨成形され端部は丸みを持つ。	硃石	

95-30号住居跡 (第226~234図; PL187~191)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置 (K:全面)	① 胎 ② 色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第22606 PL187	1	深鉢 覆土	口縁~体部中位 1/4 残存 口: (23.0) 残: 15.6	① 粗: 石英 ② 褐色		口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側縁は幅広い沈線。体部は2条の沈線に画された磨面懸垂文構成。口縁部区画内及び体部施文部は縦位L形。充填施文。薄手でしっかりした作り。	中期後葉新
第22606 PL187	2	深鉢 +25	口縁~体部上半 1/3 残存 口: (16.6)	① 粗: 石英・輝石 ② 暗赤褐色		口縁部は陸縁渦巻文と区画文構成。区画内は粗粒沈線で弧状・縦位短沈線を充填する。体部は沈線による逆U字状懸垂文構成か。無蓋L縦位充填施文。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 調査番号	No	部種・部位・残存 出土位置(坑・面高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第22606 PL187	3	深鉢 履土 口縁～体部下 半 底面中央突起 口：12.2 残：19.0	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	大型の渦巻状突起を一對配す。肩部隆線に円形刺突文と渦巻状突起を付し下部に渦巻文を中位で下向き3条の隆線が懸垂する。波底面下に蛇行隆線が垂下する。空白部は矢羽状短沈線を充填。	中期後葉信州系
第22604 PL187	4	深鉢 履土 口縁～体部下 半1/3 口：44.0 残：44.7	① 粗：石英多・雲母多 ② 暗褐色	大型の深鉢。口縁部は無文で閉く、肩部隆線には押圧を加え、体部中位に隆線による渦巻文を連続した懸垂文を配す。横位柄文刺突文を空白部に充填し、地文に縦位施文を施す。	中期後葉信州系
第22606 PL187	5	深鉢 履土 口縁～体部中位 1/3残存 口：(14.0) 残：13.0	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	口縁部折り返し状。体部は沈線のみの施文。上半に渦巻文と柄文状意匠を配す。下部は2条隆線による懸垂文構成。地文はR.L.縦位施文。	中期後葉信州系?
第22604 PL187	6	深鉢 履土 口縁～体部下 半 1/3残存 残：23.3	① 粗：輝石 ② 褐色	口唇部欠損。2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区内内側部は沈線。斜位短沈線を充填する。体部は3条の垂下沈線による懸垂文構成。湾曲部で横位沈線を連続し上半を区画する。中位に縦位短沈線を充てる。L.R.縦位充填施文。	中期後葉信州系
第22606 PL187	7	深鉢 履土 口縁～体部中位 1/4残存 口：(23.0) 残：18.0	① 粗：白色粒 ② 黒褐色	口唇部折り返し状。横位の口縁部文種帯に斜位短沈線を充填する。肩部隆線は刺突文が加わる。体部は縦位S字状意匠と蛇行隆線による懸垂文構成。矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第22606 PL187	8	深鉢 履土 口縁部～体部上 半破片 口：22.9 残：13.3	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 黒褐色	口縁部文種帯は沈線のみの施文。渦巻文と横位短沈線を施す。肩部隆線以下沈線による渦巻文下部より垂下隆線が懸垂する。隆線による波状懸垂文も配される。横位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第22700 PL187	9	深鉢 履土 口縁～体部上半 口：18.4 残：7.7	① 粗：白色粒多 ② 黒褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画構成。区内内側部は沈線で、縦位短沈線を充填する。体部は垂下隆線と縦位波状隆線による懸垂文構成が、斜位隆線も加わる。充填文は斜位短沈線。	中期後葉信州系
第22706 PL187	10	深鉢 +22 口縁部～体部上 半破片 口：(26.0) 残：9.0	① 粗：砂礫 ② 黒褐色	下部隆線、上部沈線による口縁部区画文。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は2条隆線及び蛇行隆線による懸垂文構成。空白部は矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	11	深鉢 履土 口縁～前部1/ 2残存 口：18.0 残7.5	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部は縦位で渦巻文と柄文状区画文を配し、斜位短沈線を充填する。肩部は無文。	中期後葉信州系
第22706 PL188	12	深鉢 +41 口縁部破片	① 粗：石英・輝石少 ② 鈍い黄褐色	取りを加えた垂下隆線と肩部隆線による口縁部区画文構成。沈線を側線とし横位矢羽状短沈線を充填する。地文は縦位L.R.。体部も縦位L.R.が加わる。	中期後葉信州系
第22706 PL188	13	深鉢 +34 口縁部破片	① 粗：石英多 ② 暗赤褐色	取りを加えた突起を付した横位交互刺突文種帯。隆線による柄文状区画文を造り横位交互刺突文を帯める。体部は2条隆線による渦巻文を配し、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第22706 PL188	14	深鉢 +39 口縁部破片	① 粗：石英多・雲母多 ② 暗赤褐色	取りを加えた小突起に横位短沈線を側線とする。隆線柄文状区画文を配し横位交互刺突文を施す。体部は肩部隆線より2条隆線が懸垂し、斜位短沈線が施される。	中期後葉信州系
第22706 PL188	15	深鉢 +31 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 暗赤褐色	口縁部文種帯内に横位交互刺突文を充填する。体部は肩部隆線より派生した縦位隆線が中位の渦巻文に繋がる。空白部は斜位短沈線と小渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	16	深鉢 +14 口縁部破片	① 粗：石英・雲母少 ② 黒褐色	口縁部突起脱落。下部に隆線渦巻文を配し、口縁部区内を横位沈線と交互刺突文が充填される。体部垂下隆線には柄文を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	17	深鉢 +21 口縁部破片	① 粗：白色粒多・輝石 ② 暗赤褐色	小型深鉢。細隆線による渦巻文と区画。区内上半は沈線を側線とする。弧状短沈線を充填し、体部は縦位短沈線後短沈線を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	18	深鉢 +27 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色	口縁部文種帯に横位交互刺突文を充填する。肩部隆線より横位短沈線を生じた交互刺突文短沈線を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	19	深鉢 +36 口縁部破片	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 暗赤褐色	幅広い無文口縁部。横位隆線に施された支線帯内に渦巻文を配す。側部は円形刺突文。上位隆線に突起剥落痕を見る。	中期後葉信州系
第22706 PL188	20	深鉢 +28 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	隆線による口縁部区画文か。上位に横位沈線が加わる。区内内は横位R.L.充填施文。	中期後葉系
第22706 PL188	21	深鉢 +24 口縁部破片	① 粗：雲母多 ② 暗赤褐色	口唇部内縁を付す。隆線による口縁部区画文。区内内側部は沈線。沈線による渦巻文を配し、横位短沈線を充填する。体部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	22	深鉢 +37 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	口唇部内縁を付す。隆線による渦巻文と2条隆線による区画文か。隆線間に円形刺突文を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	23	深鉢 +32 口縁部破片	① 粗：砂礫 ② 暗褐色	口唇部内縁を付す。隆線による縦位渦巻文を配し弧状隆線が派生する。上位を刺突文が、下位は斜位沈線を帯る。面縁部を施す。	中期後葉信州系
第22706 PL188	24	深鉢 +18 口縁部破片	① 粗：石英少・輝石少 ② 灰褐色	口唇部に2条の横位隆線。口縁部文種帯内は隆線による刺突状意匠を配す。縦位短沈線に帯る。充填する。	中期後葉古東北系
第22706 PL188	25	深鉢 +21 口縁～体部中位 1/5残存 口：(44.8) 残：23.7	① 粗：小礫・輝石 ② 暗褐色	大型の深鉢。体部中位で緩小に繋がる。口縁部隆線による渦巻文と区画文構成。区内内側部は沈線。斜位短沈線を充填する。体部は7・8条区画の条帯が間隔をもって縦位施文される。	中期後葉信州系

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(体面高)	①胎土 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第22740 PL188	26	深鉢 +5 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 明赤褐色 黒褐色		2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は斜交文が弧状に施される	中期後葉信州系					
第22740 PL188	27	深鉢 +15 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色		底部隆線による渦巻文を配して区画文を配す。区画内は縦位短沈線を充填する。斜位短沈線を配す。	中期後葉新					
第22840 PL188	28	深鉢 +27 肩部～体部中位 1/4残存	① 粗：雲母多 ② 褐色		口縁部区画文構成。区画内は斜交文を断線。縦位短沈線を配す。体部は渦巻文を配した3条の下部隆線と縦手状隆線による懸垂文構成。断線は沈線。斜位短沈線を配す。	中期後葉信州系					
第22840 PL188	29	深鉢 +24 肩部～体部中位 1/3残存	① 粗：輝石 ② 黒褐色		口縁～肩部外反し無文。肩部隆線は幅広く低い。体部は無断線し縦位短沈線を配す。器形に歪み有り。	中期後葉信州系					
第22840 PL188	30	深鉢 +24 肩部～体部中位 破片3点	① 粗：輝石多 ② 暗褐色		口縁部は無文小。肩部隆線下に縦位S字状あるいは縦手状隆線を設ける懸垂文構成。断線は沈線。斜位短沈線を配す。	中期後葉信州系					
第22840 PL188	31	深鉢 +38 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色		大型の深鉢。肩部隆線は低位。沈線を断線とし、体部は3条隆線を底位に配す。縦位短沈線を充填し、縦位短手状沈線を配す。	中期後葉信州系					
第22840 PL188	32	深鉢 +12 体部上半～下半 破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色		大型の深鉢。内湾する体部器形。縦位短手状隆線と2条隆線による大柄の渦巻文を配す。渦巻文下部より隆線が懸垂する。空白部は魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第22840 PL188	33	深鉢 +29 体部中位破片	① 粗：輝石・雲母少 ② 暗褐色		大型の深鉢。隆線による大柄の渦巻文と垂下沈線による野水門構成。空白部は魚鱗状沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第22840 PL188	34	深鉢 +25 口縁部突起片	① 粗：雲母多 ② 褐色		頂部が双波状となる大型の突起。頂部は沈線による方角状意匠。中位に孔を設ける。突起下部より2条隆線が垂下する懸垂文構成小。縦位短手状沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第22840 PL189	35	深鉢 +30 口縁部突起	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色		頂部双波状となる大型突起。頂部及び側面は下段両脇は隆線・沈線による渦巻文を配す。突起下部よりU字状隆線が懸垂し下位へ伸びる。	中期後葉信州系					
第22840 PL189	36	深鉢 +25 口縁部突起片	① 粗：雲母多 ② 暗褐色		隆線による縦位S字状突起意匠。上端と下端に渦巻文を配し、口縁部区画内・空白部に交互斜交文を充填する。	中期後葉信州系					
第22840 PL189	37	深鉢 +25 口縁部突起片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色		双波状突起下部に横状把手を設ける。把手下部に隆線による渦巻文を配す。空白部は横状沈線・交互斜交文を充填する。	中期後葉信州系					
第22940 PL189	38	深鉢 +21 口縁部破片	① 粗：雲母・片岩 ② 鈍い黄褐色		口縁部に渦巻文を施した環状突起を設け、下位にも隆線による渦巻文を配す。口縁部文様部は隆線による区画文で連続斜交文を断線とし交互斜交文を充填する。体部は垂下隆線を見る。	中期後葉信州系					
第22940 PL189	39	深鉢 +18 口縁部突起片	① 粗：石英・雲母多 ② 黒褐色		上端渦巻文を施した縦位S字状突起。空白部は交互斜交文を埋める。	中期後葉信州系					
第22940 PL189	40	深鉢 +32 体部上半破片	① 粗：石英 ② 暗赤褐色		隆線による横位S字状突起を配す。突起下部より隆線が垂下し、環状隆線を配す。断線は沈線と円形斜交文。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第22940 PL189	41	浅鉢 +25 口縁部破片	① 粗：石英大粒 ② 暗褐色・黒褐色		口縁部外反し口唇部に幅狭の面を持つ。内外面丁寧な研磨を施す。赤彩は内面に施す。	中期後葉					
第22940 PL189	42	浅鉢 +40 口縁部破片	① 粗：焼砂・白色粒 ② 灰褐色		無文の口縁部。径1.5cm前後の小型器種小。外縁し肩部で緩やかに屈曲する。内外面研磨を施し赤彩を加える。	中期後葉					
第22940 PL189	43	浅鉢 +3 口縁部破片	① 粗：石英大粒・輝石 ② 黒褐色		口縁部外反し口唇部に面を持つ。内外面丁寧な研磨を加え一部に赤彩痕を見る。外面に焼成後の横位沈線、縦線孔を穿つ。	中期後葉					
第22940 PL189	44	浅鉢 +9 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色		口縁部外反し体部は緩やかな湾曲を呈す。内外面に丁寧な研磨を施す。口唇部・内面に赤彩痕顕著。	中期後葉					
第22940 PL189	45	浅鉢 腹土	① 粗：石英大 ② 黒褐色		直線的な体部形態。口唇部に幅狭の面を持つ。内外面研磨。赤彩は不明瞭。	中期後葉					
第22940 PL189	46	浅鉢 +44 口縁部破片	① 粗：白色粒 ② 黒褐色		口縁～体部緩やかに湾曲する。内外面丁寧な研磨を施す。内面赤彩痕著。	中期後葉					
第22940 PL189	47	浅鉢 +5 口縁部破片	① 粗：石英 ② 黒褐色		口縁部外反し体部は緩やかな湾曲。口唇部に幅狭の面を持つ。内外面研磨を施し外面に赤彩痕を施す。	中期後葉					
第22940 PL189	48	胎台・ミニチュア 下半部欠損 径：3.2	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色		深鉢ミニチュア底部の可能性もある。内面に横状溝を穿つ。縦線孔を見るが欠損部対応ではない。	中期後葉					
第22940 PL189	49	深鉢 +42 底部1/3残存 底：7.6 残：5.3	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色		4条の垂下沈線下部面を見る。懸垂文構成。斜位短沈線を配す。底面に網状痕。	中期後葉信州系					
第22940 PL189	50	土製円盤 +29 6.5×6.7×1.1	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色		浅鉢体部の再利用小。無文で内面の研磨が顕著。周辺は瓦割に打ち欠き整形している。	中期後葉					
検出番号 図録番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第22940 PL189	51	石磨	腹土	完形	2.5	1.4	0.4	1.1	凹基無茎。やや縦身の作。	珧質黄頁岩 (或灰岩質頁岩)	
第22940 PL189	52	石磨	腹土	完形	1.7	1.5	0.4	0.6	凹基無茎。小型品だがやや厚みを有す。	黒曜石	
第22940 PL189	53	石磨	腹土	完形	1.3	1.5	0.4	0.5	凹基無茎。胴が圓く短身小型品。やや厚みがある。	黒曜石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図録番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第229図 PL189	54	石鉢	覆土	完形	1.9	1.2	0.3	0.4	凹基無茎、挟り浅い小型品。	黒曜石	
第229図 PL189	55	石鉢	覆土	欠損	1.5	1.4	0.3	0.5	凹基無茎、挟りは浅い、先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第229図 PL189	56	石鉢	覆土	完形	2.2	1.6	0.7	2.1	凹基無茎、挟り極めて浅く、基部大きく膨らむみ宛り は見られない。	黒色頁岩	
第229図 PL189	57	石鉢	覆土	ほぼ 完形	(1.9)	(1.2)	0.2	(0.4)	凹基無茎、挟り深い。	細粒輝石安山岩	
第229図 PL189	58	石鉢	覆土	完形	1.3	(1.2)	0.3	(0.2)	凹基無茎、小型品。	黒曜石	
第230図 PL189	59	石鉢	覆土	完形	3.8	2.1	0.6	4.1	凸基無茎、やや大型品。	黒色安山岩	
第230図 PL189	60	石鉢	覆土	完形	2.3	1.6	0.5	1.5	平基無茎、側縁がやや膨らむ器形。	黒曜石	
第230図 PL189	61	石鉢	覆土	欠損	(2.6)	(1.3)	0.4	(0.8)	側身で丁寧な作り、基部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL189	62	石鉢	覆土	欠損	(2.4)	(1.4)	0.3	(0.8)	側身で丁寧な作り、基部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL189	63	石鉢	覆土	欠損	(1.4)	(0.8)	0.2	0.2	先端部片。	黒曜石	
第230図 PL189	64	石鉢	覆土	欠損	(2.0)	(1.4)	0.3	(0.7)	凹基無茎、先端部から側縁部分欠く。珣品含む。	黒曜石	
第230図 PL189	65	石鉢	覆土	欠損	(1.3)	(1.6)	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL189	66	石鉢	覆土	欠損	(1.2)	(1.7)	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL189	67	石鉢	覆土	欠損	(2.5)	(2.0)	0.5	(1.6)	凹基無茎、大型品、先端部を欠く。	黒色安山岩	
第230図 PL189	68	石鉢	覆土	欠損	(1.7)	(1.5)	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟りやや深い、脚、先端部を欠く。	黒曜石	
第230図 PL189	69	石鉢	覆土	欠損	(0.8)	1.4	0.2	(0.3)	凹基無茎、挟りは浅い、先端部欠く。	黒曜石	
第230図 PL189	70	石鉢	覆土	欠損	(1.6)	(0.8)	0.2	(0.3)	脚部片。	黒曜石	
第230図 PL189	71	石鉢	覆土	完形	2.5	0.9	0.5	1.0	やや作りの粗い棒状器。	黒曜石	
第230図 PL189	72	石鉢	覆土	完形	2.9	0.6	0.5	0.5	側身の棒状器、中央部分やや太く先端部分は細く尖る。	黒曜石	
第230図 PL189	73	石鉢	覆土	完形	3.0	1.2	0.9	2.5	断面三角の縦長刺片、基部厚く先端薄い。側縁に調整 跡。未製品か。	黒曜石	
第230図 PL189	74	石鉢	Flint	完形	1.8	0.5	0.2	0.2	極めて小型の紡錘状を呈す。	黒曜石	
第230図 PL189	75	石鉢	覆土	完形	(2.1)	(0.5)	0.5	(0.6)	小型紡錘状を呈す。	黒曜石	
第230図 PL189	76	石鉢	覆土	欠損	(1.9)	(0.6)	0.5	(0.6)	薄先端部片。	黒曜石	
第230図 PL189	77	石鉢	覆土	欠損	(1.3)	0.5	0.4	(0.4)	両端を欠く。	黒曜石	
第230図 PL189	78	石鉢	覆土	欠損	(3.6)	1.6	0.8	(3.3)	つまみを持つ棒状器。先端部を欠く。	黒色安山岩	
第230図 PL189	79	石鉢	覆土	未製品	2.2	1.9	0.5	1.3	側縁部の一部に調整痕、厚みあり。	黒曜石	
第230図 PL189	80	石鉢	覆土	未製品	2.6	1.7	0.4	1.5	石鉢の未成品か。	黒曜石	
第230図 PL190	81	打製石 斧	覆土	完形	17.0	6.0	1.9	234	やや刃部が広がる器形、先端部がやや薄くなっている。	黒色安山岩	
第231図 PL190	82	打製石 斧	覆土	完形	12.6	5.7	1.2	125	磨形、板状縁利用。両面に自然面、上部側縁に僅かな 挟り有り。	細粒輝石安山岩	
第231図 PL190	83	打製石 斧	覆土	完形	11.2	4.6	1.3	88	扇形、片面に大きく自然面が残る。粗い作り。	黒色頁岩	
第231図 PL190	84	打製石 斧	覆土	完形	10.6	5.2	1.4	106	磨形、片面に一部自然面が残る。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第231図 PL190	85	打製石 斧	覆土	完形	10.1	5.7	1.4	104	磨形、作りは粗い。刃部は斜縁欠損か。	黒色安山岩	
第231図 PL190	86	打製石 斧	覆土	完形	12.0	4.7	1.5	99	磨形、裏面の自然面は平らで平滑、上部に僅かな挟り、 刃部摩耗。	黒色頁岩	
第231図 PL190	87	打製石 斧	覆土	完形	10.1	5.2	1.6	107	磨形、やや小型品で基部が細くなる。片面には自然面 が残る。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第231図 PL190	88	打製石 斧	覆土	完形	10.4	5.9	2.5	146	磨形、基部厚く刃部が薄く作られる。直刃。	黒色安山岩	
第231図 PL190	89	打製石 斧	覆土	完形	9.7	4.5	1.7	96	磨形、小型品で基部がやや細く作られる。	黒色安山岩	
第231図 PL190	90	打製石 斧	覆土	完形	13.3	5.3	2.1	179	磨形、片面に大きく自然面が残る丸みを有す。刃は円 刃で摩耗面著。	細粒輝石安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	名称	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第23106 PL190	91	打製石斧	覆土	欠損	(10.8)	6.0	3.2	(201)	刃部片、身の中央が瘤状に肥厚し、刃部に向かって極端に薄くなる。	黒色安山岩	
第23106 PL190	92	打製石斧	覆土	欠損	(7.8)	6.5	1.2	(85)	櫛形の刃部片、円方で摩耗顯著。	黒色安山岩	
第23106 PL190	93	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	5.8	1.4	(59)	刃部片、片面に自然面残す。使用による摩耗顯著。	細粒輝石安山岩	
第23106 PL190	94	打製石斧	覆土	欠損	(7.4)	4.5	2.0	(75)	基部片、先端部分が三角を呈す。	黒色安山岩	
第23106 PL190	95	打製石斧	覆土	欠損	(9.7)	5.0	2.0	(114)	基部を欠損か、刃部は厚く被熱している。	黒色安山岩	
第23106 PL190	96	打製石斧	覆土	欠損	(6.7)	5.3	1.2	(69)	刃部片と思われる。	黒色安山岩	
第23106 PL190	97	打製石斧	覆土	欠損	8.3	5.0	1.6	93	基部片と思われる。粗い割離面。側縁部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	98	打製石斧	覆土	欠損	(10.5)	6.0	2.2	(192)	基部片と思われる。側縁摩耗。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	99	打製石斧	覆土	欠損	(4.9)	3.2	0.8	(34)	基部片か、薄手で片側縁に僅かに挟り見られる。	黒色頁岩	
第23206 PL190	100	打製石斧	覆土	欠損	(5.7)	4.7	2.2	(68)	厚手作りの基部片。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	101	打製石斧	覆土	欠損	(6.0)	4.2	1.7	(49)	基部片と思われる。やや肥厚。	黒色頁岩	
第23206 PL190	102	打製石斧	覆土	欠損	(10.4)	6.2	2.2	(232)	厚手作りの基部片。上端部分が欠けている。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	103	打製石斧	床	欠損	(7.3)	4.8	1.3	(50)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	104	打製石斧	覆土	欠損	(9.4)	5.6	1.2	(94)	櫛形、薄手の作りで刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	105	打製石斧	覆土	欠損	(3.2)	3.2	0.9	(21)	基部、刃部を欠いた打製石斧片の小片。	黒色安山岩?	
第23206 PL190	106	打製石斧	覆土	欠損	(10.6)	6.0	2.2	(145)	基部片と思われる。上部は薄く刃部に向かって厚くなる。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	107	打製石斧	覆土	欠損	(7.3)	5.4	1.3	(89)	基部、および刃部先端部分を欠く。	細粒輝石安山岩	
第23206 PL190	108	打製石斧	覆土	完形	7.8	5.0	0.6	33	刃部の割離片と思われる。先端部に摩耗痕。	黒色頁岩	
第23206 PL190	109	スクレパー	覆土	完形	7.5	3.0	0.6	19	縦長剥片、先端部が尖り側縁に刃部作れ。	黒色安山岩	
第23206 PL190	110	打製石斧	覆土	欠損	(6.7)	5.3	1.2	(50)	基部片と思われる。両側縁に挟り見られる。	黒色頁岩	
第23206 PL190	111	小型磨製石斧	床	完形	5.8	2.7	1.0	32	小型定角式。両側縁がわずかに膨らみを持つ。基部端が薄くなる。	蛇紋岩	
第23206 PL190	112	磨製石斧	覆土	ほぼ完形	10.1	4.7	2.3	220	基部部を僅かに欠損か、刃部やや開き先端部僅かに欠損。縁は丸味。	蛇紋岩	
第23206 PL190	113	磨製石斧	覆土	欠損	(8.3)	(5.7)	2.7	(270)	基部片。角は丸く、器面の磨痕は丁寧。	蛇紋岩	
第23206 PL190	114	磨製石斧	覆土	欠損	(7.6)	4.3	2.2	(136)	基部片。角はほぼ直角に仕上げられる。器面の磨痕丁寧。基部打痕。	蛇紋岩	
第23206 PL190	115	磨石	覆土	完形	7.0	3.8	3.0	186	扁平な小円鏡。顯著な使用痕は見られず。	安山岩	
第23206 PL190	116	磨石	床	ほぼ完形	7.7	3.2	4.5	226	卵形の鏡。表面鉄分層。	粗粒輝石安山岩	
第23306 PL191	117	磨石	床	ほぼ完形	11.3	(7.2)	4.0	(468)	やや扁平な長円鏡。両面磨り面として使用し、凹み穴ら有す。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第23306 PL191	118	磨石	覆土	完形	8.4	6.9	3.7	298	扁平な円鏡。平面面は平滑。	安山岩	
第23306 PL191	119	磨石	床	完形	10.0	6.5	2.9	258	扁平な長円鏡。平らな面を使用か。全面平滑。	細粒輝石安山岩	
第23306 PL191	120	磨石	覆土	完形	13.2	9.5	5.6	980	やや扁平な鏡利用。片面がやや丸く膨れ中央部に打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第23306 PL191	121	磨石	覆土	完形	5.5	4.8	4.4	156	小円鏡。石質なのか表面部分的にざらつく部分が見られる。	細粒輝石安山岩	
第23306 PL191	122	磨石	覆土	欠損	(6.2)	5.3	3.3	(140)	小円鏡。両端部分打痕か。剥落顯著。表面は鉄分伏着。	不明	
第23306 PL191	123	磨石	床	完形	13.2	9.0	7.2	1230	やや大きな鏡を使用し、両面。側縁は使用により平坦を為す。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第23306 PL191	124	磨石	床	完形	13.5	6.7	4.7	770	扁平な長円鏡両面。片側面に使用面。	粗粒輝石安山岩	
第23306 PL191	125	磨石	覆土	完形	11.7	7.8	4.3	510	扁平な長円鏡。両面磨り面で浅い凹み穴見られる。	粗粒輝石安山岩	
第23306 PL191	126	鏡蓋	覆土	完形	11.4	4.4	3.1	269	棒状鏡。端部僅かに打痕。	粗粒輝石安山岩	
第23306 PL191	127	磨石	覆土	ほぼ完形	14.9	7.4	4.2	720	扁平な長円鏡。両面使用面とし浅い凹み有す。側面にも使用面。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第234図 PL.191	128	磨石	覆土	完形	17.3	8.4	5.3	1,420	扁平で丸みを持った角柱状の礫。端部に弱い打痕か。石質四稜岩		
第234図 PL.191	129	磨石	床	完形	20.9	5.4	4.3	660	バナナ形の礫。一端部に弱い打痕の他には磨石な使用痕見られず。	粗粒輝石安山岩	
第234図 PL.191	130	解石製 品	覆土	ほぼ 完形	6.8	4.7	1.2	18	長円形で中が大きく窪む。石面のミニチュアか。	解石(輝石安山 岩質)	
第234図 PL.191	131	解石製 品	床	欠損	(7.5)	(6.0)	2.0	(35)	碗形を呈し、下部は低い高台状を呈す。縁部分では平らに磨られる。	解石(輝石安山 岩質)	
第234図 PL.191	132	多孔石	覆土	欠損	(13.5)	(6.9)	(3.9)	(80)	自然礫に複数の凹み穴が見られる。欠損品か。	粗粒輝石安山岩	
第234図 PL.191	133	凹石	覆土	完形	13.0	9.5	5.6	840	不定形な自然礫利用。表に1、裏面に2個の凹み穴。	粗粒輝石安山岩	
第234図 PL.191	134	石皿	床	欠損	(16.4)	(12.8)	(4.3)	(1,040)	不定形な石皿の破片か。使用面は平滑で縁は緩やかに高まる。	粗粒輝石安山岩	

## 95-31号住居跡(第237図: PL.191)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文種の特徴等	備考	
第237図 PL.191	1	深鉢 形	口縁部破片	① 胎: 白色粒 ② 胎: 灰褐色		内湾する波状縁か。口唇部外面側に肥厚し無文。以下横位波状沈隆を施す。	中期後葉
第237図 PL.191	2	深鉢 形	体部破片	① 胎: 解石 ② 胎: 鈍い褐色		無筋上縦位施文。	中期後葉

## 95-33号住居跡(第237図: PL.191)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文種の特徴等	備考	
第237図 PL.191	1	深鉢 形	体部中位の欠残 存	① 胎: 石英・雲母 ② 胎: 暗赤褐色		互反する体部彫形。3・4条の垂下隆線と逆U字状隆線による懸垂文構成。4単位を数える。空白部は斜位・縦位矢羽状沈隆を施す。	中期後葉信州系

## 95-34号住居跡(第242図: PL.191)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文種の特徴等	備考	
第242図 PL.191	1	深鉢 床	口縁部破片	① 胎: 石英・解石 ② 胎: 褐色		口唇部欠損。緩やかに互反する口縁部。頸部屈曲も弱い。縦位波状差隆を施す。	中期後葉古
第242図 PL.191	2	深鉢 +4	頸部破片	① 胎: 解石 ② 胎: 暗赤褐色		頸部屈曲部に横位隆線2条と沈隆を設け、溝差文を付す。下端より3条の隆線が垂下する。体部区画には縦位波状沈隆を施し、LRを充填する。	中期後葉古
第242図 PL.191	3	深鉢 +4	体部破片	① 胎: 石英・雲母 ② 胎: 明褐色		沈隆による縦位精削状遺形や弧状沈隆を配す。精削中に横位沈隆を配す。地文は縦位LR。	中期後葉古
第242図 PL.191	4	深鉢 +10	体部破片	① 胎: 石英 ② 胎: 赤褐色		割みを付す垂下隆線による懸垂文構成。空白部には縦位沈隆を施す。	中期後葉信州系
第242図 PL.191	5	深鉢 +8	体部破片	① 胎: 石英・解石 ② 胎: 暗赤褐色		垂下沈隆による懸垂文構成か。空白部は斜位沈隆を施す。	中期後葉信州系
第242図 PL.191	6	深鉢 +4	体部破片	① 胎: 石英多 ② 胎: 赤褐色		隆線による波状区画文か。側面は沈隆。区画内は4・5条単位の差隆を斜位・縦位差隆に施す。	中期後葉信州系
第242図 PL.191	7	深鉢 床	頸部破片	① 胎: 石英・雲母少 ② 胎: 灰褐色		頸部に横位隆線を付す。他は無文。	中期後葉
第242図 PL.191	8	浅鉢 床	口唇部破片	① 胎: 解石 ② 胎: 黒褐色		口唇部上端部に赤形痕を残す。	中期後葉

縄文番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第242図 PL.191	9	石礫	覆土	完形	1.2	(1.0)	0.3	(0.2)	平基無茎。極めて小型品。	黒色安山岩	
第242図 PL.191	10	石礫	覆土	欠損	(0.9)	1.6	0.3	(0.4)	凹基無茎。先端部に欠く。	黒色安山岩	
第242図 PL.191	11	石礫	覆土	欠損	(1.4)	(0.5)	0.2	(0.2)	先端部から側縁部の一部か。	粗粒石	
第242図 PL.191	12	石礫	覆土	完形	1.5	0.7	0.3	0.2	小型の筒結状を呈す。やや扁平な小割片より作出。作りは粗い。	粗粒石	
第242図 PL.191	13	磨石	+8	ほぼ 完形	10.5	4.7	5.9	444	三角形。両端部に打痕。	石英四稜岩	
第242図 PL.191	14	磨石	覆土	完形	10.0	8.9	6.3	830	円礫。やや扁平で両面に浅い打痕状の凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	

## 95-35号住居跡(第245・246図: PL.192)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文種の特徴等	備考	
第245図 PL.192	1	深鉢 形	口縁～体部下 残存 口縁部1 /4欠損 口: (31.4)	① 胎: 石英・解石 ② 胎: 鈍い褐色		波状突起下に横位把手を付す。2単位。波頂部は小孔を開ける。口縁部は無文で頸部屈曲部に1条の沈隆を設ける。体部は一部横成で沈隆で面された施文部と横成部による縦位差隆や弧状沈隆を配す。沈隆下部は開成する。溝文はLR。充填施文。	後期初期



## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第246図 PL192	2	深鉢 伊 口縁+体部1 2残存 口：(34.2)	①粗：石英・輝石 ②鈍い赤褐色		器厚薄手。口縁部に凸みあり。口縁部に横位段線を配す割製深鉢。胎位凸みは深く、施文時の工具痕跡が工具下位に残る。体部内外面とも微く調整、内面下半には凹凸が顕著。	後期初頭					
第246図 PL192	3	深鉢 床 口縁部破片	①粗：白色粒・輝石 ②黒褐色		口縁部に2条の横位段線を設け、縦文L.Rを横位に充填する。	後期初頭					
第246図 PL192	4	深鉢 +6 体部破片	①粗：輝石 ②黒褐色		太い沈線による弧状意匠か、施文部と磨治部の交互配列を呈す。器厚は極めて薄手。	後期後葉					
第246図 PL192	5	深鉢 床 体部下破片	①粗：石英・輝石 ②褐色		垂下段線による懸垂文構成。外面は縦位段線を施す。	後期初頭					
第246図 PL192	6	深鉢 床 底部1/2残存 底：6.4	①粗：石英少 ②鈍い黄褐色		器厚薄手。直線的に開く体部下。沈線による弧線文下端部を見る。	後期初頭					
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第244図 PL192	7	石 鉢	床	欠損	(2.6)	(1.4)	0.4	(1.1)	凹基無基、片側縁から割縁を欠損。	チャート	
第244図 PL192	8	石 鉢	覆土	欠損	(1.0)	(1.6)	0.3	(0.3)	凹基無基、縁が大きく開く。先端部を欠く。	黒曜石	
第244図 PL192	9	磨石	+5	欠損	13.7	7.4	4.3	670	断面丸みを持つ三角形の棒状。使用面に弱い打痕見られる。被熱。	粗粒輝石岩山岩	
第244図 PL192	10	磨石	床	完形	11.2	9.8	5.0	800	扁平な円錐利用。使用平面部分に弱い打痕有り。被熱。	粗粒輝石岩山岩	

## 95-26号住居跡(第249図：PL192)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第249図 PL192	1	深鉢 +11 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い褐色		縦位波状段線による懸垂文構成。弧状段線の粗跡も見る。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

## 95-27号住居跡(第249図：PL192)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第249図 PL192	1	深鉢 床 口縁部破片	①粗：輝石少 ②鈍い黄褐色		波状隆起部。太い沈線による渦巻状意匠が配される。縄文は短L.R縦位充填施文。	中期後葉新
第249図 PL192	2	深鉢 覆土 口縁部破片	①粗：輝石・雲母 ②黒褐色		口唇内面には折り起し状に肥厚する。口縁部は内湾し、斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第249図 PL192	3	深鉢 床 体部破片	①粗：石英・輝石 ②鈍い黄褐色		垂下段線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。器面磨滅。	中期後葉信州系
第249図 PL192	4	深鉢 床 体部破片	①細：輝石 ②灰褐色		2条沈線による弧状・斜位意匠を配す。沈線間はやや平直。施文部を見ない。	後期前葉
第249図 PL192	5	深鉢 覆土 体部下破片	①粗：石英・輝石 ②明黄褐色		底位垂下段線による懸垂文下端部を見る。縄文は斜位短L.R充填施文。	中期後葉新

## 95-28号住居跡(第251～253図：PL192～194)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第251図 PL192	1	深鉢 +30 底部欠損 口：15.0	①粗：石英多・輝石・雲母 ②にぶい赤褐色		小型深鉢。口縁部は無文で頸部で屈曲する。頸部に沈線による長柄内状意匠を配し区画線とする。体部は2条隆線による横位S字状意匠を3単位配す。空白部は縦位矢羽状沈線を施し、蛇行沈線文を懸垂する。	中期後葉信州系
第251図 PL192	2	深鉢 +34 口縁+体部1 2残存 口：16.7	①細：輝石 ②褐色		小型深鉢。口縁部は内湾し斜位短沈線を施す。頸部に隆線を設け横位波状沈線を重ねる。体部は2条隆線による懸垂文構成で、中に横位S字状意匠を配す。縦位波状隆線を加わる。空白部は縦位短沈線を施す。器面の1/2は強い加熱のため外側面を大きく剥落する。	中期後葉信州系
第251図 PL193	3	深鉢 +29 口縁+頸部1 4残存 口：(25.0)	①細：輝石 ②暗褐色		口縁部は2条隆線による渦巻文と区画文構成。おそらく4～5単位が、区画内傾斜は沈線。縦位短沈線を充填する。頸部は無文で、体部上半に懸垂文沈線を設ける。施文が鋭利であり未使用のままの縦折・縦裂か。	中期後葉古
第251図 PL193	4	深鉢 +44 口縁部破片	①粗：輝石 ②黒褐色		独立した2条隆線による口縁部半円状区画文。傾斜は無く、L.Rを縦位充填施文する。	中期後葉古
第251図 PL193	5	深鉢 +6 体部下半破片	①粗：輝石 ②褐色		上位は太い弧状隆線による口縁部区画文。体部は沈線3条による弧状意匠。波状意匠か。縦位波状段線が重なる。地文は縦位L.R。	中期後葉古
第251図 PL193	6	深鉢 +39 体部破片	①粗：石英 ②黄褐色		外反気味の体部形態。縦位沈線群による懸垂文構成。2条沈線による渦巻文が懸垂する。地文は縦位L.R。	中期後葉古
第251図 PL193	7	深鉢 +42 口唇部破片	①細：石英・輝石 ②黒褐色		2条隆線による口縁部区画文。沈線は傾斜とし縦位短沈線を充填する。体部は3条の垂下沈線による懸垂文構成か。縦位波状沈線と弧状沈線も配される。地文は縦位L.R。	中期後葉古

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出高)	①胎色 ②土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第25106 PL-193	8	深鉢 Ø 口縁～体部破片 2点 口：(19.0)	① 粗：石英・雲母多 ② 赤褐色	口唇部内面突出し、口縁部は無文、頸部は横位沈線と斜交文列によって両側に縦位沈線を施す。横位沈線以下体部は溝状突起より2条沈線が砥状に発生する。溝状突起の意図か、空白部は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系						
第25106 PL-193	9	深鉢 +20 体部上半～下半 破片	① 粗：石英・雲母 ② 褐色	上端溝状突起を配した2条沈線による懸垂文構成。空白部は横位・砥状沈線3条により多段別立された縦位沈線群を施す。	中期後葉信州系						
第25106 PL-193	10	深鉢 182 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 明赤褐色	割みを付す垂下隆線による懸垂文構成か、斜線は沈線、空白部は斜位沈線を施す。施文は深い。	中期後葉信州系						
第25106 PL-193	11	深鉢 +31 体部上半破片	① 粗：石英・輝石多 ② 暗褐色	横位沈線以下隆線による逆U字状懸垂文構成か、縦位内皮平行沈線による施文部も垂下し中に強い連続斜交文を充填する。砥状意図も配す。	中期後葉信州系						
第25106 PL-193	12	浅鉢 +25 頸部破片	① 粗：石英 ② 褐色	頸部凹曲、横位隆線と沈線を配し、縦位隆線が加わる。筋曲部には爪形突起を施す。体部は外反気味に無文。	中期後葉古						
第25106 PL-193	13	深鉢 +25 口頸部破片	① 粗：石英多・輝石文 ② 暗褐色	2条沈線による口頸部溝文。多段構成か、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第25206 PL-193	14	深鉢 +22 体部上半破片	① 粗：石英・輝石・褐色粒 ② 鈍い黄褐色	頸部凹曲し体部上半に強い内溝を設ける。筋曲部に横位沈線2条を設け沈線間に斜交文を施す。体部は数条の沈線群による逆U字状意図が配される。	中期後葉						
第25206 PL-193	15	深鉢 +25 突起破片	① 粗：石英 ② 褐色	突起上半部欠損。3方からの縁状把手で、内面突起は強く突出し面を持つ。やや軟質な印象。	中期後葉信州系						
第25206 PL-193	16	浅鉢 +27 口縁部破片	① 粗：石英・片岩 ② 暗褐色・黒褐色	口唇部厚し、体部上半に内溝を持たせる。無文で内外面に丁寧な研磨を施す。赤気味を帯びに見える。内面は黒褐色、口縁部に基粒孔を穿つ。	中期後葉						
第25206 PL-193	17	浅鉢 +25 口縁部破片	① 粗：石英多 ② 灰黄褐色	口唇部内面強く突出する。内外面とも無文で、丁寧な横位研磨を施す。	中期後葉						
第25206 PL-193	18	深鉢 +21 口縁部破片	① 細：輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部は内溝し頸部は外反する。無文で内外面とも横位撫で調整を施す。	中期後葉古 中期後葉古						
第25206 PL-193	19	深鉢 +34 口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 暗褐色	口唇部内面強く突出する。口縁部は強く開き無文。	中期後葉信州系						
第25206 PL-193	20	深鉢 底：9.2 底：9.2	① 粗：小礫 ② 明赤褐色	大型の深鉢か。器厚薄手で軟質な印象。斜位L.R.が薄う。	中期後葉 下						
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第25206 PL-193	21	石礫	+31	ほぼ 完形	1.9	1.3	0.4	0.6	凹基無基。小型品で浅く残り側面下位の両側に僅かな 切りが見られる。	黒曜石	
第25206 PL-193	22	石礫	+24	完形	2.0	1.5	0.4	1.0	平基無基。片面が肥厚し鋭利さは無い。	黒曜石	
第25206 PL-193	23	石礫	覆土	ほぼ 完形	2.0	1.6	0.5	1.3	平基無基。基部が厚くなっており、未製品か。	黒曜石	
第25206 PL-193	24	石礫	+30	欠損	(2.1)	(1.2)	0.4	(0.8)	平基無基。	黒曜石	
第25206 PL-193	25	石礫	覆土	欠損	(1.9)	(1.4)	0.5	(0.9)	凹基無基。ほぼ縦半分に割れている。	黒曜石	
第25206 PL-193	26	石礫	+49	欠損	(1.5)	(1.6)	0.4	0.6	凹基無基。先端部を欠く。	黒曜石	
第25206 PL-193	27	石礫	+32	完形	(2.9)	1.0	0.8	(2.0)	中央部が太い棒状体。	黒曜石	
第25206 PL-193	28	石礫	+48	完形	3.8	1.0	0.8	2.4	棒状體。基部から先端に向かって細くなる。先端部は 摩耗。	黒色安山岩	
第25206 PL-193	29	石礫	覆土	欠損	(1.8)	1.9	0.7	(2.5)	基部を欠くつまみ部と思われる。	黒曜石	
第25206 PL-193	30	打製石 斧	+46	完形	11.7	4.9	1.4	95	磨形。刃部はやや薄手に作られた刃片。使用による摩 耗が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第25206 PL-193	31	打製石 斧	+17	完形	10.8	5.2	1.7	115	磨形。刃部はやや薄手に作られた刃片。使用による摩 耗が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第25206 PL-193	32	打製石 斧	+24	欠損	(7.3)	5.6	1.5	(70)	磨形打製石斧の刃部片と思われる。粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第25206 PL-193	33	打製石 斧	+19	欠損	(8.7)	4.7	5.2	(128)	磨形。刃部を欠く。基部の端部は丸くなり片面に自然 面残る。	黒色安山岩	
第25206 PL-193	34	打製石 斧	+32	欠損	(8.1)	5.6	1.4	(94)	板状の基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第25206 PL-193	35	打製石 斧	+52	欠損	(8.9)	5.0	1.3	(77)	板状の基部片と思われる。片面に自然面残る。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第25206 PL-193	36	打製石 斧 スクレイパー	+24	完形	6.7	6.5	1.0	53	三角形を呈す割片。両側面に刃部作出。	黒色安山岩	
第25206 PL-193	37	磨製石 斧	+31	欠損	(5.2)	5.2	2.2	(77)	刃部片。片割中央部分が僅かに窪む。刃部使用による 片減りが見られる。	凝結岩	
第25206 PL-193	38	磨石	+38	完形	5.1	5.4	5.0	94	小円錐。被熱によるひび割れ顯著。	粗粒輝石安山岩	
第25206 PL-194	39	磨石	床	完形	14.0	6.0	4.8	650	やや扁平な棒状體。狀分沈着層で覆われる。	石英閃緑岩	
第25206 PL-194	40	凹石	+36	完形	11.4	6.7	4.4	510	扁平な板形を呈す。両面に浅い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第2539号 PL194	41	磨石	+48	完形	11.1	9.7	9.0	1,270	傘大の円鏡、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第2539号 PL194	42	凹石	+3	完形	14.3	6.8	5.3	670	棒状鏡、両面および側縁部に2つずつの凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第2539号 PL194	43	磨石	+13	完形	17.4	9.1	7.1	1,620	やや大きな長円鏡、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-39号住居跡(第255図: PL194)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第2539号 PL194	1	深鉢 +3 口縁部破片	① 粗: 石英 ② 鈍い黄褐色	小型深鉢か、口縁部外面肥厚し、以下は無文か、薄手の胎厚を呈す。	不明
第2539号 PL194	2	深鉢 +11 体部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 灰黄褐色	胎厚薄手。斜位短沈線を密に施す。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	3	深鉢 +7 頸部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	2条線縁による口縁部区画文と体部懸垂文構成か。側縁は浅い沈線。体部は縦位矢引状沈線を施す。	中期後葉信州系

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第2539号 PL194	4	石離	覆土	欠損	(1.0)	(1.5)	0.3	(0.3)	凹基無茎、挟り浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第2539号 PL194	5	石離	覆土	欠損	(2.4)	1.4	0.4	(1.2)	三角のつまみ部は薄く、蓋部の先端を欠く。	チャート	
第2539号 PL194	6	磨石	+7	欠損	(11.3)	(4.6)	(2.7)	(151)	欠損品。扁平な鏡を利用、使用平面面に浅い打痕有り。被熱。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-40号住居跡(第256図: PL194)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第2539号 PL194	1	深鉢 +10 口縁部破片	① 粗: 輝石・雲母少 ② 褐色	口縁部は薄手や中扁平。低位線縁による口縁部区画文。区画内は沈線を側縁とし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	2	深鉢 +5 口縁部破片	① 粗: 石英・雲母 ② 明褐色	口唇部内面強く突出。外面は横位線縁の剥落痕を呈す。	中期後葉
第2539号 PL194	3	浅鉢 +11 口縁部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部内面肥厚し鋭い内縁を持つ。内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉
第2539号 PL194	4	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗: 石英多・輝石 ② 鈍い褐色	口唇部内面肥厚する。外面は無文。	中期後葉
第2539号 PL194	5	深鉢 が 体部破片	① 粗: 石英多・輝石・雲母 ② 褐色	2条線縁による横位弧状区画文か。縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	6	深鉢 覆土 体部破片	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	押圧を加えた傘下線縁による懸垂文構成。縦位矢引状沈線を施す。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	7	深鉢 覆土 体部破片	① 粗: 石英 ② 赤褐色	沈線による区画文か。円形刺突文を施す。胎文は深し。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	8	深鉢 +8 体部上半破片	① 粗: 石英・輝石・雲母少 ② 鈍い褐色	線縁による口縁部区画文か。横位沈線を充填する。体部は傘下線縁による懸垂文構成。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	9	深鉢 +3 体部上半破片	① 粗: 輝石 ② 褐色	短みを付す縦位線縁を設ける。側縁は沈線。以下垂直状沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	10	深鉢 +11 体部破片	① 粗: 輝石 ② 鈍い褐色	横位沈線3条以下縦位矢引状沈線を施す。胎文は深い。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	11	深鉢 が 体部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 明褐色	沈線による曲書文を配す。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	12	深鉢 +3 体部破片	① 粗: 石英・輝石 ② 明赤褐色	内皮平行沈線による重環状意匠を配す。胎文は凹基Rによる縦位胎文。	中期後葉最古
第2539号 PL194	13	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗: 石英 ② 褐色	横位線縁による口縁部区画文。側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2539号 PL194	14	深鉢 覆土 体部破片	① 粗: 石英 ② 鈍い赤褐色	無文で、縦位短沈線調整後浅い条短状条線を加える。内面は横位調整。	弥生?

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第2539号 PL194	15	石離	覆土	欠損	(1.2)	1.5	0.4	0.6	凹基無茎、挟り浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第2539号 PL194	16	石離	覆土	完形	2.9	2.1	1.0	4.6	凸基無茎。丸みを有し先端部が尖る。極めて厚みがあかる。	黒曜石	
第2539号 PL194	17	鎌石	覆土	完形	(10.5)	(19.1)	(4.4)	(1120)	大型の剥片鎌石。半月状を呈し弧状部分に鋭い利縁を施す。	粗粒輝石安山岩	
第2539号 PL194	18	鎌石	砂内	完形	(13.1)	(11.9)	4.7	(790)	ハート形の大型剥片。一側縁に使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第2539号 PL194	19	磨石	砂内	欠損	(8.9)	8.5	5.4	(380)	扁平な長円鏡。挟れるように半分以上を欠く。被熱。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-41号住居跡(第262~264図; PL194~195)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(取高)	① 胎 土			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			① 胎色	② 土質	③ 厚さ						
第262図 PL194	1	深鉢 +31	口縁~体部1/2 残存 口:19.4	① 粗:石英多・輝石 ② 黒褐色		口縁部沈隆と横位隆線による粗粒の口縁部文様。強く区画感を設けず、小渦巻文を位に配す。おそらく4単位。口縁部は縦位、体部は斜位角縁状沈隆を施す。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	2	深鉢 +26	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 灰黄褐色		口唇部内外面肥厚。隆線による渦巻文を口縁部に配す。胴部は沈隆。地味やや軟質な印象を受ける。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	3	深鉢 +18	口縁部破片	① 粗:石英・輝石・雲母 ② 暗赤褐色		口唇部内面強く突出する。口縁部は隆線による区画文構成。円形刺突文を充填する。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	4	深鉢 +56	口縁部破片	① 粗:石英多・雲母 ② 黒褐色		口唇部内面増かに肥厚。外面は沈隆による渦巻意匠を施す。中位で連続する箇所を設けている。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	5	深鉢 +16	口縁部破片	① 粗:石英 ② 褐色		口縁部に横位、弧状の内皮平行沈隆を施す。地味は縦位に構う。	中期後葉古				
第262図 PL194	6	深鉢 +12	口縁部破片	① 粗:石英多 ② 黒褐色		口縁部内溝。縦位沈隆5象を配し、横位短沈隆を充填する。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	7	深鉢 +18	体部破片	① 粗:石英多・輝石・雲母 ② 褐色		2条隆線による体部低状区画文。下端より隆線が垂下する懸垂文構成。斜位短沈隆を充填する。軟質で断面磨滅。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	8	深鉢 +6	口縁部破片	① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色		柱状突起上より隆線が派生し口縁部区画文を画す。区画内は交互刺突文と円形刺突文を充填する。突起下部は隆線によるS字状意匠を配し、弧状沈隆を施す。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	9	深鉢 +20	胴部破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色		隆線による口縁部区画文。区画内無縁は隆線。縦位矢羽状短沈隆を充填する。体部は縦位沈隆を配し、縦位矢羽状短沈隆を施す。	中期後葉信州系				
第262図 PL194	10	深鉢 +24	体部上半破片	① 粗:石英多・雲母 ② 暗赤褐色		薄手の器厚。横位沈隆隆線を設け、上位に円形刺突文を施す。下位は弧状隆線が懸垂する。斜位短沈隆を施す。	中期後葉信州系				
第262図 PL195	11	深鉢 +28	体部中位破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色		中位で折れ下半で内溝する体部。2条隆線による懸垂文構成。空白部は角縁状短沈隆を充填する。	中期後葉信州系				
第262図 PL195	12	深鉢 6+	体部上半破片	① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色		隆線による区画文構成。区画内側には沈隆。縦位短沈隆を充填する。隆部下、沈隆に付て円形刺突文を施す。	中期後葉信州系				
第262図 PL195	13	深鉢 +22	体部破片	① 細:輝石 ② 黒褐色		強い刺突文が断面を覆う。	後期前葉後系				
第262図 PL195	14	深鉢 +36	体部~底部残存 底:7.2	① 細:輝石 ② 赤褐色		2条隆線と縦位沈隆線による懸垂文構成。7単位を嵌める。空白部は縦位沈隆を密に充填する。	中期後葉信州系				
第262図 PL195	15	深鉢 +28	体部下半1/3 残存	① 粗:石英・輝石 ② 赤褐色		断面的に粗く体部下半。2条隆線による懸垂文構成。空白部は角縁状短沈隆を充填する。	中期後葉信州系				
第262図 PL195	16	深鉢 +4	口縁部破片	① 細:石英・輝石 ② 褐色		口縁部内溝。無文で内外面とも撫で調整を施す。	中期後葉				
第262図 PL195	17	浅鉢 +22	胴部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色		破片上端は横位隆線。胴部前面は強く、以下半円形状手法による区画文を配す。沈隆を調整する。	中期後葉				
第262図 PL195	18	浅鉢 底:9.2	底部残存 底:9.2	① 粗:石英・輝石 ② 灰褐色		大型の浅鉢。外面は削り調整後後で、内面は撫で調整後研削。	中期後葉				
縄文番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考	
第262図 PL195	19	石礫	+23	定形	2.2	1.6	0.4	0.8	凹基無茎。挟りは弧状で側縁基部がやや膨らむ。	黒曜石	
第262図 PL195	20	石礫	覆土	ほぼ 定形	(1.4)	1.4	0.4	(0.4)	凹基無茎。小型で挟り深く長脚。先端部分も胴身に作られる。	黒曜石	
第262図 PL195	21	石礫	+19	欠損	1.7	(1.1)	0.4	(0.4)	凹基無茎。小型品。局部磨製(片面)。	黒曜石	
第262図 PL195	22	石礫	覆土	欠損	(1.8)	(1.3)	0.4	(0.5)	先端部片。	黒曜石	
第262図 PL195	23	石礫	覆土	欠損	(2.8)	(1.6)	0.3	(1.4)	凹基無茎。やや細身に丁寧な作り。先端部欠く。	黒曜石	
第262図 PL195	24	石礫	覆土	欠損	(1.7)	(1.3)	0.4	(0.8)	凹基無茎。挟り深く先端部を僅かに欠く。形状が左右非対称。	黒曜石	
第262図 PL195	25	打製石 斧	+28	定形	9.5	4.8	1.7	(84)	小型で長さの短い離形。基部が厚く刃部は薄手である。	黒色頁岩	
第262図 PL195	26	打製石 斧	+16	欠損	(7.2)	6.1	2.4	(152)	大型品の基部と思われる。	粗粒輝石宍山岩	
第262図 PL195	27	打製石 斧	+22	欠損	(5.7)	4.8	0.7	(24)	極めて薄い板状を呈す。基部片と思われる。	粗粒輝石普通輝石 宍山岩	
第262図 PL195	28	磨製石 斧	+40	欠損	(4.0)	5.0	2.2	(44)	刃部小片、円刃。	粗粒輝石宍山岩	
第262図 PL195	29	スクレイパー	+9	定形	10.3	6.9	2.4	182	厚手の削片利用。下縁部分に粗く刃部作出。片曲大きく自然張。	粗粒輝石宍山岩	
第262図 PL195	30	磨石	+9	定形	7.2	5.8	5.3	262	細身の小礫。顕著な使用痕見られず。被熱。	粗粒輝石宍山岩	
第262図 PL195	31	磨石	+16	定形	8.6	7.4	5.7	460	華大の礫。顕著な使用痕見られず。	粗粒輝石宍山岩	
第262図 PL195	32	磨石	+38	定形	7.5	5.1	4.6	173	細身の小礫。顕著な使用痕見られず。表面ざらついた石質の礫。	粗粒輝石宍山岩	
第262図 PL195	33	磨石	+11	定形	8.0	8.1	5.9	550	不定形な礫。顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石宍山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図表番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第2639区 PL195	34	凹石	+21	完形	10.9	7.5	4.4	550	扁平な長円錐。両面に2か所ずつの凹み穴。側面には粗粒輝石斑山岩		
第2639区 PL195	35	磨石	床	完形	16.6	8.8	6.4	1,350	やや大きな細長い錐。平坦面を使用する。		
第2639区 PL195	36	磨石	+23	完形	8.7	4.7	2.2	116	扁平な長円錐。両側に小さな突起が見られる。底面が側面に癒われる。		流紋岩
第2648区 PL195	37	軽石製品	+31	完形	6.4	7.2	1.4	27	やや楕円盤状に成形。上部に一对の穿孔を持つ。片面中央に凹み穴。		軽石
第2648区 PL195	38	多孔石	+15	完形	16.5	16.4	11	3,500	台形状の自然織を利用。上面と下面に複数の凹み穴。		粗粒輝石斑山岩

95-42号住居跡(第266区: PL195)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第2648区 PL195	1	深鉢 +19	① 粗: 石英 ② 明褐色	口縁部に沈線による環状・弧状意匠を配し、口唇部は幅広い沈線が通る。肩部は無文か。	後期前葉
第2648区 PL195	2	深鉢 +27	① 粗: 輝石・石英少 ② 暗褐色	口唇部内凹。外面は無文だが、破片下端に僅かに横位沈線の痕跡を見る。	後期前葉
第2648区 PL195	3	深鉢 +30	① 粗: 石英・輝石 ② 赤褐色	肩部反する。体部上半に刻みを付す横位沈線を設ける。	後期前葉
第2648区 PL195	4	鉢 +29	① 粗: 白色粒 ② 鈍い赤褐色	内湾する体部。横位沈線2条以下弧線文を配す。縄文は縦位L。	後期前葉
第2648区 PL195	5	注口土器 +29	① 粗: 白色粒 ② 赤褐色	おそらく沈線による環状意匠を配す。横位沈線と斜位沈線による幾何学区画文。区内内は無文。	後期前葉
第2648区 PL195	6	深鉢 +30	① 粗: 石英・褐色粒 ② 赤褐色	数条の縦位弧状沈線による環状意匠か。内面磨器減。	後期前葉
第2648区 PL195	7	深鉢 +30	① 粗: 石英・輝石 ② 灰褐色	3条の弧状沈線。おそらく上位は環状意匠か。縦位LRを充填する。	後期前葉
第2648区 PL195	8	深鉢 +30	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	縦位弧状沈線による懸垂文構成か。	後期前葉

95-43号住居跡(第268区: PL196)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第268区 PL196	1	深鉢 +2	① 粗: 石英・雲母 ② 黒褐色	2条隆線で渦巻状意匠を重ねた上区画化する。区内内隆線は沈線で斜位短沈線を充填する。肩部は縦位沈線と弧線を組み合わせた意匠文や沈線による渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第268区 PL196	2	深鉢 床	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	体部上半に横位隆線3条を設け、2条の沈線を重ね、交互刺突文を施す。隆線による渦巻文を配下端より体部に4条の隆線が懸垂する。体部は沈線による渦巻文を配し、縦位沈線を地文とする。	中期後葉信州系 3・4と同一個体
第268区 PL196	3	深鉢 C-23	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	2条の沈線を重ね、交互刺突文を施す。隆線による渦巻文を配下端より体部に3条の隆線が懸垂する。体部は沈線による渦巻文を配し、縦位沈線を地文とする。	中期後葉信州系
第268区 PL196	4	深鉢 床	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	2条の隆線が懸垂する。体部は沈線による渦巻文を配し、縦位沈線を地文とする。	中期後葉信州系
第268区 PL196	5	深鉢 +2	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	縦位沈線3条を施し、横位弧状沈線群を重ねる。下半は無文か。	中期後葉信州系
第268区 PL196	6	深鉢 +2	① 粗: 輝石 ② 暗赤褐色	内湾する体部。縦位沈線と垂下沈線を施す。	中期後葉信州系

検出番号 図表番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第268区 PL196	7	スクレイパー	+3	完形	9.7	8.2	1.4	107	台形を呈す斜下の下縁部分に刃部作出。		粗粒輝石貫通輝石斑山岩

95-44号住居跡(第273~278区: PL196~198)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第273区 PL196	1	深鉢 0	① 粗: 石英多 ② 赤褐色	隆線による連続した渦巻文上区画文構成。8単位を数える。区内内隆線は沈線。縦位短沈線を充填する。体部は2条沈線によるU字状意匠を配し、縦位矢羽状短沈線を埋める。口縁部内外面加熱のため器面磨減。	中期後葉信州系
第273区 PL196	2	深鉢 +36	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	破片突起。外面は隆線で、内面は沈線による渦巻文を配す。外面はやや扁平な印象。	中期後葉新
第273区 PL196	3	深鉢 +50	① 粗: 石英・輝石・褐色粒 ② 褐色	6点か同一個体と思われる。底状縁で波状部に楕円状の孔を設ける。口縁部は内外面ともに肥厚し無文。口唇端部には深い沈線を施す。波状縁より斜位短沈線が新生する。隆線群は沈線で空白部には無筋目しを縦位充填する。体部は押圧を加えた横位短沈線群で飾られ沈線を細線とし、以下隆線を縦位に施す。口縁部内外面とも丁寧な研磨を施し、口唇部沈線には黒色の彩色痕跡を見る。	中期後葉新
第273区 PL196	4	深鉢 +34	① 粗: 石英・輝石・褐色粒 ② 鈍い褐色		

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(体面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第27306 PL196	5	深鉢 +28 体部上半破片	① 粗:石英・褐色粒 ② 褐色	3と同一個体	中期後葉						
第27306 PL196	6	深鉢 +8 体部上半破片	① 粗:石英・褐色粒 ② 褐色								
第27306 PL196	7	深鉢 +18 体部上半破片	① 粗:石英・褐色粒 ② 褐色								
第27306 PL196	8	深鉢 腹土	① 粗:石英・輝石・褐色粒 ② 褐色								
第27306 PL196	9	深鉢 +42 体部上半破片	① 粗:石英・輝石 ② 灰黄褐色	小型器種。頸部は外散する。円形貼付文を付し、2条隆線による渦巻状意匠を配す。沈線は隆線とし無文部は無文とを充填する。器厚薄し。	後期前葉						
第27306 PL196	10	深鉢 +51 口縁部破片	① 粗:石英少 ② 灰褐色	緩やかな波状線。2条の沈線に画された気状意匠を配す。意匠内は何点状刻突文を充填する。器厚は薄手で口唇部は任意状に歪む。	後期初期 莖系統?						
第27306 PL196	11	鉢 +29 頸部破片	① 粗:石英 ② 灰褐色	頸部に弧状隆線を付し、下腹より3条の沈線が垂下する。頸部横位沈線、体部斜位沈線も施される。内面器壁剥落。	後期前葉						
第27306 PL196	12	深鉢 +53 頸部破片	① 粗:輝石 ② 赤褐色	強く外反する頸部。2条沈線に画されたJ字状意匠が、区画内は無文。	後期初期						
第27306 PL196	13	深鉢 +29 体部中位破片	① 粗:輝石少 ② 鈍い褐色	体部内湾。小型器種か。2条沈線による斜位横位意匠が、沈線間には何点状刻突文を埋める。体部下半には深い沈線を見る。	後期前葉						
第27306 PL196	14	深鉢 +32 体部上半破片	① 粗:石英 ② 黒褐色	刻みを付す縦位隆線を頸部に付す。以下体部は無文が覆う。	後期前葉越後系						
第27306 PL196	15	鉢 +33 体部上半破片	① 微細:雲母少 ② 灰褐色	鉢には内湾する。横位方向の強い刻突文を密に施す。器厚薄手、内面調整はやや弱く、僅が付着する。	後期前葉越後系?						
第27306 PL196	16	深鉢 +33 口縁部破片	① 粗:輝石 ② 褐色	緩やかな波状線か。口縁部に横位隆線が突出する。胎土無文。内面磨削より厚。	中期後葉						
第27306 PL196	17	深鉢 +7 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	緩やかな波状線。波頂下に隆線による突出した渦巻文を配す。頸線は沈線。区画内斜位沈線も施される。	中期後葉信州系						
第27306 PL196	18	深鉢 +10 口縁部破片	① 粗:石英 ② 暗褐色	隆線による孤立した渦巻文と区画文。突出気味に付せられる。区画内斜位沈線は沈線。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系 古段階						
第27306 PL196	19	深鉢 +32 口縁+体部上半破片	① 粗:石英・輝石 ② 明赤褐色	波状線。波頂下に隆線による渦巻文を配す。口縁部は無文で横位沈線で画される。体部は渦巻文と気状隆線が配され、あるいは人体状意匠か。隆線には刻みを施す。内外面丁寧な磨削を加える。	中期後葉信州系						
第27406 PL196	20	浅鉢 床	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部は外縁し体部で強く屈曲する。口縁部は無文で口唇部は横位隆線で画す。沈線による渦巻文と気状隆線が配され、あるいは人体状意匠か。隆線には刻みを施す。内外面丁寧な磨削を加える。	中期後葉						
第27406 PL196	21	深鉢 +36 口縁部破片	① 粗:石英・雲母 ② 暗褐色	平縁。無文の幅状口縁部。横位沈線2条を配す。体部には隆線による逆J字状意匠を充填する。	中期後葉信州系						
第27406 PL196	22	深鉢 +34 体部中位破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗赤褐色	隆線によるJ字状区画文。区画内は横位沈線で小区画され縦位短沈線を充填する。隆線間は無文と斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系						
第27406 PL196	23	深鉢 +13 体部上半破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	J字隆線による懸垂文構成。上面はクラック状に凹曲するか。縦線間は無文。横線は隆線で、空白部には3条一組の条線が斜位低位に施される。	中期後葉信州系?						
第27406 PL196	24	深鉢 +34 体部下破片	① 粗:石英・輝石 ② 赤褐色	隆線によるJ字状区画文。区画内横位は沈線。下位に横位沈線2条を加え、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第27406 PL196	25	釣手土器 +47 釣手土器破片	① 粗:石英 ② 鈍い褐色	釣手土器部部と思われる。外側の側縁を突出させ、小型の縦状把手を付す。両側面は沈線による渦巻文と方形状意匠を配す。	中期後葉信州系						
第27406 PL197	26	深鉢 +18 体部上半破片	① 粗:石英・輝石 ② 赤褐色	内湾する体部形態か。やや歪みがあり割然としない。3条の隆線による弧状渦巻意匠。空白部は沈線を施す。	中期後葉信州系						
第27406 PL197	27	深鉢 +26 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗赤褐色	強く内湾する無文の口縁部。内面に多量の煤が付着する。	中期後葉						
第27406 PL197	28	深鉢 +42 口縁部破片	① 粗:石英大 ② 灰褐色	強く外反する頸部。頸部に横位沈線を見る。外面に僅け付着。	後期?						
第27406 PL197	29	深鉢 +39 体部破片	① 粗:輝石少 ② 褐色	薄手で無文。器面の凹凸も多い。粗製土器か。	後期後葉 土器部?						
第27406 PL197	30	深鉢 +25 体部下手~底部 底:(5.4)	① 粗:石英 ② 鈍い赤褐色	体部はやや外反気味に開く。縦位沈線・斜位沈線を施す。やや複雑な無文。	中期後葉?						
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第27406 PL197	31	石礫	腹土	完形	2.2	1.2	0.5	0.8	凹基無茎。縦身でやや厚み有り。	黒曜石	
第27406 PL197	32	石礫	腹土	完形	2.2	1.2	0.5	0.8	凹基無茎。挟りは深い。縦身で丁寧な作り。	チャート	
第27406 PL197	33	石礫	腹土	ほぼ完形	(2.7)	(1.4)	0.4	(0.8)	凹基無茎。やや薄手で細作り。	黒曜石	
第27406 PL197	34	石礫	腹土	欠損	(2.1)	(1.3)	0.3	(0.5)	先端部破片。薄手で作りは丁寧。	黒曜石	

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第27486 PL197	35	石瓶	覆土	ほぼ 完形	(1.5)	1.4	0.4	(0.5)	凹基無茎、挟りは浅い、先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第27486 PL197	36	石瓶	覆土	ほぼ 完形	2.6	1.7	0.6	2.1	平基無茎、やや厚手で全体に粗い作り。	黒曜石	
第27486 PL197	37	石瓶	覆土	欠損	2.1	1.5	0.4	0.7	凹基無茎、挟りが深い、先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第27486 PL197	38	石瓶	覆土	欠損	(1.4)	(0.9)	0.3	(0.4)	先端部片か。	黒曜石	
第27486 PL197	39	石瓶	覆土	欠損	(1.4)	(1.6)	0.4	(0.7)	凹基無茎、挟り浅くやや幅広、先端部を欠く。	黒曜石	
第27486 PL197	40	石瓶	覆土	欠損	(1.5)	1.4	0.3	(0.4)	凹基無茎、挟り浅く先端部を欠く。	黒曜石	
第27486 PL197	41	石瓶	覆土	欠損	(0.9)	1.3	0.2	(0.2)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第27486 PL197	42	石瓶	覆土	ほぼ 完形	(1.0)	(0.9)	0.3	(0.5)	平基無茎、極めて小型品、先端部僅かに欠く。石鐘基部の可能性も。	黒曜石	
第27486 PL197	43	石瓶	覆土	ほぼ 完形	1.9	1.4	0.4	0.4	凹基無茎、なすび形で片面がやや肥厚、先端部僅かに欠損か。	チャート	
第27486 PL197	44	石瓶	覆土	欠損	(1.3)	(1.2)	0.6	(1.1)	凹基無茎、側縁に丸みを有し厚手、片側の半分を欠く。	黒曜石	
第27486 PL197	45	石瓶	覆土	欠損	(1.2)	1.8	0.3	(0.7)	凹基無茎、挟り浅く幅広で薄手の作り、先端部を欠く。	黒曜石	
第27486 PL197	46	石瓶	覆土	ほぼ 完形	1.8	1.7	0.5	1.5	平基無茎、片面が凹む、作りは粗い。	黒曜石	
第27486 PL197	47	石瓶	覆土	欠損	(1.5)	2.2	0.4	(1.6)	凸基無茎の基部片か。半月状を呈し縁辺部に剥離調整。	黒曜石	
第27486 PL197	48	石瓶	覆土	完形	(2.0)	0.7	0.3	(0.4)	小型紡錘状。	黒曜石	
第27486 PL197	49	石瓶	覆土	完形	2.2	0.6	0.4	0.4	小型の棒状器。基部から先端に向かってやや太くなり端部が尖る。	チャート	
第27486 PL197	50	スクレイパー	覆土	完形	2.7	1.8	0.6	2.7	片面が肥厚する長円形剥片。縁辺部に刃部作出。	黒曜石	
第27486 PL197	51	打製石斧	覆土	完形	13.1	4.7	2	151	短冊形、やや細身で僅かに刃部が広がる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第27486 PL197	52	打製石斧	覆土	完形	10.8	5.2	2.1	124	片面に大きく自然面残る。基部厚く、刃部を欠損しているものと見られる。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第27486 PL197	53	打製石斧	覆土	完形	11.9	4.5	1	76	短冊形、薄手で基部、刃部やや円くなる。	黒色頁岩	
第27486 PL197	54	打製石斧	覆土	完形	9.4	5.0	1.7	85	楕形、両側縁に浅く挟りを有す。刃部は薄く作られている。粗い作り。	安山岩	
第27486 PL197	55	打製石斧	覆土	完形	10.5	4.8	1.9	103	短冊形であるが両側縁に小さく挟りが入る。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第27486 PL197	56	打製石斧	覆土	完形	9.1	4.3	1.6	82	小型品で両端が小さくなる木の葉形を呈す。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第27486 PL197	57	打製石斧	覆土	完形	7.3	4.3	1.0	37	小型の板状で、極めて粗い作り。	黒色頁岩	
第27486 PL197	58	打製石斧	覆土	欠損	(8.9)	3.8	1.8	(78)	短冊形、やや基部、刃部が広がる。刃部を僅かに欠損か。	黒色安山岩	
第27486 PL197	59	打製石斧	覆土	完形	8.5	4.9	1.2	35	小型の楕形であるがやや不定形な作り、刃部は薄くなっている。	黒色頁岩	
第27486 PL197	60	打製石斧	覆土	欠損	(8.2)	5.4	1.2	(66)	刃部片。板状で作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第27486 PL197	61	打製石斧	覆土	完形	10.2	4.7	2.1	122	楕形、片面に一部自然面残る。作りは粗い。	粗粒輝石安山岩	
第27486 PL197	62	打製石斧	覆土	欠損	(8.4)	5.1	1.7	(101)	楕形、基部、刃部欠損している。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第27486 PL197	63	打製石斧	覆土	欠損	(7.3)	5.1	2	(88)	基部片であるが上端部分が極めて薄くなっている。	細粒輝石安山岩	
第27486 PL197	64	打製石斧	覆土	欠損	(5.6)	5.3	1.2	(57)	基部片か、板状を呈す。	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
第27486 PL197	65	打製石斧	覆土	欠損	(7.8)	4.3	1.8	(73)	楕形の基部片と思われる。	黒色頁岩	
第27486 PL197	66	石砧	覆土	完形	7.7	3.2	0.9	28	錠型石砧、先端部斜めで両側縁に刃部を持つ、つまみ口の挟りは浅い。	細粒輝石安山岩	
第27486 PL197	67	石核	覆土	完形	5.3	4.6	4.4	102	小石核。全面に多くの剥離面が見られる。	チャート	
第27486 PL197	68	小型磨製石斧	覆土	完形	5.0	2.0	0.7	13.5	定角式磨製石斧。細身で全体に丁寧な研磨。	蛇紋岩	
第27486 PL197	69	磨製石斧	覆土	欠損	(3.3)	3.2	0.7	(16.0)	定角式磨製石斧。薄手で幾は明確。全体に丁寧な研磨。基部を欠く。	蛇紋岩	
第27486 PL197	70	磨製石斧	覆土	欠損	(4.9)	5.0	2.6	(86)	刃部片。刃先で使用痕顕著。	蛇紋岩	
第27486 PL197	71	小型磨製石斧	覆土	欠損	(2.8)	1.8	1.0	(8.5)	定角式小型磨製石斧。やや厚手で幾は明確に作られている。基部片。	蛇紋岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文番号 図録番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第27604 PL197	72	磨石	覆土	完形	8.7	5.6	5.1	480	断面丸みを持った三角形である。顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第27604 PL197	73	磨石	覆土	ほぼ完形	(9.6)	5.5	1.8	129	かなり扁平で小判形を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第27604 PL197	74	磨石	覆土	完形	5.5	4.7	4.4	148	小門鏝利用。ほぼ全面使用。	粗粒輝石安山岩	
第27604 PL197	75	磨石	炉	完形	11.8	7.3	3.2	388	扁平な鏝を利用。両面に浅い打痕あり。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第27604 PL197	76	磨石	覆土	完形	7.5	5.6	3.1	152	やや扁平な小判形鏝。発泡質の石。	粗粒輝石安山岩	
第27604 PL197	77	磨石	覆土	完形	6.2	5.4	3.2	172	やや扁平な小鏝。両面使用。	粗粒輝石安山岩	
第27706 PL197	78	磨石	覆土	完形	12.3	7.1	5.8	750	依形の鏝。全面平滑。	石英閃緑岩	
第27706 PL197	79	凹石	床	完形	12.6	(7.2)	5.4	500	やや扁平な長門鏝。両面に凹み穴を有し、側面には浅い打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第27706 PL197	80	凹石	覆土	完形	11.8	8.5	5.1	830	扁平な長門鏝。両面に浅い凹み穴一対を有し、両端部に打痕あり。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第27706 PL198	81	凹石	覆土	欠損 (13.9)	7.8	3.3	470	扁平な長門鏝。両面に凹み穴が縦方向に連続して溝状を呈す。	粗粒輝石安山岩		
第27706 PL198	82	磨石	覆土	完形	9.4	8.4	5.8	570	やや扁平な門鏝。片面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第27706 PL198	83	磨石	覆土	欠損 (11.2)	7.5	4.8	600	長門鏝。顕著な使用痕は見られず。風化によるものか端部剥離顕著。	石英閃緑岩		
第27706 PL198	84	磨石	覆土	完形	7.9	6.1	5.6	335	不定形な門鏝利用。表面にやや粗さが目立つ石。	粗粒輝石安山岩	
第27706 PL198	85	磨石	覆土	欠損 (9.0)	6.7	4.5	326	扁平な長門鏝を利用。両面に使用面が、半分を欠く。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第27706 PL198	86	磨石	覆土	欠損 (5.1)	(5.8)	(2.2)	(96)	磨石の破片と見られる。被熱有り。	粗粒輝石安山岩		
第27706 PL198	87	磨石	覆土	欠損 (6.1)	4.7	3.7	176	棒状鏝の端部片。被熱有り。	安山岩		
第27804 PL198	88	多孔石	覆土	完形	18.6	13.8	11.8	3,390	不定形な自然態に10個程度の凹み穴が穿たれている。	粗粒輝石安山岩	
第27804 PL198	89	石皿	覆土	欠損 (14.3)	19.5	5.0	(178)	上部を欠く。発泡質の石材を利用。裏面に凹み穴が見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩		

## 95-43号住居跡(第280図: PL190)

縄文番号 図録番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第28004 PL198	1	深鉢 床	① 粗: 石黄少 ② 褐色	2条隆線による弧状意匠。大柄の渦巻文か。空白部は縦位・斜位沈線を施す。	中期後葉信州系						
縄文番号 図録番号	No.	器種	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考	
第28004 PL198	2	打製石斧	床	完形	11.2	4.2	0.8	52	扇形。極めて薄い作りである。	粗粒輝石安山岩	
第28004 PL198	3	磨石	床	ほぼ完形	11.4	6.5	4.8	510	丸みを持ったなすび形を呈す。両面に浅い打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第28004 PL198	4	磨石	床	完形	8.1	5.9	4.5	288	小門鏝利用。顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	

## 95-46号住居跡(第282~284図: PL196~199)

縄文番号 図録番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第28204 PL198	1	深鉢 +16	① 粗: 石黄・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部外反し無文。体部は強く内湾し球脚状をなす。体部上半は隆線による連続した渦巻文と区画文構成。変則6単位か。縦位前後条線を充填する。下半は縦位 RL を施す。	中期後葉新
第28206 PL198	2	深鉢 炉	① 粗: 石黄・輝石 ② 赤褐色	底沈線の小形深鉢。2・3単位か。隆線による前側の渦巻文や斜位5字状意匠・区画文を配す。周縁性を有位できない。体部は2・3条の準下隆線による懸垂文構成。沈線部に円形刺突文を施す箇所もある。渦巻文は RL 縦位充填文。口縁部内外面器割り落。	中期後葉新
第28206 PL198	3	深鉢 +41	① 粗: 輝石 ② 暗赤褐色	小型深鉢。4単位波状縁か。口縁部無文部はやや幅広で、波頂下に隆線による渦巻文を配し、区画文を連続する。区画内飾部は沈線。縦位短沈線を充填する。体部は沈線波文で逆U字状意匠や重畳状意匠を配す。	中期後葉信州系
第28206 PL198	4	鉢 +16	① 粗: 石黄多・雲母多 ② 鈍い赤褐色	口縁部は短く直立し無文。体部は強く内湾し球脚状をなす。頸部に隆線に画された横状把手を連続する。体部は低位隆線による大柄の渦巻文を配し、小渦巻文や直文を用いる。	中期後葉新
第28206 PL198	5	鉢 +5	① 粗: 石黄・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部直立し無文。頸部に横位隆線を繋ぐ小型横状把手を連続する。体部上半に沈線による横間意匠。以下弧状沈線を施す。	中期後葉新



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(坑・面高)			① 胎 土 ② 色 調			文 様 の 特 徴 等	備 考		
		器種	部位	残存	胎	土	色				
第2824E PL-198	6	深鉢	口縁~体部上半	破片	① 粗: 輝石 ② 褐色			波状縁、隆部による渦巻文と多段区画文構成。体部は2条沈線による帯状部懸垂文構成。L.L. 充填施文。	中期後葉新		
第2824E PL-198	7	深鉢 +25	口縁部破片		① 粗: 石英・雲母 ② 黒褐色			口縁部内溝、隆部による渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線上端を見る。施文は深い。縄文は縦位 L.L.	中期後葉古		
第2824E PL-199	8	深鉢 +29	口縁部破片		① 粗: 石英 ② 鈍い褐色			口唇部より2条沈線が弧状に派生する。垂下沈線は浅い。沈線間には凹形刺突文。縄文は縦位 L.L. 充填施文。	中期後葉新		
第2824E PL-199	9	深鉢 +23	口縁部破片		① 粗: 石英・片岩・褐色粒 ② 鈍い褐色			隆部と下端沈線による口縁部区画文。側縁は沈線。縄文は縦位 L.L.。体部は垂下沈線上端と L.L. を見る。胎面磨滅。	中期後葉古		
第2824E PL-199	10	深鉢 +27	体部上半破片		① 粗: 石英 ② 褐色			外反する体部。縦位沈線以下2条沈線による横位沈線が配される。縄文は縦位 L.L. 充填施文。	中期後葉新		
第2824E PL-199	11	深鉢 +16	体部中位破片		① 粗: 石英・輝石 ② 赤褐色			垂下沈線2条と縦位沈線による懸垂文構成。縄文は L.L. 縦位充填施文。	中期後葉古		
第2824E PL-199	12	深鉢 +28	体部上半破片		① 粗: 石英 ② 鈍い褐色			隆部による口縁部区画文下流。側縁に沈線。体部は2条沈線に面された幅広の帯状部懸垂文構成。縄文は斜位 L.L. 充填施文。	中期後葉新		
第2824E PL-199	13	深鉢 +34	体部破片		① 粗: 石英・雲母 ② 暗赤褐色			垂下沈線2条と縦位沈線による懸垂文構成。横位沈線2条を加える。施文は縦位 L.L.	中期後葉古		
第2824E PL-199	14	深鉢 +4	体部下半~底部 残存 底: 5.5		① 粗: 石英 ② 鈍い赤褐色			内湾凹縁に開く体部下半、2条の垂下沈線に面された帯状部懸垂文構成。9単位を数える。施文は縦位 L.L. を充填し縦位沈線を加える。	中期後葉新		
第2824E PL-199	15	深鉢 +27	体部 中位 1/4 残存		① 粗: 石英・輝石・雲母少 ② 鈍い褐色			垂下沈線4条による懸垂文構成。沈線間は磨消す。施文は縄文 L.L. 縦位充填施文。	中期後葉新		
第2824E PL-199	16	深鉢 +20	口縁部破片		① 粗: 輝石・雲母少 ② 暗褐色			波状縁。底部下に段縁による渦巻文を配す。区内には斜位短沈線・横位矢羽状短沈線を充填する。体部は垂下沈線上端を見る。	中期後葉信州系		
第2824E PL-199	17	深鉢 +28	口縁部突起		① 粗: 石英 ② 黒褐色			波状突起。隆部による渦巻文を配し、2条沈線が垂下する側縁は沈線。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系		
第2824E PL-199	18	深鉢 +13	口縁部破片		① 粗: 輝石 ② 黒褐色			口唇部に隆部を付けた肥厚する。凹形刺突文を加える。以下隆部・斜位帯状部を施す。	中期後葉古		
第2824E PL-199	19	深鉢 +18	体部上半破片		① 粗: 石英・雲母 ② 赤褐色			隆部による渦巻文下流より2条沈線が懸垂する。空白部は縦位沈線を地文とし横位沈線2条で小区画する。	中期後葉信州系		
第2824E PL-199	20	深鉢 +31	体部破片		① 粗: 石英 ② 褐色			沈線による渦巻状沈線を配す。	中期後葉信州系		
第2824E PL-199	21	深鉢 +24	体部破片		① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い褐色			内皮横位沈線を多段に重ね、縦位短沈線を充填する。下端に弧状沈線上端を見る。	中期後葉信州系		
第2824E PL-199	22	深鉢 +20	体部破片		① 粗: 石英・輝石 ② 暗赤褐色			垂下沈線と縦位沈線による懸垂文構成。空白部は横位沈線群で小区画し、斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系		
第2824E PL-199	23	深鉢 +19	体部破片		① 粗: 石英多 ② 鈍い褐色			隆部による弧状沈線を配す。空白部は斜位・縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系		
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第2824E PL-199	24	石礫	+37	完形	1.5	1.5	0.3	0.4	凹基無茎。弧状の狭りで脚が開く。短身で丁寧な作風。	粗粒石	
第2824E PL-199	25	石礫	+7	完形	1.5	1.1	0.3	0.3	凹基無茎。小型品。	粗粒石	
第2824E PL-199	26	石礫	覆土	完形	1.3	1.1	0.3	0.3	凹基無茎。小型品で狭りは種幅が。	粗粒石	
第2824E PL-199	27	石礫	覆土	欠損	(1.3)	(1.2)	0.4	(0.5)	先端部欠。	粗粒石	
第2824E PL-199	28	石礫	+18	欠損	(2.1)	1.5	0.5	(0.7)	凹基無茎。狭り深く本体および脚は棒状で逆Y字状を呈す。先端部欠。	粗粒石	
第2824E PL-199	29	打製石 斧	+11	完形	(11.6)	5.0	2.7	(188)	短形。中央部分が肥厚する。	粗粒輝石安山岩	
第2824E PL-199	30	打製石 斧	+9	欠損	(11.6)	5.8	1.8	(157)	扇形。片面部分的に自然面残す。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第2824E PL-199	31	石礫	覆土	欠損	(8.8)	3.2	0.7	(27)	狭み部欠損。片面に自然面残り縦長斜片の両側縁部に刃部を作出。	粗粒輝石安山岩	
第2824E PL-199	32	打製石 斧	欠損	欠損	(4.2)	5.8	1.7	(57)	刃部片。刃牙で若干の摩耗あり。	粗粒輝石安山岩	
第2824E PL-199	33	打製石 斧	+29	欠損	(7.6)	4.8	1.1	(59)	扇形か。刃部を欠く。薄手で基部に自然面が残る。	褐色頁岩	
第2824E PL-199	34	磨製石 斧	+27	欠損	(9.5)	2.4	0.6	(10.0)	薄手で断面に研磨残しの凹凸面。刃部を欠く。	蛇紋岩	
第2844E PL-199	35	磨石	床	完形	11.7	8.4	5.6	840	扁平な小四角。両面使用極めて平滑。側縁に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第2844E PL-199	36	磨石	+2	完形	11.1	8.0	4.1	570	扁平な小四角形。両面使用極めて平滑である。熱処理。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-47号住居跡(第289~296区; PL.199~203)

棟号 区画番号	No	部種・部位・残存 出土位置(保存高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第289区 PL.199	1	深鉢 +16 口縁~体部3/4残存 口:40.8	① 黒・輝石 ② 赤褐色	大型の深鉢。口縁部は連続した隆線による滴巻文と区画文構成。おそく8単位。下部区画は2条隆線もある。体部は垂下沈線2条に囲まれた横状磨部懸垂文構成。2条の横状沈線を加えて小区画にする。縄文はR.充填施文。	中期後葉新
第289区 PL.199	2	深鉢 +12 口縁~体部上半破片	① 粗:石黄少 ② 灰褐色	口縁部は隆線による滴巻文と区画文構成。側面は沈線。体部は2条沈線に囲まれた磨部懸垂文構成。縄文はL.縦位充填施文。	中期後葉新
第289区 PL.200	3	深鉢 +14 口縁~体部上半破片3点 口:(40.6)	① 粗:石黄・輝石 ② 暗赤褐色	大型の深鉢。口唇部肥厚し、口縁部内湾する。隆線による口縁部横状区画文構成。区画内は幅広の沈線を細線とし横位 R. を充填する。口唇部には円文を施す。体部は垂下沈線に囲まれた磨部懸垂文構成で磨部位置が異なる。縄文施文はL.縦位横状沈線が施される。施文部縄文は上位に横位、下位に縦位 R. を充填する。	中期後葉新
第289区 PL.200	4	深鉢 +19 口縁~体部上半破片	① 粗:石黄・輝石 ② 暗褐色	波状突起を付し、口縁部は隆線による滴巻文と区画文構成。区画内側部は沈線、横位 R. を充填する。側部は無文で、体部は横位隆線で囲まれ両手状垂下隆線による懸垂文構成か。縦位 R. を施す。	中期後葉新
第289区 PL.200	5	深鉢 +9 口縁部破片	① 粗:石黄・輝石 ② 暗赤褐色	内湾する口縁部に隆線による滴巻文を配す。側面は沈線。区画内は縦位・斜位 R. を施す。	中期後葉新
第289区 PL.200	6	深鉢 魔土	① 粗:小礫・石黄 ② 黒褐色	口唇部肥厚、口縁部隆線による滴巻文と区画文構成。側部は沈線。横位 R. を充填する。体部は垂下沈線と縦位 R. を見る。	中期後葉新
第289区 PL.200	7	深鉢 +21 口縁~頸部破片	① 粗:石黄・輝石 ② 黒褐色	口縁部広く反し無文。横位隆線を設け以下滴巻文と区画文を配す。縦位 R. を施す。黒色付着物がある。	中期後葉古
第290区 PL.200	8	深鉢 +9 体部上半破片	① 粗:輝石・雲母 ② 明褐色	口縁部は隆線による区画文構成。側面は沈線。横位 R. を充填する。体部は磨部沈線と垂下沈線。縦位横状沈線による懸垂文構成。縄文は横位・縦位 R. 充填施文。	中期後葉新
第290区 PL.200	9	深鉢 +10 体部上半破片	① 粗:輝石・雲母少 ② 褐色	頸部横位沈線以下波状沈線を施す。横位・縦位 R. を施す。	中期後葉新
第290区 PL.200	10	深鉢 +43 口縁部破片	① 粗:片岩粒 ② 灰褐色	口唇部欠損。口縁部内傾し無文。沈線を細線とし体部は2条沈線に囲まれた磨部懸垂文構成。あるいは滴巻文か、縄文は上位に横位。以下縦位 R. を施す。	後期初期
第290区 PL.200	11	深鉢 +4 体部中位破片	① 粗:輝石 ② 褐色	口縁部隆線による磨部懸垂文構成。施文部縄文は縦位 R. 充填施文。	中期後葉新
第290区 PL.200	12	深鉢 魔土	① 粗:輝石 ② 鈍い赤褐色	2条沈線に囲まれた磨部懸垂文構成。磨部には細線。施文部は縦位 R. 充填施文。	中期後葉新
第290区 PL.200	13	深鉢 +21 体部上半破片	① 粗:石黄・輝石 ② 褐色	口縁部を両手状沈線か。体部は縦位波状沈線による懸垂文構成。縦位 R. を施す。	中期後葉新
第290区 PL.200	14	深鉢 +10 体部中位破片	① 粗:輝石 ② 赤褐色	2・3条の垂下沈線による磨部懸垂文構成。施文部は縦位 R. 充填施文後縦位波状沈線を加える。	中期後葉新
第290区 PL.200	15	深鉢 +18 体部破片	① 粗:石黄・輝石 ② 明褐色	垂下沈線2条に囲まれた幅広の磨部懸垂文構成。施文部縄文はR. 縦位充填施文。	中期後葉新
第290区 PL.200	16	深鉢 床	① 粗:白色粒 ② 褐色	垂下隆線3条による懸垂文構成。側面は無文。縄文L.を縦位充填施文する。	中期後葉古
第290区 PL.200	17	深鉢 魔土	① 粗:輝石 ② 明褐色	3条の沈線による磨部懸垂文構成。施文部縄文は縦位 R. 充填施文。縦位波状沈線が加わる。	中期後葉新
第290区 PL.200	18	深鉢 体部下半~底部 残存 底:8.4	① 粗:石黄・輝石 ② 鈍い褐色	垂下沈線2・3条による磨部懸垂文構成。縄文は縦位・斜位 R. 充填施文。沈線の施文にも見られる。	中期後葉新
第290区 PL.200	19	深鉢 体部下半~底部 残存 底:7.4	① 粗:石黄・輝石 ② 赤褐色	2条沈線に囲まれた磨部懸垂文構成。施文部は縦位 R. 充填施文。内面輪状に付存す。	中期後葉新
第290区 PL.200	20	深鉢 体部破片	① 粗:石黄・輝石 ② 明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側面は内位沈線。施文は指示L.縦位施文。	中期後葉古
第290区 PL.200	21	深鉢 +29 体部破片	① 粗:小礫・輝石 ② 鈍い褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。指示L.を縦位施文する。型体未詳を見る。	中期後葉古
第290区 PL.200	22	深鉢 床	① 粗:輝石少 ② 鈍い赤褐色	指示L.縦位施文。	中期後葉古
第290区 PL.200	23	深鉢 +27 把手破片	① 粗:輝石 ② 鈍い褐色	体部上半の縦位隆線に横状把手を付す。把手には沈線による弧線文・滴巻文を施す。体部は縦位 R. を施す。	中期後葉古
第290区 PL.200	24	浅鉢 +26 頸部破片	① 粗:輝石 ② 灰褐色	頸部隆線強く突出する。口縁部は沈線による弧状・滴巻文を配し、円形刺突文を縦位波状に施す。外面に赤彩帯を見る。	中期後葉古
第291区 PL.200	25	浅鉢 +8 口縁~体部上半 1/4残存 口:(19.0)	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部直立し無文。体部上半に強い内湾を持たせ、頸部に横位隆線2条と小型横状把手を設ける。体部は低位隆線による弧状意匠や円文を配す。赤彩帯は帯かに認められる。	中期後葉古
第291区 PL.200	26	浅鉢 +12 口縁~体部上半 1/3残存 口:(21.0)	① 粗:石黄・雲母 ② 暗褐色	口縁部は直立し体部は強く内湾する。頸部に横位隆線と小型の横状把手を設け、体部は低位隆線による弧状・滴巻文意匠、円文を配す。内外面に赤彩帯帯を見る。	中期後葉新
第291区 PL.200	27	浅鉢 +24 口縁~体部上半 破片	① 粗:石黄・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部直立。頸部に横位隆線2条と小型の横状把手を設ける。体部は低位隆線による弧状意匠や沈線による横円文を施す。赤彩は判然としない。	中期後葉新

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体表面)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第2918E PL.201	28	深鉢 +16	把手破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	体部上半に付す横状把手。隆縁と太い沈線で縁取り 下部は小溝帯を配する。	中期後葉新
第2918E PL.201	29	深鉢 +5	胴部-体部上半 1/3 残存	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	胴部外反。体部上半に隆縁による溝帯文を突出さ せ、下位に横円状区画文を配す。区内面に沈線を側 縁とし横位矢羽状沈線や縦位短沈線を充填する。 体部は浅い縦位密接条線を施すが、空白部もあり、 単位が覆われない。	中期後葉新
第2918E PL.201	30	深鉢 +13	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	胴部隆縁は突出し、口縁部溝帯文に派生する。区画 内には沈線を側縁とし斜位短沈線を配す。	中期後葉古
第2918E PL.201	31	深鉢 +10	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 褐色	隆縁による大形の溝帯文を配す。沈線を側縁とし す。口唇部及び内面は研磨を施す。	中期後葉古
第2918E PL.201	32	深鉢 +22	口縁-体部上半 破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部は無文。縦位隆縁以下縦位S字状意匠下部より 2条隆縁が懸垂する。空白部は魚鱗状沈線を施す。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	33	深鉢 +9	口縁部破片	① 粗:石英 ② 暗褐色	大形深鉢が、隆縁による溝帯文と区画文構成。側縁は 幅広い沈線。区内及び体部は縦位密接条線を施す。	中期後葉新
第2918E PL.201	34	深鉢 +3	口縁部破片	① 粗:石英少 ② 鈍い赤褐色	隆縁による口縁部溝帯文と区画文。側縁は側で、区 画内には縦位密接条線を施す。	中期後葉新
第2918E PL.201	35	浅鉢 床	口縁部破片	① 粗:石英多 ② 赤褐色	口縁部直立意味で無文。研磨を施す。縦位隆縁以下 斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	36	深鉢 +15	口縁-体部上半 破片	① 粗:石英・雲母 ② 暗褐色	隆縁による溝帯文を配し下部より隆縁が垂下する。 垂下隆縁は斜となる。空白部は横位隆縁2条により 小区画され、縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	37	深鉢 +22	口縁-体部上半 1/4 残存 口:(26.2)	① 粗:石英・輝石少 ② 黒褐色	口縁部は沈線による横円状区画、縦位短沈線を充 填する。隆縁による溝帯文下部より懸垂する垂下隆 縁2条、縦位矢羽状隆縁と逆U字状垂下隆縁も配され る。空白部は縦位沈線を地文状とし横位矢羽状隆縁 で区画する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	38	深鉢 斜	体部のみ残存	① 粗:石英 ② 鈍い褐色	成熟のため表面磨耗している。隆縁による体部懸垂文 構成が、溝帯文を中に配す懸垂文は2条隆縁が、 空白部は縦位矢羽状沈線を施す。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	39	深鉢 +3	口縁部-体部上半 破片	① 粗:石英 ② 暗赤褐色	口唇部に横位沈線を沿ける。欠損する突起より隆縁 が派生し体部の逆U字状隆縁や縦位短沈線に 連続する。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。内 縁突出。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	40	深鉢 +17	口縁-体部上半 破片	① 粗:輝石 ② 赤褐色	波状突起付す。口縁部は無文で体部は研磨を施す隆 縁による逆U字状懸垂文を配す。表面下に垂下隆縁 と列点状突起文を施す。空白部は斜位短沈線を充填 する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	41	深鉢 +5	体部上半破片	① 粗:石英・輝石 ② 灰褐色	溝帯文を配した2条隆縁と縦位矢羽状隆縁による懸垂 文構成。空白部は魚鱗状沈線を施す。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	42	深鉢 +22	体部下半破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	隆縁による逆U字状区画文。区内中心を区画によるU 字状突起が配され、斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	43	浅鉢 床	体部中位破片	① 粗:石英・輝石 ② 明赤褐色	縦位密接隆縁による懸垂文構成。縦位沈線2条で中 区画し縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	44	深鉢 +15	体部上半破片	① 粗:輝石少 ② 鈍い黄褐色	内湾する体部。沈線による逆U字状意匠を配し、地 文状に縦位密接条線を施す。	中期後葉古
第2918E PL.201	45	深鉢 PB1・2	胴部破片	① 粗:石英 ② 褐色	斜めを付す縦位隆縁より同隆縁が懸垂する。空白部 は縦位沈線で縦分則され、弧状・斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	46	深鉢 +34	胴部-体部上半 破片	① 粗:石英・片岩 ② 明褐色	口縁部隆縁剥落。溝帯状意匠が、区内には縦位短沈 線を充填する。胴部隆縁以下は縦位条線を施す。	中期後葉新 ?
第2918E PL.201	47	深鉢 +14	体部破片	① 粗:石英多 ② 明褐色	溝帯文を配した垂下隆縁による懸垂文構成。空白部 は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	48	深鉢 床	体部上半破片	① 粗:輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部隆縁による区画文構成が、体部は2条沈線に よる懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	49	深鉢 +8	体部破片	① 粗:石英多 ② 明赤褐色	隆縁による懸垂文構成。空白部は縦位沈線2条で中 区画され、縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	50	深鉢 +23	体部下半破片	① 粗:石英・輝石 ② 灰褐色	隆縁・縦位隆縁による区画文構成。区内には細かな 縦位矢羽状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第2918E PL.201	51	浅鉢 +9	口縁部破片	① 粗:石英 ② 明褐色	口縁部外傾し、体部は内湾する。内縁は浅い。無文 で内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕残る。	中期後葉
第2918E PL.201	52	浅鉢 +12	口縁部破片	① 粗:石英少 ② 黒褐色	口縁部肥厚し体部上半に僅かな内湾を持たせる。内 外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕残る。	中期後葉
第2918E PL.201	53	浅鉢 +11	口縁-胴部破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	口縁-胴部逆U字状意匠に内湾を持たせる。 口縁部は無文で赤彩痕を僅かに見る。体部表面剥 落。	中期後葉新
第2918E PL.201	54	深鉢 +27	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 明赤褐色	側面に沈線による溝帯文を配した突起を配す。口唇 部は沈線による横円状意匠に溝帯文を施す。突起下 端より太い隆縁が垂下する。	中期後葉古
第2918E PL.201	55	深鉢 床	体部下半~底部 2/3 残存 底:7.8	① 粗:輝石 ② 赤褐色	懸垂し斜位沈線。内面縦付付着。	中期後葉古
第2918E PL.201	56	深鉢 +31	体部下半のみ残 存	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	小型深鉢。あるいはミニチュアか。体部は外反意味 に立ち上がり、縦位研磨を施す。	中期後葉新
第2918E PL.201	57	深鉢 +9	体部下半~底部 1/2 残存 底:6.6	① 粗:石英 ② 赤褐色	垂下隆縁による懸垂文構成。あるいは2条一組か。 空白部は縦位沈線を施す。やや雑な文。	中期後葉古 ?
第2918E PL.201	58	浅鉢 +9	体部下半~底部 1/4 残存 底:7.0	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	沈線による縦位意匠下部を見る。溝帯文が、内外面 に丁寧な研磨を施す。内底面に赤彩が残る。	中期後葉新

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図録番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第2948 PL_202	59	石 甌	覆土	欠損	1.0	1.8	0.2	(0.5)	凹基無蓋、小型品、先端部を欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	60	石 甌	覆土	完形	1.9	1.3	0.3	0.5	凹基無蓋、小型品、袢りはV字状。	チャート	
第2948 PL_202	61	石 甌	床	完形	1.9	1.4	0.4	0.7	凹基無蓋、小型品でやや厚手の作り。	チャート	
第2948 PL_202	62	石 甌	+3	完形	1.7	1.3	0.3	0.4	凹基無蓋、小型品。	黒曜石	
第2948 PL_202	63	石 甌	+5	完形	1.4	1.1	0.3	0.4	凹基無蓋、小型品。	黒曜石	
第2948 PL_202	64	石 甌	覆土	欠損	(3.1)	(1.7)	0.3	(1.1)	凹基無蓋、大型品で、薄手の作り、先端部は細く尖り丁寧な作り。	黒曜石	
第2948 PL_202	65	石 甌	覆土	欠損	(1.6)	(1.7)	0.6	(0.5)	凹基無蓋、袢り浅く、先端部を欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	66	石 甌	覆土	欠損	(1.5)	1.7	0.2	(0.5)	凹基無蓋、袢りやや深い、先端部欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	67	石 甌	覆土	欠損	(1.8)	1.9	0.6	(1.0)	凹基無蓋、先端部を欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	68	石 甌	覆土	欠損	(0.8)	1.7	0.2	(0.3)	凹基無蓋、袢り浅い、先端部を欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	69	石 甌	覆土	ほぼ 完形	(2.2)	2.0	0.5	(2.0)	凹基無蓋、片面がやや肥厚し縁部部割調整見られるが丸みを有す。	黒曜石	
第2948 PL_202	70	石 甌	覆土	欠損	(2.1)	1.6	0.3	(1.1)	平基無蓋、先端部欠損か、蓋のつまみ部の可能性もある。	黒曜石	
第2948 PL_202	71	石 甌	覆土	欠損	(1.8)	1.4	0.4	(0.8)	凹基無蓋、片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	72	石 甌	砂内	欠損	(1.6)	1.4	1.3	(0.5)	基部および先端部を欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	73	石 甌	覆土	完形	(2.2)	1.7	0.6	(1.5)	平基無蓋、中央が肥厚し左右非対称の形状、鋭利さは無い。	チャート	
第2948 PL_202	74	石 甌	覆土	欠損	(1.9)	1.6	0.6	(1.6)	平基無蓋、やや厚手で先端部を欠く。	黒曜石	
第2948 PL_202	75	石 甌	覆土	ほぼ 完形	2.2	1.7	0.6	2.2	平基無蓋、厚みを有し鋭利さは見られない。	黒曜石	
第2948 PL_202	76	スクレイパー	覆土	完形	1.8	1.4	0.6	0.9	小型楕円形を呈す。中央厚く縁部部に割調整。石甌の未成品か。	黒曜石	
第2948 PL_202	77	石 甌	+16	完形	3.0	0.5	0.4	0.5	甌形の棒状物。やや曲がりを持つ。	黒曜石	
第2948 PL_202	78	石 甌	覆土	完形	3.1	1.1	0.7	2.1	断面三角の棒状物。先端部は縁部部に割調整。	黒曜石	
第2948 PL_202	79	石 甌	覆土	完形	1.5	0.6	0.3	0.2	極めて小型の棒状物か、断面は楕円状。	黒曜石	
第2948 PL_202	80	スクレイパー	+8	完形	6.4	5.0	1.4	40.7	不定形な大型で厚手の割り利用。一辺に細かな刃部作出。	黒曜石	
第2948 PL_202	81	打製石斧	+13	完形	13.1	5.0	1.9	162	楕形、全体にやや厚手の作り、刃部厚鈍。	黒色安山岩	
第2948 PL_202	82	打製石斧	覆土	完形	11.0	4.1	1.6	89	短楕形、中央部分が肥厚し刃部に向かって薄くなる。刃部厚鈍。	黒色安山岩	
第2948 PL_202	83	打製石斧	+19	完形	11.8	6.1	1.7	144	楕形であるが、刃部は丸く広がる。使用痕有り。	細粒輝石安山岩	
第2948 PL_202	84	打製石斧	+6	完形	10.9	6.6	3.1	267	長さが無く極めて厚手で、鋭利さは見られない。未製品か。	粗粒輝石普通輝石安山岩	
第2948 PL_202	85	打製石斧	+19	完形	10.4	5.5	1.2	88	楕形、やや刃部が薄くなる。	粗粒輝石安山岩	
第2948 PL_202	86	打製石斧	+23	欠損	9.7	4.4	1.3	66	基部片か、粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第2948 PL_202	87	打製石斧	+15	欠損	9.1	3.2	0.8	29	木の葉形の縦型薄手割片、側縁部に刃部作出。スクレイパーか。	黒色安山岩	
第2948 PL_202	88	打製石斧	+18	欠損	(9.4)	7.2	1.2	(177)	楕形、基部を欠く。幅広で薄手の作り。自然面残る。刃部厚鈍。	粗粒輝石安山岩	
第2948 PL_202	89	スクレイパー	+13	完形	8.3	4.6	0.8	37	楕形の刀形を呈す。板状片で片面に自然面、刃部片縁から先端部。	黒色安山岩	
第2948 PL_202	90	打製石斧	+14	欠損	(5.9)	3.8	1.7	(41)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第2948 PL_202	91	打製石斧	+34	欠損	(7.0)	4.5	2.2	(93)	基部片、端面に自然面が残る。やや厚手の作り。	粗粒輝石安山岩	
第2948 PL_202	92	打製石斧	+7	欠損	(6.4)	4.7	0.8	(31)	基部片か、薄い板状で片側縁にのみ調整見られる。スクレイパーか。	黒色頁岩	
第2948 PL_203	93	打製石斧	砂	欠損	(7.8)	4.9	1.2	(67)	板状で両面に自然面。楕形の基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第2948 PL_203	94	打製石斧	+9	欠損	(6.2)	4.3	1.8	(53)	基部片か、粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第2948 PL_203	95	磨石	+16	完形	8.9	5.9	3.3	222	やや扁平な長円磨り利用。顕著な使用痕は見られず。	流紋岩	

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第29504 PL-203	96	磨石	+12	完形	6.5	5.4	3.7	178	円錐利用、側縁部に打痕が、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第29504 PL-203	97	磨石	+10	完形	6.5	5.0	3.8	168	円錐利用、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第29504 PL-203	98	磨石	+15	完形	6.2	5.0	3.3	150	やや扁平な小円錐利用、顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第29504 PL-203	99	磨石	+27	完形	8.2	7.4	3.0	227	円盤形の椀、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第29504 PL-203	100	凹石	+17	完形	8.5	6.7	5.0	234	彫形で両面に凹みをもつ。側縁部に円打痕の凹みが見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第29504 PL-203	101	磨石	+11	欠損 (6.6)	6.6	4.3	4.0	(270)	やや扁平な長円錐利用、破損品。使用跡跡で平直で打痕は顕著。	砂岩	
第29504 PL-203	102	磨石	+13	完形	14.2	6.2	4.2	575	棒状椀。両面に2カ所ずつの浅い凹みが見られる。端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第29504 PL-203	103	磨石	覆土	完形	6.0	5.4	3.7	180	小円錐利用、顕著な使用痕は見られず。	石英閃緑岩	
第29504 PL-203	104	磨石	+7	欠損 (5.8)	(5.8)	(3.5)	4.0	(98)	磨石の破片、側縁部に打痕。	安山岩	
第29504 PL-203	105	敲石	覆土	完形	18.1	5.2	3.9	480	断面が菱形の棒状椀。両端に若干の打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第29504 PL-203	106	丸石	+5	完形	25.1	17.4	11.2	7,500	大型の長円錐。鉄分沈着有り、顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第29504 PL-203	107	解石類	床	欠損 (8.1)	8.1	5.1	2.7	37	厚手の長方形を呈し、角は丸く整形される。上部に穿孔孔有。一部欠損。	輝石	

95-48号住居跡(第300~304図; PL-201~205)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第30004 PL-203	1	深鉢 覆土	政直部3欠損 口:16.2 高:19.9 底:5.2	① 胎:石英・輝石 ② 暗褐色	S字状突起と波状突起による2単位。口縁部沈凹と内形宛突文を設け、頸部は隆線による気状区画を配す。体部は隆線で画された反丁字状意匠を4単位配し、下半は横位隆線で区画する。区画内は沈凹を側縁とし、LRを充填する。内面に厚付着。	後期初頭
第30004 PL-203	2	深鉢 覆土	口縁部1/2欠損 口:(20.8) 高:(23.8) 底:8.6	① 胎:石英・雲母 ② 褐色	おそらく2単位波状隆線。政直部を欠損する。2条隆線に画された磨消部による筋線状意匠2段を配す。4単位。横位気状沈凹で各単位を遮断する。胎文部は縦位LR充填施文。体部上半は胎文後に彫り遺物を加え文様を消失させた箇所を見る。やや膨らみ状地。	後期初頭
第30004 PL-203	3	深鉢 覆土	政直部1欠損 体部1/2欠損 口:20.6 高:23.6 底:6.0	① 胎:石英・雲母 ② 鈍い黄褐色	上端隆線突起と捺突突起による2単位気状口縁。体部は上下2帯に分かれるが、政直部意匠と下半の意匠を沈凹で繋ぐ箇所を見る。上下とも2条隆線による磨消部気状意匠反丁字状意匠を配し、胎文部はLRを充填する。交互施文は保たれる。地肌及隆線弱部は磨滅する。	後期初頭
第30004 PL-203	4	深鉢 床	口縁+体部上半 1/4残存 口:(26.0)	① 胎:石英・輝石 ② 暗赤褐色	外反する幅広無文口縁。頸部隆線には斜位宛突を兼ね、小型の丁字状意匠が懸架する。隆線による意匠文は別構があるが全容は把握できない。無胎土を縦位充填施文する。	後期初頭
第30004 PL-203	5	深鉢 +15	口縁部1/3残存 口:(13.0)	① 胎:石英少 ② 黒褐色	小笠原鉢か、口縁部隆線を設け縦位S字状意匠や垂下隆線が生ずる。側縁は浅い沈凹。胎文は縦位LR。	中期後葉古
第30004 PL-203	6	深鉢 +10	口縁部破片	① 胎:石英少 ② 黒褐色	薄手の器厚で端正な作り。沈凹で画された磨消部気状意匠。磨消部には研磨。胎文部にはLRを充填する。	後期初頭
第30104 PL-204	7	深鉢 覆土	口縁部破片	① 胎:石英・輝石 ② 明褐色	口縁部沈凹以下沈凹で画された磨消部気状意匠が配される。胎文部は無胎土充填施文。	後期初頭
第30104 PL-204	8	深鉢 中	口縁部破片	① 胎:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口唇部肥厚し内唇する。2条隆線に画された丁字状意匠と端か。胎文部は無胎土充填施文。磨消部は研磨を加える。	後期初頭
第30104 PL-204	9	深鉢 覆土	口縁部破片	① 胎:石英 ② 明褐色	口唇部内唇。横位沈凹が多段に配られ、胎文部と磨消部の交互配列。縦位LRを充填する。	後期初頭
第30104 PL-204	10	深鉢 +14	口縁部破片	① 胎:石英・雲母 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。口縁部沈凹を設け、沈凹で画された磨消部気状意匠を配す。斜位LRを充填する。	後期初頭
第30104 PL-204	11	深鉢 +13	口縁部破片	① 胎:輝石 ② 黒褐色	緩やかな波状隆線。口唇部内面は肥厚し内唇を持つ。外面は沈凹で画された満容意匠が、磨消部研磨。胎文部はLR充填施文。	後期初頭
第30104 PL-204	12	深鉢 覆土	口縁部破片	① 胎:輝石 ② 灰黄褐色	口唇部内面肥厚。口縁部沈凹以下磨消部気状意匠が配される。胎文部は研磨を施す。	後期初頭
第30104 PL-204	13	深鉢 +14	口縁部破片	① 胎:石英・輝石 ② 灰黄褐色	波状隆線。口唇部内に溝を持つ。沈凹で画された気状区画意匠が配される。胎文部無文はLR充填施文。	後期初頭
第30104 PL-204	14	深鉢 覆土	口縁部破片	① 胎:石英少 ② 灰褐色	磨消部満容意匠反丁字状区画一端を見る。胎文部無胎土と同一個体か	後期初頭 6と同一個体か
第30104 PL-204	15	深鉢 +3	口縁部破片	① 胎:石英・輝石 ② 明赤褐色	緩やかな波状隆線。気状沈凹を施し、斜位隆線を互器に充填する。	後期初頭
第30104 PL-204	16	深鉢 +12	口縁部破片	① 胎:石英・輝石 ② 赤褐色	口唇部内面肥厚。口縁部沈凹を設け、2条隆線で画された磨消部が下半する。気状意匠の一端も看取される。胎文はLR充填施文。	後期初頭

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 図面番号	No.	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土質 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第301図 PL_204	17	深鉢 床	口縁部破片 ① 黒：石英 ② 黒褐色	波状縁。口縁部細隆線を設け以下無筋Lを充填施文する。	後期初頭 中間未定か？
第301図 PL_204	18	深鉢 +10	口縁部破片 ① 黒：輝石 ② 黒褐色	小型部鉢か、口縁部は無文で、横位隆線は強く突出する。円形割突文が知られる。体部は弧状沈線と上縁を見る。地文は横位LR。	後期初頭？
第301図 PL_204	19	深鉢 +17	口縁部破片 ① 黒：石英 ② 黒褐色	波状縁。口縁部肥厚部は無文で、弧状隆線が顕生する。渦巻状意匠か。縄文は横位LR。	後期初頭
第301図 PL_204	20	深鉢 +27	口縁部破片 ① 粗：石英 ② 灰黄褐色	波状縁か。口縁部隆線と円形割突文を設け、以下隆線による弧状意匠を施す。磨消部は研磨。施文部は無筋L横位を充填施文。	後期初頭
第301図 PL_204	21	深鉢 +16	口縁部突起 ① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	大型の縦状突起。下端の前後縁部から横状把手あるいは割突起を付すと思われる。無筋Lを施す。	後期初頭
第301図 PL_204	22	深鉢 +11	口縁部突起 ① 黒：輝石 ② 黒褐色	大きく突出する。外面は縦位S字、上面は横位S字状隆線を配す。口縁部には有段で無筋Lを施す。	後期初頭
第301図 PL_204	23	深鉢 +10	口縁部突起 ① 粗：石英少 ② 黒褐色	縦位突起突起を強く突出させる。両側面とも無文で丁寧な滑り面を施す。体部下に無筋L上縁を見る。	後期初頭
第301図 PL_204	24	深鉢 床	口縁部突起 ① 粗：石英 ② 黒褐色	裏面縦位双環状突起か。側面は沈線を施す。体部は沈線で囲まれた区画内をLRが充填される。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期初頭
第301図 PL_204	25	深鉢 魔土	体部破片 ① 粗：輝石 ② 褐色	沈線で囲まれた磨消部渦巻状意匠。磨消部は研磨。施文部はLRを充填する。交互構成を保つ。薄手の器厚。	後期初頭
第301図 PL_204	26	深鉢 +22	体部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	沈線で囲まれた施文部弧状意匠。あるいは渦巻意匠か。磨消部は研磨。施文部はLR充填施文。	後期初頭
第301図 PL_204	27	深鉢 魔土	体部破片 ① 粗：石英 ② 暗褐色	沈線で囲まれた弧状意匠。施文部は無筋Lを充填施文する。内面保持層が顕著。	後期初頭
第301図 PL_204	28	深鉢 +31	体部下半破片 ① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	沈線で囲まれた施文部弧状意匠。下端区画する。LRを充填する。無文部は研磨を施す。	後期初頭
第301図 PL_204	29	深鉢 +8	体部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	沈線で囲まれた磨消部渦巻状意匠。磨消部は研磨。施文部はLRを充填する。	後期初頭
第301図 PL_204	30	深鉢 魔土	体部破片 ① 粗：石英 ② 黒褐色	2条の沈線に囲まれた施文部弧状意匠。あるいは3条垂文構成か。縦位LRを充填する。	後期初頭
第301図 PL_204	31	深鉢 魔土	体部破片 ① 粗：石英 ② 鈍い褐色	沈線で囲まれた施文部による大柄な弧状意匠。無筋Lを縦位充填施文する。	後期初頭
第301図 PL_204	32	深鉢 魔土	体部上半破片 ① 粗：輝石 ② 暗褐色	縦沈線で囲まれた幾何学状意匠。施文部は無筋L横位部反文。	後期前葉末
第301図 PL_204	33	深鉢 +32	体部下半破片 ① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	頸部外反し体部内湾する。頸部隆線に円形貼付を付し2条隆線が弧状顕生する。細縄文LRを充填する。	後期初頭
第301図 PL_204	34	深鉢 +34	体部破片 ① 粗：石英少 ② 鈍い黄褐色	細隆線による弧状意匠。施文部は無く丁寧な研磨が施される。	後期初頭
第301図 PL_204	35	深鉢 魔土	体部中位破片 ① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	内湾する体部。細隆線による渦巻状意匠か。側面は横位L上縁。縄文はLRを充填する。	後期初頭
第302図 PL_204	36	深鉢 +29	体部下半破片 ① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	縦沈線で囲まれた弧状意匠。下端を区画する。無筋Lを充填する。	後期初頭
第302図 PL_204	37	深鉢 +7	体部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 褐色	2条沈線による弧状意匠以下、逆U字状隆線文が配される。縦位LRを施す。	後期前葉
第302図 PL_204	38	深鉢 +22	体部中位破片 ① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	内湾する体部。研突を施す円形貼付文外縁を沈線が同心円状に施される。	後期初頭
第302図 PL_204	39	深鉢 +22	体部上半破片 ① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	横位隆線以下、円形貼付文を中核として、弧状隆線・横位隆線が顕生する。LRを充填する。	後期初頭
第302図 PL_204	40	深鉢 +7	口縁～体部破片 4点 ① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色・鈍い褐色	口唇部薄減。口縁部は無文。横位隆線を設け、以下無筋Lを縦位顕生する。比較的薄手の器厚を呈す。	後期初頭
第302図 PL_204	41	深鉢 +14	口縁部破片 ① 粗：石英大 ② 鈍い黄褐色	口縁部は無文で下位に横位隆線を設け、2条隆線が縁位上縁を顕生する。施文部は逆位LRを充填する。	後期初頭
第302図 PL_204	42	深鉢 +23	口縁部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	幅広い無文口縁部。横位隆線を設け体部は無筋Lを充填する。	後期初頭
第302図 PL_204	43	浅鉢 +11	口縁部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口唇部肥厚し突出する。体部は緩やかな内湾を呈す。内面は研磨を施し、赤彩痕を見る。	中期後葉
第302図 PL_204	44	深鉢 +16	口縁部破片 ① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部は無文で下位に横位隆線を設ける。体部も無文か。比較的堅重な印象を得る。	後期初頭
第302図 PL_204	45	深鉢 が	口縁部破片 ① 粗：石英 ② 鈍い褐色	口縁部は無文で下位に横位隆線を設ける。体部は弧状沈線上縁を見る。無筋L縦位を充填施文。	後期初頭
第302図 PL_204	46	深鉢 +19	口縁部破片 ① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部無文。横位隆線はややたい。体部は無文か。	後期初頭
第302図 PL_204	47	浅鉢 +35	口縁部破片 ① 粗：白色砂 ② 鈍い褐色	外面は無文。内面は4条の横位沈線を配す。	後期初頭
第302図 PL_204	48	深鉢 +23	口縁部突起 ① 粗：石英 ② 黒褐色	小型の波状突起。上縁は横状で弱い縦状突起を呈すか。内外面保持層。	後期初頭
第302図 PL_204	49	鉢 +7	口縁部破片 ① 粗：雲母 ② 暗褐色	口縁部は厚く、頸部で屈曲する。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期初頭？
第302図 PL_204	50	深鉢 +21	頸部把手 ① 粗：輝石 ② 褐色	横位隆線に付せられた横状把手。沈線による縦位S字状意匠を配す。体部は沈線を施文する。	後期初頭
第302図 PL_204	51	深鉢 魔土	体部中位～下半 1/3残存 ① 粗：石英多・輝石 ② 褐色	胴身の体部部形。縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は無筋L縦位施文。	後期初頭
第302図 PL_205	52	深鉢 魔土	底部 底：S4 ① 粗：石英 ② 褐色	小型器縁。あるいは注口器か。縁部は突出し、体部は強く張る。無文。	後期

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土				文 様 の 特 徴 等	備 考			
			① 胎色	② 胎色	③ 胎色	④ 胎色					
第3034E PL_205	53	貝輪状土製品 +18	1/3 残存				① 胎: 石英・輝石 ② 胎色: 不明色	鎌倉で角皮が高い、無文で丁寧な扱ひと調整を施す。付着物は見られない。	後期初頭		
第3034E PL_205	54	貝輪状土製品 +35	1/5 残存				① 胎: 石英 ② 胎色: 褐色	厚手で、角度も深い、無文で内外面研磨を加える。付着物は見られない。	後期初頭		
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第3034E PL_205	55	石鏝	+35	完形	2.1	1.5	0.4	0.7	凹基無茎、挟りはあまり深くない。	黒曜石	
第3034E PL_205	56	石鏝	+19	完形	1.7	1.7	0.5	1.3	凹基無茎、挟り浅く脚が闊く短身。かなり厚手の作り。	黒曜石	
第3034E PL_205	57	石鏝	+8	ほぼ完形	1.2	1.7	0.7	1.7	凹基無茎、極めて厚手。未製品か。	黒曜石	
第3034E PL_205	58	石鏝	+18	完形	2.4	1.5	0.6	1.2	凹基無茎、挟り浅く幅広で脚は短く小さい。作りは粗く胎色は無い。	チャート	
第3034E PL_205	59	石鏝	+15	ほぼ完形	(1.9)	2.0	0.4	(1.0)	凹基無茎、脚が大きく闊く短身。先端部を僅かに欠。	黒曜石	
第3034E PL_205	60	石鏝	+7	欠損	(3.4)	(1.8)	0.5	(1.7)	凹基無茎か、比較的大型。基部を斜めに欠く。	チャート	
第3034E PL_205	61	石鏝	+3	欠損	2.2	1.4	0.4	0.8	凹基無茎、挟り浅く片側の端部欠く。器面の風化が顕著。	チャート	
第3034E PL_205	62	石鏝	床	欠損	(2.0)	(1.6)	0.5	(0.7)	凹基無茎、片脚を欠き、器面風化。	チャート	
第3034E PL_205	63	石鏝	覆土	欠損	(2.0)	(1.5)	0.4	(0.9)	先端部片、基部を斜めに欠く。	黒曜石	
第3034E PL_205	64	石鏝	覆土	欠損	2.2	1.2	0.3	0.7	凹基無茎、片側の脚を欠く。	黒曜石	
第3034E PL_205	65	石鏝	+27	欠損	(1.4)	(1.0)	0.5	(0.3)	先端部片か。	チャート	
第3034E PL_205	66	石鏝	覆土	欠損	(1.4)	1.4	0.3	(0.5)	凹基無茎、比較的挟り深い。先端部を欠く。	黒曜石	
第3034E PL_205	67	石鏝	覆土	欠損	(2.0)	(1.5)	0.3	(0.7)	片面は鈎離面を大きく残す。基部を欠く。	黒曜石	
第3034E PL_205	68	スクレイパー +6	完形	(2.6)	(1.4)	0.7	(2.4)		縦長割片の片側縁部に刃部作出。	黒曜石	
第3034E PL_205	69	石鏝	床	欠損	(2.0)	2.0	0.5	(1.5)	凹基無茎、先端部を欠き、作りは粗い。	黒曜石	
第3034E PL_205	70	石鏝	覆土	欠損	(1.2)	(1.5)	0.3	(0.5)	凹基無茎、脚は開かずむしろすぼまる形。先端部を欠く。	黒曜石	
第3034E PL_205	71	石鏝	覆土	欠損	(1.4)	(1.8)	0.3	(0.5)	凹基無茎、脚は大きく開き長い。片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第3034E PL_205	72	石鏝	覆土	欠損	(1.2)	(0.9)	0.3	(0.2)	脚部片か。	黒曜石	
第3034E PL_205	73	石鏝	床	完形	2.8	1.2	0.9	2.3	紡錘状を呈す。基部が厚く先端部分は薄くなる。未製品か。	黒曜石	
第3034E PL_205	74	石鏝	覆土	完形	2.1	0.9	0.6	0.8	基部が厚手の小型紡錘状を呈す。	黒曜石	
第3034E PL_205	75	石鏝	覆土	完形	1.8	0.7	0.4	0.4	小型の板状で紡錘形を呈す。先端部にかけ側縁部に簡単な刃部調整。	黒曜石	
第3034E PL_205	76	石鏝	+17	完形	3.1	0.7	0.5	0.7	断面三角の棒状割片。未製品か。	黒曜石	
第3034E PL_205	77	石鏝	+14	完形	2.5	2.1	1.1	4.2	平基無茎、中央部分が膨らみ、全体に丸みを持つ。	チャート	
第3034E PL_205	78	模型石器	覆土	完形	1.3	2.1	1.0	3.5	中央部分は山形に肥厚、両側縁部に刃部作出。	黒曜石	
第3044E PL_205	79	打製石片	+19	欠損	(7.0)	3.9	1.4	(5.4)	やや小型の短厚形。基部を欠く。刃部厚肉。	黒色安山岩	
第3044E PL_205	80	打製石片	+19	欠損	(5.4)	4.9	1.2	(3.7)	横に広がる刃部片である。使用痕顕著。	細粒輝石安山岩	
第3044E PL_205	81	打製石片	+20	欠損	(4.7)	5.5	1.2	(3.6)	刃部片と思われるが、作りが確である。	黒色安山岩	
第3044E PL_205	82	打製石片	+5	欠損	(6.7)	4.7	0.9	(4.1)	基部片、やや薄手の作り。	黒色安山岩	
第3044E PL_205	83	打製石片	+20	欠損	(4.3)	4.0	1.2	(2.7)	基部片、片面丸く自然面が残る。	黒色安山岩	
第3044E PL_205	84	スクレイパー +13	完形	10.6	6.9	1.6	11.8		木の葉形の大型割片利用、片側に弧状の刃部作出。	細粒輝石安山岩	
第3044E PL_205	85	礫部	覆土	完形	13.7	7.1	4.0	440	半月形の大型割片利用。下縁部に顕著な打撃痕。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第3044E PL_205	86	磨石	+12	完形	7.1	6.0	3.5	310	小円礫利用、ほぼ全面に使用痕。一部に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第3044E PL_205	87	磨石	+17	完形	7.8	7.2	6.2	494	傘大の円礫、全面に使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第3044E PL_205	88	磨石	覆土	完形	10.3	6.0	3.5	310	やや扁平な長円礫利用、両面に浅い凹みが見られる。被熱か。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第3048 PL_205	89	杯石製品	+16	完形	5.4	6.1	1.3	29	ほぼ円形で両面平らに整形され、側縁も面取りされている。黒色。	輝石	
第3048 PL_205	90	石押	外	完形	32.5	9.3	9.0	4,690	円柱状で頭部は平らに成形される。砂の両面に磨光。	デイサイト	砂の隅に埋設。

## 95-49号住居跡(第306図: PL\_205)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第30648 PL_205	1	深鉢 +20	①粗:石英 ②黒褐色	口唇部は尖り、内縁を付す。外面は無文。	中期後葉 ?						
第30648 PL_205	2	深鉢 +8	①粗:石英 ②褐色	被熱のため器面磨滅。口唇部内面は肥厚する。外面は無文か。	中期後葉 ?						
第30648 PL_205	3	浅鉢 +5	①粗:石英・雲母 ②暗褐色	口唇部内面に面を持ち、円形刺突や弧状沈線を描く。	後期初期 ?						
第30648 PL_205	4	深鉢 +3	①粗:石英 ②明黄褐色	沈線による逆U字状懸垂文の上端か。地文は無文か。	中期後葉古 ?						
第30648 PL_205	5	深鉢 +10	①粗:石英 ②褐色	2条段線による懸垂文構成。隆部中位は半渦巻状突起を付す。空白部は斜位沈線を描く。	中期後葉信州系 ?						
第30648 PL_205	6	深鉢 +31	①粗:石英多 ②黒褐色	横位細線帯を付す。側縁は浅い沈線が施される。	中期末葉 ?						
第30648 PL_205	7	深鉢 +3	①粗:石英多 ②黒褐色	沈線に画された弧状意匠上端か。	後期初期 ?						
第30648 PL_205	8	深鉢 床	①粗:輝石 ②暗褐色	内皮平行沈線による懸垂文構成。地文は縦位RL。	中期後葉古 ?						
第30648 PL_205	9	深鉢 +24	①粗:石英・輝石 ②黒褐色	横位矢羽状短沈線を描く。	中期後葉信州系 ?						
第30648 PL_205	10	深鉢 +13	①粗:石英多 ②褐色	大型の深鉢か。直立意味に開く体部下平。無文。	中期後葉 ?						
第30648 PL_205	11	深鉢 +16	①粗:石英・輝石 ③明赤褐色	無文で強く開く体部下平。研磨調整を見ないことか。	中期後葉 ?						
第30648 PL_205	12	深鉢 +13	①粗:石英多・輝石 ②赤褐色	僅かに外反意味に開く体部下平。無文。	中期後葉 ?						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第30648 PL_205	13	石籠	+17	完形	1.9	1.5	0.6	1.0	平基無基、片面肥厚。作りは粗く未製品か。	黒曜石	

## 95-50号住居跡(第308図: PL\_205・206)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第30848 PL_205	1	深鉢 覆土	①細:輝石 ②鈍い黄褐色	沈線で画された磨滅部弧状意匠。縄文はLR充填施文。	後期初期 ?						
第30848 PL_205	2	深鉢 覆土	①粗:石英 ②鈍い黄褐色	沈線で画された施文部逆U字状懸垂文構成か。縦位LR充填施文。	後期初期 ?						
第30848 PL_205	3	深鉢 外	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	横位沈線3条を設ける。上位2条は弧状に連結する。地文状に縦位沈線が施される。	中期後葉古 ?						
第30848 PL_205	4	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ③明褐色	隆部による懸垂文構成。側縁は沈線。空白部は縦位矢羽状短沈線を描く。	中期後葉信州系 ?						
第30848 PL_205	5	深鉢 覆土	①粗:石英・輝石 ②褐色	沈線で画された施文部による区画意匠。縄文はLR充填施文。	後期初期 ?						
第30848 PL_205	6	深鉢 +8	①粗:石英少・輝石 ②鈍い黄褐色	体部下平か。無文で薄手の器厚を呈す。	後期前葉新 ?						
第30848 PL_205	7	ミニチュア土器 +16	①細:白色粒 ②黒褐色	深鉢ミニチュアか。頸部は屈曲し体部は内湾を呈す。無文で極めて薄手の器厚を呈す。	時期不明 ?						
第30848 PL_206	8	土製門盤 外	①粗:石英・輝石 ②明黄褐色	深鉢体部下平を両用か。楕円状の平面形で無文である。縦縁は打ち欠きによる整形。	時期不明 ?						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第30848 PL_206	9	打製石斧	覆土	欠損	(6.0)	4.3	1.7	(64)	基部片か、片面丸みを残し自然面も見られる。	粗粒輝石安山岩	
第30848 PL_206	10	凹石	覆土	完形	10.6	8.7	5.7	660	やや扁平な円錐の片面に凹み穴。穴の周囲にベンガラ痕か。焼熱。	粗粒輝石安山岩	
第30848 PL_206	11	磨石	+28	完形	13.0	6.3	2.7	354	磨石の縁、両端に僅かな打痕。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第30848 PL_206	12	多孔石	+14	完形	20.7	17.2	11.1	4,980	大型の円錐。浅い凹み穴が2、3個見られる。多孔質の縁。	粗粒輝石安山岩	

## 95-51号住居跡(第310図: PL\_206)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第31048 PL_206	1	深鉢 +37	①粗:石英 ②赤褐色	口縁部内湾。隆部による渦巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線。横位RLを充填する。体部は沈線施文で渦巻状意匠。弧状意匠が配される。縦位RLを地文とする。	中期後葉古 ?



## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第3108 PL.206	2	深鉢 +37 体部破片1	① 粗:石英・ ② 赤褐色	浅鉢型で渦巻状意匠、縦位。弧状意匠が配される。縦位区、地文とする。	中期後葉古 中期後葉古						
第3108 PL.206	3	深鉢 +29 口縁部破片	① 粗:石英多・輝石 ② 鈍い黄褐色	隆縁による口縁部区画文、区画内側縁は沈線。縦位区画文を施す。断面直線。	中期後葉古						
第3108 PL.206	4	浅鉢 +8 体部破片	① 細:土 ② 鈍い赤褐色	頸部屈曲し縦中に内湾する体部。隆縁による環状区画文が配され、沈線による渦巻文が充填される。意匠外縁は弧状沈線が重なる。隆縁上、沈線間に斜位刻みを施す。	中期後葉古						
第3108 PL.206	5	深鉢 +9 体部中位破片	① 粗:輝石 ② 褐色	縦位器形Lが断面を覆う。	中期後葉古 中期後葉古						
第3108 PL.206	6	深鉢 +40 体部中位破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	外反する体部。垂下沈線3条による懸垂文構成。中位で縁状の弧線に変化する。地文は縦位区画文を施す。	中期後葉古						
第3108 PL.206	7	深鉢 +25 体部破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	内皮沈線による懸垂文構成。地文は細頸文区画を縦位施文する。	中期後葉古						
第3108 PL.206	8	深鉢 外 体部上半破片	① 粗:石英少 ② 褐色	上半で内湾する。2条の沈線による懸垂文構成。地文は縦位区画文を施す。	中期後葉古						
第3108 PL.206	9	深鉢 +66 体部上半破片	① 粗:石英多 ② 鈍い褐色	縦位沈線3条を設け以下縦位区画文を施す。	中期後葉古						
第3108 PL.206	10	浅鉢 +41 体部下破片	① 粗:輝石少 ② 鈍い褐色	厚手の器形を呈す。大型の浅鉢か。内外面にとも丁寧な研磨を施す。底面直線。	中期後葉古						
第3108 PL.206	11	浅鉢 +36 体部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	強く内湾する体部上半。頸部も強く凹曲する。内外面とも丁寧な横位研磨を施し、赤彩を加える。	中期後葉古						
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第3108 PL.206	12	石瓶	覆土	欠損	(1.5)	(1.0)	0.6	(0.3)	円基無蓋、小型品。挟り浅い。片面や中肥厚。作り粗く先端僅かに欠く。	黒曜石	
第3108 PL.206	13	打製石斧	外	欠損	(10.1)	5.8	1.5	(131)	短形。基部を欠く。板状で両面に自然面残す。円形で厚耗顯著。	粗粒輝石安山岩	
第3108 PL.206	14	打製石斧	外	欠損	(5.8)	5.2	2.1	(87)	厚手の基部片と見られる。	粗粒輝石安山岩	
第3108 PL.206	15	スクレイパー	外	完形	5.7	7.6	0.8	27	台形を呈す剥片の下縁部に細かく刃部作出。	黒色安山岩	
第3108 PL.206	16	石瓶	覆土	完形	29.8	13.4	12.2	7900	大型の円柱状。両端は丸く成形されている。底面はかなり平直。	デカイト	

## 95-52号住居跡(第3110回: PL.206)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第3110 PL.206	1	鉢 +7 1/2残存 1/2残存 口:13.0 高:16.7 底:7.4	① 細:輝石 ② 鈍い褐色	口縁部は短く、直立気味に内湾する。肩部は階段し体部上半は内湾し、内湾する。肩部に2条隆縁を付し、縦位S字状突起を2単位配す。突起部は小型の渦巻状意匠を連ねる。体部は低位隆縁による大柄の渦巻状意匠を配し、各所に凹文を施す。赤彩は痕跡を見るが全部は判読しとしない。	中期後葉新						
第3110 PL.206	2	深鉢 +9 把手破片	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色	両耳面把手か。隆縁より上部を強く突出させ、縦位S字状意匠を施す。両手状沈線を加わる。	中期後葉新						
第3110 PL.206	3	鉢 +3 底部破片 底:(5.0)	① 褐色 ② 細:白色粒	強く凹く体部下半。円形突起と弧状沈線を施す。	後期細面か?						
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第3110 PL.206	4	石瓶	床	完形	3.1	1.6	0.4	1.2	円基無蓋、挟り浅くやや細身。作りは丁寧。	黒曜石	
第3110 PL.206	5	打製石斧	+12	欠損	(10.0)	6.1	1.6	(122)	扇形。板状織を利用。両面に自然面。	粗粒輝石安山岩	

## 95-53号住居跡(第315~317回: PL.206・207)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第3156 PL.206	1	深鉢 覆土 口縁-体部上半 1/2残存 口:(14.2)	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	縦位円形突起を配し、下位には縁状把手を付す。突起内外面は沈線による渦巻文、把手両下縁には隆縁による渦巻文を配す。底紋部には細い小突起を付し、渦巻文を施す。口縁部は縦位2条隆縁で多段に分帯され、交互斜交文を充填する。体部は正面に隆縁による渦巻文を配し、斜位区画文を充填する。	中期後葉信州系
第3156 PL.206	2	深鉢 +10 口縁-体部上半 1/3残存 口:(12.0)	① 粗:輝石 ② 褐色	小型深鉢。隆縁による手柄円状区画文を口縁部に配す。区画内側縁は沈線及び不備で、縦位短沈線を充填する。体部は無文。内面直線。	中期後葉信州系
第3156 PL.206	3	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗:石英・雲母 ② 鈍い黄褐色	口縁部に縦位突起を配し、2条隆縁で画される区画文構成。区画内には斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3156 PL.206	4	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗赤褐色	口縁部は2条隆縁による幅狭の区画文構成。縦位短沈線を充填する。肩部は無文で下位に横位短沈線を付す。	中期後葉信州系
第3156 PL.206	5	深鉢 覆土 口縁部破片	① 粗:輝石 ② 黒褐色	2条隆縁による口縁部区画文構成。接点で弧状突起となる。区画内は縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出高さ)	① 胎 土 調			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			① 胎 色	② 胎 色	③ 胎 色						
第31546 Pl_206	6	深鉢 口縁部突起	① 粗：石英・雲母 ② 明赤褐色			上端に横位文字状意匠を配し、下位は細身の楕円把手を付す。把手縁辺に渦巻文を配し、中に縦位短状意匠を施す。区内には縦位短状意匠を施す。強く突出する内縁を付す。	中期後葉信州系				
第31546 Pl_207	7	深鉢 +15	① 粗：石英・雲母多 ② 黒色			口縁部厚化する。胴部で横かに括れ、体部上半は緩やかな内湾を持つ。口縁部は無文、体部は無彫り・縦位施文。	中期後葉古く				
第31546 Pl_207	8	深鉢 覆土	① 粗：輝石 ② 黒褐色			隆縁部付により口唇部突出。以下弧状隆縁が誕生し、斜交文を充填する。	中期中葉				
第31548 Pl_207	9	深鉢 +25	① 粗：輝石・雲母 ② 暗褐色			口縁部に隆縁による渦巻文を配す。斜位短状意匠を施す。体部は弧状短状意匠3条を配し、斜交文を縦位状に施す。	中期後葉信州系				
第31548 Pl_207	10	深鉢 覆土	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色			2条隆縁による弧状意匠が、胴部両曲部に横位短状意匠を配す。	中期中葉				
第31548 Pl_207	11	深鉢 覆土	① 粗：雲母 ② 明赤褐色			胴部両曲部に横位短状意匠を配す。体部は斜位短状意匠を施す。	中期中葉				
第31548 Pl_207	12	深鉢 +15	① 粗：石英多・雲母多 ② 赤褐色			垂下隆縁2条による懸垂文構成。縦位条帯を地文状とし、横位短状意匠を加える。	中期後葉信州系				
第31548 Pl_207	13	深鉢 +15	① 粗：石英多・輝石 ② 暗褐色			縦位短状意匠による懸垂文構成。渦巻文と逆口字状懸垂文を加えられる。地文は縦位上。	中期後葉古く				
第31548 Pl_207	14	深鉢 覆土	① 粗：輝石 ② 黒褐色			胴部両曲部に横位短状意匠・縦位短状意匠を配す。体部に弧状隆縁による弧状短状意匠を施す。	中期中葉				
第31548 Pl_207	15	深鉢 覆土	① 粗：石英 ② 黒色			隆縁線による弧状・渦巻意匠より横位短状意匠が誕生する。不定形区画文か。沈線・凹でを倒像とし縦位短状意匠や斜交文を充填する。	中期後葉信州系				
第31548 Pl_207	16	深鉢 覆土	① 粗：石英・輝石 ② 明赤褐色			2条隆縁による懸垂文構成。縦位短状意匠を地文状とし、横位短状意匠2条を加える。	中期後葉信州系				
第31548 Pl_207	17	浅鉢 +17	① 粗：小礫・輝石 ② 赤褐色			口唇部内外面横かに突出する。外面は斜位短帯が顕著。口縁部内外面に赤彫痕を見る。	中期後葉				
第31548 Pl_207	18	深鉢 +2	① 粗：輝石 ② 暗褐色			口唇部丸みを帯び、体部は無文、やや歪みを持つ。	中期後葉				
第31548 Pl_207	19	深鉢 覆土	① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色			直立気味に傾く体部下平。無彫り・斜位短状意匠が施される。内面保留付。	中期後葉古く				
第31548 Pl_207	20	不明土製品 +2	① 粗：石英・雲母 ② 赤黒色			緩やかな湾曲を呈す柱状土製品。注口土器把手部ではなく、突起等の一端であろうか。	中期				
第31548 Pl_207	21	土製円盤 底径：3.5	① 粗：輝石 ② 暗灰褐色			深鉢体部を利用か。周縁を丁寧に整形する。LRを施す。	中期後葉古く				
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第31548 Pl_207	22	石磯	+31	欠形	1.6	1.4	0.3	0.4	凹基無蓋、小型品、やや厚手の作り。	黒曜石	
第31548 Pl_207	23	石磯	覆土	欠損	(1.6)	(1.2)	0.4	(0.4)	凹基無蓋、小型品、やや厚手の作り。	黒曜石	
第31548 Pl_207	24	石磯	+5	欠損	2.6	(1.2)	0.3	(0.6)	薄手で作りは丁寧、基部を欠く。	黒曜石	
第31548 Pl_207	25	石磯	覆土	欠損	(1.5)	(1.4)	0.4	(0.4)	先端部片か。	黒曜石	
第31548 Pl_207	26	石磯	覆土	欠損	(1.3)	(1.4)	0.3	(0.4)	凹基無蓋縁の基部破片。	黒曜石	
第31548 Pl_207	27	石磯	覆土	完形	2.1	0.8	0.5	0.5	基部太く先端に向かって細くなる。小型棒状器。	黒曜石	
第31548 Pl_207	28	石磯	覆土	完形	(1.9)	1.7	0.5	(0.7)	小型丁字状の器。縁部は短く扁平。側面部分調整。	黒曜石	
第31548 Pl_207	29	打製石 斧	床	欠損	8.9	5.2	2.1	123	基部を欠く。磨削か。作りはやや粗い。	黒色安山岩	
第31548 Pl_207	30	打製石 斧	+38	欠形	12.8	5.9	2.4	242	短形。やや内厚で刃部の片面に自然面が残る。刃部磨耗。	黒曜石古渡通輝 石安山岩	
第31548 Pl_207	31	打製石 斧	覆土	完形	10.3	4.4	0.7	53	小型板状の磨削。刃部片面に自然面残す。	黒曜石石安山岩	
第31548 Pl_207	32	打製石 斧	床	完形	(10.8)	5.6	1.3	(91)	磨削、側縁、刃部共に直線的に作られる。薄手の作	黒曜石石安山岩	
第31548 Pl_207	33	打製石 斧	覆土	欠損	13.5	5.9	3.0	282	厚手の大型品。刃部を欠いている。粗い作り。	黒曜石石安山岩	
第31548 Pl_207	34	打製石 斧	覆土	欠損	(11.7)	7.3	2.5	(231)	磨削、やや大型の作りで基部を欠く。刃部は薄手の作	黒曜石古渡通輝 石安山岩	
第31548 Pl_207	35	スクレイ パー	覆土	完形	10.0	4.5	1.6	7.0	縦長の割片利用。薄く直線的な片側縁に刃部を作出。	黒色安山岩	
第31548 Pl_207	36	スクレイ パー	覆土	完形	7.9	6.9	0.9	36	薄く鋭がれた不定形な割片の一端縁部に刃部を作出。	黒色安山岩	
第31548 Pl_207	37	台石	覆土	完形	13.7	12.7	1.5	389	平らな大型割片利用。自然面を使用面とする。磨耗顕著。側縁円滑し。	黒曜石石安山岩	
第31548 Pl_207	38	磨石	床	完形	10.9	8.9	5.9	840	やや扁平な円筒利用。両面使用し平使用。	黒曜石石安山岩	
第31548 Pl_207	39	磨石	+5	欠損	(8.4)	7.9	3.1	520	やや扁平な磨石を呈す。両使用面は平使用で磨削顕著。側縁に打痕。	黒曜石石安山岩	
第31548 Pl_207	40	台石	+11	欠損	(13.5)	11.5	4.7	1700	扁平磨石を利用。平らな両面を使用面とする。半分程を欠損している。	黒曜石石安山岩	

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置 残存 出土位置(表面高)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考	
第31706 PL-207	41	磨石	+9	完形	10.3	10.0	8.8	1,230	やや大型の礫利用。顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石斑山岩	
第31706 PL-207	42	砥石	+2	完形	13.1	6.2	4.2	500	楕状で、断面は丸みを持つ三角形。やや細くなった端部が打面。	粗粒輝石斑山岩	
第31706 PL-207	43	石皿	床	欠損 (13.1)	(20.1)		7.1 (2,890)	楕は明瞭に作られる。やや大型か厚みのある製品である。		粗粒輝石斑山岩	

## 95-54号住居跡(第322~326図; PL-208~210)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第32206 PL-208	1	深鉢 魔土	体部 1/4欠損 I: 12.0 高: 15.8 底: 6.7	① 紺: 輝石 ② 灰黄褐色	4単位波状隆。頸部に1単位の楕状把手を付す。口唇部に沈線を描す。頸部は無文で把手下面に横位隆線2条を設け下位隆線には交互斜文が加わる。体部沈線施文で渦巻状意匠や剣先状意匠を配し下半は懸垂文構成となる。地文は縦位L。外面頸部及び内面僅付着。	中期後葉古
第32206 PL-208	2	深鉢 魔土	口縁～体部中位 1/4残存 I: (20.8)	① 紺: 石英・輝石 ② 褐色	波状突起を付す。口縁部隆線を描き、縦沈線2条に両された磨消部並び字状懸垂文が配される。無筋Lが充填施文される。	中期末葉
第32206 PL-208	3	深鉢 魔土	口縁～体部中位 3/4残存 I: 11.6	① 紺: 輝石 ② 褐色	小型深鉢。口縁部は外反し無文。頸部の削い括弧に4条の横位沈線を描き以下体部は縦位Lが施す。	中期後葉信州系
第32206 PL-208	4	深鉢 床	口縁～体部中位 1/3残存 I: (25.0)	① 紺: 石英大 ② 赤褐色	大型の深鉢。無文の内湾口縁部。頸部に隆帯を付し、短い沈線を加える。頸部突起より直生する2条隆線による懸垂構成と、弧状隆線による単文が配される。地文は縦位帯隆線が施される。	中期後葉信州系
第32206 PL-208	5	ミニチュア土器 魔土	口縁～底部 1/4残存 I: (7.2) 高: 8.6 底: 4.9	① 紺: 輝石 ② 鈍い褐色	深鉢ミニチュア。口縁部は内湾し体部は直立する。頸部頸部に1・2条の横位沈線を施す。他は無文で指掘土痕が顕著。	中期後葉
第32206 PL-208	6	深鉢 床	口縁部 1/3残存 I: (41.8)	① 紺: 輝石多 ② 暗赤褐色	大型の深鉢。口縁部内湾し、波状突起4単位を配す。波頂部には2条隆線による渦巻文、波底部には渦巻状突起を配す。2条隆線が口縁部意匠を繋ぐ。口縁部下端の隆線には深い刻みを施す。地文は縦位帯L。頸部無文帯は幅広。	中期後葉古 6・7は同一個体
第32206 PL-208	7	深鉢	口縁部片	① 紺: 輝石多 ② 暗赤褐色		
第32206 PL-208	8	深鉢 +15	口縁部破片	① 紺: 石英・輝石 ② 灰褐色	縦隆線による口縁部渦巻文と櫛門状区画文構成。頸部隆線は太く、屈曲する。側面は沈線で隅文は縦位L。	中期後葉古
第32206 PL-208	9	深鉢 魔土	口縁部破片	① 紺: 石英 ② 暗灰褐色	2条の横位沈線に両された施文部。破片下端にも沈線を見る。無筋L横位充填施文。	後期初葉
第32306 PL-208	10	深鉢 床	口縁～体部上半 1/4残存 I: (32.0)	① 紺: 石英・輝石 ② 褐色	キャリバー状深鉢。口縁部は2条隆線による区画文構成。剣先状意匠を配する。区画内側面は沈線。縦位短沈線を充填する。頸部は無文で体部上半の横位2条隆線以下は縦位Lが施す。	中期後葉古
第32306 PL-208	11	深鉢 +47	口縁部破片	① 紺: 雲母多 ② 暗赤褐色	口縁部内湾。隆線による渦巻文と区画文を配す。側縁は無文。	中期後葉新?
第32306 PL-208	12	深鉢 +28	口縁部破片	① 紺: 石英多・雲母 ② 暗褐色	隆線による区画文と渦巻文を配し上端は突出する。以下縦位Lを施す。	中期後葉古
第32306 PL-208	13	深鉢 +17	頸部～体部上半破片	① 紺: 石英・輝石多 ② 灰黄褐色	外反する頸部に2条隆線を付す。体部上半に横位隆線3条を設け、下位縦位波状隆や弧状隆線2条を配す。地文は縦位L。	中期後葉古
第32306 PL-208	14	深鉢 +11	口縁部突起	① 紺: 輝石 ② 黒褐色	楕状突起と小型の楕状把手が突出する。突起内面に凹文を配す。把手より縦隆線が直生し、口縁部隆線となる。体部は縦隆線による分枝状懸垂文か、無筋Lを充填施文する。内面僅付着。	後期初葉
第32306 PL-208	15	深鉢 Pt 2	頸部～体部上半破片	① 紺: 輝石 ② 黒褐色	体部上半に縦位隆線帯を横位に設ける。以下縦位帯Lが隠面を覆う。	中期後葉古
第32306 PL-208	16	深鉢 +4	体部中位破片	① 紺: 石英 ② 明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側面は内皮沈線を充てる。地文は縦位帯L縦位施文。	中期後葉古
第32306 PL-208	17	深鉢 +20	体部破片	① 紺: 石英 ② 鈍い赤褐色	刻みを付す垂下隆線2条による懸垂文構成。側面は内皮沈線。地文は縦位帯Lが隠面。	中期後葉古
第32306 PL-208	18	深鉢 Pt 2	頸部破片	① 紺: 輝石 ② 黒褐色	頸部無文。体部上半に斜交文を加える横位隆線を設け、以下横位沈線2条を施す。地文は縦位帯L。	中期後葉古
第32306 PL-209	19	深鉢 床	体部破片	① 紺: 輝石多 ② 赤褐色	縦位帯Lを施す。	中期後葉古
第32306 PL-209	20	深鉢 魔土	体部上半破片	① 紺: 輝石 ② 黒褐色	櫛門状の横位隆線か、2条隆線による弧状意匠が懸架する。地文は縦位帯Lを施す。	中期後葉古
第32306 PL-209	21	深鉢 魔土	体部破片	① 紺: 輝石 ② 鈍い黄褐色	体部上半か、横位沈線以下帯Lを縦位・斜位施文する。	中期後葉古

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

探検番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			① 胎色	②	③						
第32546 PL_209	22	深鉢 履土	底部1/3残存 底：(7.0)	① 粗：石英 ② 黄褐色	縦位柵糸Lを施す。	中期後葉古					
第32546 PL_209	23	深鉢	体部下平～底部 底：9.2	① 粗：石英 ② 鈍い褐色	大型の深鉢か、緩やかな内湾気味に開く体部下平。縦位柵糸Lが器面を覆う。内面僅存着。	中期後葉古					
第32446 PL_209	24	深鉢 履土	体部中位破片	① 粗：輝石 ② 褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。中位で突起状となる。横文は縦位L上で、3条の縦位沈線を施す。中位で小渦文を配す。	中期後葉古					
第32446 PL_209	25	深鉢 +33	体部下半破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	内湾気味の体部下平。2条沈線で弧状意匠を描く。横文は縦位L上。器壁剥落多い。内面僅存着。	中期後葉古					
第32446 PL_209	26	深鉢 +36	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	体部中位か。沈線に面された施文部並し字状意匠が配される。上下2条構成であろうか。L.R縦位充填施文。	中期未葉					
第32446 PL_209	27	深鉢 履土	体部中位破片	① 粗：輝石多 ② 褐色	体部中位の括れ部か。縦位L.Rが器面を覆う。	中期後葉古					
第32446 PL_209	28	深鉢 +41	口縁部破片	① 粗：輝石多 ② 黒褐色	口唇部肥厚。2条隆線による口縁部区画文と渦巻状小突起。突起下端より2条隆線が懸垂する。区画内及び体部は縦位短沈線を施す。	中期後葉古					
第32446 PL_209	29	深鉢 +46	口縁部破片	① 粗：石英 ② 暗赤褐色	緩やかな波状縁か。口縁部に横位沈線を設け以下斜位沈線を施す。	中期後葉信州系					
第32446 PL_209	30	深鉢 +14	口縁部破片	① 粗：輝石 ② 赤褐色	口縁部に横位沈線4条を設け、中位2条に交互斜位文を加える。	中期後葉古					
第32446 PL_209	31	深鉢 Pl2	口唇部破片	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い黄褐色	渦巻状小突起を配し、2条隆線で区画文を整く。区画内は沈線を斜線とし、縦位短沈線を充てる。内面僅存着。	中期後葉古					
第32446 PL_209	32	浅鉢 +35	口頸部破片	① 粗：石英・輝石 ② 明褐色	2条の曲線線による環状意匠・区画文が配される。沈線を斜線とし短沈線や小渦文が充てられる。	中期後葉古					
第32446 PL_209	33	深鉢 履土	体部上半破片	① 粗：輝石少 ② 褐色	沈線を斜線とする横位隆線を設ける。以て体部は縦位内皮沈線を充填する。	中期後葉古					
第32446 PL_209	34	深鉢 履土	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。縦位矢羽状沈線を施す。	中期後葉信州系					
第32446 PL_209	35	深鉢 履土	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	縦位内皮沈線による懸垂文構成か。2条沈線による弧状意匠や斜位状意匠が配される。横文は縦位L上。	中期後葉古					
第32446 PL_209	36	深鉢 履土	体部破片	① 粗：輝石 ② 暗褐色	単列の連続斜突文による横位波状文を施す。	中期中葉					
第32446 PL_209	37	浅鉢 +33	口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	口唇部肥厚し体部上半に内湾を持たせる。内外面とも丁寧な研磨を施し赤彩を加える。黒色部を併せて何らかの意匠が配されるのであろうか。	中期後葉					
第32446 PL_209	38	有孔罎付土器	口縁部破片 +25	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部外反し。肩部に太い隆線を付す。隆線上位に小孔を穿つ。内外面赤彩を見る。	中期後葉					
第32446 PL_209	39	深鉢 床	口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	強く内湾する無文の口縁部。肩部括れ部に横位隆線を設ける。外面僅存着。	中期後葉古					
第32446 PL_209	40	深鉢 Pl2	口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黄灰色	口唇端部に面を持ち内面に突出する。口縁部は外反し肩部隆線には交互斜位文を施す。内外面強い研磨。	中期後葉古					
第32446 PL_209	41	深鉢 +51	口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口唇部内面突出する。口縁部は無文。	中期後葉					
第32446 PL_209	42	深鉢 床 口(19.0)	口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 灰褐色	口唇部内傾し鋭い。無文で外面は縦位線で調整を加える。	早期?					
第32446 PL_209	43	深鉢 +40	底部 底：8.8	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	強く開く体部下平。無文で、内外面とも丁寧な調整を施す。	中期後葉					
第32446 PL_209	44	台付き深鉢	脚部破片 底：(10.0)	① 粗：石英多 ② 褐色	器面磨滅。脚部上位に径1.0cm程の円孔を穿つ。	中期後葉					
探検番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第32546 PL_209	45	石罎	履土	完形	2.7	1.7	0.3	0.8	凹基無茎、やや長身で端正な作り。	黒曜石	
第32546 PL_209	46	石罎	履土	欠損	(1.3)	(1.0)	0.4	(0.3)	凹基無茎、小型品、やや厚手の作り。	黒曜石	
第32546 PL_209	47	石罎	履土	欠損	(0.9)	(1.0)	0.2	(0.1)	脚部片か。	黒曜石	
第32546 PL_209	48	石罎	履土	欠損	(1.6)	(0.5)	0.3	(0.2)	器身の輪状縁。基部が欠けたものか。	黒曜石	
第32546 PL_209	49	石罎	履土	欠損	1.9	1.1	0.4	0.7	凹基無茎、片脚を欠損か。先端部やや丸みを呈す。	黒曜石	
第32546 PL_209	50	打製石 斧	履土	欠損	(8.3)	4.9	2.4	(127)	扇形、中央部分が瘤状に所々肥厚。基部を欠き様の付着有り。	細粒輝石安山岩	
第32546 PL_209	51	打製石 斧	履土	欠損	(3.5)	2.6	0.7	(8.0)	小型打製石斧の基部片か。	黒色安山岩	
第32546 PL_209	52	スクレイ パー	履土	完形	7.9	7.5	1.6	76	厚手で三角形の剥片利用。直線部に刃部を作出。	細粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存 出土位置(表・面高)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第32504 PL-209	53	スクレイパー	覆土	完形	9.8	9.3	2.6	189	厚手で三角形の削片利用、弧状縁辺に刃部を作出。	粗粒輝石火山岩	
第32504 PL-209	54	スクレイパー	覆土	完形	9.7	4.9	0.6	35	不整形な板状削片、2辺に刃部を作出。	粗粒輝石火山岩	
第32504 PL-209	55	磨石	覆土	完形	12.0	6.5	4.1	510	やや扁平な長円錐、使用面平滑、側縁部に削り打痕。	粗粒輝石火山岩	
第32504 PL-209	56	磨石	床	完形	6.9	5.2	4.8	228	扇形の円錐、表面に鉄分層沈着。	火山岩	
第32504 PL-209	57	磨石	覆土	完形	6.0	6.0	5.7	183	小円錐、対面部分がやや平らになっており磨石としても利用可。発露質。	多孔質粗粒輝石火山岩	
第32504 PL-209	58	磨石	覆土	完形	12.1	11.0	4.6	970	やや扁平な円錐利用、両面使用可能な打痕の凹み有り。	粗粒輝石火山岩	
第32504 PL-210	59	磨石	覆土	完形	13.6	9.4	4.2	770	扁平な長円錐、部分的に底付着。	粗粒輝石火山岩	
第32604 PL-210	60	磨石	覆土	完形	13.4	7.4	3.0	413	扁平なびす形を呈す。全面平滑だが自然によるものと見られる。焼熟。	粗粒輝石火山岩	
第32604 PL-210	61	磨石	覆土	完形	14.1	6.2	3.5	490	扁平な棒状錐、両端に削り打痕有り。	粗粒輝石火山岩	
第32604 PL-210	62	磨石	覆土	完形	12.5	5.0	3.8	363	断面隅丸方形の棒状錐、やや太くなる端部を主に打面としている。	粗粒輝石火山岩	
第32604 PL-210	63	磨石	覆土	欠損	13.7	7.3	1.8	235	扁平錐、半分を欠く。焼熟可。	粗粒輝石火山岩	
第32604 PL-210	64	磨石	覆土	完形	(12.9)	6.0	4.1	510	扁平な棒状錐の両端を打面とする。使用により剥落顯著。	石英閃緑岩	

#### 95-55号住居跡(第328図：PL-210)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第32804 PL-210	1	深鉢 覆土	① 緑：石英 ② 鈍い黄褐色	口唇部肥厚し内湾する。外面は無文、やや軟質な印象。	後期前葉
第32804 PL-210	2	深鉢 +20	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	中位で外反するか。縦位LRを施す。	中期後葉
第32804 PL-210	3	深鉢 床	① 粗：石英 ② 明褐色	縁縁部による渦巻文を配す。空白部は矢羽状短沈線や放射状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第32804 PL-210	4	深鉢 床	① 粗：石英・雲母 ② 赤褐色	外反する体部中位か、切みを付す垂下隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第32804 PL-210	5	深鉢 覆土	① 粗：雲母 ② 褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第32804 PL-210	6	深鉢 +12	① 粗：雲母 ② 赤褐色	浅い沈線による矢羽状文。	中期後葉信州系
第32804 PL-210	7	深鉢 +16	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	縦位沈線による懸垂文構成か、弧状短沈線を埋め	中期後葉信州系
第32804 PL-210	8	土製円盤 +3	① 粗：輝石 ② 黒褐色	深鉢体部破片を利用、周辺は割縁のみ整形。磨消部と施文面を見る。縦位RLを施す。	中期後葉新

検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存 出土位置(表・面高)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第32804 PL-210	9	磨石	+7	完形	10.5	6.4	4.4	378	やや扁平な長円錐利用、浅い凹み穴見られ、両部に打痕有り。焼熟可。	粗粒輝石火山岩	
第32804 PL-210	10	磨石	床	完形	9.9	5.8	5.2	451	扇形の小錐、全面平滑であるが顕著な使用痕は見られず。	粗粒輝石火山岩	

#### 95-56号住居跡(第335～347図：PL-210～216)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第33504 PL-210	1	深鉢 覆土	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部は幅広で無文、内湾気味に開く。体部は中位に強い内湾を持たせる。上半は堆積する2条隆線による矢羽の渦巻文を土直位とし、弧状隆線で各器種を繋ぐ、おそらく4単位であろう。弧状隆線上位には斜位短沈線を付設する。下半も、弧状・渦巻文意匠を配す。	中期後葉信州系
第33504 PL-210	2	深鉢 床	① 粗：雲母多 ② 暗褐色	平縁で体部中位に内湾を持たせる。口縁部隆線より垂下隆線と縦位S字状意匠が派生する。下半は2条隆線が懸垂する。下半隆線には切みを施す。縁縁は沈線、空白部は斜位短沈線を充填する。体部中位に補修穴を見る。内面体部下に底付着。	中期後葉信州系
第33504 PL-210	3	深鉢 覆土	① 粗：輝石多 ② 黒褐色	棒状の深鉢、隆線による渦巻文と連続した区画文が相対的に配される。区画内は縦位短沈線と横位交互斜位文を充填する。体部は2条隆線による矢羽の渦巻文を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第33504 PL-210	4	深鉢 覆土	① 粗：石英・雲母 ② 暗褐色	口縁部は無文、右位による分帯で、体部上半は隆線による逆U字状区画文を配す。区画中に2条の縦位沈線を施し斜位短沈線を充填する。下半は弧状短沈線を施す。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(取高)	① 土質 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第33546 PL.210	5	深鉢 腹土	① 粗：輝石・雲母 ② 赤褐色 口：(16.0)	口縁部は僅かに内湾し幅広い無文部を設ける。体部は横の隆線と面され、2条隆線による縦の無文部と縦位縦線が配られる。側縁は沈線で、空白部は斜位沈線を充満する。体部内面に付着。	中期後葉信州系	
第33546 PL.211	6	深鉢 床	① 粗：輝石 ② 赤褐色 口：(16.0)	口縁部は幅狭で無文。横位隆線より2条隆線による満巻状意匠が懸垂する。横位隆線下位の2条隆線間を交互斜突文が重なる。以下横位2条隆線が交互に配られ、体部を区画文化する。区画内は縦位前後条線を充満する。	中期後葉信州系	
第33546 PL.211	7	深鉢 +16	① 粗：輝石・雲母 ② 黒褐色 口：13.2	平縁の小型深鉢。口縁部隆線を設け、2条隆線による半満巻状意匠が懸垂する。配置が変例的だが単位を敷入る。空白部は縦位矢引状沈線を充満する。	中期後葉信州系	
第33646 PL.211	8	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色 口：16.0	突起尖帽。口縁～体部内湾する。突起は隆線による満巻文を配った板状突起。腹りを加えた柱状突起を配し、突起間を縦線で繋ぎ区画文を面する。区画内は沈線を細線とし、縦位短沈線を充満する。体部は上端満巻文の懸垂文。縦位短沈線。縦位横円状連続文が配られる。空白部は縦位沈線を加す。沈線は細く深い施文である。	中期後葉信州系	
第33646 PL.211	9	深鉢 +19	体部 上半 1/3 残存	① 粗：輝石 ② 暗赤褐色	体部上位に縦位隆線。口縁部区画下端から、縦位沈線と連続する縦位横円状意匠による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第33646 PL.211	10	浅鉢 +14	口頸部 1/2 残 存	① 細：石英・雲母少 ② 鈍い褐色	口縁部は無文。頸部と体部の屈曲は強い。縦位隆線による区画文と満巻文を交互に配する。満巻文は沈線。区画内は縦位短沈線を充満する。下位には縦位突起を付し幅狭の横円状意匠を配し、斜突文を重ねる。	中期後葉信州系
第33646 PL.211	11	浅鉢 +15	口頸部 1/3 残 存	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	口縁部は無文か。頸部と体部の屈曲は強い。縦位隆線による連続した満巻文と区画文構成。側縁は沈線で横位矢引状沈線を充満する。下位に縦位突起を付し幅狭の横円状意匠を配し、斜突文を重ねる。	中期後葉信州系 54住14が接合
第33646 PL.211	12	浅鉢 床	口頸部 1/3 残 存	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	口縁部外反し無文。頸部は連続した満巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線で短沈線を充満する。下位には縦位突起を付し幅狭の横円状意匠を配し斜突文を重ねる。	中期後葉信州系
第33646 PL.211	13	深鉢 床	体部 中位の少残 存	① 粗：石英・雲母多 ② 鈍い赤褐色	2条隆線と縦位沈線による懸垂文構成。おそろしく4単位か。空白部には斜位・縦位矢引状沈線を充満する。内面上半に懸垂痕を見る。	中期後葉信州系
第33646 PL.211	14	深鉢 +40	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色 口：(18.8)	底部に配られる隆線による満巻文。上端が突出する。区画文と連結するが、波部直経は不明。体部は2条隆線による懸垂文構成。無筋し充満施文である。体部は輝らな施文。	中期後葉古	
第33646 PL.211	15	深鉢 腹土	体部 中位 1/3 残存	① 粗：小礫・輝石 ② 褐色	内湾する体部中位。隆線による満巻文を配し、2・3条の垂下隆線による懸垂文構成を呈す。縦位LRを充満する。	中期後葉東北系
第33646 PL.211	16	深鉢 腹土	① 粗：石英少・輝石少 ② 赤褐色 口：10.0 高：14.1 底：4.6	小型深鉢。あるいは深鉢ミニチュアか。口縁部に緩やかに内湾する。幅広い無文部で、頸部隆線はやや太い。体部は無筋し、縦位施文が薄う。内面口唇部及び底部に僅が付着する。	中期後葉古	
第33646 PL.211	17	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 明赤褐色 口：10.0	小型深鉢。あるいは深鉢ミニチュアか。腹位の腹部を呈す。口縁部突起は深く深い施文。体部の縦位短沈線が薄う。乱雑な施文。内面内湾付着。	中期後葉古	
第33746 PL.211	18	深鉢 +4	① 粗：石英・雲母大多 ② 暗褐色	大型深鉢か。口縁部内面は肥厚。体部の足厚で、押圧を加えた口縁部隆線より2条隆線がクラック状に新生し、満巻文や縦線に連続する。縦文は上半が横位。下半が縦位LRを施す。	中期後葉古	
第33746 PL.211	19	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部は緩やかに内湾する。3条の沈線による連続状意匠が、沈線間は深い斜突文が重なる。他は斜位LR。	中期後葉古	
第33746 PL.211	20	ミニチュア +56	① 細：石英 ② 黒褐色 口：(11.6)	深鉢ミニチュアか。口縁～体部内湾し、横位短沈線は折り返し状に肥厚する。外面は無文。内外面とも僅が付着。	中期後葉古	
第33746 PL.211	21	深鉢 +41	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	横位隆線に交互斜突文を加える。下位は沈線の右より。縦文は縦位LRを施す。	中期後葉古	
第33746 PL.211	22	深鉢 +50	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	横位2条隆線と面し、満巻文と縦位隆線による区画文を呈す。区画内は沈線を細線とし、L線を施す。	中期後葉古	
第33746 PL.211	23	深鉢 +47	① 粗：白色粒・輝石 ② 鈍い褐色	縦位隆線による不整形の区画文を配す。区画内側縁は薄く、縦位LRを施す。	中期後葉東北系	
第33746 PL.211	24	口縁部～体部上 半破片	① 粗：石英多 ② 暗赤褐色 口：(41.6)	隆線による縦位S字状意匠と区画文構成。S字状意匠下端より垂下隆線が新生する。区画内は縦位短沈線の充満。体部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系	
第33746 PL.211	25	深鉢 +55	① 粗：輝石 ② 褐色	波状隆。口唇部内面肥厚。波部部に隆線による満巻状意匠を縦位に配し、口縁部は区画文が連続するが、区画内は無文である。口縁部は満巻状意匠下端より新生する3条の垂下隆線による懸垂文構成。	中期後葉東北系	
第33746 PL.212	26	深鉢 +39	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	平縁で小径の深鉢。隆線による連続した満巻文と区画文構成。側縁は沈線。斜位短沈線を充満する。	中期後葉信州系	
第33746 PL.212	27	深鉢 +29	① 粗：輝石・雲母少 ② 黒褐色	波状沈線底部に配られた隆線による満巻文。下端が突出し、両側に区画文を配す。区画内は沈線を細線とし、縦位短沈線を充満する。	中期後葉信州系	

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第33704 Pl.212	28	ミニチュア +14 口縁部破片	① 粗:白色粒 ② 鈍い赤褐色	深鉢ミニチュア。隆縁による渦巻文を配し、下端より縦位仮伏隆縁が派生する。縦位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33706 Pl.212	29	深鉢 +48 口縁部破片	① 粗:輝石少 ② 褐色	口唇部は内縁匂味に肥厚。以下隆縁による斜位短伏隆縁を配し、下部は中位短伏隆縁を配す。空白部は斜位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33706 Pl.212	30	深鉢 +35 口縁～体部上半 破片	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部は隆縁による連続した区画文と渦巻文構成。渦巻文は中低位。区画内は斜位短伏隆縁を充填する。体部は垂下隆縁を配し、空白部は短伏隆縁2条で小区分する。地文状に縦位隆縁を施す。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	31	深鉢 +23 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	口唇部内面肥厚。隆縁による渦巻文を配し、2条隆縁を仮伏に派生する。側縁は沈線、縦位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	32	深鉢 +59 口縁部破片	① 粗:小粒・輝石 ② 鈍い褐色	波底部か、口唇部沈線を設ける。渦巻文突起を配し隆縁が派生する。円形状区画文。	中期後葉東北系
第33806 Pl.212	33	深鉢 +44 口縁部破片	① 粗:石英 ② 赤褐色	隆縁による口縁部渦巻文と連続した区画文構成。区画内側縁は沈線、横位尖短伏隆縁を充填する。体部は2条垂下沈線の上面を見る。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	34	深鉢 +19 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	隆縁による縦位S字突起を付す。口縁部は横位隆縁により多段に分断され、上位は突起部の渦巻文、下位は横位隆縁を配し、交互斜位文と組みを加える。突起下部より垂下隆縁が派生する。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	35	深鉢 +6 口縁部破片	① 粗:小粒・輝石 ② 暗赤褐色	波底部か、取りを加えた小突起下に2条隆縁による渦巻文を配す。口縁部内面には沈線を側縁とし縦位短伏隆縁を充填する。縦位交互斜位文を加える。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	36	深鉢 +49 口縁部破片	① 粗:石英・雲母 ② 褐色	波底隆。波頂下に配される隆縁による渦巻文と連続した区画文構成。側縁は沈線で短伏隆縁を放射状に施す。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	37	深鉢 +66 口縁部破片	① 粗:石英・褐色粒 ② 鈍い褐色	波底隆縁部下に隆縁による渦巻文2条を縦位に配す。口唇部隆縁を設け、内面は面状に肥厚する。	中期後葉東北系
第33806 Pl.212	38	深鉢 +15 口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	内湾する口縁部。2条の沈線による口縁部連続仮伏隆縁を配す。以下は無文である。	中期後葉古
第33806 Pl.212	39	深鉢 +23 口縁部破片	① 粗:輝石 ② 黒褐色	厚手の器厚。口唇部は内縁を、以下隆縁による区画文と縦位短伏隆縁を配す。区画内は斜位短伏隆縁を施す。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	40	深鉢 +35 口縁部破片	① 粗:石英・雲母 ② 明赤褐色	沈線による口縁部区画文構成。区画内は縦位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	41	深鉢 +44 口縁部～体部上 半破片	① 粗:石英・輝石・雲母 ② 赤褐色	外反する幅広の無文口縁部。面部は縦位隆縁を設け、2条隆縁が懸垂する。側縁は沈線。体部は仮伏短伏隆縁による縦位尖短伏文を充てる。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	42	ミニチュア +12 口縁部破片	① 粗:白色粒・石英少 ② 鈍い赤褐色暗赤褐色	破片を点検同一個体と判断した。深鉢ミニチュア。2条の垂下隆縁を設け、空白部は斜位隆縁を施し、尖短伏の効果を見せる。丸縁無文。	中期後葉信州系 43:同一個体
第33806 Pl.212	43	ミニチュア +18 口縁部破片	① 粗:白色粒・石英少 ② 鈍い赤褐色・暗赤褐色	① 粗:白色粒・石英少 ② 鈍い赤褐色・暗赤褐色	① 粗:白色粒・石英少 ② 鈍い赤褐色・暗赤褐色
第33806 Pl.212	44	浅鉢 Pl.1 口頸部破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	屈曲部に隆縁による縦位の積円状沈線を配す。仮伏突起を付し、円形斜位文を充填する。上位区画内は縦位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33806 Pl.212	45	深鉢 +65 口縁部突起	① 粗:輝石 ② 赤褐色	側面・内面からの貫孔による中空状突起。上下内面に隆縁による渦巻文を設け、横位肥厚が垂下する。把手部は渦巻文を配し、区画内は縦位短伏隆縁を充填する。	中期後葉東北系
第33806 Pl.212	46	深鉢 +5 口縁部突起	① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色	中位で貫孔する。上端内面に隆縁による渦巻文を配し、孔外縁を隆縁で縁取る。下部より2条隆縁が垂下する。空白部は斜位短伏隆縁を施す。	中期後葉東北系
第33806 Pl.212	47	深鉢 +50 口縁部突起破片	① 粗:小粒・輝石 ② 黒褐色	3方から開く中空状突起。突起本体を欠損するため全容は把握できない。下端に隆縁による気隙状沈線を配す。	中期後葉東北系
第33906 Pl.212	48	深鉢 +21 口縁～体部中位 破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部は肥厚し無文。長脚状の器形を呈す。体部は5～7条の密接条線による縦位短伏隆縁を配す。	中期後葉古
第33906 Pl.212	49	深鉢 +56 体部中位破片	① 粗:石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	内湾する体部形態。連節2条隆縁による渦巻文突起が配される。隆縁間に円形斜位文を充填する箇所もある。空白部は斜位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33906 Pl.212	50	深鉢 +28 体部中位1/3 残存	① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色	隆縁による渦巻文を配し、下部に2条隆縁による逆S字状突起が構築する。空白部は縦位・斜位隆縁を施す。	中期後葉信州系
第33906 Pl.213	51	深鉢 +45 体部中位破片	① 粗:石英・雲母 ② 暗赤褐色	上半は隆縁によるU字状区画を配し、口部の渦巻文と連節する。区画中位の隆縁による縦位幅狭積円文で小区分し、斜位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33906 Pl.213	52	深鉢 +14 体部中位破片	① 粗:石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	2条隆縁による渦巻文と長脚文によるU字状区画文構成。斜位短伏隆縁を充填する。	中期後葉信州系
第33906 Pl.213	53	深鉢 +11 体部中位破片	① 粗:石英・雲母多 ② 暗赤褐色	2条隆縁による縦位の渦巻文突起。沈線を側縁とし、斜位短伏隆縁を施す。	中期後葉信州系
第33906 Pl.213	54	深鉢 +49 口頸部破片	① 粗:石英・雲母 ② 褐色	隆縁による区画文内に渦巻文が配られる。区画内側縁は沈線。縦位短伏隆縁を充填する。器面磨滅。	中期後葉信州系
第33906 Pl.213	55	深鉢 埋土 体部中位破片	① 粗:輝石 ② 鈍い赤褐色	渦巻文を付与する2条隆縁による整巻文構成。側縁は沈線。空白部には縦位・斜位短伏隆縁を施す。	中期後葉古
第33906 Pl.213	56	深鉢 +7 体部中位1/2 残存	① 粗:石英 ② 鈍い赤褐色	沈線による器面磨滅。渦巻文を中位に置いた垂下沈線による整巻文構成。縦位仮伏隆縁2条が繋がり、地文は縦位密接条線を施す。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

採集番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(体面高)	①胎土調				文 様 の 特 徴 等	備 考			
			①胎土調	②赤色	③褐色	④黒色					
第33904 PL-213	57	深鉢 甌土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②赤褐色			横位沈線と横線より、矢羽状刺文を加えた垂下隆線2条が顕著する。縦位波状沈線を施す。	中期後葉信州系			
第33904 PL-213	58	深鉢 +47	体部中位1/2 残存	①粗:石英 ②褐色			2条沈線による懸垂文構成。地文は無文・斜位波状文。	中期後葉古			
第34004 PL-213	59	深鉢 +61	体部下半破片	①粗:輝石 ②赤褐色			垂下沈線2・3条による懸垂文構成。斜位・弧状沈線を施す。内面に付着。胎面磨滅。	中期後葉信州系			
第34004 PL-213	60	深鉢 +46	体部中位破片	①粗:石英・雲母 ②赤褐色			垂下沈線2条による懸垂文構成。沈線間は無文。4・5条単位の縦位波状沈線を施す。	中期後葉古			
第34004 PL-213	61	鉢 +10	体部下半1/4 ~底部残存 底:7.5	①粗:輝石 ②黒褐色			体部は2条隆線による弧状意匠あるいは大柄な渦巻状意匠が配される。内外面に丁寧な研磨を施し赤彩を加える。内面赤彩は顕著。	中期後葉古			
第34004 PL-213	62	浅鉢	口縁部破片	①粗:石英 ②赤褐色			内湾意味に開く口縁部。内外面横位研磨を施し、赤彩を加える。	中期後葉			
第34004 PL-213	63	深鉢 +22	口縁部破片	①粗:石英 ②褐色			厚手の胎厚。外傾する無文の口縁部。胎面凹凸はやや強い。	中期後葉			
第34004 PL-213	64	深鉢 +46	口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②赤褐色			外反する無文の口縁部。胎面が強い凹凸を呈す。	中期後葉			
第34004 PL-213	65	深鉢 胎	体部下半~底部 残存 底:9.4	①粗:石英 ②褐色			刻みを付す垂下隆線と2条隆線による懸垂文構成。空白部に横位沈線2条を配す。地文は縦位波状沈線を施す。	中期後葉信州系			
第34004 PL-213	66	深鉢 +16	体部下半~底部 1/3残存 底:9.0	①粗:石英・輝石 ②褐色			垂下沈線2条の下部部を見る。懸垂文構成。縄文は縦位1Rか。胎面磨滅する。	中期後葉古			
第34004 PL-213	67	深鉢 床	体部下半~底部 残存 底:6.0	①粗:石英・雲母 ②暗赤褐色			連続する2条隆線による懸垂文構成。無文・斜位沈線を施す。	中期後葉古			
第34004 PL-213	68	深鉢 +13	体部下半1/4 ~底部残存 底:7.2	①粗:輝石 ②褐色			直線的に開く体部下半。垂下隆線下部と縦位矢羽状短沈線を見る。	中期後葉信州系			
第34004 PL-213	69	深鉢 +5	底部4/5残存 底:6.8	①粗:輝石 ②明赤褐色			直立意味の体部下半。垂下沈線下部部を見る。懸垂文構成。	中期後葉古			
第34004 PL-213	70	深鉢 +20	体部下半~底部 残存 底:13.0	①粗:石英多・輝石 ②鈍い赤褐色			大型の深鉢。厚手の胎厚を呈す。体部下半は無文。底面に網代模が見える。	中期後葉			
第34004 PL-213	71	深鉢 床	体部下半~底部 残存 底:10.4	①粗:石英多・輝石 ②赤褐色			厚手の胎厚を呈す大型の深鉢。内湾意味に開く体部下半。無文で底面に網代模を残す。	中期後葉			
第34004 PL-213	72	深鉢 床	体部下半~底部 残存 底:6.2	①粗:輝石 ②褐色			胎面磨滅。垂下沈線下部部を見る。	中期後葉古			
第34004 PL-213	73	深鉢 床	体部下半~底部 残存 底:6.6	①粗:石英・輝石 ②褐色			無文で直線的に開く体部下半。底面は僅かに網代模が残る。	中期後葉			
第34004 PL-213	74	浅鉢 +28	底部1/3残存 底:(8.0)	①粗:輝石 ②赤褐色			体部下半は内湾意味に強く開く。無文で内面に丁寧な研磨を施す。	中期後葉			
第34004 PL-213	75	深鉢 +51	体部下半1部。 底部4/5残存 底:7.0	①粗:輝石 ②鈍い黄褐色			内湾意味に強く開く体部下半。2条の垂下沈線下部と充填文を見る。横位削り調整が顕著。	中期後葉東北系			
第34004 PL-213	76	台付き深鉢	胎面破片	①粗:小磯・石英 ②暗赤褐色			ミニチュアか。胎面中に2孔を配し、2条隆線が波状に配される。胎面磨滅。	中期後葉 筑前系			
採集番号 図録番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第34104 PL-213	77	石碗	甌土	完形	2.6	1.7	0.3	0.9	凹基無蓋。作りは丁寧。	黒曜石	
第34104 PL-213	78	石碗	床	欠損	(2.7)	(1.5)	0.3	(0.7)	凹基無蓋。やや細身の作り。	黒曜石	
第34104 PL-213	79	石碗	甌土	完形	2.1	1.5	0.5	0.6	凹基無蓋。片面に割離面大きく残す。	黒曜石	
第34104 PL-213	80	石碗	甌土	完形	1.3	1.2	0.4	0.4	凹基無蓋。小形でやや厚手。	黒曜石	
第34104 PL-213	81	石碗	甌土	完形	2.6	1.3	0.3	0.8	凹基無蓋。挟り浅く弧状を呈す。やや長身で厚手の作り。	黒曜石	
第34104 PL-213	82	石碗	甌土	欠損	1.6	1.2	0.4	0.6	先端部片。	黒曜石	
第34104 PL-214	83	石碗	床	ほぼ完形	1.8	1.3	0.4	0.7	凹基無蓋。挟り浅く作りは粗い。	黒曜石	
第34104 PL-214	84	石碗	甌土	欠損	(2.1)	(1.2)	0.4	(0.8)	脚の一部を欠く。	黒曜石	
第34104 PL-214	85	石碗	甌土	完形	3.0	1.9	0.8	3.3	平基無蓋。基部厚く先端部が薄く作られる。未製品か。石灘の可能性も。	黒曜石	
第34104 PL-214	86	石碗	甌土	欠損	(3.0)	(1.9)	0.5	(1.7)	凹基無蓋。挟りやや浅い。大型品で両脚を欠く。	黒曜石	
第34104 PL-214	87	石碗	甌土	完形	2.9	1.7	0.6	2.3	片側側縁部は未調整。未製品小。	黒曜石	
第34104 PL-214	88	石碗	甌土	完形	2.0	1.7	0.5	1.3	平基無蓋。片面に大きく割離面残す。基部に厚み有り。	黒曜石	



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第34100 PL-214	89	石碗	覆土	欠損	(2.1)	(1.0)	0.3	(0.5)	先端部片、両側を欠く。作りは丁寧。	黒曜石	
第34100 PL-214	90	石碗	覆土	欠損	(1.5)	(1.0)	0.4	(0.4)	先端部片か。	黒曜石	
第34100 PL-214	91	石碗	覆土	欠損	(1.7)	(1.0)	0.5	(0.6)	やや細身の先端部片。やや厚手の作り。	黒曜石	
第34100 PL-214	92	石碗	覆土	欠損	(1.1)	(1.1)	0.5	(0.4)	先端部片。	黒曜石	
第34100 PL-214	93	石碗	覆土	欠損	(2.0)	(1.2)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り深く片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第34100 PL-214	94	石碗	覆土	欠損	(2.9)	(1.9)	0.3	(1.4)	凹基無茎、挟り深い。片脚および先端部を欠く。	黒色頁岩	
第34100 PL-214	95	石碗	覆土	欠損	(1.2)	1.5	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟り浅く脚が闊く、先端部を欠く。	黒曜石	
第34100 PL-214	96	石碗	覆土	欠損	(1.8)	1.9	0.3	(1.4)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒色安山岩	
第34100 PL-214	97	石碗	覆土	欠損	(1.0)	(1.1)	0.2	(0.2)	平基無茎の小型品か。	黒曜石	
第34100 PL-214	98	石碗	覆土	欠損	(1.0)	(1.1)	0.2	(0.1)	脚部片。	黒曜石	
第34100 PL-214	99	石碗	覆土	欠損	(1.1)	(1.3)	0.3	(0.4)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第34100 PL-214	100	石碗	覆土	欠損	(2.0)	1.5	0.4	(1.1)	平基無茎、作り粗く、先端部を欠く。	黒曜石	
第34100 PL-214	101	石碗	覆土	欠損	(2.6)	(1.3)	0.4	(1.1)	板状剥片を素材とする。縁辺部に剥離調整。縦に破損か。	黒曜石	
第34100 PL-214	102	石碗	床	欠損	(2.2)	(1.8)	0.4	(1.3)	平基無茎か。	黒曜石	
第34100 PL-214	103	石碗	覆土	欠損	(1.2)	(1.9)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り浅く薄手である。先端部を欠く。	黒曜石	
第34200 PL-214	104	石碗	覆土	完形	2.8	0.6	0.4	0.4	小型で細身の棒状錐。	黒曜石	
第34200 PL-214	105	石碗	覆土	完形	4.1	2.0	0.8	2.4	つまみ有す。基部は真っ直ぐで丁寧に剥離調整。	珪質変質岩 (珪質頁岩夾岩)	
第34200 PL-214	106	打製石 斧	覆土	完形	10.7	4.4	1.5	84	短冊形、僅かに刃部広がりを持つ。使用痕有り。	黒色安山岩	
第34200 PL-214	107	打製石 斧	覆土	完形	11.5	4.3	1.7	106	短冊形、僅かに刃部広がりを持つ。基部両側縁に浅い 挟り見られる。	黒色頁岩	
第34200 PL-214	108	打製石 斧	覆土	完形	16.9	6.2	2.8	286	扇形、厚手で、作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第34200 PL-214	109	打製石 斧	覆土	完形	10.9	4.1	1.8	83	短冊形、中央部がわずかに肥厚。刃部は薄くなる。	黒色安山岩	
第34200 PL-214	110	打製石 斧	覆土	完形	11.8	5.2	1.9	139	扇形、基部側面に自然面残る。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第34200 PL-214	111	打製石 斧	覆土	完形	10.0	4.6	2.0	103	扇形、基部は瘤状に肥厚。刃部摩耗し偏刀である。	細粒輝石安山岩	
第34200 PL-214	112	打製石 斧	覆土	完形	14.3	5.7	2.4	216	扇形、片面に自然面残る。刃部は薄手。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第34200 PL-214	113	打製石 斧	覆土	完形	12.1	5.0	2.1	157	短冊形、片面に大きく自然面を持つ。粗い作り。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第34200 PL-214	114	打製石 斧	覆土	完形	13.4	5.2	2.1	158	扇形、基部やや厚く刃部は薄くなる。	黒色安山岩	
第34200 PL-214	115	打製石 斧	覆土	完形	10.8	5.8	1.2	98	扇形、薄手で円く広がる。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第34200 PL-214	116	打製石 斧	覆土	完形	11.6	5.6	1.8	112	扇形、刃部丸みを呈し摩耗顯著。	黒色安山岩	
第34300 PL-214	117	打製石 斧	覆土	完形	9.9	4.4	1.5	95	扇形、基部上端に自然面、片側側縁は厚く未調整。刃 部摩耗。	黒色安山岩	
第34300 PL-214	118	打製石 斧	覆土	完形	10.8	4.9	1.6	103	扇形、刃部の摩耗顯著。	黒色安山岩	
第34300 PL-214	119	打製石 斧	ほぼ 完形	ほぼ 完形	10.1	4.6	1.4	103	短冊形、基部両側に僅かに挟りが見られる。刃部一部 を欠く。	黒色安山岩	
第34300 PL-214	120	打製石 斧	覆土	完形	9.2	4.7	1.4	77	扇形、やや小型で片面に自然面残す。	細粒輝石安山岩	
第34300 PL-214	121	打製石 斧	覆土	完形	12.0	4.9	1.4	93	扇形、刃部が尖りやや雑な作り。	粗粒輝石安山岩	
第34300 PL-214	122	打製石 斧	覆土	欠損	8.3	4.1	0.7	28	小型板状、刃部を欠く。	黒色安山岩	
第34300 PL-214	123	打製石 斧	覆土	完形	6.9	4.7	1.9	63	小型で短い扇形。基部厚く刃部は薄く作られる。	黒色安山岩	
第34300 PL-214	124	打製石 斧	覆土	完形	9.2	4.4	1.3	72	短冊形、僅かに刃部が広い。	細粒輝石安山岩	
第34300 PL-214	125	打製石 斧	覆土	ほぼ 完形	(10.3)	5.9	1.6	(121)	扇形、片面に大きく自然面。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第3439区 PL-214	126	打製石斧	覆土	完形	9.7	4.3	1.3	69	短冊形だがやや不定形。刃部摩耗。	黒色安山岩	
第3439区 PL-214	127	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(12.3)	5.1	2.2	(165)	扇形。基部は厚く刃部に向かって薄くなる。	紫褐色石普通輝石安山岩	
第3439区 PL-214	128	打製石斧	覆土	欠損	(6.7)	5.4	1.0	(59)	薄刃の扇形刃部片。自然面残る。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第3439区 PL-214	129	打製石斧	覆土	完形	(10.0)	5.1	1.5	(111)	短冊形。板状で刃部摩耗。基部を僅かに欠損か。	細粒輝石安山岩	
第3439区 PL-214	130	打製石斧	覆土	欠損	(4.9)	5.1	1.2	(37)	刃部片。摩耗見られ。埋付着。	細粒輝石安山岩	
第3439区 PL-214	131	打製石斧	覆土	欠損	(6.8)	5.7	2.0	(94)	刃部片。やや厚手で鋭利さは見られず。全体にやや風化。	細粒輝石安山岩	
第3439区 PL-214	132	打製石斧	覆土	欠損	(8.8)	4.5	1.5	(74)	基部片と思われる。片面が自然面で断面力マゴコ状である。	細粒輝石安山岩	
第3439区 PL-215	133	打製石斧	覆土	欠損	(7.5)	4.5	1.8	(81)	基部片。片面に自然面。	細粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	134	打製石斧	覆土	欠損	(11.8)	4.8	1.8	(139)	扇形。片側縁は無調整。刃部を欠く。	黒色安山岩	
第3440区 PL-215	135	打製石斧	覆土	欠損	(9.6)	5.5	1.6	(116)	扇形。板状の縁から作り出す。両面に自然面残る。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	136	打製石斧	覆土	欠損	(8.0)	5.4	1.9	(59)	扇形か。基部両側縁に浅い抉り。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	137	打製石斧	覆土	欠損	(14.2)	6.1	2.3	(257)	やや大型の扇形か。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	138	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	3.3	0.9	(25)	細身で基部に抉りを持つ形状の打製石斧か。	黒色安山岩	
第3440区 PL-215	139	打製石斧	覆土	欠損	(10.1)	6.0	2.5	(215)	やや大型で厚手の基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	140	打製石斧	覆土	欠損	(11.2)	5.1	2.3	(166)	扇形。厚手で。作りは粗い。刃部欠損。被熱。	細粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	141	打製石斧	床	欠損	(8.6)	5.3	2.5	(105)	粗い作りの基部片。	細粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	142	打製石斧	覆土	欠損	(5.8)	5.2	1.2	(53)	刃部片と思われる。薄手の作り。	黒色安山岩	
第3440区 PL-215	143	打製石斧	覆土	欠損	(8.2)	4.8	0.8	(34)	板状で極めて薄い。剥離したもののか。基部片。	黒色安山岩	
第3440区 PL-215	144	打製石斧	覆土	欠損	(5.7)	5.1	1.2	(58)	板状で両面に自然面残る。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	145	打製石斧	覆土	欠損	(6.3)	4.9	1.4	(55)	やや薄手の基部片か。	黒色安山岩	
第3440区 PL-215	146	打製石斧	覆土	欠損	(8.5)	4.7	1.0	(42)	扇形か。薄手で刃部を欠く。また基部側縁部に浅く抉り。	黒色安山岩	
第3440区 PL-215	147	打製石斧	覆土	欠損	(3.6)	4.2	0.8	(18)	薄手の破損品。	黒色安山岩	
第3440区 PL-215	148	打製石斧	覆土	欠損	(8.4)	4.9	1.3	(95)	板状で自然面残る。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	149	打製石斧	覆土	欠損	(5.1)	5.3	1.2	(39)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第3440区 PL-215	150	打製石斧	覆土	欠損	(6.5)	4.5	1.3	(48)	先端が尖る。刃部と思われるが基部の可能性もある。	黒色頁岩	
第3440区 PL-215	151	小型磨製石斧	覆土	完形	4.1	2.0	0.7	10.9	小型定角式磨製石斧。ほぼ全面丁寧な研磨。基・刃部磨刃による成形。	蛇紋岩	
第3450区 PL-215	152	磨製石斧	覆土	欠損	9.9	5.4	2.3	210	やや幅広くの作り。刃部欠損後再利用か。	蛇紋岩	
第3450区 PL-215	153	磨石	覆土	完形	5.7	5.5	5.4	90	小珠で白色を呈す。やや軟質で若干の整形痕見られる。	安山岩	
第3450区 PL-215	154	磨石	覆土	完形	7.3	6.5	5.4	342	小円鏡利用。黒色の付着物(痕)か。	粗粒輝石安山岩	
第3450区 PL-215	155	磨石	覆土	完形	7.8	6.3	6.2	436	扇形の小円鏡利用。	粗粒輝石安山岩	
第3450区 PL-215	156	磨石	覆土	完形	6.1	5.2	4.0	172	小型の円鏡利用。表面に若干の使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第3450区 PL-215	157	磨石	覆土	完形	4.3	3.9	3.3	74	小円鏡。顕著な使用痕は見られず。	安山岩	
第3450区 PL-215	158	磨石	覆土	完形	6.8	6.4	5.0	332	丸く厚みを持ったおむすび形を呈す。平坦な下面を使用面とする。	粗粒輝石安山岩	
第3450区 PL-215	159	磨石	覆土	完形	7.0	5.7	5.5	202	小円鏡利用。ほぼ全部使用。	粗粒輝石安山岩	
第3450区 PL-215	160	磨石	覆土	完形	6.2	4.1	3.1	117	扇形の小鏡利用。	粗粒輝石安山岩	
第3450区 PL-215	161	磨石	覆土	完形	4.9	4.9	4.4	156	小円鏡であるが、平坦部を有し使用面としたものか。	粗粒輝石安山岩	
第3450区 PL-215	162	磨石	覆土	完形	9.7	5.5	3.5	312	やや細長い扁平な円鏡利用。方面平滑で側縁に打痕。	粗粒輝石安山岩	

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	器種	出土位置 残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考	
第3450R PL.215	163	磨石	覆土	完形	10.3	5.6	3.5	376	厚手の小円形を呈す。両面、側面を使用、使用面平滑で砥熟。	粗粒輝石安山岩	
第3450R PL.215	164	磨石	覆土	完形	8.0	3.5	4.3	308	平坦な下面を使用面とし、端面を截打面としている。	粗粒輝石安山岩	
第3450R PL.215	165	磨石	覆土	完形	8.5	3.4	3.0	206	平坦な小円形、両面使用面とし、浅い打痕が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第3450R PL.215	166	磨石	覆土	完形	11.9	6.9	5.0	670	やや扁平な長円形。両面使用で平滑、両端面に打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	167	磨石	覆土	完形	14.4	7.5	3.4	670	扁平な楕円で片面が狭く凹む、浅い打痕が表面および端面に見られる。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	168	磨石	覆土	完形	11.2	5.4	4.3	428	細長い楕形を利用、両端面に打痕。表面砥沈着層に覆われる。	石英閃緑岩	中内石林
第3460R PL.215	169	磨石	砂	完形	17.2	6.1	4.3	670	やや扁平な楕形で、両面に浅い打痕が連続し、端面にも打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	170	磨石	覆土	完形	10.1	7.3	5.8	540	やや扁平な長円形。一面に浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	171	凹石	覆土	完形	11.5	7.9	4.9	530	やや扁平な長円形。両面に浅い凹み穴(2穴)が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	172	磨石	覆土	完形	9.5	5.3	1.9	158	扁平な川原石利用。表面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	173	凹石	床	完形	12.0	9.1	4.1	600	不定形な扁平楕。発意質でざらついた石質で両面に浅い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	174	磨石	覆土	欠損	(5.9)	(3.6)	4.2	(114)	小破片。片面平坦である。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.215	175	磨石	床	欠損	(8.9)	3.8	5.7	(379)	やや扁平な楕形状か。顕著な使用痕は見られない。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.216	176	磨石	覆土	欠損	(4.5)	(5.2)	4.1	(138)	端部片で、側縁部に折れ見られる。	粗粒輝石安山岩	
第3460R PL.216	177	磨石	覆土	欠損	(8.0)	5.6	3.5	(274)	やや扁平な楕形状。端面に僅かに凹み。	石英閃緑岩	
第3460R PL.216	178	凹石	覆土	欠損	(7.8)	5.0	2.9	(200)	扁平な楕形で片面に大きく凹みを有す。半分に割れている。	粗粒輝石安山岩	
第3470R PL.216	179	磨石	覆土	欠損	(8.2)	6.9	4.8	(392)	側縁に縁を有す定形で両面、側面使用により平滑。砥熟見られる。	粗粒輝石安山岩	
第3470R PL.216	180	磨石	覆土	欠損	(6.9)	3.5	4.4	(262)	断面三角の楕形状を呈すか。端面に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第3470R PL.216	181	凹石	覆土	完形	12.7	11.4	4.4	600	不定形で発意質の楕の両面に凹み穴が見られる。砥熟。	粗粒輝石安山岩	
第3470R PL.216	182	台石	覆土	完形	28.0	15.4	5.7	3,540	板状の自然産物を利用。平坦な両面を利用か。砥沈着見られる。	粗粒輝石安山岩	
第3470R PL.216	183	石皿	覆土	欠損	(22.4)	(5.3)	3.6	(1,170)	扁平分に削れた片岩利用の石皿で手前側がやや薄くなる。砥熟あり。	緑色片岩	

95-57号住居跡(第353R~358R; PL.216~218)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 胎色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第3530R PL.216	1	深鉢 床	口縁～体部上半 4/5残存 H: 24.2	① 粗: 石英・雲母 ② 黒褐色	肥厚する口縁部は無文。体部上半は2条隆線による渦巻文と弧状意匠が連続する区画文構成。8単位構成。区画内は縦位矢羽状短沈線を充填する。下半は沈線によるU字状区画文が配される。区画内は縦位弧状沈線が小区画に斜位短沈線を施す。	中期後東信州系
第3530R PL.216	2	深鉢 床	口縁～体部上半 1/3残存 H: (24.0)	① 粗: 石英・雲母 ② 暗褐色	隆線による連続した渦巻文と区画文構成。沈線を側縁とし、斜位短沈線を充填する。体部は2条沈線が垂下する懸垂文構成。逆U字状懸垂文も配される。胎は無文。	中期後東吉
第3530R PL.216	3	深鉢 +30	口縁～体部中位 1/3残存 H: (20.0)	① 粗: 石英・輝石 ② 暗褐色	内湾する口縁部に沈線による連続弧状意匠を配す。頸部隆線を配し縦位S字状意匠を配す。下端より垂下する2条は分岐隆線と連続しU字状意匠となる。区画内は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後東信州系
第3530R PL.216	4	深鉢 +11	口縁～体部中位 3/4残存 H: 17.8	① 粗: 石英・雲母 ② 黒褐色	隆線による渦巻文を口縁部上位に配し下端を2条隆線が繋ぐ区画文。区画内は沈線を側縁とし、縦位短沈線を充填する。体部は渦巻文直下より2条隆線が懸垂し中位に渦巻文を設ける。底部対応域に1条の垂下隆線を付す。空白部は斜位短沈線を充填する。5単位構成か。	中期後東信州系
第3530R PL.216	5	深鉢 砂	体部中位ののみ残存	① 粗: 石英・雲母 ② 明赤褐色	2条隆線による大柄の渦巻文を配し上部に弧状意匠を連続する。4単位構成である。上半には弧状意匠が接し円形刺突文が沿う。空白部は3条の横位短沈線が小区画され、斜位・縦位短沈線を充填する。内面上半に砥熟痕跡を見る。	中期後東信州系
第3530R PL.216	6	深鉢 +26	口縁～体部上半 破片	① 粗: 輝石 ② 黒褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線と刺突文。横位短沈線を充填する。体部は2条沈線と渦巻された磨消部懸垂文構成。縦位短沈線を充填する。	中期後東吉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎土 ② 胎色 ③ 土質	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第3530E PL.216	7	深鉢 履土	口縁～胴部破片	① 粗：石英・輝石 ② 灰褐色	口縁部波状突起。波頂部に渦巻文を配し、口縁部は隆線による区画文を構成する。胴部は波線で加飾文を充填する。胴部隆線より体部に弧状隆線が隆出し、弧状沈線を施す。継手状懸垂文か。	中期後葉新
第3530E PL.216	8	深鉢 +29	口縁部破片	① 粗：石英 ② 灰褐色	口縁部内湾。2条の横位波線を設け、波頂部に円形刺突文が充填される。以下縦位 L 線を施す。	中期後葉新
第3530E PL.216	9	深鉢 履土	口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	隆線による渦巻文・楕円文構成か。楕円文刺突文が認められる。縄文文、隆線下部、垂下沈線上部が見える。	中期後葉
第3530E PL.216	10	深鉢 +30	口縁～体部中位 破片	① 粗：石英・褐色粒 ② 褐色	小型深鉢。口縁部内湾し体部中位で居るキリッパ一帯を呈する。縦位波線が区画文を成す。	中期後葉新
第3530E PL.216	11	鉢 が	体部破片	① 細：石英(少)・輝石(少) ② 灰黄褐色	あるいは浅鉢か。内外面赤彩。外面は斜位 L が覆う。	後期中葉以降
第3530E PL.216	12	深鉢 履土	口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	口唇部に凹線と横位隆線を設ける。以下階状意匠を配し下端より派生した隆線が区画文を成す。区画内側縁は波線。斜位短沈線を充填する。やや乱雑な施文。	中期後葉信州系
第3530E PL.216	13	深鉢 履土	口縁～体部上半 破片	① 粗：石英少・輝石 ② 赤褐色	口唇部内外面肥厚。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。渦巻文下縁は開放され、垂下隆線2条が垂下する。区画内は波線と刺突文を併用し斜位短沈線を充填する。体部は弧状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第3530E PL.216	14	深鉢 +31	口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 明赤褐色	口唇部内縁を設ける。口唇部直下に隆線による渦巻文を配し垂下隆線が派生し区画文を構成する。区画内は波線を併用し縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3540E PL.216	15	深鉢 +27	口縁部破片	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 褐色	波状線。波頂部に大柄の隆線渦巻文を設け区画文を配す。区画内は波線を併用し弧状短沈線を充填する。胴部隆線に波状突起を付す。体部は縦位・弧状沈線を施す。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	16	深鉢 +31	口縁部破片	① 粗：石英・輝石・雲母少 ② 褐色	口縁部は扁平で隆線による連続した渦巻文と区画文を配す。縦位弧状短沈線を充填する。体部も短沈線施文か。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	17	深鉢 +27	口縁部破片	① 細：石英・輝石 ② 黒褐色	波状線。低位隆線による渦巻文を波頂部に配す。胴縁は波線で、隆線にまで施文。沈線で囲まれた区画内は弧状短沈線を充填する。胴部隆線に波状突起を付し、体部は沈線による小渦巻文や短沈線を施す。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	18	深鉢 +24	口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	内湾する無文口縁部。胴部に2条隆線を設け、渦巻文突起を付し、突起部下端より隆線が体部へ垂下する。体部は縦位波線を施す。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	19	深鉢 履土	口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 灰褐色	隆線による口縁部区画文。区画内側縁は波線で横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	20	深鉢 床	口縁部破片	① 細：石英・輝石 ② 黒褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側縁は波線で縦位短沈線を充填する。渦巻文下端より垂下隆線が派生する。やや軟弱な感を受ける。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	21	深鉢 +25	口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	隆線による渦巻文を配す。上位は縦位刺突文を併用とする。隆線が派生し区画文を成す。斜位波線を施す。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	22	深鉢 +32	口縁部破片	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	縦りを加えた縦位突起を設け、隆線で囲まれた方形状区画文を配す。区画内は横位波線を充填し、胴部隆線による渦巻文や波線による横位波状文を加える。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	23	深鉢 +7	体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	上半に隆線による S 字状意匠と区画文を配す。区画内は隆線で重区画され、円形刺突文や横位波状沈線を充填する。S 字状意匠下端より垂下隆線2条が派生する。体部に隆線渦巻文を配す。空白部は縦位・横位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第3540E PL.217	24	深鉢 履土	体部中位破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	2条隆線による大柄の渦巻文を配す。下端より2条隆線が2重垂下する。胴縁は波線で、短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3550E PL.217	25	深鉢 +25	口胴部～体部上 半破片	① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色	隆線による S 字状懸垂文。連続して左右にも延びる。空腔部には斜位の溝か空腔。	中期後葉信州系
第3550E PL.217	26	深鉢 +30	口胴部～体部上 半破片	① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色	内湾する口縁部に波線を施す。胴部隆線を配し縦位 S 字状意匠を配す。隆線胴縁は波線。縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3550E PL.217	27	深鉢 +23	体部上半破片	① 粗：輝石 ② 赤褐色	隆線による大柄の渦巻文と弧状意匠か。隆線胴縁は波線で弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3550E PL.217	28	深鉢 履土	口胴部～体部上 半破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	2条の垂下隆線と横位隆線で囲まれる区画文。区画内は斜位短沈線と横位波線・交互刺突文を充填する。横位隆線下端は円形刺突文を併用し、縦位交互刺突文が垂下する。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3550E PL.217	29	深鉢 履土	体部中位破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 動 土 ② 色		文 様 の 特 徴 等	備 考					
第3550E PL-217	30	深鉢 覆土	体部上半破片	① 粗:石英・輝石 ② 明赤褐色	沈殿のみの施文か。横位沈殿2条が弧状に垂下し区 画文を配す。区画間に小巻帯文を設ける。上半区 画内は横位沈殿を見る。下半区画は縦位波状沈殿を 中に設け、縦位矢羽状短沈殿を充填する。	中期後葉信州系					
第3550E PL-217	31	覆土	体部下半破片	① 粗:石英・輝石 ② 明赤褐色	沈殿による縦位重瓦施文後、沈殿による蛇行懸垂 文。	中期後葉信州系					
第3550E PL-217	32	深鉢 +40	口縁部破片	① 粗:石英・輝石・雲母 ② 鈍い赤褐色	口縁部区画文、頸部に2条隆線を設ける。区画内は 横位矢羽状短沈殿を充填する。体部は弧状隆線が派 生する。	中期後葉信州系					
第3550E PL-217	33	浅鉢 +4	口縁部破片	① 細:輝石多 ② 明赤褐色	口縁部外面は僅かに肥厚し、内面は突出する。外面 は横位研磨を施し、内面は撫で調整に止まる。	中期後葉					
第3550E PL-217	34	深鉢 覆土	口縁部突起片	① 粗:石英・雲母 ② 暗赤褐色	縦位輪状把手。上端は内外面とも巻帯文を配す。上 端より垂下した隆線が両下端で巻帯状意匠となる。 側縁は沈殿で縦位巻帯状意匠や縦位交互刺突文が理 められる。内面孔も設けられ3方からの貫孔となる。	中期後葉信州系					
第3550E PL-217	35	深鉢 +29	口縁部突起片	① 粗:石英多 ② 黒褐色	輪状把手。上端に隆線による巻帯状意匠を配す。	中期後葉古					
第3550E PL-217	36	深鉢 +10	体部下半~底部 底:6.7	① 粗:石英・輝石 ② 赤褐色	垂下沈殿下部面を見る。あるいは低位隆線跡線か。 縦位LRを充填する施文部懸垂文構成。4単位か。	中期後葉新					
第3550E PL-217	37	浅鉢 覆土	体部~底部 底:9.4	① 粗:石英 ② 黄褐色	あるいは深鉢か。黒文で強く閉く体部形成。内外面 とも研磨を施す。蓋面磨滅。	中期後葉					
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考	
第3550E PL-217	38	石鉢	覆土	欠損	(1.2)	1.7	0.4	(0.5)	平基無蓋。先端部を欠く。	黒曜石	
第3550E PL-217	39	石鉢	Pt3	ほぼ 完形	(1.9)	(1.4)	0.3	(0.7)	凹基無蓋。小型品。	黒曜石	
第3550E PL-217	40	石鉢	+41	完形	1.6	1.3	0.4	0.5	凹基無蓋。小型品。やや雑な作り。	黒曜石	
第3550E PL-218	41	石鉢	覆土	完形	2.5	0.8	0.2	0.3	やや曲がった細い板状の割片利用。先端部に若干の刃 面調整。	黒曜石	
第3550E PL-218	42	打製石 斧	+20	完形	(11.4)	5.6	1.6	(32)	扇形。刃部の広がり弱い。やや薄手で作りは粗い。	細粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	43	打製石 斧	+35	欠損	(11.0)	4.6	2.0	(33)	短冊形。刃部は斜離したちのかやや薄手で作りを 有す。	黒色安山岩	
第3550E PL-218	44	打製石 斧	+23	欠損	(5.6)	4.1	2.1	(37)	厚みのある基部片。	細粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	45	打製石 斧	+39	欠損	(5.1)	5.0	1.2	(38)	扇形の刃部片。刃部は使用による摩耗痕顯著。	黒色安山岩	
第3550E PL-218	46	打製石 斧	+23	完形	5.0	3.8	1.0	19	小型で短身。刃部直線的に開き、細い調整刻痕はほ とんど見られず。	細粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	47	打製石 斧	+38	欠損	(6.5)	5.9	1.7	(65)	刃部片。片面に大きく自然面が残る。刃部の作柄は 粗い。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第3550E PL-218	48	打製石 斧	+29	欠損	(9.1)	5.6	1.8	(109)	扇形。刃部を欠く。基部部は薄く、全体にやや作りが 粗い。	粗粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	49	打製石 斧	+15	欠損	(10.4)	4.5	1.8	(89)	扇形か。刃部の広がり弱い。刃部欠損。	黒色安山岩	
第3550E PL-218	50	磨製石 斧	床	欠損	(12.8)	5.4	3.0	(401)	刃部を欠き、縁にやや丸みを有す形状。側縁下部から 片面に敲打痕。	蛇紋岩	
第3550E PL-218	51	小型磨 製石斧	床	欠損	(5.1)	2.9	1.7	(43)	やや小型の定角式磨製石斧の基部片。	蛇紋岩	
第3550E PL-218	52	磨製石 斧	+13	欠損	(3.8)	(4.8)	(1.0)	(24)	磨製石斧の側面部割片。研磨面は平滑で光沢あり。	蛇紋岩	
第3550E PL-218	53	磨石	床	完形	6.3	4.9	2.8	136	小型の扁平円盤利用。全面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	54	磨石	床	完形	9.6	8.5	7.7	900	傘大の円盤。全面比較的平滑である。	粗粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	55	磨石	砂	完形	13.1	7.5	5.2	710	扁平な長円盤利用。顕著な使用痕見られず表面はあまり 平滑ではない。	粗粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	56	磨石	砂	完形	12.5	6.2	4.3	540	やや細長い用原石を利用。両面使用。砂内出土。	粗粒輝石安山岩	
第3550E PL-218	57	磨石	床	完形	12.9	5.8	4.2	510	やや細長い扁平な川原石を使用。一面使用し平滑。一 面に僅付着。	粗粒輝石安山岩	
第3570E PL-218	58	磨石	床	完形	10.7	9.9	4.0	520	不定形で扁平な円盤利用。比較的平らな一面を使用面 とする。	粗粒輝石安山岩	
第3570E PL-218	59	磨石	+6	完形	13.0	10.2	3.6	620	やや発泡質の扁平盤。両面は比較的平滑。	石英閃緑岩	
第3570E PL-218	60	磨石	+26	欠損	11.0	9.5	5.4	800	扁平な円盤利用。両面使用し平滑。地熱見られる。	石英閃緑岩	
第3570E PL-218	61	磨石	+13	完形	10.0	7.9	4.3	488	不定形で扁平な円盤利用。やや都ら両面を使用面とす る。	石英閃緑岩	
第3570E PL-218	62	磨石	+22	完形	12.4	5.7	3.9	422	やや扁平な棒状円盤。表面平滑で打痕等は見られな い。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第35706 PL.218	63	磨石	+8	完形	12.2	6.8	4.7	510	やや細長い用原石利用。比較的平らな一面を磨り面とする。	粗粒輝石安山岩	
第35706 PL.218	64	磨石	が	完形	13.3	6.3	5.0	590	断面三角の棒状礫利用。平坦部および端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第35806 PL.218	65	磨石	床	完形	13.7	5.2	4.0	490	やや扁平な棒状礫利用。あまり顕著な磨り面は見られない。	粗粒輝石安山岩	
第35806 PL.218	66	台石	+6	完形	15.1	7.8	3.8	790	半月形の平らな礫利用。平坦な一面を作業面とする。	石英閃緑岩	
第35806 PL.218	67	礫部	+42	ほぼ 完全	10.6	8.1	1.8	198	扇形形の剥離片を利用。周辺部を刃部状に整形。被熱見られる。	粗粒輝石安山岩	
第35806 PL.218	68	台石	+4	完形	22.5	8.1	5.7	1,170	やや細長い大型扇平礫の両面を使用。平滑で平坦である。	粗粒輝石安山岩	
第35806 PL.218	69	磨石	+7	完形	16.3	5.4	4.2	500	棒状礫利用。両端部および側面部分に複数の打痕。表面に鉄分沈着。	安山岩?	
第35806 PL.218	70	凹石	が	完形	12.7	11.5	4.2	850	ほぼ円形で扁平な自然礫利用。表面中央に凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第35806 PL.218	71	凹石	+26	完形	12.6	10.3	4.2	680	発見質で不定形な礫を利用。一面に凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	

## 95-59号住居跡(第361・362段:PL.219)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 ② 色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第36106 PL.219	1	深鉢 +14	① 粗:石英・輝石 ② 褐色		波状縁。おそらく6単位か。波直下部に隆線による溝を配す。連続した口縁部区画構成。側縁は沈隆でR1及び無筋しを充填施す。体部は沈隆による逆J字状懸垂文か。	中期後葉新
第36106 PL.219	2	深鉢 +29	① 粗:石英・雲母少 ② 鈍い褐色		波状縁。波直部を波状にする。溝巻突起両面に配し、2条隆線で気区画を設ける。側縁は沈隆。口唇端部にも沈隆を施す。地文はL1。	中期後葉東北系
第36106 PL.219	3	深鉢 +17	① 粗:輝石・雲母 ② 褐色		隆線による口縁部溝巻文と区画構成。側縁は沈隆で斜位短沈隆を充填する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	4	深鉢 +11	① 粗:輝石 ② 暗褐色		口縁部沈隆を設ける。隆線による溝巻文を配す。気状短沈隆を充填する。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	5	深鉢 +9	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色		口縁部突起を欠す。口縁部沈隆を設け突起下に隆線による縦位S字状意匠を配す。斜位短沈隆を充填する。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	6	深鉢 外	① 粗:石英・輝石多 ② 鈍い黄褐色		隆線による口縁部溝巻文と区画構成。側縁は沈隆で縦位短沈隆を充填する。体部は2条の垂下沈隆による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈隆を充填する。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	7	が 体部中位 1/4 残存	① 粗:石英・雲母 ② 明褐色		器形歪みがあり。体部は不明。横位隆線による体部部分。上位は縦位S字状意匠。下位は2条隆線による逆J字状懸垂文を配す斜位短沈隆を充填する。上半は加熱による面割新痕が内外面に見られる。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	8	深鉢 +4	① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色		押圧を加える垂下隆線による懸垂文構成。空白部には垂下する2条隆線間を斜位短沈隆を充填する。空白部は斜位短沈隆を充填する。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	9	深鉢 +17	① 粗:石英・輝石 ② 褐色		大型深鉢体部。2条隆線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈隆を充填する。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	10	深鉢 +4	① 粗:石英・褐色粒 ② 灰黄褐色		6・7条一組の条線による縦位波状懸垂文を施す。下半には無筋しを横位施す。	中期後葉新
第36106 PL.219	11	深鉢 +12	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色		強く内湾する無文の口縁部。内外面とも磨り調整を施す。面磨施す。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	12	鉢 +29	① 粗:石英・輝石 ② 明褐色		口縁部外反か。頸部に横位隆線2条を設け小型の横位把手を付す。体部は縦位隆線による風状・溝巻状意匠か。	中期後葉新
第36106 PL.219	13	深鉢 が	① 粗:輝石 ② 赤褐色		4・5条一組の条線による斜位・気状意匠が配される。主幹意匠が見出せず文様構成は不明。	中期後葉信州系
第36106 PL.219	14	深鉢 +13	① 粗:石英・輝石 ② 暗赤褐色		2条隆線による懸垂文構成下縁。斜位意匠であるいは分規懸垂文や波状懸垂文か。単位は不明。空白部は浅い縦位条線を施す。	中期後葉新

縄文番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第36206 PL.219	15	打製石 斧	+18	ほぼ 完形	10.7	6.5	3.0	137	扇形。基部は厚く刃部は薄く作られる。全体に粗い作	黒色安山岩	
第36206 PL.219	16	打製石 斧	+18	欠損 (4.5)	4.7	1.5	(42)		扇形の刃部片。やや厚手で若干の摩耗有り。	黒色安山岩	
第36206 PL.219	17	磨石	+7	完形	9.4	6.1	4.4	366	扁平な整形を呈す。やや表面が多孔質の礫を利用。	粗粒輝石安山岩	
第36206 PL.219	18	石皿	+22	欠損 (13.0)	(12.9)	(7.0)	(1,590)		石皿破片。作業面の湾曲強く摩耗顕著。裏面に複数の凹みあり。被熱。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-59号住居跡(第364図:PL.219)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第364図 PL.219	1	深鉢 +16	口縁～体部上半 破片	① 胎:輝石 ② 褐色	口縁部域小に内湾する。横位隆線4条を造り、溝 巻状小突起を巻ねる。体部は無節しを縦位施文す る。口唇部外面、体部内面に僅存。	中期後葉古					
第364図 PL.219	2	深鉢 +17	口縁部破片	① 胎:石英 ② 褐色	波状縁波頂部、口唇部沈線を造り、直直下より隆線 が分岐派生する。縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第364図 PL.219	3	深鉢 +18	口縁部破片	① 胎:石英 ② 黒褐色	内湾する口縁部、横位隆線2条による区画文構成 か、沈線を倒線とする。施文は縦位沈。	中期後葉古					
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第364図 PL.219	4	石皿	+6	欠損	(1.9)	(1.5)	0.4	(0.8)	平基無葉、板状表片の側縁部分のみ距離調整を施す。 片断僅かに欠く。	黒曜石	
第364図 PL.219	5	磨石	+3	ほぼ 完形	14.9	7.0	5.0	760	細長い磯を利用、ほぼ全体に磨打によるもの小剥落が 著しい。	石英閃緑岩	

95-60号住居跡(第366図:PL.219)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第366図 PL.219	1	深鉢 覆土	体部破片	① 胎:石英・雲母 ② 赤褐色	2条隆線による整非文構成か。沈線を倒線とし、空 白部には斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系					
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第366図 PL.219	2	磨石	覆土	完形	9.0	7.5	5.9	575	準大の円鏡。使用により表面極めて平滑。	粗粒輝石安山岩	

5-2号竪立(第371図:PL.220)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第371図 PL.220	1	深鉢 P19	体部	① 胎:白色粒・石英 ② 黒褐色	頸部横位縄文帯から連続する整非垂消曲線文。文様 内LR編織文充填施文。器面研磨。外面僅存。	後期前葉新					
第371図 PL.220	2	深鉢 P19	口縁部破片	① 石英・角閃石安山岩 ② 黒褐色	口縁内横位沈線。三角意匠の幾何学磨消文様。縄文 はLR編織文充填施文。器面研磨。	後期前葉新					
第371図 PL.220	3	深鉢 P17	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	口縁内横位沈線。沈線による横位縄文帯。	後期前葉新					
第371図 PL.220	4	深鉢 P13	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 赤い黄褐色	口縁内横位沈線。口縁無文下に横位隆線。	後期前葉					
第371図 PL.220	5	深鉢 P15	口縁部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色	無文口縁部片。内面研磨。	後期前葉					
第371図 PL.220	6	深鉢 P14	体部破片	① 石英・長石粒 ② 暗褐色	三角意匠の幾何学磨消文様。縄文はLR編織文充填 施文。器内面研磨。	後期前葉					
第371図 PL.220	7	深鉢 P15	体部破片	① 胎:白色粒・石英粒少 ② 明黄褐色	複数の沈線による斜位文。器面研磨。	後期前葉					
第371図 PL.220	8	深鉢 P19	体部破片	① 胎:白色粒 ② 暗褐色	複節縄文RL横位施文。内面研磨。	中期後葉					
第371図 PL.220	9	深鉢 P13・4	体部～底部 高:16.2 底:10.2	① 石英・長石粒 ② 赤い黄褐色	無文薄手作り。内外面研磨。底部に磨代痕残る。	後期前葉					
第371図 PL.220	10	深鉢 P16	底部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	無文底部片。外面研磨。	後期前葉					
検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第371図 PL.220	11	打製石 斧	P19	完形	8.7	4.0	1.4	69	小型の磨形。やや厚手作り。	黒色頁岩	
第371図 PL.220	12	打製石 斧	P19	欠損	(5.3)	5.0	1.7	(74)	基部片。片面に自然面のある。	粗粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	13	打製石 斧	P19	完形	9.5	5.4	1.6	109	磨形で側面から片面に大きく自然面。直刃部ののみ若干 の刃部調整。	粗粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	14	磨石	P19	完形	5.3	5.4	3.6	132	小円鏡。焼熱によりひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	15	磨石	P19	完形	4.1	3.9	2.6	58	小円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第371図 PL.220	16	凹石	P19	完形	9.5	8.4	6.0	423	不定形な稜の両面に大きめの凹み穴が見られる。粗粒 質の石材。	安山岩質燧岩	

5-3号竪立(第371図:PL.220)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第371図 PL.220	1	深鉢 P-2	口縁部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 黒褐色	口縁端部短く内湾。口縁部外面横位の切み隆線文。	後期前葉新 1127号土坑
第371図 PL.220	2	深鉢 P-2	体部破片	① 胎:石英・白色粒 ② 赤い黄褐色	沈線による渦巻文。	後期前葉 1127号土坑

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-4号掘立(第374・375図:PL.220・221)

探検番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土			文 様 の 特 徴 等	備 考				
			① 胎 ② 色	① 胎 ② 色	① 胎 ② 色						
第374図 PL.220	1	深鉢 16号埋篋	腰部～底部 底:9.5	① 粗:白色粒・石英 ② 明褐色	15単位の平行沈線による磨消懸垂文。間には縦位RL.縄文縦位施文。器外面磨滅。内面縦位の研磨跡。	中期後葉 1145号土坑					
第374図 PL.220	2	深鉢 P-6	口縁部破片	① 細:石英粒・白色粒 ② 暗赤褐色	波状口縁。やや幅広い無文部分に横位の円文。精門を基部とする文様構成か。	中期後葉 1146号土坑					
第374図 PL.220	3	深鉢 P-2	腰部破片	① 長石・白色粒 ② 暗赤褐色	地文にRL.縄文縦位施文。隆線による懸垂文。	中期後葉 1146号土坑					
第374図 PL.220	4	深鉢 P-1	腰部破片	① 石英・長石粒 ② 明赤褐色	2本沈線により磨消懸垂文。地文には細い酒糸文L.縦位方向施文。	中期後葉 1141号土坑					
第374図 PL.220	5	深鉢 P-3	腰部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	縦位磨消縄文。縄文はRL.縦位。	中期後葉 1147号土坑					
第374図 PL.220	6	深鉢 P-6	腰部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 暗褐色	全面にRL.縦位施文。	中期後葉 1145号土坑					
第374図 PL.220	7	深鉢 16号埋篋	口縁～腰部破片	① 長石粒・石英粒 ② 黒褐色	口唇部丸く肥厚し、横位沈線が廻る。低い隆線による磨消き格目文深くか。格目文は沈線で画され、縦位短沈線で埋める。体部には矢羽根状の集合施文。	中期後葉					
第374図 PL.220	8	深鉢 P-2	腰部破片	① 粗:白色粒・雲母多 ② 赤褐色	内脣する首部に上端突起した隆帯で嵌手状懸垂文。地文には斜位の絞線文。	中期後葉 1146号土坑					
第374図 PL.220	9	深鉢 7号焼土	腰部破片	① 粗:白色粒多 ② 明褐色	口縁部に横位隆帯部あり。これに繋がる磨消き懸垂文か。磨消き文夾んだ両側面文内には縦位波状の条線文が見える。	中期後葉 信州系					
第374図 PL.220	10	深鉢 P-5	腰部破片	① 石英・白色粒多 ② にぶい赤褐色	隆線による磨消き懸垂文と連続して横位方向の磨消文。	中期後葉 1149号土坑					
第374図 PL.220	11	深鉢 8号焼土	腰部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 黄褐色	隆線による曲線文意匠。文様内に横位沈線文見える。	中期後葉 信州系					
第374図 PL.220	12	深鉢 P-6	腰部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明赤褐色	縦位集合沈線。隆線による上端磨消きとなる懸垂文。	中期後葉 1145号土坑					
第374図 PL.220	13	深鉢 16号埋篋	腰部破片	① 石英・長石粒 ② 橙色	2本の沈線による波状文様。縦位の集合条線及び斜文V字僅かに見える。	中期後葉					
第374図 PL.220	14	深鉢 7号焼土	腰部破片	① 石英粒・白色粒 ② 明赤褐色	縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉 信州系					
第374図 PL.220	15	深鉢 P-5	腰部破片	① 石英・白色粒多 ② 赤褐色	斜位集合沈線文。	中期後葉 1149号土坑					
第374図 PL.220	16	深鉢 P-6	腰部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	縦位集合沈線施文後、縦位蛇行懸垂文。	中期後葉 1145号土坑					
第374図 PL.220	17	深鉢 P-2	腰部破片	① 石英・長石粒 ② にぶい橙色	縦位集合沈線文。内面研磨。	中期後葉 1146号土坑					
第374図 PL.220	18	深鉢 P-6	口縁部破片	① 粗:白色粒 ② 暗褐色	波頂部分に低位隆帯による8字状文。上位には円孔。文様下部には横文L.が僅かに看取される。器面研磨。23と同一個体か。	後期初期 1145号土坑					
第374図 PL.221	19	深鉢 8号焼土	突起	① 細:石英・雲母少 ② 黒褐色	口縁部山形の突起上面に一封の磨消き文。楕状把手が付くと見られるが、欠損している。内面に隆線廻る。	中期後葉					
第374図 PL.221	20	深鉢 P-3	突起	① 粗:白色粒・小礫 ② 暗褐色	上面平磨消き文。内側に張り出す。研磨。	中期後葉 1147号土坑					
第374図 PL.221	21	深鉢 7号焼土	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 黒褐色	口縁上端部平らに成形。器面研磨。口縁および内面赤彩。	中期後葉					
第374図 PL.221	22	深鉢 8号焼土	口縁部破片	① 石英・長石・片岩粒 ② 明赤褐色	無文口縁部片。器面研磨。	中期後葉					
第374図 PL.221	23	深鉢 P-6	口縁部破片	① 細:石英粒・長石粒 ② 暗赤褐色	口縁部内側に肥厚。無文部分下に縄文LR.施文。	後期初期 1145号土坑					
第374図 PL.221	24	深鉢 P-5	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	口縁部内側に肥厚。器外面無文。研磨。	中期後葉 1149号土坑					
第374図 PL.221	25	深鉢 P-5	腰部破片	① 細:石英粒 ② 暗赤褐色	頸部縦位沈線。無文部分上位に斜位沈線か。器内外面研磨。	中期後葉 1149号土坑					
第374図 PL.221	26	深鉢 8号焼土	底部破片	① 石英粒多 ② 明赤褐色	厚手の底部片。	中期後葉					
探検番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第375図 PL.221	27	石鏝	8号焼土	ほぼ 定形	1.7	1.9	0.3	0.6	凹基無茎。器がやや開き鋭利さは見られない。先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第375図 PL.221	28	石核	P 4	完形	3.3	3.6	2.1	21.2	小石核。	黒曜石	1148号土坑
第375図 PL.221	29	打製石斧	7号焼土	欠損	(4.4)	4.0	1.6	(31)	基部片。	細粒輝石安山岩	
第375図 PL.221	30	打製石斧	P 1	欠損	(11.4)	5.9	2.0	(141)	磨形。刃部はやや薄く開く形と思われるが欠損している。	細粒輝石安山岩	1141号土坑
第375図 PL.221	31	磨製石斧	P 5	欠損	(4.5)	6.1	1.5	(58)	刃部片。比較的薄刃の大型品か。丁寧な研磨成形。	蛇紋岩	1149号土坑



## 第3章 検出された遺構と遺物

5-5号掘立(第3780E: PL.221)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第3780E PL.221	1	深鉢 P-2 口縁部破片	①石黄・長石散 ②黄褐色	口縁部に隆線による連続渦巻き状文。口縁部には 縦位の集合沈線文。二次焼熱か。面風化顯著。	中期後葉信州系 1215号土坑
第3780E PL.221	2	深鉢 P-2 口縁部破片	①石黄・長石散 ③赤褐色	口縁部に隆線による横位集合文。弧状文内には縦位 の集合沈線文。	中期後葉信州系 1215号土坑
第3780E PL.221	3	深鉢 P-8 体部破片	①細: 緑石黄粒 ②褐色	隆線による蛇行懸垂文か。地文は縦位集合沈線。	中期後葉 1144号土坑
第3780E PL.221	4	深鉢 P-7 体部破片	①石黄粒・長石粒多 ②褐色	横位沈線下に縦位斜位の集合沈線文。	中期後葉 1219号土坑
第3780E PL.221	5	深鉢 P-1 体部破片	①細: 長石粒・雲母粒 ②にぶい赤褐色	滑消懸垂文。縄文L.L.施位施文。	中期後葉 1140号土坑
第3780E PL.221	6	深鉢 P-1 体部破片	①石黄・角閃石安山岩 ②にぶい赤褐色	縦位幾数の隆線文。	中期後葉 1140号土坑

95-3号掘立(第384~389図: PL.221~224)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第3840E PL.221	1	深鉢 1号列石 口縁～体部上半 1/3残存 体部下半～底部 1/2残存 体部破片3点 口: (40.8) 底: 11.2 高: 57.0	①粗: 石黄・輝石 ②鈍い黄褐色	平縁で口縁～体部一帯構成。口縁部に隆線による渦 巻文を配し、隣り合う逆J字状意匠に連続して3条 の隆線が垂下する。5単位か。体部中心位の渦巻状 意匠を中継して下半は2条隆線が懸垂する。隆線は下 端で閉じる。空白部は縦位短沈線を地文状に施し、 横位沈線3条が多数に配す。上半には横位矢羽状 沈線を充填する。体部下半の加熱のため表面磨減し 程が著する。	中期後葉信州系
第3840E PL.221	2	深鉢 1号列石 口縁～体部上半 1/4残存 口: (27.6)	①粗: 石黄・輝石 ②灰褐色	隆線による渦巻文を下端に配す突起を設ける。口縁 部区画文は横位弧状沈線と円形刺突文を充填する。 体部は突起下端より垂下する2条隆線と縦位波状隆 線による懸垂文構成。弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3840E PL.221	3	深鉢 P-3 口縁～体部上半 4/5残存 口: 15.5	①粗: 石黄・輝石 ②鈍い赤褐色	小型深鉢。無文の口唇部下に隆線による渦巻文を配 す。渦巻文頭を弧状隆線が上下に繋ぎ区画文を構成 する。5単位を数える。区画内は短沈線を充填する。 体部は左端による逆J字状懸垂文か。弧状沈 線が施される。	中期後葉信州系
第3840E PL.221	4	深鉢 1号列石 口縁～体部上半 1/4残存 口: (34.0)	①粗: 石黄多・輝石 ②灰褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側縁は沈 線。横位L.R.を充填する。体部は2条の垂下沈線と L.R.を見る。斜位L.R.を地文とする。	中期後葉古
第3850E PL.221	5	深鉢 1号列石 口縁～体部上半 1/4残存 口: (44.0)	①粗: 石黄・雲母 ③赤褐色	口唇部内面凹浮。口縁部は連続した渦巻文と区画文 構成。区画内側縁は沈線。短沈線を充填する。体部 は垂下沈線2条による縦位懸垂文構成。空白部は 斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第3850E PL.221	6	深鉢 1号列石 口縁部破片	①粗: 輝石少 ②暗赤褐色	口唇部端部を持ち凹縁を施す。口縁部に横位沈線 2条を設け、沈線間に刺突文を充填する。体部は隆 線による分岐懸垂文上端か。斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第3850E PL.222	7	深鉢 P-1 口縁部破片	①細: 石黄・輝石 ②黒褐色	2条隆線による口縁部区画文構成か。沈線を側縁 と縦位短沈線を地文とする。	中期後葉古
第3850E PL.222	8	深鉢 P-6 口縁部破片	①粗: 石黄・輝石 ②灰褐色	口縁部に幅広い横位沈線を設け、以下縦位L.R.を施 す。	中期後葉古
第3850E PL.222	9	深鉢 P-3 口縁部破片	①粗: 石黄多 ②鈍い黄褐色	口縁部区画文構成か。区画内側縁は沈線。縦位条線 を充填する。	中期後葉信州系
第3850E PL.222	10	深鉢 1号列石 口縁部破片	①細: 石黄・輝石 ②灰褐色	口唇部縁かに内凹。沈線で面された弧状・J字状 意匠か。器厚薄手。	後期初葉
第3850E PL.222	11	深鉢 1号列石 口縁部破片	①細: 石黄・輝石 ②黄褐色	口唇部内凹。沈線で面された施文部と滑消部の交互 配列。おそらくJ字状意匠か。無紋Rを充填施文す る。	後期初葉 20と同一個体
第3850E PL.222	12	浅鉢 P-3 口縁部破片	①細: 石黄・雲母 ②鈍い赤褐色	口縁部内外面とも肥厚する。体部は内湾す。無文 で腹面調整を施す。	中期後葉
第3850E PL.222	13	深鉢 3号掘立 口縁部破片	①粗: 石黄・輝石 ②灰褐色	口縁部上に円形小突起を付す。以下弧状沈線を施 す。施文は深い。	後期初葉
第3850E PL.222	14	口縁部破片 1号列石 口縁部破片	①細: 石黄少 ②黒褐色	口縁部に増付突起を配す。突起以下に小突起を 付す。口縁部は横位隆線3条を設け、8字状縁付 文を重ねる。内外面とも丁寧な研磨を施し光沢を持 つ。	後期前葉新
第3850E PL.222	15	深鉢 1号列石 口縁～体部上半 破片	①細: 輝石 ②暗赤褐色	器厚薄手。小型のキヤリP-1状を呈する。口縁部に 2・3条の横位沈線を設け、体部は垂下沈線2条に よる懸垂文構成。地文は縦位・斜位L.R.を施す。	中期後葉古
第3850E PL.222	16	深鉢 2号埋塞 口縁部 1/4残 存 口: (34.0)	①粗: 石黄・輝石・雲母少 ②鈍い褐色	口唇部内面僅かに肥厚。無文の口縁部下に横位隆 線を設け、小突起を付す。体部は横位L.R.を充填 する。	中期末葉 2号埋塞
第3850E PL.222	17	深鉢 P-3 口縁部破片	①粗: 石黄 ②明赤褐色	口縁部縁やかに屈曲し幅狭に面す。凹縁を施す。	後期前葉
第3850E PL.222	18	深鉢 P-6 口縁部破片	①粗: 石黄・輝石 ②鈍い赤褐色	口唇部丸る。口縁部横位沈線1条を設け、弧状沈線 が分岐懸垂する。地文は縦位L.R.	中期末葉
第3850E PL.222	19	深鉢 3号掘立 体部中位破片	①粗: 石黄 ②褐色	2条の垂下沈線に面された幅狭滑消部懸垂文構成。 施文部はL.R.L.横位弧状施文。縦位弧状沈線が加 わる。	中期後葉古
第3850E PL.222	20	深鉢 1号列石 体部中位破片	①細: 輝石 ②鈍い褐色	沈線で面された滑消部J字状意匠下端。施文部は縦 位L.R.充填施文。	後期初葉 11と同一個体

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 調査番号	No	器種・部位・残存 出土位置(坑・高さ)	①胎色 ②土調	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第38540 PL-222	21	深鉢 1号列石	① 粗:石灰多 ② 鈍い褐色	口縁部外面肥厚。体部は隆線による溝文を配し下縁に垂下隆線を付す。口縁部下に横位沈線沈線を描し、以下弧状沈線を描く。	中期後葉信州系						
第38540 PL-222	22	深鉢 P-8	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色	沈線で画された施文部弧状沈線。J字状凹か、縦線文LRを充填する。	後期初期						
第38540 PL-222	23	深鉢 P-3	① 粗:輝石少 ② 鈍い赤褐色	縦沈線で画された施文部と磨消部。施文部はLRを充填する。	後期初期						
第38540 PL-222	24	深鉢 2号磨盤	① 粗:石灰 ② 鈍い褐色	大型の深鉢。体部中で隆線に互反し、下半に内湾を付たせる。縦位LRが顕著を窺う。	中期末葉						
第38640 PL-222	25	深鉢 P-3	① 粗:石灰・輝石 ② 鈍い赤褐色	垂下隆線2条による磨文構成。隆線による弧状沈線も配する。空白部は2条沈線による縦位沈線を施す。地文は縦位LR。	中期後葉古						
第38640 PL-222	26	深鉢 P-7	① 粗:輝石 ② 鈍い赤褐色	垂下隆線による磨文構成。側縁は強い撫で。地は無文。	後期初期						
第38640 PL-222	27	深鉢 1号列石	① 粗:輝石・雲母少 ② 褐色	垂下隆線2条に画された横位磨消部磨文構成。無筋LR位光填施文。	中期後葉新						
第38640 PL-222	28	深鉢 P-2	① 粗:輝石 ② 淡黄色	口縁部縁やかに内湾し無筋しを横位・斜位施文する。体部は5・6条の条線による縦位沈線が配される。波状文上縁は溝巻状とする。	中期後葉新 29と同一個体						
第38640 PL-222	29	深鉢 1号列石	① 粗:輝石 ② 淡黄色	5・6条の条線による縦位波状文が配される。波状文上縁は溝巻状とする。	中期後葉新						
第38640 PL-222	30	深鉢 3号磨立	① 粗:石灰少 ② 褐色	横位沈線を多段に交互斜交文を重ねる。	中期後葉古						
第38640 PL-222	31	深鉢 P-6	① 粗:石灰・輝石・雲母 ② 鈍い黄褐色	頸部隆線位は縦位沈線を描す。体部は交互の斜交文を加えた蛇行沈線が垂下する。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第38640 PL-222	32	深鉢 1号列石	① 粗:輝石多 ② 黒褐色	垂下沈線で画された磨消部磨文構成。施文部は縦位条線が施れる。波状沈線が加わる。磨消部は研磨を施す。	中期後葉新						
第38640 PL-222	33	深鉢 3号磨立	① 粗:石灰・雲母 ② 赤褐色	隆線による溝巻状沈線を配し、下部より隆線が顕著する。側縁は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第38640 PL-222	34	深鉢 3号磨立	① 粗:石灰 ② 褐色	隆線による口縁部凹文。区内には沈線を倒れとし斜位短沈線を充填する。体部は先細小溝文とした縦位沈線沈線を配す。斜位短沈線を配す。	中期後葉信州系						
第38640 PL-222	35	深鉢 P-4	① 粗:輝石多 ② 黒褐色	横位隆線で画された頸部の無筋部。隆線下部に側縁の沈線を描す。外側に隆線が顕著する。	中期後葉信州系						
第38640 PL-222	36	打製石斧 1号列石	① 粗:石灰・輝石 ② 鈍い褐色	頸部前面部を劈り前状肥子。上縁に隆線による溝巻文を配す。下位に凹線による弧状沈線を施す。側縁は凹形斜交文を上下に置き沈線を描く。	後期前葉						
第38640 PL-222	37	打製石斧 1号列石	① 粗:輝石少 ② 鈍い褐色	直線状に開く体部下。体部外面は無文で磨消部を施す。内面は撫で調整。底面側縁が残り、内面側縁が欠ける。外面はLRを施す。	後期						
第38640 PL-222	38	土製陶輪 2号磨盤	① 粗:石灰・輝石 ② 赤褐色	上端部は削り調整により比較的丁寧だが、下端部は凹凸を見る。外面はLRを施す。	後期初期か						
縄文遺物 調査番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第38640 PL-223	39	石鏃	1号列石	欠損	(2.9)	(1.4)	0.4	(0.9)	凹基無茎。縦身で挟りはV字状に深い。片側の端部が欠く。	黒曜石	
第38640 PL-223	40	石造	2号埋藏	欠損	(1.7)	(2.1)	0.5	(1.5)	石造の制作中断片か。	黒曜石	
第38640 PL-223	41	打製石斧	1号列石	完形	10.3	5.0	2.0	134	扇形。基部両側縁部に鋭い切り有す。	粗粒輝石安山岩	
第38640 PL-223	42	打製石斧	1号列石	完形	15.2	6.0	1.4	168	短扇形。薄手で両面に自然面。側縁中央部が僅かに狭くなる。刃部厚枚。	粗粒輝石安山岩	
第38740 PL-223	43	打製石斧	1号列石	完形	13.0	5.9	1.3	164	扇形。片面丸みを有す自然面大きく残す。	粗粒輝石普通輝石安山岩	
第38740 PL-223	44	打製石斧	1号列石	完形	10.9	4.6	1.3	83	扇形。作りは粗い。片面平分に自然面残る。	黒色安山岩	
第38740 PL-223	45	打製石斧	1号列石	欠損	(10.5)	5.0	1.9	(129)	扇形か。やや縦身の基部片と思われる。	黒色安山岩	
第38740 PL-223	46	打製石斧	ほぼ完形	(9.9)	4.7	1.5	(103)	扇形。やや小振りで刃部厚枚。	粗粒輝石普通輝石安山岩		
第38740 PL-223	47	打製石斧	1号列石	欠損	(9.8)	5.4	1.4	(133)	短扇形。やや扁平な基部片。	粗粒輝石安山岩	
第38740 PL-223	48	打製石斧	1号列石	欠損	(10.0)	5.8	1.8	(149)	短扇形。薄手で両面に自然面。基部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第38740 PL-223	49	打製石斧	P4	欠損	(9.4)	4.8	1.8	(84)	扇形。基部が薄く作られる。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	103号土坑
第38740 PL-223	50	打製石斧	10号土坑	完形	12.2	4.8	1.2	79	木の葉状を呈す。薄手で両面に自然面。	粗粒輝石安山岩	
第38740 PL-223	51	磯部	1号列石	完形	10.4	3.5	4.5	340	厚手の磯片で弧状に刃部を持つ。片面に自然面残る。	黒色安山岩	
第38740 PL-223	52	石核	1号列石	完形	13.7	8.3	4.1	662	一部に自然面残す石核。	黒色安山岩	
第38740 PL-223	53	スクレイパー	P9	完形	11.9	4.6	1.1	58	三角形の剥片利用。下辺部分に刃部付。	ガラス質安山岩	105号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第38706 PL-223	54	磨製石	10号土坑	欠損	(8.6)	5.9	2.4	(240)	幅広い刃部片。側縁の縁はほぼ直角に作り出され、表面が鋭磨される。	灰紋岩	
第38706 PL-223	55	砥石か	1号列石	完形	5.6	3.6	4.3	74	楕円で軟質の石材。砥石として使用か。	凝灰岩	
第38806 PL-223	56	石冠か	1号列石	完形	6.2	3.8	5.0	152	不定形で4面が平らで平滑。使用面か。石冠。磨刻あり。	灰紋岩	
第38806 PL-223	57	磨石	10号土坑	完形	11.0	7.8	4.6	640	扁平な円盤。両面使用面とし、平滑。端部に打痕。	石英閃緑岩	
第38806 PL-223	58	砥石	1号列石	完形	13.6	4.6	4.0	384	棒状機。側縁。端部に打痕見られる。	デイスait	
第38806 PL-223	59	磨石	10号土坑	完形	(10.6)	8.1	4.3	(540)	扁平な円盤。被熱によるものか。表面剥落。	デイスait	
第38806 PL-223	60	磨石	1号列石	完形	9.0	7.9	4.6	426	やや扁平な円盤。やや粗粒の石質。	粗粒輝石安山岩	
第38806 PL-223	61	磨石	1号列石	完形	8.9	7.4	4.4	370	やや扁平な縁を利用。両面使用か。粗粒の石質で磨らかさは見られない。	粗粒輝石安山岩	
第38806 PL-223	62	磨石	1号列石	欠損	(11.7)	6.6	5.7	(590)	やや扁平な長円盤。片側が比較的平らで浅い凹み穴が見られる。	粗粒輝石普通輝石安山岩	
第38806 PL-223	63	磨石	1号列石	完形	10.0	6.6	5.0	500	やや扁平な長円盤。片側が比較的平らで浅い凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第38806 PL-223	64	磨石	1号列石	完形	10.6	8.3	4.5	600	扁平な円盤。両面使用面か。僅かに打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第38806 PL-223	65	磨石	1号列石	ほぼ完形	11.1	10.3	6.4	1,000	やや大型の扁平機。粗粒で磨らかさは無い。	粗粒輝石安山岩	
第38906 PL-223	66	磨石	P-3	完形	10.3	9.1	4.7	570	扁平な円盤。両面使用面。被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	104号土坑
第38906 PL-223	67	磨石	10号土坑	完形	9.8	8.2	5.2	580	やや扁平な円盤。平滑な使用面は一面。端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第38906 PL-223	68	磨石	1号列石	完形	8.9	7.2	6.2	490	傘形の円盤。やや粗粒の石質で磨らかさは無い。	粗粒輝石安山岩	
第38906 PL-223	69	磨石	1号列石	完形	8.1	7.2	5.2	352	円盤利用。表裏面に浅い凹みをもつ。発泡質の石。	軽石	
第38906 PL-224	70	磨石	1号列石	欠損	(12.6)	(6.4)	4.5	(442)	やや扁平な形状を呈す。被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第38906 PL-224	71	砥石	1号列石	完形	12.1	7.7	2.1	324	扁平機。長方形を呈す。両面使用面か。	砂岩	
第38906 PL-224	72	石棒	1号列石	欠損	(9.1)	(6.3)	(2.9)	(264)	大型石棒の破片か。被熱。	緑色片岩	
第38906 PL-224	73	石皿	1号列石	欠損	(19.3)	(9.2)	6.2	(880)	石皿の縁辺部片。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第38906 PL-224	74	石皿	1号列石	完形	37.0	34.0	12.5	17,200	大型でハート形を呈す。使用面は浅く平らに作られている。	粗粒輝石安山岩	

95-4号掘立(第39106: PL-224)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第39106 PL-224	1	深鉢 P-1	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口唇部内面割り肥厚する。口縁部縦隆線と設計。体部は弧状沈線を配し、LRを施す。	中期末葉
第39106 PL-224	2	深鉢 P-2	① 粗: 輝石 ② 鈍い褐色	隆線による口縁部区画文様。区画内側縁は沈線。隆線短沈線を充填する。体部は縦位条線を施す。	中期後葉信州系
第39106 PL-224	3	深鉢 P-1	① 粗: 石英 ② 鈍い黄褐色	太い沈線による弧状底辺下縁部。無筋Rを施す。外面塚付着。	後期前葉
第39106 PL-224	4	深鉢 P-2	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	隆線による口縁部区画文様。沈線を側縁としLRを充填する。体部は卓上沈線と端を施す。	中期後葉新
第39106 PL-224	5	深鉢 P-1	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	2条沈線で画された横位施文。LRを充填する。	後期前葉
第39106 PL-224	6	深鉢 P-4	① 粗: 輝石 ② 明褐色	外反する体部中位。2条沈線による懸垂文様。地文は無筋R縦位・斜位施文。	中期後葉古 5・150住 -21 と同一類体
第39106 PL-224	7	深鉢 P-1	① 粗: 石英・輝石 ② 赤褐色	垂下隆線2条に画された磨消部懸垂文様。磨消部には磨消を加える。施文部はLRと無筋Rを縦位に充填する。	中期末葉
第39106 PL-224	8	深鉢 P-4	① 粗: 石英・輝石 ② 灰褐色	縦隆線と太い沈線による口縁部区画文様。体部は2条沈線に画された磨消部懸垂文様。施文部縦位は縦位LR。外面塚付着。	中期後葉新
第39106 PL-224	9	深鉢 P-2	① 粗: 石英多・輝石 ② 褐色	垂下隆線に画された磨消部懸垂文様。施文部は斜位短沈線を充填する。外面磨滅。	中期後葉信州系
第39106 PL-224	10	深鉢 P-2	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	沈線による弧状底辺。あるいは渦巻文か。無筋Rを施す。	後期前葉
第39106 PL-224	11	深鉢 P-1	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色	海子の器用。沈線で画された弧状底辺か。無筋Rを充填施文する。やや軟質。	後期前葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第3916 PL-224	12	石鏃	P 2	欠損	(L)3	(O)9	0.4	(O)4	先端部片、先は鋭く尖る。	輝綠石	109号土坑
第3916 PL-224	13	打製石 片	109号土坑	完形	9.8	4.5	1.1	64	扇形、やや小型で薄手の作り、片面に自然面見られ	黒色安山岩	
第3916 PL-224	14	打製石 片	P 1	欠損	(5.0)	4.3	1.8	(50)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	98号土坑

## 5-15号埋費(第3936図: PL-224)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考	
第3936 PL-224	1	深鉢 15号埋費	胎土	① 網: 白色粒少・角閃石安山岩 ② 赤褐色	沈線による横位連続、絶縁状態垂文。文様内には縄文LRを縦位充填施文。	中期後葉末
第3936 PL-224	2	深鉢 15号埋費	口縁破片	① 白色粒 ② 黒色(口縁・にぶい赤褐色)	口縁部内屈し無文、以下無節縄文しを横位、縦位に施文。	中期後葉新
第3936 PL-224	3	深鉢 15号埋費	口縁破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	口縁部内屈し無文、以下L.R.縄文施文後、沈線による逆U字状、平行垂下文飾。	中期後葉新

## 95-1号埋費(第3946図: PL-224)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第3946 PL-224	1	深鉢 1号埋費	残存	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	大型深鉢、頸部は隆線による区画文構成。胴部は沈線と刺突文、体部上中に渦巻文と横位隆線2条を設ける。5単位を取入る。体部は渦巻文下端より2条隆線が垂下し主分割線とする。中位の渦巻文で区画された縦位矢羽状沈線を充填する。副分割線は垂下隆線1条が突でられ、区画内は縦位隆線を充填し横位矢羽状沈線2・3条を多段に重ねる。縦位区画下端より2条隆線が懸垂する。	中期後葉信州系					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第3946 PL-224	2	石鏃	覆土	完形	2.9	1.9	0.5	2.4	凸基無茎、木の葉形を呈し先端部分は尖る。反りを持ち作りは粗い。	珪質安山岩 (淡灰黄緑色)	

## 95-3号埋費(第3946図: PL-225)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考	
第3946 PL-225	1	深鉢 3号埋費	口縁～体部中位 残存 口: 29.0	① 粗: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	口唇部内折、幅広い無文口縁部を設ける。頸部は内湾し反り状突起を4単位付し、隆線による椀形区画文を2帯配す。上位区画内は斜位隆線と斜位平行沈線による斜格子文が充てられ、下位区画区画内は刺突文を充填する。体部は反り状突起下端より垂下した2条隆線による半渦巻状意匠が配される。縦位間にちぎりを充填する。空白部は縦位沈線を施す。	中期後葉信州系

## 95-1号焼土(第3976図: PL-225)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第3976 PL-225	1	深鉢 覆土	底部欠損	口: 29.0	① 粗: 石英・雲母少 ② 鈍い赤褐色	大型深鉢、口縁部～体部上半一体化して内湾する。口縁部は無文、下位に押圧を加えた横位隆線を横位に配す。体部も無文で強く調整を施す。	後期初葉				
第3976 PL-225	2	深鉢 覆土	体部破片	① 網: 石英少 ② 鈍い赤褐色	内湾する体部、沈線で画された滑消部矢羽状意匠、LRを充填施文する。	後期初葉					
第3976 PL-225	3	深鉢 覆土	体部上半破片	① 粗: 石英・輝石 ② 褐色	横位隆線と横位沈線以下斜位沈線が併生する。充填施文は無く無文。	後期前葉					
第3976 PL-225	4	深鉢 覆土	体部破片	① 粗: 石英 ② 浅褐色	強い刺突文を疎りに施す。	後期前葉越後系					
第3976 PL-225	5	深鉢 覆土	底部	底: 7.0	① 粗: 輝石 ② 鈍い赤褐色	あるいは鉢底部小、器厚は薄手で体部下半は強く開く。無文で外面は研磨調整を施す。	後期前葉				
第3976 PL-225	6	蓋 覆土	上面 1/2欠損	① 粗: 輝石 ② 明褐色	底面・体部ともに扁平で、上面に楕円把手を付す。把手は3方角の設定を見た。上面及び把手部に放射状の刺突文を施す。底面は研磨調整を加え平滑である。	後期前葉					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第3976 PL-225	7	磨石	覆土	完形	10.9	7.5	5.0	670	やや扁平な自然礫利用平坦な両面使用し平滑。端部に打痕。	石英閃綠岩	
第3976 PL-225	8	磨石	覆土	完形	14.4	8.3	5.5	1,140	やや扁平な自然礫利用。使用面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第3976 PL-225	9	磨石	覆土	完形	11.3	9.4	5.4	880	やや扁平な自然礫利用。使用面平滑。端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-7号焼土(第397図: PL.225)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 種 の 特 徴 等	備 考
第397図 PL.225	1	深鉢 腹土 腰部下半1/3 残存	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色		2条隆線による懸垂文構成。施文部は数条単位の前縁縁部を縦位に施文する。	中期後葉古

95-10号焼土(第398図: PL.225)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 種 の 特 徴 等	備 考
第398図 PL.225	1	深鉢 腹土 口縁部～頸部破 片	①細:輝石 ②鈍い褐色		頸部口縁部を跨ぐ横位胎土。口文を縦位に準ゆる字状意匠を去す。肥子面下端より縦位隆線が横位に派生する。口唇部は横位沈線と凹形刺突文。頸部口縁部は沈線による楕円状凹文を配す。横位LRを充填する。	後期前葉新
第398図 PL.225	2	深鉢 腹土 腰部破片	①細:石英・輝石 ②褐色		沈線で画された弧状意匠。斜位LRを充填する。	後期前葉
第398図 PL.225	3	深鉢 腹土 腰部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色		縦位沈線と列点状刺突文の縦位密接施文。	後期前葉

95-11号焼土(第399図: PL.225)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 種 の 特 徴 等	備 考					
第399図 PL.225	1	深鉢 腹土 口縁部破片	①細:輝石 ②黒褐色		外反する波状突起。浅い横位沈線を施す。内面は研磨調整を施す。	中期末葉					
第399図 PL.225	2	深鉢 腹土 腰部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い黄褐色		横位沈線を多段に設ける。以下沈線による横位波状文を配す。鈍文は横位LR。横位沈線部は研磨を施す。	後期前葉新					
第399図 PL.225	3	深鉢 腹土 腰部破片	①粗:輝石 ②鈍い黄褐色		2条沈線による施文部懸垂文構成か。斜位・縦位列点状刺突文を充填する。	後期前葉					
第399図 PL.225	4	深鉢 腹土 口頸部破片	①細:輝石少 ②黒褐色		頸部外反部に隆線・突起による凹文を配す。隆線剥落。区内内は横線沈線で横位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第399図 PL.225	5	閉石	腹土	欠損	(7.0)	(7.0)	2.9	(1.22)	扁平な磯の両面に凹み穴を有す。端部には打痕。欠損品。	成統岩	

95-13号焼土(第398図: PL.225)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 種 の 特 徴 等	備 考
第398図 PL.225	1	深鉢 腹土 腰部破片	①細:石英・輝石 ②黒褐色		横位沈線以下沈線で画された幅狭帯部による弧状意匠。上反刺突文。	後期前葉
第398図 PL.225	2	深鉢 腹土 腰部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い褐色		薄手の器壁。隆線による舌状小突起。弧状沈線を施し斜位LRを充填する。	後期前葉

95-14号焼土(第398図: PL.226)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 種 の 特 徴 等	備 考					
第398図 PL.226	1	深鉢 腹土 口縁部破片	①細:石英 ②鈍い赤褐色		口縁部内凹。口唇部内面肥厚する。口唇部は横位。腰部は縦位LRを施す。	中期後葉					
第398図 PL.226	2	深鉢 腹土 口縁部破片	①細:石英・輝石 ②鈍い黄褐色		口縁部は無文。以下横位沈線を設ける。	後期前葉					
第398図 PL.226	3	深鉢 腹土 腰部破片	①粗:石英 ②鈍い褐色		垂下隆線による懸垂文構成。外面は研磨を施す。	中期末葉					
第398図 PL.226	4	深鉢 腹土 腰部上半破片	①粗:石英 ②褐色		横位隆線上位に大柄な刺突文が沿う。弧状隆線が派生し。斜位LRを充填する。	後期前葉					
第398図 PL.226	5	深鉢 腹土 腰部下半～底部 残:9片	①粗:石英 ②褐色		底部は直立気味で、腰部は緩やかに開く。無文で縦位・斜位帯り調整後換で調整を加える。内面腰部中に縦位胎土付着。	後期前葉～前葉					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第398図 PL.226	6	打製石 片	腹土	欠損	(7.2)	5.3	1.4	(81)	基部片と思われる。	細粒輝石火山岩	

95-15号焼土(第398図: PL.226)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 種 の 特 徴 等	備 考
第398図 PL.226	1	深鉢 腹土 腰部破片	①粗:石英 ②明褐色		低い垂下隆線による懸垂文構成。弱い縦位研磨を加える。	中期末葉
第398図 PL.226	2	深鉢 腹土 腰部破片	①粗:石英多 ②褐色		浅い押圧を加える垂下隆線による懸垂文構成。弱い縦位研磨調整を加える。	中期末葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-16号坑土(第398区: PL-226)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考					
第398区 PL-226	1	深鉢 腹土	口縁部破片	① 粗:石黄 ② 明赤褐色	無文で横状研磨を施す。	後期初頭~前葉					
第398区 PL-226	2	深鉢 腹土	体部上半破片	① 粗:石黄 ② 鈍い黄褐色	強い押圧を加えた横状隆線。連続状隆線。器厚は薄手。	後期前葉					
第398区 PL-226	3	深鉢 腹土	体部破片	① 粗:石黄 ② 黒褐色	沈線で画された施文部並文文。縦位LRを充填する。	後期初頭					
第398区 PL-226	4	深鉢 腹土	体部中位破片	① 粗:石黄 ② 鈍い黄褐色	沈線で画された施文部・磨消部による筋先・スベード状意匠が、施文部横文は横位LR充填施文。磨消部は研磨を加える。	後期初頭					
第398区 PL-226	5	深鉢 腹土	体部下半破片	① 粗:石黄 ② 鈍い黄褐色	沈線による分岐懸垂文下平か。	後期初頭					
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第398区 PL-226	6	磨石	腹土	完形	7.0	6.3	3.7	245	小型の扁平礫利用。両面使用し平滑。		粗粒輝石安山岩

95-17号砂(第400区: PL-226)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考					
第400区 PL-226	1	深鉢 腹土	体部中位1/5 残存	① 粗:輝石 ② 浅黄褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LRを充填し、縦位波状沈線を画する。	中期後葉新					
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第400区 PL-226	2	礫器	腹土	完形	14.6	10.4	5.0	1,050	大型の礫器。片面に自然面大きく残す。一辺に粗い另部を作出。		黒色安山岩

95-1号配石(第401区: PL-226)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考					
第401区 PL-226	1	浅鉢 腹土	口縁部破片	① 粗:石黄・輝石 ② 灰褐色	口唇部面を持ち内面突出する。直線的に開く体部。内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩類は内面に僅かに見える。	中期後葉					
第401区 PL-226	2	浅鉢 腹土	頸部破片	① 粗:石黄・輝石 ② 鈍い赤褐色	胴曲部に筋目を加える。口縁部は外気味で沈線による縦位S字状意匠下半を見る。赤彩類は見られない。	中期後葉					
第401区 PL-226	3	深鉢 腹土	底部 底:5.5	① 粗:石黄・輝石 ② 鈍い橙褐色	小型深鉢。器面磨製し然然としない。おそらく体部下平は無文で横で磨製か。	中期後葉					
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第401区 PL-226	4	多孔石	腹土	完形	21.3	17.4	9.2	4,400	大型の扁平な礫の両面に凹み穴を有す。熱然によるひび割れ顕著。		粗粒輝石安山岩

95-2号配石(第401区: PL-226)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考					
第401区 PL-226	1	深鉢 腹土	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 灰褐色	口縁部内訳。口唇部内縁も鋭い。口縁部は無文で頸部に横状隆線と8字状筋付文を付す。内外面研磨。	後期前葉新					
第401区 PL-226	2	深鉢 腹土	体部破片	① 粗:石黄・雲母 ② 明赤褐色	2条隆線が垂下する懸垂文構成。空白部は細かな縦位矢羽状沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第401区 PL-226	3	深鉢 腹土	体部下半破片	① 粗:石黄多・輝石 ② 鈍い橙褐色	強く開く体部下平。斜位LRを施す。外面磨付着。	中期後葉新					
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第401区 PL-226	4	磨石	腹土	完形	12.2	7.0	4.9	620	長円形の用原石利用。一部風化によるものか。穴が見られる。		石黄閃綠岩
第401区 PL-226	5	凹石	腹土	完形	8.8	9.3	6.1	530	不定形な自然角礫の両面にやや大きい凹み穴が見られる。		粗粒輝石安山岩
第401区 PL-226	6	磨石	腹土	完形	17.2	6.3	5.9	940	礫状礫利用。端部を打面とする磨石としても利用か。		粗粒輝石安山岩

95-99号土坑(第438区: PL-227)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考					
第438区 PL-227	1	深鉢 腹土	体部破片	① 粗:黒石黄粒 ② 黒褐色	縄文LR縦位施文施文。磨消懸垂部。内面研磨。	中期後葉新					
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第438区 PL-227	2	打製石 斧	腹土	欠損	(7.0)	4.1	1.0	(31)	薄手の基部片と見られる。両側縁に僅かに抉り見られる。		粗粒輝石安山岩

95-1120号土坑(第438区: PL-227)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第438区 PL-227	1	深鉢 腹土	口縁部破片	① 微細粒 ② 褐色	口縁部に横状隆線。	後期?

## 第3章 検出された遺構と遺物

## 5-1128号土坑(第438図: PL.227)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文種の特徴等	備考
第438図 PL.227	1	深鉢 腹土	器部破片	①石炭粒 ②灰黄褐色	縦位集合沈線。 中期後葉 縄文穴六

## 5-1129号土坑(第438図: PL.227)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文種の特徴等	備考
第438図 PL.227	1	深鉢 腹土	器部破片	①石炭粒少 ②にぶい赤褐色	底面に網代痕?。白色付着物。外面研磨。 後期前葉
第438図 PL.227	2	深鉢 腹土	器部破片	①石炭・長石・角閃石安山岩 ②赤褐色	底面に網代痕。白色付着物。 後期前葉?

## 5-1130号土坑(第438図: PL.227)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文種の特徴等	備考
第438図 PL.227	1	深鉢 腹土	口縁部破片	①石炭粒、白色粒少 ②にぶい黄褐色・灰白色	口縁部内傾。横位沈線。初み有す縁部起る。以下、沈線による三角意匠の磨消文様。LR横位施文。 後期前新葉 2と同一個体
第438図 PL.227	2	深鉢 腹土	口縁部破片	①石炭粒、白色粒少 ②にぶい黄褐色・灰白色	口縁部内傾。横位沈線。初み有す縁部起る。以下、沈線による三角意匠の磨消文様。LR横位施文。 後期前新葉
第438図 PL.227	3	深鉢 腹土	口縁部破片	①石炭、角閃石安山岩 ②黄褐色・灰黄褐色	口縁部内傾し山状突起有す。突起には赤風文、左右に太沈線が延びる。赤風文から初み有す縁部起る。外面研磨面起る。窪付着。 後期前葉古
第438図 PL.227	4	深鉢 腹土	口縁部破片	①石炭、角閃石安山岩 ②黒褐色・灰黄褐色	口縁に太沈線が延び、沈下側が突起する。以下無文。外面研磨面起る。窪付着。 後期前葉古
第438図 PL.227	5	深鉢 腹土	体部破片	①石炭粒、白色粒少 ②にぶい黄褐色・灰白色	V字状の沈線文。中にはLR横位施文。 後期前新葉 1・2と同一個体
第438図 PL.227	6	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石・酸化粒 ②にぶい褐色	横文LR施文後。3本の沈線による磨消曲線文。外面研磨。 後期前葉古 7と同一個体
第438図 PL.227	7	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石・酸化粒 ②にぶい褐色	横文LR施文後。3本の沈線による磨消曲線文。外面研磨。 後期前葉古
第438図 PL.227	8	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石粒 ②褐色	上位に垂下沈線の下端部が見える。以下無文。外面縦方向の研磨面。 後期前葉
第438図 PL.227	9	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石粒 ②褐色	無文。外面縦位方向の研磨。 後期前葉 8と同一個体

## 5-1142号土坑(第438図: PL.227)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文種の特徴等	備考
第438図 PL.227	1	深鉢 腹土	体部破片2点	①石炭・長石粒多 ②にぶい赤褐色・暗褐色	口縁無文下位に3本の横位磨消線あり、これに接して沈線による懸垂文、間を縦位矢羽根状の沈線で見ゆる。 中期後葉
第438図 PL.227	2	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石粒多 ②にぶい赤褐色	2本隆線による懸垂文。地文には縦位矢羽根状沈線。 中期後葉
第438図 PL.227	3	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石粒 ②赤褐色	2本隆線による斜め懸垂文。縦位、斜位の沈線。 中期後葉
第438図 PL.227	4	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石・白色粒 ②にぶい赤褐色	斜位集合沈線上に斜位の隆線を斜格子状に貼り付ける。以下集合沈線文。 中期後葉古
第438図 PL.227	5	深鉢 腹土	脚台部	①粗:白色粒(大粒)・角閃石安山岩(少) ②暗赤褐色	上位に縦位集合沈線上に垂下隆線の下端部が見える。脚台部は器面無文で良く研磨されている。下部が開き、4方向に円孔を有するものと思われる。内面窪付着。 中期後葉

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第438図 PL.227	6	打製石 斧	腹土	欠損	7.4	5.2	2.0	104	片面に自然面。今や厚手の刃部付。	紫蘇輝石貫通輝石安山岩	
第438図 PL.227	7	磨石	腹土	完形	7.9	7.0	5.4	430	円縁。磨着な磨り面は見られず。側縁部に打痕。裏面凹状。		デザインサイト?

## 5-1151号土坑(第439図: PL.227)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文種の特徴等	備考						
第439図 PL.227	1	深鉢 腹土	口縁部破片	①石炭粒多 ②暗褐色	波状口縁。頂部部起厚。横位沈線相ら。以下横文LR横位施文。 中期後葉						
第439図 PL.227	2	深鉢 腹土	体部破片	①石炭・長石粒 ②明赤褐色	横赤文L縦位方向施文。 中期後葉古						
第439図 PL.227	3	土製円盤 磨石	完形	①石炭、角閃石安山岩 ②暗褐色	無文。外面研磨面。小型品。 中期後葉?						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第439図 PL.227	4	二次加工 片	腹土	完形	3.0	2.4	0.8	2.7	両面に弧状の刃部を有す割片。	黒曜石	
第439図 PL.227	5	石皿	腹土	欠損	(12.0)	(21.0)	(0.2)	(2.510)	両面に使用面を有す石皿の縁部破片。臍然。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

## 5-1152号土坑(第439図: PL.227)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第439図 PL.227	1	深鉢 甌土	口縁～体部破片 ①石莖粒・長石粒・白色粒 ②明赤褐色	無文で器内はやや薄手である。	後期前葉
第439図 PL.227	2	深鉢 甌土	口縁部破片 ①胎:石莖粒 ②にぶい黄褐色	口縁内側に凹線。無文で内外面研磨。保存者。	後期前葉
第439図 PL.227	3	深鉢 甌土	口縁部破片 ①石莖・長石・片岩粒 ②褐色	口縁内側に凹線。内外面無文。二次焼熟。	後期前葉

## 5-1154号土坑(第439図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第439図 PL.228	1	石核	甌土	完形	5.8	3.3	2.3	32.3	やや縦長の小石核。	黒曜石	

## 5-1172号土坑(第439図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第439図 PL.228	1	深鉢 甌土	体部破片 ①石莖・長石粒 ②褐色	沈積による磨消懸垂文。 裏面縦位施文。	中期後葉

## 5-1174号土坑(第439図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第439図 PL.228	1	深鉢 甌土	口縁部破片 ①胎:石莖・長石粒 ②暗赤褐色	口縁部横位隆線下に縦位区画の縄文懸垂文。 縄文LR縦位施文。	中期末葉

検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第439図 PL.228	2	石核	甌土	欠損	(L.9)	1.3	0.4	(0.6)	先端部片。破損面に産品見られる。	黒曜石	

## 5-1189号土坑(第439図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第439図 PL.228	1	スクレイパー	甌土	完形	2.2	1.6	0.8	2.1	弧状の刃部を有す。	黒曜石	

## 5-1190号土坑(第440図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第440図 PL.228	1	深鉢 甌土	体部破片 ①胎:石莖・長石粒 ②にぶい赤褐色	磨消懸垂文下部端か。研磨痕見える。器面割離。	中期後葉

## 5-1194号土坑(第440図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第440図 PL.228	1	深鉢 甌土	体部破片 ①長石粒・角閃石安山岩 ②明褐色	横位隆線。隆帯上は無文。	中期後葉
第440図 PL.228	2	深鉢 甌土	体部破片 ①石莖粒・雲母粒 ②暗赤褐色	隆線による懸垂文。縦位集合隆文。	中期後葉
第440図 PL.228	3	深鉢 甌土	体部破片 ①石莖粒・長石粒多 ②明赤褐色	然赤文L縦位方向施文。	中期後葉
第440図 PL.228	4	深鉢 甌土	体部破片 ①石莖粒・長石粒多 ②明褐色	然赤文L縦位方向施文。内面割離跡。	中期後葉
第440図 PL.228	5	深鉢 甌土	体部破片 ①石莖粒・長石粒多 ②明褐色	然赤文L縦位方向施文。	中期後葉
第440図 PL.228	6	深鉢 甌土	体部破片 ①石莖粒・長石粒多 ②明赤褐色	然赤文L縦位方向施文。	中期後葉
第440図 PL.228	7	深鉢 甌土	底部 高:(L.9) 底:9.2	無文底部片。内面研磨。	中期後葉

## 5-1195号土坑(第440図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第440図 PL.228	1	深鉢 甌土	口縁部破片 ①胎:石莖・長石粒 ②褐色	口縁部 内凹。横位隆線による磨消縄文。横位LR か。	中期後葉						
第440図 PL.228	2	深鉢 甌土	体部破片 ①胎:磨砂粒少 ②明赤褐色	体部下位片か。縄文LR縦位施文。	中期後葉						
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第440図 PL.228	3	磯石	甌土	完形	6.8	4.8	1.7	75	小扁平磯。側縁に打痕小。	安山岩	



### 第3章 検出された遺構と遺物

S-1200号土坑(第440図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	① 胎 土 ② 色 調	文 種 の 特 徴 等	備 考
第440図 PL.228	1	深鉢 甌土 口縁部破片	① 微砂粒 ② 暗褐色	内面する口縁部内側に隆起付され肥厚。外面無文で研ぎ、磨き付。	中期後葉
第440図 PL.228	2	深鉢 甌土 体部破片	① 石英・長石粒多 ② 明褐色	横位隆線。下位には沈線による垂文。曲線文か。	中期後葉
第440図 PL.228	3	深鉢 甌土 口縁部片	① 粗:白色粒多・石英多 ② 赤褐色	口縁部に大きく突起した楕円状把手が付く。楕円状は隆線状で飾られ、把手上面より1段高く突き出る。上面は三角を呈し、器内面に横位の凹窓、上部にも穴を有す。楕円状把手下部から、左右に分かれた隆線とこれに伴う沈線で弧状文様を構成。下和縁部は突出する。弧状文内には横位矢羽根状沈線文充填。	中期後葉

S-1203号土坑(第440図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	① 胎 土 ② 色 調	文 種 の 特 徴 等	備 考
第440図 PL.228	1	深鉢 甌土 体部破片	① 微砂粒 ② 暗赤褐色	縦線系文L.R.縦位施文。内外面磨付着。	中期後葉

S-1208号土坑(第440図: PL.228)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	① 胎 土 ② 色 調	文 種 の 特 徴 等	備 考						
第440図 PL.228	1	深鉢 甌土 口縁部破片	① 粗:白色粒・石英 ② 暗褐色	波状口縁。波頂部斜めに楕円突起が付く。円孔有り。以下体部には沈線による磨り消線文。L.R.縦文施文。	中期末葉						
第440図 PL.228	2	深鉢 甌土 口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② ぶい黄褐色	口縁部横位隆線下位に縦位区画の縄文垂文。区画上位縄文L.R.斜位方向。以下縦位方向施文。	中期末葉						
第440図 PL.228	3	深鉢 甌土 口縁部破片	① 石英粒・砂粒 ② 明赤褐色	口縁部に隆線による横位弧状文。弧状文内は縦位集合沈線で埋める。	中期後葉信州系						
第440図 PL.228	4	深鉢 甌土 体部破片	① 石英粒・長石粒・雲母粒 ② 褐色	沈線による縦位磨消縄文。縄文はL.R.縦位。	中期後葉						
第440図 PL.228	5	深鉢 甌土 体部破片	① 細:石英粒少 ② 暗褐色	沈線による幅広縦位磨消縄文。縄文はL.R.縦位。	中期後葉						
第440図 PL.228	6	深鉢 甌土 体部破片	① 石英・白色粒多 ② ぶい黄褐色	縦位集合垂文。二次焼熱。	中期後葉						
第440図 PL.228	7	深鉢 甌土 突起	① 細:白色粒多 ② 暗赤褐色	波頂部分に低位隆線による8字状文。上位には円孔有り。器面研磨。	後期初葉						
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第440図 PL.228	8	石磨	甌土	完形	2.2	1.6	0.5	0.8	凹基無基。挟りは凹く。やや厚みを有す。	那羅石	
第440図 PL.228	9	打磨石 斧	甌土	完形	8.0	5.5	1.5	73	扇形。短身で刃先に向かって薄く作られている。基部両側に小さく抉り。	黒色頁岩	

S-1209号土坑(第441図: PL.228・229)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	① 胎 土 ② 色 調	文 種 の 特 徴 等	備 考						
第441図 PL.228	1	深鉢 甌土 口縁～体部破片	① 石英・長石粒 ② 灰黄褐色	口縁部横位隆線帯で無文部を画す。以下隆線に接して逆し字状の磨消無文垂文。縄文L.R.縦位施文。縦位の懸垂文。縄文L.R.縦位施文。	中期末葉 1・2は同一個体						
第441図 PL.228	2	深鉢 甌土 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 灰黄褐色	無文口縁下に沈線による筋線状文を描く。縄文L.R.縦位施文。器面の風化顯著。	中期末葉						
第441図 PL.228	3	深鉢 甌土 口縁～体部破片 2点	① 石英粒・長石粒 ② 明黄褐色	口縁部肥厚。口唇部は薄くなる。縦位の沈線施文。横位隆線で区画文様構成が、隆線下位沈線による波状文か。	中期後葉信州系						
第441図 PL.228	4	深鉢 甌土 口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色	口縁部短く外縁。横位隆線逆り。これから2本隆線の懸垂文。縄文L.R.縦位施文。	中期後葉						
第441図 PL.229	6	深鉢 甌土 体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明黄褐色	沈線による筋線状文か。縄文L.R.縦位施文。器面の風化顯著。	中期後葉 3と同一個体						
第441図 PL.229	7	深鉢 甌土 体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 明赤褐色	隆線によるし字状懸垂文。中には斜位沈線文。	中期後葉信州系						
第441図 PL.229	8	底部 底:7.6	① 石英・長石粒 ② 褐色	底部片。接合部で割られる。底面、内面研磨。	後期前葉?						
第441図 PL.229	9	深鉢 甌土 底部破片	① 微石英粒 ② 赤褐色	浅鉢底部片。縄文L.R.横位施文。内面研磨。	後期前葉						
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第441図 PL.229	10	石皿	甌土	欠損	(15.5)	(11.9)	13.4	0.775	極めて厚手である。欠損品で器面に凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第441図 PL.229	11	石皿	甌土	欠損	(22.2)	(25.8)	6.7	(5.350)	使用面は大きく窪み使用による磨耗顯著。また裏面は平坦で平滑。	緑色片岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

S-1210号土坑(第441図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第441図 PL.229	1	深鉢 履土 体部破片	① 黒・石灰・角閃石安山岩 ② 褐色	LR 縄文縦文。	中期後葉

S-1211号土坑(第441図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第441図 PL.229	1	深鉢 履土 体部破片	① 石灰粒・長石粒・雲母粒 ② 暗褐色	履帯による渦巻き横門文構成。LR 施文。	中期後葉

S-1220号土坑(第441図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第441図 PL.229	1	深鉢 履土 口縁部破片	① 細:胎土精製 ② にぶい褐色	口縁部履帯による突起が付き、下位に円形文、渦巻き文様描く。	中期後葉

S-1223号土坑(第442図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第442図 PL.229	1	深鉢 履土 口縁部破片	① 細:石灰粒・長石粒・雲母粒 ② 暗赤褐色	履帯による渦巻き横門文構成。横門文内LR 縦施文。円形押印文有す。以下体部には浅い凹線により磨消懸垂文、蛇行文見られる。地文はLR 縦施文。器面研製。	中期後葉古						
第442図 PL.229	2	深鉢 履土 体部破片	① 粗:白色粒・角閃石安山岩 ② 黒褐色	口縁下に突出した履帯による円形文、渦巻き文構成。体部には沈線によって画した円形文を組み合わせた文様構成で、中にはLR 縄文を充填施文。	中期後葉						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	3	磨石	履土	完形	9.4	8.3	6.3	680	門畿利用。顕著な磨り面は見られ無いが端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	

S-1224号土坑(第442図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第442図 PL.229	1	深鉢 履土 口縁~底部 口:18.0 底:7.8	① 細:白色粒 ② 明褐色	口縁小波状を呈しその一つに変形が付くものと思われるが欠損している。口縁に沿って無文部設ける。体部文様は沈線により横位連続にV字状懸垂文(6単位)描き文様内には縄文LRを充填施文する。内面採付者。	中期末葉						
第442図 PL.229	2	深鉢 履土 口縁~底部3点 口:12.0 底:6.6	① 細:白色粒・石灰 ② 明黄褐色・にぶい黄褐色	口縁部は短く内屈。横位縦線より突起を有するのと思われるが欠損している。体部は沈線による逆V字状懸垂文(4単位)描く。文様内は無文で他は粗縄文LRを多方向施文。器面の風化顕著。	中期末葉						
第442図 PL.229	3	深鉢 履土 体部破片	① 細:石灰粒 ② 褐色	履帯による磨消懸垂文、U字状文様構成。LR 縄文施文。採付者。	中期後葉新						
第442図 PL.229	4	深鉢 履土 体部破片	① 石灰・長石粒 ② 褐色	縦位集合沈線。施文乱雑。	中期後葉						
第442図 PL.229	5	深鉢 履土 体部破片	① 石灰・長石粒 ② 黒褐色	縦位集合沈線。	中期後葉						
第442図 PL.229	6	深鉢 履土 体部~底部 底:9.8	① 石灰・長石粒 ② にぶい褐色	文様不明。器面摩滅。	中期後葉?						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	7	磯石	履土	完形	(7.7)	6.5	4.1	(309)	断面が丸みを持つ三角形を呈す特殊状。平坦部および端部に打痕。	石灰角閃岩	

S-1225号土坑(第442図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	1	石皿	履土	欠損	(22.8)	(18.9)	6.9	(3,325)	不定形で使用面は浅い。裏面には複数の凹み穴。上半部を欠損。	粗粒輝石安山岩	

S-1226号土坑(第442図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第442図 PL.229	1	深鉢 履土 口縁部破片	① 石灰粒・長石粒・雲母粒 ② 明褐色	口縁部内側厚帯。沈線で無文帯画し斜突文見られる。	後期初期						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第442図 PL.229	2	打製石斧	履土	欠損	12.2	4.8	2.1	141	短冊形。片面に自然面残る平坦面。基部を僅かに欠く。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 5-1227号土坑(第443図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第443図 PL.229	1	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖粒・白色粒 ②褐色	横位低隆帯。	中期後葉
第443図 PL.229	2	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖粒・雲母粒 ②褐色	沈線による磨消懸垂文。蛇行文取られる。地文位 の集合条線文。	中期後葉
第443図 PL.229	3	深鉢 甌土 腰部破片	①胎：石莖・微化粒 ②黄褐色	沈線による条線文。	中期後葉

#### 5-1228号土坑(第443図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第443図 PL.229	1	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・長石粒 ②黄褐色	斜み有す隆懸垂文。沈線による磨消文様を描く。 LR 縄文見られる。器面研磨。内面に厚付着。	後期初葉
第443図 PL.229	2	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・白色粒 ②褐色	沈線による磨消懸垂文。地文位RL 施文。	中期後葉
第443図 PL.229	3	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・瀬汐・白色粒 ②褐色	薄筋RL 縄文施文。	中期後葉

#### 5-1229号土坑(第443図: PL.229)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第443図 PL.229	1	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・白色粒 ②にぶい赤褐色	縦位の複数沈線。	中期後葉 2と同一個体
第443図 PL.229	2	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・白色粒 ②にぶい赤褐色	縦位の複数沈線。	中期後葉 1と同一個体

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第443図 PL.229	3	台石	甌土	定形	21.0	17.7	5.5	2.705	扁平な轆を利用。表面に平滑な使用面。	石莖閃緑岩	

#### 5-1230号土坑(第443図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第443図 PL.230	1	深鉢 甌土 口縁部破片	①石莖粒・長石粒 ②暗赤褐色	口縁部横位隆懸無文帯着す。隆線下位には沈線による 曲帯垂下文様。器面研磨。外面厚付着。	中期未葉
第443図 PL.230	2	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・長石粒少 ②にぶい赤褐色・褐色	隆帯突起し下位に凹線が殆い。文様区画が。無筋L 縄文施文。	中期未葉
第443図 PL.230	3	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・長石粒 ②黒褐色	横位隆帯下。RL 縦位施文。	中期後葉
第443図 PL.230	4	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖粒・白色粒 ②褐色・黄褐色	沈線よりS状。J字状の磨消懸垂文様。縄文部は 無筋Lを充填施文。	後期初葉 5・6は同一個体
第443図 PL.230	5	深鉢 甌土 腰部破片3点	①石莖粒・白色粒 ②褐色・黄褐色	沈線より磨消懸垂文様。縄文部は無筋Lを充填 施文。	後期初葉
第443図 PL.230	6	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖粒・白色粒 ②褐色・黄褐色	沈線よりS状。J字状の磨消懸垂文様。縄文部は 無筋Lを充填施文。	後期初葉
第443図 PL.230	7	深鉢 甌土 突起	①胎：白色粒 ②暗褐色	鉤鐘状突起。両面に沈線によるC状文。円形有 す。3方向に円孔。器面研磨。	後期前葉
第443図 PL.230	8	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖・長石粒 ②褐色	無筋L横位施文。施文が浅い。焼成堅固。	中期後葉

#### 5-1231号土坑(第443図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第443図 PL.230	1	深鉢 甌土 口縁部破片	①石莖粒・長石粒・雲母粒 ②赤褐色	波状口縁。沈線による曲帯文か。	中期後葉
第443図 PL.230	2	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖粒・長石粒 ②にぶい赤褐色	低隆帯による磨消文様を描く。器面研磨。	中期後葉

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第443図 PL.230	3	磨製石 斧	甌土	欠損	(9.9)	(5.2)	2.3	(248)	比較的厚手の定角式磨製石斧。研磨面は平滑。刃部は 欠く。	蛇紋岩	

#### 5-1232号土坑(第443図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第443図 PL.230	1	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖粒 ②にぶい褐色	沈線による磨消懸垂帯。縄文L 縦位施文。	中期後葉
第443図 PL.230	2	深鉢 甌土 腰部破片	①石莖粒 ②暗赤褐色	状文RL 縦位施文。内面研磨。	中期後葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

S-1234号土坑(第444図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(保土面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第444図 PL.230	1	深鉢 甌土	口縁～底部破片 ①粗:白色粒・小礫 ②暗褐色	波状口縁、口縁下垂れ文から繋がる隆帯で横溝 垂れ文を連続して掘出。横溝文内には斜位、矢羽根 状の沈線文を埋める。文様帯下部には隆帯垂下し 斜線沈線で文様を区画し、縦位矢羽根状の沈線文を 充填する。	中期後葉山形系
第444図 PL.230	2	深鉢 甌土	口縁～底部 ①粗:白色粒・角閃石安山岩 ②にぶい黄褐色	口縁部文様は隆帯による横溝垂れ文連続体。横 溝文内は縦位集合位で埋める。底部には二本縦線 による懸垂垂文および蛇行懸垂文。地文は縦位集合位 線全面施文。	中期後葉

S-1235号土坑(第444図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(保土面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第444図 PL.230	1	深鉢 甌土	底部破片 ①石英・白色粒小礫 ②棕色	内溝する。沈線による磨消曲線文様か。状況はLR 施文。	後期初頭						
第444図 PL.230	2	深鉢 甌土	底部破片 ①石英粒・長石粒少 ②棕色	体下部片。文様不鮮明。僅かに懸垂沈線の下部部 か。内面埋付着。	中期後半か						
第444図 PL.230	3	深鉢 甌土	底部破片 ①長石粒 ②にぶい赤褐色	沈線による磨消懸垂帯。縄文LR縦位施文か。	中期後半						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第444図 PL.230	4	打製石 斧	甌土	欠損	(8.7)	5.0	1.3	(76)	扇形、やや薄手の作りで刃部を欠く。		黒色頁岩

S-1236号土坑(第444図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(保土面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第444図 PL.230	1	深鉢 甌土	底部破片 ①石英・長石粒 ②棕色	沈線による磨消懸垂帯。縄文LR縦位施文。内面横 研磨。	中期後葉

S-1237号土坑(第445図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(保土面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第445図 PL.230	1	深鉢 甌土	底部破片 ①石英粒・長石粒 ②赤褐色	無文。器面研磨。	中期後葉						
第445図 PL.230	2	深鉢 甌土	底部破片 ①長石粒 ②棕色	無文底部片。	中期後葉						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第445図 PL.230	3	多孔石 甌土	甌土	完形	19.8	12.6	10.6	2.280	大型の円鏡。表面部に数個の凹み穴を有す。		細粒輝石安山岩

S-1238号土坑(第445図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(保土面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第445図 PL.230	1	深鉢 甌土	底部破片 ①石英粒 ②黒褐色	隆帯による渦巻き横溝文構成か、LR縦文縦位施文。	中期後葉						
第445図 PL.230	2	深鉢 甌土	底部破片 底:(8.0) ①長石粒 ②暗赤褐色	無文底部片。外面研磨。内面に埋付着。	中期後葉						
第445図 PL.230	3	深鉢 甌土	底部破片 ①石英粒・長石粒 ②にぶい褐色	上位に横位沈線見える。以下無文で器面研磨。	中期後葉						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第445図 PL.230	4	打製石 斧	甌土	欠損	11.2	5.1	1.4	105	扇形、刃部に丸く摩耗顯著。作りは雑で、基部部を欠 く。		細粒輝石安山岩

S-1239号土坑(第445図: PL.230)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(保土面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第445図 PL.230	1	深鉢 甌土	底部破片 ①石英粒・長石粒 ②にぶい赤褐色	底い隆帯により無文部と縄文部分ける。	中期後葉

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第445図 PL.230	2	打製石 斧	甌土	欠損	(4.3)	5.5	1.2	(47)	扇形、比較的薄手作り。基、刃部を欠く。		細粒輝石安山岩

S-1240号土坑(第445・446図: PL.231)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(保土面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第445図 PL.231	1	深鉢 甌土	底部 底:11.0 ①石英粒・白色粒 ②暗赤褐色	底部片。接合部で割れる。底面に網代肌。	後期前葉
第446図 PL.231	2	土質円盤 甌土	完形 ①石英・長石粒 ②棕色	底部片。器面施文。	不明

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	No.	器種	出土位置 残存 出土位置(床面高)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考	
第445図 PL.231	3	磨石	覆土	完形	11.2	9.3	7.4	1,116	大型門礎利用。使用面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第446図 PL.231	4	磨石	覆土	完形	12.7	8.1	4.5	705	やや扁平な礎利用。両面に浅い打痕状の凹みを有す。底部にも打痕。	安山岩	
第446図 PL.231	5	礎石	覆土	欠損 (11.0)	5.5	3.6	929	断面丸みを持った三角形の礎状遺構。対になった平坦面に打痕状の凹み。	安山岩		
第446図 PL.231	6	磨石	覆土	完形	10.6	5.8	3.6	367	扁平な長円錐。平滑な両面に浅い打痕。	粗粒輝石安山岩	
第446図 PL.231	7	石皿	覆土	欠損 (4.0)	(4.8)	4.2	(65)	L字型を見す側縁部片。縁は高く側面。底部は平らに成形される。	安山岩質砂岩		

#### 5-1241号土坑(第446図: PL.231)

検出番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 ② 色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第446図 PL.231	1	深鉢 魔土	口縁部破片	① 胎: 石英粒少 ② 胎色: 暗褐色	口縁部短く内凹。縁部短く隆帯帯る。以下三角意匠の磨消文様。LR 細縄文施文。器面研磨。	後期前葉
第446図 PL.231	2	深鉢 魔土	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色	口縁やや内湾。横位沈線送り以下以下縄文LRか。器面風化。	後期初葉
第446図 PL.231	3	注口土器 魔土	体部破片	① 胎: 白色粒・角閃石安山岩少 ② 胎色: 黄褐色	頸部から張り出した体部中位にかけ、低位隆帯による溝帯文。胎形文位を組み合わせた意匠文様帯。隆帯文間には沈線により気状文、胎形文様を横き。細縄文LRで埋める。また隆帯上にも縄文施文。器面良く研磨。	後期前葉新 3・4とは同一個体
第446図 PL.231	4	注口土器 魔土	体部破片	① 胎: 白色粒・角閃石安山岩少 ② 胎色: 黄褐色	沈線で磨消縄文文様。	後期初葉
第446図 PL.231	5	深鉢 魔土	体部破片	① 石英粒・長石粒多 ② 褐色	隆線で文様画す。縄文はLR。	中期後葉

#### 5-1242号土坑(第446・447図: PL.231)

検出番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 ② 色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第446図 PL.231	1	深鉢 魔土	口縁～体部 口: (25.4)	① 胎: 白色粒 ② 胎色: 黒褐色	口縁部に短く隆帯帯り8字状胎付文見られる。また口縁部内側に指による折り込み有り。体部には沈線による三角。溝帯意匠の磨消文様帯。縄文はLR。器面研磨。一部に僅付着。	後期前葉新
第446図 PL.231	2	深鉢 魔土	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 褐色	沈線による三角意匠文。	後期前葉
第446図 PL.231	3	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色	沈線による三角意匠の磨消文様。	後期前葉 3・5とは同一個体
第447図 PL.231	4	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 暗褐色	沈線による三角意匠の磨消文様。	後期前葉 3・4とは同一個体
第447図 PL.231	5	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	沈線による三角意匠の磨消文様。	後期前葉 3・4とは同一個体
第447図 PL.231	6	深鉢 魔土	体部破片	① 石英粒・長石粒多 ② 褐色	隆線による横門文か。	中期後葉
第447図 PL.231	7	深鉢 魔土	底部破片 底: 11.6	① 石英粒 ② 褐色	端部が張る胎形。外面の研磨痕顕著。内面。断面に縦。底面に網代痕。	後期前葉
第447図 PL.231	8	深鉢 魔土	底部破片	① 長石粒 ② 褐色	鉢の底部片。無文で内外面研磨。内面黒色。	後期前葉
第447図 PL.231	9	深鉢 魔土	体部～底部 高: (9.8) 底: 9.8	① 長石・石英粒 ② 褐色	無文。外面研磨。底面に網代痕残り。外周を研磨。	後期前葉

#### 5-1243号土坑(第447図: PL.231)

検出番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 ② 色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第447図 PL.231	1	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	突起した横位隆帯文様構成。網代文見られる。	中期後葉
第447図 PL.231	2	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	垂下隆線。縦位LR縄文。	中期後葉

#### 5-1247号土坑(第447図: PL.231)

検出番号 図版番号	No.	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 ② 色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第447図 PL.231	1	深鉢 魔土	口縁部破片	① 石英・長石粒・角閃石安山岩 ② 明褐色	波状口縁。口縁部に沿って隆帯。	後期初葉
第447図 PL.231	2	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 黄褐色	無部L横位施文。施文が浅い。他成型痕。外面僅付着。	中期後葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

5-1248号土坑(第447図: PL.231)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文 様 の 特 徴 等	備 考				
第447図 PL.231	1	深鉢 腹土	口縁部破片	① 粗:褐色粒・小糠多 ② 黒色		隆帯による渦巻き横文構成。	中期後葉				
第447図 PL.231	2	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 褐色		縦位置集合線施文後、沈帯による渦巻き文。曲線文 横く。	中期後葉				
検出番号 図表番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第447図 PL.231	3	打製石 斧	腹土	完形	11.7	5.7	1.7	156	片側側面から刃部部分に自然面、粗い作りで鋭利さは 見られず。		粗粒輝石安山岩
第447図 PL.231	4	磨石	腹土	完形	11.0	5.5	4.1	397	長円鏡、側面、端部に若干の打痕。		粗粒輝石安山岩

5-1251号土坑(第447図: PL.231)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文 様 の 特 徴 等	備 考
第447図 PL.231	1	深鉢 腹土	口縁部破片	① 石英粒・長石粒多 ② ぶい黄褐色		口縁部内屈し小波状を呈し、胎付文7か。縄文 R1 全面に施文。口縁端部に保存着。	前期末葉
第447図 PL.231	2	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石 ② 暗褐色		L.R 横位全面施文。	前期後葉
第447図 PL.231	3	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石 ② 赤褐色		別み有す隆帯で蛇行懸垂文。	前期末葉

5-1253号土坑(第447図: PL.231)

検出番号 図表番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第447図 PL.231	1	打製石 斧	腹土	欠損	(7.0)	4.6	2.0	(69)	端部が肥厚した基部片。	安山岩	

5-1256号土坑(第447図: PL.231)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文 様 の 特 徴 等	備 考
第447図 PL.231	1	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色		隆帯による平行懸垂文。斜位の集合沈帯。	中期後葉

5-1257号土坑(第447図: PL.232)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文 様 の 特 徴 等	備 考
第447図 PL.232	1	深鉢 腹土	体部破片	① 細:石英粒 ② 明黄褐色		隆帯による横円区横文。縄文 L.R 施文。	中期後葉
第447図 PL.232	2	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色		縄文 L.R 施文。	中期後葉

5-1259号土坑(第448図: PL.232)

検出番号 図表番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第448図 PL.232	1	磨石	腹土	完形	11.2	8.4	5.8	781	やや扁平な円鏡、縦面使用か。		粗粒輝石安山岩
第448図 PL.232	2	磨石	腹土	ほぼ 完形	7.6	7.1	6.0	368	被熱によるひび割れ見られる。一部欠く。		粗粒輝石安山岩
第448図 PL.232	3	磯器	腹土	完形	11.4	7.1	4.9	529	顕著な使用痕は見られず。		粗粒輝石安山岩

5-1271号土坑(第448図: PL.232)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文 様 の 特 徴 等	備 考
第448図 PL.232	1	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色		隆帯区画内に縦位置集合沈帯。	中期後葉

5-28号土坑(第449図: PL.232)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文 様 の 特 徴 等	備 考
第449図 PL.232	1	深鉢 腹土	口縁～肩部1 4 残存 口: (32.0)	① 細:輝石 ② 鈍い黄褐色		取報告資料に適合。口唇部に横位沈帯を設ける。頸 部に横位沈帯2条を配し、沈帯間に斜交文を充填す る。体部は横位 L.R を施す。	後期前葉新 433集118図2
第449図 PL.232	2	深鉢	体部中位破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色		2条隆帯による縦位置連続状懸垂文。側縁沈帯は波状 意匠へ変化する。縦位 L.R を施す。	中期後葉古

5-93号土坑(第449図: PL.232)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎土 ② 色			文 様 の 特 徴 等	備 考
第449図 PL.232	1	深鉢 腹土	口縁部突起片	① 粗:石英・褐色粒 ② 鈍い褐色		波状突起。内面肥厚。外面は沈帯による渦巻文を配 す。	後期前葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(東面高)	①胎土 ②色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第44904 PL_232	2	深鉢 出土位置(東面高) 体部上半破片	① 紺・石黄・輝石多 ② 黒褐色		沈線で画された施文部区画構成。三角形区画小。 横位LRを充填する。	後期前葉新					
検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第44904 PL_232	3	多孔石	覆土	完形	28.7	17.7	16.9	7,700	大型の自然産。両面にやや浅い凹み穴有すが数は少ない。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-102号土坑(第449図: PL\_232)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(東面高)	①胎土 ②色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第44904 PL_232	1	深鉢 覆土	① 紺・石黄 ② 鈍い褐色		薄手の波状突起。外面は隆線による渦巻文を配す。 内面も沈線による渦巻文を施す。	中期後葉新					
第44904 PL_232	2	深鉢 覆土	① 紺・石黄 ② 浅灰色		小波状突起。幅狭口縁部に内文を配し横位沈線と弧線 を施す。凹部部下より横位・縦位沈線を施す。	後期前葉					
第44904 PL_232	3	深鉢 覆土	① 紺・石黄・輝石 ② 黒褐色		口縁部区画文か。側縁沈線で横位LRを充填する。	中期後葉新					
第44904 PL_232	4	深鉢 覆土	① 紺・石黄・輝石 ② 黒褐色		隆線による渦巻文を配し下端より2条隆線が懸垂す。 渦巻文上位に孔を設ける。口縁部は区画文構成か。	中期後葉古州系					
第44904 PL_232	5	深鉢 覆土	① 紺・石黄・輝石 ② 褐色		垂下沈線2条に画された施文部懸垂文構成。逆U字 状意匠も配される。上半はU字状意匠や縦位S字状 意匠か。縦位LR充填施文。	中期後葉新					
第44904 PL_232	6	深鉢 覆土	① 紺・輝石 ② 黒褐色		2条の横位沈線間を刺突文が施される。体部は沈線 による弧線文・渦巻文上端を見る。	中期後葉古					
第44904 PL_232	7	深鉢 覆土	① 紺・輝石 ② 鈍い黄褐色		小刺突文が縦列横位に施される。他は無文。	後期前葉					
第44904 PL_232	8	深鉢 覆土	① 紺・石黄・輝石 ② 鈍い褐色		4・5条単位の条線を斜位に対向状に充填する。	中期後葉新					
検出番号 図説番号	No	部種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第44904 PL_232	9	磨石	覆土	完形	15.7	8.2	5.8	1,230	長円鏡利用。表面やや粗く、両端部に打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第44904 PL_232	10	磨石	覆土	完形	8.5	7.4	5.1	490	円鏡利用。片面にやや丸みを持つ。使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	

#### 95-106号土坑(第449図: PL\_232)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(東面高)	①胎土 ②色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第44904 PL_232	1	深鉢 覆土	① 紺・輝石 ② 鈍い褐色		口唇部内面肥厚。口唇部隆線以下2条隆線による渦 巻文を配す。側縁は沈線及び横位・斜位LRを充填 する。	中期後葉新

#### 95-107号土坑(第449図: PL\_232)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(東面高)	①胎土 ②色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第44904 PL_232	1	深鉢 覆土	① 紺・石黄 ② 黒褐色		頭部隆線か。上位は区画文で斜位短沈線を充填す る。下位は無文。	中期後葉古州系

#### 95-108号土坑(第449・450図: PL\_232)

検出番号 図説番号	No	部種・部位・残存 出土位置(東面高)	①胎土 ②色	土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第44904 PL_232	1	深鉢 覆土	① 紺・輝石 ② 黒褐色		隆線による口縁部区画文構成。側縁は沈線で横位 LRを充填する。	中期後葉新
第44904 PL_232	2	深鉢 覆土	① 紺・石黄 ② 暗赤褐色		低位隆線による口縁部渦巻文構成。側縁は沈線で、 渦巻文内に乱雑な短沈線の充填を見る。	中期後葉古州系
第44904 PL_232	3	深鉢 覆土	① 紺・石黄・輝石 ② 鈍い赤褐色		口唇部下に粗広の沈線を設ける。おそらく口縁部区 画文。縦位LRを充填する。	中期後葉新
第44904 PL_232	4	深鉢 覆土	① 紺・石黄少 ② 黒褐色		口唇部より派生する弧状隆線。非対称であり別種 群を配す。弧状意匠と渦巻意匠併小。	中期後葉
第44904 PL_232	5	深鉢 覆土	① 紺・石黄・雲母 ② 鈍い赤褐色		口唇部に横位沈線2条を設ける。以下密接した縦位 条線を施す。	中期後葉新
第44904 PL_232	6	深鉢 覆土	① 紺・輝石・雲母多 ② 黒褐色		内面沈線による懸垂文と弧状意匠。施文は深い。地 文は横位LR。	中期後葉古
第44904 PL_232	7	深鉢 覆土	① 紺・輝石 ② 鈍い赤褐色		垂下沈線2条に画された幅狭帯状部による懸垂文構 成。無筋1条縦位に施し垂下沈線と縦位波状沈線を 加える。	中期後葉古
第44904 PL_232	8	深鉢 覆土	① 紺・石黄多・輝石 ② 鈍い褐色		隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側縁は沈 線。区内は縦位LR充填。体部は2条沈線に画さ れた施文部懸垂文構成。縦位LRを充填する。	中期後葉新
第45004 PL_232	9	深鉢 覆土	① 紺・輝石 ② 褐色		積状隆線による懸垂文構成。沈線による区画文意 匠・弧状意匠が配る。施文部が見えない。	後期前葉
第45004 PL_232	10	深鉢 覆土	① 紺・石黄・輝石 ② 褐色		低位隆線による渦巻意匠と弧状区画小。側縁は沈 線。	中期後葉新
第45004 PL_232	11	深鉢 覆土	① 紺・輝石 ② 黒褐色		隆線による口縁部区画文。区内には無文で横位無 調整を施す。	中期後葉新

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出面)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45004 PL_232	12	深鉢 腹土	① 胎土少 ② 鈍い黄褐色	2条の沈線に画された磨消部弧状意匠。施文部縦文は縦位1.R.充填施文。	後期初頭
第45006 PL_232	13	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 鈍い黄褐色	内湾意味に開く体部下半。横位沈線の一部を見る。	後期初頭

## 95-111号土坑(第45004回:PL\_232)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出面)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45004 PL_232	1	深鉢 腹土	① 胎土・雲母 ② 鈍い赤褐色	2条の沈線による懸垂文構成。空白部は縦位条施施文後横位沈線2条を重ねる。隣接部磨消が多い。内面体部中位が加熱ため器割れ。復付。	中期後葉信州系

## 95-112号土坑(第45004回:PL\_232)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出面)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45004 PL_232	1	深鉢 腹土	① 胎土 ② 黄褐色	無文の口縁部。破片下端に横位沈線を見る。	後期初頭か
第45004 PL_232	2	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 褐色	口唇部外面突出し腹面に面を持つ。横位沈線を設ける。突起を付すか。	後期初頭か
第45004 PL_232	3	鉢 腹土	① 胎土 ② 鈍い褐色	口縁部隆線を設け、隆線による弧状意匠を付す。体部は弧状・渦巻状意匠を配す。薄手で内面研磨。	中期後葉
第45004 PL_232	4	深鉢 腹土	① 胎土・雲母少 ② 鈍い褐色	2条隆線による懸垂文構成。横位隆線を発生する。区内には沈線を倒れとし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第45004 PL_232	5	深鉢 腹土	① 胎土 ② 黒褐色	2条沈線による弧状意匠。やや乱雑な施文。薄手の器層を呈す。	後期初頭

## 95-113号土坑(第45004回:PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出面)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45004 PL_233	1	深鉢 腹土	① 胎土・輝石・雲母 ② 鈍い赤褐色	口縁部は緩やかに内湾し、口唇部内面強い内湾を持つ。口縁部外面は肥厚し無文。以下横位沈線を設け、口縁部外面による懸垂文構成を呈す。垂下沈線は2条の例と3条あり、4単位配置であるが、1単位欠落する。地文は縦位・斜位1.R.体部下半は撫で調整が重なる。	中期後葉古
第45004 PL_233	2	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 黄褐色	隆線による横長の口縁部区画文か。縦位区画線を見ない。頸部隆線傾斜は短足の凹線。体部は2条沈線に画された縦位条施施文による懸垂文構成。磨消調整のみの磨消部も見られる。縄文は口縁部・体部とも斜位1.R.充填施文。	中期後葉新
第45004 PL_233	3	深鉢 腹土	① 胎土・輝石・雲母 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。隆線による口縁部区画構成。区内内面には沈線で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第45004 PL_233	4	深鉢 腹土	① 胎土・輝石・雲母 ② 鈍い褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成か。沈線を倒れとし斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第45004 PL_233	5	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 鈍い褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成か。斜位短沈線・魚鱗状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第45004 PL_233	6	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 褐色	横位隆線より垂下隆線する2条隆線下端で区画化する。区内内には縦位矢羽状短沈線を充填する。空白部は斜位短沈線の対向施文による充填文。横位隆線上下に区画文を配するか。	中期後葉信州系

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第45004 PL_233	7	磨石	腹土	定形	11.0	7.5	5.2	600	やや扁平な長円錐。使用面は平面。	粗粒輝石安山岩	

## 95-114号土坑(第45104回:PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出面)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45104 PL_233	1	深鉢 腹土	① 胎土 ② 鈍い赤褐色	横位隆線に斜位を加える。倒れは沈線。以下体部は弧状沈線内縁を1.R.が充填される。内面磨削痕。	後期初頭
第45104 PL_233	2	深鉢 腹土	① 胎土 ② 明赤褐色	垂下沈線と磨消部を見る。懸垂文構成か。縦位1.R.充填施文。	中期後葉古
第45104 PL_233	3	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 明赤褐色	隆線による口縁部区画文下端。沈線を倒れとし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第45104 PL_233	4	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 鈍い褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。倒れは沈線。斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第45104 PL_233	5	深鉢 腹土	① 胎土 ② 黒褐色	隆線による渦巻文と弧状区画か。倒れは撫で、1.R.を施す。外面丁寧に研磨を施す。	中期後葉東北系
第45104 PL_233	6	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 灰褐色	斜位隆線を配す。空白部は斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系

## 95-115号土坑(第45104回:PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採出面)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45104 PL_233	1	深鉢 腹土	① 胎土・輝石 ② 黒褐色	口唇部内面突出し外面は無文で大きく開く。内外面とも強い研磨を施す。	中期後葉信州系



### 第3章 検出された遺構と遺物

95-117号土坑(第451図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考	
第45106 PL_233	1	深鉢 覆土	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	幅広い沈線に面された施文部逆U字状懸垂文。磨消部は研磨。施文部は縦位RLを充填する。	中期後葉新

95-118号土坑(第451図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考	
第45106 PL_233	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	隆線による口縁部区画文構成か。沈線を細線とし縦位条線を充填する。体部は2条沈線で面された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位条線を施す。	中期後葉新 2は同一個体
第45106	2	深鉢 覆土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②灰褐色	2条沈線で面された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位条線を施す。	中期後葉新

95-119号土坑(第451図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考	
第45106 PL_233	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗:石英・輝石少 ②褐色	隆線による口縁部区画文。側縁は沈線で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

95-121号土坑(第451図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第45106 PL_233	1	深鉢 覆土	体部破片	①粗:石英・雲母 ②明赤褐色	隆線割取部所有り。隆線による渦巻文と垂下隆線による懸垂文構成。角縁状短沈線と縦位沈線を施す。破片下部部研磨を加える。	中期後葉信州系					
第45106 PL_233	2	打製石 斧	覆土	完形	10.5	4.7	1.5	92	短冊形か、刃部はやや斜めで作りは粗い。	黒色頁岩	備考

95-122号土坑(第451図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第45106 PL_233	1	深鉢 覆土	体部破片	①細:輝石 ②褐色	内湾する体部。沈線による渦巻文を見る。端部は施い施文。地文は縦位LR。	中期後葉					
第45106 PL_233	2	深鉢 覆土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	無筋L縦位施文。	中期後葉					
第45106 PL_233	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第45106 PL_233	3	磨石	覆土	完形	10.8	8.0	4.9	630	扁平な円筒利用、両面使用面とし、中央に浅い打痕有り。	粗粒輝石安山岩	

95-123号土坑(第451図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第45106 PL_233	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗:石英 ②鈍い褐色	無文の口縁部。内外面側で調整を施す。	中期後葉					
第45106 PL_233	2	深鉢 覆土	頸部破片	①粗:石英・褐色粒 ②鈍い褐色	横位沈線以下体部上半は縦向きに。数条単位で条線を縦位・斜位密施文する。	中期後葉新					
第45106 PL_233	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第45106 PL_233	3	打製石 斧	覆土	欠損	(5.2)	4.3	1.0	(34)	刃部片。刃先は不定形。	黒色頁岩	

95-124号土坑(第451図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第45106 PL_233	1	深鉢 覆土	体部上半破片	①細:輝石 ②鈍い褐色	沈線で面された施文部意匠文。横位・斜位LRを充填する。内面保持付。	後期前葉新					
第45106 PL_233	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第45106 PL_233	2	磨石	覆土	完形	10.0	8.0	4.7	458	扁平な円筒。両面使用。	粗粒輝石安山岩	
第45106 PL_233	3	石皿	覆土	欠損	(10.6)	(12.0)	(6.1)	(1,030)	小破片。縁部分も欠損。裏面は比較的平ら。	粗粒輝石安山岩	

95-126号土坑(第452図: PL\_233)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考	
第45206 PL_233	1	深鉢 覆土	頸部破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	外反する頸部。2条の隆線が垂下する。他は無文。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第452図 PL.232	1	深鉢 腹土	①粗:輝石・褐色粒 ②鈍い褐色	体部下半は無文。底面に網代模残る。	後期

## 95-127号土坑(第452図:PL.232)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第452図 PL.233	1	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石 ②褐色	緩やかに外反する無文の体部。弱い旗で調整を施す。	後期前葉

## 95-129号土坑(第452図:PL.233)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第452図 PL.233	1	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石 ②褐色	波状線か、口縁部隆線を設け以下無筋しを縦文・斜文施す。	中期中葉末
第452図 PL.233	2	深鉢 腹土	①細:石英・輝石 ②鈍い褐色	垂下沈線で面された施文部と磨消部の懸垂文構成。縦文LRを充填する。	中期後葉新
第452図 PL.233	3	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	緩やかに内湾する体部下半か。無筋しが縦文施文される。	中期中葉末

検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第452図 PL.233	4	打製石 斧	腹土	定形	11.4	4.3	1.7	96	細身の磨石。刃部が薄くなる。		細粒輝石安山岩
第452図 PL.233	5	打製石 斧	腹土	欠損	(6.3)	5.6	1.2	(65)	刃部片。薄手の円刃。		黒色安山岩

## 95-130号土坑(第452図:PL.234)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第452図 PL.234	1	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石・雲母少 ②黒褐色	曲線無文。外反沈線と縦線による口縁部重痕状直筋。口縁部内面内縁が突出する。	中期中葉末
第452図 PL.234	2	深鉢 腹土	①粗:石英・雲母 ②褐色	頸部に横線隆線2条を設ける。体部は斜文沈線を施す。	中期後葉信州系
第452図 PL.234	3	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石 ②褐色	縦文矢羽状沈線。施文は深い。	中期後葉信州系
第452図 PL.234	4	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石 ②明褐色	内皮沈線による縦文密接条線。	中期後葉新

検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第452図 PL.234	5	石棒小	S-1	欠損	(4.2)	(5.2)	(2.8)	(56)	石棒または石製の破片と思われる。		緑色片岩

## 95-131号土坑(第452・453図:PL.234)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第452図 PL.234	1	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石 ②明黄褐色	頸部前部部を跨ぐ横状肥子。4単位構成。8字状直筋を配し上下孔とも貫孔する。体部上半に横状隆線を設け体部は2条沈線に面された無文部と磨消部による調整文を配す。施文部は無筋し光順無文。内面に黒色の吹き溜り状の付着物を見る。	後期前葉
第452図 PL.234	2	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石 ②褐色	無文の口縁部以下体部上半に横状隆線を設け、円形貼付文を加える。貼付文下部より縦文弧状隆線が派生し、波状前部部にも円形貼付文を付す。他は無文。細厚薄子。	後期前葉
第452図 PL.234	3	深鉢 腹土	①粗:石英・雲母少 ②鈍い黄褐色	やや幅広い無文口縁部。以下に横状隆線を設け、円形貼付文を付す。貼付文下部より縦文弧状隆線が派生する。	後期前葉
第452図 PL.234	4	深鉢 腹土	①粗:石英 ②黒褐色	無文の口縁部以下横状隆線を設ける。口縁部外面弱い研磨調整を加える。	後期前葉
第452図 PL.234	5	深鉢 腹土	①細:石英少 ②鈍い黄褐色	細厚薄子。無文の体部。内外面とも旗で調整に止まる。外面に覆着する。	後期前葉
第453図 PL.234	6	深鉢 腹土	①粗:石英・輝石・雲母少 ②褐色	無文の体部。外面に弱い研磨調整を加える。内面縦文付着。	後期前葉
第453図 PL.234	7	土製円盤 腹土	①粗:石英 ②黒褐色	深鉢体部破片を利用。沈線による縦線文。LRを充填。同線は研磨調整で丁寧な整形する。	後期前葉

検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第453図 PL.234	8	打製石 斧	腹土	定形	10.5	4.3	1.4	65	磨石。やや小型で刃部摩耗。		黒色安山岩
第453図 PL.234	9	磨石	腹土	定形	12.4	7.8	5.0	770	扁平な楕円形の用磨石。両面より一面に1対の浅い凹み穴を有する。		粗粒輝石安山岩
第453図 PL.234	10	多孔石	腹土	定形	24.2	16.6	13.4	3,300	大型の長円形の両面に複数の凹み穴が集中して穿たれる。蒸熟。		粗粒輝石安山岩

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-133号土坑(第453図:PL.234)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第45306 PL.234	1	深鉢 甌土 底面 底:5.0	①粗:石黄 ②鈍い赤褐色	小型深鉢, 垂下隆縁と裾部を見る。5単位か。空白部は斜位短気流線を充填する。	中期後葉信州系

95-136号土坑(第453図:PL.234)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考						
第45306 PL.234	1	深鉢 甌土 口縁部破片	①鈍:石黄 ②鈍い淡褐色	無文の口縁部以下埋没位置を設ける。	後期初葉						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第45306 PL.234	2	磨石	甌土	完形	14.6	5.5	4.2	845	扁平で長方形を呈す。両面を磨り面として使用か。	安山岩	

95-137号土坑(第453図:PL.234)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第45306 PL.234	1	深鉢 甌土 体部破片	①粗:石黄・雲母 ②黒褐色	2条隆縁による弧状意匠。沈降を倒縁とし斜位短気流線を加す。	中期後葉信州系
第45306 PL.234	2	深鉢 甌土 体部下半	①粗:石黄 ②鈍い褐色	大型深鉢, 強く凹く体部下半。縦位・斜位Lを施す。内面丁寧な研磨を加え平滑。	中期前葉か
第45306 PL.234	3	深鉢 甌土 口縁部破片	①粗:石黄・輝石 ②黒褐色	横位隆縁を設け, 体部は無文。内面上半に弱い研磨調整を加える。	後期初葉

95-138号土坑(第454図:PL.234)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第45406 PL.234	1	深鉢 甌土 体部中心破片	①粗:石黄・輝石 ②鈍い褐色	2条沈降に面された弧文部・磨消部による弧状意匠。あるいは縦位レンズ状意匠か。鈍文は縦位Lを充填加文。	後期初葉
第45406 PL.234	2	深鉢 甌土 底部破片 底:(11.2)	①鈍:輝石少 ②鈍い褐色	大型深鉢, やや軟弱な感。厚手で無文。弱い縦位研磨調整を加える。	中期後葉新

95-139号土坑(第454図:PL.234)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考
第45406 PL.234	1	深鉢 甌土 底部破片 底:(9.0)	①粗:小磯・輝石 ②鈍い褐色	底部壁厚が著しい。端部突出し, 内湾気味に体部下半。無文。	後期前葉

95-142号土坑(第454・455図:PL.235)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②土調	文様の特徴等	備考						
第45406 PL.235	1	深鉢 甌土 体部中心破片	①鈍:輝石少 ②黒褐色	外反する体部。沈降で面された弧文部・磨消部による文様。施文部は縦位波状研磨線を加す。内外面とも丁寧な研磨を加える。	中期後葉新						
第45406 PL.235	2	深鉢 甌土 体部破片	①粗:石黄・輝石 ②鈍い褐色	平行沈降による縦位U字状意匠か。地文状に縦位線が施される。	中期後葉古						
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第45406 PL.235	3	石皿	甌土	完形	1.5	1.2	0.3	0.3	小型の凹基無蓋。	黒曜石	
第45406 PL.235	4	打製石斧	甌土	完形	(10.2)	4.6	1.4	(87)	櫛形, 基部に浅く括れを有す。刃部摩耗。	黒色安山岩	
第45406 PL.235	5	打製石斧	甌土	欠損	(6.6)	4.8	1.0	(36)	割かれた刃部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第45406 PL.235	6	打製石斧	甌土	ほぼ完形	14.8	9.7	2.4	484	幅広で, 片面に自然面残る。両側縁に浅い括れを有す。石肌。	粗粒輝石安山岩	
第45406 PL.235	7	磨石	甌土	完形	10.8	9.4	6.4	920	やや扁平な円盤。両面に平滑な使用面。	粗粒輝石安山岩	
第45406 PL.235	8	磨石	甌土	完形	11.6	9.4	6.9	1,110	大振りの円盤。やや扁平で全面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第45406 PL.235	9	磨石	甌土	完形	9.2	5.3	3.9	270	楕円の鏡, 一面に浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第45406 PL.235	10	磨石	甌土	完形	12.8	6.6	5.3	650	棒状鏡。平坦な一面には浅い打痕有り。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第45406 PL.235	11	磨石	甌土	完形	10.7	5.1	3.5	336	やや扁平な棒状鏡。表面は比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第45506 PL.235	12	磨石	甌土	完形	18.9	6.1	4.5	1,060	角棒状の鏡。鏡石としても利用か。	粗粒輝石安山岩	
第45506 PL.235	13	石皿	甌土	完形	26.5	21.1	4.7	3,950	扁平な自然鏡を利用。使用面は僅かに窪む。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-147号土坑(第45506: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	無彫L斜位施文。	後期前葉

95-148号土坑(第45507: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い赤褐色	隆線による弧状意匠。側縁は沈線で斜位短沈線を充満する。舟手の器形を呈す。	中期後葉信州系
第45506 PL.235	2	深鉢 履土	体部破片	①粗:輝石 ②褐色	2条の垂下沈線に施された磨消部懸垂文構成。施文部純文は縦位短L光填施文。	中期後葉新

95-151号土坑(第45508: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	縦位LRを施す。比較的疎らな施文。内面研磨。	後期前葉

95-154号土坑(第45509: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	浅鉢 履土	口縁部破片	①粗:石英多 ②鈍い赤褐色	口縁部外傾し体部も強く内湾する。施文で内外面彫影を見る。内面は全面。外面は弧状意匠を推定できる。	中期後葉

95-155号土坑(第45510: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い褐色	連続する2条隆線による懸垂文構成。沈線を側縁とし縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系

95-156号土坑(第45511: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考					
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部上半破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	頸部外反部に横位沈線群を配す。施文は懸垂L縦位施文。	中期後葉最古					
第45506 PL.235	2	深鉢 履土	体部上半破片	①粗:石英 ②褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。地文は縦位LRを施す。	中期後葉古					
縄文番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第45506 PL.235	3	石籠	履土	欠角	(1.5)	(1.4)	0.4	(0.8)	先端部分と思われるが円味を有し鋭利さが無い。基部の可能性もある。	輝石	
第45506 PL.235	4	多孔石	履土	完形	17.1	12.1	10.3	1,860	不定形な自然産の礫部分に数箇の凹みかが見られる。	安山岩質熔岩	

95-157号土坑(第45512: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部上半破片	①粗:石英多・輝石 ②鈍い赤褐色	横位沈線以下縦位・斜位LRを施す。	中期後葉古

95-159号土坑(第45513: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部破片	①粗:輝石 ②明赤褐色	斜位を付す隆線による弧状意匠。側縁は沈線。斜位沈線を施す。	中期後葉信州系

95-161号土坑(第45514: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部破片	①粗:輝石少 ②鈍い赤褐色	2条の沈線に施された磨消部弧状意匠。あるいは満垂文か。純文は短L光填施文。	後期初期
第45506 PL.235	2	深鉢 履土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②暗赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。縦位沈線を施す。	中期後葉信州系

95-163号土坑(第45515: PL.235)

縄文番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土調	文様の特徴等	備考
第45506 PL.235	1	深鉢 履土	体部下半破片	①粗:石英・輝石 ②褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。磨消痕跡。	中期後葉信州系

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4545回 PL.235	2	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	2条隆線による懸垂文構成、空白部には斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第4548回 PL.235	2	深鉢 腹土	① 粗：石英・雲母多 ② 黒褐色	横位隆線に縦状小突起を付し下端より垂下隆線が横生する懸垂文構成、縦位LRを充填する。	中期後葉古新

## 95-164号土坑(第456回：PL.235)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4560回 PL.235	1	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	横位沈線2条間に斜位刺突文を充填する。体部は3条の沈線による弧状意匠を配す。LR充填施文。	後期前葉

## 95-166号土坑(第456回：PL.235)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4560回 PL.235	1	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 灰褐色	口縁部は短く無文。頸部に横やかに凹曲し、体部は内湾する。頸部縁部には刺突を施し、肥厚状突起を付す。体部は強い刺突文を縦位に連続して施す。器厚薄手。	後期前葉越後系
第4564回 PL.235	2	深鉢 腹土	① 粗：石英・雲母 ② 暗赤褐色	口唇部内面肥厚。口縁部区画文か、口唇部に横位沈線が浅い、斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第4564回 PL.235	3	深鉢 腹土	① 粗：輝石 ② 明赤褐色	口唇部内面僅かに肥厚する。口縁部は内湾し無文。横位研磨を内外面に施す。	中期後葉新
第4564回 PL.235	4	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石多 ② 褐色	2条の横沈線で画された施文部懸垂文構成、縦位LRを充填する。磨消部は弱い研磨を施す。	中期末葉
第4568回 PL.235	5	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 鈍い赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成、沈線を削除とし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

## 95-167号土坑(第456回：PL.235)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4560回 PL.235	1	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	上端褐色文を配した横状把手。両下端は縦状意匠を置き2条隆線を前後隆線とする。口縁部区画は幅状で斜位短沈線を縦位に充填する。頸部土文文。	中期後葉信州系
第4568回 PL.235	2	深鉢 腹土	① 細：輝石 ② 浅黄褐色	体部中に2条の横位沈線を設ける。他は調文文のみで縦位LRを充填施文する。	後期前葉

## 95-168号土坑(第456・457回：PL.236)

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表・面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4560回 PL.236	1	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	3単位突起を付す。低位の扁平な非対称突起で3孔を穿つ。突起両下より隆線が垂下し、片方が体部懸垂文構成を示す。幅状の口縁部は円文と横位沈線を配す。頸部は無文で、凹曲部に2条沈線と円形工具による刺突文を設ける。体部は3・4条の垂下沈線・弧状沈線による懸垂文構成、縦位・斜位LRを充填する。	後期前葉
第4568回 PL.236	2	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	頸部凹曲する囊状の深鉢。弧状突起を付す双弧状突起と思われる。3単位構成か。表面部に弧状意匠を配し、口縁部は無文。頸部凹曲部に横位沈線を設け、体部は沈線による渦巻状意匠を配し2条の弧状沈線が横生する。施文は横生斜位充填施文。	後期前葉
第4568回 PL.236	3	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部凹曲し弧状突起を付す。後部には縦位弧状沈線を施し、口縁部に横位沈線3条を設ける。頸部は無文。	後期前葉
第4568回 PL.236	4	深鉢 腹土	① 細：石英多 ② 鈍い黄褐色	体部は内湾し球状形を呈す。頸部下位に横位沈線を設け、円文を起点とし沈線による渦巻文と弧線文を配す。下端の渦巻文にも連続する。表面極付着。	後期前葉
第4568回 PL.236	5	深鉢 腹土	① 細：白色粒 ② 褐色	口唇部僅かに肥厚。弧状突起を付し、弧線文を配す。口縁部は幅状で横位沈線を設ける。体部は2条の沈線による縦位・斜位懸垂文構成、LRを充填する。口縁部と内面に丁寧な研磨を施す。	後期前葉
第4568回 PL.236	6	深鉢 腹土	① 細：石英・輝石 ② 明褐色	口縁部内屈し口唇部内面肥厚。幅状の口縁部に横位沈線を設け、凹曲部に弦目を施す。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成、横位・縦位LRを地文とする。	後期前葉
第4568回 PL.236	7	深鉢 腹土	① 細：石英 ② 暗褐色	弧状縁か、太い沈線に画された施文部と磨消部による渦巻状意匠。LRを充填施文する。	後期前葉
第4568回 PL.236	8	深鉢 腹土	① 細：石英・輝石・雲母少 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。幅状の口縁部に横位沈線を施す。体部は太い沈線3条による懸垂文構成か、縦位LRを充填。	後期前葉
第4568回 PL.236	9	深鉢 腹土	① 細：輝石 ② 灰褐色	内湾する体部。横位沈線以下沈線による渦巻文と弧線文を配す。無彫LRを充填する。	後期前葉
第4570回 PL.236	10	深鉢 腹土	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	弧状縁か、口唇部隆線を付し外側形状の口縁部形態を呈す。頸部に押入を加えた横状隆線も施す。他は無文で、外面は丁寧な研磨、内面は調整に止まる。	後期前葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第45704 PL_236	11	深鉢 甌土	口縁部破片 ① 粗:石英 ② 黒褐色	口縁部内湾。口唇部内湾を付し沈線を施す。口縁部は無文で、両部縁線以下縦位条線を施す。	後期前葉	
第45708 PL_236	12	深鉢 甌土	口縁部破片 ① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部内湾。短狭の口縁部に横位沈線2条を施す。口縁部以下は無文。	後期前葉	
第45709 PL_236	13	深鉢 甌土	口縁部破片 ① 粗:石英多・輝石 ② 黒色	口縁部内面肥厚。肥厚部は不均一で施文の可能性もある。口唇部に沈線を設ける。内外面研削、外面磨付。	後期前葉	
第45706 PL_236	14	深鉢 甌土	口縁部破片 ① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	無文の口縁部。両部縁線に強い斜位刻みを加える。	後期前葉	
第45707 PL_236	15	深鉢 甌土	口縁部破片 ① 細:石英・輝石 ② 黄褐色	口唇部内面肥厚し、凹線を設ける。外面は無文で撫で調整を施す。	後期前葉	
第45706 PL_236	16	深鉢 甌土	体部中位～下半破片 ① 粗:石英多 ② 黒褐色	斜位沈線より派生した渦巻状意匠が懸架する。斜位・縦位LRを充填施文する。	後期前葉	
第45708 PL_236	17	深鉢 甌土	体部破片 ① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	2条沈線による大柄の渦巻状意匠を配する。LRを充填。	後期前葉	
第45708 PL_236	18	深鉢 甌土	体部上半破片 ① 粗:石英・輝石 ② 黒褐色	頸部屈曲し体部内湾する。横位沈線2条以下斜位沈線による区画意匠を配す。LRを充填する。	後期前葉	
第45708 PL_236	19	深鉢 甌土	体部中位破片 ① 細:輝石 ② 褐色	内湾する体部。2条沈線による伏状意匠。縦位LRを充填する。	後期前葉	
第45706 PL_236	20	深鉢 甌土	体部上半破片 ① 細:石英 ② 鈍い黄褐色	頸部前面部を跨ぎ小型の横位肥手を付す。横位沈線に画された体部上半横位LRが充填される。	後期前葉	
第45706 PL_236	21	有孔踏付土器 甌土	頸部破片 ① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	薄手の胎厚。罫は再反意味に付され上下に貫孔する。外面は丁寧な研削を施し、赤彩を加える。意匠は不明。	中期後葉	
第45708 PL_236	22	深鉢 甌土	体部上半破片 ① 粗:石英・雲母 ② 褐色	斜位平行沈線と斜位縁線による斜格子目文以下2条の横位沈線間を連続刺突が充填する。体部は垂下縁部と伏状縁部を配し、連続刺突3条が小区画する。細線は沈線で横位平行沈線を充填する。	中期後葉信州系	
第45706 PL_236	23	土製円盤 甌土	完形 4.8×4.7×1.3	① 粗:石英 ② 鈍い赤褐色	深鉢体部破片を利用。無文で研削を施す。周縁は斜縁調整で整形する。	後期前葉

縄文遺構 図説番号	No	器種	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第45706 PL_236	24	石鏝	甌土	完形	1.2	1.0	0.3	0.1	凹見無蓋。極めて小型である。石材も柔らかく、非実用品か。	埴貫黄頁岩 (或は石質凝灰岩)
第45708 PL_236	25	石鏝	甌土	ほぼ完形	(3.1)	(1.5)	0.3	(1.3)	凹見無蓋。胴身でやや薄手の作り。狭く深く長脚で、片側を欠く。	黒色頁岩
第45708 PL_236	26	石鏝	甌土	欠損	(2.5)	(1.5)	0.5	(1.4)	胴部は細く薄手である。つまみ部やや斜めに付く。先端部を欠く。	玉髓
第45708 PL_236	27	石鏝	甌土	完形	3.5	2.5	1.0	8.2	大型の鏝に見えるが断面の可能性も。中央部分肥厚。	黒色安山岩
第45708 PL_236	28	スクレイパー	甌土	完形	5.0	4.0	1.5	39	縁部に粗く刃部を作出した小型品。やや厚手。	黒色頁岩
第45706 PL_236	29	磨製石斧	甌土	欠損	(3.3)	(3.4)	1.3	(20)	磨製石斧作成時の剥片か。	蛇紋岩
第45706 PL_236	30	磨石	甌土	欠損	(9.0)	5.1	2.8	(292)	扁平な長円錐。両面使用面とし平滑。一部欠損。	粗粒輝石安山岩
第45706 PL_236	31	多孔石	甌土	完形	16.8	17.1	7.5	2,230	やや扁平な自然礫の両面に浅い凹み穴を有す。	安山岩質頁岩

## 95-170号土坑(第45804: PL\_236)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45804 PL_236	1	深鉢 甌土	頸部～体部上半破片 ① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	頸部屈曲し体部中位に内湾を持たせる。無文で内外面撫でを施す。外面磨付。	中期後葉
第45804 PL_236	2	深鉢 甌土	体部破片 ① 粗:石英 ② 暗褐色	無斜位縦位施文。	後期前葉

## 95-171号土坑(第45805: PL\_237)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45805 PL_237	1	深鉢 甌土	体部上半破片 ① 粗:石英 ② 鈍い褐色	横位沈線3条を上半に設ける。体部は2条沈線に画された無文部による区画意匠と垂状意匠が配される。縦位・斜位LRを充填する。	後期前葉

## 95-173号土坑(第45806: PL\_237)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第45806 PL_237	1	深鉢 甌土	体部破片 ① 細:輝石 ② 褐色	2条沈線による弧線文。縦位無斜位を充填施文する。	後期前葉
第45806 PL_237	2	鉢 甌土	体部下半破片 ① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	2条の沈線が垂下し、弧状沈線が施される。器面磨滅。	中期後葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-174号土坑(第458段:PL.237)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
45840E PL.237	1	鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英・ ② 黒褐色	内湾する口縁部。無文で内外面とも横位研磨を施す。	中期後葉						
45840E PL.237	2	深鉢 腹土	体部破片 ① 胎:石英・ ② 明褐色	縦位条線が密に施文される。	中期後葉新						
45840E PL.237	3	深鉢 腹土	体部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 褐色	2条の縦位平行沈線を配す懸垂文構成。地文は縦位RL。内湾面割落多い。	中期後葉古L						
45840E PL.237	4	深鉢 腹土	把手破片 ① 胎:石英 ② 鈍い赤褐色	大型の横位把手。中位に垂下凹を配す。無胎L充	中期後葉新 埋土文。						
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
45840E PL.237	5	磨石	覆土	完形	5.6	5.6	3.0	124	扁平な小円盤。焼熱によるひび割れあり。		粗粒輝石安山岩

95-175号土坑(第458段:PL.237)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
45840E PL.237	1	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英・輝石・雲母少 ② 褐色	口唇部内面肥厚。口縁部に大型の渦巻状突起と区画文を配す。区画内は斜位短沈線を充墳する。	中期後葉信州系
45840E PL.237	2	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:輝石多 ② 褐色	口唇部欠損。隆線による渦巻文を配す。新線は沈線。縦位・斜位L充を充墳する。	中期後葉古
45840E PL.237	3	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 鈍い褐色	波状線。口縁部内凹し円形刺突文と沈線を施す。頸部に横位沈線を見る。	後期前葉
45840E PL.237	4	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英 ② 暗赤褐色	内湾する口縁部。無文で強く調整を施す。厚手の器厚を見る。	中期後葉
45840E PL.237	5	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:輝石少 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。比較で画された区画意匠か。施文部はLR充墳施文。磨消部及び内面は丁寧な研磨を施す。	後期初頭
45840E PL.237	6	腹土	体部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部は無文で強く研磨する。以下隆線による区画文を配する。区画内は幅広の沈線を斜位とし縦位RLを施文とする。区画境位には円文も施す。外周少量の備付着。	中期後葉古 6・7同一個体
45840E PL.237	7	深鉢 腹土	体部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 黒褐色		
45840E PL.237	8	深鉢 腹土	体部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 褐色	沈線で画された施文部横位・弧状意匠か。LRを充墳する。器面磨滅。	後期初頭
45840E PL.237	9	深鉢 腹土	体部下半破片 ① 胎:石英多 ② 褐色	縦沈線で画された磨消部弧状意匠下端か。開放する構成か。無胎L充墳施文する。	後期初頭
45840E PL.237	10	深鉢 腹土	体部破片 ① 胎:石英・輝石 ② 黒褐色	斜位沈線・弧状沈線が乱雑に施される。文様構成は不明。施文は深い。	後期前葉

95-176号土坑(第458段:PL.237)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
45840E PL.237	1	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英多 ② 黒褐色	口唇部欠損か。内縁を突出する。外面に弧状沈線と斜刺突文を施す。	中期後葉信州系 斜刺突文を施す。

95-178号土坑(第458・459段:PL.237)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
45840E PL.237	1	深鉢 腹土	口縁～体部上半破片 ① 胎:石英 ② 褐色	幅広の無文口縁部。横位隆線以下垂下隆線で画された磨消部と施文部懸垂文構成。縦位LR充墳施文。	中期末葉
45840E PL.237	2	深鉢 腹土	口縁～体部破片 2点 口:19.8	縦位の口縁部文様帯内を斜位短沈線が充墳する。区画境を見ない。頸部隆線以下垂下隆線による体部懸垂文構成だが、弧状沈線による小区画文が配される。区画内は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
45840E PL.237	3	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英・雲母 ② 黒褐色	隆線による口縁部区画文構成。区画内は横位沈線を多段に配し交互斜刺突文を重ねる。	中期後葉信州系
45840E PL.237	4	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英少 ② 黒褐色	口縁部内湾。隆線による小型の渦巻文を配す。前線は横位。	中期後葉信州系
45840E PL.237	5	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英少 ② 暗褐色	口唇部内面肥厚。口縁部に沈線による重弧状意匠を配す。施文は深い。	中期後葉信州系
45840E PL.237	6	深鉢 腹土	口縁部破片 ① 胎:石英・雲母多 ② 褐色	緩やかな波状線。口唇部に凸つて円形刺突文を施す。地文はLR。	中期後葉
45840E PL.237	7	深鉢 腹土	体部上半破片 ① 胎:石英多・輝石 ② 黒褐色	横位沈線以下沈線による弧状意匠を重ねる。空白部には縦位弧状短沈線を充墳する。	中期後葉信州系 8と同一個体
45840E PL.237	8	深鉢 腹土	体部上半破片 ① 胎:石英多・輝石 ② 黒褐色	横位沈線以下沈線による弧状意匠を重ねる。空白部には縦位弧状短沈線を充墳する。	中期後葉信州系
45840E PL.237	9	深鉢 腹土	体部破片 ① 胎:石英・雲母少 ② 褐色	斜位・弧状沈線を密に施す。鳥鱗状の施文ではないか。比較的密接した施文。	中期後葉信州系
45840E PL.237	10	深鉢 腹土	口頸部破片 ① 胎:石英・雲母 ② 褐色	2条の横位隆線に画された幅狭い口縁。部文様部。横位矢羽状短沈線を充墳する。	中期後葉信州系
45840E PL.237	11	深鉢 腹土	口頸部破片 ① 胎:石英多 ② 黒褐色	隆線による口縁部区画文か。横位沈線を多段に充墳し。斜位刺突文を加える。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第4590E PL.237	12	深鉢 甌土	① 粗：輝石 ② 黒褐色	屈曲する頸部。横位沈線以下波状沈線を多段に配す。	中期後葉						
第4590E PL.237	13	深鉢 甌土	① 粗：輝石少 ② 褐色	横位沈線弱弱。6、7条単位の縦位波状条線を配す。弧状沈線の粗線を見るが明瞭としない。	中期後葉新						
第4590E PL.237	14	深鉢 甌土	① 粗：石英・輝石少 ② 明褐色	横位・弧状沈線を付す。浅い凹形突起を横位縦位に施す。	中期後葉古						
第4590E PL.237	15	有孔脚付土甌 甌土	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部外反し、体部は内湾する。肩は強く突出する。肩上下から小孔を貫孔するが明瞭は不明。体部は低位隆帯と沈線による弧状凹帯を配す。内外面に赤彩痕を見るが意匠は不明。	中期後葉						
検出番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第4590E PL.237	16	打製石 斧	甌土	欠損	(6.5)		4.8	2.0	(74)	甌形の基部片でやや厚手。	黒部輝石普通輝 石安山岩
第4590E PL.237	17	磯器	甌土	完形	11.4		9.9	4.2	598	厚手の大型で不定形割片の下辺部に粗く刃部を作出。	黒色安山岩

## 95-180号土坑(第4590E: PL.237)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4590E PL.237	1	深鉢 甌土	① 粗：輝石 ② 黒褐色	柄みを付す口縁部隆帯を設け、小型の8字状貼付文を付す。体部は下半で横帯区画される区画構成。施文部と磨消部によるレンズ状意匠を配す。縄文はL.R.充填施文。	後期前葉新
第4590E PL.237	2	深鉢 甌土	① 粗：石英 ② 褐色	沈線で画された施文部による斜位・弧状意匠。無施 L.充填施文。	後期前葉新
第4590E PL.237	3	深鉢 甌土	① 粗：石英少 ② 明褐色	頸部は粗かに磨り出す。体部下半は外反気味に直立する。無文で縦位研磨を施す。内外面に磨り付するが、破損後の付着と思われる。	後期前葉新
第4590E PL.237	4	深鉢 甌土	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	強く開く体部下半。無文で削り調整後推でを加える。内面推で調整。底面に網代痕が残る。内面に環状に磨り着を見る。周辺は加熱のための器壁剥落。	後期前葉
第4590E PL.237	5	深鉢 甌土	① 粗：石英 ② 明赤褐色	底面破片。網代痕が残る。	後期前葉

## 95-183号土坑(第4590E: PL.237)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4590E PL.237	1	深鉢 甌土	① 粗：輝石 ② 黒褐色	緩やかな波状線。口縁部は内湾し無文。横位隆帯を設け之条の隆帯が斜位・弧状に派生する。隆帯間は磨消部。縦帯は沈線・縦位L.R.を充填する。外面少量の磨り着。	中期末葉
第4590E PL.237	2	鉢 甌土	① 粗：小砂少 ② 鈍い赤褐色	口縁～体部強く内湾する。口縁部隆帯を設け、横位 横状把手を付す。把手面下端より垂下隆帯が派生する。赤彩痕は口縁部に集中する。煤の付着も顕著。	中期後葉

## 95-184号土坑(第4590E: PL.238)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4590E PL.238	1	深鉢 甌土	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	垂下隆帯で画された施文部と磨消部懸垂文構成。磨 消部は研磨。施文部は無施L.縦位充填施文。	中期末葉

## 95-185号土坑(第4600E: PL.238)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4600E PL.238	1	深鉢 甌土	① 粗：石英多 ② 褐色	口縁部は幅広で無文。強く外反する。体部は内湾し 上半に横位隆帯を設け、大型横状把手と小型の波状 突起を付す。横状把手面下端及び波状突起より隆 帯による分枝懸垂文が派生する。縄文はL.R.充填施 文。内面頸部及び体部中に磨り着。	中期末葉
第4600E PL.238	2	深鉢 甌土	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	斜位L.R.を施す。	中期末葉
第4600E PL.238	3	深鉢 甌土	① 粗：石英 ② 明赤褐色	垂下隆帯による懸垂文構成。地文に縦位密接条線を 施し縦位波状沈線を重ねる。	中期後葉信州系

## 95-186号土坑(第4600E: PL.238)

検出番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4600E PL.238	1	深鉢 甌土	① 粗：輝石 ② 黒褐色	鋭角な印象を得る。口縁部内屈し内縁も鋭い。頸部 前部曲部に横位沈線を設ける。口縁～前部曲部に横状把 手を付す。V字状の把手から、外面丁寧な研磨。口縁 内面に磨り着。	後期前葉
第4600E PL.238	2	深鉢 甌土	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口唇部内面粗かに肥厚。横位弧状沈線を多段に配 す。	後期前葉



## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第460図 PL-238	3	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:石英・輝石 ② 褐色	体部中位の頸部から、沈線で画された滑湾部弧状意匠。胎土部は無胎土製区画充填文。	後期初葉					
第460図 PL-238	4	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:石英 ② 灰褐色	内湾する体部。強い刺突文を横位密接施す。	後期前葉越後系					
第460図 PL-238	5	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:石英 ② 褐色	内湾する体部。強い刺突文を横位・斜位密接施す。	後期前葉越後系					
第460図 PL-238	6	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:石英 ② 灰褐色	強い刺突文を横位・斜位密接施す。	後期前葉越後系					
第460図 PL-238	7	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:輝石 ② 黒褐色	棒状工具による強い刺突文を施す。胎面の盛りあがりはない。破片上端断面部に孔あり。製作時接合具の割断痕跡か。	後期前葉越後系					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第460図 PL-238	8	磨石	甌土	完形	7.8	5.2	4.1	259	磨用の。表面平滑。	石英閃緑岩	

## 95-189号土坑(第460図:PL-238)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第460図 PL-238	1	深鉢 甌土	口縁部破片	① 胎:石英・雲母多 ② 鈍い赤褐色	滑湾状突起を上位に配した2条線輪による口縁部区画文構成。区画内は重弧状沈線を充填する。頸部は無文か。	中期後葉古					
第460図 PL-238	2	深鉢 甌土	口縁～体部上半破片	① 胎:石英少 ② 鈍い黄褐色	薄手の胎厚。押圧を加えた横位鎖状沈線を設ける。胎は無文だが、外面は丁寧な横位研磨を施す。	後期初葉					
第460図 PL-238	3	深鉢 甌土	口縁部破片	① 胎:小磯・石英 ② 鈍い黄褐色	胎厚薄手。幅狭の無文口縁部下に押圧を加えた横位鎖線を設ける。	後期初葉					
第460図 PL-238	4	深鉢 甌土	口縁～頸部破片	① 胎:輝石 ② 鈍い褐色	口縁部内押し波状突起を付す。滑湾意匠を施す。内文と横位沈線を設ける。頸部は無文で胎面部隙間に8字状貼付文を付す。内外面とも横位研磨を施す。口縁部内外面に保付着。	後期前葉					
第460図 PL-238	5	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:石英・輝石 ② 灰褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。地文は然否不明。	中期後葉古					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第460図 PL-238	6	石皿	甌土	欠損	(13.5)	(7.5)	4.8	(620)	破損品。縁は高く作られる。内部に保付着。	粗粒輝石安山岩	

## 95-191号土坑(第460図:PL-238)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第460図 PL-238	1	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:石英 ② 鈍い褐色	垂下沈線による懸垂文構成。胎土部は無胎土製区画充填文。	中期末葉
第460図 PL-238	2	鉢 甌土	体部上半破片	① 胎:石英 ② 鈍い褐色	胎面による弧状意匠。おそらく大柄の滑湾文。胎土部は胎面が見られる。	中期末葉 後期初葉?

## 95-194号土坑(第460図:PL-238)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第460図 PL-238	1	深鉢 甌土	口縁部破片	① 胎:輝石 ② 黒褐色	波状線直部。僅かに肥厚する。無胎土製施文。口唇部に保付着。	中期末葉					
第460図 PL-238	2	深鉢 甌土	体部中位破片	① 胎:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	外反する体部。胎面に画された胎文部逆し字状意匠と下平は分岐懸垂文か。胎文は縦位冠。充填施文。	中期末葉					
第460図 PL-238	3	深鉢 甌土	体部破片	① 胎:石英多・輝石 ② 鈍い赤褐色	縦位沈線と無文部。縦位研磨を施す。内面は丁寧な研磨で平滑。	後期初葉					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第460図 PL-238	4	石皿	甌土	完形	2.3	1.9	0.5	1.5	凹基無茎。いわゆるハート型を呈す。作りは丁寧。	チャート	
第460図 PL-238	5	石皿	甌土	完形	1.7	1.0	0.4	0.3	凹基無茎。小型品で快りはU字状に深い。やや厚みがある。	粗粒石	
第460図 PL-238	6	石皿	甌土	欠損	(2.0)	(1.5)	0.4	(0.8)	脚部を欠く。	粗粒石	

## 95-196号土坑(第460図:PL-238)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第461図 PL-238	1	深鉢 甌土	体部中位破片	① 胎:輝石 ② 鈍い褐色	大型土器か。3条の沈線による大柄の滑湾意匠を配す。胎文は縦位冠。	中期後葉新
第461図 PL-238	2	深鉢 甌土	頸部破片	① 胎:石英 ② 黒褐色	横位線輪2条による頸部区画線。側縁は沈線。横位L.Rを施す。	中期後葉古
第461図 PL-238	3	深鉢 甌土	体部中位破片	① 胎:石英・輝石多 ② 鈍い褐色	垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈線を充填する。	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-197号土坑(第461図:PL.238)

探検番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第461図 PL.238	1	深鉢 内ビット	口縁部破片 ①粗:輝石・褐色粒 ②鈍い褐色	口唇部欠損。斜位隆線が張り出し、口縁下に2条沈線に囲まれた横位弧状意匠を配す。無胎土縦位施文。	後期初期						
第461図 PL.238	2	深鉢 腹土	体部破片 ①粗:石黄 ②鈍い赤褐色	縦沈線で囲まれた磨面部懸垂文構成か。LR縦位充填施文。	中期末葉						
探検番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第461図 PL.238	3	石器	腹土	ほぼ 完形	1.8	1.4	0.3	0.5	凹基無胎。片面に割離面大きく残る。先端部を僅かに欠く。	黒曜石	

95-198号土坑(第461図:PL.238)

探検番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第461図 PL.238	1	深鉢 腹土	口縁部破片 ①粗:石黄多 ②灰褐色	口唇部内面隆線を削落。口縁部は隆線による渦等文を配す。縦線は磨面。	中期後葉信州系

95-200号土坑(第461図:PL.238)

探検番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第461図 PL.238	1	深鉢 腹土	口縁～体部下 1/4残存 口:(37.0)	①粗:輝石 ②黒褐色	口縁部隆線に8字状屈付文。下位に弧線文を配し、横位沈線2条を設ける。体部は横位沈線による縦位意匠を多段に設けるが、明確な区画ではなく、上下に連続する箇内もある。横位無胎土を充填する。突起内面に凹形刺突文を施す。	後期前葉新
第461図 PL.238	2	深鉢 腹土	口縁部破片 ①粗:石黄・輝石 ②鈍い褐色	大型土器。口唇部肥厚。口縁部は隆線による区画文構成。縦線は凹線。横位LRを充填する。	中期後葉新	
第461図 PL.238	3	深鉢 腹土	口縁部破片 ①粗:輝石 ②鈍い褐色	口唇部内凹。外面は横位LRが磨う。	後期前葉新	
第461図 PL.238	4	深鉢 腹土	体部上半破片 ①粗:石黄多 ②黒褐色	頭部前曲。太い沈線が体部を垂下し、空白部に弧線文を配す。	後期前葉	
第461図 PL.238	5	深鉢 腹土	体部破片 ①粗:輝石 ②灰 白色	横位沈線以下横位LRを充填する。	後期前葉新	
第461図 PL.238	6	深鉢 腹土	口唇部破片 ①粗:輝石 ②鈍い赤褐色	隆線による口縁部渦等文と区画文構成。縦線は沈線。区画内は横位沈線と交互刺突文を充填する。	中期後葉古	
第461図 PL.238	7	深鉢 腹土	体部破片 ①粗:輝石少 ②明赤褐色	縦沈線で囲まれた施文部を列点状刺突文が充填される。	後期初期	
第461図 PL.238	8	鉢 腹土	頭部～底部破片 ①粗:輝石 ②黒褐色	小型品。頭部に横位沈線1条を設け、体部は沈線による弧状意匠を配す。上位を無胎土横位充填施文する。	後期前葉新	
第461図 PL.238	9	深鉢 腹土	体部下半破片 ①粗:石黄・輝石 ②鈍い褐色	直線的な筒口で無文の体部。内外面とも研磨を施す。	後期前葉新	

95-201号土坑(第461図:PL.238)

探検番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第461図 PL.238	1	深鉢 腹土	体部破片 ①粗:輝石 ②明赤褐色	横位沈線以下横位LRを施す。	後期前葉

95-202号土坑(第461・462図:PL.239)

探検番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第461図 PL.239	1	深鉢 内ビット	口縁～体部1/3 残存 口:(31.0)	①粗:石黄・輝石 ②黒褐色	口縁部下に強い押圧を加えた横位隆線を設ける。体部は無文だが、斜位隆で調整跡が顕著。外面下半に吹きこぼれ状に付着する。	後期初期					
第461図 PL.239	2	深鉢 腹土	口縁部破片 ①粗:輝石 ②灰黄褐色	口唇部尖る。口縁部縦線隆を設ける。	後期初期						
第461図 PL.239	3	深鉢 腹土	体部破片 ①粗:石黄・輝石 ②鈍い黄褐色	2条の横位隆線。縦位LRを充填施文する。	後期初期						
第461図 PL.239	4	深鉢 腹土	体部上半破片 ①粗:石黄・雲母 ②鈍い黄褐色	頭部外反する。2条沈線で囲まれた施文部弧状意匠・J字状意匠が配される。無胎土を充填する。	後期初期						
第461図 PL.239	5	深鉢 腹土	体部破片 ①粗:輝石 ②灰黄褐色	2条沈線で囲まれた横位施文部による分形。上位は弧状意匠。下位はJ字状意匠が配される。施文部は列点状刺突文を充填する。	後期初期						
第462図 PL.239	6	鉢? 腹土	体部破片 ①粗:石黄・輝石 ②鈍い黄褐色	縦沈線による渦等状意匠が配される。あるいは口土層か。	後期初期						
第462図 PL.239	7	深鉢 腹土	体部上半破片 ①粗:石黄多 ②鈍い黄褐色	凹形屈付文を起点に隆線がクラック状に懸垂する。他は無文。	後期初期						
第462図 PL.239	8	深鉢 腹土	体部上半破片 ①粗:石黄・輝石 ②黒褐色	横位隆線以下、斜位隆線が顕著。縦線部に凹形刺突を加える。	後期初期						
第462図 PL.239	9	深鉢 腹土	体部破片 ①粗:石黄・雲母 ②鈍い褐色	縦沈線による弧状意匠・分形懸垂文か。他は無文。	後期初期						
探検番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第462図 PL.239	10	打製石 斧	腹土	完形	(10.3)	4.9	1.8	(115)	扇形。刃部やや厚みを持つ。	黒色頁岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-207号土坑(第462図: PL.239)

検出番号 図号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第462図 PL.239	1	深鉢 甌土	①粗:輝石 ②褐色	緩やかな波状線。隆線による口縁部区画文と滲巻文 構成。区内には沈線と側線が充満する。体部は2条隆線による懸垂文構成か、斜位短沈 線を施す。	中期後葉信州系						
第462図 PL.239	2	深鉢 甌土	①粗:石英少・輝石少 ②褐色	波状線。直肩部は隆線による滲巻文か、隆線による 口縁部区画文が配され、縦位沈線・円形区画文を充 満する。底辺より2条隆線が懸垂し、体部は弧状 短沈線を施す。	中期後葉信州系						
第462図 PL.239	3	深鉢 甌土	①粗:石英・雲母 ②褐色	横位隆線で画され隆線による弧状・滲巻意匠が配 される。空白部は斜位短沈線を充満する。	中期後葉信州系						
第462図 PL.239	4	深鉢 甌土	①粗:雲母多 ②褐色	無文の口縁部。内縁は鋭く突出する。	中期後葉信州系						
第462図 PL.239	5	浅鉢 甌土	①粗:石英(大)	口唇部肥厚する無文浅鉢。内外面丁寧な研磨。赤彩 磁跡は見られない。	中期後葉						
第462図 PL.239	6	深鉢 甌土	①粗:輝石 ②灰褐色	口唇部欠損。口縁部細隆線3条に細かな刻目を加え る。	後期前葉新						
第462図 PL.239	7	浅鉢 甌土	①粗:石英(大) ②褐色	屈曲部隆線である。体部は無文。口唇部は隆線による 滲巻文と区画文構成。区内内側線は沈線で縦位短 沈線を充満する。	中期後葉						
検出番号 図号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第462図 PL.239	8	磨石	甌土	完形	12.6	6.8	4.5	680	扁平盤、両面平らで平滑。		粗粒輝石安山岩

95-208号土坑(第462図: PL.239)

検出番号 図号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第462図 PL.239	1	浅鉢 甌土	①粗:輝石 ②鈍い黄褐色	僅かに外反する無文の口縁部。内外面研磨。	中期後葉						
第462図 PL.239	2	深鉢 甌土	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	2条隆線による懸垂文構成。空白部は縦位条線を充 満する。	中期後葉信州系						
第462図 PL.239	3	深鉢 甌土	①粗:石英 ②灰褐色	隆線による半滲巻状突起。強く突出する。上縁よ り隆線が派生するが小破片のため判別しない。	中期後葉						
検出番号 図号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第462図 PL.239	4	打製石 斧	甌土	欠損	9.5	4.4	1.7	85	短冊形。刃部を欠く。		黒色頁岩
第462図 PL.239	5	打製石 斧	甌土	欠損	(9.6)	7.2	1.1	(81)	膠用。極めて薄手で中央部分に抜け残り、刃部摩耗 熟熱。		安山岩

95-209号土坑(第463図: PL.239)

検出番号 図号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第463図 PL.239	1	深鉢 甌土	①粗:石英・輝石・雲母 ②黒褐色	口唇部は尖る。隆線による口縁部滲巻文と区画文構 成。区内内側線は沈線。斜位短沈線を充満する。頂 部は無文。内面は僅かに肥厚し後を見る。	中期後葉古

95-211号土坑(第463図: PL.239)

検出番号 図号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第463図 PL.239	1	深鉢 甌土	①粗:輝石 ②鈍い黄褐色	口唇部内凹する。外面は無文か、基部削高する。	後期前葉新
第463図 PL.239	2	深鉢 甌土	①粗:石英・輝石 ②黒褐色	横位内反平打沈線を交互斜位文が埋める。体部は 内反沈線による弧状意匠が配され、1条の縦位隆線 が加わる。地文は懸垂し縦位施文。	中期後葉古

95-212号土坑(第463図: PL.239)

検出番号 図号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第463図 PL.239	1	深鉢 甌土	①粗:石英 ②褐色	短位口縁部低位隆線に鈍い押圧を加える。横位隆 線は途切れる。体部は無文。	後期初期
第463図 PL.239	2	鉢 甌土	①粗:石英 ②黄褐色	口縁部は内凹し円文を施す。体部は2条の横位沈線 以下沈線に画された滲巻部による半滲巻意匠が配 される。区内内は細かな彫巻状工具による刺突文を 充満する。内外面ともに丁寧な研磨を加える。	後期前葉
第463図 PL.239	3	深鉢 甌土	①粗:石英 ②明褐色	口縁部は無文で内凹する。内外面ともに鋭い研磨を施 す。	中期末葉
第463図 PL.239	4	深鉢 甌土	①粗:石英 ②鈍い褐色	横位細隆線に円形貼付文を付し、垂下隆線が派生す る。内面研磨。	後期前葉
第463図 PL.239	5	深鉢 甌土	①粗:石英 ②褐色	横位文字状貼付文を中縁に2条隆線が弧状に派生し 区画文を画す。区内内は沈線を側線として上縁を充 満する。	後期前葉
第463図 PL.239	6	深鉢 甌土	①粗:石英・輝石 ②明褐色	横位沈線を幅広に多段に施す。以下横位上縁を充 満する。	後期前葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採面高)	① 胎土 ② 色調			文 様 の 特 徴 等	備 考				
第463図 PL_229	7	深鉢 甌土	体部破片	① 粗:石英 ② 明褐色		2条の横位沈線を配す。他は無文。	後期前葉				
第463図 PL_229	8	深鉢 甌土	体部破片	① 粗:輝石少 ② 黄褐色		5・6条の縦歯状具条線による大柄の弧状意匠を配す。外面縦位微で調整、内面横位削り調整が顕著。	後期前葉				
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第463図 PL_229	9	多孔石 甌土		完形	19.0	12.0	11.7	3,220	不定形な角縁の一面に数個の凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第463図 PL_229	10	多孔石 甌土		完形	15.0	12.5	7.6	1,280	やや小振りな自然礫。表裏面に10個程度の凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

## 95-214号土坑(第463図:PL\_240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採面高)	① 胎土 ② 色調			文 様 の 特 徴 等	備 考
第463図 PL_240	1	深鉢 甌土	口縁部破片	① 細:輝石 ② 褐色		無文の口縁部。肩部で外反する。内外面とも研磨を施し、内面は平滑。	後期前葉
第463図 PL_240	2	深鉢 甌土	口縁部破片	① 細:石英・輝石 ② 褐色		無文の口縁部。口唇部内面隆帯が顕著を見る。	中期後葉

## 95-215号土坑(第463・464図:PL\_240)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第463図 PL_240	1	打製石 弁	甌土	完形	13.4	6.0	2.1	186	扇形、表面の凹凸顯著で粗い作り。	粗粒輝石安山岩	
第463図 PL_240	2	石皿	甌土	欠損	(20.5)	(10.1)	9.0	(2,220)	使用面深く、縁が高く作られる。	粗粒輝石安山岩	
第464図 PL_240	3	石皿	甌土	欠損	(24.8)	20.7	8.6	4,740	左右の縁の高さが異なり、磨り面が斜めである。	粗粒輝石安山岩	

## 95-216号土坑(第464図:PL\_240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採面高)	① 胎土 ② 色調			文 様 の 特 徴 等	備 考
第464図 PL_240	1	浅鉢 甌土	口縁部破片	① 粗:石英少 ② 鈍い黄褐色		口唇部強く凹曲し施文面を設ける。沈線による渦巻文を配す。内外面とも赤影が見られる。	中期後葉
第464図 PL_240	2	深鉢 甌土	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色		強く外反する口縁部。無文で内面に赤影跡残る。	中期後葉
第464図 PL_240	3	深鉢 甌土	口縁部破片	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色		直立尖味の口縁部。縦位RLを施す。	中期後葉
第464図 PL_240	4	深鉢 甌土	体部上半破片	① 粗:石英・雲母 ② 鈍い褐色		横位隆線3条より弧状隆帯が顕著に発生する。体部は弧状沈線が対弧状に施される。	中期後葉信州系
第464図 PL_240	5	深鉢 甌土	体部破片	① 細:白色粒 ② 黄褐色		円形刺突文が縦位に配される。他は無文。	前期後葉か
第464図 PL_240	6	浅鉢 甌土	口頸部~体部破片	① 細:輝石 ② 明褐色		凹曲部は隆線と沈線。口頸部は沈線と低位隆線による区画文が、内面研磨。	中期後葉

## 95-217号土坑(第464図:PL\_240)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第464図 PL_240	1	石棒	甌土	完形	(21.2)	12.5	12.3	(4,230)	有頭と思われるが欠損している。欠損部打釘により調整。熱見られる。	デイスait	

## 95-218号土坑(第464図:PL\_240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採面高)	① 胎土 ② 色調			文 様 の 特 徴 等	備 考
第464図 PL_240	1	深鉢 甌土	体部上半破片	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色		横位隆線以下体部は無文。外面微で調整、内面横位削り調整を施す。	後期前葉
第464図 PL_240	2	深鉢 甌土	体部破片	① 細:石英・輝石 ② 明褐色		無文の体部。外面は丁寧な微で調整。内面は突起が多量に付着する。	後期前葉
第464図 PL_240	3	深鉢 甌土	体部破片	① 粗:石英(A) ② 鈍い褐色		厚手の器厚。無筋Rを施す。	後期前葉

## 95-220号土坑(第465図:PL\_240)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第465図 PL_240	1	石皿	甌土	完形	33.7	26.9	11.4	10,500	厚手で精円形を呈す。磨り面は平坦で平滑に仕上げられる。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

95-222号土坑(第465図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 色			土調	文 様 の 特 徴 等	備 考			
第465図 PL.240	1	深鉢 甌土	腰部中破片	① 粗:輝石 ② 褐色			緩やかな屈曲を呈す。垂下隆線1・2条の懸垂文構成か。縄文は縦位LR。	中期後葉古			
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第465図 PL.240	2	スクロイパー	甌土	欠損	6.9	4.9	1.0	33	基部に挟れた欠損あり。一側縁に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	

95-223号土坑(第465図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 色			土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第465図 PL.240	1	深鉢 甌土	口縁部破片	① 細:石英 ② 褐色			口縁部内湾し横位沈線2条を設ける。以下斜位LRを施す。	中期後葉古
第465図 PL.240	2	深鉢 甌土	肩部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色			横位隆線に深い刺突文を加える。	後期前葉
第465図 PL.240	3	深鉢 甌土	腰部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色			横位隆線を設け、深い刺突文が沿う。腰部は無筋LRを施す。	後期前葉

95-224号土坑(第465図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 色			土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第465図 PL.240	1	深鉢 甌土	口縁部破片	① 細:輝石 ② 黒褐色			口唇部破片に内屈する。内面に1条の横位沈線を施す。外面は無文。	後期前葉新

95-228号土坑(第465図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 色			土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第465図 PL.240	1	深鉢 甌土	肩部破片	① 粗:石英 ② 褐色			薄手の器厚。横位細隆線を設けた位は無文。下位は横位LRを施す。	後期前葉

95-230号土坑(第465図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第465図 PL.240	1	磨石	甌土	完形	10.6	8.0	5.8	800	やや扁平な縁を利用。両面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第465図 PL.240	2	磨石	甌土	完形	12.0	7.3	4.4	700	やや扁平な縁を利用。両面平滑で僅強い凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第465図 PL.240	3	石皿	甌土	完形	30.4	25.6	7.6	5,080	使用面は深く作られる。裏面浅く凹み、複数の凹みが見られる。	粗粒輝石安山岩	

95-232号土坑(第465・466図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 色			土調	文 様 の 特 徴 等	備 考			
第465図 PL.240	1	深鉢 甌土	腰部上平破片	① 細:石英・輝石 ② 暗赤褐色			強く外反する。2条沈線で画された磨消部渦巻意匠が、縦位LRを充填する。内外面保存。	後期初期			
第465図 PL.240	2	深鉢 甌土	腰部破片	① 粗:石英多・輝石 ② 明褐色			2条の沈線に画された磨消部渦巻意匠。あるいは渦巻文か。縄文はLR充填施文。内外面保存。	後期初期			
第465図 PL.240	3	深鉢 甌土	腰部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色			内湾気味の腰部。磨消部滅するため判然としないが、無筋LR斜位施文を見る。	後期			
第465図 PL.240	4	深鉢 甌土	腰部破片	① 細:輝石 ② 黒褐色			無筋LR斜位施文。	後期前葉			
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第466図 PL.240	5	石皿	甌土	欠損	(2.6)	(1.5)	0.3	(1.0)	凹基無蓋。挟りは深い。脚の先端部分尖り。丁寧に作られる。片脚欠く。	チャート	

95-233号土坑(第466図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 色			土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第466図 PL.240	1	深鉢 甌土	肩部破片	① 粗:輝石 ② 明褐色			肩部は無文。横位隆線以下2条隆線が懸垂する。側縁は沈線。横位LRを地文とする。	中期後葉古
第466図 PL.240	2	深鉢 甌土	口頸部破片	① 粗:石英・雲母 ② 鈍い褐色			横位隆線2条上位に渦巻意匠。側縁は沈線で短位LRを施す。	中期後葉信州系

95-235号土坑(第466図:PL.240)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 色			土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第466図 PL.240	1	深鉢 甌土	腰部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色			縦位沈線による懸垂文構成か。地文は擦糸L縦位施文。	中期後葉最古

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-236号土坑(第466区:PL.241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考				
第466区 PL.241	1	深鉢 甌土	胴部破片			① 粗:輝石 ② 鈍い褐色	内湾する体部。2条沈線で画された磨湾部懸垂文構成。無彫し縦位充填施文。	中期後葉新			
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第466区 PL.241	2	打製石 斧	覆土	完形	15.3	8.0	2.5	428	両面に自然磨。片面には縦に稜が見られる。未製品と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第466区 PL.241	3	磨石	覆土	完形	11.1	7.0	5.1	540	やや不定形な長円礫。両端部には打痕。	粗粒輝石安山岩	
第466区 PL.241	4	磨石	覆土	完形	10.6	8.9	4.7	550	扁平な円礫。両磨り面に浅い凹みが見られる。焼熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石安山岩	
第466区 PL.241	5	石皿	覆土	欠損	(12.7)	16.6	6.8	(1,430)	半分に欠ける。手前部分片。裏面は平らになっている。	安山岩	
第466区 PL.241	6	石皿	覆土	欠損	(7.5)	(10.5)	5.2	(535)	磨り面部分片。裏面には凹み穴が見られる。焼熱。	粗粒輝石安山岩	

95-237号土坑(第466区:PL.241)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第466区 PL.241	1	打製石 斧	覆土	完形	12.6	4.9	1.8	137	扇形。側面基部の片側縁に欠り。刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第466区 PL.241	2	磨石	覆土	完形	12.6	6.5	3.2	380	扁平な自然礫。両面に弱く打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第466区 PL.241	3	敲石	覆土	ほぼ 完形	(15.3)	7.6	4.8	(830)	やや扁平な棒状の礫利用。両面に打面有り。	粗粒輝石安山岩	

95-238号土坑(第467区:PL.241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考				
第467区 PL.241	1	深鉢 甌土	口縁部破片			① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部内湾し肥厚する。縁線による口縁部磨湾文構成。胎は無文。外面保持磨。	中期後葉信州系			
第467区 PL.241	2	深鉢 甌土	口縁部破片			① 粗:石英少 ② 灰褐色	あるいは浅鉢小。内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉			
第467区 PL.241	3	深鉢 甌土	体部中位破片			① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	縁線による気状・磨湾状意匠。側縁は沈線。空白部は斜位・気状短沈線を充填する。	中期後葉信州系			
第467区 PL.241	4	深鉢 甌土	体部破片			① 粗:石英少 ② 鈍い赤褐色	側面内皮沈線を横位多段に施文後、縦位内皮沈線を重ねる。	中期			
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第467区 PL.241	5	打製石 斧	覆土	完形	(10.0)	5.4	1.7	(128)	扇形。基部側縁部に浅い欠り有り。刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第467区 PL.241	6	打製石 斧	覆土	欠損	(8.1)	5.8	1.2	(87)	扇形。薄手で両面に自然磨。基部を欠くものと思われる。	粗粒輝石安山岩	
第467区 PL.241	7	磨石	覆土	完形	9.8	6.7	4.3	334	扁平な長円礫。両面使用面とし平滑。焼熱によるものかひび割れ有り。	テリヤク?	

95-239号土坑(第467区:PL.241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考	
第467区 PL.241	1	深鉢 甌土	口縁～体部下 半	残存 口:19.2		① 粗:輝石 ② 暗褐色	4単位直状口縁。口縁部沈線・頸部沈線3条を設け、底状沈線3条を基礎とした底状文を配す。体部は垂下沈線3条による磨湾文構成。縦沈線を密接に充填施文する。	中期後葉新
第467区 PL.241	2	深鉢 甌土	口縁～体部下 半	3/4残存 口:14.2		① 粗:石英・雲母 ② 黒褐色	口縁部内湾し下端に横位縁線1条を設ける。斜位短沈線を充填する。体部上半に2条縁線を付し、磨湾文下端より垂下縁線3条が懸垂する。おそらく4単位。空白部は縦位沈線施文後横位気状沈線で中区画する。	中期後葉信州系
第467区 PL.241	3	深鉢 甌土	口前部破片			① 粗:石英 ② 鈍い褐色	あるいは口縁部小。磨湾磨減するための割熱となしい。横位縁線に強い押圧を加える。	後期初期

95-240号土坑(第467区:PL.241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考	
第467区 PL.241	1	深鉢 甌土	口前部破片?			① 粗:輝石 ② 灰褐色	頸部縁線小。下に沈線による縦帯文や斜位沈線を配す。	中期後葉信州系

95-243号土坑(第467区:PL.241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 胎色 ② 土調			文 様 の 特 徴 等	備 考	
第467区 PL.241	1	深鉢 甌土	口縁部破片			① 粗:輝石 ② 明赤褐色	小波状突起を付す。突起下に縁線による磨湾文を配し、下端より2条縁線が垂下する。口唇部には磨みを施す。	中期後葉信州系

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色調	文様の特徴等	備考	
第467図 PL_241	2	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖少・輝石 ② 鈍い褐色	沈線による垂状意匠。あるいは渦巻状意匠か。施文は無い。	後期初頭
第467図 PL_241	3	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖・輝石 ② 鈍い赤褐色	3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部はL.R.縦文を充填する。	中期後葉新
第467図 PL_241	4	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖・雲母 ② 黒褐色	渦巻による体部。垂下沈線1条による懸垂文構成か。縦文矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系

95-244号土坑(第467図:PL\_241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色調	文様の特徴等	備考	
第467図 PL_241	1	深鉢 甌土	体部上半破片	① 粗：石莖・輝石 ② 鈍い赤褐色	割みを付す隆線による区画文構成。2・3条の平行沈線を斜線とし交互斜文を加える。区画内には沈線による弧状・波状意匠か。地文はL.R.	中期中葉末
第467図 PL_241	2	深鉢 甌土	体部下半破片	① 粗：石莖少 ② 鈍い赤褐色	強い内皮刺文を加えた垂下隆線による懸垂文構成。縦位内皮沈線を充填する。	中期中葉末
第467図 PL_241	3	深鉢 甌土	体部下半破片	① 粗：輝石少 ② 鈍い赤褐色	縦位平行沈線による懸垂文構成。同工具による縦位斜刺文を充填する。	中期中葉末
第467図 PL_241	4	深鉢 甌土	体部中位破片	① 粗：石莖少 ② 鈍い赤褐色	2・3条の垂下沈線に3条の横位沈線を加える。地文施文はL.R.縦位施文。	中期後葉古

95-246号土坑(第467・468図:PL\_241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色調	文様の特徴等	備考						
第467図 PL_241	1	深鉢 甌土	口縁部破片	① 粗：石莖 ② 暗褐色	口縁部内湾し、小径。隆線による渦巻状意匠を斜線に設計。口縁部区画文を配す。区画内位には横位沈線2条に交互斜刺文を加え、斜位短沈線を充填する。体部は渦巻文下端より隆線が派生し、空白部を短沈線が埋める。	中期後葉信州系					
第467図 PL_241	2	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖・輝石 ② 褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。隆線1条には割みを加える。空白部は縦位波状隆線を配し、縦位矢羽状短沈線を多段に施す。	中期後葉信州系					
第467図 PL_241	3	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖多 ② 鈍い褐色	3条一組の垂下沈線による懸垂文構成。地文は横位L.R.	中期後葉古					
第467図 PL_241	4	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖少 ② 鈍い褐色	隆線による小区画文構成か。斜線は沈線で斜位短沈線を充填する。やや軟質。	中期後葉信州系					
第467図 PL_241	5	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖 ② 鈍い褐色	円形斜刺文を斜位に施す。おそらく隆線の側面か。地文は縦位L.R. 器面磨滅する。	中期後葉古					
第468図 PL_241	6	深鉢 甌土	体部上半破片	① 粗：石莖・輝石 ② 黒褐色	頸部外反部に付せられるV字状貼付文か。他に無文。	中期中葉末					
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第468図 PL_241	7	磨石	甌土	定形	10.0	7.4	5.0	468	やや扁平で両面に輪浅い凹みを有す。粗粒の石質。	粗粒輝石火山岩	
第468図 PL_241	8	磨石	甌土	定形	(10.5)	8.1	4.0	(386)	扁平な円盤。使用平坦面に浅い凹みを有す。端部に打痕。ひび割れ面。	粗粒輝石火山岩	

95-247号土坑(第468図:PL\_241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色調	文様の特徴等	備考	
第468図 PL_241	1	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：石莖・輝石 ② 鈍い赤褐色	垂下隆線2条に囲まれた磨消部懸垂文構成。無施L.R.を施す。	中期末葉

95-248号土坑(第468図:PL\_241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色調	文様の特徴等	備考	
第468図 PL_241	1	深鉢 甌土	口頸部破片	① 粗：石莖・雲母 ② 黒褐色	隆線による口縁部区画文。斜線は沈線で斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系

95-251号土坑(第468図:PL\_241)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色調	文様の特徴等	備考	
第468図 PL_241	1	深鉢 甌土	体部破片	① 粗：輝石少 ② 鈍い赤褐色	平行沈線による弧状意匠か。横沈線を乱順に充填する。	中期後葉古

95-252号土坑(第468図:PL\_242)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色調	文様の特徴等	備考	
第468図 PL_242	1	深鉢 甌土	口縁部破片	① 粗：石莖多 ② 黒褐色	口頸部内面肥厚。隆線1条による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内斜線は沈線で斜位短沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉信州系
第468図 PL_242	2	深鉢 甌土	口縁部破片	① 粗：石莖 ② 鈍い褐色	厚手の胎厚。口縁部隆線を設ける。斜線は微で、	中期後葉新

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第468図 PL_242	3	深鉢 甌土 腰部上半破片	①粗:石英・輝石・褐色粒 ②鈍い褐色	横位隆線以下2条隆線による大小折入弧状・渦巻状意匠。彫線は付される。縦位1条を充填する。	中期後葉新
第468図 PL_242	4	深鉢 甌土 腰部破片	①粗:輝石少 ②褐色	2条沈線による弧状意匠。あるいは渦巻文・弧状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第468図 PL_242	5	深鉢 甌土 底部1/5残存 底:(10.0)	①粗:石英・片岩 ②鈍い褐色	無文部を半円状押し内皮沈線で画されたクランク状区画文を強調する。区画内は格子目状沈線を充填する。	前期末葉~中期 初期

## 95-255号土坑(第468図:PL\_242)

縄文遺構番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第468図	1	深鉢 甌土 口縁部破片	①粗:石英・輝石多 ②鈍い赤褐色・黒褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。隆線には沈線が重なる。区画内は縦位沈線を充填する。頸部は無文で、腰部に横位沈線2条を画す。地文は縦位RL。	後期後葉古 2・3は同一個 体						
第468図	2	深鉢 甌土 口縁部破片	①粗:石英・輝石多 ②鈍い赤褐色・黒褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。隆線には沈線が重なる。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部は無文で、腰部に横位沈線2条を画す。地文は縦位RL。	後期後葉古						
第468図 PL_242	3	深鉢 甌土 口縁部破片 口:(28.0)	①粗:石英・輝石多 ②鈍い赤褐色・黒褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。隆線には沈線が重なる。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部は無文で、腰部に横位沈線2条を画す。地文は縦位RL。	中期後葉古						
第468図 PL_242	4	深鉢 甌土 口縁部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い褐色	口縁部弱く内湾し隆線による渦巻文を配す。細かな斜交文を創成とする。口唇部内隆線を欠出。	中期後葉信州系						
第468図 PL_242	5	深鉢 甌土 口縁部破片	①粗:石英・雲母 ②鈍い褐色	幅広い無文口縁部。口唇部内面肥厚する。内外面とも丁寧な撫で調整を施す。	中期後葉信州系						
第468図 PL_242	6	深鉢 甌土 腰部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	縦位RLが面画を覆う。	中期後葉						
縄文遺構番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第468図 PL_242	7	磨石	甌土	完形	17.2	8.1	5.9	1,400	丸みを持った角棒状の磯、やや大型で表面平滑。磨石としても使用可。	粗粒輝石安山岩	
第468図 PL_242	8	磨石	甌土	完形	7.3	3.4	2.3	73	棒状の小磯。	安山岩	

## 95-257号土坑(第469図:PL\_242)

縄文遺構番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考						
第469図 PL_242	1	深鉢 甌土 頸部~腰部上半 1/3残存	①粗:石英・輝石 ②明赤褐色	頸部に横位隆線による半円文を多段に配す。腰部は弧状隆線と分岐隆線が配され、空白部は内皮連続斜交文やを縦位に施す。	中期後葉信州系						
第469図 PL_242	2	深鉢 甌土 口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②灰褐色	隆線による口縁部区画文。小渦巻文を区画下に配す。隆線には縦位沈線を重ねる。区画内は沈線で小区画され、縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系						
第469図 PL_242	3	深鉢 甌土 腰部破片	①粗:石英・輝石 ②暗褐色	垂下隆線3条。おそらく1字状意匠小。隆線一部より突出意匠が付される。空白部は縦位内皮沈線が充填される。	中期後葉信州系						
第469図 PL_242	4	深鉢 甌土 腰部破片	①粗:石英 ②褐色	横位内皮沈線を多段に配す。地文は縦位RL。	中期後葉						
第469図 PL_242	5	深鉢 甌土 腰部破片	①粗:輝石 ②黒褐色	幅広い斜位内皮沈線群に斜位隆線を貼付した斜格子目文。	中期後葉信州系						
第469図 PL_242	6	深鉢 甌土 腰部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	斜位沈線群を交互に配す。	中期後葉信州系						
第469図 PL_242	7	深鉢 甌土 口縁部破片	①粗:石英・雲母 ②黒褐色	幅広い無文口縁部。内外面とも撫で調整を施す。	中期後葉信州系						
縄文遺構番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第469図 PL_242	8	磨石	甌土	完形	7.6	5.2	3.0	178	扁平な小精円板。両面平滑で、創縁に打痕。	閃緑岩	

## 95-258号土坑(第469図:PL\_242)

縄文遺構番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考	
第469図 PL_242	1	鉢?	甌土 腰部破片	①粗:輝石 ②褐色	横位隆線を設ける。内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩が隆線に残る。	中期後葉
第469図 PL_242	2	鉢?	甌土 腰部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	腰部に緩やかな屈曲を持つ。内外面研磨、赤彩を見る。	中期後葉

## 95-261号土坑(第469図:PL\_242)

縄文遺構番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(表裏高)	①胎土 ②色	文様の特徴等	備考
第469図 PL_242	1	深鉢 口縁~腰部上半 1/4残存 口:(46.0)	①粗:石英・輝石・褐色粒 ②鈍い赤褐色	波状突起部頸部を意図的に欠損した擬口縁。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。沈線を創成とし縦位短沈線を充填する。腰部は3・4条の垂下沈線による懸垂文構成。斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系



## 第3章 検出された遺構と遺物

## 95-263号土坑(第469図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第469図 PL.242	1	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:石英多 ②黒褐色	口唇部肥厚部以下無筋しを縦位に施す。	中期後葉

## 95-267号土坑(第469図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第469図 PL.242	1	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:石英 ②黒褐色	口唇部直下に横位隆線を設ける。以下刺突文の粗線 を見るが器面磨滅のため内然しとしない。	後期初葉
第469図 PL.242	2	深鉢 腹土	口唇部破片	①粗:石英 ②鈍い褐色	同曲する口縁部。隆線による口縁部区画文構成。側 縁は沈線。縦位短沈線を充填する。	中期後葉(信州系)

## 95-268号土坑(第469図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第469図 PL.242	1	深鉢 腹土	口縁～体部上半 1/5残存 口:(23.0)	①粗:石英 ②鈍い褐色	口縁部隆線は低く。筋みを施す。体部は無文で縦位 研磨面を見る。外面保付着。	後期初葉
第469図 PL.242	2	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	波状縁か。口縁下に弧状隆線を付し。円形刺突文を 施す。	後期初葉
第469図 PL.242	3	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:石英多・輝石 ②黒褐色	口縁部隆線を付す。器厚は薄手で内外面とも粗な研 磨を施す。外面保付着。	後期初葉

## 95-269号土坑(第469図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第469図 PL.242	1	深鉢 腹土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	隆線による渦巻文を配し。短沈線を施す。	中期後葉(信州系)
第469図 PL.242	2	深鉢 腹土	体部破片	①粗:石英・輝石少 ②鈍い赤褐色	内皮沈線重複施文による懸架する弧状意匠。地文は 隠承孔。	中期後葉(古)

## 95-270号土坑(第470図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第470図 PL.242	1	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:輝石 ②褐色	口縁部隆線を設ける。他は無文。内外面に保付着。	中期末葉
第470図 PL.242	2	深鉢 腹土	頸部破片	①粗:石英 ②褐色	低位の横位隆線を付す。他は無文。	中期末葉

## 95-275号土坑(第470図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第470図 PL.242	1	鉢? 腹土	体部中位～下平 1/3残存	①粗:石英 ②鈍い褐色	3条の沈線による渦巻状意匠を配し。横位・弧状沈 線で繋ぐ。無筋しを横位充填施文する。体部下平は 無文。	後期前葉
第470図 PL.242	2	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	波状突起部より2条隆線による渦巻状意匠が配さ れる。口縁部区画内は沈線を脚線とし矢羽状沈線 を横位多段に施す。内縁を設ける。	中期後葉(信州系)

## 95-278号土坑(第470図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第470図 PL.242	1	深鉢 腹土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	強い筋みを加えた2条隆線による弧状・渦巻状意 匠。地文は隠承孔縦位施文。	中期後葉(古)

## 95-279号土坑(第470図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第470図 PL.242	1	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:輝石 ②褐色	波状縁か。口縁部内湾し口唇部内湾突出する。外面 に沈線が横位に施される。	中期後葉(信州系)
第470図 PL.242	2	深鉢 腹土	口唇部破片	①粗:石英・雲母多 ②黒褐色	口縁部区画文か。側縁は沈線で斜位短沈線を充填す る。	中期後葉(信州系)

## 95-280号土坑(第470図:PL.242)

検出番号 図表番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色 土調	文様の特徴等	備考	
第470図 PL.242	1	深鉢 腹土	口縁部破片	①粗:雲母少 ②黒褐色	無文の口縁部。口唇部内面僅かに突出する。	中期後葉
第470図 PL.242	2	深鉢 腹土	体部上半破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	内皮使用の横位平行沈線以下隠承孔が縦位施文され る。	中期後葉(古)

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第47006 PL-242	3	深鉢 甌土	胎土 ①粗・輝石 ②褐色	縦位丸が器面を覆う。	中期後葉

## 95-282号土坑(第47006:PL-243)

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47006 PL-243	1	深鉢 甌土	胎土 ①粗・輝石 ②鈍い褐色	地文丸。弧状沈線が施される。	中期後葉古						
第47006 PL-243	2	深鉢 甌土	胎土 ①粗・輝石少 ②鈍い褐色	2条沈線に面された滑潤部帯垂文構成。施文部は縦位表状条線が密に施される。	中期後葉新						
発掘番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47006 PL-243	3	打製石 斧	甌土	欠損	(9.8)	6.7	1.4	(141)	刃部片が粗い刃部を作り出す。		粗粒輝石宍山岩

## 95-283号土坑(第47006:PL-243)

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47006 PL-243	1	深鉢 甌土	胎土 ①粗・石灰少 ②鈍い褐色	滑潤部を面す垂下沈線に小弧線が加わる。あるいは刺先意匠か。縄文は縦位L.R.	中期後葉古						
第47006 PL-243	2	深鉢 甌土	胎土 ①粗・輝石 ②明褐色	強い押圧を加えた垂下沈線と縦位隆線による区画文。区画側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。体部の垂下沈線上端を見る。	中期後葉新						
発掘番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47006 PL-243	3	石 羅	甌土	欠損	(1.2)	1.4	0.4	(0.7)	平基無差。基部がやや薄くなっている。先端部を欠		粗粒輝石
第47006 PL-243	4	磨石	甌土	定形	9.3	4.0	3.1	144	小型の棒状磨。一端部に打痕あり。磨石として利用		粗粒輝石宍山岩

## 95-285号土坑(第47006:PL-243)

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47006 PL-243	1	深鉢 甌土	胎土 ①細・石灰・輝石 ②灰褐色	外反する頸部。1本揃き沈線による渦巻文上端か。無筋L縦位施文。	中期後葉古						
発掘番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47006 PL-243	2	多孔石	甌土	定形	14.8	13.3	12.6	3.710	角礫利用。やや膨らんだ上面に複数の凹み穴を有す。		粗粒輝石宍山岩

## 95-286号土坑(第47006:PL-243)

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47006 PL-243	1	深鉢 甌土	胎土 ①粗・石灰・輝石・雲母 ②鈍い褐色	隆線による渦巻文を配す小波状突起。頸部隆線以下体部は、剥落するが軽行隆線が派生する。波状沈線上端を見る。	中期後葉古						
第47006 PL-243	2	深鉢 甌土	胎土 ①粗・輝石 ②褐色	口縁部隆線以下内皮平行沈線を縦位に設ける。以下無筋L斜位施文。	中期後葉最古						
発掘番号 図版番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47006 PL-243	3	打製石 斧	甌土	欠損	(10.8)	5.6	1.7	(127)	基部欠損か、粗く打ち割られている。		粗粒輝石宍山岩

## 95-287号土坑(第47106:PL-243)

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第47106 PL-243	1	深鉢 甌土	胎土 ①細・石灰・輝石 ②褐色	無文。外面は横位彫り調整。内面は研磨を加える。	中期後葉
第47106 PL-243	2	注口土器?	胎土 ①細・輝石・雲母 ②褐色	内湾する無文の体部。外面は微で捲削り研磨。内面は弱い横で調整に止まる。器厚薄手。	後期前葉

## 95-288号土坑(第47106:PL-243)

発掘番号 図版番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第47106 PL-243	1	深鉢 甌土	胎土 ①粗・石灰・輝石 ②褐色	口縁部外反。外面は斜位微で、内面は横位研磨を全に施す。	中期後葉
第47106 PL-243	2	深鉢 甌土	胎土 ①細・輝石 ②鈍い褐色	体部外反。弧状沈線を施す。縄文はL.R.充填施文。	後期前葉

## 第3章 検出された遺構と遺物

95-289号土坑(第471区:PL-243)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第47106 PL-243	1	深鉢 口周部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色		腹りを加えた隆線による幅狭の口縁部区画文、区画内は矢羽状の刺突文を充填する。体部は無彫し縦位施文。	中期後葉古

95-290号土坑(第471区:PL-243)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第47106 PL-243	1	深鉢 腹土	① 粗:石英 ② 黒褐色		やや厚手。縦位LRを施す。	中期後葉					
第47106 PL-243	2	深鉢 腹土	① 粗:雲母 ② 鈍い赤褐色		やや厚手。斜位RLを施す。	後期前葉					
検出番号 図録番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第47106 PL-243	3	磨石	腹土	完形	7.7	6.4	3.8	262	やや扁平な小円盤。	粗粒輝石安山岩	

95-293号土坑(第471区:PL-243)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第47106 PL-243	1	深鉢 腹土	① 粗:石英・雲母 ② 暗赤褐色		2条隆線による懸垂文構成か。沈線を倒線とし、縦位矢羽状沈線を施す。	中期後葉信州系
第47106 PL-243	2	深鉢 腹土	① 粗:石英 ② 赤褐色		やや厚手。懸垂し縦位施文。	中期後葉最古

95-294号土坑(第471区:PL-243)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考					
第47106 PL-243	1	深鉢 腹土	① 粗:石英・雲母多 ② 黒褐色		口縁部横位隆線より渦巻文が懸架し下端より隆線が派生する。倒線は沈線。斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第47106 PL-243	2	鉢 腹土	① 粗:片岩 ② 褐色		深く内湾する口縁部。無文で内外面とも横位研磨を施す。	中期後葉					
第47106 PL-243	3	鉢 腹土	① 粗:石英・雲母 ② 明褐色		薄手の器種。丁形な縦手状沈線を施す。地文次に細沈線を斜位に充填する。	中期後葉信州系					
第47106 PL-243	4	深鉢 腹土	① 粗:輝石多 ② 鈍い褐色		渦巻状小突起より細隆線が垂下する。懸垂文構成か。沈線を倒線とし縦位RLを充填施文する。内面埋付着。	中期後葉古東北					
第47106 PL-243	5	深鉢 腹土	① 粗:輝石多 ② 明褐色		細隆線と沈線が垂下する。列点状刺突文を縦位に施す。縦文は縦位RL。	中期後葉古東北					
第47106 PL-243	6	深鉢 腹土	① 粗:石英・輝石 ② 褐色		突出する滑車状突起。中心を貫孔する。内外面とも隆帯により形成され、端部を僅かに突出させる。外面はLRを充填施文する。	後期初期					
第47106 PL-243	7	深鉢 腹土	① 粗:石英・雲母 ② 赤褐色		2条隆線が懸垂する。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第47106 PL-243	8	深鉢 腹土	① 粗:石英 ② 鈍い褐色		2条隆線による平渦巻文を配す。下端より隆線が垂下する懸垂文構成か。空白部は縦位・斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系					
第47106 PL-243	9	深鉢 腹土	① 粗:石英 ② 黄褐色		腹りを加えた双環状小突起。磨滅が著しく。詳細は	後期初期					
検出番号 図録番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材	備 考
第47106 PL-243	10	打製石 斧	腹土	完形	11.1	5.1	2.1	164	磨形だが刃部の開きは鋭い。やや厚手の作り。刃部磨耗。	粗粒輝石安山岩	
第47106 PL-243	11	スクレイパー	腹土	完形	7.3	2.6	0.8	19	腹状を呈す。倒線から先端部にかけて細かい刃部を着色	色安山岩	
第47106 PL-243	12	磨石	腹土	完形	5.7	5.3	4.1	174	小型の円盤利用。	粗粒輝石安山岩	

95-295号土坑(第472区:PL-243)

検出番号 図録番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第47206 PL-243	1	深鉢 腹土	① 粗:輝石 ② 黒褐色		2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。区画内倒線は沈線で縦位短沈線を充填する。体部は3条の垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位RL。	中期後葉古
第47206 PL-243	2	深鉢 腹土	① 粗:石英・雲母 ② 褐色		渦巻状小突起より2条隆線が派生し区画文を配す。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は縦位沈線による斜位短沈線に施される。	中期後葉古
第47206 PL-243	3	深鉢 腹土	① 粗:石英・雲母少 ② 暗赤褐色		隆線による渦巻文と幅狭の区画文を配す。区画内は横位沈線施文後鋭い交互刺突文を加える。体部は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第47206 PL-243	4	深鉢 腹土	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色		3条の弧状沈線を縦位対弧状に設計。弧線が派生する。地文は縦位RL。	中期後葉古
第47206 PL-243	5	深鉢 腹土	① 粗:石英 ② 暗赤褐色		斜位隆線を配す。空白部は斜位沈線と内皮刺突文を	中期後葉信州系

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第47206 PL_243	6	深鉢 甌土	胎土破片	①粗:石英 ②黒褐色	内皮沈線を横位多段に施し、横位交互刺突文を充填する。	中期後葉古
第47206 PL_243	7	浅鉢 甌土	口縁部破片	①粗:石英多・輝石 ②黒褐色	口縁部肥厚する。胎土で内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕跡は内外面に見えるが顕著ではない。	中期後葉
第47206 PL_243	8	浅鉢 甌土	口縁部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い褐色	口縁部肥厚する。胎土で内外面緩位研磨を施す。赤彩痕跡は外面に見る。	中期後葉

## 95-296号土坑(第47206:PL\_244)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第47206 PL_244	1	深鉢 甌土	口縁～体部上半 1/4 残存 口: (32.0)	①粗:石英・輝石 ②灰褐色	両耳垂か、幅広い無文口縁部下に緩位隆線を設ける。大型の横位把手を配し両端を細隆線で飾る。縄文は緩位LRを充填施文する。	後期初葉か

## 95-297号土坑(第47206:PL\_244)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47206 PL_244	1	深鉢 甌土	口縁部破片	①粗:輝石 ②褐色	底部部に配された半溝巻状突起。口縁部は無文で細隆線を設ける。体部は細状線で画された磨消部による弧状・溝巻状意匠が配される。施文部はLRを充填する。	後期初葉					
第47206 PL_244	2	深鉢 甌土	口縁部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	やや薄手の器厚。口縁部緩位隆線に強い押圧を連続する。他は無文。	後期初葉					
縄文遺構 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47206 PL_244	3	磨石	甌土	完形	11.9	7.7	5.2	680	やや扁平な楕円形の磨石を利用。表面に浅い凹みを有す。	丸山磯殿灰岩	
第47206 PL_244	4	磨石	甌土	欠損	13.5	9.3	3.9	740	扁平な磨石を利用。両面に打痕有り。	不明	

## 95-298号土坑(第472・47306:PL\_244)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47206 PL_244	1	深鉢 甌土	口縁部破片	①粗:石英 ②暗褐色	口唇部僅かに肥厚する。胎土で内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉					
第47206 PL_244	2	深鉢 甌土	体部破片	①粗:石英・雲母 ②褐色	緩位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系					
縄文遺構 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47206 PL_244	3	石棒	甌土	欠損	26.7	8.8	7.9	3,210	大型の棒状物。一部に剥離。両面に打痕見られ、煤の付着あり。砂石か。	細粒輝石安山岩	

## 95-299号土坑(第47306:PL\_244)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47306 PL_244	1	深鉢 甌土	体部破片	①粗:石英・輝石 ②鈍い赤褐色	僅かに隆線と側縁沈線の痕跡を見る。弧状短沈線を施す。	中期後葉信州系					
縄文遺構 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47306 PL_244	2	磨石	甌土	完形	12.0	9.7	5.6	1,000	やや扁平で比較的大振りな磨石。使用面は平滑。	細粒輝石安山岩	
第47306 PL_244	3	磨石	甌土	完形	12.9	8.9	3.5	780	扁平な川原石を利用。両面が平らで比較的平滑。	石英閃緑岩	

## 95-300号土坑(第47306:PL\_244)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考						
第47306 PL_244	1	深鉢 甌土	口縁部破片	①粗:石英多 ②暗赤褐色	短く外縁する口縁部。口唇部細隆線を付し、端部に沈線を施す。	中期後葉信州系					
第47306 PL_244	2	深鉢 甌土	体部破片	①粗:輝石多 ②鈍い褐色	2・3本の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は緩位無節Lを施し浅い弧状沈線を加える。溝巻文か。	中期後葉新					
縄文遺構 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第47306 PL_244	3	石棒	甌土	欠損	(1.0)	1.4	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟り浅く薄型で幅広い形状か。基部片。	流紋石	

## 95-302号土坑(第47306:PL\_244)

縄文遺構 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第47306 PL_244	1	深鉢 甌土	体部破片	①粗:輝石 ②鈍い褐色	2条の沈線に画された磨消部弧状意匠。薄手の器厚を呈す。	後期初葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第47306 PL-244	2	磨石	覆土	完形	8.2	6.4	2.5	217	扁平な小円盤。平らな一面を使用か、中央部に浅い凹みによる凹み有り。	打サイト	
第47306 PL-244	3	磨石	覆土	完形	11.2	5.2	2.4	217	扁平で紡錘形を呈す。	細粒輝石安山岩	

#### 95-311号土坑(第473回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色			文種の特徴等	備考
第47306 PL-244	1	深鉢 覆土	体部破片	①粗: 輝石 ②赤褐色		無節L縦位施文。	中期後葉

#### 95-314号土坑(第473回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色			文種の特徴等	備考
第47306 PL-244	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗: 石英 ②暗赤褐色		波状突起。隆線による渦巻文と区画構成。渦巻文下に気状小区画を配す。幅広の沈線を縦線とし縦位RLを充填する。体部は2条沈線による懸垂文構成。施文部中に縦位短行沈線を加える。縦位は縦位RL。	中期後葉新

#### 95-316号土坑(第473回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第47306 PL-244	1	打製石斧	覆土	完形	9.8	4.8	1.5	86	扇形、片面に自然面。極めて作りが粗い。	細粒輝石安山岩	

#### 95-319号土坑(第474回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色			文種の特徴等	備考
第47406 PL-244	1	深鉢 覆土	体部破片	①粗: 石英多 ②鈍い褐色		2条沈線による大柄の弧状意匠。渦巻文か。縦位沈線状沈線文を充填する。器面磨滅。	中期後葉古
第47406 PL-244	2	深鉢 覆土	体部破片	①粗: 石英・雲母少 ②灰褐色		横位平行沈線を多段に重ねる。重複施文であろう。	中期後葉

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第47406 PL-244	3	スクレイパー	覆土	完形	3.3	1.8	0.6	2.6	三角の刮片。先端を狭む両辺部に刃部作出。	黒曜石	

#### 95-320号土坑(第474回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色			文種の特徴等	備考
第47406 PL-244	1	深鉢 覆土	口縁部破片	①粗: 石英多 ②鈍い赤褐色		隆線による口縁部渦巻文構成。縦位短沈線を充填する。口唇部内面肥厚。器面磨滅。	中期後葉信州系

#### 95-322号土坑(第474回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色			文種の特徴等	備考
第47406 PL-244	1	深鉢 覆土	体部破片	①粗: 石英・輝石 ②明赤褐色		沈線で面された施文部弧状意匠か。縦位RLを充填する。器面磨滅。	後期初頭

#### 95-323号土坑(第474回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色			文種の特徴等	備考
第47406 PL-244	1	深鉢 覆土	体部破片	①粗: 石英 ②鈍い褐色		外反する体部。縦位波状沈線による懸垂文構成か。口唇部は新磨を施す。器厚薄手。	中期後葉信州系

#### 95-326号土坑(第474回: PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色			文種の特徴等	備考
第47406 PL-244	1	深鉢 覆土	体部中位破片	①粗: 石英・輝石 ②鈍い褐色		2条沈線に面された滑消部弧状・平渦巻意匠。施文部との交互構成。L形充填施文。	後期初頭
第47406 PL-244	2	深鉢 覆土	体部破片	①粗: 輝石少 ②黒褐色		2条沈線で面された滑消部弧状・方形意匠。施文部は縦位L形を充填する。滑消部は新磨を施す。外面磨付着。	後期初頭
第47406 PL-244	3	深鉢 覆土	口唇部破片	①粗: 石英・輝石・雲母 ②鈍い褐色		頭部隆線で面された口縁部区画文構成。区画内は沈線を縦線とし斜位短沈線を充填する。区画間に沈線による小渦巻文を配す。	中期後葉信州系
第47406 PL-244	4	深鉢 覆土	体部破片	①粗: 石英・輝石 ②鈍い褐色		縦沈線を斜位に施す。無節Lを斜位充填施文する。	後期初頭
第47406 PL-244	5	深鉢 覆土	体部中位破片	①粗: 石英 ②鈍い褐色		1条の垂下隆線による懸垂文構成か。あるいは大柄の弧状意匠。無文で隆線貼付も稀な印象。	後期初頭

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第47406 PL-244	6	多孔石 甌土	甌土	完形	20.4	13.2	9.7	2,910	大型の自然角礫の表面に数個の凹み穴を穿つ。	安山岩質燧岩	

## 第-329号土坑(第47406回:PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第47406 PL-244	1	石 甌土	甌土	欠損	(2.8)	(2.2)	0.6	(2.7)	基部を欠く。大型品。	チャート	

## 5・95区ビット(第480回:PL-244)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(注:表面高)	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	① 胎土 ② 胎色		文 様 の 特 徴 等	備 考
								土	調		
第48006 PL-244	289	深鉢 甌土	甌土	口縁部破片				① 石英粒少 ② 黒褐色		隆帯による横文文様構成。	中期後葉
第48006 PL-244	297	深鉢 甌土	甌土	体部破片				① 石英・長石・雲母粒 ② 明赤褐色		隆帯による渦巻き文、縦位集合沈線。	中期後葉
第48006 PL-244	315	深鉢 甌土	甌土	体部破片				① 胎:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色		内湾する無文の体部。外面丁寧な研磨調整。内面に煤が付着する。	中期後葉
第48006 PL-244	315	深鉢 甌土	甌土	体部破片				① 胎:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色		無文の体部。外面丁寧な研磨調整。内面に煤が付着する。	中期後葉 3と同一個体
第48006 PL-244	150	深鉢 甌土	甌土	体部破片				① 胎:石英 ② 鈍い黄褐色		沈線による区画内をLRが充填される。	中期後葉新
第48006 PL-244	160	深鉢 甌土	甌土	体部破片				① 胎:石英多 ② 暗褐色		垂下隆線2条による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第48006 PL-244	165	深鉢 甌土	甌土	胴部破片				① 胎:石英・輝石 ② 灰黄褐色		胴曲部に横位沈線2条を設け、沈線間に円形刺突文を施す。体部は無節Lを充填する。	後期前葉
検出番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第48006 PL-244	8	台石 甌土	甌土	欠損	(15.0)	16.0	9.8	(3,850)	厚手の大型甌。両面の平面面を使用。欠損品。	粗粒輝石安山岩	

## 5区 遺構外出土土器(第481~486回:PL-245~248)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(注:表面高)	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	① 胎土 ② 胎色		文 様 の 特 徴 等	備 考
								土	調		
第48106 PL-245	1	深鉢 K1	甌土	口縁~体部				① 胎:白色粒 ② 暗赤褐色		口縁部に隆帯による横位渦巻き状文。渦巻き文は口縁部に突起。また口縁部は内外面ともに凹形し、外面無文帯を作る。弧状文内は縦位集合沈線で埋める。体部には2本の沈線懸垂文、縦行沈線が見られる。地文には縦位LR縦文施文。	中期後葉
第48106 PL-245	2	深鉢 甌土	甌土	口縁~体部 口:(29.0)				① 胎:白色粒・角閃石安山岩・ 褐色粒 ② 褐色		口縁に横位隆帯。渦巻き横文。S字状文の連続懸垂文。横文内には縦位集合沈線文充填。煤付着。	中期後葉信州系 5と同一個体 1116号土坑
第48106 PL-245	3	深鉢 甌土	甌土	口縁部破片				① 片岩粒・角閃石安山岩 ② 褐色		口縁部隆帯による横位文様構成。文様内には縦文RL施文される。	中期後葉 182号土坑
第48106 PL-245	4	深鉢 D3	甌土	口縁部破片				① 石英粒・角閃石安山岩 ② 黒褐色		隆帯により横文文様出た。横文内、横位LR縦文が施文される。	中期後葉
第48106 PL-245	5	深鉢 C3	甌土	口縁部破片				① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色		隆帯による渦巻き弧状文。弧状底部は隆帯2本。弧状文内は斜位の集合短沈線文充填。以下体部には縦位懸垂文、縦位LR縦文施文。	中期後葉
第48106 PL-245	6	深鉢 D-4	甌土	口縁部破片				① 石英粒・雲母粒 ② 黒褐色		隆帯による渦巻き文、横行支線出。横文内には斜位の短沈線文。隆帯下体部には、3本沈線の懸垂文、縦行文。空隙には縦位LR施文。煤付着。	中期後葉
第48106 PL-245	7	深鉢 E2	甌土	口縁部破片				① 石英・長石粒・黒色粒 ② に近い黄褐色		波状口縁。弧状隆帯による渦巻き横文文様構成。円形凹文見え。横文内にはRL縦文文様施文。	中期後葉
第48106 PL-245	8	深鉢 E2	甌土	口縁部破片				① 胎:石英粒・長石粒 ② 灰黄褐色		隆帯による弧状文様構成。縦短沈線。弧状文内はLR縦文横位。	中期後葉
第48106 PL-245	9	深鉢 甌土	甌土	口縁部破片				① 胎:石英粒・長石粒 ② 褐色		口縁直下に横位隆帯。縦短沈線で体部には横位LR縦文。	中期後葉新
第48106 PL-245	10	深鉢 甌土	甌土	口縁部破片				① 石英粒・長石粒 ② 明褐色		口縁部に横位沈線。以下沈線により、縦位の逆U字状懸垂文見え。地文にはLR縦文を横位。縦位施文。	中期後葉
第48106 PL-245	11	深鉢 甌土	甌土	口縁部破片				① 石英粒・長石粒 ② に近い褐色		口縁小波状。波直下に隆帯による渦巻き文と、これから能がる横位隆帯が横文を構成。横位隆帯上位に沈線による少波状文。以下体部は2本沈線による懸垂文と横位LR縦文が見える。	中期後葉
第48106 PL-245	12	深鉢 G1	甌土	口縁~体部破片				① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色		口縁部に隆帯による横位弧状文。弧状文内は縦位集合沈線で埋める。体部には縦文LR縦位施文。	中期後葉
第48106 PL-245	13	深鉢 K3	甌土	口縁部破片				① 石英粒・角閃石安山岩 ② 明褐色		隆帯による渦巻き弧状文。弧状文内の施文不明瞭。胎面風化。	中期後葉

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 土位置(床面高)	①土 ②色	①土 ②調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第48104 PL.245	14	深鉢 I-2	突起	① 粗：白色粒 ② 赤褐色	突起上端部が凹凸。傾斜に走る線帯は下がり満巻き文様を呈す。体部には沈線による曲線文が、縦文が充填される。	中期後葉
第48104 PL.245	15	深鉢 腹土	口縁部破片	① 粗：石英粒・長石粒 ② 赤褐色	口縁内側肥厚。外側縦文 L.R 縦位施文。	後期前葉
第48104 PL.245	16	深鉢 腹土	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	低位線帯による精門文構成か。	中期後葉 1118号土坑
第48104 PL.245	17	深鉢 G-4	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 暗褐色	横位線帯から繋がる2本線帯による懸垂文。	中期後葉
第48104 PL.245	18	深鉢 腹土	口縁部破片	① 粗：石英粒・長石粒 ② 褐色	線帯による精門文構成か、文様内縦位沈線？	中期後葉
第48104 PL.245	19	深鉢 腹土	口縁部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 暗褐色	僅かに内湾。縦線 L.R 縦位。	中期後葉 1213号土坑
第48104 PL.245	20	深鉢 腹土	体部破片	① 粗：白色粒多 ② 赤褐色	強く突起した2本線帯の懸垂帯。低位の線帯は精門文構成か。縦文 L.R 縦位施文。	中期後葉 1116号土坑
第48104 PL.245	21	深鉢 H-2	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 暗褐色	線帯による満巻き文構成か、内側に縦文が僅かに看取される。	中期後葉
第48104 PL.245	22	深鉢 K-4	体部破片	① 粗：白色粒・石英・片岩(少) ② 赤褐色	くの字に内湾。文様帯は低位線帯で精門文構成か。文様内縦文施文。文様下、前部には連続的刺突文。	中期後葉古
第48104 PL.245	23	深鉢 腹土	体部破片	① 微石英粒・長石粒 ② 赤褐色	口縁部無文で横位線帯で画され、以下体部には縦位 L.R 施文。	中期後葉 1115号土坑
第48104 PL.245	24	深鉢 腹土	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	横位線帯。全面に縦位。横位の L.R 施文。塚付着。	中期後葉 1115号土坑
第48104 PL.245	25	深鉢 K-1	頸部破片	① 粗：石英・輝石 ② 赤褐色	横位線帯が強く突出する。以下無節 L.R 縦位施文。	中期後葉新
第48104 PL.245	26	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色	沈線による縦位の磨消帯。地文には L.R 縦位施文。内面塚付着。	中期後葉 182号土坑
第48104 PL.245	27	深鉢 腹土	体部破片	① 粗：酸化粒 ② 赤褐色	磨消懸垂文。縦文 L.R 縦位施文。	中期後葉 1118号土坑
第48104 PL.245	28	深鉢 G1・I-2	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	2本沈線による磨消懸垂文。地文には縦位 L.R 調文。29・30とは同一個体。	中期後葉
第48104 PL.245	29	深鉢 G1・I-2	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	2本沈線による磨消懸垂文。地文には縦位 L.R 調文。	中期後葉
第48104 PL.245	30	深鉢 G1・I-2	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	2本沈線による磨消懸垂文。地文には縦位 L.R 調文。	中期後葉
第48104 PL.245	31	深鉢 腹土	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 赤褐色	上部部に文様構成する線帯の一部存在。以下沈線による磨消懸垂文。縦文は縦位 L.R 施文。	中期後葉 1212号土坑
第48104 PL.245	32	深鉢 J-5	体部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	太めの線帯による平行文。蛇行懸垂文呈す。地文は縦位 L.R 施文。	中期後葉
第48104 PL.245	33	深鉢 腹土	体部破片	① 粗：石英粒・角閃石・片岩 ② 褐色	沈線による曲線文様。縦文 L.R 見える。	中期後葉 1号石列
第48104 PL.245	34	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 明褐色	沈線による縦位の磨消帯を2本の横位沈線で繋ぎ。地文には L.R 縦位施文。内面塚付着。	中期後葉 182号土坑
第48104 PL.245	35	深鉢 C-2	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	2本線帯による懸垂文。地文は縦文 L.R 縦位施文か。	中期後葉 1号石列
第48104 PL.245	36	深鉢 腹土	体部破片	① 粗：石英・長石粒 ② 暗褐色	磨消懸垂帯。縦文 L.R 縦位施文。	中期後葉 1213号土坑
第48104 PL.245	37	深鉢 K-4	体部破片	① 精製：微石英粒少 ② 暗赤褐色	地文に細断赤文 R を縦位施文後、沈線による蛇行懸垂文。	中期後葉
第48104 PL.246	38	深鉢 腹土	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明赤褐色	全面に複節 L.R 縦文施文。	中期後葉 1115号土坑
第48104 PL.246	39	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒・白色粒 ② 明赤褐色	全面に複節 L.R 縦文施文。	中期後葉 1115号土坑
第48104 PL.246	40	深鉢 腹土	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	断赤文 R 縦位施文後、2本沈線による磨消懸垂文。塚付着。	中期後葉
第48104 PL.246	41	深鉢 腹土	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明褐色	L.R 縦位施文。断面瓦れる。	中期後葉 30号土坑
第48104 PL.246	42	深鉢 腹土	底部破片	① 長石粒 ② 赤褐色	深鉢底面片。並行する懸垂沈線端部が見える。底面研削。	中期後葉 66号土坑
第48104 PL.246	43	深鉢 G-3	底部 高：(3.2) 底：6.7	① 石英粒・長石粒 ② 褐色	無文底面片。底面が僅かに丸みを有す。欠け口断面取りされており、再利用か。	中期後葉
第48104 PL.246	44	深鉢 腹土	口縁部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色	口唇部内側肥厚。線帯による満巻き精門文構成。縦位沈線施文。	中期後葉
第48104 PL.246	45	深鉢 F-1	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 暗赤褐色	口縁下に線帯による逆U字状懸垂文。地文に縦位短引羽状沈線施文。塚付着。	中期後葉信州系
第48104 PL.246	46	深鉢 D-3	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 暗赤褐色	線帯による満巻き。精門文構成か。縦位短引羽状沈線施文。縦位短引羽状沈線見える。	中期後葉
第48104 PL.246	47	深鉢 H-1	口縁部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗褐色	やや肥厚した口縁下に横位沈線。逆U。精門文構成か。低位に沈線による起伏文見える。	中期後葉
第48104 PL.246	48	深鉢 E-3	体部→底部破片	① 粗：白色粒多、角閃石・片岩 ② 褐色	線帯による逆U字状懸垂文。文様内には異方向斜位の集合沈線充填。	中期後葉信州系
第48104 PL.246	49	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 赤褐色	断面する頸部に交互刺突文を有す横位線施文。	中期後葉 1118号土坑
第48104 PL.246	50	深鉢 腹土	体部破片	① 石英・酸化粒 ② 暗赤褐色	線帯による満巻き懸垂文。	中期後葉 1115号土坑

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	①土質 ②土色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第4830E PL.246	51	深鉢 甌土	部破片	① 粗：白色粒・角閃石安山岩 ② にぶい褐色	隣縁による渦巻き帯文。横円文内には縦位集合沈殿文が横、2本同一個体。	中期後葉佐州系 1116号土坑
第4830E PL.246	52	深鉢 甌土	部破片	① 石英・長石粒 ② 明赤褐色	横位縁線、上位には縦位の短沈文、下位には縦位集合条線文文文。	中期後葉
第4830E PL.246	53	深鉢 L 4	部破片	① 石英粒・長石粒・雲母粒 ② 赤褐色	隣縁による渦巻き帯文、平行條文。間には縦位短羽根状集合沈文。	中期後葉佐州系
第4830E PL.246	54	深鉢 F 1	部破片	① 石英粒・長石粒少 ② 褐色	2本隣縁による渦巻き帯文、地文には、斜位の集合沈文。	中期後葉佐州系
第4830E PL.246	55	深鉢 D 4	部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 暗褐色	隣縁による渦巻き帯文、曲線文挿入。間には横位、斜位の集合沈文。窪付着。	中期後葉佐州系
第4830E PL.246	56	深鉢 G 1	部破片	① 石英粒・長石粒多 ② 暗赤褐色	太めの隣縁による横位文、曲線の帯文、細い隣縁による蛇行帯文が見られ、地文には縦位集合条線文、70と同一個体。	中期後葉
第4830E PL.246	57	深鉢 D 4	部破片	① 石英粒・長石粒 ② 褐色	隣縁による渦巻き文が繋がる帯文。縦位集合沈文。	中期後葉佐州系
第4830E PL.246	58	深鉢 D 3	部破片	① 長石粒・酸化粒 ② 明赤褐色	隣縁による渦巻き文、平行帯文。空隙には斜位の集合沈文。断面研磨。	中期後葉佐州系
第4830E PL.246	59	深鉢 甌土	部破片	① 石英粒・雲母粒 ② 黒褐色	隣縁による曲線文。縦位集合沈文および横位2本沈文。	中期後葉
第4830E PL.246	60	深鉢 甌土	部破片	① 微石英粒・長石粒少 ② にぶい褐色	隣縁によるU字状帯文を横位連続。中には縦位集合沈殿文、横位2本沈文。	中期後葉佐州系 1116号土坑
第4830E PL.246	61	深鉢 D 5	部破片	① 石英・長石粒・角閃石安山岩 ② 明褐色	重下隣縁。斜位の集合沈文。	中期後葉 1号土坑
第4830E PL.246	62	深鉢 甌土	部破片	① 石英・長石粒長石粒 ② にぶい褐色	平行重下隣縁。地文には縦位の集合沈殿文後、隣縁を2本沈文で繋ぐ。	中期後葉佐州系 1113号土坑
第4830E PL.246	63	深鉢 H 1	部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 黒褐色	横位の隣縁から沈縁による蛇行帯文。地文は斜位の集合沈文。	中期後葉
第4830E PL.246	64	深鉢 D 4	部破片	① 石英粒少 ② 赤褐色	複数沈縁による帯文沈文、2本沈縁による蛇行帯文。間を斜位の集合沈文で埋める。地研製。	中期後葉佐州系
第4830E PL.246	65	深鉢 E 2	部破片	① 粗：石英粒・長石粒 ② 暗褐色	沈縁による蛇行帯文。斜位の集合沈文で埋める。	中期後葉
第4830E PL.246	66	深鉢 甌土	部破片	① 石英・長石・雲母粒 ② 黒褐色	縦位失羽根状沈文。	中期後葉 1212号土坑
第4830E PL.246	67	深鉢 甌土	部破片	① 石英・長石粒 ② 褐色	縦位縁線。集合沈殿文後、横位状沈文。	中期後葉 1213号土坑
第4830E PL.246	68	深鉢 甌土	部破片	① 微石英・長石粒 ② 明赤褐色	異方向の斜位集合沈文。	中期後葉佐州系 1116号土坑
第4830E PL.246	69	深鉢 甌土	部破片	① 粗：微石英粒・酸化粒 ② 灰白色	縦状工具による縞条線文で蛇行する帯文様を描く。窪付着。	中期後葉 1116号土坑
第4830E PL.246	70	深鉢 G 1	部破片	① 石英粒・長石粒多 ② にぶい赤褐色	縦位集合条線文。56と同一個体。	中期後葉
第4830E PL.246	71	深鉢 甌土	部破片	① 細：黒色 ② 暗褐色	縦位集合沈文。	中期後葉 1213号土坑
第4830E PL.246	72	深鉢 K 2	口縁部破片	① 粗：石英 ② 灰黄褐色	口唇部内凹。口縁部沈縁以下斜位LRを充填する。	後期初葉
第4830E PL.246	73	深鉢 I 4	口縁部破片	① 細：輝石 ② にぶい黄褐色	口唇部内凹。横位沈縁2条による縄文地文部。横位縄文LRを充填する。	後期前葉
第4830E PL.246	74	深鉢 H 2	口縁部破片	① 細：石英粒・白色粒 ② にぶい黄褐色	沈縁による磨消文様を描く。縄文はLR。	後期初葉
第4830E PL.246	75	深鉢 F 4	口縁部破片	① 石英粒 ② 黒褐色	口縁部に短羽根線。8字状貼付文が付く。沈縁による磨消文様。LR細製文施。内外面研磨。	後期前葉
第4830E PL.246	76	深鉢 甌土	口縁部破片	① 細：石英・長石微粒 ② にぶい褐色	口縁部に列点文。以下LR。細製文施。	後期初葉 1212号土坑
第4830E PL.246	77	深鉢 D 2	口縁部破片	① 粗：微石英粒 ② 黒褐色	内凹する口縁部無文部下位に刺突文列部。以下、体部には隣縁による帯文の一部が見え、細製文LRが横位。縦位に施文。	中期末葉
第4830E PL.246	78	深鉢 I 3	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② にぶい黄褐色	口縁に横位短羽根線。以下三角意匠の磨消文様。細製文LR施文。	後期前葉
第4830E PL.246	79	深鉢 I 4	口縁部破片	① 細：黒色 ② 明褐色	短羽根付す口縁部短羽根線1条以下2条沈縁で囲まれた刺突文施文部を横位2段に設け、上平の文様帯を消し、高低意匠を連続させる。細製文LRを充填施文する。	後期前葉
第4830E PL.247	80	深鉢 甌土	口縁部破片	① 細：石英粒・白色粒 ② 黒褐色	口縁部に短羽根線。8字状貼付文が付く。沈縁による磨消文様。LR細製文施。窪付着。	後期前葉
第4830E PL.247	81	深鉢 甌土	口縁部破片	① 石英粒少 ② 灰白色	口唇部に短羽根線。断面研磨。	後期前葉 66号土坑
第4830E PL.247	82	深鉢 K 1	口縁部破片	① 細：石英粒・角閃石安山岩 ② にぶい褐色	口縁下に平行する押文隣縁線あり。8字状文で繋ぐ。下位には横位沈縁が見える。断面研磨。	後期前葉
第4830E PL.247	83	深鉢 I 2	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明赤褐色	口縁部に横位短羽根線。以下無文。	後期前葉
第4830E PL.247	84	深鉢 J 2	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	口縁部に横位短羽根線。以下無文。窪付着。	後期前葉
第4830E PL.247	85	深鉢 F 4	体部	① 細：白色粒 ② 明褐色	中々外傾して直線的に立ち上がる。文様部は沈縁による三角文。曲線文様を描く磨消縄文。細製文LR施文。断面丁寧な研磨。	後期前葉
第4830E PL.247	86	深鉢 E 4	口縁部破片	① 精製：微石英粒 ② 明赤褐色	口縁部外反し横位沈文。口縁部から隣縁による短羽根線。直交して横位隣縁が走る。断面研磨。	後期前葉



## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(採出高さ)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第48404 PL-247	87	深鉢 J-4	口縁部破片	① 釉:石英粒少 ② 黒褐色	口縁部内側に肥厚。一部が高まり口唇部に短沈線文。そこから斜め縁線が垂下。頸部には横位沈線文。研磨。厚付者。	後期前葉新 1122号土坑
第48404 PL-247	88	深鉢 魔土	口縁部破片	① 釉:石英粒 ② 黒褐色	口縁部突起し上端部内側に折れる。外面無文。内面には短位沈線。刺突文を狭み対向する渦巻き文。さらに短位短沈線。偏平楕円文様縁き横位沈線で文様帯を画す。外面に厚付者。	後期前葉新 1122号土坑
第48404 PL-247	89	深鉢 魔土	口縁部破片	① 微砂粒少 ② 黒褐色	口縁部短く内傾。上端に沈線帯。内面に横位縁線帯が複数散在。縦位置による斜位の短みが一本おきに見られる。内外面研磨。抜きは短縮。	後期前葉新 1118号土坑
第48404 PL-247	90	深鉢 K-5	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	口縁下に5本の斜め縁線重層させる。器面研磨。	後期前葉
第48404 PL-247	91	深鉢 魔土	口縁部破片	① 石英・長石粒 ② ぶい黄褐色	口縁部山状突起した部分から1条の縁線垂下。上端部に円形文。	後期前葉 1119号土坑
第48404 PL-247	92	深鉢 魔土	口縁部破片	① 釉:石英粒・長石粒少 ② ぶい黄褐色	口縁に横位沈線廻り。下部が肥厚。以下無文。研磨。	後期前葉
第48404 PL-247	93	深鉢 魔土	口縁部破片	① 釉:石英・長石粒 ② 黄褐色	口縁部やや肥厚し内傾。横位沈線歪り。途切れた部分に円形刺突文。	後期前葉古 1118号土坑
第48404 PL-247	94	深鉢 J-3	口縁-体部破片	① 釉:石英・角閃石・安山岩 ② 暗褐色	無文。器面研磨。厚付者。	後期前葉
第48404 PL-247	95	深鉢 魔土	口縁部破片	① 石英粒・長石粒 ② 黒褐色	口縁部短く内傾。無文。研磨。	後期前葉新 1118号土坑
第48404 PL-247	96	深鉢 I-4	口縁部破片	① 釉:細石 ② ぶい褐色	口唇部弱く内傾。無文。内面丁寧な研磨のため平滑。	後期前葉新
第48404 PL-247	97	深鉢 J-1	口縁部破片	① 釉:白色粒・角閃石・安山岩 (少) ② 黒褐色	口縁部に2重なる陥状突起文。側縁。上位に沈線。円形文と刺突文見える。突起から繋がって沈線によるJ字状の磨消懸垂文描く。地文には細縄文L.R.が施される。	後期初期
第48404 PL-247	98	深鉢 魔土	体部破片	① 雲母粒 ② 暗褐色	弧状降下位に沈線による懸垂文。	後期初期 1号石列
第48404 PL-247	99	深鉢 魔土	突起	① 釉:石英粒・白色粒 ② 明赤褐色	破状口縁部面に突起を持つ突起部は欠損。体部には沈線による連続横位V字状文。地文にはL.R.縄文施文。	中期未定
第48404 PL-247	100	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 褐色	沈線による磨消渦巻き文様。細縄文L.R.施文。	後期初期
第48404 PL-247	101	深鉢 魔土	体部破片	① 石英粒・長石粒・酸化粒 ② 明褐色	沈線による磨消渦巻き文様。細縄文L.R.施文。	後期初期
第48404 PL-247	102	深鉢 魔土	体部破片	① 釉:石英粒・長石粒少 ② 灰緑褐色	横位の縁線。及び斜位の平行沈線間に連続刺突文配す。	後期初期新
第48404 PL-247	103	深鉢 魔土	体部破片	① 釉:石英粒・白色粒 ② ぶい黄褐色	横位肥厚部面に8字状文貼付。以下沈線による曲線文様を取られる。	後期前葉古 1122号土坑
第48404 PL-247	104	深鉢 魔土	体部破片	① 釉:白色粒 ② 褐色	沈線による幅狭逆J字状沈線文。地文に刺突文。	後期初期 15号土坑
第48404 PL-247	105	深鉢 L-1	体部破片	① 石英粒・酸化粒 ② 褐色	3本沈線による曲線文様。地文にL.R.縄文。	後期前葉
第48404 PL-247	106	深鉢 H-2	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 明褐色	2本単位の縁線による曲線文。垂下文様描く。地文には細縄文L.R.施文。	後期前葉
第48404 PL-247	107	深鉢 魔土	体部破片	① 粗:石英・片岩粒 ② 黒褐色	沈線による菱形状文意匠。縄文帯にはL.R.光填施文。	後期前葉 1119号土坑
第48404 PL-247	108	深鉢 魔土	体部破片	① 釉:石英・長石粒 ② 褐色	沈線による磨消曲線文。縄文L.R.施文。	後期前葉
第48404 PL-247	109	深鉢 K-4	体部上半破片	① 粗:石英 ② 黄褐色	2条の沈線で画された縄文施文部による幾何学文様成。横位L.R.を施す。無文部・内面は細縄より平滑。	後期前葉新
第48404 PL-247	110	深鉢 魔土	体部破片	① 釉:石英・長石粒 ② 黒褐色	磨消縄文による三角意匠文様。器内厚手。	後期前葉新 1119号土坑
第48404 PL-247	111	深鉢 J-3	体部破片	① 石英粒・長石粒 ② 褐色	体部凹曲。沈線による三角意匠の磨消文様。縄文L.R.施文。	後期前葉
第48404 PL-247	112	深鉢 魔土	体部破片	① 長石粒・白色粒 ② ぶい赤褐色	沈線により矩形。曲線文様描き。細縄文L.R.施文。	後期前葉新 1122号土坑
第48404 PL-247	113	深鉢 J-3	体部破片	① 釉:石英 ② ぶい黄褐色	沈線による菱形形磨消文様。細縄文L.R.横位施文。	後期前葉
第48404 PL-247	114	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒 ② 黄褐色	横位沈線による縄文帯。L.R.細縄文横位充填施文。外面厚付者。	後期前葉新 1122号土坑
第48404 PL-247	115	深鉢 K-4	体部上半破片	① 釉:細石少 ② 暗灰褐色	2条沈線で画された縄文施文部による単位入短弧状文。細縄文L.R.を横位充填する。内外面とも丁寧な研磨により平滑。	後期前葉新
第48404 PL-247	116	深鉢 K-1	体部上半破片	① 粗:石英 ② 黄褐色	2条の沈線に画された横位縄文帯。細縄文L.R.を横位に施す。	後期前葉新
第48404 PL-247	117	深鉢 K-2	体部上半破片	① 粗:石英多 ② ぶい黄褐色	2条の沈線に画された縄文施文部による三角区画文様成。横位L.R.を充填する。	後期前葉新
第48404 PL-247	118	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒・雲母粒 ② 赤褐色	磨消縄文。横位L.R.施文。	後期前葉新 1118号土坑
第48404 PL-247	119	深鉢 J-3	体部破片	① 石英粒・白色粒 ② 暗赤褐色	沈線による雲状文様描く。文様下には縄文施文見える。	後期前葉
第48404 PL-247	120	深鉢 魔土	体部破片	① 石英・長石粒多 ② ぶい褐色	沈線による磨消矩形。曲線文意匠。斜位短位沈線充填。内面黒色。	後期前葉新 1118号土坑

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第4850 PL.247	121	深鉢 L-1	器部破片	①石英粒・白色粒 ②暗褐色	平行する横位2本の短小隆線を同じく縦位の短小隆線で横貫し、横平の部分に円形文。下位には沈線による横位縄文帯が見られる。縦縄文L.R. 器面研磨。	後期前葉
第4850 PL.247	122	深鉢 腹土	器部破片	①石英・長石粒 ②にぶい褐色	斜み有す横位隆線に8字状文か、以下横位隆線により磨消縄文帯。	後期前葉 66号土坑
第4850 PL.247	123	深鉢 腹土	器部破片	①罫・石英・長石粒 ②にぶい褐色	横位3本の隆線あり、これらを縦小隆線懸垂させ、連続縄文文帯を配す。研磨。	後期前葉 1122号土坑
第4850 PL.247	124	深鉢 L-2	口縁部破片	①石英粒・長石粒 ②褐色	口縁から短小隆線2本が垂下。器面研磨。	後期前葉
第4850 PL.247	125	深鉢 L-2	器部破片	①罫・石英粒 ②にぶい黄褐色	横位、縦位に隆線。交点部に8字状文か。	後期前葉
第4850 PL.247	126	深鉢 L-4	器部中位破片	①罫・輝石 ②黒褐色	外反する体部、斜みを付す縦位細隆線を懸垂する。外面磨削付着しい。	後期前葉 1212号土坑
第4850 PL.247	127	深鉢 腹土	器部破片	①石英・長石・角閃石安山岩 ②にぶい黄褐色	体部との屈曲部に円形の刺点文、懸垂隆線に円形刺点文。内面黒色。	後期前葉 1119号土坑
第4850 PL.247	128	深鉢 K-2	器部上半破片	①罫・石英・片岩 ②黄灰色	斜みを付す口縁部細隆線を2条設け、内外面とも丁寧な磨削調整を施す。	後期前葉
第4850 PL.248	129	深鉢 G-1	器部破片	①罫・石英粒・長石粒 ②暗褐色	横位縦位隆線文。下位沈線による偏平な渦巻き懸垂文見られる。	後期前葉
第4850 PL.248	130	深鉢 腹土	器部破片	①罫・石英粒 ②にぶい褐色	3本沈線による直状文様研き。沈線文間に連続する斜状文。	後期前葉
第4850 PL.248	131	注口土器 腹土	器部破片	①罫・石英粒・酸化粒少 ②黄灰色	肩部に複数横位S状沈線文。器面研磨。	後期前葉
第4850 PL.248	132	深鉢 G-4	器部破片	①石英粒・長石粒 ②暗褐色	沈線による横位沈線から懸垂渦巻き文様。	中期後葉
第4850 PL.248	133	深鉢 腹土	器部破片	①罫・黒砂粒少 ②黒褐色	沈線による曲線意匠文。一部に微小刺点文列配される。器面研磨。	後期前葉 1119号土坑
第4850 PL.248	134	深鉢 D-3	器部破片	①石英粒・長石粒 ②赤褐色	縦位、波状の集合文様類。	中期後葉
第4850 PL.248	135	腹土	器部破片	①精製・微石粒少 ②黒色	集合沈線による横位S状文。上下には小さな懸垂S状文様。器面黒色で研磨。後には磨削。	後期前葉 1118号土坑
第4850 PL.248	136	深鉢 腹土	器部破片	①石英・長石粒 ②黒褐色	磨消形文様。斜位細隆線充填か。無彫L.R. 文。研磨。	後期前葉 1118号土坑
第4850 PL.248	137	深鉢 腹土	器部破片	①微石英粒・酸化粒 ②明褐色	間隔を持つ浅い垂下沈線文。地文は無文。器面研磨。	中期後葉
第4850 PL.248	138	注口土器 腹土	把手破片	①罫・白色粒・石英・角閃石安山岩 ②赤褐色	縦刺点文有す横位隆線。幅広い楕円把手。把手の両縁部には隆線。また側縁に沿って沈線が配され、把手基部に円形刺点文。	後期前葉 66号土坑
第4850 PL.248	139	深鉢 D-4	台	①微石英粒・白色粒 ②褐色	沈線による曲線文様類。	後期前葉?
第4850 PL.248	140	深鉢 L-4	底部1/3残存 高:(5.3) 底:(13.0)	①罫・輝石多 ②褐色	外反意味に立ち上がる体部下手。無文。底面は偏小に上り状で網代紋が残る。	後期前葉
第4850 PL.248	141	深鉢 J-3	器部破片	①微長石粒 ②明褐色	内外面研磨。底部に網代紋残る。	後期前葉
第4850 PL.248	142	深鉢 腹土	底部破片 底:(110.0)	①石英粒 ②黒褐色	浅鉢か。底縁部に張り出しを持つ。底面に網代紋残る。内外面研磨。	後葉 1118号土坑
第4850 PL.248	143	深鉢 K-1	底部破片	①石英粒・白色粒 ②黄褐色	底部平。底面に木炭痕。	後期
第4850 PL.248	144	深鉢 D-4	底部破片	①石英粒・酸化粒 ②明褐色	底部平。底面に網代紋。	後期前葉 1号土坑
第4850 PL.248	145	深鉢 腹土	器部～底部破片	①微石英粒 ②黒褐色	逆行沈線による幾何学文。下位に縦縄文L.R.多方向意匠文。底部に縄文。	後期前葉
第4850 PL.248	146	深鉢 腹土	器部～底部破片	①石英・雲母粒 ②明赤褐色	外器面磨削による起伏。上部に網代紋。	後期前葉
第4850 PL.248	147	深鉢 腹土	底部破片	①石英・長石粒 ②にぶい褐色	底面に網代紋。内面に煤付着。148と同一個体か。	後期前葉 1122号土坑
第4850 PL.248	148	深鉢 腹土	底部破片	①石英・長石粒 ②にぶい褐色	底面に網代紋。内面に煤付着。147と同一個体か。	後期前葉 1122号土坑
第4850 PL.248	149	深鉢 腹土	底部破片	①微石英・雲母片 ②赤褐色	無文底部片。	後期
第4850 PL.248	150	L-3	飾り突起	①微細・角閃石安山岩(少) ②黄灰色	キノコ状を見す口縁部突起片。上部は平らに作られ渦巻き文を添く。器面磨削丁寧。	後期前葉
第4850 PL.248	151	注口土器 L-1	把手	①罫・輝石少 ②黒褐色	小型の楕円把手。把手上下端部に双環状突起を付す。丁寧な研磨を施し平研である。	後期前古
第4850 PL.248	152	注口土器 K-2	注口破片	①石英粒・長石粒 ②にぶい黄褐色	注口部分は比較的短い。側面に沈線。	後期前葉
第4850 PL.248	153	注口土器 K-4	注口破片	①微石英粒・角閃石安山岩 ②にぶい黄褐色	注口部平。外面研磨。	後期前葉
第4850 PL.248	154	深鉢 L-3	口縁部破片	①石英粒・白色粒 ②暗褐色	口縁部肥厚。無文で器面の研磨顕著。	中期後葉
第4850 PL.248	155	深鉢 腹土	口縁部破片	①石英・長石粒 ②暗褐色	口縁部外縁。肥厚した端部上面は平らに整形。無文。器内外面研磨。	中期後葉
第4850 PL.248	156	深鉢 腹土	口縁部破片	①石英・長石粒 ②黒褐色	無文口縁部片。	中期後葉 1212号土坑

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第486図 PL.248	157	鉢 G 1 口縁部破片	① 石黄緑・長石粒 ② 明黄褐色		口縁部は幅広くやや丸みを呈す。無文で内外面研磨。赤彩。	中期後葉
第486図 PL.248	158	深鉢 K 3 口縁部～底部 腹土	① 胎：石黄緑・長石粒 ② 赤い褐色		小型深鉢。体部は丸く内湾し口縁部は薄く仕上げられ底部は厚くなる。無文で内外面磨面による磨製。	後期前葉?
第486図 PL.248	159	深鉢 H 1 体部破片	① 石黄緑 ② 暗褐色		底部に縦位隆線文の一部か、地文は無文。やや丸れた口縁部。	中期後葉
第486図 PL.248	160	土製円盤 G 4 完形	① 胎：石黄緑・雲母粒 ② 黒褐色		縦位LR 陶文施文。	中期後葉
第486図 PL.248	161	土製円盤 K 2 完形	① 石黄・長石・角閃石安山岩 ② 黒褐色		沈線による磨面陶文、体部片利用。形はやや丸みを有す形を呈す。	中期後葉
第486図 PL.248	162	土製円盤 K 3 完形	① 石黄・白色粒 ② 褐色		体部片利用。横位沈線文による曲線文。地文には陶文施文後、円形文列。	後期前葉
第486図 PL.248	163	土製円盤 K 3 完形	① 石黄緑・長石粒 ② 褐色		摩滅した隆線文か。	中期後葉
第486図 PL.248	164	土製円盤 K 1 完形	① 石黄緑・長石粒 ② 黒褐色		沈線による渦巻き文か。磨面研磨。薄手で、欠け口の仕上げは粗い。	後期前葉
第486図 PL.248	165	土製円盤 K 1 完形	① 胎：黒石黄緑・酸化粒 ② 明赤褐色		陶文施文。小型で丸く整形されている。	中期後葉
第486図 PL.248	166	土製円盤 J 3 完形	① 石黄緑・長石粒 ② 褐色		陶文施文か。不明瞭。欠け口丁寧に研磨。	中期後葉
第486図 PL.248	167	耳栓 F 3 高：2.4 径：2.9	① 石黄・黒色粒・長石粒少 ② 赤い褐色		鼓型。薄手で無文。全体に丁寧な研磨が見られる。	中期後葉?

#### 19区 遺構外出土土器(第486図: PL.248)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第486図 PL.248	1	深鉢 腹土	① 胎：黒石 ② 鈍い黄褐色		横位LR を施す。磨面磨滅。	後期前葉 14号土坑

#### 95区 遺構外出土土器(第487～503図: PL.249～258)

検出番号 図説番号	No	器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎色 ②色	土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第487図 PL.249	1	深鉢 H22 1/2残存 口：(22.0)	① 胎：石黄・黒石 ② 鈍い赤褐色		口縁は内湾し無文。横位隆線に渦巻文を付し下端より2条隆線が懸垂する。2条隆線による分岐懸垂文と5・6単位構成を推定する。空白部は魚鱗状沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	2	深鉢 口縁～体部中位 1/3残存 口：(14.0)	① 胎：石黄・雲母 ② 鈍い赤褐色		平縁。口縁部内湾し体部で僅かに括れる。無文口縁部を横位隆線で磨し、口縁部によるU字状窪を連接する。あるいは5単位構成か。空白部は魚鱗状沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	3	深鉢 口縁～体部中位 2/3残存 口：18.4	① 胎：黒石 ② 鈍い褐色		横位把手を2単位付す。口唇部に波状磨面があるため、大型突起が想定される。幅状の無文口縁部を2条の横位隆線で磨す。以下隆線による大柄の渦巻文や懸垂文が配される。空白部は磨面の沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	4	深鉢 G15 1/2残存 口：13.4	① 胎：黒石 ② 鈍い赤褐色		小型深鉢。口縁部は幅状で隆線による渦巻文と区画文連接構成。横位沈線文を充填する。おそらく6単位か。体部は浅い沈線による逆U字状懸垂文か。空白部は斜位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	5	深鉢 L16 1/2残存 口：18.5	① 胎：石黄・黒石 ② 黒褐色		横位突起を設け、隆線による縦位S字状窪が顕生する。体部は先塚半渦巻文の縦位波状隆線文による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	6	浅鉢 口頸部～底部 1/4残存 底：(9.0)	① 胎：黒石・雲母多 ② 明褐色		口頸部隆線渦巻文と区画文構成。区画文は多段で上位格円状区画内は縦位沈線を充填する。下位は小型の渦巻文を配す。	中期後葉
第487図 PL.249	7	深鉢 W21 残存	① 胎：石黄・雲母多 ② 褐色		2条の垂下沈線に面された磨面懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈線を充填する。	中期後葉信州系
第487図 PL.249	8	深鉢 H16 1/4残存	① 胎：黒石 ② 赤褐色		上半に刻みを付す横位隆線を設け渦巻文を付し下端より隆線が懸垂する。両部に沈線によるU字状窪と横位波状隆線。体部は縦位沈線と横位波状隆線を施す。	中期後葉信州系
第488図 PL.249	9	浅鉢 R23 口縁～底部 1/5残存 口：(30.0) 高：14.0 底：(11.0)	① 胎：黒石 ② 鈍い赤褐色		口縁部は厚く外傾し、体部上半で体部を持たせる。全体に丸みを帯びたやや扁平な印象を得る。無文で外面は研磨。内面は撫で調整を施す。赤彩跡は見られない。体部厚みや厚手。	中期後葉
第488図 PL.249	10	ミニチュア土器 H22 口：(8.0)	① 胎：黒石 ② 鈍い褐色		有孔跨付土器ミニチュア。口縁部は内傾気味に外反し、横位隆線を設ける。隆線上下に小孔を貫孔するが未貫孔も見られる。	中期後葉 H1は同一個体が
第488図 PL.249	11	ミニチュア土器 H22 口：(8.0)	① 胎：黒石 ② 鈍い褐色		有孔跨付土器ミニチュア。口縁部は内傾気味に外反し、横位隆線を設ける。隆線上下に小孔を貫孔するが未貫孔も見られる。	中期後葉
第488図 PL.249	12	深鉢 I.23 底：5.4	① 胎：石黄・雲母 ② 明褐色		幅状の隆線による区画文下流。縦位隆線も配す。区画内は沈線と斜線なし短形沈線を施す。	中期後葉信州系
第488図 PL.249	13	深鉢 H23 体部下半～底部 残存 底：9.8	① 胎：石黄 ② 鈍い褐色		垂下隆線2条一組による懸垂状窪付か。おそらく波状懸垂文と推定される。4単位を有する。傾斜はなく、空白部も無文である。底面に副状残存。内面磨滅剥落。	中期中葉

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 ② 土 土調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4889E PL_249	14	釣り手形土器 1/2 残存 G15	① 粗:白色粘 ② 鈍い赤褐色	口縁部内傾し大型の把手を付す。把手は縁辺を突出させ下部を貫孔する。波状部対応部分は一方が溝巻文を付した波状で、一方は両側に溝巻文を配した例である。口縁部内側部を施文域とし把手側面へ繋ぐ。縦位・横位短沈線を充填する。体部は無文。窪の付は外縁は体部、内縁は口縁部と底部に集中を見る。また断面への付着も見られるが、一次的な所産であろうか。	中期後葉信州系
第4889E PL_249	15	深鉢 W21 口縁～体部中位 I: (37.0)	① 粗: 輝石 ② 黒褐色	口縁部外面肥厚。肥厚部に横位沈線を設ける。体部は垂下沈線2条に面された施文部懸垂文構成。縦位沈線沈線文を施す。無文部は鈍い研磨を加える。内面磨器判別。	中期前葉古
第4889E PL_249	16	深鉢 H15・16・G15 残存	① 粗: 石英 ② 明褐色	斜位の頸部隆線以下体部は垂下沈線2条に面された磨消懸垂文構成。4単位横位。施文部は縦位。充填施文。1区画のみ縦位沈線を加える。内面磨器判別。	中期後葉新
第4899E PL_249	17	深鉢 G15	① 細: 石英 ② 鈍い赤褐色	2条隆線で面された口縁部文様帯内中位に溝巻文を配す。区画文は沈線を削除とし縦位RLを施す。頸部は無文。	中期後葉古
第4899E PL_249	18	深鉢 S19	① 粗: 石英 ② 黒褐色	口唇部外面肥厚。隆線による小溝巻文を配す。側縁は沈線。地文は横位凡。	中期後葉古
第4899E PL_249	19	深鉢 G15	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部沈線を設け、頸部隆線に溝巻文を付す。側縁は沈線。地文は縦位凡。	中期後葉古
第4899E PL_249	20	深鉢 I 20	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	2条隆線による口縁部区画文構成。区画内側縁に沈線で横位RLを施す。	中期後葉古
第4899E PL_249	21	深鉢 I 21	① 粗: 輝石 ② 暗褐色	内湾する口縁部。低位隆線と沈線による口縁部は区画文構成。横位RLを充填する。	中期後葉新
第4899E PL_250	22	深鉢 K24	① 粗: 石英 ② 褐色	波状縁か。隆帯による波頂下区画文。沈線を削除とし縦位RLを充填する。	中期後葉新
第4899E PL_250	23	深鉢 L 23	① 粗: 石英・輝石 ② 明褐色	波状縁か。隆帯による口縁部区画文構成。頸部は沈線。縦位RLを充填する。	中期後葉新
第4899E PL_250	24	深鉢 L 21	① 粗: 石英 ② 褐色	口縁部内湾。沈線による区画文構成。横位RLを充填する。	中期後葉新
第4899E PL_250	25	深鉢	① 粗: 輝石 ② 灰褐色	口唇部外面肥厚。隆線による口縁部区画文構成。区画接点に円形刺突文。区画内は幅広の沈線を削除し縦位RLを充填する。	中期後葉新
第4899E PL_250	26	深鉢 G15	① 粗: 輝石 ② 鈍い黄褐色	横状把手。頂部より隆線による溝巻文が配され、両脇から貫孔する。把手側面、口唇部に未端溝巻沈線を施す。把手には縦位LRを充填する。	中期後葉古
第4899E PL_250	27	深鉢 F16	① 粗: 石英 ② 明褐色	上端波状の波状突起。両側から2条隆線が口唇部に沿って突起する。頂部下段に沈線と頸部隆線による区画文が配される。縦文はRL。縦位RLを充填する。	中期後葉古
第4899E PL_250	28	深鉢 L 20	① 粗: 石英・輝石 ② 黒褐色	平縁。口唇部に刺突文が沿い以下沈線による区画文構成懸垂文が配される。縦文はRL。縦位RLを充填する。	中期後葉新
第4899E PL_250	29	深鉢 P17	① 粗: 石英少・輝石 ② 褐色	弧状突起を付す。口唇部。突起上端に円形刺突文を施す。口縁部沈線を設け、体部は2条沈線による逆U字状意匠か。RLを充填する。外面磨器付。	中期後葉古
第4899E PL_250	30	深鉢 J19	① 粗: 輝石少 ② 褐色	隆線による口縁部区画文・溝巻文構成。溝巻文は上位に設けられ、下段2条垂下隆線と頸部隆線による区画文が配される。沈線を削除とし、縦位RLを地文とする。内面磨器判別。	中期後葉古
第4899E PL_250	31	深鉢 I 19	① 粗: 輝石少 ② 暗褐色	波状縁。小隆状突起を波底部に付す。2条隆線が口唇部に沿い、以下垂下沈線2条による懸垂文構成か。縦文は縦位RL。内面磨器付。	中期後葉新東北系
第4899E PL_250	32	深鉢	① 粗: 輝石 ② 灰褐色	3方からの中突状突起。下端両側に小隆状突起を付し、隆線を垂下する。縦文はL。上。	中期後葉新東北系
第4899E PL_250	33	深鉢 陶土	① 粗: 石英・輝石 ② 灰褐色	波頂部に横状把手を設け下端より口縁部隆線が派生する。体部は把手下より下2条沈線と面された磨消部懸垂文。縦文はLR。充填施文。	中期末葉 18号土坑
第4899E PL_250	34	深鉢 F 24	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	幅広い無文口縁部。横位隆線を設け以下無施しを縦位充填施文する。	中期末葉
第4899E PL_250	35	深鉢 L 24	① 粗: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部強く内湾。波状縁か。口縁部隆線突出し以下無施しを縦位充填施文する。	中期末葉
第4899E PL_250	36	深鉢 Y19	① 粗: 輝石 ② 鈍い褐色	波頂部。口縁部は無文で、折曲部で面する。体部は斜位LRが施される。	中期末葉
第4899E PL_250	37	深鉢	① 粗: 石英 ② 明褐色	あるいは波状縁か。口縁部隆線を設け、体部は横位・縦位LRを施す。	中期末葉 18号土坑
第4899E PL_250	38	深鉢 L 22	① 細: 石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部内湾。口唇部に刺突文と幅広沈線を設け、体部は縦横文RLが施す。	中期後葉古
第4899E PL_250	39	深鉢 I 22	① 粗: 輝石・雲母 ② 鈍い黄褐色	厚唇縁手。直立気味の口縁部は無文で下位に頸部隆線を設ける。体部はLR。縦位施文。	後期初期
第4899E PL_250	40	深鉢 I 21	① 粗: 石英・雲母 ② 黒褐色	口縁部内面肥厚。口縁部横位沈線を設け以下縦位RLを充填する。	中期末葉
第4899E PL_250	41	深鉢 K 25	① 粗: 輝石 ② 鈍い黄褐色	波状縁。口縁部縦横線を設け沈線を削除とする。横位RLを充填する。厚唇縁手。	中期末葉
第4899E PL_250	42	深鉢 F 24	① 粗: 輝石 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚する。波状縁か。横位隆線以下隆線に面された磨消部が斜位に配される。LR。充填施文。	中期末葉
第4899E PL_250	43	深鉢 I 19	① 細: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部内湾。口縁部沈線以下無施しを充填施文する。内面磨器調整後研磨。	中期末葉

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 調査番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土 ② 色 土 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第4890区 PL_250	44	深鉢 R21	口縁部破片	① 釉: 黒石 ② 黒褐色	口縁部内湾。沈隆による凹字状意匠か。地文は口唇部に横位。体部は縦位 L.R を施す。	中期後葉古 83号土坑
第4890区 PL_250	45	深鉢 PL_250	体部上半破片	① 釉: 石英・黒石 ② 鈍い褐色	口縁部は無文か。頸部隆線を設け波状突起を突出させる。L.R を充填施文する。	中期後葉 87号土坑
第4890区 PL_250	46	深鉢 E25	体部破片	① 釉: 雲母少 ② 赤褐色	2条の垂下沈隆に面された滑溜部懸垂文構成。施文部は縦位 L.R 充填施文後縦位沈隆を加える。波状沈隆か。	中期後葉新 中期後葉古
第4890区 PL_250	47	深鉢 PL_250	体部破片	① 釉: 石英・黒石 ② 褐色	低位隆線2条による懸垂文構成。側部は凹線。施文部は縦位 L.R 充填施文。	中期後葉新
第4900区 PL_250	48	深鉢 PL_250	体部中位破片	① 釉: 黒石・雲母少 ② 黒褐色	外反する体部。2条沈隆に面された船状の滑溜部懸垂文構成。施文部は縦位 L.R を施す。充填施文。	中期後葉新
第4900区 PL_250	49	深鉢 PL_250	体部破片	① 釉: 黒石 ② 褐色	垂下沈隆3条による懸垂文構成。沈隆2条による弧状意匠も配される。地文は縦位 L.R。	中期後葉古
第4900区 PL_250	50	深鉢 G15	体部破片	① 釉: 石英・黒石・雲母少 ② 鈍い赤褐色	内皮沈隆による縦位波状文を2条配す。地文は縦位 L.R。	中期後葉古 R1。
第4900区 PL_250	51	深鉢 D25	体部中位破片	① 釉: 石英・雲母少 ② 黒褐色	沈隆で面された滑溜部懸垂文構成。縦位 L.R を充填施文し縦位波状沈隆を加える。	中期後葉新
第4900区 PL_250	52	深鉢 PL_250	体部破片	① 釉: 黒石少 ② 鈍い黄褐色	2条の垂下沈隆。懸垂文構成か。地文は断糸 L.R 縦位。	中期後葉古
第4900区 PL_250	53	深鉢 H15	体部破片	① 釉: 石英多 ② 鈍い黄褐色	懸隆線が弧状垂下する懸垂文構成。側部は凹で。縦位 L.R を充填施文する。	中期末葉
第4900区 PL_250	54	深鉢 PL_250	体部中位破片	① 釉: 石英・黒石 ② 鈍い赤褐色	2条沈隆で面された滑溜部懸垂文構成。空白部は斜位条線を施文後縦位波状沈隆が承る。	中期後葉古
第4900区 PL_250	55	深鉢 F15	体部破片	① 釉: 石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	3条の垂下沈隆に面された滑溜部懸垂文構成。縄文 L.R を充填施文。滑溜部には断糸を施す。	中期末葉
第4900区 PL_250	56	深鉢 H20	体部破片	① 釉: 黒石 ② 黒褐色	沈隆による重濁巻状意匠を配す。地文は縦位 L.R を施す。	中期後葉古
第4900区 PL_250	57	深鉢 R22	体部上半破片	① 釉: 石英・黒石 ② 鈍い褐色	内皮を重ねた2条の横位隆線以下端部巻状垂下沈隆による体部懸垂文構成。地文は縦位 L.R。外面附着部。	中期後葉古 具系統か
第4900区 PL_250	58	深鉢 S19	体部上半破片	① 釉: 黒石 ② 鈍い赤褐色	頸部に内皮横位隆線群。体部は内皮沈隆による懸垂文構成で、半渦巻状意匠が承る。空白部は1本揃き沈隆による縦位波状文が配られ、縦位 L.R を地文とする。	中期後葉古
第4900区 PL_250	59	深鉢 R22	体部中位破片	① 釉: 黒石 ② 鈍い黄褐色	外反する体部。沈隆による渦巻文や凹文を中核に上位は不整形凹文。下位は半弧状凹文が配られる。縦位沈隆も施され懸垂文構成と思われる。縄文は R.L 充填施文。	中期後葉古
第4900区 PL_250	60	深鉢 H15	体部下半破片	① 釉: 石英 ② 明褐色	沈隆による横位巻状意匠か。下端を横位波状沈隆が連続する。U字状意匠も配られる。地文は縦位 L.R。	中期後葉古
第4900区 PL_250	61	深鉢 G20	体部上半破片	① 釉: 黒石 ② 鈍い赤褐色	横位把手前後隆線を見る。把手下部に沈隆による弧状意匠が配される。縄文は R.L 充填施文。破片下部に意匠的な磨減調整が加わる。	中期後葉新
第4900区 PL_250	62	深鉢 I21	体部破片	① 釉: 石英 ② 鈍い褐色	1条の浅い沈隆による渦巻文を配し2条沈隆が斜位に発生する。縦位沈隆線・弧状沈隆も施す。地文は断糸 L.R 充填施文。	中期後葉古
第4900区 PL_250	63	深鉢 K19	体部破片	① 釉: 石英・雲母 ② 褐色	2条沈隆による渦巻文。地文は縦位 L.R。	中期後葉古
第4900区 PL_250	64	深鉢 S18	口頸部破片	① 釉: 黒石 ② 鈍い赤褐色	横位隆線2条。口縁部は凹文構成か。横位沈隆群を施し、交互斜突文を重ねる。下位は細かな連続斜突文を加えている。	中期後葉古
第4900区 PL_250	65	深鉢 魔土	体部上半破片	① 釉: 黒石 ② 灰褐色	幅広い横位内皮沈隆間に横位斜突文を充填する。以下横位 L.R を施す。	中期後葉古 83号土坑
第4900区 PL_250	66	深鉢 G15	口縁部破片	① 釉: 黒石 ② 鈍い赤褐色	波状線。波部部に楕状把手を付す。把手下部より口縁部隆線が発生し、体部は隆線による凹字状懸垂文を成す。頸部 L.R を充填施文する。	中期末葉
第4900区 PL_251	67	深鉢 PL_251	口縁部破片	① 釉: 石英・黒石 ② 褐色	波状線。波部部に楕状小突起を付し、細隆線で不定形凹文を体部に配す。縄文は縦位・斜位 L.R。	中期後葉新東北系
第4900区 PL_251	68	深鉢 PL_251	体部上半破片	① 釉: 石英 ② 鈍い褐色	口縁部楕状把手を付す。把手下部より口縁部隆線と体部弧状隆線が発生し、体部は凹字状懸垂文を把手下に配す。縄文は縦位 L.R 充填施文。	中期末葉
第4900区 PL_251	69	深鉢 N16	体部上半破片	① 釉: 黒石 ② 鈍い黄褐色	両耳盡か。大型の楕状把手より隆線が発生し、把手を曲す。体部は縦位 L.R 充填施文で、縦位 L.R を加える。	中期後葉新
第4900区 PL_251	70	浅鉢 Q20	口頸部破片	① 釉: 石英・黒石 ② 鈍い黄褐色	頸部油部隆線で面す。下位に双環状突起を付し、隆線が発生する。側部は沈隆。横位 L.R が配られるが、隆線剥落箇所にも看取される。内外面丁寧な研磨。	中期中葉
第4900区 PL_251	71	深鉢 魔土	体部破片	① 釉: 黒石 ② 灰褐色	横位 L.R を施す。	中期後葉古 83号土坑
第4900区 PL_251	72	鉢 H21	体部上半破片	① 釉: 石英 ② 黒褐色	横位隆線を設け、以下沈隆による大柄の渦巻文を配す。赤彩は無文部に交互に配られる構成か。	中期後葉新
第4900区 PL_251	73	深鉢 魔土	体部破片	① 釉: 黒石 ② 黒褐色	2条隆線による弧状意匠。地文は斜位 L.R。	中期後葉古 272号土坑
第4900区 PL_251	74	鉢 魔土	体部破片	① 釉: 石英 ② 鈍い黄褐色	低位隆線による大柄の弧状意匠。渦巻状意匠か。内外面とも丁寧な研磨を施す。	中期後葉新 262号土坑
第4910区 PL_251	75	深鉢 L23	口縁部破片	① 釉: 石英・黒石 ② 黒褐色	波状突起を付す。隆線による渦巻文を波状下に配す。凹文文脈は沈隆。内面は沈隆による渦巻状意匠より横位波線が発生する。	中期後葉新

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(採高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第491区 PL.251	76	深鉢 G15	口縁部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	波状突起。隆線による渦巻文を配す。おそらく短対称の器身か。渦巻より縦位隆線が突出する。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第491区 PL.251	77	深鉢 G16	口縁部破片 ① 粗：石萬多・輝石 ② 鈍い赤褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。渦巻文は上位に設ける。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。肩部に垂下沈線上端を見る。地文は縦位L線。	中期後葉古
第491区 PL.251	78	深鉢 口縁部破片	① 粗：石英多・輝石 ② 黒褐色	口縁部外面肥厚。下部に横位隆線を設ける。	中期後葉 3号出土
第491区 PL.251	79	深鉢 I19	口縁部破片 ① 細：輝石 ② 黒褐色	口縁部外面肥厚し、肩部に横位隆線を設ける。他は無文で内外面とも横位で調整を施す。	中期後葉信州系
第491区 PL.251	80	深鉢 H22	口縁～体部上半破片 ① 粗：石英・雲母 ② 褐色	波状突起を付すか。口縁部は2条隆線による渦巻文と区画文構成。隆線の一部は押伏状形を加える。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は2条の縦位波状隆線と垂下隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第491区 PL.251	81	深鉢 Q19	口縁～体部上半 1/4残存 口：(44.0)	平鉢か。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内は斜位短沈線を充填する例と無文の区画を見る。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第491区 PL.251	82	深鉢 S18	口縁部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	平鉢。口唇部内面肥厚。2条隆線による口縁部区画文構成。区画線は上位に渦巻状突起を付す。	中期後葉古
第491区 PL.251	83	深鉢 I19	口縁部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 褐色	口縁部突起と頸部隆線で画される。口縁部に巻状の突起を付す。両側に沈線による渦巻文を施す。	中期後葉古
第491区 PL.251	84	深鉢 R23	口縁部破片 口：(23.0)	2条隆線による口縁部弧状帯文と区画文。側線は沈線。隆線は連続状の器身もある。おそらく口縁部突起を付す。区画内は斜位沈線を充填する。体部はL.R.縦位施文。	中期後葉古
第491区 PL.251	85	深鉢 口縁～体部上半破片	① 粗：輝石少 ② 褐色	波状線。口縁部隆線を設け、波頂部より隆線渦巻文が縦位に連続する。下端より垂下隆線が派生する。空白部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第491区 PL.251	86	深鉢 J21	口縁部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部肥厚。隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線で縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第491区 PL.251	87	深鉢 R23	口縁部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 灰褐色	2条隆線による口縁部弧状帯文と区画文。側線は沈線。隆線は連続状の器身もある。おそらく口縁部突起を付す。区画内は斜位沈線を充填する。	中期後葉古 84と同一個体
第491区 PL.251	88	深鉢 H21	口縁～頸部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 鈍い褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。口唇部隆線には縦位斜位文を充填する。区画は平槽戸状で沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。肩部は無文。	中期後葉古
第491区 PL.251	89	深鉢 H16	口縁部破片 ① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	波状線。隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線で斜位短沈線を充填する。肩部は縦位L.R.を施す。	中期後葉古
第491区 PL.251	90	深鉢 L23	口縁部破片 ① 細：輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部は頸部隆線で画される。沈線による区画文と弧状戸形斜位文を加えるか。おそらく渦巻文の側線であろう。区画内は波状短沈線を充填する。頸部隆線より波状隆線が派生する。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	91	深鉢 J22	口縁部突起片 ① 粗：石英・雲母多 ② 褐色	上下2層の楕円把手。上位の把手下端より隆線が垂下し、左右楕円の把手を設ける。縁辺に沈線を施し末端を小渦巻文とする。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	92	深鉢 G15	口縁部突起 ① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	波状突起。両側に渦巻文を配し肩部より垂下した隆線が楕円把手となる。口唇部には沈線が沿う。内面は沈線による渦巻文意匠が施される。外面に僅付着。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	93	深鉢 E25	口縁部突起 ① 細：白色粒 ② 鈍い褐色	突起部に隆線による渦巻文を配し、下端より2条隆線が垂下する。突起中は貫孔する。上端にも渦巻文。空白部には横位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	94	深鉢 F15	口縁～頸部破片 ① 粗：石英・雲母多 ② 鈍い褐色	口縁部内面肥厚。口縁部に斜位短沈線を充填し、横位隆線以下2条隆線で画された器身部を充填する。懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	95	深鉢 I19	口縁部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	口縁部は横位隆線である。口唇部より垂下する波状隆線が連続する。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	96	深鉢 K25	口縁部破片 ① 粗：石英・雲母 ② 褐色	口唇部尖る。直下に横位隆線を配し、斜位内皮沈線を重ねる。以下隆線内皮沈線を施す。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	97	深鉢 口縁～体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口縁部肥厚し無文。下部に横位隆線を設ける。肩部は斜位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	98	深鉢 I21	口縁部破片 ① 粗：石英・輝石 ② 褐色	口縁部内外面とも肥厚。おそらく区画文構成か。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	99	深鉢 H16	口縁部破片 ① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	口縁部内傾し口唇部尖る。口縁部隆線以下縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	100	深鉢 H15	口縁部破片 ① 細：石英・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部に横位短沈線を付す。おそらく渦巻文と接する。横位隆線下部は縦位短沈線を施す。	中期後葉信州系
第492区 PL.251	101	深鉢 G15	口縁部破片 ① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部区画文。側線は沈線で縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第492区 PL.252	102	深鉢 S19	口縁～体部上半破片 ① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	口唇部内面肥厚。頸部隆線で画す。口縁部は沈線による区画文と渦巻文であろうか。浅い斜位沈線を充填し、体部は横位沈線2条以下上端渦巻文垂下沈線を配す。地文に数条単位の縦位条線が施される。	中期後葉古 異系統か

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 調査番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 土質 ② 土色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第4928E PL.252	103	深鉢 D24	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部に沈線による連続状沈線を配す。下位に縦位隆線が付けられた意匠。連続状沈線に付随。縦位隆線は下位に沈線による区画文か、充填する短距離上端を見る。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	104	深鉢 K25	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い褐色	内外面肥厚。隆線による渦巻文を配し縦位隆線が派生する。斜位沈線の充填か。	中期後葉古
第4928E PL.252	105	深鉢 H15	口縁部破片	① 細:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部内面肥厚。沈線による渦巻文を配し、縦線文を重ねる。やや薄手の器用。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	106	深鉢 H15	口縁部破片	① 細:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部内面肥厚。沈線による渦巻文を配し、縦線文を重ねる。やや薄手の器用。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	107	深鉢 K24	口縁～体部破片 3点	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部内面。隆線による口縁部区画文構成。区内面縦線は沈線。縦位沈線を充填後交互斜位文を重ねる。体部は2条隆線による懸垂文と弧状意匠を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	108	深鉢	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 黒褐色	口縁部縦位沈線群が突起上端に及ぶ。沈線間に交互斜位文が施される。	中期中葉
第4928E PL.252	109	深鉢 K21	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 黒褐色	隆線による口縁部区画文か。縦位内伏沈線を充填し、交互斜位文を重ねる。弧状沈線も施されるいは渦巻文か。	中期後葉古
第4928E PL.252	110	深鉢 K25	口縁部突起	① 粗:輝石 ② 明赤褐色	扁平な板状突起。後部部に沈線による渦巻文と角形斜位文を施し、体部は逆U字状意匠を配す。無彫しを充填する。やや複雑な文様構成。	中期後葉古
第4928E PL.252	111	深鉢 K22	口縁部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色	小型深鉢あるいはミニチュアか。口唇部肥厚部に隆線による縦位S字状意匠を配す。	中期後葉
第4928E PL.252	112	深鉢 H15	口縁～頸部破片	① 細:石英少 ② 鈍い褐色	口縁部外反。口唇部隆線を設け、頸部に縦位内伏沈線群を配す。口縁部は無文。	中期後葉古
第4928E PL.252	113	深鉢 H23	口縁部破片	① 粗:石英・雲母多 ② 暗赤褐色	口縁部外面折り返し状に肥厚。内面は内嵌状に肥厚する。無文で内外面とも器用調整を施す。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	114	深鉢 X21	口縁部突起	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	円柱状突起。上端に沈線による渦巻文を配す。隆線2条が垂下し沈線文を施すが器用面減少のため鋭くない。	中期後葉古
第4928E PL.252	115	深鉢 Q20	突起破片	① 細:輝石 ② 灰褐色	突出する板状突起。頂部に沈線に渦巻文を配す。口唇部には沈線を施す。	中期後葉新
第4928E PL.252	116	深鉢 H24	突起	① 粗:石英 ② 黒褐色	突出する板状突起。中位より2条隆線が垂下し、両脇に沈線による渦巻文が配される。裏面は渦巻文を施す。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	117	深鉢 G15	口縁部突起	① 粗:石英・雲母 ② 鈍い黄褐色	板状突起。欠損するため判別しづらい。突起下の凹部部に把手を埋設させる。把手と両面間に沈線文を付す。口縁部は区画文構成か。沈線を縦線とし縦位条線を地文とする。沈線による縦線文を施す。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	118	深鉢 G23	口縁部突起	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	後部部より取りを加えた楕状把手を付す。下端に頸部隆線で円文を配す。頸部隆線には斜位文を施す。内面頂部にも円文を配す。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	119	深鉢 G15	口縁部突起	① 粗:輝石 ② 鈍い褐色	両脇に渦巻文を配した尖状突起。下位に小型の楕状把手を付す。把手中位には円孔を穿つ。	中期後葉古
第4928E PL.252	120	浅鉢 H16	口唇部破片	① 粗:石英 ② 明黄褐色	口唇部に縦位隆線2条を設け下端に渦巻文を配す。外器用面は磨滅・剥落が多く判別しづらい。内面は研磨を施す。	中期後葉古
第4928E PL.252	121	深鉢 G15・H16	口唇部破片	① 粗:輝石 ② 鈍い黄褐色	頸部隆線突起し組みを付す。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。沈線を縦線とし、斜位沈線を充填する。頸部は無文。	中期後葉古
第4928E PL.252	122	深鉢 W21	口唇部破片	① 粗:石英 ② 鈍い黄褐色	取り返す下隆線を付し、隆線による口縁部区画文構成。区内内は縦位沈線並文後に交互斜位文を重ねる。体部は2条隆線が斜位に派生し、縦位沈線が施される。器用薄手。	中期後葉古
第4928E PL.252	123	深鉢 I19	口縁部破片	① 粗:石英・輝石 ② 暗褐色	横やかな板状隆。後部部に隆線による渦巻文を配し、口唇部隆線を派生する。下端より2条隆線が垂下する。斜位沈線を施す。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	124	深鉢 腹土	頸部～体部上半破片	① 粗:石英・雲母 ② 灰褐色	外反する口縁部に楕状把手を付す。把手下端か口縁部区画に隆線による渦巻文を配し、交互斜位文を区内面に埋める。頸部隆線には斜位文を重ねる。体部は渦巻文より2条隆線が斜位に派生する。空白部には沈線による斜位意匠が配され縦位・縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系 158号土坑
第4928E PL.252	125	深鉢 K18	口唇部破片	① 粗:石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	内湾する口縁部。頸部隆線と取り返線による区画文構成。区内内は縦位沈線を配す。区内内は沈線に縦位・縦位短沈線を充填する。頸部に縦位沈線と縦位沈線を見る。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	126	深鉢 H23	体部中位破片	① 粗:石英・輝石 ② 褐色	体部中位の内湾部。2条隆線が垂下し、隆線による渦巻文を配す。下位は懸垂文構成か。空白部は矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	127	深鉢 G15	体部上半破片	① 粗:石英 ② 灰黄褐色	凹部部に矢羽状柄を付した楕状隆線を設ける。体部は縦位隆線による区画文構成か。沈線による渦巻文、縦線区画文を配す。	中期後葉古信州系
第4928E PL.252	128	深鉢 L23	体部上半破片	① 粗:石英・雲母 ② 黒色	頸部隆線と斜位隆線に斜位文を施す。体部は頸部隆線より懸垂する板状隆線に沿って沈線による渦巻文を配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第4928E PL.252	129	深鉢 腹土	体部破片	① 粗:石英・雲母少 ② 褐色	隆線1条による懸垂文構成か。弧状隆線を対弧状に配す。斜線は沈線。細かな縦位短沈線を充填する。	中期後葉信州系 272号土坑

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎 土 ② 色 調	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第49304 PL.252	130	深鉢 E25	体部中位破片	① 粗：石英・雲母 ② 褐色	2条隆線による渦巻文を中核に2条隆線が横位・縦位に派生する。懸垂文構成。空白部は斜位・縦位沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49306 PL.252	131	深鉢 魔土	体部上半破片	① 粗：輝石 ② 灰褐色	2条隆線を縦位に配し隆線間に斜位を施す。渦巻状意匠を下向き隆線が派生する。縦位隆線上位は区画文か。側縁は沈線。体部は縦位矢羽状沈線を施す。	中期後葉信州系 242号土坑
第49306 PL.252	132	深鉢 E25	口頸部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色	波状横。波頭部より垂下した隆線下端の渦巻文と口縁部派生文。区内には縦位・斜位短沈線を充填する。体部は押圧を施した隆線が弧状に派生する。	中期後葉信州系
第49406 PL.252	133	深鉢 G15・G16	体部中位破片	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	隆線による弧状区画文か。下向き垂下隆線が派生する懸垂文構成。側縁は沈線。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49406 PL.252	134	深鉢 G15	口頸部・体部上 半破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	2条隆線による口縁部下端の渦巻文と区画文構成。区内内側縁は沈線。弧状短沈線を充填する。体部は渦巻文並下より垂下隆線。他部から弧状隆線が派生する。懸垂文構成小。空白部は弧状沈線・縦位沈線を施す。	中期後葉信州系
第49406 PL.252	135	深鉢 G15	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は縦位沈線施文後に弧状沈線3条を加える。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	136	深鉢 K24	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	横位・垂下隆線と2条隆線。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	137	深鉢 J22	体部中位破片	① 粗：石英・雲母少 ② 暗赤褐色	垂下隆線と2条隆線による弧状区画。沈線を側縁とし。斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	138	深鉢 魔土	口頸部破片	① 粗：石英 ② 明赤褐色	頸部隆線に小縦位突起を付し斜位文を加える。口縁部は区画文か。沈線を側縁とし縦位矢羽状沈線を充填する。	中期後葉信州系 272号土坑
第49406 PL.253	139	深鉢 G15	体部中位破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	2条隆線による縦位渦巻文(胸弁文)。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	140	深鉢 F15	体部破片	① 粗：石英・雲母 ② 明褐色	垂下隆線上位に沈線を重ねる。懸垂文構成で縦位連続斜位文や横位・斜位平行沈線を充填する。	中期中葉末
第49406 PL.253	141	深鉢 J25	体部上半1/3 残存	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	体部上半に横位隆線2条を設ける。隆線間は深い斜位突起文を充填し、低い突起を付す。体部は横位隆線より派生した2条隆線による弧状区画。離身の内皮沈線を斜位に充填し縦位波状内皮沈線を加える。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	142	深鉢 L22	体部中位破片	① 粗：石英多・輝石 ② 鈍い赤褐色	2条隆線が垂下するが、おそらくU字状懸垂文か。縦位矢羽状短沈線を充填する。外面上半に保付文。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	143	深鉢 I19	体部中位破片	① 粗：石英多・輝石 ② 黒褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。弧状隆線も付けられる。側縁は2条隆線。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	144	深鉢 15	体部破片	① 粗：石英・輝石・雲母少 ② 明褐色	垂下隆線2条と縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。外面上半に少量の埋付文。	中期後葉信州系 3号土坑
第49406 PL.253	145	深鉢	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側縁は沈線。縦位沈線を充填し横位弧状沈線2条を加える。	中期後葉古
第49406 PL.253	146	深鉢 G15	体部中位破片	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い赤褐色	大型深鉢体部。垂下隆線による懸垂文構成。側縁は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する。外面上半に少量の埋付文。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	147	深鉢 魔土	体部破片	① 粗：石英・雲母多 ② 赤褐色	2条隆線による懸垂文構成。空白部は縦位斜位平行沈線により再区画され縦位矢羽状短沈線を充填する。	中期後葉信州系 272号土坑
第49406 PL.253	148	深鉢	体部破片	① 粗：石英・輝石・雲母 ② 褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。側縁は沈線。空白部は魚鱗状短沈線を埋める。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	149	深鉢 W21	体部上半破片	① 粗：石英 ② 暗赤褐色	横位隆線上位に沈線を施す。体部は縦位沈線の施文後縁部弧状沈線を加える。	中期後葉信州系
第49406 PL.253	150	深鉢 H20	体部上半破片	① 粗：石英 ② 暗赤褐色	頸部隆線上位に斜位隆線が派生する。下位は隆線が垂下し、上端渦巻文の縦位波状沈線を配す。斜位短沈線を充填する。	中期後葉古
第49406 PL.253	151	浅鉢 G15	口頸部破片	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	低位隆線による楕円状区画文構成。区内内側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。外面無文部磨削が顕著。	中期後葉
第49406 PL.253	152	浅鉢 K23	口頸部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	頸部部に横位波状沈線を設け以下沈線による多段区画。縦位短沈線を充填し。下位の小渦巻文を配す。	中期後葉
第49406 PL.253	153	深鉢 G15	体部破片	① 粗：輝石少 ② 鈍い赤褐色	垂下隆線の根幹を見る。縦位内皮沈線群を充填する。	中期後葉信州系?
第49506 PL.253	154	深鉢 G15・G16	体部中位破片	① 粗：輝石少 ② 鈍い赤褐色	地文状に縦位矢羽状沈線を施し。縦位波状沈線文を加える。懸垂文構成。	中期後葉信州系
第49506 PL.253	155	深鉢 G15	体部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。隆線段付痕を見るが判然としえない。	中期後葉信州系
第49506 PL.253	156	深鉢 X21	体部上半破片	① 粗：石英・輝石・雲母少 ② 黒褐色	内湾する体部上半。横位沈線以下縦位矢羽状短沈線を施す。	中期後葉信州系
第49506 PL.253	157	深鉢 J21	体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 褐色	深口縁か。端部磨滅する。2条沈線が垂下する懸垂文構成か。縦位弧状区画が配され横位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49506 PL.253	158	深鉢 O17	体部中位破片	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。離面状工具の回転施文による縦位波状沈線を配す。	中期後葉新古
第49506 PL.253	159	深鉢 H17	体部破片	① 粗：輝石・雲母少 ② 黄褐色	横位矢羽状短沈線を施す。破片下端に弧状沈線の根幹を見る。焼成痕。	中期後葉信州系
第49506 PL.253	160	深鉢 魔土	体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	器厚薄手。浅い縦位条線を密に施す。	中期後葉新古 83号土坑



## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	①土質 ②土色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第49504 PL-253	161	深鉢 体部上半破片	① 粗：石英少・輝石少 ② 暗褐色	胴部に横位沈線部を配す。地文は把系&縦位施文。	中期後葉古 163は同一個体
第49504 PL-253	162	深鉢 J19・J20 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 明褐色	上半部、横位沈線4条による分節。蛇行隆線が乗る。上位は斜位沈線施文後斜位隆線を貼付、下位は隆線による逆U字状巻文と気伏直線を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49504 PL-253	163	深鉢 J19・J20 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 明褐色	横位隆線4条による分節。蛇行隆線が乗る。上位は斜位沈線施文後斜位隆線を貼付、下位は隆線による逆U字状巻文と気伏直線を配す。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49504 PL-253	164	深鉢 F24 体部破片	① 粗：輝石・黄褐色 ② 褐色	横位蛇行隆線以下斜位平行沈線と斜位隆線が重なった斜格子文。	中期後葉信州系
第49504 PL-253	165	深鉢 V19 胴部破片	① 粗：輝石 ② 褐色	横位蛇行隆線以下斜位平行沈線と斜位隆線による斜格子文が配される。	中期後葉信州系
第49504 PL-253	166	深鉢 L21 体部破片	① 粗：輝石 ② 明褐色	3条の細隆線による気伏・満巻意匠が、隆線間は三角連続斜交文を用いる。空白部は短沈線を充填する。	中期後葉信州系
第49504 PL-253	167	深鉢 魔土 体部上半破片	① 粗：石英 ② 暗赤褐色	横位蛇行隆線以下斜位沈線と斜位隆線による格子目文。体部は横位蛇行隆線2条に満巻気小突起を付す。突起下部より2条の波状隆線が乗る下す。地文は縦位隆線を施す。	中期後葉信州系 89号土坑
第49504 PL-253	168	深鉢 胴部破片	① 粗：石英少 ② 黒褐色	胴部両側部に横位隆線3条を設ける。隆線間に斜交文を充填する。体部は斜位沈線と斜位隆線による斜格子文が配される。	中期後葉古
第49504 PL-253	169	深鉢 K23 口頸部破片	① 粗：石英少・輝石 ② 黄灰色	隆線による口縁部区隔点結。縦位気伏沈線と満巻文を施す。隆線上に細かな彫り形を加え、区内側面も彫り・斜交文を施す。体部に強い斜交文を見る。	中期後葉古
第49504 PL-253	170	深鉢 F22 口縁部突起	① 粗：輝石 ② 黄灰色	中空状突起。下位で横位横状に連続し縦位に貫孔する。連続部及び凸部、口唇部にS字状隆文を配す。内外面丁寧に磨研を施す。	中期後葉古
第49504 PL-253	171	深鉢 L22 口縁部突起	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	強く突出する方形状突起。下端は孔を設ける。内外面・右側面に沈線による満巻文を施す。	中期後葉信州系
第49504 PL-253	172	深鉢 J21 把手破片	① 粗：輝石 ② 黄褐色	深鉢上に設けられる大型把手か。扁平で内外面とも把手縁辺に円形斜交文を連続させる。	後期初期
第49504 PL-253	173	深鉢 J22 体部上半破片	① 粗：石英・雲母多 ② 黄褐色	あるいは口頸部か。連続斜交文による縦位断面状意匠を配す。	中期後葉信州系
第49504 PL-253	174	深鉢 H16 体部破片	① 粗：石英・雲母多 ② 鈍い黄褐色	沈線による満巻文を中核に3条の沈線で円形区画を画す。地文は縦位巻線を施す。内面磨付感。	中期後葉古
第49504 PL-253	175	深鉢 J22 口縁部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	口唇部欠損。円形斜交文が沿い、横位隆線上位は浅い斜位短沈線を施す。体部は横手沈線の土層を見る。	中期後葉古
第49504 PL-253	176	深鉢 胴部破片	① 粗：石英少・輝石 ② 褐色	両側部に横位沈線2条を設け、円形斜交文を連続させる。体部は沈線による気伏文か。地文は無彫り横位施文。	中期後葉古
第49504 PL-253	177	深鉢 H15 口縁部突起	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	波状突起か。上端を欠損。頂部より垂下した隆線3条で区画を画す。円形斜交文を側面とし斜位S字状意匠を配す。内面6枚彫りによる巻帯文を施す。	中期後葉古信州系
第49504 PL-254	178	深鉢 G15 体部下半～底部 底：S&B	① 粗：石英 ② 鈍い赤褐色	小径の底部で曲線的に開く体部下半。気伏沈線の下端を見る。地文は斜位L。	中期後葉古
第49504 PL-254	179	ミニチュア L19 底部 底：S&B	① 粗：石英・輝石 ② 明赤褐色	深鉢ミニチュア。隆線による巻帯文を4単位配す。空白部は縦位細沈線を密に充填する。	中期後葉新?
第49504 PL-254	180	付添深鉢 J22・23 胴部1/2残存	① 粗：輝石 ② 鈍い赤褐色	胴部中に凹孔を設ける。4単位か。体部は2条隆線による巻帯文を施す。空白部は細沈線による対気伏意匠や斜位隆線が配される。	中期後葉信州系
第49504 PL-254	181	付添深鉢 G16 胴部	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	胴部断面は磨滅により平滑。再利用底面として判断した。無文で磨で磨研を施す。	中期後葉
第49504 PL-254	182	付添深鉢 L24 胴部	① 粗：輝石 ② 褐色	胴部断面は磨滅により平滑。あるいは底面か。無文で、磨面磨滅する。	中期後葉
第49504 PL-254	183	深鉢 R18 口縁部突起	① 粗：石英・雲母 ② 黒褐色	「短突起状」。中心で貫孔する。隆部中に沈線を垂らし、縦位LRを充填する。突起下部より斜位隆線が発生し、円形斜交文が沿う。内面は円形斜交文を起点に沈線による気伏意匠を配す。	後期初期
第49504 PL-254	184	深鉢 口縁部突起	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	「短突起状」。中心で貫孔し隆線上に沈線を垂らる。口縁部隆線、体部斜位隆線が発生し、口縁部には円形斜交文が沿う。細網文LRを充填施文する。	後期初期
第49504 PL-254	185	深鉢 魔土 口縁部突起	① 粗：輝石多 ② 暗赤褐色	短突起状突起。頂部欠損。突起内縁、口縁隆線は円形斜交文が沿う。	後期初期 89号土坑
第49504 PL-254	186	深鉢 M19 口縁部破片	① 粗：石英・輝石・雲母少 ② 黄褐色	緩やかな波状縁。口唇部内面肥厚。押圧状の切み付す隆線による満巻文。細線施す。	中期後葉信州系
第49504 PL-254	187	深鉢 I19 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	波状縁。内面肥厚。輪状の口縁部は肥厚し、上下に円形斜交文が沿う。以下縦位LRを充填する。	後期初期
第49504 PL-254	188	深鉢 I24 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 黄褐色	口縁部内湾。口唇部より2条沈線が気伏に発生する。沈線間には円形斜交文を充填する。無文施文部はLR充填施文。内縁・斜交文とも深い施文による。	後期初期
第49504 PL-254	189	深鉢 魔土 口縁部突起	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	中空状の円形突起。上端は平坦で、上方と側面からの貫孔を推定する。円形斜交文を施す。	後期初期 50号土坑
第49504 PL-254	190	深鉢 P17 口縁部破片	① 粗：輝石 ② 暗褐色	緩やかな波状突起。沈線に面された施文部による満巻文が突起内外面を跨ぐ。LRを充填する。体部は沈線で面された気伏意匠か。LLRを充填する。内面に磨付感。	後期初期

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 土位置(体表面)	①胎土 ②色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
第49640 Pl.254	191	深鉢 口縁部破片	① 粗:白色粒 ② 黒褐色	波状縁。口唇部に沿って斜交文を施す。波頂部より2、3条の沈線が分枝懸垂する。施文は縦位L.R.	中期後葉古 7号土坑
第49640 Pl.254	192	口縁部破片 Q18	① 粗:石莖少 ② 鈍い黄褐色	口縁部下に横位隆線2条を設け、沈線間隙として大型の斜交文が面う。体部は横位L.R.を施す。	後期初葉
第49640 Pl.254	193	口縁～体部上半 破片 G15	① 粗:石莖・輝石 ② 明赤褐色	縁やかな波状縁。波頂部に小突起を付し下端より口縁部隆線が派生する。体部は沈線で画された弧状意匠を配す。縄文はL.R.充填施文。	中期末葉
第49640 Pl.254	194	深鉢 腹土 D24	① 細:輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部内張り無文。胴部以下に弧状沈線を設け、無胎L.R.を充填施文する。	後期初葉 85号土坑
第49640 Pl.254	195	口縁～体部上半 破片 D24	① 細:石莖・輝石 ② 鈍い黄褐色	幅広い無文口縁部。横位隆線を付し弧状隆線が派生する。縦位L.R.を充填する。	後期初葉
第49640 Pl.254	196	口縁～体部上半 破片 J11	① 粗:輝石 ② 鈍い褐色	口唇部に細沈線を設ける。体部は2条沈線に画された施文部満巻状意匠を配す。L.R.充填施文。内面窪付着。	後期初葉
第49640 Pl.254	197	口縁～体部上半 破片 I21	① 粗:石莖・輝石・雲母少 ② 鈍い黄褐色	口唇部内面窪か突出。体部は2条沈線に画された施文部による満巻状意匠が配される。細網又L.R.を充填する。	後期初葉
第49640 Pl.254	198	深鉢 口縁部破片	① 粗:輝石 ② 暗灰褐色	薄手の胎厚。口縁部沈線を設け以下沈線で画された施文部意匠が配される。縦位L.R.を充填する。	後期初葉
第49640 Pl.254	199	深鉢 I22	① 粗:石莖 ② 鈍い黄褐色	口縁部下に強い押圧を加える横位隆線。満巻文か。施文部意匠は胴部及充填施文。	後期初葉
第49640 Pl.254	200	深鉢 H125	① 細:輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部内溝。沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。L.R.を充填する。磨消部・内面研磨。	後期初葉
第49640 Pl.254	201	深鉢 H14	① 細:輝石 ② 灰黄褐色	あるいは鉢か。口唇部内面肥厚。体部は強い弧状沈線を施す。無胎又L.R.充填施文。	後期初葉
第49640 Pl.254	202	深鉢 X20	① 細:輝石 ② 黒褐色	波状縁。口縁部沈線以下弧状沈線に画された施文部と磨消部の交互横織。縦位L.R.を充填する。	後期初葉
第49640 Pl.254	203	深鉢 H115	① 細:輝石 ② 鈍い黄褐色	口唇部内面肥厚。沈線で画された施文部と磨消部による意匠。磨消部・内面とも丁寧な磨で平滑である。	後期初葉
第49640 Pl.254	204	深鉢 E25	① 粗:輝石 ② 灰褐色	口唇部内面。沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。縦位L.R.を充填する。	後期初葉
第49640 Pl.254	205	口縁部～体部上半 破片 I22	① 粗:石莖・輝石 ② 鈍い赤褐色	口縁部内溝。2条沈線で画された施文部による半満巻状意匠。縦位L.R.を充填する。	後期初葉
第49640 Pl.254	206	深鉢 K25	① 粗:石莖・輝石 ② 鈍い褐色	波状縁。口縁部内張り隆線を設ける。口縁部沈線以下弧状沈線を配す。	後期前葉古
第49640 Pl.254	207	深鉢 K23	① 粗:石莖・褐色粒 ② 鈍い黄褐色	波頂部。口縁部内面肥厚。沈線で画された無文部によるJ字状意匠や満巻状意匠が配される。器面磨滅。	後期初葉
第49640 Pl.254	208	深鉢 I20	① 粗:石莖 ② 鈍い褐色	口唇部横位沈線を設け、2条沈線による弧状意匠を配す。あるいは満巻文か。	後期初葉
第49710 Pl.254	209	深鉢 H115	① 粗:石莖・輝石 ② 明黄褐色	口縁部下に強い押圧を加える横位隆線を設ける。胎は無文・内外面とも磨で平滑。外面に少量の縦付着。	後期初葉
第49710 Pl.254	210	深鉢 L23	① 粗:石莖少・褐色粒 ② 明黄褐色	口唇部直下に強い押圧を施す横位隆線を設ける。体部は無文。	後期初葉
第49710 Pl.254	211	深鉢 腹土 H115	① 細:輝石少 ② 鈍い黄褐色	押圧を加えた口縁部隆線を設ける。	後期初葉 88号土坑
第49710 Pl.254	212	深鉢 H120	① 粗:輝石 ② 暗灰色	口縁部無文。横位隆線を設け円形胎付文より弧状隆線が派生する。外面窪付着。	後期初葉
第49710 Pl.254	213	深鉢 H120	① 粗:石莖・輝石 ② 鈍い褐色	口縁部無文部は幅広い。横位隆線に円形胎付文を付し、垂下隆線が派生する。	後期初葉
第49710 Pl.254	214	深鉢 腹土 J19	① 粗:石莖 ② 褐色	口縁部内張り小型の環状突起を付す。胴部以下横位沈線を施す。	後期前葉 188号土坑
第49710 Pl.254	215	深鉢 J19	① 粗:石莖(大) ② 暗灰色	口縁部無文。横位隆線に円形胎付文を付し斜位隆線が派生する。	後期初葉
第49710 Pl.254	216	深鉢 腹土 I22	① 粗:石莖 ② 鈍い褐色	口縁部直下に内溝し無文。横位隆線を設け、縁なら斜交を加える。体部は無文。	後期初葉 272号土坑
第49710 Pl.254	217	深鉢 I22	① 細:石莖・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部は幅広く下位に横位隆線を設ける。内外面とも横位研磨を施す。外面窪付着。	後期初葉
第49710 Pl.254	218	深鉢 H14・15	① 粗:石莖多 ② 明黄褐色	幅広い無文口縁部。下位に横位隆線を設け、体部に隆帯を派生する。器厚薄。	後期初葉
第49710 Pl.254	219	浅鉢 W20	① 粗:石莖 ② 灰黄褐色	波状縁。胴部胴部部に隆帯を付し、口縁部は沈線による区画文を配す。区画内は円形斜交文を充填する。	後期初葉
第49710 Pl.254	220	深鉢 口縁部突起	① 粗:輝石 ② 鈍い褐色	突出する「捻状突起」。貫孔は僅か。突起下端より斜位隆線が派生する。内面上端は喙状突起。下端は環状意匠を配す。	後期初葉
第49710 Pl.254	221	深鉢 K25	① 粗:石莖多・輝石 ② 灰褐色	体部に付せられる環状突起か。中位が貫孔する。器面磨滅し炭化物が付着する。	後期初葉?
第49710 Pl.254	222	深鉢 口縁部突起	① 細:輝石 ② 鈍い褐色	幅広い無文口縁部。正面は縦位に円孔を配し、背面は喙状突起下に捻状突起を配す。おそく下位で環状突起を付す。側面に窪付着。	後期初葉
第49710 Pl.254	223	深鉢 E25	① 粗:石莖・雲母 ② 赤褐色	沈線で画された施文部と磨消部による満巻状意匠や弧状意匠。施文部はL.R.充填施文。	後期初葉
第49710 Pl.254	224	深鉢 J19	① 粗:石莖 ② 明褐色	器厚薄手。内溝気味の体部。沈線で画された半満巻状意匠。L.R.を充填する。	後期初葉
第49710 Pl.254	225	深鉢 腹土	① 粗:石莖 ② 褐色	沈線に画された施文部・磨消部弧状意匠。満巻状意匠か。施文部は縦位L.R.充填施文。	後期初葉 92号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第49706 PL_254	226	柱口土器 J19	① 白 ② 黒	頸部細曲強い、体部は太い沈降で弧状意匠を描く。 外面磨研、内面は微凸。	後期初葉
第49706 PL_254	227	深鉢 Ⅰ	① 白・黄・黒石 ② 鈍い褐色	① 白・黄・黒石 ② 鈍い褐色	後期初葉 271号土坑
第49706 PL_254	228	深鉢 Ⅰ	① 白・黄・黒石 ② 鈍い黄褐色	隆線による弧状意匠。おそらく縦位紋文が、横位・縦位LRを充填する。外面に保付筋。	後期初葉 188号土坑
第49706 PL_254	229	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石・雲母 ② 鈍い赤褐色	2条沈降で画された磨消部J字状意匠が、施文部縦文はLR充填施文。	後期初葉 271号土坑
第49706 PL_255	230	深鉢 H124	① 粗：黒石・黒石 ② 鈍い黄褐色	2条の沈降で画された施文部横帯と磨消部意匠。縦文は横位LR充填施文。	後期初葉
第49706 PL_255	231	深鉢 J21	① 粗：黒石 ② 褐色	2条の沈降で画された磨消部弧状意匠。施文部縦文は横位LR、内面に保付筋。	後期初葉
第49706 PL_255	232	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英 ② 明赤褐色	沈降2条に画された磨消部弧状意匠。満赤意匠は小。施文部縦文はLR充填施文。	後期初葉 92号土坑
第49706 PL_255	233	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英・黒石 ② 褐色	2条沈降による満赤意匠が配される。	後期初葉
第49706 PL_255	234	深鉢 H14	① 粗：黒石少 ② 鈍い赤褐色	頸部は強く屈曲する。あるいは凹形小。横位隆線に斜交文を重ね刻状とする。以下斜位紋文を描き、沈降下位は磨研する。施文は横位LR。	後期初葉 貫系統小
第49706 PL_255	235	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英・黒石 ② 黒褐色	垂下隆線に強い凹形を加える。懸赤構成。沈降で画された施文部による弧状意匠が配される。円形斜交文を充填する。	後期初葉
第49706 PL_255	236	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石・黒色粒 ② 鈍い褐色	沈降で画された施文部による横帯意匠・弧状意匠。あるいは満赤意匠が、両立状斜交文を充填する。	後期初葉
第49706 PL_255	237	深鉢 D24	① 粗：石英多 ② 黒褐色	小型の円形貼付文を中核に弧状隆線が派生する。おそらく対弧状意匠。	後期初葉
第49706 PL_255	238	深鉢 T19	① 粗：石英少 ② 鈍い赤褐色	縦位弧状隆線2条を配す。斜線は直で、粗は無文、あるいは縦位紋文が。	後期初葉
第49806 PL_255	239	深鉢 Q17	① 粗：黒石 ② 鈍い黄褐色	波頂部に円孔を配し弧状沈降群を施す。下端に円形貼付文を付すが面部脱落する。口縁部内面は縦位意匠と縦位短沈降を施す。	後期前葉古
第49806 PL_255	240	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石 ② 褐色	波状突起を付す。頂部する口縁部。波頂部に沈降による磨消文と弧線文を配し、口縁部は円孔と横位紋文を施す。	後期前葉古
第49806 PL_255	241	深鉢 K23	① 粗：石英・黒色粒 ② 褐色	波状突起。円孔周辺を弧状沈降が充填する。横位紋文も施される。	後期前葉古
第49806 PL_255	242	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石 ② 鈍い褐色	波頂部に円孔を設け周部に弧状沈降を施す。幅状の口縁部は横位沈降を設ける。	後期前葉古
第49806 PL_255	243	深鉢 K25	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	波状突起。中に貫孔する。孔両下端に円孔を配し深い弧状隆線で繋ぐ。口唇部に沿って円文と沈降を施す。体部外面に保付筋。	後期前葉古
第49806 PL_255	244	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英・黒石 ② 鈍い赤褐色	小波状突起。波頂部に磨消線による満赤文を配す。幅状の口縁部には横位紋文を設ける。頸部と施文部で体部に沈降を設ける。以下横位LRを施す。内外面とも丁寧な磨研を施し平滑。	後期前葉古
第49806 PL_255	245	深鉢 L22	① 粗：石英・黒石 ② 明赤褐色	双波状突起小。口唇部に面を持ち、沈降による磨消文を配す。突起粗には浅い沈降を施す。	後期前葉古
第49806 PL_255	246	深鉢 H15	① 粗：黒石少 ② 褐色	隆線による口縁部凹文。頂部には満赤意匠を配す。凹内には沈降を倒側とする。	後期初葉
第49806 PL_255	247	深鉢 J19・20	① 粗：石英・黒石 ② 鈍い黄褐色	緩やかな歯状突起。波頂部に貫孔する。両側に円孔を配し横位紋文を設ける。頸部は施文。	後期前葉古
第49806 PL_255	248	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英少・黒石 ② 鈍い黄褐色	口縁部内外面とも凹形。緩やかな波状突起小。斜交文を施す。肥厚部・内面を磨研。内面下部に保付筋。	後期前葉古
第49806 PL_255	249	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石少 ② 灰黄褐色	口縁部突起有り小。頸部隆線で屈曲し、口縁部は横位沈降を施す。	後期前葉 272号土坑
第49806 PL_255	250	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石 ② 褐色	口縁部内折し、波状突起を付す。即部部に凹みを施し口縁部沈降を設ける。突起粗には弧状沈降を施す。	後期前葉 87号土坑
第49806 PL_255	251	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石 ② 灰黄褐色	口縁部隆線に8字状貼付文を付し、斜位凹を加える。体部は沈降で画された弧状意匠小。RLを充填する。	後期前葉新 271号土坑
第49806 PL_255	252	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英・黒石 ② 鈍い褐色	歯状突起の環状突起。貫孔し両下端に円孔を配す。幅状の口縁部には横位紋文を設ける。頸部と施文部で体部に斜交・垂下隆線が派生する。突起内面は円形斜交文と沈降が施される。	後期初葉
第49806 PL_255	253	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英 ② 褐色	満赤状小突起を頂部に配し、中に孔を穿つ。下端に弧状沈降と円形斜交文を施し、円孔を設ける。頸部は隆線による段で画され沈降を倒側とする。	後期前葉古
第49806 PL_255	254	深鉢 K25	① 粗：石英少 ② 灰黄褐色	縁状肥手を口縁部上部に突出する。突起各所に円形貼付文と8字状貼付文を付し、沈降で繋ぎ、外面保付筋。	後期前葉古
第49806 PL_255	255	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石 ② 褐色	波状隆。波頂部は縦位意匠を配し双波状を呈す。環状意匠中に貫孔する。体部上半は横位弧状沈降を施す。	後期前葉新
第49806 PL_255	256	深鉢 Ⅰ	① 粗：黒石 ② 鈍い褐色	歯車状の環状突起。立体的で4方からの貫孔。突起両下端に円孔を配す。幅状口縁部には沈降を設ける。突起内面には3箇所円孔が配される。	後期初葉
第49806 PL_255	257	深鉢 Ⅰ	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	貫孔する波頂部環状突起。口縁部隆線を設ける。内面には円文を3方に配し、沈降を施す。	後期前葉古

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(床面高)	① 土質 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考	
第4948号 PL.255	258	浅鉢 J122	① 緑土 ② 黒褐色	① 粗：石英・雲母少 ② 黒褐色	緩やかな波状縁か、屈曲部隆起のみ。太い沈線で施文され、口内中央は貫孔式となる。横口内面も配された横位沈線。円孔を充填する。内外面丁寧な研磨を施す。	後期前葉古
第4948号 PL.255	259	深鉢 J19	① 粗：石英 ② 黄灰色	① 粗：石英 ② 黄灰色	波状縁頂部。円孔を配す。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期前葉古
第4948号 PL.255	260	深鉢 O18	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	幅狭の口縁部に円孔と横位凹縁を施す。弧状突起は中位で貫孔する。肩部は隆起が懸垂する。	後期前葉古
第4948号 PL.255	261	深鉢 J122	① 粗：輝石少 ② 鈍い褐色	① 粗：輝石少 ② 鈍い褐色	上端に環状意匠を配す。沈線を施し円孔を中位に貫孔ではない。下位は中位に貫孔を設ける。肩部は器蓋剥離のため判別しないが、沈線を施す。	後期前葉古
第4948号 PL.255	262	深鉢 J120	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	隆起による環状突起を付す。肩位沈線を施し、横位LRを充填する。	後期前葉古
第4948号 PL.255	263	深鉢 K23	① 粗：輝石 ② 灰褐色	① 粗：輝石 ② 灰褐色	隆起による環状突起を付す。下位は横位隆起が付され肩部は無文か、内縁も突出する。	後期前葉古
第4948号 PL.255	264	深鉢 N17	① 粗：石英・輝石少 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英・輝石少 ② 鈍い黄褐色	口縁部内外面肥厚する。縦位沈線は内外面に施文する。外面には横位沈線を設ける。器厚より器みを付す細隆起が斜位に派生する。	後期前葉新
第4948号 PL.255	265	深鉢 H20	① 粗：石英 ② 褐色	① 粗：石英 ② 褐色	口縁部内外面肥厚。器厚中位が凹むが沈線ではない。無文で内外面とも研磨を施す。	後期前葉古
第4948号 PL.255	266	深鉢 K24	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部僅かに内屈し横位沈線を設ける。	後期前葉古
第4948号 PL.255	267	深鉢 W19	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英・雲母 ② 鈍い黄褐色	口縁部僅かに内屈し横位沈線を設ける。体部は無文。	後期前葉古
第4948号 PL.255	268	深鉢 J21	① 粗：輝石 ② 暗褐色	① 粗：輝石 ② 暗褐色	口縁部内面肥厚する。幅狭の口縁部に横位沈線を設ける。肩部は無文。	後期前葉古
第4948号 PL.255	269	深鉢 K23	① 粗：輝石 ② 黒褐色	① 粗：輝石 ② 黒褐色	肩部で強く隆起する。口縁部は無文。体部は横位沈線と垂下沈線を見、内外面研磨により平滑。煤付着。	後期前葉古
第4948号 PL.255	270	深鉢 J22	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	幅狭の口縁部には横位沈線を設ける。肩部屈曲部に横位沈線を施し、肩位隆起が派生する。横位LRを充填する。	後期前葉古
第4948号 PL.255	271	深鉢 J22	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部内屈し横位沈線を設ける。体部は横位沈線3条による懸垂文構成か。横位沈線を充填する。	後期前葉古
第4948号 PL.255	272	深鉢 魔土	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	口縁部内湾臭味。横位沈線を設ける。施文は深い。	後期初葉 88号土坑
第4948号 PL.255	273	鉢	① 粗：石英少 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英少 ② 鈍い黄褐色	沈線で画された縄文施文部による弧状意匠。細縄文LRを充填する。沈線施文は深い。	後期前葉新
第4948号 PL.255	274	深鉢 C24	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	横位沈線と横位弧状沈線を施す。	後期前葉古
第4948号 PL.255	275	庄口土器	① 粗：色色粒 ② 黒褐色	① 粗：色色粒 ② 黒褐色	口縁部突起を付す。体部上半に短い庄口部を付す。横位沈線が派生し、下半には沈線による方形意匠が垂下する。内外面丁寧な研磨により平滑。	後期前葉新
第4948号 PL.255	276	深鉢 K20	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	突出する把手状突起。中位より隆起が垂下し、器厚が加わる。内面は横位沈線上下に円孔が施される。	後期前葉古
第4948号 PL.255	277	深鉢 K23	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	器みを付す隆起で画された幅狭の口縁部に円孔と横位沈線を配す。肩部は無文。	後期前葉古
第4948号 PL.255	278	深鉢	① 粗：輝石少 ② 鈍い黄褐色	① 粗：輝石少 ② 鈍い黄褐色	器みを付す口縁部細隆起以下2条沈線で画された縄文施文部。横位LRを施す。口唇部内面に横位隆起2条を設ける。上位隆起は斜位器みを施す。	後期前葉新
第4948号 PL.255	279	深鉢 J21	① 粗：輝石 ② 暗褐色	① 粗：輝石 ② 暗褐色	器みを付す口縁部細隆起以下2条沈線で画された施文部による幾何学文構成か。横位LRを充填する。内面煤付着。口唇部内屈部欠損。	後期前葉新
第4948号 PL.255	280	深鉢 L25	① 粗：輝石多 ② 鈍い赤褐色	① 粗：輝石多 ② 鈍い赤褐色	口唇部内屈。横位隆起を2条設け8字状貼付文で繋ぐ。体部は横位沈線と横位LRを施す。	後期前葉新
第4948号 PL.255	281	深鉢 魔土	① 粗：石英・輝石・片岩 ② 鈍い黄褐色	① 粗：石英・輝石・片岩 ② 鈍い黄褐色	口唇部内屈。器みを付す口縁部隆起を設け、8字状貼付文を付す。体部上半には横位沈線と横位LRを施す。	後期前葉新 87号土坑
第4948号 PL.255	282	深鉢 K25	① 粗：輝石 ② 明赤褐色	① 粗：輝石 ② 明赤褐色	小形深鉢。口唇部僅かに内屈。器みを付す口縁部細隆起を設け横位沈線2条に画されたLR施文部を配す。	後期前葉新
第4948号 PL.255	283	深鉢 K23	① 粗：輝石 ② 灰黄褐色	① 粗：輝石 ② 灰黄褐色	口唇部強く内屈。器みを付す口縁部細隆起に8字状貼付文が重なる。	後期前葉新
第4948号 PL.256	284	深鉢	① 粗：石英・輝石 ② 灰黄褐色	① 粗：石英・輝石 ② 灰黄褐色	口縁部内屈。口縁部隆起に押印状の器みを施す。	後期前葉新
第4948号 PL.256	285	深鉢	① 粗：輝石 ② 褐色	① 粗：輝石 ② 褐色	口縁部弱く内屈する。器みを施す口縁部細隆起を付す。以下は器蓋剥離のため判別しない。	後期前葉新
第4948号 PL.256	286	深鉢 魔土	① 粗：石英・輝石多 ② 鈍い褐色	① 粗：石英・輝石多 ② 鈍い褐色	口唇部内屈。口縁部に器みを付す横位隆起2条を設ける。内外面丁寧な研磨を施す。	後期前葉新 188号土坑
第4948号 PL.256	287	深鉢 魔土	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	口唇部内屈。口縁部に横位隆起2条を設け、8字状貼付文を重ねる。内外面とも丁寧な研磨を施す。	後期前葉新 188号土坑
第4948号 PL.256	288	深鉢 J3	① 粗：輝石 ② 暗褐色	① 粗：輝石 ② 暗褐色	口縁部内屈。肩部に沈線を設ける。押印状の器みを付す細隆起2条を設ける。体部横位沈線も施される。	後期前葉新
第4948号 PL.256	289	深鉢 J122	① 粗：輝石 ② 黄灰色	① 粗：輝石 ② 黄灰色	口唇部隆起部高。横位隆起を設け、沈線を細線とする。下位沈線は低線状となる。口唇部内面に横位沈線を施す。内外面とも丁寧な研磨。	後期中葉

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	部種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 土 ② 土 ③ 土 ④ 土	文 様 の 特 徴 等	備 考
第4990E PL.256	290	深鉢 I 20・J 19・J 20	① 粗：輝石 ② 黒褐色	胴部曲に横位沈線3条を設け、8字伏貼付文を重ねる。体部は沈線による弧状意匠を配す。捺捺し横位施文。291・292は同一個体。	後期前葉古 188号土坑
第4990E PL.256	291	深鉢 I 20・J 19・J 20	① 粗：輝石 ② 黒褐色	胴部曲に横位沈線3条を設け、8字伏貼付文を重ねる。体部は沈線による弧状意匠を配す。捺捺し横位施文。	後期前葉古
第4990E PL.256	292	深鉢 体部上半破片 魔土	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	横位弧状沈線を3条配し、円形貼付文を重ねる。	後期前葉 188号土坑
第4990E PL.256	293	深鉢 I 20・J 19・J 20	① 粗：石英粒 ② 黒褐色	胴部前部曲に横位沈線。以下体部には彫形意匠の磨り消し縄文様。	後期前葉古
第4990E PL.256	294	深鉢 体部破片	① 粗：輝石 ② 黒褐色	斜位沈線3条による懸垂文構成。空白部は無彫Lを充填する。	後期前葉古
第4990E PL.256	295	深鉢 体部破片 V 20	① 粗：石英・輝石 ② 灰黄褐色	3条の沈線による弧状区画文。無彫Lを充填施文する。	後期前葉古
第4990E PL.256	296	深鉢 X 20	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	4条の沈線による矩形区画文。区内には斜位沈線を施す。横位LR充填施文。	後期前葉古
第4990E PL.256	297	深鉢 K 23	① 粗：輝石 ② 鈍い黄褐色	4条の斜位沈線で画された区画文構成。横位LR充填施文。沈線部は研磨を加える。	後期前葉古
第4990E PL.256	298	注口土器 I.25	① 粗：白色粒 ② 灰褐色	3条の沈線による横位帯状意匠。沈線間には細かな彫文を充填する。	後期前葉新
第5000E PL.256	299	深鉢 I.23	① 粗：石英・輝石 ② 黒褐色	2条沈線で画された施文部と磨消部による渦巻状意匠。細縄文LRを充填する。	後期前葉新
第5000E PL.256	300	深鉢 体部上半破片 魔土	① 粗：石英・輝石 ② 明褐色	薄手の彫厚。沈線による渦巻状意匠と弧状意匠。横位無彫LRを地文とする。	後期前葉 85号土坑
第5000E PL.256	301	注口土器 M13	① 粗：石英・輝石 ② 灰黄褐色	2条沈線で画された施文部による横位S字状意匠が連結する。下層は横位沈線で画す。細縄文LRを充填する。無彫部は研磨により平滑。内面は凹凸を見る。	後期前葉新
第5000E PL.256	302	深鉢 体部上半破片 魔土	① 粗：石英 ② 褐色	内湾する体部。2条沈線で画された磨消部弧状意匠。L.R充填施文。	後期前葉 86号土坑
第5000E PL.256	303	深鉢 体部破片	① 粗：石英・輝石多 ② 鈍い黄褐色	低位隆線による弧状区画。区内内側縁は沈線でLRを充填する。	中期後葉新
第5000E PL.256	304	深鉢 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗赤褐色	弧状沈線で画された施文部と磨消部。施文部は細縄文LRを充填する。	後期前葉古
第5000E PL.256	305	深鉢 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	数条の斜位沈線による懸垂文構成。中位に列状伏貼付文を横位に施す。	後期前葉古
第5000E PL.256	306	深鉢 体部破片	① 粗：石英 ② 鈍い黄褐色	2条沈線で画された施文部懸垂文構成。斜突文を充填する。	後期前葉古
第5000E PL.256	307	深鉢 C 25	① 粗：石英 ② 鈍い褐色	横位隆線に強い削突文を加え網状とする。下位隆線は沈線。無彫LRを充填施文する。	後期前葉古
第5000E PL.256	308	赤7 L.25	① 粗：輝石多 ② 鈍い褐色	胴部前部曲に横位平行沈線2条を設ける。体部は無文で丁寧な研磨のため平滑。内面は弱い研磨を施す。	後期前葉古
第5000E PL.256	309	深鉢 G 23	① 粗：輝石 ② 鈍い褐色	内湾する体部。沈線で画された磨消部横位意匠。以下LR充填施文。	後期初期
第5000E PL.256	310	深鉢 R18	① 粗：石英・輝石・片岩 ② 鈍い黄褐色	2条沈線で画された縄文施文部による幾何学文構成。LRを充填し。無彫部は丁寧な研磨を施す。	後期前葉新
第5000E PL.256	311	深鉢 魔土	① 粗：輝石多 ② 鈍い褐色	沈線で画された施文部と磨消部の交互配列。おそろい幾何学文構成。LR充填施文。	後期前葉新 188号土坑
第5000E PL.256	312	深鉢 P17	① 粗：輝石多 ② 灰黄褐色	口縁部隆線に削突を施す。体部は沈線で画された施文部と磨消部による幾何学文構成。LR充填施文。	後期前葉新
第5000E PL.256	313	深鉢 H15	① 粗：輝石 ② 黒色	2条の沈線で画された施文部弧状意匠。横位LRを充填施文する。	後期前葉古
第5000E PL.256	314	深鉢 体部下半破片	① 粗：輝石多 ② 暗褐色	体部下半に一次区画線とする沈線を設ける。上位は横位沈線と2条による施文部幾何学文が配される。L.Rを充填。	後期前葉新
第5000E PL.256	315	深鉢 魔土	① 粗：石英・雲母少 ② 鈍い黄褐色	沈線で画された施文部による幾何学文構成。横位LRを充填する。表面磨滅。	後期前葉新 85号土坑
第5000E PL.256	316	深鉢 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い赤褐色	2条沈線で画された施文部斜位意匠。三角区画文か。細縄文LRを充填する。	後期前葉新 90号土坑
第5000E PL.256	317	深鉢 魔土	① 粗：輝石多 ② 鈍い褐色	沈線で画された施文部横位意匠。幾何学文か。LR充填施文。磨消部研磨が顕著。	後期前葉新 188号土坑
第5000E PL.256	318	深鉢 魔土	① 粗：輝石 ② 褐色	太い沈線で画された弧状意匠。細縄文LRを充填する。	後期前葉 83号土坑
第5000E PL.256	319	深鉢 体部破片	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	2条の沈線で画された磨消部による横位弧状意匠。施文部は横位LRを充填する。	後期前葉新
第5000E PL.256	320	火鉢 体部破片	① 磨滅；白色粒 ② 暗褐色	横位沈線で体部を画す。上下とも交互の縦面文を施す。内面に白色付着物を見る。	近世前
第5000E PL.256	321	深鉢 M22・23	① 粗：輝石 ② 暗赤褐色	削みを付す横位隆線以下2条沈線で画された施文部による幾何学文構成。横位LRを充填する。	後期前葉新
第5000E PL.256	322	深鉢 体部上半破片	① 粗：石英・輝石 ② 暗褐色	削みを付す口縁部隆線以下細縄文で画された磨消部区画文構成。施文部縄文はLR充填施文。	後期前葉新
第5000E PL.256	323	深鉢 魔土	① 粗：雲母少 ② 黒褐色	帯かに内湾意味の体部下半。上半には横位沈線を設け細縄文LRを横位施文する。	後期前葉新 88号土坑
第5000E PL.256	324	深鉢 J 3	① 粗：石英・輝石 ② 鈍い褐色	縦やかに内湾する体部上半。削みを付す横位隆線を2条設ける。内外面研磨を施す。	後期前葉新
第5000E PL.256	325	鉢 J 22	① 粗：石英 ② 灰黄褐色	強い凹曲を呈す。上位に削みを施す横位隆線を付す。内外面とも磨滅調整。	後期前葉新

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(体面高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考		
第50018 PL-256	326	深鉢 K25	口縁部破片	① 胎：輝石 ② 褐色	口唇部欠損。切みを付す口縁部細線隆2条を8字状貼付が確認して重なる。	後期前葉新 92号土坑	
第50018 PL-256	327	深鉢 魔土	胴部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い黄褐色	強く外反する口縁部上端に横位沈線を設ける。口縁部は縦位研磨に刺突文が白く。	後期前葉 85号土坑	
第50018 PL-256	328	深鉢 魔土	胴部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い褐色	切みを加えた細線隆1条による懸垂文構成。空白部は横位研磨を念入に施す。	後期前葉新 272号土坑	
第50018 PL-256	329	庄口土器 K25	胴部破片	① 胎：石英 ② 鈍い褐色	大型品か。胴部曲に2条の沈線を設ける。体部は3条の沈線による横位波状文を配す。沈線間は細かな刺突文を充填する。外面は磨きにより平滑。内面は凹凸が顕著。	後期前葉新	
第50018 PL-256	330	庄口土器 M25	体部上半破片	① 胎：白色粒少 ② 褐色	器厚薄手。上半の横位沈線以下沈線による垂筒形状意匠を配す。沈線間に細かな刺突文を施す。内面凹凸顕著。	後期前葉新	
第50018 PL-256	331	深鉢 魔土	体部破片	① 胎：小礫・輝石 ② 鈍い黄褐色	緩やかに内湾する体部。列点状刺突文を縦位に施す。横位LRを充填する。	後期前葉 84号土坑	
第50018 PL-256	332	深鉢 魔土	体部破片	① 胎： ② 鈍い黄褐色	厚手の器厚。縦線文LRを横位に施す。	後期前葉 86号土坑	
第50018 PL-256	333	深鉢 魔土	体部破片	① 胎：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	上半は縦線文LRを横位施す下半は斜位垂線を密に施す。	後期前葉新	
第50018 PL-256	334	深鉢 W21	体部破片	① 胎：輝石粒少 ② 鈍い赤褐色	縦線文横位LRが器面を覆う。器厚薄手。	後期前葉新	
第50018 PL-256	335	深鉢 L121	体部破片	① 胎：石英・片岩少 ② 鈍い黄褐色	縦位LRを施す。	後期前葉古	
第50018 PL-256	336	深鉢 魔土	体部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い褐色	縦位RLが器面を覆う。	後期前葉 89号土坑	
第50018 PL-256	337	深鉢 魔土	体部破片	① 胎：輝石 ② 黄褐色	無文。外面は丁寧な研磨。内面は撫で調整を施す。	後期前葉新 89号土坑	
第50018 PL-256	338	深鉢 D24	体部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い黄褐色	やや厚手の器厚。無筋LRを乱雑に施す。	後期前葉古	
第50118 PL-256	339	深鉢 Q17	体部中位破片	① 胎：石英・雲母少 ② 黒褐色	2条沈線で画された間を列点状刺突文を充填する。空白部も刺突文を乱雑に施す。	後期前葉越後系?	
第50118 PL-256	340	深鉢 H115	胴部破片	① 胎：石英 ② 黒褐色	胴部が強く屈曲する器形か。体部は強い爪形状刺突文を縦位に施す。	後期前葉越後系	
第50118 PL-256	341	深鉢 魔土	体部破片	① 胎：白色粒 ② 鈍い赤褐色	強い横位刺突列が器面を覆う。器厚薄手。	後期前葉越後系	
第50118 PL-257	342	深鉢 W20	体部破片	① 胎：石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	斜位に強い刺突文が連続する。器厚薄手。	後期前葉越後系	
第50118 PL-257	343	深鉢 魔土	体部破片	① 胎：白色粒 ② 鈍い褐色	先端方形工具の強い刺突文が器面を覆う。	後期前葉越後系	
第50118 PL-257	344	深鉢 魔土	体部破片	① 胎：石英・輝石 ② 黄褐色	内湾する体部。強い横位刺突文が器面を覆う。あるいは土製内盤か。	後期前葉越後系 177号土坑	
第50118 PL-257	345	深鉢 L-?	体部破片	① 胎：白色粒 ② 鈍い赤褐色	横位刺突文が器面を覆う。施文は強い。	後期前葉越後系	
第50118 PL-257	346	深鉢 L-?	体部破片	① 胎：白色粒 ② 鈍い赤褐色	刺突文を施す。施文は比較的強いが小型で集団性の無い施文。	後期前葉越後系	
第50118 PL-257	347	深鉢	口縁部破片	① 胎：輝石多 ② 褐色	強く内湾する口縁部。無文で内外面とも撫で調整を施す。	中期後葉	
第50118 PL-257	348	深鉢 H115	口縁部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い黄褐色	口縁部内面肥厚。体部上半に緩やかな内湾を持たせる。内外面研磨を施す。赤彩短跡は不明。	中期後葉	
第50118 PL-257	349	深鉢 I19	口縁部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い褐色	大型の深鉢。口縁部は大きく開き。胴部が屈曲する。無文で外面は緩な研磨。内面は丁寧な研磨を施す。	中期後葉信州系	
第50118 PL-257	350	浅鉢 G20	口縁部破片	① 胎：石英多・輝石 ② 灰褐色	口唇部外面強く突出。無文で内外面とも丁寧な横位研磨を施す。明瞭な赤彩短跡は見られない。	中期後葉	
第50118 PL-257	351	浅鉢 G15	口縁部破片	① 胎：石英・輝石 ② 鈍い褐色	口唇部内面肥厚。無文で内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩短跡がほぼ全箇所は不明。	中期後葉	
第50118 PL-257	352	鉢? 魔土	口縁部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い褐色	口唇部内面肥厚。緩やかな内湾を示す。口唇部直下に縦位の凹線を施す。体部は無文。	後期初期 89号土坑	
第50118 PL-257	353	深鉢	口縁部破片	① 胎：石英・輝石多 ② 褐色	口縁部外面有段状に肥厚する。沈線を倒縁とする。他は無文。	後期前葉古	
第50118 PL-257	354	深鉢?	口縁部破片	① 胎：輝石・褐色粒 ② 鈍い黄褐色	口縁部強く屈曲する。無文で撫で調整を施す。	後期前葉 91号土坑	
第50118 PL-257	355	深鉢 魔土	口縁部破片	① 胎：石英・雲母 ② 暗赤褐色	口唇部内屈。外面は無文で撫で調整。内面は弱い研磨を施す。	後期前葉 84号土坑	
第50118 PL-257	356	深鉢 魔土	口縁部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い褐色	口縁部強く内湾する。内外面とも丁寧な撫で調整が及ぶ。	中期後葉 3号土坑	
第50118 PL-257	357	深鉢 魔土	口縁部破片	① 胎：石英・輝石 ② 灰黄褐色	口唇部内屈。無文で内外面とも丁寧な撫で調整を施す。	後期前葉 177号土坑	
第50118 PL-257	358	鉢?	口縁部破片	① 胎：石英・輝石 ② 褐色	小径で内湾する口縁部。無文で外面撫で調整。内面研磨調整を施す。	後期前葉古	
第50118 PL-257	359	深鉢 M18	口縁部破片	① 胎：石英・輝石 ② 褐色	口縁部内屈。口縁部2条の横位細線隆を設ける。器面磨光。	後期前葉古	
第50118 PL-257	360	深鉢 H121	口縁部破片	① 胎：輝石 ② 鈍い黄褐色	波状隆。底頂部に強く挟りを入れ反波状効果を見せる。体部は無文。	後期前葉古	
第50118 PL-257	361	深鉢	口縁部破片	① 胎：石英・輝石 ② 暗褐色	口縁部内面椎かたに肥厚する。無文で外面は丁寧な研磨を施す。	後期前葉古	
第50118 PL-257	362	深鉢 魔土	口縁部破片	① 胎：石英・輝石 ② 灰黄褐色	① 胎：石英・輝石 ② 灰黄褐色	口縁部角頭状をなし。口縁部は無文。やや歪みを見る。	後期前葉新 87号土坑

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No.	部種・部位・残存 出土位置(係面高)	① 土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第50106 PL-257	363	深鉢 口縁部破片	① 釉: 輝石多 ② 灰黄褐色	薄手で無文の口縁部、外面に煤が付着する。	後期前葉新 野土皿
第50106 PL-257	364	注口土器 I.21	① 釉: 石英 ② 鈍い黄褐色	楕状把手。外縁に沈線が深い。縦位沈線を加える。体部は沈線による輪帯横円直径か、細かな斜突文を施す。	後期前葉新
第50106 PL-257	365	注口土器 I.19	① 釉: 輝石・褐色粒 ② 鈍い褐色	やや短い注口部。無文で縦位磨面を施す。基部に沈線文の上端を見るが判然としない。	後期前葉新
第50106 PL-257	366	深鉢 G.15	① 釉: 石英 ② 黒褐色	狭く開く体部下平。内外面とも丁寧な磨面を施し平磨。底面に網代模を残す。	後期前葉新
第50106 PL-257	367	深鉢 底面破片 底: (11.0)	① 釉: 白色粒・褐色粒 ② 鈍い褐色	大型深鉢か。体部下平は狭く開く。無文。底面に木炭灰を見る。断面磨面。やや軟弱。	後期前葉新
第50106 PL-257	368	深鉢 K.23	① 釉: 輝石・褐色粒 ② 明赤褐色	直立気味の体部。器外Rを縦位施文する。内底面に煤が付着。	中期中葉
第50106 PL-257	369	浅鉢? 底面破片 底: (10.0)	① 釉: 輝石 ② 鈍い黄褐色	薄手の器厚。内外面とも丁寧な磨面のため平滑。底面に網代模を見る。	後期
第50106 PL-257	370	深鉢 I.22	① 釉: 石英・雲母少・褐色粒 ② 鈍い褐色	大型深鉢底面。体部下平は大きく開く。外面は網代模で調整。内面は丁寧な磨面を施す。	後期前葉新
第50106 PL-257	371	深鉢 横土 底: (12.0)	① 釉: 石英少・輝石 ② 明褐色	底部僅かに変出し外反気味に開く体部。無文。底面に網代模を見る。	後期前葉新 野土皿
第50106 PL-257	372	深鉢 J.19	① 釉: 石英多 ② 黄褐色	端部は張り出し。外反気味の体部下平。無文で微で調整を施す。	後期前葉新
第50206 PL-257	373	土製円盤 J.19	① 釉: 輝石 ② 黄褐色	深鉢体部破片を利用。沈線で画された磨消部と縦位施文部。縦位LR。周縁は斜磨調整で整形する。	中期後葉新
第50206 PL-257	374	土製円盤 定形 6.5×3.5×0.9	① 釉: 輝石 ② 鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。沈線を施す。周縁は意図的な磨滅で丁寧に整形する。	中期末葉
第50206 PL-257	375	土製円盤 K.20 3.2×3.1×0.9	① 釉: 輝石 ② 明赤褐色	深鉢体部破片を利用。2条磨面を付す。断面磨滅するため周縁調整は不明。	中期後葉
第50206 PL-257	376	土製円盤 K.25 4.1×4.1×1.1	① 釉: 輝石 ② 灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。沈線に画された磨消部とRLを施す。周縁は意図的な磨滅で丁寧に施し円形に仕上げ。	中期後葉古
第50206 PL-257	377	土製円盤 I.20 3.3×2.9×1.1	① 釉: 石英少 ② 鈍い赤褐色	深鉢体部破片を利用。縦位沈線と斜位沈線を見る。周縁は丁寧に磨滅調整を施し円形に仕上げている。	中期後葉信州系
第50206 PL-257	378	土製円盤 定形 3.7×3.6×1.1	① 釉: 輝石 ② 明赤褐色	深鉢体部破片を利用。縦位沈線と斜位沈線を見る。周辺は意図的な磨滅で丁寧に仕上げている。	中期後葉信州系
第50206 PL-257	379	土製円盤 定形 3.6×3.2×0.8	① 釉: 石英 ② 鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。縦位沈線とL位RLを施す。周縁は一部に意図的な磨滅、斜磨整形を主とする。	中期末葉
第50206 PL-257	380	土製円盤 定形 4.5×3.3×0.9	① 釉: 輝石 ② 鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。沈線による溝帯状意匠を見る。周縁は意図的な磨滅。	中期後葉
第50206 PL-257	381	土製円盤 J.22 3.1×2.9×0.9	① 釉: 輝石 ② 褐色	深鉢体部破片を利用。垂下沈線と縦位LRを施す。周縁は一部に意図的な磨滅調整を加える。	中期後葉新
第50206 PL-257	382	土製円盤 定形 4.7×4.5×1.4	① 釉: 輝石多 ② 灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。LRが薄う。周縁は斜磨調整による整形。	中期後葉新
第50206 PL-257	383	土製円盤 定形 3.4×3.2×1.1	① 釉: 石英 ② 鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。地文縦位LRで気状沈線を施す。周縁の磨滅は一部に止まる。	中期後葉古
第50206 PL-257	384	土製円盤 I.22 3.3×3.2×0.9	① 釉: 輝石少 ② 鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。無節Lを施す。周縁は一部に意図的な磨滅調整を加え円形に仕上げ。	中期末葉
第50206 PL-257	385	土製円盤 L.23 4.1×3.3×0.9	① 釉: 輝石 ② 鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無節Lを施す。周縁は斜磨調整で整形する。	中期末葉
第50206 PL-257	386	土製円盤 一部欠損 L.22 3.5×3.4×0.8	① 釉: 石英・輝石 ② 明褐色	深鉢体部破片を利用。縦位RLを施す。周縁は意図的な磨滅で丁寧に仕上げ。	中期後葉
第50206 PL-257	387	土製円盤 定形 4.2×3.5×1.0	① 釉: 輝石 ② 鈍い黄褐色	深鉢体部破片を利用。外部磨滅のため判然としない。周縁は意図的な磨滅。	時期不詳 中期か
第50206 PL-257	388	土製円盤 一部欠損 Q.21 4.4×4.2×0.8	① 釉: 石英・輝石・雲母少 ② 黒褐色	深鉢体部破片を利用。無文で微で調整を施す。周縁は意図的な磨滅調整で仕上げ。	中期後葉
第50206 PL-257	389	土製円盤 J.22 6.4×6.4×1.8	① 釉: 石英 ② 鈍い褐色	深鉢体部下平破片を利用。無文で縦位調整を施す。周縁は斜磨調整で整形する。	中期後葉新
第50206 PL-257	390	土製円盤 L.23 5.0×4.8×0.7	① 釉: 石英・雲母 ② 暗褐色	深鉢体部破片を利用。無文で平坦である。周縁は一部に意図的な磨滅を加える。	中期後葉
第50206 PL-257	391	土製円盤 J.19 6.3×5.4×1.3	① 釉: 輝石 ② 鈍い褐色	深鉢体部下平破片を利用。外反部を付す。無文で調整を施す。周縁は一部に意図的な磨滅を加える。	中期後葉
第50206 PL-258	392	土製円盤 L.24 4.6×4.6×1.0	① 釉: 輝石 ② 鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で縦位磨面を見る。磨消部か。周縁は斜磨調整で整形する。	中期後葉新
第50206 PL-258	393	土製円盤 外面磨滅 4.1×4.1×1.1	① 釉: 輝石少 ② 灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。条線を施す。周縁は丁寧に斜磨調整で円形に仕上げ。	中期後葉新
第50206 PL-258	394	土製円盤 L.24 4.0×3.7×1.0	① 釉: 石英・輝石 ② 明赤褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部か。周縁は斜磨調整で整形する。	中期後葉新
第50206 PL-258	395	土製円盤 Q.18	① 釉: 石英少 ② 暗褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部か。周縁は斜磨調整で円形に仕上げ。	中期後葉新
第50206 PL-258	396	土製円盤 定形 3.5×3.1×1.0	① 釉: 石英・輝石 ② 灰黄褐色	深鉢体部破片を利用。無文でおそらく磨消部と思われる。周縁は斜磨整形のみ。	中期後葉新
第50206 PL-258	397	土製円盤 定形 3.9×3.6×1.0	① 釉: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部か。周縁は斜磨調整のみの整形。	中期後葉
第50206 PL-258	398	土製円盤 L.23 3.4×3.0×1.2	① 釉: 石英 ② 褐色	深鉢体部破片を利用。無文で磨消部か。周縁は斜磨調整で整形する。	中期後葉新

検出番号 図面番号	No	器種・部位・残存 出土位置(採掘高)	① 胎土 ② 色	文 様 の 特 徴 等	備 考
第502図 PL_258	399	土製円盤 I 25 完形 3.4×3.1×1.2	① 胎: 石英・輝石 ② 褐色	深鉢底部破片を利用、斜位沈線を施す。周縁は剥離調整で整形する。内面白色付着物。	中期後葉新
第502図 PL_258	400	土製円盤 外面新痕 4.4×3.4×1.3	① 胎: 石英・雲母 ② 灰黄褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面と思われる。周縁は剥離調整のみの整形。	中期後葉新
第502図 PL_258	401	土製円盤 一部欠損 6.0×5.9×1.2	① 胎: 輝石 ② 明褐色	深鉢体内両部破片を利用。沈線による弧状沈線、LRを施す。周縁は剥離調整による整形。	後期前葉古
第502図 PL_258	402	土製円盤 一部欠損 M16 5.9××0.9	① 胎: 石英・輝石少 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。2条の沈線及びLRを施す。周縁は一部意図的な磨減で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	403	土製円盤 完形 S24 5.6×5.2×0.9	① 胎: 輝石 ② 褐色	深鉢上部半破片を使用。横位沈線、弧状沈線を見る。周縁は意図的な磨減で丁寧に整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	404	土製円盤 完形 L22 4.9×4.8×0.9	① 胎: 石英・輝石少 ② 鈍い褐色	深鉢上部半破片を利用。横位沈線2条を施す。周縁は意図的な磨減で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	405	土製円盤 完形 Q17 6.4×5.9×1.0	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。弧状沈線を見る。周縁は一部意図的な磨減を見るが剥離調整を主とする。	後期前葉古
第502図 PL_258	406	土製円盤 完形 5.0×4.6×1.1	① 胎: 輝石・雲母少 ② 明褐色	深鉢底部半破片を利用。横位沈線と弧状沈線を施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	407	土製円盤 完形 M20 4.9×4.2×1.2	① 胎: 石英 ② 鈍い黄褐色	深鉢1部破片を利用。縦線による磨減文。周縁は意図的な磨減調整で円形に仕上げる。	後期前葉古
第502図 PL_258	408	土製円盤 完形 3.8×3.5×0.8	① 胎: 輝石 ② 灰黄褐色	深鉢底部破片を利用。横位沈線と縦位RLを施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	409	土製円盤 完形 K23 3.1×3.5×1.3	① 胎: 石英・輝石 ② 明褐色	深鉢底部破片を利用。横位弧状沈線数条を見る。周縁は一部意図的な磨減調整を施す。	後期前葉古
第502図 PL_258	410	土製円盤 完形 Q18 3.3×3.2×1.1	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	深鉢底部破片を利用。横位沈線を数条施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	411	土製円盤 完形 4.1×3.3×0.5	① 胎: 輝石 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。押圧を加えた隆線を施す。周縁は意図的な磨減調整で丁寧に仕上げる。	後期前葉古
第502図 PL_258	412	土製円盤 完形 3.3×2.2×1.0	① 胎: 輝石 ② 灰黄褐色	深鉢底部破片を利用。縦溝文LSを施す。周縁は一部意図的な磨減、剥離調整を主とする。	後期前葉古
第502図 PL_258	413	土製円盤 完形 3.2×3.2×0.9	① 胎: 石英少 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。無節L縦位沈線。周縁の磨減は丁寧に円形に仕上げる。	後期前葉古
第502図 PL_258	414	土製円盤 完形 J19 3.4×3.2×0.9	① 胎: 石英 ② 褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面施す。周縁は丁寧に剥離調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	415	土製円盤 完形 K25 7.7×7.5×1.2	① 胎: 輝石少 ② 灰黄褐色	深鉢底部破片を利用。底面網代紋を見る。周縁は一部意図的な磨減を施し整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	416	土製円盤 完形 5.0×4.7×1.0	① 胎: 石英・輝石 ② 褐色	深鉢底部破片を利用。網代紋を見る。周縁は剥離調整による整形。	後期前葉古
第502図 PL_258	417	土製円盤? J20 5.3×4.7×1.5	① 胎: 石英 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。網代紋を見る。周縁は剥離調整による整形。	後期
第502図 PL_258	418	土製円盤 完形 H14 5.4×4.5×0.6	① 胎: 輝石・褐色粒 ② 明褐色	深鉢底部半を利用。斜位LRを施す。周縁は意図的な磨減で丁寧に整形する。	後期初期
第502図 PL_258	419	土製円盤 完形 J19 3.9×3.6×1.0	① 胎: 石英少 ② 明褐色	深鉢底部破片を利用。浅い縦位沈線を施す。周縁は意図的な磨減調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	420	土製円盤 完形 L22 5.7×5.7×1.1	① 胎: 石英少 ② 褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整を施す。周縁は剥離調整による整形。	後期前葉古
第502図 PL_258	421	土製円盤 一部欠損 6.3×6.4×1.1	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整が顕著。周縁は意図的な磨減調整で円形に整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	422	土製円盤 完形 K-7 4.0×3.8×0.9	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整を施す。周縁は意図的な磨減調整で円形に仕上げる。	後期前葉古
第502図 PL_258	423	土製円盤 完形 J22 4.6×4.1×1.2	① 胎: 石英 ② 明褐色	深鉢底部破片を利用。隆線1条を見る。周縁は意図的な磨減調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	424	土製円盤 完形 4.0×3.6×0.9	① 胎: 石英・輝石 ② 褐色	深鉢底部破片を利用。無文。周縁の磨減は無く、剥離調整のみである。	後期前葉古
第502図 PL_258	425	土製円盤 完形 K23 4.2×4.1×0.9	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。無文で横位沈で調整を施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	426	土製円盤 一部欠損 I 22 3.4×3.3×0.9	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面施す。周縁は意図的な磨減調整で円形に仕上げる。	後期前葉古
第502図 PL_258	427	土製円盤 完形 J21 5.5×5.1×0.8	① 胎: 輝石 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。無文で丁寧に磨面調整で整形する。	後期前葉古
第502図 PL_258	428	土製円盤 完形 J-7 4.1×4.1×0.9	① 胎: 輝石少 ② 褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整を施す。周縁は剥離調整による整形。	後期前葉古
第502図 PL_258	429	土製円盤 完形 I 20 3.7×3.5×0.9	① 胎: 石英・輝石 ② 鈍い黄褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整を施す。周縁は意図的な磨減調整で円形に仕上げる。	後期前葉古
第502図 PL_258	430	土製円盤 1/2欠損 5.6×××1.2	① 胎: 石英 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整後葉面研磨を施す。周縁は剥離調整のみの整形。	後期前葉古
第502図 PL_258	431	土製円盤 完形 L24 3.9×2.9×1.2	① 胎: 輝石 ② 鈍い赤褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整。周縁は一部意図的な磨減を見る。	時期不詳
第502図 PL_258	432	土製円盤 外面新痕 (3.8×3.5)×1.0	① 胎: 輝石 ② 黒褐色	深鉢底部破片を利用。無文か。周縁は意図的な磨減調整による整形。	時期不詳
第502図 PL_258	433	土製円盤 完形 L24 3.4×3.6×1.0	① 胎: 輝石・褐色粒 ② 鈍い褐色	深鉢底部破片を利用。無文で磨面調整を施す。周縁は剥離調整で整形する。	後期前葉古

## 5区 遺構外出土石器(第504～512図: PL\_259～261)

検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第504図 PL_259	1	石鏃	K-3	完形	2.5	1.5	0.2	0.6	凹基無茎、挟りが深く細身の作り。	黒曜石	



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	遺種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第5048区 PL-259	2	石礫	5区	完形	2.5	1.7	0.5	0.9	凹基無茎、挟りは弧状となる。	黒曜石	
第5048区 PL-259	3	石礫	1-3	完形	1.8	1.0	0.3	0.5	凹基無茎、細身の小型品。	黒曜石	
第5048区 PL-259	4	石礫	5区	完形	1.8	1.1	0.3	0.3	凹基無茎、細身の小型品。	チャート	
第5048区 PL-259	5	石礫	L-2	完形	2.0	1.5	0.4	0.8	凹基無茎、脚は左右非対称。	黒曜石	
第5048区 PL-259	6	石礫	5区	ほぼ 完形	1.9	1.5	0.4	0.5	凹基無茎、先端部にやや厚みがある。	黒曜石	
第5048区 PL-259	7	石礫	5区	ほぼ 完形	2.3	1.7	0.4	0.9	凹基無茎、挟りは深い。	黒曜石	
第5048区 PL-259	8	石礫	5区	完形	1.6	1.2	0.4	0.3	小型の凹基無茎、挟りは浅い。	黒曜石	
第5048区 PL-259	9	石礫	5区	完形	1.6	1.6	0.3	0.5	凹基無茎、ほぼ正三角形で挟り浅い。	黒曜石	
第5048区 PL-259	10	石礫	5区	完形	2.1	1.6	0.6	1.5	凹基無茎、片面に盛り上がりあり、縁辺部のみの剥離 形状。	黒色頁岩	
第5048区 PL-259	11	石礫	5区	完形	1.6	1.2	0.4	0.5	凹基無茎、小型品だが厚みを有す。	黒曜石	
第5048区 PL-259	12	石礫	5区	完形	1.7	1.5	0.4	0.5	凹基無茎だが、挟りは極めて浅く平基に近い形状を呈 す。小型品。	黒色安山岩	
第5048区 PL-259	13	石礫	5区	ほぼ 完形	1.2	1.1	0.3	0.2	小型の凹基無茎、挟り浅い。	黒曜石	
第5048区 PL-259	14	石礫	5区	完形	1.5	1.6	0.4	0.5	平基無茎、ほぼ正三角形を呈す。	黒曜石	
第5048区 PL-259	15	石礫	5区	完形	1.8	1.6	0.4	0.6	平基無茎、ほぼ正三角形を呈す。	黒色安山岩	
第5048区 PL-259	16	石礫	5区	完形	2.0	1.6	0.5	0.7	平基無茎。	珪質安山岩 (珪状岩質安山岩)	
第5048区 PL-259	17	石礫	5区	欠損	1.5	1.2	0.3	0.4	粗い作りの石礫と思われる。	黒曜石	
第5048区 PL-259	18	石礫	5区	未製 品	2.1	1.7	0.6	1.3	片面は平らに大きく剥離面残る。	黒曜石	
第5048区 PL-259	19	石礫	5区	完形	2.2	1.3	0.6	0.2	平基無茎、厚手で左右非対象。	黒曜石	
第5048区 PL-259	20	石礫	5区	ほぼ 完形	2.3	1.6	0.3	1.7	平基無茎。	黒色頁岩	
第5048区 PL-259	21	石礫	5区	未製 品	2.0	0.5	0.7	1.3	片面肥厚、石礫未製品と思われるが、2面に似ており部 部の可能性も。	黒曜石	
第5048区 PL-259	22	石礫	L-5	完形	3.9	6.3	0.2	1.1	結晶形を呈し先端部は尖り、基部も細く長く作られ る。丁寧な作り。	黒曜石	
第5048区 PL-259	23	石礫	5区	完形	1.6	0.6	0.3	0.3	結晶形の小型品、石礫か。	黒曜石	
第5048区 PL-259	24	石礫	5区	欠損	2.3	1.1	0.6	(1.1)	結晶状を呈し厚み有り、先端部欠く、磨の可能性あり。	黒曜石	
第5048区 PL-259	25	石礫	5区	ほぼ 完形	(1.7)	(1.8)	0.3	0.4	凹基無茎、小型品。片側の端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第5048区 PL-259	26	石礫	5区	欠損	2.3	(1.3)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り深く長脚、片脚を欠く。	黒色安山岩	
第5048区 PL-259	27	石礫	5区	欠損	(1.7)	(1.0)	0.2	(0.3)	基部を欠く。先端部は鈍角な作り。	黒曜石	
第5048区 PL-259	28	石礫	5区	ほぼ 完形	(1.6)	(1.7)	0.4	0.7	凹基無茎、挟り浅く、先端部は鈍角。	黒曜石	
第5048区 PL-259	29	石礫	1116号土 坑	欠損	(1.6)	1.6	0.5	(1.0)	先端部片。	黒曜石	
第5048区 PL-259	30	石礫	5区	欠損	(2.1)	(1.7)	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟りは浅い、片脚の端を欠く。	黒曜石	
第5048区 PL-259	31	石礫	66(1120) 号土坑	欠損	(1.3)	1.1	0.3	0.3	先端部片、やや薄手。	黒曜石	
第5048区 PL-259	32	石礫	5区	完形	1.8	1.4	0.3	0.9	平基無茎、片面が肥厚、やや雑な作り。	黒曜石	
第5048区 PL-259	33	石礫	5区	完形	(1.6)	1.5	(0.2)	(0.4)	凹基無茎、挟り浅い小型品。	黒曜石	
第5048区 PL-259	34	石礫	5区	欠損	(1.6)	1.2	0.3	0.3	凹基無茎、小型品。先端部を僅かに欠く。	黒曜石	
第5048区 PL-259	35	石礫	5区	欠損	(1.8)	1.6	0.3	(0.7)	凹基無茎、挟りは深い、先端部を欠く。	黒色安山岩	
第5048区 PL-259	36	石礫	5区	欠損	(1.6)	1.5	0.4	(0.6)	凹基無茎、挟りやや深く、先端部、側縁部欠損。	黒曜石	
第5048区 PL-259	37	石礫	5区	欠損	(1.3)	1.5	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟りはV字に深い、先端部を欠く。	黒曜石	
第5048区 PL-259	38	石礫	5区	欠損	(1.0)	1.5	0.3	(0.5)	凹基無茎、脚が闊く形状、先端部を欠く。やや薄手の 作り。	黒曜石	
第5048区 PL-259	39	石礫	5区	欠損	(1.3)	1.6	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第5054区 PL_259	40	石礫	5区	欠損	(1.0)	1.5	0.3	(0.4)	凹基無茎、先端部を欠く。比較的薄手の作り。	黒曜石	
第5054区 PL_259	41	石礫	5区	欠損	(0.7)	1.3	0.3	(0.2)	小型の凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	42	石礫	5区	欠損	(1.2)	1.4	0.2	(0.3)	小型の凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	43	石礫	5区	欠損	(1.2)	1.6	0.2	(0.4)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	44	石礫	5区	欠損	(1.7)	1.5	0.3	(0.7)	凹基無茎、狭り狭く、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	45	石礫	5区	欠損	(1.2)	1.7	0.3	(0.4)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	46	石礫	5区	欠損	(1.4)	1.7	0.4	(0.6)	凹基無茎、脚が開く形状、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	47	石礫	5区	欠損	(1.0)	1.5	0.2	(0.4)	凹基無茎、狭りやや浅い、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	48	石礫	5区	欠損	(1.3)	(1.2)	0.2	(0.3)	凹基無茎、小型品で先端部、脚部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	49	石礫	5区	欠損	(1.6)	(1.5)	0.3	(0.6)	凹基無茎、先端部および片脚部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	50	石礫	K-1	欠損	(1.8)	(1.2)	0.3	(0.4)	凹基無茎、狭り深い、片側側縁部分を欠損。	チャート	
第5054区 PL_259	51	石礫	5区	欠損	(1.9)	2.3	0.5	(2.0)	平基無茎か、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	52	石礫	5区	欠損	(2.3)	(1.4)	0.3	(0.7)	凹基無茎か、縦半分を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	53	石礫	5区	欠損	(2.1)	(1.3)	0.3	(0.7)	凹基無茎、狭り狭く片脚および先端部分を僅かに欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	54	石礫	5区	欠損	(1.4)	1.6	0.5	(1.0)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	55	石礫	5区	欠損	2.1	1.5	0.7	1.7	平基無茎、厚みを有す。片側側縁部分を欠く。	珪質変質岩 (流紋岩質流紋岩)	
第5054区 PL_259	56	石礫	5区	完形	1.6	1.4	0.5	0.8	凹基無茎、小型品、中央部分肥厚、片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第5054区 PL_259	57	石礫	5区	欠損	(1.1)	(1.0)	0.3	(0.2)	脚部片。	黒曜石	
第5054区 PL_259	58	石礫	5区	欠損	(1.1)	(1.2)	0.3	(0.3)	先端部片、やや厚手か。	黒曜石	
第5054区 PL_259	59	石礫	5区	完形	(3.3)	0.8	0.5	1.0	丁寧な作りの棒状礫。	黒曜石	
第5054区 PL_259	60	石礫	5区	完形	2.4	0.5	0.3	0.3	細い棒状礫、丁寧に作られている。	黒曜石	
第5054区 PL_259	61	石礫	5区	完形	2.5	0.5	0.3	0.3	細い棒状礫、丁寧に作られている。	黒曜石	
第5054区 PL_259	62	石礫	5区	完形	2.4	0.7	0.5	0.7	棒状礫、つまみ部と踵部との境に弱い狭りが見られる。	黒曜石	
第5054区 PL_259	63	石礫	5区	ほぼ完形	1.5	0.5	0.4	0.3	小型の棒状礫、僅かに反りを有す。	黒曜石	
第5054区 PL_259	64	石礫	5区	完形	2.0	0.7	0.6	0.7	結核状を呈す。短手で粗い作り。	黒曜石	
第5054区 PL_259	65	石礫	5区	完形	2.3	1.0	0.6	0.8	棒状礫であるが踵部のみ若干の調整が施されている。作りは粗い。	黒曜石	
第5054区 PL_259	66	石礫	5区	完形	(2.6)	0.5	0.4	(0.6)	廻身の棒状礫。	玉髄	
第5054区 PL_259	67	石礫	5区	欠損	(1.9)	1.7	0.3	(0.5)	棒状礫の先端部片か、僅かに反りを有す。	黒曜石	
第5064区 PL_259	68	二次加工片	5区	完形	5.5	1.9	1.2	5.9	縦長割片の側縁に使用痕。	黒曜石	
第5064区 PL_259	69	規形石器	5区	完形	2.4	1.2	0.7	1.9	やや扁平な角柱状の割片端部に刃部作出。彫磨か。	黒曜石	
第5064区 PL_259	70	石礫	5区	未製品	2.8	2.1	0.6	2.9	大型礫の未製品か。先端部欠く。	黒曜石	
第5064区 PL_259	71	スクレイパー	5区	欠損	1.8	1.9	0.6	1.5	両面からの剥離あり。石礫または礫のつまみ部分か。	黒曜石	
第5064区 PL_259	72	二次加工片	5区	欠損	1.7	1.6	0.6	1.4	やや厚みを有す小割片、側縁に整形剥離見られる。	黒曜石	
第5064区 PL_259	73	石礫	H-2	完形	3.8	2.9	1.3	11.5	平基無茎、粗い作りで厚み有り。未製品か。	チャート	
第5064区 PL_259	74	二次加工片	5区	欠損	1.8	1.4	0.5	0.8	石礫欠損品か。	黒曜石	
第5064区 PL_259	75	二次加工片	5区	完形	1.8	1.4	0.6	0.9	石礫の未製品か。	黒曜石	
第5064区 PL_259	76	二次加工片	5区	完形	2.1	3.3	1.4	5.0	半月形の割片利用、弧状縁辺に使用痕。	黒曜石	
第5064区 PL_259	77	スクレイパー	5区	完形	2.4	2.2	0.6	2.4	円形割片縁辺部に片面剥離により刃部作出。	黒曜石	

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	品類	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第504図 PL_259	78	スクレ イバー	5区	完形	2.3	2.1	0.8	3.6	丸く作された刃部を有す。	黒曜石	
第504図 PL_259	79	スクレ イバー	5区	完形	2.6	1.4	0.6	2.1	なすび状を呈し片側面が高く肥厚。彫筋。	黒曜石	
第504図 PL_260	80	篩器	5区	完形	1.8	1.4	0.7	1.6	中央部がやや肥厚。台形を呈す。楔形石皿か。	黒曜石	
第504図 PL_261	81	スクレ イバー	5区	完形	2.5	1.9	0.7	2.8	幅広いなすび状を呈す。片面が肥厚。縁辺全週に刃部 作出。彫筋。	黒曜石	
第504図 PL_260	82	石杖	5区	完形	3.0	3.2	2.3	16.6	小石杖。複数打痕。	黒曜石	
第507図 PL_260	83	打製石 斧	5区	完形	16.7	6.8	2.7	284	短冊形。大型で中央部が山形に削られている。刃部 は薄く摩耗顯著。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	84	打製石 斧	18号土坑	完形	10.2	4.2	1.3	62	扇形。やや小型で片面に大きく自然面。刃部摩耗。	黒色頁岩	
第507図 PL_260	85	打製石 斧	11-2	完形	12.2	5.3	1.5	164	短冊形。刃部は丸みを持つ。使用による摩耗顯著。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	86	打製石 斧	5区	完形	10.4	5.3	2.0	125	扇形。刃部の広がりには僅か。基部はやや幅を持つ。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	87	打製石 斧	5区	ほぼ 完形	9.4	5.2	1.1	55	扇形。薄い穂状縁から作り出す。両面に自然面。刃部 は薄く欠損。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	88	打製石 斧	1-2	完形	9.4	4.0	1.2	62	小型でやや細身。刃部は細く偏りである。	黒色頁岩	
第507図 PL_260	89	打製石 斧	5区	完形	10.5	5.5	1.6	113	扇形。刃部は細く偏り。摩耗顯著。全体に風化が見ら れる。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	90	打製石 斧	1212号土 坑	完形	9.2	5.1	1.8	66	扇形。基部は薄く片面に自然面残る。	黒色頁岩	
第507図 PL_260	91	打製石 斧	5区	ほぼ 完形	9.3	4.6	1.6	78	扇形。刃部先端を欠損。	黒色頁岩	
第507図 PL_260	92	打製石 斧	11-2	完形	9.9	5.1	1.1	72	扇形。小型で片面に大きく自然面が残る。刃部は薄 く円身。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第507図 PL_260	93	打製石 斧	1-3	完形	8.4	4.2	1.6	75	小型の扇形。やや厚手の作り。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	94	打製石 斧	1号石列 土坑	ほぼ 完形	10.8	4.7	2.0	118	扇形。刃部に自然面。先端部を僅かに欠損か。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	95	打製石 斧	1118号土 坑	完形	8.7	4.3	2.2	92	やや小型の短冊形。基部厚く粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第507図 PL_260	96	打製石 斧	E-2	完形	11.4	4.9	1.6	100	扇形。基部は薄細身で刃部は開く。作りは粗い。	黒色片岩	
第507図 PL_260	97	打製石 斧	1号石列 欠損	(10.6)	4.8	2.3	0.44		短冊形。基部は薄くなっており。刃部欠損。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	98	打製石 斧	5区	完形	6.8	5.1	1.2	60	扇形。刃部は円く広がる。器面風化。	黒色頁岩	
第508図 PL_260	99	打製石 斧	5区	ほぼ 完形	9.9	5.7	2.0	108	打製石斧と見られるが形状は定形でない。刃部の厚さ も左右不均一。	黒色頁岩	
第508図 PL_260	100	打製石 斧	5区	完形	8.4	4.2	1.3	60	扇形。小型でやや曲がりを持つ。作りは粗い。	黒色頁岩	
第508図 PL_260	101	打製石 斧	K-3	ほぼ 完形	8.2	5.5	1.0	45	分銅形。薄手で両側縁の中央部に輪縁りを持つ。	黒色頁岩	
第508図 PL_260	102	打製石 斧	11-2	欠損	(9.1)	6.9	1.6	(126)	扇形。刃部片や薄手で。両面に自然面残る。刃は斜 めに付く。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	103	打製石 斧	5区	欠損	(6.5)	5.1	1.6	(61)	扇形の刃部片。刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	104	打製石 斧	5区	欠損	(8.2)	5.0	2.4	(100)	片面に一部自然面残る。基部片か。粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	105	打製石 斧	1116号土 坑	欠損	(4.6)	4.9	1.7	(50)	刃部片。	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第508図 PL_260	106	打製石 斧	5区	欠損	(5.3)	5.9	1.4	(65)	刃部片。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	107	打製石 斧	5区	欠損	(3.9)	5.6	1.3	(30)	刃部片。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	108	打製石 斧	L-3	欠損	(5.7)	5.5	0.8	(34)	扇形。刃部が薄手。両面に自然面。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	109	打製石 斧	K-2	欠損	(10.1)	4.8	1.4	(91)	扇形。両面に自然面残る。刃部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	110	打製石 斧	1号石列 欠損	(8.0)	4.8	2.0	(89)	基部片。片側縁に自然面残る。	黒色頁岩		
第508図 PL_260	111	打製石 斧	K-1	欠損	(6.3)	4.7	1.5	(47)	基部片か。片面に自然面残る。	黒色安山岩	
第508図 PL_260	112	打製石 斧	5区	欠損	(7.2)	4.5	1.3	(69)	基部片と思われる。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	113	打製石 斧	G-5	欠損	(9.7)	6.1	2.3	(155)	扇形。やや厚みがあり側縁刃直し。刃部を欠く	紫蘇輝石普通輝 石安山岩	
第508図 PL_260	114	打製石 斧	E-17	欠損	(8.2)	5.0	2.5	(93)	基部片。基部は薄く刃部に向かって厚手となる。刃部 欠損。	細粒輝石安山岩	
第508図 PL_260	115	打製石 斧	J-1	欠損	(10.4)	5.1	1.7	(92)	扇形。基部は薄くなっている。刃部欠損。	細粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図説番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第508図 PL_260	116	打製石斧	5区	欠損	(6.3)	4.5	1.3	(44)	短冊形か、刃部片か、刃先。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_260	117	打製石斧	1-3	欠損	(7.5)	5.4	1.9	(111)	粗い作りの基部片。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_260	118	打製石斧	5区	欠損	(7.1)	4.1	1.7	(66)	短冊形か、基部片、やや細身の作り。	黒色頁岩	
第509図 PL_260	119	打製石斧	1122号土坑	欠損	(4.0)	6.0	1.8	(89)	基部片か、片側側縁は厚く調整ほとんど見られず。	黒色頁岩	
第509図 PL_260	120	打製石斧	1号石列	欠損	(8.0)	6.0	2.4	(139)	大型品の基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_260	121	打製石斧	1号石列	欠損	(9.0)	5.6	1.7	(106)	側形、刃部を欠損しているが大きく開く形状か。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_260	122	打製石斧	K-2	欠損	(5.2)	4.7	1.1	(47)	側形か、両面に自然面残る。刃部、基部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_260	123	打製石斧	1116号土坑	欠損	(6.3)	(4.7)	1.5	(51)	側形の基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_260	124	石造	5区	完形	10.6	4.3	1.2	54	薄手で片面に自然面残し、基部に弱い切り見られる。片側縁に刃部作出。	黒色安山岩	
第509図 PL_260	125	磯部	5区	完形	7.8	6.2	2.0	176	側形で下部が分厚い、下部を打面とした巖石か。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_260	126	スクレイパー	1116号土坑	完形	4.0	4.0	1.2	20	やや丸みを呈す薄片の周囲に粗い刃部を作出。	黒色安山岩	
第509図 PL_260	127	スクレイパー	5区	完形	3.5	4.6	0.8	(19)	不定形な薄片利用、僅かに刃部作出。	黒色安山岩	
第509図 PL_260	128	磯部	1号石列	完形	11.3	10.2	5.0	459	大型の石片。上部が盛り上がり、刃部状の下辺部を打面として使用か。	粗粒輝石安山岩	
第509図 PL_261	129	磨製石斧	5区	欠損	(5.4)	4.5	2.5	125	基部片。表面に粗打痕顯著。	蛇紋岩	
第509図 PL_261	130	磨製石斧	5区	欠損	(4.2)	4.3	3.0	79	基部片。上端部分に丸みを持つ。厚手品である。	蛇紋岩	
第509図 PL_261	131	磨製石斧	5区	欠損	(1.8)	1.2	0.4	1.4	小型磨製石斧の基部片。縁はあまり明確ではない、端部やや曲がる。	蛇紋岩	
第510図 PL_261	132	磨石	5区	完形	9.6	8.8	4.7	590	やや扁平な円磯、両面使用面で平磯。若干の打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL_261	133	磨石	1119号土坑	完形	11.7	10.1	6.7	1,126	やや大きな円磯、両面に顯著な磨り面見られる。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL_261	134	磨石	1号石列	完形	13.2	9.0	4.7	743	扁平な精円磯利用、平坦面平磯。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL_261	135	凹石	1119号土坑	完形	8.9	7.3	4.1	318	扁平な円磯の両面に浅い凹み穴を有す。側縁部に打痕。一部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL_261	136	磨石	1号石列	完形	8.7	7.7	7.7	736	円磯利用顯著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL_261	137	磨石	1213号土坑	完形	8.8	8.1	5.2	484	円磯、片面がやや平坦で使用面か。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL_261	138	凹石	1号石列	完形	8.6	7.1	4.5	377	やや扁平な磯利用、両面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第510図 PL_261	139	磨石	1119号土坑	完形	10.7	8.5	4.7	670	やや扁平な磯利用、平坦面を使用痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	140	凹石	5区	完形	12.2	6.7	4.5	462	やや扁平な長円磯、両面に浅い凹み穴を有し側縁、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	141	磨石	1号石列	完形	13.7	7.8	5.8	957	やや扁平な磯形の磯利用、両使用面平面で側縁部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	142	凹石	1119号土坑	欠損	9.8	7.4	5.2	474	やや扁平な磯形磯、両平面に浅い凹み穴、端部に打痕。一部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	143	磨石	1号石列	欠損	(9.1)	8.9	4.1	(410)	扁平な円磯利用、浅い打痕状の凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	144	磯部	5区	欠損	(6.5)	4.9	3.0	(135)	磯状磯か、端部片。洗分沈着層。	安山岩	
第511図 PL_261	145	磨石	5区	欠損	(6.8)	6.1	3.7	271	やや扁平な磯形か、平坦側面部を使用、浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	146	磯部	1115号土坑	欠損	(7.7)	5.3	4.3	(276)	欠損した棒状磯、端部に僅かに打痕。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	147	磯部	66(1120)号土坑	欠損	12.7	6.0	3.6	542	断面やや三角の磯、平坦部分に使用痕有り、両端を欠損。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	148	磨石	5区	完形	7.5	5.9	1.7	127	扁平な小磯。全面平滑である。	安山岩	
第511図 PL_261	149	磨石	L-2	欠損	(12.2)	(6.4)	(3.4)	(441)	扁平で磯形を呈す。両面に2方すずつ浅い凹みを有す。一部欠、被熱。	粗粒輝石安山岩	
第511図 PL_261	150	丸石	1号石列	欠損	(9.3)	(12.5)	(8.6)	(1,175)	扁平を欠く、顯著な使用痕は見られず。	粗粒輝石安山岩	
第512図 PL_261	151	砥石製品	5区	完形	6.4	4.8	1.9	16	板状で、丸みを持つ半円形を呈す。上部に円孔有り。	輝石	
第512図 PL_261	152	砥石製品	1号石列	完形	6.9	3.5	3.6	29	不定形に整形、複数の研磨面、砥石として利用か。	輝石	
第512図 PL_261	153	玉	5区	完形	4.0	3.2	2.2	44	小丸磨磯、穿孔等の加工痕は見られず。95区遺構外304と形状似る。	翡翠	

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第51246 PL_261	154	多孔石	1号石列	完形	18.2	15.7	11.3	4,115	円縁の表面に数個の浅い凹み穴。	粗粒輝石安山岩	
第51246 PL_261	155	多孔石	1号石列	完形	20.2	18.3	10	4,120	不定形な自然縁利用。表面に3個の小さな凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第51246 PL_261	156	石皿	1号石列	欠損	(34.5)	24.3	6.5	(7,350)	磨り面は平らで縁も低い。上部欠出し。被熱。	粗粒輝石安山岩	

#### 95区 遺構外出土石器(第513～530図：PL\_262～267)

検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第51346 PL_262	1	石鏃	F-25	完形	1.9	1.5	0.4	0.7	凹基無茎。挟りは円く全体に作りは丁寧。	黒曜石	
第51346 PL_262	2	石鏃	G-15	完形	2.4	1.5	0.5	0.7	凹基無茎。挟りは円く全体に作りは丁寧。片面が膨らみを持つ。	黒曜石	
第51346 PL_262	3	石鏃	I-19	完形	2.3	1.4	0.2	0.4	凹基無茎。挟り深く長脚である。丁寧な作り。	黒曜石	
第51346 PL_262	4	石鏃	H-16	完形	1.9	1.3	0.4	0.7	凹基無茎。小型品で挟りが深い。	黒曜石	
第51346 PL_262	5	石鏃	J-25	完形	1.7	1.5	0.3	0.4	凹基無茎。丁寧な作り。	黒曜石	
第51346 PL_262	6	石鏃	E-25	完形	1.5	1.2	0.3	0.3	やや小型の凹基無茎。	黒曜石	
第51346 PL_262	7	石鏃	E-25	完形	1.4	1.3	0.4	0.7	凹基無茎。中央から先端部に向けやや厚みを有す。	黒曜石	
第51346 PL_262	8	石鏃	J-20	完形	2.1	1.7	0.4	0.8	凹基無茎。脚はやや湾曲気味。	チャート	
第51346 PL_262	9	石鏃	I-22	完形	3.8	1.8	0.4	1.5	凹基無茎。挟り深く円い。先端部は基部に比して細く作られる。	チャート	
第51346 PL_262	10	石鏃	G-15	ほぼ完形	1.8	1.3	0.3	0.7	平基無茎。やや厚みを有す。	黒曜石	
第51346 PL_262	11	石鏃	I-21	完形	1.6	1.2	0.3	0.5	凹基無茎。小型品でやや厚みがある。	黒曜石	
第51346 PL_262	12	石鏃	G-23	ほぼ完形	1.7	1.3	0.3	0.6	凹基無茎。やや小型の製品で厚みがあり脚の長さ左右非対称。	黒曜石	
第51346 PL_262	13	石鏃	S-20	完形	1.5	1.1	0.3	0.4	凹基無茎小型旗。挟り浅い。	黒曜石	
第51346 PL_262	14	石鏃	J-21	完形	1.7	1.9	0.5	0.7	凹基無茎。挟り深いいわゆるハート形を呈す。全体に切れが見られる。	黒曜石	
第51346 PL_262	15	石鏃	I-30	完形	1.2	1.2	0.2	0.2	凹基無茎。小型でハート形を呈す。	黒曜石	
第51346 PL_262	16	石鏃	C-23	欠損	(1.9)	1.4	0.5	(1.3)	凹基無茎。挟り浅く中央部分が膨らむ。	黒曜石	
第51346 PL_262	17	石鏃	H-20	完形	3.0	1.5	0.4	1.4	凹基無茎。挟りは幅広で脚は短く細い。先端部が急激に細くなっている。	黒曜石	
第51346 PL_262	18	石鏃	H-20	完形	1.8	1.6	0.3	0.5	凹基無茎。小型品。	黒曜石	
第51346 PL_262	19	石鏃	F-17	ほぼ完形	1.8	1.5	0.4	0.8	凹基無茎。挟り深くやや厚手。	チャート	
第51346 PL_262	20	石鏃	H-24	ほぼ完形	1.5	1.6	0.3	0.4	凹基無茎。小型品である。	黒曜石	
第51346 PL_262	21	石鏃	柳町土坑	完形	2.2	1.6	0.4	0.9	凹基無茎。挟りは弧状で極めて浅い。反りを持つ。	黒曜石	
第51346 PL_262	22	石鏃	H-17	完形	1.7	1.6	0.3	0.6	凹基無茎。挟りは極めて浅い。未製品か。	黒曜石	
第51346 PL_262	23	石鏃	G-15	完形	1.7	1.5	0.3	0.7	平基無茎。ほぼ正三角形を呈す。	黒曜石	
第51346 PL_262	24	石鏃	95区	完形	1.3	1.3	0.3	0.4	凹基無茎。小型品。	黒曜石	
第51346 PL_262	25	石鏃	E-22	完形	(2.3)	(1.3)	0.4	(0.8)	凹基無茎。挟りは浅く片面がやや膨らむ。	黒曜石	
第51346 PL_262	26	石鏃	H-24	完形	1.6	1.3	0.3	0.6	平基無茎。	黒曜石	
第51346 PL_262	27	石鏃	O-17	完形	1.5	1.1	0.3	0.4	凹基無茎。小型で挟り浅い。	黒曜石	
第51346 PL_262	28	石鏃	J-22	完形	2.1	1.4	0.5	1.3	平基無茎。やや厚みを有す。	珪質頁岩	
第51346 PL_262	29	石鏃	I-19	完形	1.4	1.0	0.2	0.2	凹基無茎。小型品である。	黒曜石	
第51346 PL_262	30	石鏃	L-19	完形	1.7	1.3	0.4	0.5	小型の平基無茎旗。	黒曜石	
第51346 PL_262	31	石鏃	M-22	ほぼ完形	1.9	1.6	0.5	1.3	平基無茎。片面の中央部が肥厚。	黒曜石	
第51346 PL_262	32	石鏃	J-20	欠損	1.7	1.0	0.4	0.4	側身の先端部分。	黒曜石	
第51446 PL_262	33	石鏃	I-20	完形	2.7	2.1	0.9	2.8	平基無茎。中央部分肥厚。縁辺が薄く鋭利。未製品の可能性も。	黒曜石	
第51446 PL_262	34	石鏃	I-21	完形	2.6	1.6	0.8	1.7	凹基無茎と見られるが。なすび形の小型スクレイパーの可能性も。	黒曜石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図面番号	No.	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第51408 PL_262	35	石鏃	G-15	未製品	2.4	1.3	0.6	1.8	円基鏃の未製品か、下縁部分は薄く削離。	黒曜石	
第51408 PL_262	36	石鏃	95区	欠損	1.2	1.4	0.3	0.5	円基無茎、挟り浅い、小型で先端部を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	37	石鏃	95区	完形	1.6	1.5	0.5	1.1	円基無茎、挟り浅い、片面肥厚し厚手。	黒曜石	
第51408 PL_262	38	石鏃	L-25	完形	1.5	1.0	0.3	0.4	石鏃か、板状で基部が円い、側面方は扇形状。	黒曜石	
第51408 PL_262	39	石鏃	F-25	未製品	2.3	1.5	0.6	1.7	円基鏃、未製品と思われる。	黒曜石	
第51408 PL_262	40	石鏃	K-24	完形	1.9	1.7	0.5	1.4	円基無茎、挟りは浅い、厚手の作りで先端部短く尖り基部に曲がる。	黒曜石	
第51408 PL_262	41	石鏃	R-17	完形	1.3	0.9	0.3	0.5	小型品だが極めて厚く、利刃としては不向き、未製品か。	黒曜石	
第51408 PL_262	42	石鏃	H-21	完形	1.5	0.9	0.3	0.4	鏃と見られるが小型の石鏃と判断される。なすび形で短い鏃部が付く。	黒曜石	
第51408 PL_262	43	石鏃	95区	完形	2.0	1.5	0.4	1.0	円基無茎、挟りは極めて僅か、作り粗く未製品か。	黒曜石	
第51408 PL_262	44	石鏃	H-24	完形	(2.2)	1.3	0.2	0.6	円基無茎、鏃身で挟りはやや浅い。	黒曜石	
第51408 PL_262	45	石鏃	95区	完形	1.5	1.4	0.3	0.5	円基無茎、挟り浅い。	黒曜石	
第51408 PL_262	46	石鏃	J-22	欠損	(2.7)	(1.4)	0.3	(1.0)	円基無茎、片側の脚を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	47	石鏃	L-19	欠損	(1.4)	(1.2)	0.3	(0.3)	先端部片。	黒曜石	
第51408 PL_262	48	石鏃	M-16	欠損	(2.2)	(1.4)	0.3	(0.6)	円基無茎、挟り深く長脚、片脚を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	49	石鏃	J-23	欠損	(2.4)	(1.6)	0.4	(1.0)	円基無茎、挟りは浅い、片脚部を欠く	黒曜石	
第51408 PL_262	50	石鏃	K-21	欠損	(2.3)	(1.5)	0.5	(0.9)	円基無茎、挟り極めて浅く脚が短い箇かに欠く、厚み有り。	チャート	
第51408 PL_262	51	石鏃	J-24	欠損	(1.3)	(1.3)	0.3	(0.3)	先端部片。	黒曜石	
第51408 PL_262	52	石鏃	L-22	完形	1.3	1.5	0.3	0.4	円基無茎、小型で挟り深く脚が短く。	黒曜石	
第51408 PL_262	53	石鏃	J-22	欠損	2.6	1.1	0.3	0.5	基部欠損品か。	黒曜石	
第51408 PL_262	54	石鏃	188号土 坑	ほぼ 完形	(2.5)	(1.9)	0.4	(1.2)	円基無茎、片脚を欠く、挟りやや浅く脚は開く。	黒曜石	
第51408 PL_262	55	石鏃	L-23	完形	1.3	1.0	0.3	0.5	円基無茎だが挟りは極めて浅い、小型で粗い作り、未製品か。	黒曜石	
第51408 PL_262	56	石鏃	I-19	欠損	(2.4)	(1.7)	0.4	(1.3)	円基無茎、片脚部を欠く。	チャート	
第51408 PL_262	57	石鏃	I-18	ほぼ 完形	2.6	1.9	0.5	1.5	円基無茎、やや厚みを有す。	黒曜石	
第51408 PL_262	58	石鏃	E-1	ほぼ 完形	(2.9)	1.5	0.5	(1.4)	鏃のようにも思えるが、つまみを有す石鏃と考えられる。鏃部に厚み有り。	黒曜石	
第51408 PL_262	59	石鏃	J-23	完形	2.4	1.9	0.4	1.3	円基無茎、片脚を欠損か。	黒曜石	
第51408 PL_262	60	石鏃	95区	欠損	(2.2)	(1.5)	0.5	(1.2)	円基無茎か、片側の基部を欠く、厚手である。	黒曜石	
第51408 PL_262	61	石鏃	L-20	完形	(1.8)	1.4	0.2	(0.5)	円基無茎、極めて薄手の作り。	黒曜石	
第51408 PL_262	62	石鏃	H-14	完形	(2.0)	0.9	0.2	(0.3)	小型の円基無茎鏃か、石鏃の可能性もある。	黒曜石	
第51408 PL_262	63	石鏃	D-18	欠損	(1.7)	(1.5)	0.3	(0.4)	円基無茎、挟り深く脚が開く、片脚を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	64	石鏃	I-25	完形	2.2	1.6	0.4	1.2	円基無茎、不定形ながら五角形を呈す。	黒曜石	
第51408 PL_262	65	石鏃	M-25	欠損	(1.3)	(1.2)	0.2	(0.2)	先端部片。	黒曜石	
第51408 PL_262	66	石鏃	J-22	欠損	(1.6)	(1.1)	0.2	(0.2)	長脚鏃の破片。	黒曜石	
第51408 PL_262	67	石鏃	X-20	欠損	1.7	(1.3)	0.3	(0.8)	円基無茎、側縁、脚の端部を僅かに欠く。	チャート	
第51408 PL_262	68	石鏃	J-21	欠損	(1.2)	1.4	0.3	(0.4)	円基無茎、小型で挟り深い、先端部を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	69	石鏃	95区	完形	(1.7)	1.6	0.4	0.9	円基無茎、挟り部は弧状で側縁部分に丸み、先端部僅かに欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	70	石鏃	L-23	欠損	1.2	1.7	0.3	0.5	円基無茎、挟りは深い、先端部を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	71	石鏃	G-23	欠損	(1.5)	1.4	0.3	(0.4)	円基無茎、挟り極めて浅い、先端部を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	72	石鏃	R-18	欠損	(1.2)	(1.0)	0.3	(0.2)	円基無茎小型鏃、片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	73	石鏃	J-19	欠損	(1.7)	(1.8)	0.3	(0.7)	円基無茎、挟りが深い、片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第51408 PL_262	74	石鏃	H-16	欠損	1.3	1.7	0.3	0.4	円基無茎、挟り浅い、先端部を欠く。	黒曜石	

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No.	部類	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第5140 PL_262	75	石鏝	L-25	欠損	(0.9)	1.0	0.2	(0.2)	凹基無茎、極めて小型で脚がやや外に開く。先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	76	石鏝	H-22	欠損	(1.0)	1.7	0.3	(0.5)	凹基無茎、挟り浅く、先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	77	石鏝	柳号土坑	欠損	(0.9)	1.3	0.2	(0.2)	凹基無茎、小型品、挟り深く先端部分を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	78	石鏝	K-17	欠損	(1.1)	(1.5)	0.3	(0.4)	凹基無茎、先端部を大きく欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	79	石鏝	I-21	欠損	(1.4)	(1.9)	0.3	(0.8)	凹基無茎、両脚端部および先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	80	石鏝	I-20	欠損	(1.3)	1.8	0.3	(0.6)	凹基無茎、挟り浅い。先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	81	石鏝	G-23	欠損	(1.1)	(1.2)	0.2	(0.2)	凹基無茎、小型で挟り深く脚が長い。	チャート	
第5140 PL_262	82	石鏝	K-4	欠損	(0.9)	1.3	0.2	(0.2)	凹基無茎、小型品、先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	83	石鏝	E-25	欠損	(1.0)	1.4	0.3	(0.2)	凹基無茎、挟りやや深い。先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	84	石鏝	I-23	欠損	(1.3)	1.7	0.3	(0.6)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	85	石鏝	G-23	欠損	(1.8)	(1.8)	0.3	(0.8)	凹基無茎、片脚および先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	86	石鏝	H-20	欠損	(2.2)	2.2	0.5	(2.0)	凹基無茎、先端部が斜めに欠損している。	チャート	
第5140 PL_262	87	石鏝	J-20	欠損	(1.8)	2.2	0.3	(1.4)	凹基無茎、扁平な大型品。先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_262	88	石鏝	M-16	欠損	(1.8)	1.7	0.6	(2.0)	平基無茎か、先端部を欠く。	チャート	
第5140 PL_263	89	石鏝	F-25	欠損	2.0	1.9	0.6	1.7	鏝としては左右非対称である。石鏝のつまみ部の可能性がある。	黒曜石	
第5140 PL_263	90	石鏝	K-24	欠損	(1.4)	(1.3)	0.3	(0.4)	朝鮮産部に新理面。凸基無茎の基部片か。	黒曜石	
第5140 PL_263	91	石鏝	I-20	欠損	(2.1)	2.6	0.6	(3.9)	凹基無茎だが挟りは極めて僅か。大型で幅広。先端部を欠く。	チャート	
第5140 PL_263	92	石鏝	G-14	欠損	(1.1)	1.5	0.4	(1.1)	平基無茎の先端部欠損品と見られるが、スクレイパーの可能性もある。	チャート	
第5140 PL_263	93	石鏝	H-21	欠損	(2.0)	(1.4)	0.4	(0.9)	石鏝の欠損品と見られるがスクレイパーなど他器種の可能性もある。	黒曜石	
第5140 PL_263	94	石鏝	L-18	欠損	(2.2)	(1.6)	0.3	(0.7)	凹基無茎、極めて挟りが深く長脚。片脚、先端部を欠く。	黒曜石	
第5140 PL_263	95	石鏝	W-21	欠損	(2.0)	(1.2)	0.5	(1.1)	平基無茎の基部片か。厚み有り。	黒曜石	
第5140 PL_263	96	石鏝	M-13	欠損	2.5	(1.7)	0.5	(1.4)	凸基無茎。朝鮮産を欠く。	チャート	
第5140 PL_263	97	石鏝	I-19	欠損	(2.0)	(1.1)	0.3	(0.4)	脚部または先端部にかけて斜めに折れている。	黒曜石	
第5140 PL_263	98	石鏝	J-19	完形	4.6	2.0	0.5	2.4	三角形のつまみを有す。踵部は長く真っ直ぐに作られる。	チャート	
第5140 PL_263	99	石鏝	H-21	完形	4.2	1.0	0.3	1.6	棒状鏝。基部には四角小さなつまみが作られるが極めて薄い。踵部長い。	チャート	
第5140 PL_263	100	石鏝	H-18	欠損	3.3	1.0	0.6	1.9	角錐状の薄片先端部に刃部を作っているが、極めて粗い作り。先端欠。	黒曜石	
第5140 PL_263	101	石鏝	J-20	完形	2.8	0.7	0.4	0.8	棒状鏝。肉端が尖る。片側朝鮮産のみ方向調整。	黒曜石	
第5140 PL_263	102	石鏝	J-25	完形	1.8	0.4	0.3	0.3	小型の棒状鏝。基部がやや太く丁家に作られている。	黒色頁岩	
第5140 PL_263	103	石鏝	I-20	欠損	2.2	0.7	0.5	0.7	棒状鏝。踵部欠損品と見られる。	黒曜石	
第5140 PL_263	104	石鏝	N-15	完形	2.0	0.8	0.5	0.6	小型結縛状を呈す。先端部は短く尖る。	黒曜石	
第5140 PL_263	105	石鏝	G-21	ほぼ完形	3.0	0.7	0.5	1.1	棒状鏝。歯か反りを持ち。先端部分のみの調整。先を歯かに欠く。	黒曜石	
第5140 PL_263	106	石鏝	I-23	完形	2.4	1.4	0.4	0.9	やや大きめのつまみを有す石鏝。	黒曜石	
第5140 PL_263	107	石鏝	H-20	完形	3.9	1.2	1.0	3.2	断面が三角の棒状鏝。粗い作り。未製品と思われる。	黒曜石	
第5140 PL_263	108	石鏝	F-16	完形	2.3	0.9	0.7	1.1	三角の断面を有す棒状鏝。長さに対してやや太めである。	黒曜石	
第5140 PL_263	109	石鏝	M-16	完形	1.8	1.0	0.4	0.4	つまみ部が広がる小型鏝。	黒曜石	
第5140 PL_263	110	石鏝	H-19	完形	2.1	0.7	0.5	0.7	やや短い棒状鏝。	黒曜石	
第5140 PL_263	111	石鏝	J-25	欠損	(1.6)	0.5	0.5	(0.3)	断面三角の小型鏝。未製品。	黒曜石	
第5140 PL_263	112	石鏝	I-19	完形	1.8	0.7	0.5	0.5	小型棒状鏝。未製品か。	黒曜石	
第5140 PL_263	113	石鏝	L-19	欠損	3.9	1.1	0.6	2.2	基部が太い棒状鏝。先端部僅かに欠損。	チャート	
第5140 PL_263	114	石鏝	F-18	欠損	(2.1)	0.6	0.5	(0.8)	小型の棒状鏝。基部がやや太く丁家に作られている。先端部欠。	黒曜石	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第5140E PL_263	115	石鏃	H-21	完形	2.5	0.8	0.5	0.7	断面が三角の棒状體。基部太く先端部が細くなっている。未製品か。	黒曜石	
第5140E PL_263	116	石鏃	I-20	完形	1.7	0.9	0.5	0.5	小型で短い棒状體。先端部が短く尖る。粗い調整。未製品か。	黒曜石	
第5140E PL_263	117	石鏃	H-15	欠損	1.6	0.7	0.4	0.4	小型棒状體。先端部を欠く。	黒曜石	
第5140E PL_263	118	石鏃	95区	完形	1.8	0.9	0.7	0.8	短い棒状體か。先端部にのみ僅かに調整痕。	黒曜石	
第5140E PL_263	119	石鏃	I-19	欠損	(2.0)	1.3	0.5	(1.1)	つまみ部がやや広がる石鏃。鋒部は扁平で先端部を欠く。	黒曜石	
第5140E PL_263	120	石鏃	H-17	欠損	2.1	1.6	0.6	1.5	石鏃のつまみ部分と思われる。片側が幅状に肥厚。鋒部は扁平か。	黒曜石	
第5140E PL_263	121	石鏃	I-25	完形	3.5	2.4	1.1	4.0	大型鏃。中央部分肥厚し極めて粗い作り。未製品か。	チャート	
第5140E PL_263	122	石鏃	M-16	完形	3.4	2.4	0.5	4.0	大型の円錐形か。基部に割かれた痕跡あり他器種の可能性もある。	黒色安山岩	
第5140E PL_263	123	楔形石鏃	O-13	完形	2.4	3.0	1.3	8.4	方形で片面が三角に盛り上がる。側縁部は細かい刃部調整。	黒曜石	
第5170E PL_263	124	スクレイパー	J-25	完形	2.4	1.9	0.9	3.0	片面中央部分高く縁辺部分に刃部作出。	黒曜石	
第5170E PL_263	125	スクレイパー	J-21	完形	4.7	3.3	1.2	15.2	長形で中央部がやや肥厚する割片。縁辺に粗い刃部を持つ。	チャート	
第5170E PL_263	126	スクレイパー	95区	完形	1.4	1.7	0.7	2.0	積円形の割片。表面凹凸が顕著で側縁部の調整は粗い。	黒曜石	
第5170E PL_263	127	スクレイパー	K-24	完形	2.6	1.6	0.6	1.5	厚形の方形割片。スクレイパーや石鏃の最終砕片か。	黒曜石	
第5170E PL_263	128	スクレイパー	H-25	完形	1.9	1.9	0.6	2.2	やや丸みを呈す割片の一部縁辺部に刃部作出。	黒曜石	
第5170E PL_263	129	スクレイパー	K-23	完形	3.0	1.8	0.7	3.9	ほぼ長方形を呈し片側縁部肥厚。両長辺部に粗く刃部作出。	黒曜石	
第5170E PL_263	130	スクレイパー	E-24	完形	2.9	1.2	0.5	0.9	曲がりをもつ割片で弧状の縁辺に細かい刃部作出。	黒曜石	
第5170E PL_263	131	スクレイパー	2号溝	完形	(1.9)	1.9	0.5	(1.5)	台形を呈し下辺部分に刃部作出。	黒曜石	
第5170E PL_263	132	スクレイパー	R-18	欠損	(4.6)	2.8	1.0	(10.3)	尖頭器状で、弧状の側縁に刃部作出。上部が肥厚。	チャート	
第5170E PL_263	133	磨製石斧	H-24	欠損	(4.8)	3.7	1.8	(9.8)	刃部片。刃先は摩耗し丸くなっている。敲打具として再利用か。	蛇紋岩	
第5170E PL_263	134	磨製石斧	95区	欠損	(7.4)	3.4	1.0	(33.1)	やや薄手。基部片。	蛇紋岩	
第5170E PL_263	135	磨製石斧	I-20	欠損	(2.9)	3.1	1.1	(15.2)	やや小型品。基部片。折損面平らに磨かれている。	蛇紋岩	
第5170E PL_263	136	磨製石斧	H-12	欠損	(1.9)	2.5	0.7	(47.2)	定角式。片面が割離欠損。	蛇紋岩	
第5170E PL_263	137	石鏃	K-19	完形	6.0	2.9	0.9	10.7	縦型。つまみはややずれて付けられる。側縁部に刃部作出。	チャート	
第5170E PL_263	138	石鏃	B-24	完形	13.3	5.4	1.2	77	菱形の本体に斜めに幅広のつまみ部が付く大型品。作りの粗い。	黒色頁岩	
第5170E PL_263	139	打製石斧	H-25	完形	10.8	4.3	1.3	80	小型でやや楕身の作り。刃部にやや厚み有り。	粗粒輝石安山岩	
第5170E PL_263	140	打製石斧	K-23	完形	10.3	4.2	1.7	91	楕形。小型で楕身の作り。刃部摩耗し斜めに磨り減る。	黒色安山岩	
第5170E PL_263	141	打製石斧	K-23	完形	10.3	4.7	1.4	103	短楕形。両面に自然面。簡単な作り。	粗粒輝石安山岩	
第5170E PL_263	142	打製石斧	88号土坑	完形	14.5	5.8	1.8	188	楕形。やや厚手で楕身の形態。刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第5170E PL_263	143	打製石斧	H-25	完形	11.2	4.9	1.8	95	楕形。かなり粗い作りで刃部に自然面見られる。	黒色安山岩	
第5180E PL_263	144	打製石斧	D-24	完形	11.0	4.3	1.6	83	短楕形。刃部に円刃。断面の風が見られる。	黒色頁岩	
第5180E PL_263	145	打製石斧	H-25	欠損	(9.3)	5.2	1.7	(86)	楕形。刃部がやや斜めに欠損か。	粗粒輝石安山岩	
第5180E PL_263	146	打製石斧	K-23	完形	11.6	6.3	2.7	169	楕形。基部厚く刃部は薄刃。片面に大きく自然面が残る。	粗粒輝石普通輝石安山岩	
第5180E PL_263	147	打製石斧	G-16	完形	12.9	4.5	1.8	129	楕形で基部が僅かに曲がる。刃部摩耗。	黒色頁岩	有孔虫化石
第5180E PL_264	148	打製石斧	I-17	完形	10.9	4.6	1.4	92	楕形。刃部摩耗顕著。	黒色安山岩	
第5180E PL_264	149	打製石斧	H-23	完形	10.7	5.8	1.8	119	楕形。やや作りは粗い。刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第5180E PL_264	150	打製石斧	J-19	ほぼ完形	10.3	4.9	1.8	125	楕形。両面に自然面残る。片側の側縁は研磨されている。刃部摩耗。	粗粒輝石安山岩	
第5180E PL_264	151	打製石斧	H-14	完形	9.4	4.9	2.2	125	楕形。やや小型品で片面の刃部および基部に自然面残る。	粗粒輝石安山岩	
第5180E PL_264	152	打製石斧	L-22	完形	10.4	4.5	1.6	117	短楕形だが、摩耗し基部、刃部丸みを有す。	黒色安山岩	
第5180E PL_264	153	打製石斧	C-23	完形	12.2	4.9	1.9	129	楕形だが刃部の開きは狭い。	粗粒輝石安山岩	
第5180E PL_264	154	打製石斧	L-21	完形	11.1	5.1	2.2	122	楕形。基部が薄く、中央部分が肥厚。円刃。	不明	



第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	名称	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第190区 PL_264	155	打製石 斧	E-17	完形	9.9	4.6	1.6	77	小型磨形、刃部は薄い刃刃。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	156	打製石 斧	G-15	完形	11.4	5.1	2.2	150	細身の磨形、中央部にやや厚み有り。	細粒輝石安山岩	
第190区 PL_264	157	打製石 斧	X-21	欠損	12.1	6.1	2.3	180	磨形、作りは粗く基部にかけ造れた形状を呈す。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	158	打製石 斧	H-15	完形	10.1	4.6	1.6	108	磨形、やや小型。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	159	打製石 斧	G-21	ほぼ 完形	(12.2)	5.0	2.0	(139)	磨形、刃部の摩耗顕著、一部欠損か。	細粒輝石安山岩	
第190区 PL_264	160	打製石 斧	M-17	完形	9.6	4.9	1.4	90	短磨形、やや小型品で刃部は丸みを有す。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	161	打製石 斧	L-23	完形	10.8	5.8	1.3	121	磨形、やや薄手の作り、刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第190区 PL_264	162	打製石 斧	W-20	欠損	(9.2)	5.6	1.8	(133)	磨形、片面に自然面、基部を欠く。	粗粒輝石普通輝 石安山岩	
第190区 PL_264	163	打製石 斧	H-16	欠損	(7.2)	5.0	1.9	(74)	短い磨形、片面にまるく自然面残る。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	164	打製石 斧	95区	完形	8.6	5.1	2.6	134	基部が厚く短い短磨形。	黒色頁岩	
第190区 PL_264	165	打製石 斧	H-16	完形	8.3	4.7	1.3	58	小型磨形、刃部は薄い直刃。	細粒輝石安山岩	
第190区 PL_264	166	打製石 斧	H-15	完形	10.0	5.3	2.9	145	基部厚く刃部が薄手の作り。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	167	打製石 斧	H-16	ほぼ 完形	8.3	4.9	2.3	87	磨形、短く刃部の摩耗顕著。	細粒輝石安山岩	
第190区 PL_264	168	打製石 斧	H-15	完形	9.1	3.8	1.4	65	小型品。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	169	打製石 斧	K-25	ほぼ 完形	9.7	4.6	1.7	109	磨形、小型品、両面に自然面。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	170	打製石 斧	J-20	完形	7.9	3.7	0.8	33	小型の磨形、片面に自然面、簡単な作り。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	171	打製石 斧	J-20	完形	12.5	3.9	1.7	94	細身に基部は厚く両側縁がわずかに挟れる。刃部は薄手の刃刃。	黒色安山岩	
第190区 PL_264	172	打製石 斧	F-22	完形	7.4	3.3	1.1	30	小型品、薄手で刃部摩耗。	細粒輝石安山岩	
第190区 PL_264	173	打製石 斧	L-25	完形	10.7	8.8	1.7	175	磨形、刃部は大きく開き石楯状を呈す。	細粒輝石安山岩	
第190区 PL_264	174	打製石 斧	95区	完形	6.0	4.5	1.4	33	小型の磨形、短い作り。	黒色頁岩	
第190区 PL_264	175	打製石 斧	L-22	ほぼ 完形	8.8	4.0	1.6	63	小型品、刃部薄く片側側縁に厚み有り。	黒色安山岩	
第200区 PL_264	176	打製石 斧	H-14	完形	10.8	6.1	2.3	139	磨形、基部はやや厚く幅も狭くなる。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	177	打製石 斧	I-21	ほぼ 完形	9.8	4.0	1.3	54	小型でやや不整形、片側縁が刃部状を呈す、スクレイパーの可能性も。	黒色安山岩	
第200区 PL_264	178	打製石 斧	C-25	ほぼ 完形	14.1	5.3	2.4	196	磨形、基部は厚みがあるが、刃部は鋭利したものか薄くなる。	黒色安山岩	
第200区 PL_264	179	打製石 斧	C-25	完形	(9.7)	4.8	2.0	93	磨形、基部がやや厚く刃部は薄くなる。粗い作り。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	180	打製石 斧	G-15	欠損	(8.4)	4.8	1.5	(84)	磨形、刃部は丸みを有す。摩耗顕著、基部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	181	打製石 斧	K-22	欠損	(6.6)	5.5	1.4	(78)	片面に自然面残る刃部片。	粗粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	182	打製石 斧	H-15	欠損	(5.2)	5.4	1.4	(55)	摩耗した刃部片、やや厚手。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	183	打製石 斧	F-24	欠損	(7.3)	5.5	2.1	(112)	刃部片。	黒色頁岩	
第200区 PL_264	184	打製石 斧	89号土坑	欠損	(6.0)	5.7	1.7	(100)	刃部片、直刃で片面に自然面のあるこる。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	185	打製石 斧	X-21	欠損	(6.7)	5.2	1.5	(73)	全体に摩耗した刃部片。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	186	打製石 斧	I-21	欠損	(8.6)	4.9	1.7	(92)	片面に自然面、基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	187	打製石 斧	G-15	欠損	(8.6)	6.0	2.0	(128)	基部を欠く、やや厚みを有し、両面に自然面、全体的に風化が顕著。	粗粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	188	打製石 斧	J-21	欠損	10.0	(4.9)	1.7	(85)	粗い作り、刃部欠く。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	189	打製石 斧	H-15	欠損	(4.3)	4.2	1.7	(35)	刃部片。	細粒輝石安山岩	
第200区 PL_264	190	打製石 斧	N-15	欠損	(9.0)	5.7	2.9	(151)	やや厚みを有す、両側縁の刃直し顕著。刃部片と思われ。	黒色安山岩	
第200区 PL_264	191	打製石 斧	95区	欠損	(6.8)	5.1	1.7	(57)	刃部は丸みを有す。基部を欠く。	細粒輝石安山岩	
第210区 PL_264	192	打製石 斧	86号土坑	欠損	(7.7)	4.1	1.8	(67)	磨形、片面に自然面残る。基部片。	細粒輝石安山岩	
第210区 PL_264	193	打製石 斧	H-16	欠損	(12.4)	5.5	1.2	(77)	薄手の磨形、基部両側縁に浅く挟りを有す。刃部薄く先端部欠損。	細粒輝石安山岩	
第210区 PL_264	194	打製石 斧	G-15	欠損	(14.6)	6.5	3.0	(337)	大型の短磨形、両面に自然面残る。刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石 材	備 考
第S2108 PL_264	195	打製石斧	I-15	欠損	(10.7)	6.2	1.8	(180)	板状の礎利用。両面に自然面。刃部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	196	打製石斧	95K	欠損	(7.8)	5.2	1.5	(54)	薄手の楕形。片面に自然面残す基部片。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	197	打製石斧	M-18	欠損	(10.6)	5.0	1.7	(105)	楕形。片面に自然面残る。刃部の一部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	198	打製石斧	27号土坑	欠損	(9.2)	5.5	1.3	(106)	短冊形か。片面は平らな自然面。やや薄手で作りは粗い。刃部欠損。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	199	打製石斧	95K	欠損	(9.6)	5.8	2.0	(99)	楕形か。刃部を欠く。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	200	打製石斧	W-20	欠損	(7.9)	4.1	0.9	(41)	薄手で片面に大きく自然面が残る。基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	201	打製石斧	J-3	欠損	(7.7)	4.9	1.3	(69)	薄手の基部片と思われる。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	202	打製石斧	H-22	欠損	(8.8)	4.8	2.4	(103)	基部部は薄く中央部厚みがある。刃部欠損。	黒色頁岩	
第S2108 PL_265	203	打製石斧	J-21	欠損	(7.7)	5.0	3.3	(161)	極めて厚手の基部片。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	204	打製石斧	K-17	欠損	(6.0)	3.8	1.1	(26)	基部片と思われるが作りは粗い。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	205	打製石斧	L-22	欠損	(4.9)	3.6	1.7	(57)	基部片と思われる。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	206	打製石斧	M-22	欠損	(8.7)	5.4	1.7	(109)	片面に自然面残る基部片。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	207	打製石斧	A-25	欠損	(8.7)	6.6	2.0	(139)	大型品の基部片と見られる。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	208	打製石斧	K-22	欠損	(8.2)	3.3	1.5	(40)	細身の基部片。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	209	打製石斧	H-16	欠損	(8.4)	6.8	0.9	(67)	薄い幅広の板状で両面に自然面。基部片か。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	210	打製石斧	L-21	欠損	(6.5)	4.8	1.8	(60)	両面に自然面の残る基部片。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	211	打製石斧	U-18	欠損	(6.1)	4.2	1.3	(27)	大きく割離欠損した基部片と思われる。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	212	打製石斧	95K	欠損	(6.2)	4.0	1.9	(51)	基部片。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	213	打製石斧	K-25	欠損	(11.6)	5.4	1.8	(115)	中央の側縁部に浅い抉り。刃部厚残し丸みを呈す。基部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	214	打製石斧	I-21	欠損	(7.1)	4.2	1.1	(54)	両面に自然面。基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	215	打製石斧	K-25	欠損	(6.1)	5.3	0.9	(41)	薄手の基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	216	打製石斧	K-20	欠損	(6.2)	3.6	1.1	(34)	片面に自然面残る基部片と思われる。	黒色頁岩	
第S2108 PL_265	217	打製石斧	K-25	欠損	(8.5)	5.4	1.4	(85)	基部片と思われる。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	218	打製石斧	M-18	欠損	(6.4)	4.0	1.4	(50)	基部片。基部下端面および側縁に自然面。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	219	打製石斧	W-21	欠損	(5.0)	4.4	1.0	(23)	薄手で先端が丸みを帯びたV字状を呈す。縁辺の調整細かい。基部片か。石筵の可能性もある。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	220	打製石斧	H-16	欠損	(5.5)	5.3	1.3	(65)	両面に自然面。基・刃部を欠く。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	221	打製石斧	J-19	欠損	(5.9)	4.4	1.7	(85)	基部片と思われる。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	222	打製石斧	95K	欠損	(5.3)	3.9	1.1	(28)	小笠薄手の基部片。	黒色頁岩	
第S2108 PL_265	223	打製石斧	I-22	欠損	(3.3)	5.1	1.8	(31)	基部片か。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	224	スクレイパー	N-24	完形	7.1	7.1	1.0	69	薄手の台形を呈す。下辺部に刃部作出。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	225	スクレイパー	O-18	欠損	(5.1)	4.6	0.5	(13)	半月状の薄手割片の側縁に刃部を作出。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	226	スクレイパー	X-21	完形	6.9	6.0	0.9	62	片面に自然面残す割片側縁に、粗く刃部を作出。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	227	石核	C-25	完形	9.3	7.2	5.0	394	ほぼ全面に剥離面を持つ。	黒色頁岩	
第S2108 PL_265	228	石核	F-18	完形	14.0	7.2	4.9	525	厚手の礎片。側縁部を剥離調整。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	229	不定形石筵	M-16	完形	10.8	7.3	3.0	214	頭部は厚手で大きく開き、下部側縁は細く作出されている。未製品か。	黒色安山岩	
第S2108 PL_265	230	磨石	J-25	完形	11.6	8.0	5.4	763	やや扁平な長円礫。使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	231	磨石	90号土坑	完形	11.1	8.4	6.6	920	傘大の円礫利用。使用面平滑で、端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	232	磨石	95K	完形	8.7	8.2	6.6	630	傘大の円礫。使用面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	233	磨石	K-17	完形	12.1	7.5	5.4	700	長円礫。表面比較的平滑。片面に厚付層。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第S2108 PL_265	234	磨石	I-16	完形	10.3	6.9	4.8	520	やや扁平な長円礫。表面の平坦面を使用。	粗粒輝石安山岩	

### 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第52400 PL_265	235	磨石	C-25	完形	9.5	7.4	4.5	446	やや扁平な円鏡。表面は比較的平滑。	黒色安山岩	
第52400 PL_265	236	磨石	S-18	完形	8.2	4.8	4.4	280	やや長めの楕形を呈す。表面平滑。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	237	磨石	90号土坑	完形	15.6	6.3	3.7	560	扁平な楕円鏡。端部に僅かな打痕。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	238	磨石	95区	ほぼ 完形	11.2	7.7	3.3	468	扁平な小判形を呈す。両使用面平滑で、僅かに打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	239	磨石	G-15	完形	6.6	6.0	3.9	230	やや扁平な小円鏡。表面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	240	磨石	J-25	完形	11.2	8.0	5.8	750	やや扁平な楕円鏡。磨り面は平滑。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	241	磨石	C-25	完形	8.9	6.1	3.9	280	やや扁平な楕円鏡。両面使用面とし打痕有り。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	242	磨石	W-22	完形	4.7	3.3	3.0	62	小型の楕形を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	243	磨石	S-18	完形	5.8	5.1	4.0	64	小円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_265	244	磨石	95区	完形	8.6	7.6	6.9	620	傘大の円鏡。あまり平滑さは見られない。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	245	磨石	Q-19	完形	6.7	7.2	5.5	340	小円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	246	磨石	X-21	完形	6.6	3.9	3.4	132	楕形の円鏡。平滑さは見られない。	デライト	
第52400 PL_266	247	磨石	G-20	完形	8.5	6.7	4.8	346	片面が丸く肥厚。表面ややざらつきが有る。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	248	磨石	B-20	完形	10.4	5.8	5.0	300	やや角張った長円鏡。両端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	249	磨石	J-12	完形	8.1	6.1	4.0	380	扁平な楕円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	250	磨石	M-16	欠損	9.9	6.1	3.9	319	扁平な小判形の鏡。一部に割傷。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	251	磨石	I-24	完形	8.2	6.3	4.2	322	やや扁平な小鏡。表裏中央に浅い打痕。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	252	磨石	188号土坑	完形	12.9	8.9	4.5	720	扁平な楕円鏡。両面使用。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	253	磨石	G-15	完形	9.9	9.8	6.1	730	やや扁平な円鏡発掘資の石材。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	254	磨石	H-16	完形	12.6	8.6	5.8	920	やや扁平な長円鏡。やや大振り。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	255	磨石	B? -16	完形	12.0	10.0	3.6	680	扁平な楕円鏡を呈す。一面僅かに窪む。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	256	磨石	86号土坑	完形	7.0	6.8	5.0	306	小円鏡。一部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	257	磨石	H-17	完形	8.0	5.2	2.8	159	扁平な長円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	258	磨石	X-20	完形	4.6	4.2	1.2	55	扁平な小円鏡。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	259	磨石	L-23	完形	9.9	7.1	2.1	190	扁平な楕円鏡を呈す。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	260	磨石	89号土坑	完形	10.2	7.4	5.0	590	やや扁平な円鏡。両面使用面とし、浅い打痕あり。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	261	磨石	W-21	完形	6.0	5.0	4.0	132	小型の円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	262	磨石	271号土坑	完形	11.4	8.5	4.4	620	扁平で不定形。硬質の石材で割傷に打痕見られる。	流紋岩	
第52400 PL_266	263	磨石	G-16	完形	9.5	6.3	3.5	300	やや扁平な長円鏡。表面は比較的平滑。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	264	磨石	95区	完形	6.5	5.8	5.4	226	小円鏡。表面にざらつきが見られる。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	265	磨石	T-19	完形	8.1	4.9	4.0	170	小型の楕円鏡。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	266	磨石	H-24	完形	14.1	7.2	6.0	970	楕円鏡。やや大振り。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	267	磨石	G-19	完形	15.3	7.7	5.2	940	楕円鏡利用。片面が丸く肥厚。	粗粒輝石安山岩	
第52400 PL_266	268	磨石	G-15	完形	6.4	5.2	4.0	146	小円鏡。赤色を呈す。	安山岩	
第52400 PL_266	269	磨石	H-22	完形	9.4	5.8	2.3	190	扁平な鏡。丸みを持った長方形を呈す。一面に知く溝状の凹みがある。	安山岩	
第52400 PL_266	270	磨石	K-17	完形	13.0	6.0	4.6	610	角張った楕円鏡。表面平滑。	粗粒輝石安山岩	
第52700 PL_266	271	磨石	K-25	完形	12.1	8.2	4.2	640	扁平な長円鏡。両面使用面。中央に浅い打痕見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩	
第52700 PL_266	272	磨石	85号土坑	完形	7.0	5.1	3.8	215	小型の円鏡。被熱か。	粗粒輝石安山岩	
第52700 PL_266	273	磨石	H-17	欠損	(7.7)	4.7	3.1	(190)	やや扁平な楕円鏡の欠損品。	粗粒輝石安山岩	
第52700 PL_266	274	凹石	O-17	完形	11.4	8.4	4.8	700	やや扁平な長円鏡。表裏に一對の浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

発掘番号 図面番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第5274区 PL_266	275	凹石	F-15	完形	11.8	6.8	5.2	670	長円形織の両面に1対ずつの凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第5274区 PL_266	276	磨石	I-20	欠損 (11.8)	(7.9)	(3.5)	(550)	扁平で小四角を呈す。片面が剝離。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第5274区 PL_266	277	凹石	L-22	完形	11.5	7.4	3.5	420	扁平な精円形を呈す。両面に1対ずつの凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩	
第5274区 PL_266	278	凹石	K-3	完形	11.2	8.3	5.9	780	やや扁平な精円形の織。両面に浅い凹み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩	
第5274区 PL_266	279	凹石	G-25	完形	11.7	8.6	4.5	630	扁平な長円織。両面使用面。中央に浅い凹みを有す。	粗粒輝石安山岩	
第5284区 PL_266	280	磨石	I-24	完形	12.8	8.3	4.1	680	扁平な長円織。表面は比較的平滑。	砂岩	
第5284区 PL_267	281	凹石	I-18	欠損 (6.3)	(7.6)	4.7	(282)	長円形の織。両面に複数の凹み穴を有す。半分を欠く。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第5284区 PL_267	282	磨石	G-16	欠損 (4.9)	5.4	4.0	(152)	欠損品。表面は平滑。	粗粒輝石安山岩		
第5284区 PL_267	283	磨石	A-22	完形	12.1	5.7	3.6	360	棒状織。片面中央および端部に打痕。	粗粒輝石安山岩	
第5284区 PL_267	284	磨石	B-15	欠損 (7.1)	5.3	3.0	(222)	扁平な棒状織の欠損品。	粗粒輝石安山岩		
第5284区 PL_267	285	磨石	H-14	欠損 (6.1)	7.2	2.2	(182)	扁平な織を利用。両面平滑。欠損品。	粗粒輝石安山岩		
第5284区 PL_267	286	磨石	K-17	欠損 (8.6)	4.5	3.5	(176)	棒状織の欠損品。端部に打痕。	粗粒輝石安山岩		
第5284区 PL_267	287	磨石	H-15	欠損 (3.7)	(5.1)	3.5	(96)	棒状か。両面に浅い凹みを有す。両端部を欠く。	流紋岩		
第5284区 PL_267	288	磨石	G-22	欠損 (4.7)	7.8	2.9	(133)	扁平な織を利用。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第5284区 PL_267	289	砥石	F-4	完形	11.4	7.3	5.0	930	扁平な長円織。やや大振りで打面はほぼ平ら。	石英閃緑岩	
第5284区 PL_267	290	磨石	跡石土庫	ほぼ 完形	11.8	6.2	3.4	397	扁平な長円織。両面に打痕による浅い凹みが見られる。	安山岩	
第5284区 PL_267	291	磨石	J-19	完形	6.9	5.9	2.8	158	扁平な小円織。	粗粒輝石安山岩	
第5284区 PL_267	292	磨石	J-21	欠損 (8.1)	5.9	3.4	(260)	扁平な棒状か。欠損品。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第5294区 PL_267	293	凹石	N-22	欠損 (11.6)	8.0	5.5	(530)	不定形な織。表面に浅い凹み穴を有す。	粗粒輝石安山岩		
第5294区 PL_267	294	凹石	B-18	完形	11.5	8.6	6.5	550	不定形な発泡質の石を利用。表面に1つずつ凹み穴が穿たれる。	安山岩質熔岩	
第5294区 PL_267	295	凹石	J-19	完形	7.4	6.6	4.8	288	不定形な織の一面にやや大きい凹み穴が見られる。	流紋岩	
第5294区 PL_267	296	磨石	B-20	完形	17.7	13.7	10.8	3,690	大型の長円織。端部に打痕見られる。	粗粒輝石安山岩	
第5294区 PL_267	297	砥石	F-24	ほぼ 完形	19.6	10.3	7.3	(2,000)	大型の棒状織。両端部に打痕有り。	石英閃緑岩	
第5294区 PL_267	298	磨石	L-23	完形	14.0	9.3	5.3	1,080	扁平で比較的大型の織。平坦面はやや平滑。	安山岩	
第5294区 PL_267	299	磨石	I-20	欠損 (15.2)	7.9	4.4	(720)	扁平な長円織。両面に剝離が見られる。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第5294区 PL_267	300	軽石製品	K-25	欠損 (7.1)	(4.2)	2.8	(40)	石組のミニチュアか。	軽石		
第5294区 PL_267	301	軽石製品	K・L・M?	完形	4.5	3.6	3.1	20	小型の餅状を呈す。	軽石	
第5304区 PL_267	302	砥石か	C-25	完形	7.1	4.5	4.6	70	発泡質の火山質岩。砥石として使用か。	軽石	
第5304区 PL_267	303	軽石製品	D-18	ほぼ 完形	7.3	6.3	3.9	46	平らに整形された下面を作業面として使用。砥石と思われる。	軽石	
第5304区 PL_267	304	大珠	H-15	完形	4.0	3.2	1.9	32	やや小型品。短いすず形で片面は平ら。上部に両側面からの穿孔あり。	翡翠	
第5304区 PL_267	305	石皿	I-21	欠損 (5.3)	(9.9)	5.1	(480)	縁辺部破片。縁の高まりは弱い。裏面に凹み穴有す。	緑色片岩		
第5304区 PL_267	306	台石	F-16	欠損 (14.4)	14.3	7.3	(2,000)	比較的厚手の台石破片か。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第5304区 PL_267	307	石皿	H-19	欠損 (12.0)	(7.0)	5.5	(580)	縁辺部破片。縁の高まりは弱い。被熱。	粗粒輝石安山岩		
第5304区 PL_267	308	石皿	H-16	欠損 (14.5)	(18.4)	11.6	(4,450)	不定形な大型石片の上面を深く磨めて使用面とする。	粗粒輝石安山岩		
第5304区 PL_267	309	石棒	H-15	破片 (16.8)	(4.8)	(4.9)	(830)	大型石棒片。被熱。	緑色片岩		
第5304区 PL_267	310	石棒	K-23	欠損 (4.3)	3.0	1.8	(46)	破片。断面は両面が扁平な精円形。	緑色片岩		
第5304区 PL_267	311	石棒	N-21	破片 (14.3)	(8.5)	(4.5)	(950)	大型石棒片。被熱。	緑色片岩		
第5304区 PL_267	312	石棒	J-19	破片 (7.5)	(4.8)	(1.9)	(72)	石棒片。	緑色片岩		
第5304区 PL_267	313	石棒	I-25	破片 (10.0)	(7.9)	(3.0)	(342)	断面半月状の大型石棒片。被熱。	緑色片岩		

### 第3節 平安時代以降の遺構と遺物

本年度調査を実施した長野原一本松遺跡で検出された遺構および遺物については、縄文時代のものが主体を占めていた。該期以降については弥生～古墳時代の遺構は無く、遺物についても確認されていない。

遺構は、基本土層で言えばⅢ層、ないしは上層において検出、または確認されたものである。主な遺構としては焼土、土坑、溝、石列等である。以下、各遺構について概説する。なお、出土遺物については縄文時代に帰属する遺物に関しては、縄文時代の遺構外出土遺物として記載している。

#### 1. 焼土

焼土については総数21基が検出された。このうち切り合いや層位、出土遺物などから12基を平安時代以降のものとして判断した。内訳は5区において7基、95区において5基を検出した。分布状況を見ると、調査区の北側から中央さらには西側にかけて点在する。明らかに近現代の攪乱に伴うものもあるが、層位や出土遺物から明らかに平安期にまで遡るものも存在する。

5-6・10～15号焼土は平安時代以降（近世の可能性が高い）の所産と考えられる。いずれも円形あるいは不定形に広がる焼土が検出されている。縄文住居の覆土最上面に位置するものも見られる。出土遺物はほとんど無く、焼土も比較的薄い。いずれも性格は不明である。

#### 5-6号焼土（第532・534図：PL.113・268）

J-2グリッドに位置する。長径50cmほどの広がりを持つ焼土が確認された。焼土は明るく発色し、西が開く馬蹄形を呈していたことから、住居のカマドを想定して調査を行った。最終的に住居跡であることを明確にできなかったものの、断面に弧状の焼土層および下層に灰層を認めたことや、焼土内および西側において土師器製の小片、須恵器片が出土していることから、上部を削平されたカマドである可能性が高い。周辺において検出されている、平安時代後期の住居跡の痕跡であると思われる。

#### 5-10号焼土（第532図：PL.113）

5-8号住居内に覆土上層に位置する。径60cm程の円形に広がる焼土を認めた。出土遺物は見られない。

#### 5-11号焼土（第532図：PL.113）

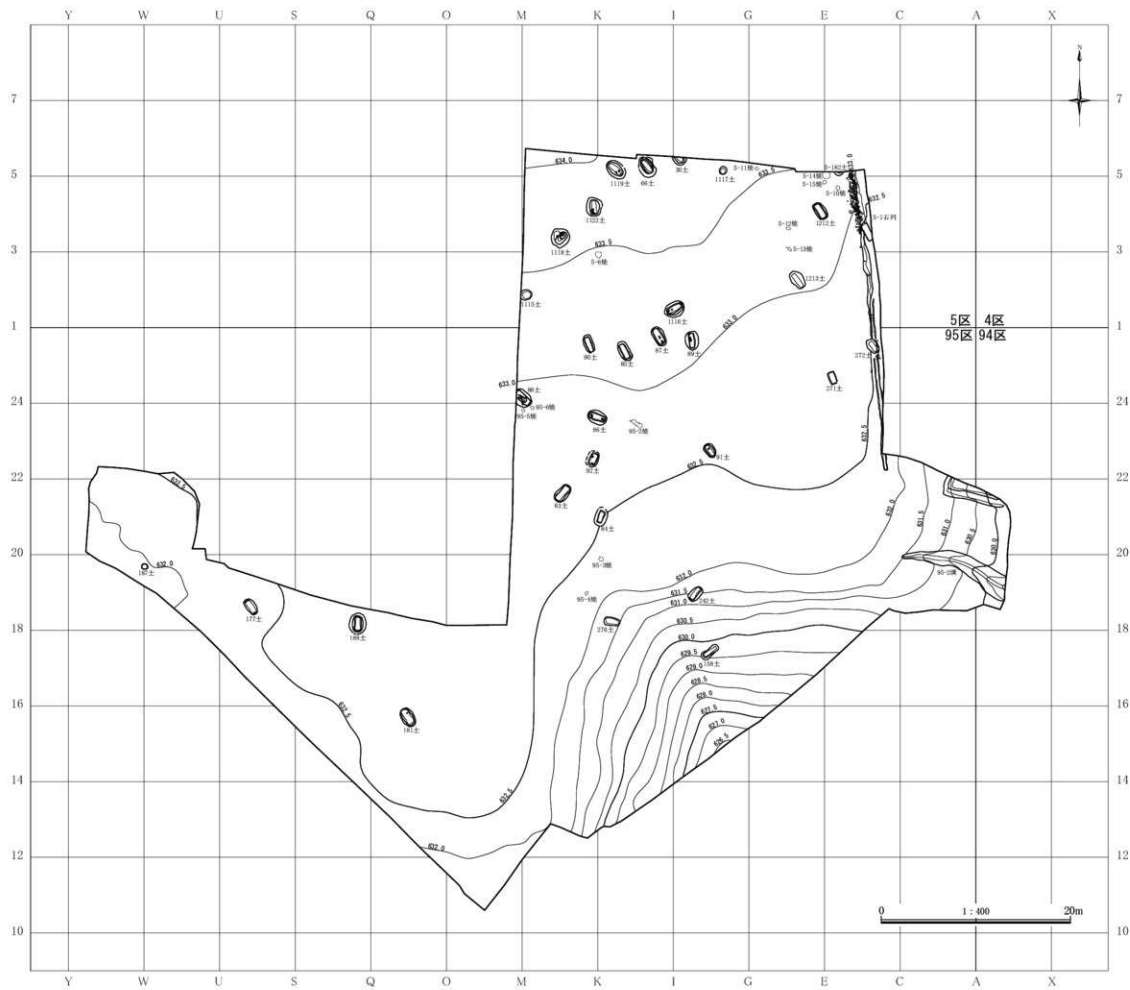
F-5グリッドに位置する。調査区の北端に南側の一部を検出した。不定形に広がる焼土層と長円形の掘方を検出した。出土遺物は見られない。

#### 5-12号焼土（第532図：PL.113）

5-156号住居跡内に位置する。覆土上層に検出された。不定形に広がる焼土が見られた。出土遺物は無い。

#### 5-13号焼土（第532図：PL.113）

5-12号焼土とともに、5-156号住居跡内に位置する。覆土上層に検出された。不定形に広がる焼土が見られた。出土遺物は無い。



第531图 5・95区全体图(平安时代以降)

## 5-14号焼土 (第533図: PL.114)

5-8号住居内に覆土上層位置する。北側は調査区外となる。縦横1m程に広がる焼土が検出された。焼土の厚さは約5cmである。出土遺物は見られない。

## 5-15号焼土 (第533図: PL.114)

5-8号住居内に位置する。径30cm程に広がる焼土を認めた。焼土下に土坑が検出された。焼土はレンズ状に落ち込んでおり、土坑との関連が想起される。住居を切って掘り込まれている。

## 95-2号焼土 (第533図: PL.114)

長さ約1.5m、最大幅約50cmで不定形に広がる焼土である。焼土はやや攪乱を受けた状況であまり明瞭な範囲を示さない。出土遺物も無く時期は平安以降と考えられる。

## 95-3号焼土 (第533図: PL.114)

J-19グリッドに位置する。95-38号住居の上面に重複。楕円形の焼土範囲を示し、土器片および北西部に火を受けた角礫が出土している。焼土は中央部がやや厚みを持つ。

## 95-4号焼土 (第533図: PL.114)

K-18グリッドに位置する。範囲は不定形で小さい。焼土は少量で一部ブロック状に検出されている。出土遺物はほとんど見られない。

## 95-5号焼土 (第533図: PL.114)

L-23グリッドに位置する。95-37号住居内、95-15号住居跡の北壁部分に重複する。若干の焼土ブロックの周囲に焼土粒が広がる。出土遺物は見られなかった。焼土下に深さ30cmの土坑が検出されている。

## 95-6号焼土 (第533図: PL.114)

95-37号住居内に検出、明るい黄褐色を呈す焼土ブロックが円形に検出された。住居よりは新しいものと判断される。出土遺物は見られない。95-5号焼土の東に近接しており一連のものである可能性が高い。

## 2. 土坑 (第535～550図: PL.115～124)

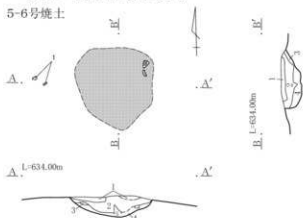
5・95区調査区内でⅢ層遺構確認時に比較的上面において、平安時代以降(近・現代も含む)の所産と考えられる30基を、さらに西側の8・17・18・19区内において11基の総数41基の土坑を検出した。

これらの土坑の内、比較的大型で深さがあり、楕円形または隅丸長方形を呈した、陥し穴と判断されるものが複数基検出されている。こうした土坑については長野原一本松遺跡において、これまでに100基以上が調査されており、今回の調査においても34基(過年度に調査され今回追加調査したものは除く)を調査した。以下各区ごとに概要を記す。

大型で楕円または隅丸長方形を呈し、掘り込み面がⅢ層からで、深さ1m以上の土坑は陥し穴と判断される。覆土は黒味が強く軟質で、その多くは遺構確認時、中央にロームブロックや炭化物、軽石の混土が円形に認められることが多い。一部には焼土を伴うものも見られる。

第3章 検出された遺構と遺物

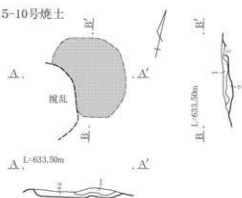
5-6号焼土



5-6号焼土

- 1 暗褐色土 焼土(棕色)細粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 橙褐色土 1に焼土(棕色)ブロック多く混入し炭化物塊かに含む。
- 3 暗褐色土 焼土(棕色)および淡黄軽石塊かに含む。
- 4 青灰色土 灰層、シルト質。

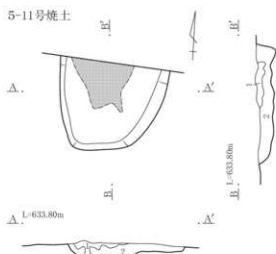
5-10号焼土



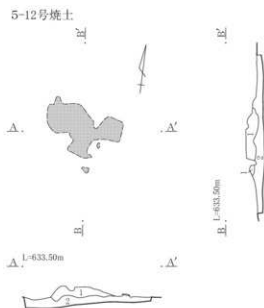
5-10号焼土

- 1 橙褐色土 焼土。
- 2 暗褐色土 僅かに焼土粒含む。

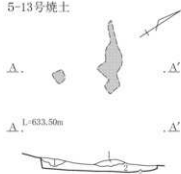
5-11号焼土



5-12号焼土



5-13号焼土



5-11～15号焼土

- 1 橙褐色土 焼土主体で若干の軽石粒含む。
- 2 暗褐色土 若干の焼土粒、軽石含みやや縮まる。
- 3 暗褐色土 黒色土に若干の軽石、焼土粒含む。

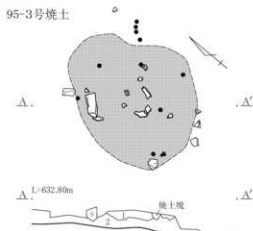
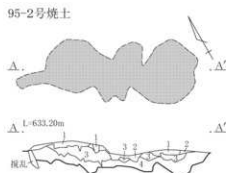
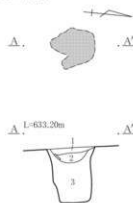
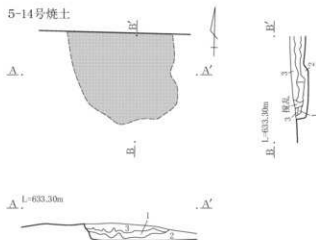
0 1:30 1m

第532図 5区焼土



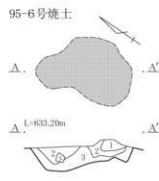
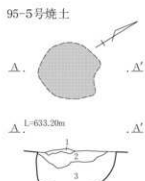
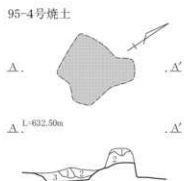
第3節 平安時代以降の遺構と遺物

5-15号焼土



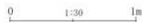
- 95-2号焼土
- 1 暗赤褐色土：ローム小ブロック、焼土粒の混入。
  - 2 黒褐色土：黒色土と焼土小ブロックの混入。
  - 3 黒褐色土：焼土、黒褐色土をブロック状に含み、淡黄褐色軽石若干含む。
  - 4 黒褐色土：焼土塊かき含み、淡黄褐色、白色軽石やや多く含む。

- 95-3号焼土
- 1 橙黄褐色土：焼土ブロック多く含む。
  - 2 暗褐色土：やや焼土化した地山。



- 95-4号焼土
- 1 暗赤褐色土：焼土を多く含む軟質土。
  - 2 暗褐色土：焼土粒塊かき含む。
  - 3 暗褐色土：塊かきの焼土、ローム粒含む。

- 95-5, 6号焼土
- 1 黄褐色土：焼土主体の細密土。
  - 2 暗褐色土：焼土ブロック、軽石多く含む。
  - 3 黒褐色土：少量の炭化物含む。



第533図 5・95区焼土

### 第3章 検出された遺構と遺物



第534図 5-6号焼土出土遺物

5区と95区では比較的平坦部から斜面部分にかけて総数26基が検出された。調査区北側のものについては、平成9年度調査時のものと重複するものもある。

5区において検出された土坑は比較的規模が大きく、長軸長は2.2m、短軸幅も1.5mを超え、深さも2.2mにも達するものが見られた。こうした陥し穴と見られる土坑は調査区の谷の縁辺からやや下がった場所に集中して作られている。土坑の配置を詳しく見ると、5-30・66・119・1122・1118はやや主軸方向を変えるものの、等高線に沿うように並び、その南側に約10m程離れて、5-1212・1213・1116、95-89・87・85・90・88がやはり等高線に沿って並ぶように配される。さらに下位にもやや並びは不規則ながら、数基の陥し穴が検出されている。また陥し穴以外の土坑（5-182・1117・1115等）も数基が検出されている。これらはほぼ円形で1mを超える規模のものもあるが、掘り込みは比較的浅い。数は少なく、出土遺物もなく性格は不明である。一部には近世以降のものも含まれていると思われる。

調査区西側丘陵部にあたる、8・17・18・19区については、過年度の調査において比較的遺構の希薄な部分と考えられていたために、ほぼ全面にトレンチを配し、遺構が確認された部分を拡張して調査を行った。住居等は見られず、縄文時代を含め、遺物はほとんど出土していない。陥し穴と考えられる土坑は点在して見つかっている。調査の結果、8区において1基、17区で1基、18区で6基、19区において3基の土坑を検出した。この他に極めて新しい落ち込みや風倒木痕等が確認されている。

検出された土坑はいずれも長円形で深さ1m程である。覆土層部分にレンズ状にロームブロックや軽石、炭化物等が見られる状況は5区や95区のものと同様である。土坑の多くは壁断面中位に厚く堆積したYPK層が認められ、土坑内下部には軽石の崩落が多く見られ、壁面が抉れた状況を呈するものが多々見受けられ、一部にこうした軽石の崩落を防ぐために粘質土を壁面に貼ったような痕跡も見られた。

### 3. 溝・石列

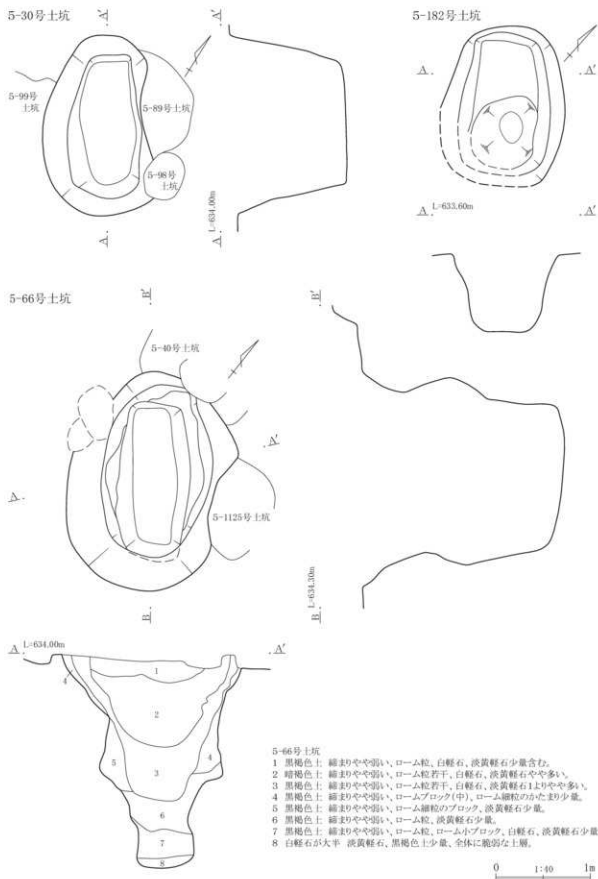
#### 95-2号溝（第552図：PL.124）

調査区の東端部、東に傾斜した地形突端部分に溝の西端部分が検出された。西端は細く調査区端では幅約2.5m、深さ50cmを測る。東に向かって下がっており比高差は約2mで、断面は大きく開くV字状である。自然流路の可能性が高い、出土遺物は僅かに陶磁器片が見られたのみである。時期は近世以降と判断される。

#### 5-1号石列（第552図：PL.124）

調査区の東端部に在り、南北に走る地境の落ち込みである。比較的大型の石が一部直線的に検出されているが、地境に並んでいたものが東側に落ち込んだ状態と考えられる。土はかなり荒れた状態で、縄文土器、石器さらには近・現代の陶磁器などが礫に混じて出土している。地山は人為的に削られ、南側から約20mに渡り、幅50cm程の溝が上端部に走り、その東側は段差を持って落ち込んでいる。近代以降の所産と考えられる。遺構として扱うものの、遺物に関しては遺構外の遺物として掲載する。

第3節 平安時代以降の遺構と遺物



5-66号土坑

1 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、白軽石、淡黄軽石少量含む。

2 暗褐色土 締まりやや弱い、ローム粒若干、白軽石、淡黄軽石上りやや多い。

3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒若干、白軽石、淡黄軽石上りやや多い。

4 黒褐色土 締まりやや弱い、ロームブロック(中)、ローム細粒の付まり少量。

5 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒のブロック、淡黄軽石少量。

6 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、淡黄軽石少量。

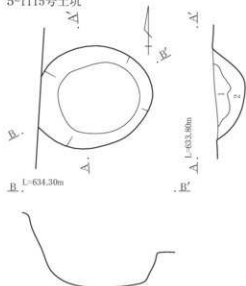
7 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、ローム小ブロック、白軽石、淡黄軽石少量。

8 白軽石が大平 淡黄軽石、黒褐色土少量、全体に脆弱な土層。

第535図 5区土坑(平安時代以降)(1)

第3章 検出された遺構と遺物

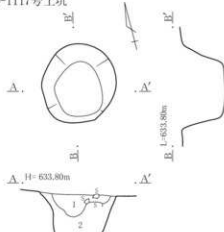
5-1115号土坑



5-1115号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロック(小)やや多く淡黄軽石、炭化物塊かに含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロック(小)、淡黄軽石僅かに含む。

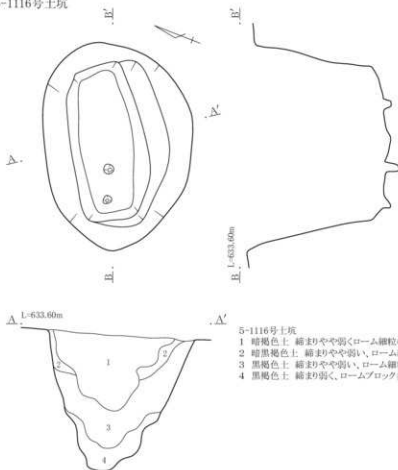
5-1117号土坑



5-1117号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱い、ローム細粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 締まりやや弱く、ローム細粒、ローム小ブロック少量含む。

5-1116号土坑



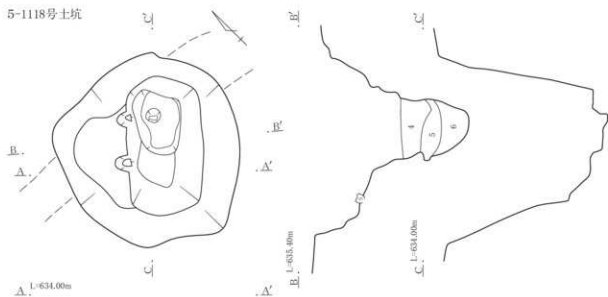
5-1116号土坑

- 1 暗褐色土 締まりやや弱くローム細粒のかたまり、ローム粒少量含む。
- 2 暗黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム細粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱く、ロームブロック多く含む。

0 1:40 1m

第536図 5区土坑(平安時代以降)(2)

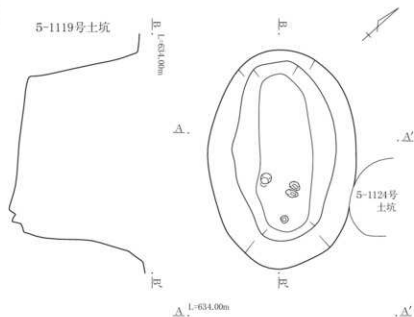
5-1118号土坑



5-1118号土坑

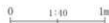
- 1 黒褐色土 締まりやや弱い、淡黄軽石、ローム粒、褐色粒僅かに含む。
- 2 暗褐色土 締まり強い、淡黄軽石やや多くローム粒、白色粒、褐色粒、炭化物僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱い、淡黄軽石少し、ローム粒やや多く含む。
- 4 黒褐色土 締まり強い、淡黄軽石少量、ロームブロック(小)、褐色粒少量含む。
- 5 黒褐色土 締まり弱い、硬質のローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 6 黒褐色土 締まり強い、ロームブロック多く、淡黄軽石僅かに含む。

5-1119号土坑



5-1119号土坑

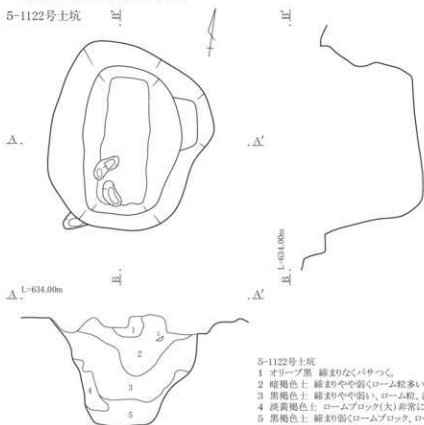
- 1 オリーブ黒色土 締まりなく若干の小礫、ローム細粒含む。
- 2 黒褐色土 締まりなし、ローム小ブロック、黒褐色土とローム細粒ブロック、淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土 締まりなし、ローム粒少量、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まりなし、ローム粒とロームブロック(小)多く淡黄軽石少量含む。
- 5 黒褐色土 締まりなし、ロームブロック(大)多く淡黄軽石少量。



第537図 5区土坑(平安時代以降)(3)

第3章 検出された遺構と遺物

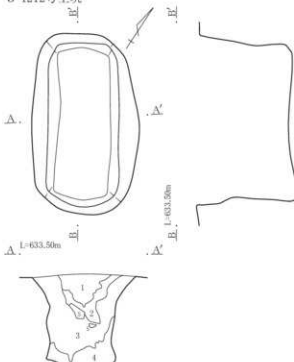
5-1122号土坑



5-1122号土坑

- 1 オリーブ黒 締まりなくバサつく。
- 2 暗褐色土 締まりやや弱い、ローム粒多い、褐色粒、淡黄軽石、角礫少量含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 4 淡黄褐色土 ロームブロック(大)非常に多く、黒褐色土、淡黄軽石少量、締まり弱い。
- 5 黒褐色土 締まり弱くロームブロック、ローム粒やや多い、淡黄軽石少量含む。

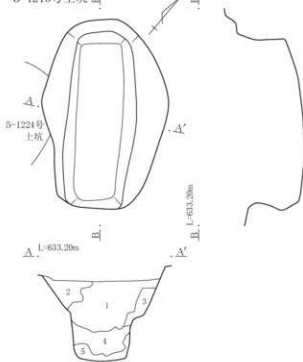
5-1212号土坑



5-1212号土坑

- 1 褐色土 締まり弱い、黒褐色土とローム粒、ロームブロックとの混土。
- 2 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒少々目立ち淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒少量、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、ロームブロック多く含む。

5-1213号土坑



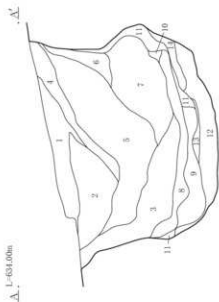
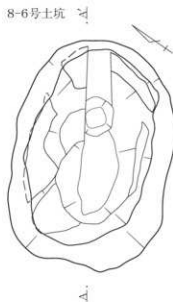
5-1213号土坑

- 1 黒褐色土 締まりなくバサつく、ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 1より明るい色調、締まり弱く大粒淡黄軽石少量含む。
- 3 黒褐色土 締まり強い、ロームブロック、ローム粒多く、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 暗褐色土 締まり弱い、ローム粒(大、小)やや多く含む。
- 5 黒褐色土とロームブロック、ローム粒との混土、締まり弱い。

第538図 5区土坑(平安時代以降)(4)

0 1:40 1m

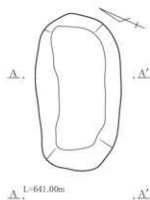
8-6号土坑



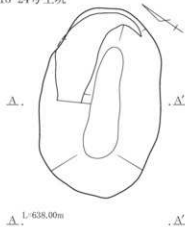
8-6号土坑

- 1 に近い黄褐色土 YPK, ローム粒子, 黒色細粒土を含む。
- 2 暗黄褐色土 YPK, ロームブロック, 黒色細粒土を含む。
- 3 暗褐色土: 締まりなし, 褐色粒, ローム粒子, YPK粒を黒色細粒土に含む。
- 4 黒色細粒土: ローム粒子を僅かに含む。
- 5 黒色細粒土: 4に炭化物を含む。
- 6 黒色細粒土: 4にローム粒子を含む。
- 7 黄褐色土: 黒色土を含むロームブロック。
- 8 黒褐色土: 粘性あり。
- 9 黒褐色土: YPKが褐色化したもの。
- 10 黄褐色土: YPKブロック。
- 11 に近い黄褐色土: 黒褐色粘質土, ローム。
- 12 に近い黒褐色土: 黒褐色粘質土, YPK。
- 13 暗黄褐色土: ぐずれたローム。
- 14 黄褐色土: ぐずれたローム, YPK。

17-35号土坑

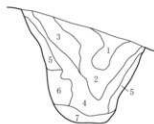


18-24号土坑



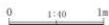
17-35号土坑

- 1 黒色土: 大粒な黄白色軽石 (YPK) 多く含む。
- 2 黒色土: 大粒な黄白色軽石 (YPK) 少し含む。2~10cm 大の礫含む。



18-24号土坑

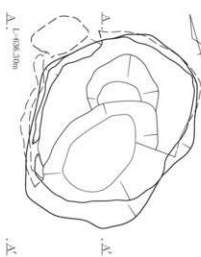
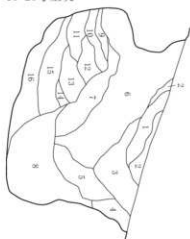
- 1 暗褐色土: YPK粒, 褐色粒, ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土: 締まりなし, 褐色粒, ローム粒子, YPK粒を含む。
- 3 黒色細粒土: ローム粒子, 褐色粒を僅かに含む。
- 4 暗褐色土: ローム粒子, ロームブロック粒を含む。
- 5 暗褐色土: ぐずれたロームを均一に含む。
- 6 黄褐色土: 黒色土を含むロームブロック。
- 7 暗褐色土: 黒色土, 粘質土, ローム粒子, YPK含む。



第539図 8・17・18区土坑(平安時代以降)

第3章 検出された遺構と遺物

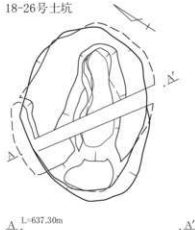
18-25号土坑



18-25号土坑

- 1 黄褐色土 ローム、YPKが主体で黒色細粒土種かを含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒子が主体でYPK粒、褐色粒を含む。
- 3 暗褐色土 締まる、YPK、褐色粒、ローム粒子含む。
- 4 暗褐色土 3と同じだがローム粒子をほとんど含まず。
- 5 暗褐色土 3と同じだがローム粒子、YPKともにほとんど含まず。
- 6 黒色細粒土 ローム粒子、褐色粒、YPK含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック粒含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック粒、YPKを含む。
- 9 暗褐色土 YPK、ロームブロック、黒色土の混入。
- 10 黒褐色土 黒色土、ローム粒子含む。
- 11 黄褐色土 YPK、ローム粒子、黒色土含む。
- 12 暗黄褐色土 ロームブロック、黒色土含む。
- 13 黒褐色土 粘性あり YPK、黒色土の混入。
- 14 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
- 15 暗黄褐色土 ロームブロック。
- 16 黒褐色土 黒色土、YPK含む。

18-26号土坑



18-26号土坑

- 1 褐色土 ローム粒子、YPK粒を含む。
- 2 黒色細粒土 ローム粒子、褐色粒種かを含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒、YPK含む。
- 4 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
- 5 黄褐色土 ロームブロック。
- 6 黄褐色土 YPK、ローム粒子。
- 7 黒褐色土 粘性あり。
- 8 灰褐色土 YPKに黒褐色土入る。
- 9 暗黄褐色土 ぐずれたローム、YPK。
- 10 にぶい黄褐色土 ローム粒子、YPK、黒色土。
- 11 にぶい灰褐色土 黒色土、YPK粒。

18-27号土坑



18-27号土坑

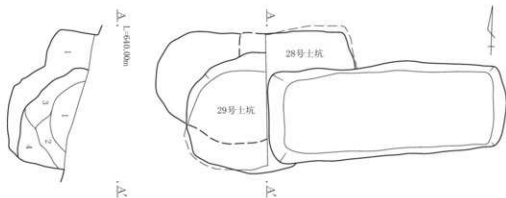
- 1 褐色土 ローム粒子、YPK粒を含む。
- 2 黒色細粒土 ローム粒子、褐色粒種かを含む。
- 3 暗褐色土 締まりなし、褐色粒、ローム粒子、YPK粒種かを含む。
- 4 暗褐色土 3にYPK多く入る。
- 5 暗褐色土 ぐずれたロームを均一に含む。
- 6 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
- 7 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒、YPK含む。
- 8 黄褐色土 黒色土を含むロームブロック。
- 9 黄褐色土 YPKブロック。



第540図 18区土坑(平安時代以降)



18-28・29号土坑



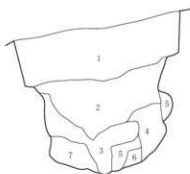
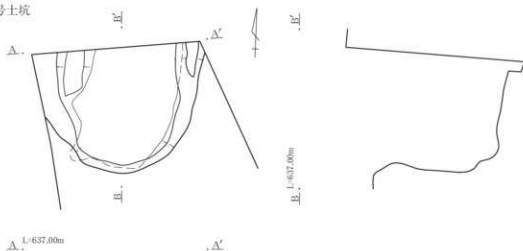
18-28号土坑

1 黒色土：ローム粒少量含む。

18-29号土坑（新しいものと思われる 28号土坑を切る）

- 1 黄褐色土：ロームブロック含む。
- 2 褐色土：ロームブロック少量含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック少量含む。
- 4 黄色土：黄白色軽石（YPK）多く含む。

19-12号土坑



19-12号土坑

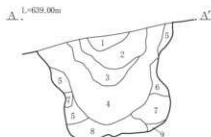
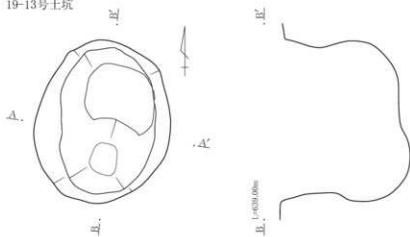
- 1 表土：黒褐色土主体。ロームがマーブルリング状に入るような覆乱を受ける。
- 2 暗褐色土：締まりなし。ローム粒子、褐色粒を稀かに含む。
- 3 暗褐色土：くずれたロームを均一に含む。
- 4 暗褐色土：ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 5 黄褐色土：ロームブロック。
- 6 黄褐色土：YPKブロック。
- 7 黄褐色土：ロームブロック。

0 1:40 1m

第541図 18・19区土坑（平安時代以降）

### 第3章 検出された遺構と遺物

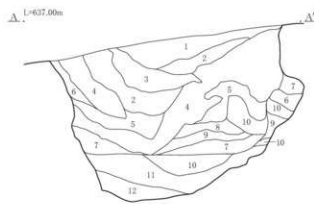
#### 19-13号土坑



#### 19-13号土坑

- 1 黒色土 細粒土でYPK粒、褐色粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 YPK、ローム粒含む。
- 3 にぶい暗褐色土 固く細まりYPK、ローム粒子多く含む。
- 4 黒褐色土 細まりなく黒色土に褐色粒、ローム粒子、YPK粒含む。
- 5 にぶい黄褐色土 4にくずれたローム多く含む。
- 6 にぶい暗褐色土 崩落ロームに黒色土を含む。
- 7 暗黄褐色土 崩落ロームブロック。
- 8 にぶい暗褐色土 崩落ローム粒子、YPK。
- 9 にぶい灰褐色土 崩落YPKにローム混入。

#### 19-14号土坑



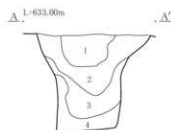
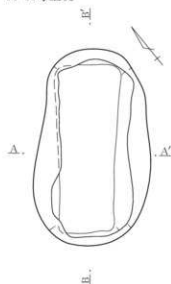
#### 19-14号土坑

- 1 黒色細粒土 僅かにローム含む。
- 2 にぶい褐色土 黒色土にローム粒子、YPK多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、YPK粒含む。
- 4 黒褐色土 ぐずれたローム粒含む。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック中に黒色土。
- 6 にぶい黒褐色土 黒色土とローム粒子。
- 7 にぶい黒褐色土 黒色土とロームブロック粒。
- 8 暗黄褐色土 崩落ロームブロックと黒褐色土の混入。
- 9 黒褐色土 ローム粒子とYPK混入。
- 10 暗黄褐色土 ロームブロック。
- 11 暗褐色土にYPK、ローム粒。
- 12 黒色土にYPK、ローム粒。

0 1:40 1m

第542図 19区土坑(平安時代以降)

95-83号土坑



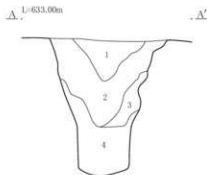
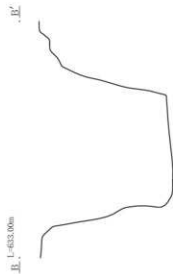
95-83号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱い、黄粒やや多く炭化物、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 暗黒褐色土 締まりやや強く黄色粒少量含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱く黄色粒、ローム小ブロック僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱くロームブロック多く含む。

95-84号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱く淡黄軽石少量、褐色粒、炭化物僅かに含む。
- 2 暗黒褐色土 締まり弱く淡黄軽石、褐色粒、黄色粒、炭化物僅かに含む。
- 3 暗褐色土 黒褐色土が少量混じる、褐色粒、ローム小ブロック僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱くロームブロック多く含む。

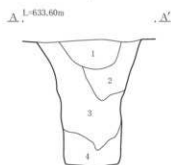
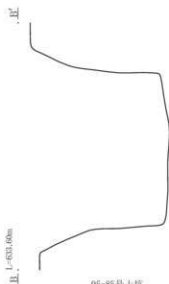
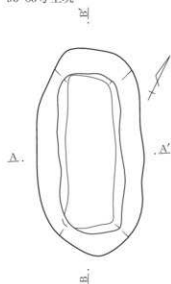
95-84号土坑



第543図 95区土坑(平安時代以降)(1)

第3章 検出された遺構と遺物

95-85号土坑



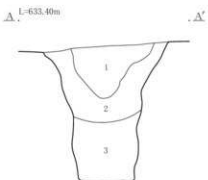
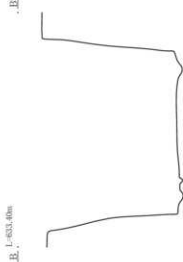
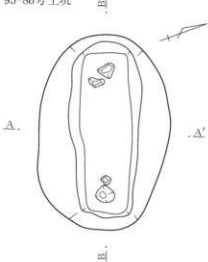
95-85号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱く黄色粒やや多い、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 淡黄軽石少量、褐色粒塊かに含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱い、淡黄軽石、褐色粒塊かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱くロームブロック多く含む。

95-86号土坑

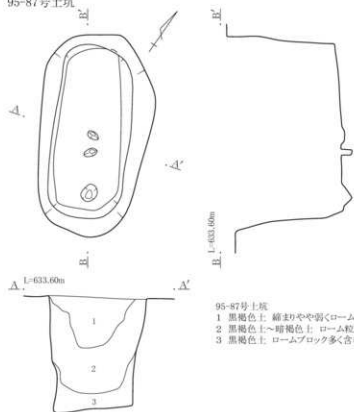
- 1 黒褐色土 締まり弱く細かい黄粒やや多い、褐色粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱く褐色粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱い、ロームブロック多く含む。

95-86号土坑



第544図 95区土坑(平安時代以降)(2)

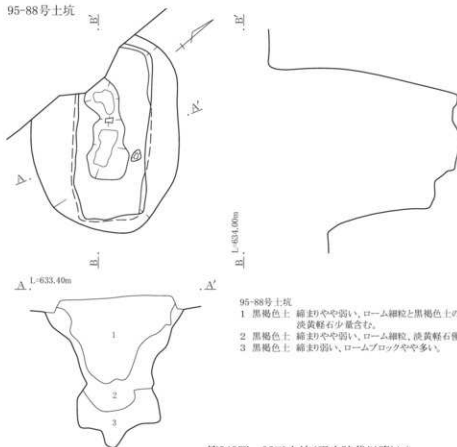
95-87号土坑



95-87号土坑

- 1 黒褐色土：締まりやや弱くロームブロック、ローム粒多い。
- 2 黒褐色土～暗褐色土：ローム粒や細粒少量、洗黄軽石、菊色粒、炭化物種かを含む。
- 3 黒褐色土：ロームブロック多く含む。

95-88号土坑



95-88号土坑

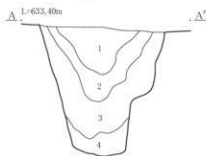
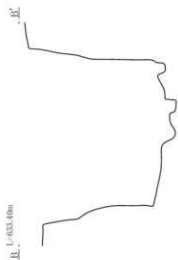
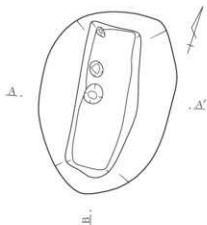
- 1 黒褐色土：締まりやや弱い、ローム細粒と黒褐色土の混じったブロックや多く褐色粒、洗黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土：締まりやや弱い、ローム細粒、洗黄軽石種かを含む。
- 3 黒褐色土：締まり弱い、ロームブロックやや多い。



第545図 95区土坑(平安時代以降)(3)

第3章 検出された遺構と遺物

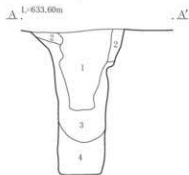
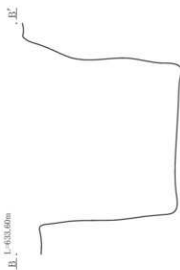
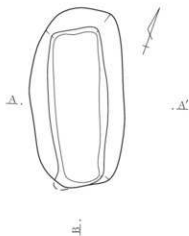
95-89号土坑



95-89号土坑

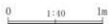
- 1 暗褐色土 締まりやや弱い、ロームブロック、ローム粒やや多く淡黄軽石、炭化物少量含む。
- 2 黒に近い黒褐色土 締まり強い、淡黄軽石僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱い、ローム細粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱い、ロームブロック(大)多く含む。

95-90号土坑

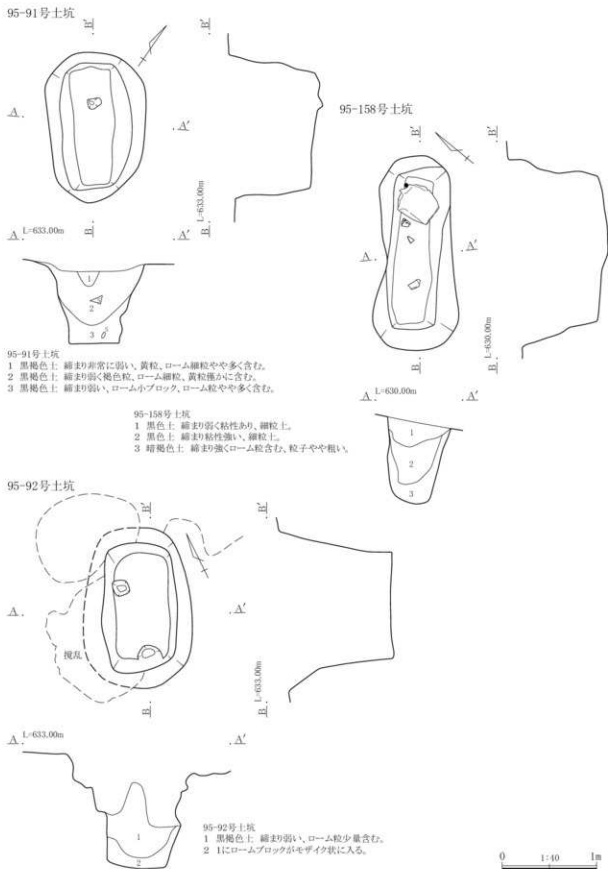


95-90号土坑

- 1 黒褐色土～暗褐色土 締まり弱い、ロームブロック、淡黄軽石やや多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム細粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土 締まわなし、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まわなし、ロームブロック、淡黄軽石少量含む。



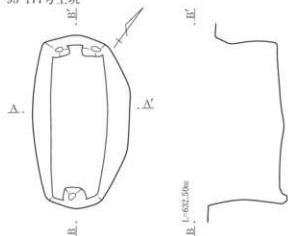
第546図 95区土坑(平安時代以降)(4)



第547図 95区土坑(平安時代以降)(5)

第3章 検出された遺構と遺物

95-177号土坑



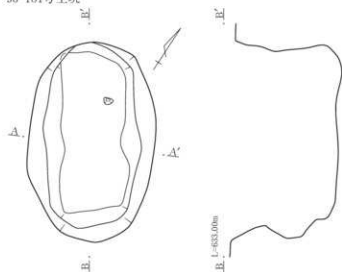
A L-632.50m A'



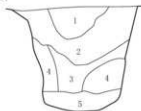
95-177号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒少量含みややや粘性あり。
- 2 褐色土：ローム粒1上り多く含む、粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土：ローム粒多く含む。

95-181号土坑



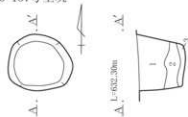
A L-633.00m A'



95-181号土坑

- 1 明褐色土：ローム粒、黄白色粒多く含む、やや粘性あり。
- 2 黒褐色土：ローム小ブロック少量含む、やや粘性あり。
- 3 暗黄褐色土：ローム粒多く含みや粘性あり。
- 4 黄褐色土：ローム粒多く含む。
- 5 褐色土：ローム粒多く含む。

95-187号土坑



95-187号土坑

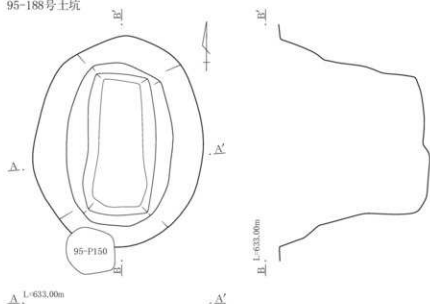
- 1 暗褐色土：締まりなし、ローム粒子、軽石粒含む。
- 2 黒色土：白色粒、褐色粒、YPK粒を含む。
- 3 暗褐色土：ローム多く含む。

0 1:40 1m

第548図 95区土坑(平安時代以降)(6)



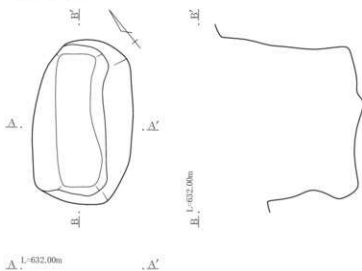
95-188号土坑



95-188号土坑

- 1 暗褐色土: 締まりなし, ローム粒, 軽石粒を含む。
- 2 黒色土: 白色粒, 褐色粒, YPK粒を含む。
- 3 暗褐色土: 崩落ロームを含む。
- 4 暗褐色土: やや粘性あり, ローム粒子, 軽石粒を含む。

95-242号土坑



95-242号土坑

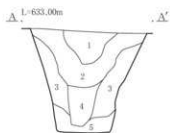
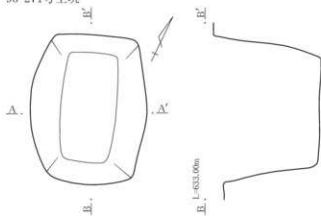
- 1 黒褐色土: ローム粒少し含み締まり強い。
- 2 黒褐色土: 1よりローム粒多く含む。
- 3 暗黄褐色土: ローム粒多く含む。
- 4 暗褐色土: やや固く締まる。



第549図 95区土坑(平安時代以降)(7)

第3章 検出された遺構と遺物

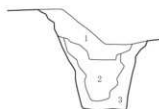
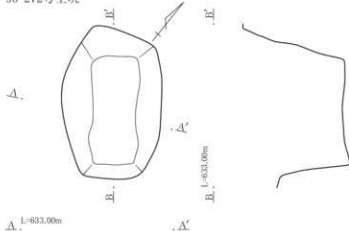
95-271号土坑



95-271号土坑

- 1 暗褐色土 細粒土、ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒色土 ローム粒、褐色粒係が含み軟弱。
- 3 暗褐色土 炭化物、ローム粒、くずれたローム粒を含む。
- 4 黒色土 2に褐色粒をより多く含み軟弱。
- 5 暗褐色土 崩落ロームがブロック状に混入。

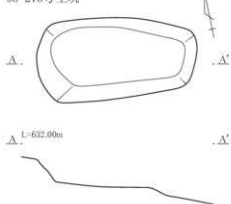
95-272号土坑



95-272号土坑

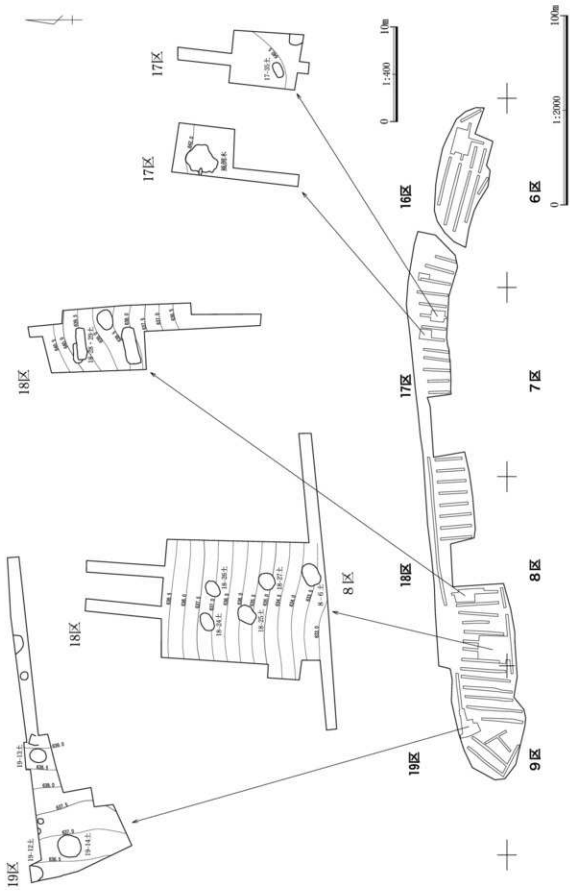
- 1 黒色土 若干のローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒小ブロック含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

95-276号土坑



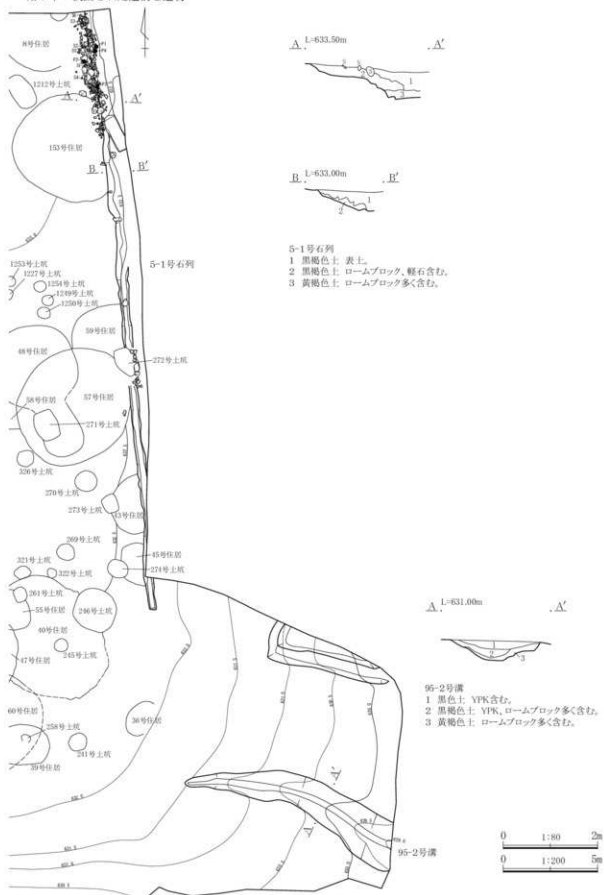
第550図 95区土坑(平安時代以降)(8)





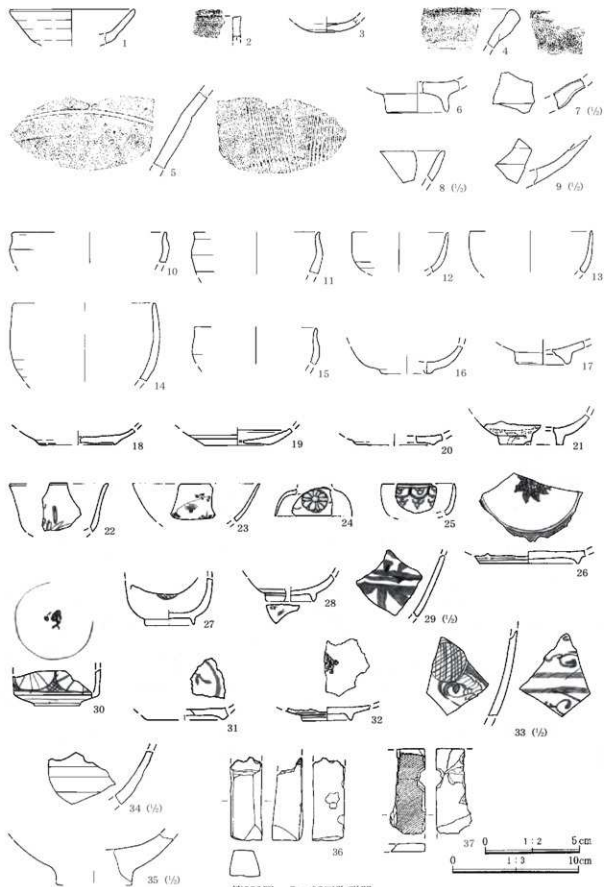
第551図 8・17～19区トレンチ及び土坑全体図

第3章 検出された遺構と遺物



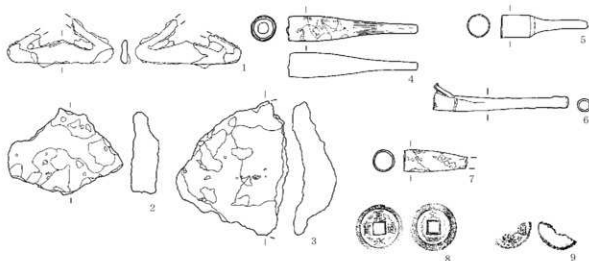
第552図 5-1号石列・95-2号溝

第3節 平安時代以降の遺構と遺物



第553図 5・95区陶磁器

### 第3章 検出された遺構と遺物



第554図 5・95区金属製品

#### 4. 出土遺物 (第553・554図：PL.268)

遺構に伴うと考えられる平安時代の遺物としては、住居の竈跡跡である可能性が高い、5-6号焼土から僅かに須恵器の小片1点が見られたのみである。

他の遺物に関しては、縄文時代の遺構中に擾乱等で混入したものや、近現代の遺構(擾乱等を含む)中より出土したもの、さらには遺構外から出土したものである。中・近世の陶磁器や火打ち金、銭、キセルなどの金属製品、鉄滓などが出土している。

表4 出土遺物観察表(平安時代以降)

5-6号焼土		器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
検出番号 図版番号	No				
第55340E PL.268	1	杯 覆土	① 黒・石英 ② 黒色	体部やや内湾気味に開き口縁部は僅かに外反。ロク口成型。内裏土器。覆付着。	ロク口成型。内裏土器。覆付着。

5・95区 陶磁器		器種・部位・残存 出土位置(床面高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
検出番号 図版番号	No				
第55340E PL.268	1	須恵器杯 95-57住覆土	① 黒・緑石 ② 黒灰色	小径で体部下半で屈曲する。右回転ロク口成型。内外面とも覆付着。	平安時代
第55340E PL.268	2	内耳土器 19-表土	① 黒・石英 ② 鈍い褐色	直立気味の口縁部。緩やかな内湾を見る。口唇部平坦でシャープ。内外面積物で。	中世
第55340E PL.268	3	陶器 灯火皿 95-2溝	① 緑褐色 ② 鈍い黄褐色	足込みに目皿1ヵ所。内外面積物に剥落多い。京・信楽系か。	近世か
第55340E PL.268	4	陶器 すり鉢 5-1石列	① 石英粒 ② 明茶褐色	瀬戸。	近世
第55340E PL.268	5	陶器 すり鉢 5-1石列	① 石英粒点 ② 明茶褐色	14本を単位とするすり目。瀬戸。	近世
第55340E PL.268	6	陶器 碗 95-表土	① 精製 ② 灰黄色	呉器手碗。高台部の周囲を打ち欠き。円盤状に成形。肥前系。	近世
第55340E PL.268	7	青磁 皿 95-(G)	① 精製 ② 青褐色	桜花頭か。中国。	中世
第55340E PL.268	8	青磁 碗 95-H24	① 精製 ② 灰緑色	蓮弁文碗。中国。	中世
第55340E PL.268	9	青磁 碗 5-J4	① 精製・微黒色粒 ② 灰緑色	蓮弁文碗。中国。	中世
第55340E PL.268	10	陶器 碗 5-表土	① 精製 ② 黒褐色	天目茶碗。	大室3
第55340E PL.268	11	陶器 碗 5-表土	① 精製 ② 茶褐色	天目茶碗。	大室3
第55340E PL.268	12	陶器 碗 95-169土	① 精製・石英粒少 ② 明灰白色	小碗。灰胎。瀬戸・美濃系。	近世
第55340E PL.268	13	陶器 碗 95-1溝	① 石英粒少 ② 明灰白色	灰胎。瀬戸・美濃系。	

## 第3節 平安時代以降の遺構と遺物

神奈川 国政番号	No	器種・部位・残存 出土位置(墳高)	①胎土 ②色調	文様の特徴等	備考
第5530E PL_268	14	陶器 碗 5-1石列	①精製 ②茶褐色・青灰白色	尾呂茶碗。瀬戸・美濃系。	近世
第5530E PL_268	15	陶器 碗 5-表土	①精製 ②黒褐色	天目茶碗。瀬戸・美濃系。	遺房1小瓶
第5530E PL_268	16	陶器 碗? 5-P6	①白色粒少 ②白色	志野。	大室4後半
第5530E PL_268	17	陶器 皿 95-表土	①精製 ②淡青白色	見込み蛇ノ目縁細文。波在見系。	近世
第5530E PL_268	18	陶器 皿 95-5住覆土	①精製 ②淡灰緑色	丸皿。高台内に輪トチン付着。	大室2か3
第5530E PL_268	19	陶器 灯火皿 5-表土	①精製 ②内:灰白色・外:灰色	見込みに目皿1ヶ所。3本を単位とするすり目状を施す。京・信楽系。	近世か
第5530E PL_268	20	陶器 皿 95-表土	①精製 ②淡灰緑色	丸皿。高台内に輪トチンの痕跡あり。	大室2か3
第5530E PL_268	21	陶器 碗 5-表土	①精製 ②暗黒褐色	鉄釉。肥前系。	17c後半
第5530E PL_268	22	染付 碗 95-1溝	①精製 ②淡青白色	端反碗。肥前系。	近世
第5530E PL_268	23	染付 碗 5-表土	①精製 ②白色	外面に梅枝文。肥前系。	近世
第5530E PL_268	24	染付 合子? 5-表土	①精製 ②白色	合子の蓋か?菊花文。肥前系。	近世
第5530E PL_268	25	染付 小碗 95-24住覆土	①精製 ②白色	小碗か仏飯碗。肥前系。	近世
第5530E PL_268	26	染付 皿 5-表土	①精製 ②青白色	見込みコンニャク印判による花文。肥前系。	近世
第5530E PL_268	27	染付 碗 95-C25	①精製 ②青白色	外面に丸文。肥前系。	近世
第5530E PL_268	28	染付 碗 95-E23	①精製 ②青白色	高台内に銘あり。被熱か。肥前系。	近世
第5530E PL_268	29	染付 碗? 5-表土	①精製 ②灰白色	被熱。肥前系か。	近世か
第5530E PL_268	30	染付 碗 95-表土	①精製 ②灰白色	端反碗。外面に磨いた表裏地に菊花文。見込みに焼れた長弁花。肥前系。	近世
第5530E PL_268	31	陶器 皿 95-R17	①精製;石夷粒少 ②灰白色	鉄結。志野。	大室4後半
第5530E PL_268	32	染付 碗 5-表土	①精製 ②青白色	筒形碗か。見込みに五弁花。肥前系。	近世
第5530E PL_268	33	染付 皿? 5-表土	①精製 ②青白色	肥前系か。	
第5530E PL_268	34	陶器 碗? 95-表土	①精製 ②暗黒褐色	鉄釉。瀬戸・美濃系。	近世か
第5530E PL_268	35	陶器 碗 95-24住	①精製 ②灰緑色	呉器手碗。肥前系。	近世

## 石器・石製品

神奈川 国政番号	No	器種	出土位置	残存	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作・使用状況	石材	備考
第5530E PL_268	36	砥石	L-17	欠損	(6.3)	2.4	2.4	(53)	断面台形を呈す。4面使用。小型品。	淡緑岩	近世
第5530E PL_268	37	磨石製品	K-18	欠損	(6.8)	(2.8)	0.6	(22.8)	板状の磨石製品の角部分。片面に磨目(凹輪)。	磨石	近・現代か

## 金属製品

神奈川 国政番号	No	器種・部位	出土位置	計測値(cm)	重さ(g)	特徴等	備考
5541E PL_268	1	火打ち金	95-561号(住I 溝文)掘込	5.6×(2.4)×0.5	(11.6)	振り部分欠損	95E P-24グリッド
5541E PL_268	2	鉄押	95E C-24グリ ッド	4.5×6.1×1.5	49.5	やや厚みを持つ	
5541E PL_268	3	鉄押	95E P-13グリ ッド	(6.0)×6.9×2.2	(90.9)	筒型押	一部欠損
5541E PL_268	4	煙管 吸い口	5E 表土	6.8×1.3	9.3	竹のウオが残る。表面にも彫りによる草花文	
5541E PL_268	5	煙管 吸い口	95E N-17グリ ッド	4.6×1.2	2.6	吸い口部分が細くなる	
5541E PL_268	6	煙管 吸い口	95E M-16グリ ッド	(7.2)×0.7	(7.6)	やや細縁	
5541E PL_268	7	煙管 吸い口	95E C-24グリ ッド	(3.4)×1.1	(2.3)	吸い口部分が欠く	
5541E PL_268	8	銭貨	19E 11トレン チ	径 2.5cm	3.5	寛永通宝	
5541E PL_268	9	銭貨	95E 表土	径 (2.4) cm	(0.8)	水車通寶。欠損	表面風化

## 第4章 東中学校進入路（12区）

長野原一本松遺跡の中央を走る道路が屈曲し、北から南に下る谷地を横切っているが、調査区はこの道路の北に見上げる沢地部分が対象地となる。長野原一本松遺跡の東端の12区に位置する。

年度当初に急遽、中学校移転に伴う進入路の工事が行われることとなり、事前の調査を実施した。5・95区の調査と平行して実施した。中央が下がる谷地形で、両側はかなりの急斜面を為しており、調査区内において平坦面は見られない。調査は対象地内に谷を挟んだ場所へ傾斜方向のトレンチ設定し調査を行った。

### 第1節 調査経過と調査方法

#### 4月

事業団、委託者及び、施工業者の立ち会ひの下対象地の範囲確認および上物の処理方法等について確認を行った。立木について伐採業者が決まり、プレハブ設置場所等について調整を行う。立木伐採前に再度土物、植物等の調査を行う。

#### 5月

初旬に調査区内伐採開始、中旬に終了。伐採後の木材除去後に、調査区的全景写真撮影を行う。現状はかなり左右に立ち上がる斜面がV字状の谷地を形成、谷部分は南に下る小さな沢となっており、大小の崩落したものである礫が所々に露出した状況であった。現況の測量を行う。表面に土器や石器の散布は認められず。かなりの急傾斜地であり、遺構等の存在は薄いものと判断し、左右の斜面部および手前側のやや平坦な部分にトレンチを設定し調査を行うこととした。トレンチ6本（No.1～6）を設定することとし、調査区内の清掃と再度現況の写真撮影を行う。

重機によりトレンチの掘削を開始、1号トレンチを除き表土は浅く、基本層序で言うところのⅡ層の堆積も見られず。茶褐色の地山砕礫土で、大きな地山礫も点在する。トレンチの掘削後写真、図面を採る。

遺構、遺物は検出されなかった。各トレンチの配置図をおよび全景写真撮影を行い調査を終了した。

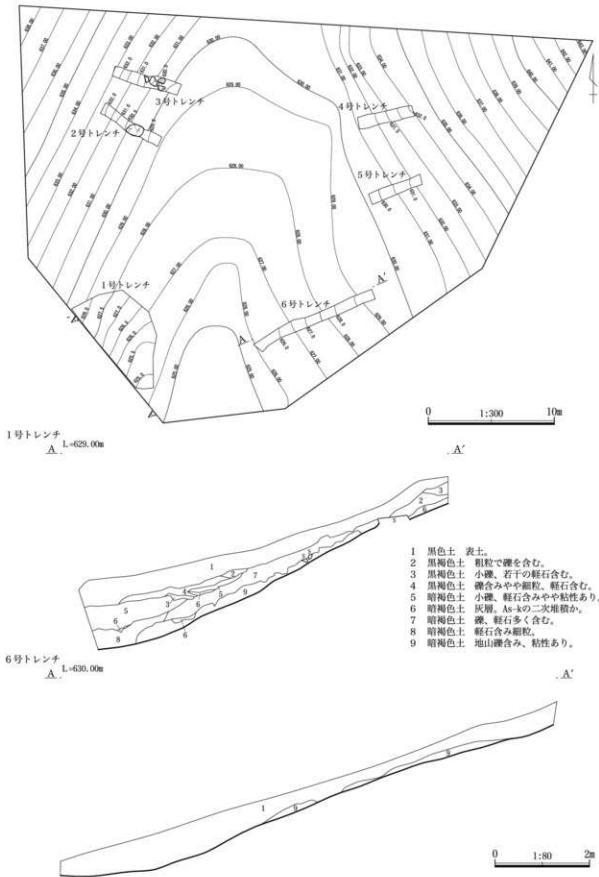
### 第2節 検出された遺構と遺物

設定した6本のトレンチ内において、遺構および遺物の検出は見られなかった。トレンチの表土はかなり浅く、浅いところでは、約20cmで地山が露出。土層の堆積状況は表土下にほとんど黒色土は見られず、ローム地山面に移行している。場所により地山の大型礫が露出する状況であった。

地山は垂角礫を含んだ岩性土である。谷の下部には崩落した岩石が集中して見られた。トレンチ内では遺構、遺物ともに検出されなかった。1号トレンチは調査区の最も下位部分にあたり、黒色土の堆積が厚かった。断面中に灰褐色を呈すAs-KK（浅間柏川火山灰）を確認した。

各トレンチの観察から、遺構の存在は認められず、また、遺物の出土も見られなかったことから、対象地内について遺構の存在は無いものと判断された。





第555図 12区(東中学校進入路)全体図

## 第4章 東中学校進路 (12区)

表5 遺構一覽表

## 住居跡

## 5区

番号	位置	形状	規模	方位	礎	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
8	D・E-5・6	隅丸方形	680×630×30	N-32°-W	石置い、砂体土層	2	埋蔵(漆器)	土器、石器	中期後葉	平成8、16年度調査
146	H・I-3・4	隅丸方形	(500)×(400)×-	N-13°-E	石置い、砂体土層	-	6	平土層	中期後葉	昭和54年、5、8年度調査
147	F-2・3	M・K-2	(800)×(800)×30	-	石置い	6	平土層	土器、石器	中期後葉	昭和54年、5、8年度調査
148	L-2・3	隅丸方形	420×(780)×35	N-11°-W	埋蔵、砂体土層	4	直立土層	土器、石器	中期後葉	昭和54年度調査
149	I・J-2・3	隅丸方形	400×(780)×38	N-35°-W	石置い	-	-	-	中期後葉	S-15住と重なり
150	I・I-1・2, 別1-1	隅丸方形	540×630×40	N-34°-W	石置い、一部残	-	-	-	中期後葉	中央に後世の掘し穴重なり
151	I-2・3	隅丸方形	460×(460)×30	N-31°-W	石置い	-	-	-	中期後葉	北東にD-149住が重なり
152	G・H-3	隅丸方形	495×485×30	-	石置い	-	-	-	中期後葉	部
153	D-2・3	隅丸方形	310×(500)×30	-	石置い	-	-	-	中期後葉	部
154	F・G-2	隅丸方形	481×470×29	N-25°-W	石置い、砂体土層	-	-	-	中期後葉	部
155	F・G-3・4	隅丸方形	640×580×30	N-18°-W	石置い、砂体土層	-	-	-	中期後葉	入り口扉柱かにも出石
156	E・F-2・3	隅丸方形	500×480×60	N-15°-E	石置い	-	-	-	中期後葉	入り口扉柱の平石立石

## 95区

番号	位置	形状	規模	方位	礎	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
5	M・N-17・18	隅丸方形	660×640×50	N-51°-W	石置い(1号型)	-	-	-	不明	
12	L・M-21・22	隅丸方形	6000×570×50	N-47°-W	石置い	7	築地	埋蔵石石	不明	埋蔵、床面に伏葉(完形)
13	J・K-22・23	隅丸方形	550×540×56	N-25°-E	石置い	-	-	-	中期後葉	
14	K・L-23・25	隅丸方形	540×530×50	N-27°-W	石置い(1号型)部	-	-	-	中期後葉	
15	L・M-22・23	隅丸方形	510×(460)×45	N-4°-W	石置い、砂体土層	埋蔵	-	-	中期後葉	
16	L-20・21	隅丸方形	350×(340)×30	N-34°-E	石置い	4	破片	-	中期後葉	S-12住に切られる
17	K・L-23・24	隅丸方形	(400)×380×30	N-6°-E	石置い	-	-	-	中期後葉	
18	G・I-24・25	隅丸方形	760×700×60	N-30°-E	埋蔵	-	-	-	不明	
19	I・J-21・22	埋蔵物	730×(615)×60	N-18°-E	石置い、砂体土層	9	深鉢	-	中期後葉	S-20住に大きく切られる
20	G・H-23・25	隅丸方形	520×695×50	N-28°-W	石置い、砂体土層	埋蔵	-	-	中期後葉	方形頭縁、建て替入(部)
21	U・V-18	隅丸方形	740×660	-	不明	-	-	-	不明	南西側調査区外
22	Q・S-16・17	長方形	500×360×-	N-21°-E	石置い、砂体土層	10	土器の重なり	-	中期後葉	
23	O・P-17・18	隅丸方形	660×(460)×40	N-5°-W	石置い	-	-	-	中期後葉	甲地式
24	N・O-17・16	隅丸方形	610×(460)×19	N-26°-E	石置い	-	-	-	中期後葉	
25	K・M-18・17	隅丸方形	(560)×535×25	-	部	-	-	-	不明	
26	L・M-19	隅丸方形	325×(280)×37	N-15°-E	石置い	-	-	-	中期後葉	
27	I・J-23・24	隅丸方形	310×300×30	N-15°-W	石置い	-	-	-	中期後葉	
28	K・L-17・18	隅丸方形	確定係660	-	部	-	-	-	不明	
29	H・I-20	隅丸方形	770×(500)×10	N-34°-W	石置い	-	-	-	中期後葉	
30	I・J-21・22	隅丸方形	610×610×50	N-32°-W	石置い	-	-	-	中期後葉	
31	O・P-13・14	隅丸方形	660×(650)×0	-	部	-	-	-	不明	
32	M・N-14・15	隅丸方形	(600)×(550)×0	N-32°-W	部	-	-	-	不明	
33	L・M-15・16	隅丸方形	(600)×(600)×0	-	部	-	-	-	不明	
34	I・J-17・18	隅丸方形	(430)×(400)×20	N-50°-W	石置い	-	-	-	不明	
35	E・F-17	隅丸方形	(430)×380×40	N-31°-W	土器	-	-	-	不明	
36	C-20・21	隅丸方形	210×(150)×10	N-52°-W	石置い	-	-	-	不明	
37	L・M-23・24	隅丸方形	400×290×30	-	部	-	-	-	不明	
38	J・K-19・20	隅丸方形	315×320×50	N-15°-W	石置い	-	-	-	不明	
39	D・E-20	隅丸方形	280×210×15	N-2°-E	石置い	-	-	-	不明	
40	D・E-21・22	隅丸方形	710×(660)×15	N-37°-W	石置い	-	-	-	不明	
41	E・F-19・20	隅丸方形	600×(615)×60	N-35°-W	石置い	-	-	-	不明	
42	K-23	隅丸方形	(290)×(290)×25	-	部	-	-	-	不明	
43	C-23	隅丸方形	(350)×(350)×10	-	部	-	-	-	不明	
44	F・G-19・20	隅丸方形	(540)×550×60	N-5°-E	石置い、砂体土層	-	-	-	不明	
45	C-22・23	隅丸方形	(230)×(170)×10	-	埋蔵	-	-	-	不明	
46	H・I-21	隅丸方形	(380)×(380)×30	N-12°-W	石置い、砂体土層	-	-	-	不明	
47	E・F-20・22	隅丸方形	690×680×30	N-7°-W	石置い、砂体土層	-	-	-	不明	
48	D・E-24・25	埋蔵物	720×460×50	N-23°-W	石置い	-	-	-	不明	
49	I-19	隅丸方形	(260)×250×15	N-45°-W	石置い	-	-	-	不明	
50	G・H-19・20	隅丸方形	(350)×310×30	-	部	-	-	-	不明	
51	I・J-19	隅丸方形	290×280×80	-	部	-	-	-	不明	
52	F・G-22・23	隅丸方形	(420)×(420)×15	N-0°-W	石置い	-	-	-	不明	
53	E・F-21	隅丸方形	440×430×30	N-18°-E	埋蔵物	-	-	-	不明	
54	E・F-23・24	隅丸方形	(470)×400×50	N-29°-W	石置い	-	-	-	不明	
55	E-22	隅丸方形	340×180×35	N-50°-E	部	-	-	-	不明	
56	F・G-24・25	隅丸方形	710×650×45	N-8°-E	石置い、砂体土層	-	-	-	不明	
57	C・D-24・25	隅丸方形	380×(640)×40	N-12°-W	石置い、砂体土層	-	-	-	不明	
58	F・G-1・2	隅丸方形	710×760	N-19°-E	石置い、土層	-	-	-	不明	
59	別C-23, 3, C-D-1	隅丸方形	(350)×(440)×20	-	部	-	-	-	不明	
60	D・E-20・21	隅丸方形	(500)×(500)×0	N-0°	部	-	-	-	不明	

## 墓柱建物

## 5区

番号	位置	形状	規模	方位	礎	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
2	K・L-2・4	魚形	900×400	N-53°-E	-	-	-	-	後葉	
3	K・L-1	長方形	470×240	N-58°-W	橋土有刀	10	-	-	後葉	
4	G・H-2・4	長方形	590×320	N-8°-E	有り(3方所)	6	埋蔵	-	中期末	S-7、8、9号
5	F・G-1・3	魚形	710×260	N-19°-E	-	-	-	-	中期末	
8	H・I-4・5	長方形	480×220	N-32°-W	無し	6	-	-	後葉	商業前分注5-16住に重なり

## 95区

番号	位置	形状	規模	方位	礎	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
3	I・K-23・24	長方形	610×440	N-16°-W	大型礎有	9	平土層、土層、石置	-	中期末	北東隅は掘し穴に削平
4	別C-1, 5, H-1-1	長方形	540×300	N-53°-E	-	-	-	-	中期末	

## 95区

番号	位置	形状	規模	方位	礎	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
17	I-24	隅丸方形	70×60×20	-	屋外	部	部	-	不明	築形に礎石1つが残存他は抜き取られたか

## 第1節 調査経過と調査方法

## 遺構

## 5区

番号	位置	形状	残存	形態・特徴	備考
15	L・M-1	溝状	1層掘り込み		
16	H-2	正位	底部	5-4号竪立柱建物内、南寄りに位置	

## 95区

番号	位置	形状	残存	形態・特徴	備考
1	H-25	正位	側部	95-18号住居内に在り、東側を95-89号土坑により一部埋されている	
2	J-23	溝状	側部	95-3号竪立柱建物の95号土坑の北側に位置、両辺に縄文在	95-3竪立に付随
3	I-22	正位	側部	内部に横石(縄文)に面している。	

## 焼土

## 5区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	出土遺物	時期	備考
6	J・K-2	焼締形	65×61		住居の方で多少	土師器、須恵器	平安	分2トの焼締と考えられる
7	H-3	不定形	84×80		中央部に割石	土器	縄文	5-4竪立の伊
8	H-3	不定形	120×80		南側に長く焼土の広がり		縄文	5-4竪立の伊
9	G-3・4	不定形	104×63		伊石、南側に長く焼土の広がり		縄文	5-4竪立の伊
10	D-4	円形	62×35				平安以降	5-8住内
11	F-5	不定形	(40)×50				平安以降	
12	E-3	不定形	60×40				平安以降	5-156住内
13	E-3	不定形	60×20				平安以降	5-156住内
14	D・E-4・5	不定形	(72)×72				平安以降	5-8住内
15	D・E-4	不定形	38×30				平安以降	5-8住内

## 95区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	出土遺物	時期	備考
1	I-22	長円形	130×110		焼土に灰、赤り込み、下に円形土坑	縄文後期	縄文	土坑内に大型土器片、磨石
2	I・J-23	不定形	140×50	N-58°-W	細長い溝状に広がる、焼け方は弱い	土器片・須恵	平安以降	
3	J-19	不定形	113×95		北西部に縄が見られる。	土器片	平安以降	95-38住に重なる
4	K-18	不定形	60×55		焼土は赤りで焼け方は弱い		平安以降	
5	L-23	不定形	50×45		焼け方は弱い		平安以降	95-37住に重なる
6	L-23	不定形	80×50		5-5号土坑の北側に面、焼け方は弱い		平安以降	95-37住に重なる
7	E-25	長円形	65×40		1層掘り込み、焼土はブロック状を呈す。	土器片	縄文	
8	穴溝							
9	穴溝							
10	X-20	不定形	50×35		不定形な焼土	土器片	縄文	
11	W-20	不定形	200×50		焼土が奥に点在	土器片	縄文	平12年度に一部調査
12	T-19	不定形	35×30		焼け方弱い		縄文	
13	R-18	不定形	150×70		大型の煎原石作る		縄文	縄文様々
14	P-18	不定形	260×130		灰を配する、土器片、赤土層に重なる	土器片	縄文	焼土が大きく広がる
15	N-17	不定形	60×40		焼け方弱い	土器片	縄文	95-5住に重なる、住居より新
16	M-17	不定形	120×90		焼け方弱く焼土は薄い。		縄文	95-5住に重なる、住居より新

## 配石

## 95区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	時期	備考
1	U-20	円形	50×45	-	8個の縄を円状に配する。内部に焼土ほとんど見られず	縄文	
2	I-16・17	円形か	70×70	-	5個の縄が環状に残る。南側は削られたものと推られる	縄文	

## 溝

## 95区

番号	位置	形状	規模	方位	形態・特徴	時期	備考
2	WY-16・18・19・20・21	溝状	幅長11m、幅2.5m		谷に向かって深く掘れ、幅も広がっている。自然造成か	縄文	陶器片出土

## 土坑

## 5区

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長さ・幅・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
30	5	H・I-5	長円形	200×100×11	(N-24°-W)		平安以降	掘り穴、平16南部分追加調査
40	5	I-5	(楕円形)	99×(65)×50	(N-48°-W)			平成16年度再調査
66	5	I-4・5	長円形	232×176×212	N-39°-W		掘り穴	5-40土を切る、平成16年度南側調査
99	5	I-5	(楕円形)	120×100×44	(N-83°-W)	土器1・石器1		平成16年度南側部分追加調査
182	5	D-5	楕円形	180×130×80	N-38°-W			掘り穴、5-8住内に在りこれを切る
1115	5	L・M-1	円形	128×116×35			平安以降	掘り穴
1116	5	H・I-1	長円形	229×180×142	N-62°-E		平安以降	掘り穴、5-156住内
1117	5	G-5	円形	84×80×45			平安以降	
1118	5	K・I-3	円形	206×195×125			平安以降	掘り穴
1119	5	J-4・5	長円形	239×156×140	N-51°-W		平安以降	掘り穴
1120	5	L-5	円形	28×28×36		縄土層1		縄が絡まる、5-147住に重複
1121	5	K・I-5	長円形	180×84×35	N-67°-E		縄文中期	掘り穴か、縄ネクタイ型
1122	5	J・K-3・4	長円形	200×172×104	N-2°-W		平安以降	掘り穴、縄ネクタイ型
1123	5	L-4	円形	113×113×47			縄文	
1124	5	J-5	長円形	130×82×40	N-50°-E		縄文	
1125	5	I-5	長円形	62×44×41			縄文	
1126	5	I-6	長円形	114×90×35			縄文	
1127	5	K・I-1	円形	73×72×56			縄文	5-3竪立P-2
1128	5	J・K-1	長円形	156×78×74	N-88°-W	土器1	縄文中期	掘り穴か、縄ネクタイ型
1129	5	L-2	長円形	74×66×62		土器2	縄文	
1130	5	K-1	円形	72×60×69		土器9	縄文	
1131	5	K-2	長円形	170×59×58	N-86°-E		縄文	5-3竪立内にあり土層1に属し
1132	5	L-3・4	円形	70×64×66			縄文中期	掘り穴か、縄ネクタイ型
1133	5	K・I-3・4	長円形	200×76×45	N-88°-E		縄文中期	掘り穴か、縄ネクタイ型
1134	5	L-4	円形	68×64×22			縄文	
1135	5	L-5	長円形	50×38×32			縄文	
1136	5	K・I-4・5	円形	128×102×20			縄文	
1137	5	L-4	円形	110×92×15			縄文	
1138	5	I・J-5	円形	88×82×39			縄文	

第4章 東中学校進入口 (12区)

番号	区	位置(グリッド)	形	状況(延床・坪数)	主軸方位	出土遺物	時期	備考	
1139	5	J-2	円形	48×41×38			縄文		
1140	5	G・H-1	円形	74×70×104			縄文	S-5 竪立P-1 柱痕あり	
1141	5	H-2	円形	92×88×118		打製石斧	縄文	S-4 竪立P-1 柱痕あり	
1142	5	I-2	円形	110×105×60		打製石斧・土器3・石鏝	縄文		
1143	5	J・K-2	円形	114×110×34			縄文		
1144	5	G-1	円形	28×68×11			縄文	S-5 竪立P-8	
1145	5	G-2	円形	110×103×116			縄文	S-4 竪立P-6	
1146	5	H-3	円形	80×80×106			縄文	S-4 竪立P-2 柱痕あり	
1147	5	H-4	円形	66×64×84			縄文	S-4 竪立P-3 柱痕あり	
1148	5	G-4	円形	76×74×82		石核	縄文	S-4 竪立P-4 柱痕あり	
1149	5	G-3	円形	97×97×92		磨製石斧	縄文	S-4 竪立P-5 柱痕あり	
1150	5	I-3	円形	82×82×66			縄文		
1151	5	I-3	円形	100×94×75			石鏝 土器3・石鏝	縄文	
1152	5	J・K-3	長円形	130×98×32			縄文		
1153	5	J-4	長円形	62×29×22	N-42°-W		縄文		
1154	5	I・J-4・5	円形	80×78×24		石鏝1	縄文		
1155	5	I-4・5	円形	71×70×11			縄文		
1156	5	I-4	円形	44×42×30			縄文		
1157	5	I-4	長円形	55×50×37			縄文		
1158	5	I-5	円形	49×40×44			縄文		
1159	5	H-4	円形	52×52×41			縄文	S-146住の柱穴(P-4)	
1160	5	H-5	長円形	56×43×60			縄文		
1161	5	I-5	円形	6×6			縄文		
1162	5	I-5	長円形	33×26×37			縄文	S-8 竪立P-4 柱痕少	
1163	5	I-5	長円形	44×33×37			縄文		
1164	5	H-5	円形	36×31×25			縄文		
1165	5	H-5	円形	34×28×36			縄文		
1166	5	I-4・5	長円形	72×50×27	N-15°-E		縄文	S-8 竪立P-3 柱痕少	
1167	5	H-4・5	円形	42×40×33			縄文		
1168	5	I-4	円形	38×37×36			縄文		
1169	5	I-4	長円形	62×40×28			縄文		
1170	5	H-4	円形	40×36×16			縄文		
1171	5	H-4	長円形	60×42×46	N-11°-E		縄文	S-8 竪立P-5 柱痕少	
1172	5	I-4・5	円形	41×40×29		土器1	縄文		
1173	5	I-4	長円形	42×31×50			縄文		
1174	5	I-3・4	円形	48×45×37		石核 土器1・石鏝1	縄文		
1175	5	I-4	円形	58×50×37			縄文	S-8 竪立P-2 柱痕少	
1176	5	H-3	円形	48×45×40			縄文	S-146住の柱穴(P-5)	
1177	5	H-3	円形	30×30×26			縄文		
1178	5	H-4	円形	90×87×27			縄文		
1179	5	H-4	円形	40×38×38			縄文	S-146住の柱穴(P-3)	
1180	5	H-4	円形	34×34×24			縄文		
1181	5	H-4	円形	28×28×44			縄文	S-8 竪立P-6 柱痕少	
1182	5	H-4	円形	34×28×36			縄文		
1183	5	H-4	長円形	44×37×16			縄文		
1184	5	H-4	円形	54×44×37			縄文		
1185	5	H-3・4	長円形	56×48×44			縄文	S-8 竪立P-1 柱痕少	
1186	5	I-3	円形	30×26×21			縄文	S-146住の柱穴(P-1)	
1187	5	I-4	円形	29×28×46			縄文		
1188	5	I-3	円形	104×100×30			縄文		
1189	5	H-1・3	長円形	70×59×29		石鏝1	縄文		
1190	5	I-3	円形	56×68×25		土器1	縄文		
1191	5	I-2	円形	38×34×44			縄文		
1192	5	J-2・3	長円形	50×36×40			縄文		
1193	5	J-3	円形	119×104×24			縄文		
1194	5	I・J-3	円形	100×100×34			縄文		
1195	5	I-4	円形	33×34×30	N-31°-E	土器2	縄文		
1196	5	I-4	長円形	90×74×30	N-29°-E	磨石 土器2・石鏝1	縄文		
1197	5	J-1	円形	53×53×17			縄文		
1198	5	I-4	円形	72×60×33			縄文		
1199	5	I-2	円形	59×58×38			縄文		
1200	5	H-1・2	円形	85×85×8			縄文		
1201	5	I-1	円形	56×44×34			土器3	縄文	
1202	5	G-3	円形	110×99×54			縄文		
1203	5	G-3・4	円形	87×85×34			土器1	縄文	
1204	5	H-2	円形	92×90×51			縄文		
1205	5	H-2	円形	60×55×38			縄文		
1206	5	H-2・3	円形	118×110×54			縄文		
1207	5	H-2	長円形	56×46×28			縄文		
1208	5	G-2	長円形	134×112×43		打製石斧・石鏝1・石鏝2	縄文後期		
1209	5	G・H-2・3	円形	108×108×55		石鏝 土器9・石鏝2	縄文後期		
1210	5	G-2	不明	- × × ×39			土器1	縄文中期	
1211	5	G-1・2	円形	72×72×58			土器1	縄文中期	
1212	5	D・H-3・4	長円形	190×113×97	N-33°-W			平安以前 竊穴	
1213	5	E-2	長円形	200×184×84	N-38°-W			平安以前 竊穴	
1214	5	G-1	長円形	97×67×66	N-73°-E			縄文中期	
1215	5	G-2	円形	85×80×88			縄文中期	S-5 竪立P-2 柱痕あり	
1216	5	G-2・3	円形	80×79×80			縄文中期	S-5 竪立P-3 柱痕あり	
1217	5	H-6・2	円形	80×78×80			縄文中期	S-5 竪立P-6 柱痕あり	
1218	5	E-2	円形	83×78×74			縄文中期	S-5 竪立P-5 柱痕あり	
1219	5	G-1	円形	78×72×82		磨石	縄文中期	S-5 竪立P-7 柱痕あり	
1220	5	G-3・4	円形	78×70×33		土器1	縄文中期		
1221	5	H-4	円形	70×79×26			縄文中期	S-146住内	
1222	5	G-3	円形	70×66×38			縄文中期	S-5 竪立P-4	
1223	5	G・H-4	円形	48×48×45		磨石 土器2・石鏝1	縄文中期		
1224	5	E・F-1・2	円形	132×132×44		土器 土器6・石鏝1	縄文中期	竊穴に隣	
1225	5	G・H-1	円形	120×120×40		石鏝 石鏝1	縄文中期	S-150住と重複	

## 第1節 調査経過と調査方法

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(長径・短径・深)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
1226	5	G・H-1	長円形		110×85×32	N-14°-E	打製石片 土器1・石鏃	縄文後期		
1227	5	E-1	円形		54×52×92		土器3	縄文中期		
1228	5	G-1	長円形		90×70×34		土器3	縄文後期		
1229	5	G-1	円形		70×66×62		土器2・石鏃1	縄文中期		
1230	5	G・H-1・2	長円形		120×112×28		土器1・磨石1・土器2	縄文後期	後期前葉	
1231	5	H-2	長円形		80×75×34		磨石1	縄文中期		
1232	5	F-1	円形		50×50×45		土器2	縄文中期		
1233	5	G-1	円形		38×34×40			縄文中期		
1234	5	E・F-1・2	円形		77×70×70		大型土器片2 土器2	縄文中期		
1235	5	G-1・2	長円形		100×85×43		打製石片 土器3・石鏃1	縄文後期		
1236	5	F-1	円形		80×72×27		土器1	縄文中期		
1237	5	F-1	円形		68×64×32		磨石1	縄文中期		
1238	5	F-1	円形		68×68×40		打製石片 土器3・石鏃1	縄文中期		
1239	5	E-1	長円形		162×128×17	N-75°-E	打製石片 土器1・石鏃1	縄文中期		
1240	5	E・F-4・5	円形		114×115×29		土器1	縄文後期	後期前葉	
1241	5	E・F-4	円形		112×98×29		土器6	縄文後期		
1242	5	E-4	長円形		156×125×20		土器9	縄文後期		
1243	5	F-1	長円形		172×88×25	N-9°-W	土器2	縄文中期		
1244	5	H-2	円形		80×80×22			縄文中期		
1245	5	G-2	円形		38×38×27			縄文中期		
1246	5	E-3・4	円形		62×56×22			縄文中期		
1247	5	H-1	円形		27×25×21		土器2	縄文後期		
1248	5	E・F-1	円形		80×78×37			縄文中期		
1249	5	D-1	円形		60×55×24			縄文中期		
1250	5	D-1	円形		66×60×34			縄文中期		
1251	5	F・G-1	円形		92×91×48		土器3	縄文中期		
1252	5	F-1	円形		56×43×31			縄文		
1253	5	E-1	円形		52×52×34		打製石片 石鏃1	縄文		
1254	5	D-1	円形		62×58×33			縄文		
1255	5	H-2	円形		80×78×18			縄文		
1256	5	G-2・3	円形		50×44×44		土器1	縄文中期		
1257	5	I-1	円形		84×82×12		土器2	縄文中期		
1258	5	G-2	円形		40×40×17			縄文		
1259	5	E・F-1	円形		54×47×31		磨石 石鏃3	縄文		
1260	5	F-1	円形		56×50×20			縄文中期		
1261	5	F-1	円形		45×43×23			縄文		
1262	5	J-3	円形		40×32×30			縄文		
1263	5	I・J-2	円形		46×30×10	N-61°-E		縄文		
1264	5	J-1	円形		47×47×14			縄文		
1265	5	K-2・3	円形		46×39×23			縄文		
1266	5	H-1-2	円形		48×43×44			縄文		
1267	5	I-2	円形		54×44×48			縄文		
1268	5	G・H-4	円形		75×72×26			縄文		
1269	5	H-4	円形		36×30×26			縄文		
1270	5	H-4	円形		37×30×27			縄文		
1271	5	E-2	円形		45×40×48		土器1	縄文中期		
1272	5	G-5	円形		38×37×30			縄文		
1273	5	H-4	円形		40×36×22			縄文		
1274	5	G-4	円形		40×34×17			縄文		
1275	5	H-4	円形		40×36×18			縄文		

## 8区

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(長径・短径・深)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
6	8	I・W-25	長円形		240×170×200	N-55°-E	中硬に炭化材	平安以降	陥し穴	

## 17区

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(長径・短径・深)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
35	17	D・E-9	長円形		166×90×90	N-65°-E		平安以降	陥し穴	

## 18区

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(長径・短径・深)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
24	18	X-3	長円形		196×130×120	N-65°-E		平安以降	陥し穴	
25	18	W・X-2	長円形		213×180×190	N-40°-E		平安以降	陥し穴	
26	18	W-3	長円形		190×134×150	N-51°-E		平安以降	陥し穴	
27	18	W-1・2	長円形		190×150×140	N-40°-E		平安以降	陥し穴	
28	18	P・Q-6・7	長円形		210×(120)×100	N-92°-W		平安以降	陥し穴、28・29は重複	
29	18	P・Q-6・7	長円形		(110)×130×80	N-95°-W		平安以降	陥し穴	

## 19区

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(長径・短径・深)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
12	19	J-6・7	長円形		(135)×200×190			平安以降	陥し穴	
13	19	G-6・7	長円形		180×145×120	N-10°-E		平安以降	陥し穴	
14	19	I-5・6	円形		240×230×180			平安以降	陥し穴	

## 95区

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(長径・短径・深)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
83	95	V-21	円形		85×80×35		土器2		平成12年度一部調査	
84	95	K・L-21	長円形		208×120×100	N-42°-E		平安以降	陥し穴	
85	95	J・K-20・21	長円形		190×124×143	N-25°-E		平安以降	陥し穴	
86	95	J-25	長円形		218×114×133	N-35°-W		平安以降	陥し穴	
87	95	J・K-23	長円形		208×140×140	N-70°-W		平安以降	陥し穴	
87	95	I-25	長円形		214×131×120	N-30°-W		平安以降	陥し穴	
88	95	L・M-23	長円形		206×108×160	N-45°-W		平安以降	陥し穴	
89	95	H-25	長円形		198×138×136	N-7°-W		平安以降	陥し穴	
90	95	K-25	長円形		188×98×150	N-25°-W		平安以降	陥し穴	
91	95	G・H-22	長円形		160×104×75	N-35°-W		平安以降	陥し穴	
92	95	K-22	長円形		170×80×120	N-20°-E		平安以降	陥し穴	95-13区内
93	95	L-25	長円形		142×80×40			平安以降	陥し穴	後期
94	95	J-23	円形		104×90×115		磨石1 土器2・土器1	縄文	95-3陥し穴P-1 人為埋土	

第4章 東中学校進入口(12区)

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(北-南、東-西)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
95	95	J-23	円形		110×100×128			縄文	95-3 竪穴P-8	人骨埋
96	95	I-23	円形		110×110×122			縄文	95-3 竪穴P-7	人骨埋
97	95	J・K-23・24	円形		90×90×124			縄文	95-3 竪穴P-2	柱礎あり
98	95	I・J-25	円形		96×92×100		打製石斧	縄文	95-4 竪穴P-1	
99	95	I-25	円形		72×66×90			縄文	95-4 竪穴P-6	
100	95	J・J-24	円形		104×100×143			縄文	95-3 竪穴P-9	柱礎あり
101	95	J-25	長方形		96×72×143	N-72°-W		縄文	95-3 竪穴P-5	柱礎あり
102	95	J・K-25	長方形		(200)×104×78	N-73°-E		縄文中期	竪穴P-6	縄ネクタイ型
103	95	J-24・25	円形		100×96×145		打製石斧、準製石斧	縄文中期	95-3 竪穴P-2	柱礎あり
104	95	K-24	長方形		122×96×130	N-85°-E		縄文	95-3 竪穴P-3	柱礎あり
105	95	J-24	長方形		82×66×140			縄文	95-3 竪穴P-9	柱礎あり
106	95	K-22	長方形		104×88×72			土層1	縄文	
107	95	I-22	長方形		42×38×43			土層1	縄文	
108	95	K-25	長方形		230×202×46	N-40°-W		土層13	縄文	
109	95	S-1, 95I-25	長方形		90×64×81	N-73°-E	打製石斧、石鏃	縄文	95-4 竪穴P-2	柱礎有り
110	95	SII-1, 95II-25	長方形		84×70×90			縄文	95-4 竪穴P-4	柱礎有り
111	95	K-24・25	円形		80×74×44			土層1	縄文	
112	95	I-21	円形		107×97×66			土層5	縄文後期	
113	95	K-24	円形		113×103×37		打製石斧 準石斧	縄文	95-3 竪穴P-2	柱礎有り
114	95	I-25	長方形		50×30×59			土層6	縄文後期	
115	95	H・I-23	長方形		100×88×63			土層1	縄文	
116	95	J-25	木塼形		104×(64)×49			縄文		
117	95	K-24	長方形		43×(20)×32			土層2	縄文	
118	95	J-24	長方形		193×87×70	N-50°-E		土層1	縄文中期	竪穴P-6
119	95	K-24	円形		(70)×(12)×40			土層1	縄文中期	
120	95	G-22・23	円形		126×120×66			縄文		
121	95	J-24	円形		90×90×100		打製石斧 土層1・土層2	縄文中期		
122	95	L-18	円形		108×108×36		磨石 土層2・土層3	縄文中期		
123	95	L-19	円形		114×107×37		打製石斧 土層1・土層2	縄文中期		
124	95	R-15・16	円形		140×136×42		磨石 土層1・土層2	縄文後期		
125	95	Q-15	円形		108×104×39			縄文		
126	95	P・Q-15	円形		96×96×54			土層2	縄文後期	
127	95	Q・R-14	円形		106×98×43			土層1	縄文後期	
128	95	P-14	長方形		74×60×36			縄文	95-31 住柱穴	
129	95	P-14	木塼形		132×108×33		打製石斧 土層1・土層2	縄文		
130	95	L-19	円形		85×77×21			土層4・土層7	縄文	
131	95	I-23	円形		140×125×72		磨石 土層1・土層2	縄文後期		
132	95	O-14	長方形		56×36×55	N-45°-W		縄文	95-31 住柱穴	
133	95	O-14	長方形		130×50×33	N-53°-W	土層1	縄文	95-31 住柱穴	
134	95	O-14	長方形		130×30×39	N-53°-W	土層1	縄文	95-31 住柱穴	
135	95	O-13・14	長方形		110×60×40	N-0°		縄文	95-31 住柱穴	
136	95	O-18	円形		150×(70)×27		土層1・土層1	縄文中期		
137	95	O-17・18	円形		122×116×45		土層3	縄文中期		
138	95	L-17・18	円形		106×92×13		土層2	縄文中期		
139	95	P-13	円形		88×84×33		土層1	縄文後期		
140	95	L-18	円形		88×84×16			縄文中期		
141	95	P-14	長方形		72×62×36			縄文中期	95-31 住柱穴	
142	95	S・K-1, 95K-25	長方形		114×94×17		磨石 土層1 土層2	縄文	95-263 土器切	
143	95	O-14	円形		74×64×22			縄文中期	95-31 住柱穴	
144	95	O-14	長方形		86×52×21	N-70°-W		縄文中期	95-31 住柱穴	
145	95	O-14	円形		84×82×12			縄文中期		
146	95	P-13	長方形		98×60×26	N-40°-W		縄文中期	95-31 住柱穴	
147	95	P-13	長方形		52×34×29		土層1	縄文後期	95-31 住柱穴	
148	95	J-24	長方形		87×62×33		土層2	縄文中期		
149	95	O-13	長方形		56×46×18			縄文中期	95-31 住柱穴	
150	95	P-13	長方形		60×44×20	N-35°-W		縄文中期	95-31 住柱穴	
151	95	M-15	円形		90×66×18			土層1	縄文	
152	95	M・N-15	長方形		80×50×26			縄文中期		
153	95	N-15	長方形		96×62×22	N-65°-W		縄文中期		
154	95	O-17	円形		102×100×16		土層1	縄文中期		
155	95	M-16	円形		94×90×62			土層1	縄文中期	
156	95	M-16	円形		138×(120)×38		磨石 土層1 土層2	縄文中期		
157	95	N-16	長方形		140×120×57		土層1	縄文中期		
158	95	G・H-17	長方形		306×300×86	N-55°-E		平安以後	竪穴穴	
159	95	L-16	円形		140×134×65		土層1	縄文中期		
160	95	W-20	円形		62×54×19			縄文中期		
161	95	W-21・22	円形		72×61×23		土層2	縄文後期		
162	95	V-21	円形		84×82×26			縄文後期		
163	95	W-21	長方形		137×132×26		土層3	縄文中期		
164	95	V・W-21	円形		56×56×17		土層1	縄文後期		
165	95	V-21	円形		54×54×12			縄文中期		
166	95	W-21	円形		60×56×12		土層 土層5	縄文後期	三つ編	
167	95	W-21	長方形		74×54×31		土層2	縄文後期		
168	95	X-20	長方形		185×160×105		土層1 土層2 土層3	縄文後期	竪穴 土層部に多量の土層片	
169	95	W-19	長方形		54×46×30			縄文中期		
170	95	V・W-20	長方形		148×126×73		土層2	縄文後期		
171	95	V-19・20	円形		83×82×72		土層1	縄文後期		
172	95	V-19	円形		60×52×39			縄文中期		
173	95	V-18	長方形		112×83×54		土層2	縄文中期		
174	95	V-18	長方形		104×92×40		土層 土層4・土層1	縄文中期	95-31 住柱と土層	
175	95	T-19	長方形		149×123×67		土層10	縄文後期		
176	95	T-19	長方形		120×98×39	N-68°-W	土層1	縄文中期		
177	95	T-18	長方形		184×104×72	N-36°-W		平安以後	竪穴穴	
178	95	S-18	長方形		100×140×70			土層1	縄文中期	風頭木
179	95	S-17	円形		130×124×10		土層 土層3 土層2	縄文中期		
180	95	Q・R-16	円形		124×122×52		土層 土層5	縄文後期	後期前葉	
181	95	O・P-15	長方形		210×132×110	N-30°-W		平安以後	竪穴穴	

## 第1節 調査経過と調査方法

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(径・径・径)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
182	95	U-11	長円形	円形	141×137×77			土層2	縄文中期	95-21(土)重痕
183	95	U-18	円形	円形	80×80×18		土層2	縄文中期	縄文中期	95-21(土)重痕
184	95	R-17・18	円形	円形	160×154×33		土層1	縄文中期	縄文中期	
185	95	R-18	円形	円形	80×72×49		土層3	縄文中期	縄文中期	
186	95	W-19・20	円形	円形	166×160×53		溝・土層7・右層1	縄文後期	縄文後期	複数の大型礫
187	95	V-W-19	円形	円形	80×60×60				縄文中期	平安以降
188	95	Q-17・18	長円形	円形	224×176×156	N-5°-E			縄文中期	陥穴
189	95	Q-17	円形	円形	110×102×53		右層・土層5・右層1	縄文後期	縄文後期	
190	95	S-17	長円形	円形	44×40×24				縄文中期	
191	95	R・S-17・18	長円形	円形	140×120×31		土層2	縄文後期	縄文後期	
192	95	T・U-19	円形	円形	72×70×47				縄文中期	
193	95	S-17	円形	円形	38×36×52				縄文中期	
194	95	R-18	長円形	円形	94×80×50	N-15°-W	右層・土層3・右層3	縄文後期	縄文後期	
195	95	Q・K-18	円形	円形	142×130×78				縄文中期	
196	95	N-17	円形	円形	100×100×57		土層3	縄文中期	縄文中期	
197	95	R-17	長円形	円形	174×154×71		右層・土層2・右層1	縄文後期	縄文後期	
198	95	R-17	長円形	円形	80×74×51		土層1	縄文中期	縄文中期	
199	95	Q-17	長円形	円形	74×74×47	N-30°-W			縄文中期	
200	95	Q-17	長円形	円形	114×98×32		土層・土層9	縄文後期	縄文後期	
201	95	R-17	長円形	円形	80×(50)×20		土層1	縄文後期	縄文後期	
202	95	L・M-17	長円形	円形	106×90×69		埋没層・土層9・右層1	縄文後期	縄文後期	
203	95	Q-16	長円形	円形	70×42×42	N-20°-W			縄文中期	
204	95	R-18	長円形	円形	75×64×69				縄文中期	
205	95	S-17	長円形	円形	106×50×46	N-18°-E			縄文中期	
206	95	O-17	長円形	円形	80×56×58				縄文後期	
207	95	J-24	円形	円形	360×300×40		右層・土層7・右層1	縄文後期	縄文後期	213上の石皿が埋合
208	95	J-24	円形	円形	85×80×52		埋没石皿・土層1・右層2	縄文中期	縄文中期	
209	95	J-24	円形	円形	90×(33)×26		土層1	縄文中期	縄文中期	
210	95	K-25	円形	円形	70×60×40				縄文中期	
211	95	K・L-22	円形	円形	143×139×36		土層2	縄文後期	縄文後期	
212	95	N-17	円形	円形	110×108×68		右層・土層8・右層2	縄文後期	縄文後期	
213	95	O-17	円形	円形	154×(54)×24				縄文中期	
214	95	I-22	長円形	円形	166×78×94	N-65°-E	土層2	縄文中期	縄文中期	陥穴か・轆ネカタイ型
215	95	J-24	円形	円形	70×70×55		埋没石皿・右層3	縄文中期	縄文中期	
216	95	J-17	長円形	円形	160×120×55		土層6	縄文中期	縄文中期	95-34(内)
217	95	O-17	円形	円形	100×94×70		右層・右層1	縄文中期	縄文中期	
218	95	O-17	円形	円形	44×40×28		土層3	縄文中期	縄文中期	
219	95	P-16	円形	円形	140×138×18				縄文中期	
220	95	K-20	長円形	円形	42×35×23		右層・右層1	縄文中期	縄文中期	右層が崩壊に出土
221	74									
222	95	J-16・17	円形	円形	108×100×44		土層1・右層1	縄文中期	縄文中期	
223	95	P・Q-17	円形	円形	66×54×62		土層3	縄文後期	縄文後期	柱頭か
224	95	M-17	長円形	円形	40×32×18		土層1	縄文後期	縄文後期	
225	95	M-17	長円形	円形	60×40×18	N-71°-E			縄文中期	
226	95	M-17	長円形	円形	68×56×21				縄文中期	
227	95	M-17	長円形	円形	54×46×34				縄文中期	
228	95	N-16・17	円形	円形	58×54×36		土層1	縄文中期	縄文中期	
229	95	N-17	円形	円形	54×26×32				縄文後期	
230	95	J-24	円形	円形	60×(50)×17		右層・右層3	縄文中期	縄文中期	
231	95	Q-18	円形	円形	58×38×44				縄文中期	
232	95	R-18	円形	円形	108×108×21		右層	縄文後期	縄文後期	
233	95	K-15・16	長円形	円形	130×100×40	N-53°-W	土層2	縄文中期	縄文中期	
234	95	M-17	円形	円形	32×32×5				縄文中期	
235	95	M-17	長円形	円形	64×50×18		土層1	縄文中期	縄文中期	
236	95	J-24・25	円形	円形	60×60×35		埋没石皿・埋没土	縄文中期	縄文中期	
237	95	J・K-24	長円形	円形	70×(54)×28		埋没石皿・埋没土	縄文中期	縄文中期	
238	95	I・J-24	円形	円形	80×70×55		埋没石皿・埋没土	縄文中期	縄文中期	
239	95	L-23	円形	円形	64×61×		土層3	縄文後期	縄文後期	セクションなし
240	95	F-16	長円形	円形	78×54×23	N-34°-W	土層1	縄文中期	縄文中期	
241	95	D-20	円形	円形	96×92×27				縄文中期	
242	95	H-18・19	長円形	円形	174×104×120	N-40°-E			縄文後期	陥穴
243	95	G-23	長円形	円形	184×90×47		土層4	縄文中期	縄文中期	
244	95	H・I-23	円形	円形	104×100×77		土層4	縄文中期	縄文中期	
245	95	D-21	円形	円形	70×70×82				縄文中期	
246	95	C・D-21・22	円形	円形	230×224×63		95-36(土)・埋没土	縄文中期	縄文中期	上層中央にが状の石皿も遺漏。古銅
247	95	E-20	長円形	円形	90×42×26	N-8°-W	土層1	縄文中期	縄文中期	末端
248	95	I・J-24	長円形	円形	108×107×35		土層1	縄文中期	縄文中期	
249	95	K-24	長円形	円形	70×56×44				縄文中期	
250	95	I-22	長円形	円形	148×66×85	N-50°-E			縄文中期	陥穴か・轆ネカタイ型
251	95	G・H-23	円形	円形	112×108×60		土層1	縄文中期	縄文中期	
252	95	E-20	長円形	円形	90×66×40	N-23°-E	土層5	縄文中期	縄文中期	
253	95	L-23	長円形	円形	80×74×33				縄文中期	
254	95	L-23	長円形	円形	60×(50)×40				縄文中期	
255	95	I-24	円形	円形	145×144×70		土層6・右層2	縄文中期	縄文中期	
256	95	H-21	長円形	円形	150×98×65	N-22°-E			縄文中期	陥穴か・轆ネカタイ型
257	95	I-24・25	円形	円形	104×(85)×58		土層7・右層1	縄文中期	縄文中期	
258	95	E-20	円形	円形	50×34×16		土層2	縄文中期	縄文中期	
259	95	I-22	円形	円形	100×98×50				縄文中期	
260	95	I-21	円形	円形	104×100×25				縄文中期	
261	95	E-22	長円形	円形	79×66×28		土層1	縄文中期	縄文中期	
262	95	I-25	円形	円形	88×84×30				縄文中期	
263	95	K-25	円形	円形	110×96×12		土層1	縄文中期	縄文中期	95-14(土)重痕
264	95	H-23	円形	円形	56×54×31				縄文中期	
265	95	H・I-25	長円形	円形	88×54×73	N-73°-E			縄文中期	95-4(埋)P-5 柱頭有り
266	95	J-24	円形	円形	70×(40)×18				縄文中期	
267	95	E-21	円形	円形	116×109×21		土層2	縄文後期	縄文後期	95-47(内)
268	95	J-20	不整形	円形	86×75×37		土層3	縄文後期	縄文後期	

第4章 東中学校進路 (12区)

番号	区	位置(グリッド)	形 状	面積(㎡・坪・歩)	主軸方位	出土遺物	特 別	備 考
269	95	D-23	長円形	98×84×33		土器2	縄文	
270	95	D-23	円形	112×110×33		土器2	縄文	
271	95	D-24	長円形	160×124×107	N-23°-W		平安以降	陥し穴
272	95	C-29	長円形	138×104×82	N-40°-W		平安以降	陥し穴
273	95	C・D-23	長円形	98×88×20	N-28°-W		縄文	
274	95	C-29	長円形	138×90×45			縄文	
275	95	G-19	長円形	58×50×17		土器片多数 土器2	縄文後周	44又は50位の柱穴の可能性あり
276	95	J-18	長円形	168×86×26	N-70°-W		平安以降	陥し穴か
277	95	J-23	長円形	224×80×21	N-15°-E		縄文中期	
278	95	J-23	円形	70×65×32		土器1	縄文中期	
279	95	H-21	円形	74×73×27		土器2	縄文中期	
280	95	H-19・20	長円形	138×90×45	N-55°-E	土器5	縄文中期	
281	95	G-19	円形	116×110×10			縄文中期	95-53区内に重畳
282	95	G-21・22	円形	87×86×80		打製石片 土器2・石器1	縄文中期	
283	95	G-20	長円形	92×77×41		石鏡 土器1	縄文中期	
284	95	G-20	半円形	77×58×23			縄文中期	
285	95	G-21	長円形	74×58×24		打製石片 土器1	縄文中期	
286	95	G・H-21	円形	106×103×54		打製石片 土器1・石器1	縄文中期	
287	95	G-21	長円形	82×61×28		土器2	縄文後周	
288	95	G-20	円形	50×50×68		土器2	縄文後周	
289	95	F-23	円形	32×50×80		土器1	縄文中期	95-53区内
290	95	G・H-20	木彫形	150×135×12		土器2・石器1	縄文後周	
291	95	H-20	長円形	45×45×25			縄文中期	
292	95	H-20	円形	48×48×28			縄文中期	
293	95	G-21・22	長円形	174×84×55	N-16°-E	土器2	縄文中期	横ネケタイ型
294	95	G-23	円形	117×112×21		打製石片 土器1・石器1	縄文後周	
295	95	H-21	円形	126×111×28		土器8	縄文中期	
296	95	E・F-23	長円形	104×68×45	N-68°-E	土器1	縄文後周	
297	95	F-23	長円形	105×88×28		磨石 土器2・石器2	縄文後周	
298	95	G-23・24	円形	134×118×23		磨石 土器2・石器1	縄文中期	
299	95	G-21	長円形	90×82×30		土器1・土器2	縄文中期	
300	95	G-21	長円形	106×79×29		石鏡 土器2・石器1	縄文中期	
301	95	H-20・21	長円形	430×40×28			縄文中期	
302	95	H-20・21	長円形	158×80×14	N-40°-W		縄文後周	
303	95	G-25	長円形	110×100×21	N-52°-E	磨石 土器1・石器2	縄文後周	
304	95	G・H-25	木彫	122×(46)×31			縄文	
305	95	I-17	円形	94×84×16			縄文	番号を愛東(955号愛東)
306	95	I-20	円形	60×54×32			縄文	
307	95	N-20	長円形	52×44×22			縄文	
308	95	W-20	円形	40×46×26			縄文	
309	95	W-20	円形	42×40×23			縄文	
310	95	U-19	長円形	52×40×24			縄文	
311	95	S-18	円形	64×62×15		土器1	縄文中期	
312	95	R-17	長円形	80×46×16	N-90°		縄文	
313	95	Q-18	円形	78×72×25			縄文	
314	95	I-21	円形	108×(45)×26		土器1	縄文中期	
315	95	H-25	長円形	50×42×18			縄文	
316	95	L-19	円形	42×36×32		打製石片 石器1	縄文	
317	95	J-20	長円形	40×30×19			縄文	
318	95	E・F-25	長円形	82×70×28	N-65°-E		縄文	
319	95	E-25	円形	70×65×61		石鏡 土器2・石器1	縄文中期	
320	95	F-20	円形	101×91×27		土器1	縄文中期	
321	95	E-22	円形	90×70×22			縄文	
322	95	D-22	円形	50×47×14		土器1	縄文後周	
323	95	S・K-1,95K-2	円形	66×66×23			縄文	
324	95	L-25	長円形	54×(40)×22			縄文	
325	95	L-25	長円形	42×40×17			縄文	
326	95	D・E-24	円形	94×87×20		打製石片 土器5・石器1	縄文後周	
327	95	G-23	円形	40×34×48			縄文	
328	95	J-23	長円形	44×34×20			縄文	
329	95	K-21	円形	40×38×17		石鏡 石器1	縄文	
330	95	E-18・19	長円形	88×64×28			縄文	
331	95	I-17	長円形	100×90×33			縄文	

ビット

5区

番号	区	位置(グリッド)	形 状	面積(㎡・坪・歩)	主軸方位	出土遺物	特 別	備 考
285	5	L-1	円形	51×49×48				5-3 竪立柱穴
286	5	L-2	円形	42×38×38				5-3 竪立柱穴
287	5	K-1	長円形	54×44×22				5-3 竪立柱穴
288	5	K-1	円形	56×55×44				5-3 竪立柱穴
289	5	K-1	長円形	29×24×10		土器片		
290	5	K-1	長円形	47×40×30				
291	5	K-3	長円形	62×44×32				
292	5	K-2	円形	42×(32)×38				
293	5	K-2	円形	40×39×42				
294	5	I-4	円形	42×38×38				
295	5	I-2	長円形	(28)×32×42				
296	5	H-5	円形	34×33×42				
297	5	H-2	円形	30×30×30		土器片		
298	5	G-2	長円形	46×36×36				
299	5	H-2	長円形	32×26×23				
300	5	H-3	長円形	46×44×42				
301	5	G-1	円形	57×54×40				
302	5	H-2	円形	32×(14)×16				
303	5	H-3	長円形	50×(34)×30				
304	5	G-1	円形	(38)×36×24				



## 第1節 調査経過と調査方法

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(北-南、東-西)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
305	5	G-1	円形		32×32×24					
306	5	G-1	円形		40×36×14					
307	5	G-1・2	円形		32×31×13					
308	5	H-4	円形		41×37×14					
309	5	F-1	長円形		58×(46)×61					
310	5	H-4	円形		38×24×15					
311	5	J-2	円形		32×31×28					
312	5	J-3	円形		34×33×24					
313	5	K-2	円形		36×32×22					
314	5	K-1	円形		30×28×24					
315	5	L-1	長円形		50×40×38		土器片 台石			
316	5	K-2	長円形		52×39×21					
317	5	K-1	長円形		34×26×40					
318	5	K-3	長円形		47×32×20					
319	5	J-3	円形		32×29×15					
320	5	G-3	円形		42×37×26					
321	5	G-3	長円形		49×36×23					
322	5	I-1	円形		36×35×17					
323	5	G-4	円形		28×26×14					
324	5	H-4	長円形		46×38×24					
325	5	F-2	円形		32×31×32					
326	5	F-1	円形		33×28×34					
327	5	E-1	円形		34×32×30					

## 95区

番号	区	位置(グリッド)	形	状	幅(北-南、東-西)	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
150	95	Q-17	円形		50×50×40		土器片 礎			
151	95	Q-17	円形		50×50×40					
152	95	P-17	円形		34×30×26					
153	95	P-17	円形		40×38×28					
154	95	P-17	長円形		40×28×34					
155	95	S-18	円形		28×38×24					
156	95	Q-17	円形		46×34×22					
157	95	Q-17	円形		42×40×24					
158	95	O-17	円形		48×40×32					
159	95	E-20	円形		28×26×30		土器片			
160	95	J-24	長円形		60×(50)×30					
161	95	E-20	円形		48×40×16					
162	95	K-24	円形		38×38×26					
163	95	J-25	円形		38×38×32					
164	95	I-25	半円形		(12)×22×40					
165	95	L-25	円形		40×36×42		土器片			
166	95	K-25	円形		40×30×34					
167	95	L-25	円形		36×34×36					
168	95	K-24	長円形		32×26×26					
169	95	K-24	円形		26×24×18					
170	95	K-24	円形		28×24×20					
171	95	J-24	円形		32×30×24					
172	95	J-24	円形		(26)×28×6					
173	95	J-24	円形		36×24×10					
174	95	J・K-24	半円形		(22)×36×16					
175	95	K-20	円形		34×32×36					
176	95	K-20	円形		32×26×16					
177	95	L-22	円形		40×40×24					
178	95	K-24	円形		28×22×16					
179	95	K-24	円形		18×16×16					
180	95	K-21	円形		40×38×20					
181	95	K-21	円形		34×30×24					
182	95	K-20	円形		48×42×22					
183	95	K-21	円形		40×36×26					
184	95	K-21	円形		28×32×18					
185	95	K-19	円形		34×28×14					
186	95	K-20	円形		30×28×12					
187	95	K-23	長円形		32×26×22					
188	95	K-20	円形		46×36×16					
189	95	I-22	長円形		34×22×22					
190	95	I-21	円形		44×38×22					
191	95	I-20	円形		40×40×16					
192	95	I-21	円形		30×28×14					
193	95	K-25	円形		36×47×40					E-3 竪立柱穴

## 第5章 まとめ

### 第1節 縄文時代

#### 1. 住居

今回検出された遺構は、長野原一本松遺跡における集落の一部ではあるが、平成6年度以降継続的に調査され、今次の調査で、長野原一本松遺跡における集落構造がほぼ明らかになった。本頁では、今回の調査区内で検出された遺構について概要、特徴等を記した上で、発見された遺構全体について、若干の考察を行いたい。

住居、掘立柱建物跡に関しては、平成6年度以降、これまでに調査が行われたものも含め、明らかになった部分について、記述を行うこととする。

今後最終的な整理作業が進む過程で、解明をして行かねばならない課題も出現すると考えられるが、ほぼ集落の全容が明らかになった時点での成果をまとめておきたい。

#### 平成16年度調査の遺構について

平成16年度の調査において、検出した縄文時代の住居件数は62軒である。このうち5～8住、95～5住については、平成8年度および平成14年度にそれぞれ一部を調査、報告済みである。

検出された住居の時期を見ると、最も古く位置付けられるのは、中期中葉段階であるが、遺構数は極めて少ない、最もこの遺跡が繁栄したのは中期後葉段階である。この時期の住居は最終的に150軒を超えており、長野原一本松遺跡の主体的な時期と見ることができる。集落が維持されていた時期は中期後葉から後期前葉と考えられる。

第556図に見られるように、遺跡の載った台地は、吾妻川の上位段丘にあたり、西から東にかけて、いくつかの谷や沢が横断している。遺跡の中心はこの台地の中で最も広く比較的平坦なところに構成されている。北側が山地で徐々に傾斜が強くなっている。住居はこの傾斜部分の変換点を占地の境界としている。

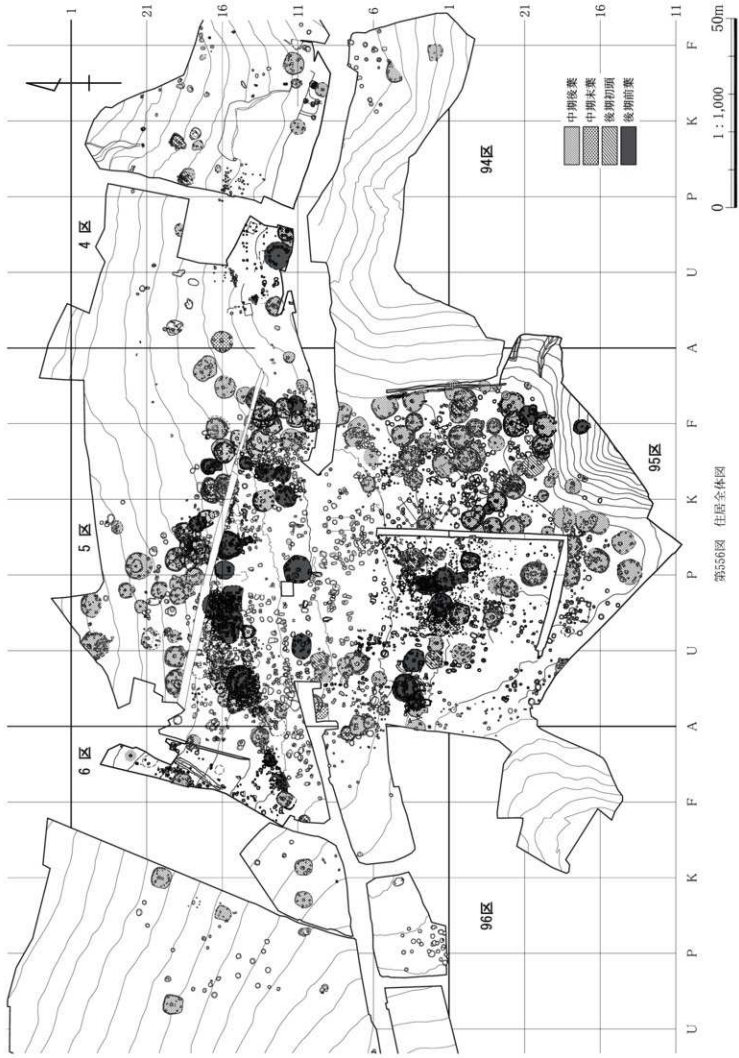
東および西側については、南に谷が入るために台地がやや狭まっている。集落の中心部分は北からの傾斜がなだらかなり、且つ広く舌上に南に張り出す台地となっている。

住居はこの台地ほぼ全体に外径約110～90m、内径約50mの環状を呈す。南に突き出た台地の形状に沿ったものか、全体的に北西、南東方向にやや伸びた楕円形を呈している。また、この環状中心部分からやや離れたところに点在する住居は、台地の北側緩斜面に沿って左右に伸びるように構築されていることが判る。

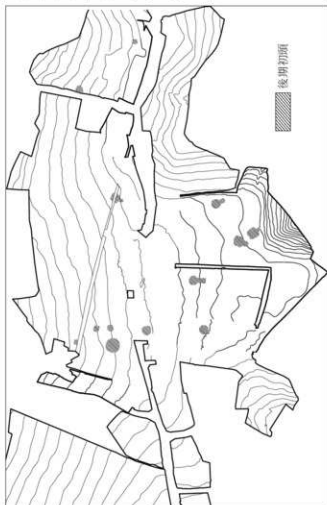
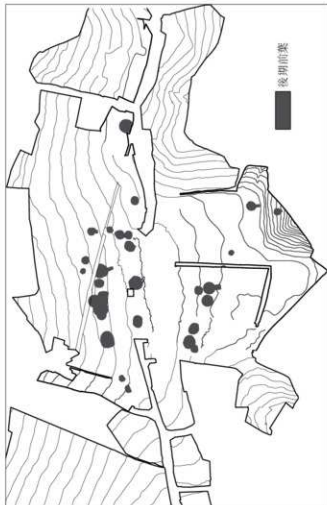
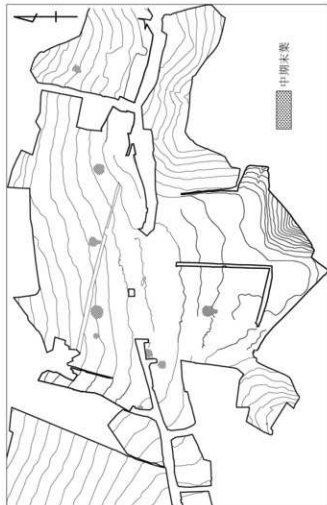
環状に配された住居群の内側円形部分は、遺構の分布密度が極めて薄くなっている状況が伺える。中心部に見られる5～28号住居跡は主体部径が7mを超える大型の住居で、時期は後期前葉と判断されている。南側に対接して5～315号土坑（配石墓）後期前葉が検出されている。また、やはりこの空白域に掛かる5～13・18・46号住居跡も後期に位置付けられるものである。前述した5～315号土坑の他にも5～200・340号土坑は長円形の掘り込みを石で囲った配石墓であり、その存在も注目される。これらの配石墓も時期は、後期前葉～中葉と見られ、中期の遺構は見当たらない。

さらに配石墓の東に5～1号柱穴列（掘立柱建物跡）が存在する。亀甲型で大型の建物である。時期は出土遺物が少ないため確定は難しいが、後期前葉～中葉に比定されている。

住居で囲われた円形の空白部域は、明らかに中期後半期においては、中央広場として存在していたことが

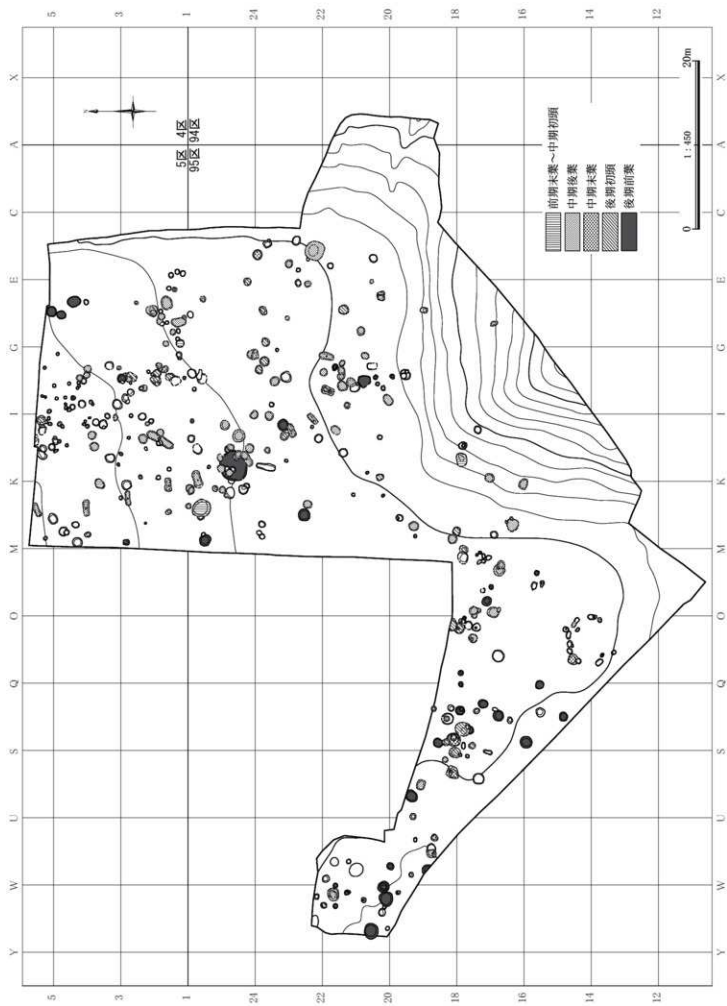


第556図 住居全体図



0 1 : 2,000 100m

第557圖 時期別全体図



第558図 土坑全体図

何え、集落における規制された重要な場所であったことが考えられる。

第556図は集落の遺構全体図で、住居の時期別図である。遺構が濃密に重なっている部分も多く、時期判定が難しい部分もあるが、出土土器、報告されている時期を元に作成したものである。中期後葉、中期末葉、後期初頭、後期前葉の4期に分けている。さらに、分けることも可能であるが、細分については最終報告を待って行いたい。

以下、この図から考えられる集落の変遷を概述してみたい。まず、集落の成立であるが、遺物に関しては遺構外出土の中に早期、前期のものが点在しているものの、遺構について見ると、僅かに3区において早期燃糸文土器を出土した土坑が見られるのみで、今次の調査例では前期後半、前期末から中期初頭に位置付けられるものが、95-216、252号土坑から僅かに破片が出土しているのみで、明確に時期が判明したものは極めて少数である。早期あるいは前期にまで遡るものは無い。住居跡で最も古く位置づけられるのは、中期後葉古段階で、これらについても検出された数は少ない。

土坑に関しては中期後葉段階と考えられるものが数基検出されており、住居もさらに、遡るものも存在していた可能性も否定できないが、確認はされていない。こうしたことから、長野原一本松遺跡において集落の成立を見るのは中期中葉の古段階と考えられる。中央の広場部分を囲うように台地状に住居が築かれたのであろう。これらの住居は建て替えや、拡張などを繰り返し、集落の規模を大きくしていったものと考えられる。やがて、この環状域も台地の大きさから飽和状態を迎え、環状形態という規制のある中で、人々は居住域を求め台地北側の、比較的緩斜面部分さらには左右に広がるようになっていったものと考えられないであろうか。これら環状構造の枠から、言ってみれば、はみ出した形での集落構成が起こったと考えられる。これらの住居は台地の東西に広がるものの、谷が入り込む狭隘な地勢であるため、谷を囲うように点在している。こうした住居の時期は中期後葉～末のものを中心とするが、これらの中に後期の柄鏡型数石住居が点在していることも注目される。

さらに、こうした環状に広がる住居群を詳細に観てみると、同時期あるいは近い時期と思われる住居が数軒から10軒ほどの塊(ブロック)状を呈しているように思われる。当然建て替え等による重複もあるわけで、一概には言えないものの、親族あるいは同族による占地の結果と見ることもできるのではないだろうか。

その後、集落としては衰退期へと進むこととなり、後期に入ると遺構数の減少を見る。中期末葉期の数石住居も点在するようになる。前代からの環状規制は依然維持されるものの、明らかに軒数は少なくなっている。

さらに、後期初頭段階に入り、比較的大きな柄鏡型の数石住居の出現を迎える。この時期、数石を持たない住居はほとんど観られず、数石住居が環状となる部分にある程度の距離において、点在して構築されていることが分かる。

さらに時期が下り、後期前葉段階に入ると、前代から踏襲されていた集落構造の規範が崩れることとなる。

外径約100m程の規格を壊し、規模が縮小していることが読み取れる。約半分ほどの径60m程の環状構造を作ることで集落の再構築とも呼べるような展開が行われたのである。さらに、前代まで住居を作ることを規制していた円形広場的な範囲にも住居が作られているのである。これは、円形構造から列石や、配石などを伴う新たな構造的な変換がおこったものと考えられないであろうか。

ただ、前述した配石墓もこの中央部分に限って作られていることは、この時期においてもなお、ある意味中央広場的な要素が残っていたものと思われる。さらに、こうした集落構造の変化の中で、掘立柱建物跡の存在を考える必要がある。今回の調査で検出された軒数は7棟である。これまで長野原一本松遺跡において検出された掘立柱建物跡(報告では柱穴列等の名称を使用)は14棟を数える。時期は中期中葉から後期前

半に渡ると思われるが不明のものもある。

中期末葉段階になると柄鏡型敷石住居の出現がある。これらの住居は環状分布内に点在して配置されていることが取られる。いずれも南を中心に南東または南西にやや振れて柄部分が張り出している。

その形態を見ると、張り出し部がU字状を呈し外壁部分には河原石を縦に据え複数段積み上げるもの、平石を直線上に配すものがある。

また、本書中の95-19号・95-48号住居跡は、部分的に敷石を持つ柄鏡型敷石住居である。主体部の形状が方形、円形と異なっているものの、主体部壁下に小石を盛り上げた周礫が確認されている。使われている礫の大きさは3cmから10cm程でいずれも川原石である。

95-19号住居跡の壁下に検出された周礫は一辺約3.2mのほぼ方形を呈すが、四隅部分は柱穴が位置していたためか、礫が隅丸となり僅かに外側に膨らむ。主体部に敷かれた敷石は少なく、礫の内側に沿って、小ぶりの平石や細長い礫が連なるように検出されている。比較的大きな平石は四隅とその中間の位置、連結部に敷かれている。ほぼ柱穴の位置に相当する。

周礫は壁下に沿ってほぼ直線的に見られ、主体部内側に流れ込んだような状況はほとんど見られない。

対照的にほぼ円形に廻る周礫が検出された95-48号住居跡は、攪乱や、重複により全体像は明確でないものの、主体部の壁下に沿って廻らされた周礫が良好な状況で検出されている。廻らされた礫は幅約30～40cm、径は4m程で、やや盛り上がった状態であった。全体を露呈させた周礫の平面形は、詳細に見ると八角形を意識した形であることが判る。高さ20cm程に盛り上がる断面を見る限りでは、礫は表面部分に多く、内部には少ないことが取れる。ただ、上の部分については人為的に堅く蔽き締めたような状況は認められなかった。小礫に混じってやや大きな礫も所々に点在していた。後に検出された柱穴はこの八角形の角部分に配されている状況が見られ、柱穴が位置する部分には礫が薄いことも確認されている。このことから周礫帯の構築は、柱が立っていた時点で行われたものと判断される。いずれも、時期は後期初頭に比定され、本遺跡においては特異な構造を持つ住居として位置づけられる。

95-19号住居跡は、大型の掘立柱建物跡95-3号掘立柱建物跡と重複関係にあり、掘立柱建物跡が新しいことを確認している。

## 2. 掘立柱建物跡

平成16年度の調査において検出された掘立柱建物跡は、7棟である。規模などの計測値は各頁に記載してあるため、ここでは省略する。検出されたこれらの配置を見ると、南に張り出す台地部分のほぼ中央からやや南東にかけて作られている。最も南に位置する95-3号掘立柱建物跡を除くと、ほぼ円を描くように各掘立柱建物跡が主軸を変えて配置されている。その径はおよそ25m程である。それぞれの平面形は5-2号・5号が両長軸方向に棟持ち柱を持つ亀甲型で、他は長方形である。また、柱穴の数は5-2号が10本（棟持ち柱含む）、5-3・4・95-4号が6本、5-8号が8本、総柱の95-3号が9本である。調査区の南に離れて位置する95-22号住居跡は、住居跡の頁で扱っており、いわゆる平地式住居であると見られる。ここでいう掘立柱建物跡の範疇に含まれないものであろうが、形態的には掘立柱建物跡と考えられることから、全体図中に配した。

これら検出された掘立柱建物跡の中で、平面規模の最も大きいものは5-2号であるが、検出された柱穴の規模を見ると、平均の径が大きいほうから順に、95-3号→5-4号→95-4号→5-5号→5-2号→5-3号→5-8号である。また、深さの深い方から順に、95-3号→5-4号→5-5号・95-4号→5-

## 第5章 まとめ

—8号→5—2号→5—3号である。下がその一覧である。

これを見ると明らかに径、深さに大きいA類（5—4号・5号・95—3号・4号）と小さいB類（5—2号・3号・8号）の2グループに分けられる。遺構の確認面に違いがあるとは言え、この両者の差は明らかである。

掘立番号	径平均 (cm)	深さ平均 (cm)	柱痕の残る柱穴	分類	備考
5—2号掘立	67	46	8本中3本	B	亀甲型
5—3号掘立	52	44	6本中2本	B	
5—4号掘立	88	104	6本中5本	A	
5—5号掘立	82	89	6本中5本	A	亀甲型
5—8号掘立	47	47	6本中2本	B	
95—3号掘立	103	137	9本中6本	A	総柱
95—4号掘立	87	89	6本中3本	A	1本は推定

A類は柱穴径80～100cmを超え、深さも90～100cmを超えている。95—3号に至っては137cmを測る。B類は径47～67cmで、深さは、いずれも50cm以下である。この柱穴の大きさから想定しても、明らかに柱の太さや、建物の高さに違いがあったことは確かである。このことは土層断面に残る柱痕の太さでも確認されている。

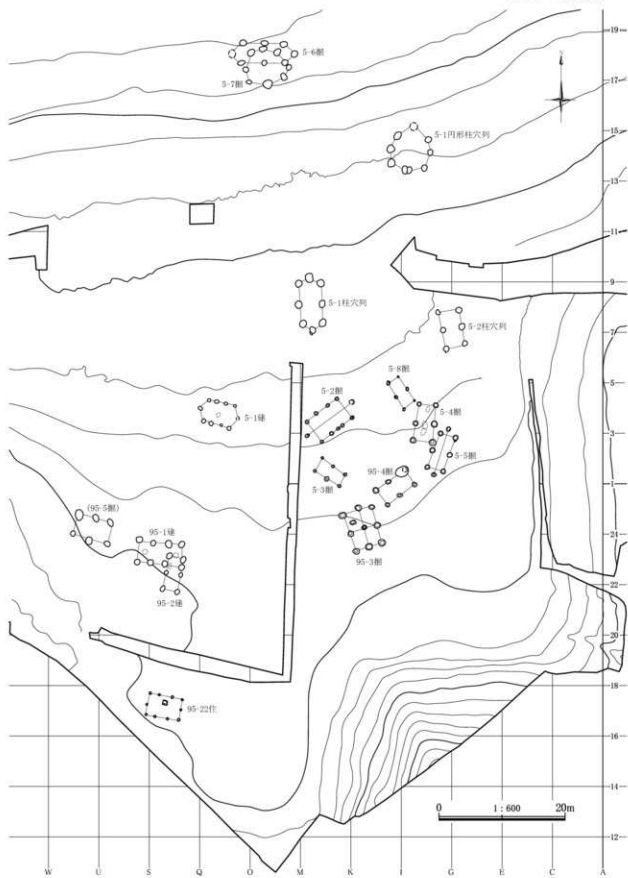
さらに、A類としたものの柱痕径は、5—4号が27～36cm、5—5号が27～34cmである。また、95—3号が33～45cmを測る、いずれも平面での確認径である。5—4号と5—5号は極めて近似値を示している。また95—3号はかなり太い柱が想定される。また、B類については、5—3号で12cm、5—8号で12～15cmを確認している。明らかに立てられていた柱の太さに差があったことが窺える。このA・B類が時期の違い、あるいは用途の違いなのかは、確定できていない。

ここで、これまでの調査で検出された掘立柱建物跡（報告の中では建物跡あるいは柱穴列で報告も含む）についても触れておきたい。これまで長野原一本松遺跡において確認された掘立柱建物と考えられる遺構は、本書で扱った7棟を加え、16棟を数える。これらは報告の中で使用されている名称が不統一な点があり、混乱を生じてしまっている。はなはだ遺憾ながら本頁では、名称についてはそのまま使用して説明することをご容赦願いたい。また、長野原一本松遺跡（3）では、掘立柱建物の可能性を指摘するに留まっていた6基の土坑についても、掘立柱建物跡の可能性が高いと考え、新たに95—5号掘立柱建物跡と付し、あわせて検討を加えることとする。

第559図は、平成8～16年度において確認された掘立柱建物跡の分布である。これらのうち、5—1号円形柱穴列と5—7号掘立柱建物跡については円形（八角形）を呈しており、大型住居の掘方である可能性も排除できない。また、5—7号掘立は中央に炉跡（5—1号焼土）を有している。

5—1号円形柱穴列は、後期前半期の柄鏡型敷石住居が中に収まる形で重複している。これら2棟を除き、その形状を比較すると、5—1号建物、5—2号掘立柱建物跡、5—6号掘立柱建物跡、5—5号掘立柱建物跡がいわゆる亀甲型となる。構造的には5—6号掘立柱建物跡・5—1号柱穴列・5—5号掘立柱建物跡が長方形の6本柱の中央両側に、棟持ち柱穴をもつ計8本柱、5—1号建物・5—2号掘立柱建物跡が、長方形8本柱の中央両側に棟持ち柱を持つ、計10本柱である。その他は長方形で、6本柱が7棟、8本柱が1棟、そして9本総柱の95—3号掘立柱建物跡である。





第559図 掘立柱建物跡全体図

長野原一本松遺跡掘立柱建物一覧表（平8～15年度）

掘立番号	径平均 (cm)	深さ平均 (cm)	柱痕の残る柱穴	分類	備 考
5-1号柱穴列	120	119	5本	A	
5-2号柱穴列	89	88	1本	A	
5-1号円形柱穴列	109	108	2本	A	
95-5号掘立柱建物跡	97	50		A	95-8・24～27・14・15土
5-1号建物跡	51	37	1本	B	
95-1号建物跡	96	64		A	
5-2号建物跡	84	70		A	
5-6号掘立柱建物跡	96	76		A	棟持ち柱1本推定
5-7号掘立柱建物跡	103	83			

### 炉を持つ掘立柱建物跡

今回調査が行われた5-4号・95-3号は建物内に炉が検出されている。調査当初は柱穴の確認よりも先に焼土が検出されたために、単独番号を付けて調査を進めていたが、柱穴が検出され、建物の全容が明らかになると、建物の柱穴内に収まっていることがわかった。

この時点では、周囲にも焼土の点在があり、掘立柱建物に伴うものか判断しかねていた。その後、95-3号掘立柱建物に伴う炉が確認されたことにより、建物に伴うものと確信するに至った経緯がある。

改めて、これまでに検出されている掘立柱建物について確認を行ったところ、建物内に焼土または炉を確認しているものが、3棟存在していることを確認した。これらは焼土、あるいは炉として報告されており、建物の中央、あるいは左右に2カ所存在している。報告では、建物に伴う可能性のみに留まっている。

今回2棟が追加されたことから、屋内に炉を伴う掘立柱建物が存在していたことが明らかになったものと思われる。他の遺構についても、重複等により、上面が削平されていたものも多く、炉が存在している可能性は十分考えられる。

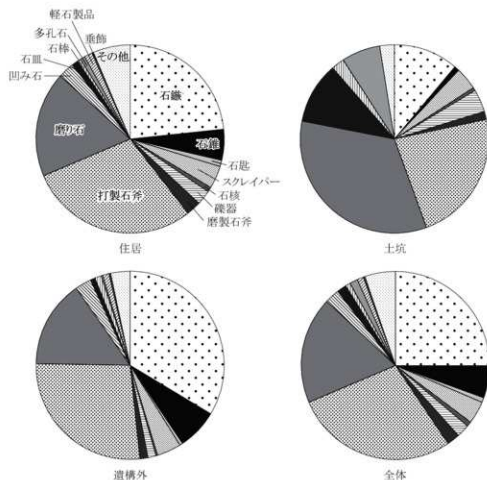
今回、検出した炉を詳細に見ると、5-4号掘立柱建物には中央長軸に沿って3基の焼土が並んでいる。それぞれの焼土は長さ1m、幅が50～70cmの長円形で、浅い落ち込みを有し、長軸方向に延びる焼土範囲を持つ。中央に石を持つものもある。

95-3号掘立柱建物の炉は北側の西寄りに位置、一部石で囲い、炉からはみ出るように東西に長い焼土が確認されている。焼土の堆積は厚く良く焼けた状況であった。また、この2棟についてはそれぞれ中央部南に埋篋も検出されている、おそらく建物に伴うものと考えられる。こうしたことから、すでに調査された建物内の焼土も遺構に伴う炉であった可能性が高い。

### 3. 石器

出土した石器の総点数は1,819点（図示したもの）で、このうち種類毎の点数および組成比率は第560図の通りである。ここでは住居跡出土の石器について、各調査区毎の出土分布と傾向について若干のまとめを行いたい。

それぞれの住居跡より出土した石器遺構の残状況等にもよるが、平均20点程であるが、全く見られないものから、95-56号住居のように100点以上が出土している住居もある。このほか、5-155住、95-18住、95-30住などで50点以上の出土がある。第560図の左上円グラフは住居出土石器の組成比率を表したものであ



第560図 石器組成グラフ

る。点数的に少ない住居も多く、必ずしも図示した組成比率が当てはまるものではないが、ほぼ総ての住居から石鏃と打製石斧および磨石の出土が見られる。狩猟具としての石鏃や採集具、土掘り具としての打製石斧、食物の加工具としての磨石の在り方は当時の生産、生活形態を表しているものと言える。石鏃はほとんどの住居で出土が見られる。出土石器の23%を占めていることは注目されよう。また、石鏃に関しても周辺の遺跡に比して多くなっている。比率的には数%であるが、多くの住居より出土している。石材は黒曜石製のものが主体を成し、僅かにチャート製のものが含まれる。棒状のもの他つまみを有するものも見られる。

打製石斧は全出土石器の約30%を占めている。やはりこの時期の中心的な器種と言えよう。半分以上が欠損品である、基部あるいは刃部片で使用による破損であると考えられ、刃部については使用痕を持つものが多い。これに対し磨製石斧は2.3%と極めて少ない、非実用品と見られる小型品が半分以上を占めていることも注目される。磨石は打製石斧について出土比率の高い器種である。表裏に浅い凹み穴をもつものが目立つ。やや偏平で長円形を呈す礫の表裏を使用面とし、使用痕の顕著なものと円礫を利用し、あまり使用痕が見られないものにと大別できる。前者はいわゆる磨り石として機能していたものと考えられるが、後者については明らかに用途を異にするものも含まれているものと考えられる。

住居出土石器の組成比率は、遺構外出土の石器とほぼ同様の組成比率を示しており、長野原一本松遺跡に

## 第5章 まとめ

おける特徴を示すものと考えられる。但し、住居の時期は単一ではないので実際にはそれぞれの時期別についての検討も必要であると考えられるが今回は対象遺構が少ないため、比較検討は行っていない。

土坑から出土した石器の総点数は133点である。組成図を見ると、住居で最も多く見られた打製石斧は2番目であり、磨り石が1番多く出土している。比率的には33%と3分の1を占める。さらに石皿や多孔石・石棒などの比率が高くなっている事に注目される。多くの土坑で欠損した石皿や石棒あるいは多孔石が出土していることは、意図的な行為があったことが考えられる。

第560図右下のグラフは今回の調査において検出された総ての石器についての組成図である。統計を行った器種は石鏃・石錐・石匙・スクレイパー類・石核・礫器・打製石斧・磨製石斧・磨石・凹み石・石皿・石棒・多孔石・軽石製品・垂飾（装身具）・その他である。これを見ると各器種の比率については、土坑を除きほぼ等しくなっているように見える。比率的には打製石斧→石鏃→磨り石→石錐→スクレイパーとなっており、これまで長野原一本松遺跡において出土している石器全体に言えるものである。石器の使用頻度や本来生活するために必要とする石器の定数などを考え、中期後半から後期前半期における石器の在り方を示しているように思われる。

出土した数はそれぞれ多寡が見られ、最も多い打製石斧の512点に比し、最も少ない装身具はわずか3点である。

石鏃の分布を見ると、住居や土坑の集中する場所で多く見られ、各住居よりまんべんなく出土している。

石棒・多孔石については、点数的には多くはない、その分布を見ると2点以上を出土したグリッドは無く、いずれも単一の出土である。その他の石器としては、鉤状を呈す黒曜石製の異形石器や垂飾品等も見られた。

石器に関しては、あまりにも点数も多く、時間の制約などから個々の詳しい検討は行えない状況であった。今後最終報告の中でより具体的な検討を加えるとともに、時期別の器種組成について、検討を行いたいと考えている。

## 自然科学分析編

## 長野原一本松遺跡の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林結一  
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

## 1. はじめに

長野原一本松遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松に所在する。調査では、縄文時代中期および平安時代以降の遺構が検出されている。ここでは、縄文時代中期の住居跡および平安時代以降の落し穴から検出された炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、平安時代以降の落し穴から検出された炭化材については、ウィグルマッチングを行った。

## 2. 試料と方法

測定試料は、縄文時代中期の53号住居跡の床面から検出された炭化材（丸木状）と平安時代以降の落し穴である53号土坑の覆土中位から検出された炭化材各1点の、計2点である（表1、2）。縄文時代中期の住居跡から検出された炭化材（PLD-21886）は4年輪分を測定した。平安時代以降の落し穴から検出された炭化材は、1-5年輪、11-15年輪、21-24年輪の3点（PLD-21887~21889）を採取して測定し、ウィグルマッチングを行った。

各試料は、調製した後、加速器質量分析計（コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。

表1 95区53号住居跡から出土した炭化材および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理データ
PLD-21886	調査区：95区 遺構：53号住居跡 層位：床面 試料%：1	種類：炭化材(クリ) 形状：丸木状 性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)

表2 7区53号土坑出土炭化材のウィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	遺跡・試料データ	採取データ	前処理データ
PLD-21887	調査区：7区 遺構：53号土坑 層位：覆土中位	採取位置：1-5年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)
PLD-21888	試料%：8 種類：炭化材(スギ) 形状：丸木 性状：最終形成年輪有	採取位置：11-15年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)
PLD-21889	状態：dry	採取位置：21-24年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N)

## 3. 結果

表3、4に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した $^{14}\text{C}$ 年代を、表4にはさらにウィグルマッチング結果を、図版1-1bに単体試料の暦年較正結果を、図版1-2bにウィグルマッチング結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後

暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代 (yrBP) の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差(±1σ)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッピング法の詳細は以下のとおりである。

#### [暦年較正]

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal4.1(較正曲線データ: IntCal09)を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表3 95区53号住居跡から出土した炭化材の放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-21886 試料No.1	-27.05±0.21	4130±23	4130±25	2859BC (14.0%)2832BC	2868BC (27.2%)2803BC
				2820BC (5.0%)2810BC	2778BC (66.6%)2619BC
				2752BC (15.3%)2722BC	2607BC (1.0%)2600BC
				2701BC (33.9%)2632BC	2593BC (0.7%)2588BC

#### [ウィグルマッピング法]

ウィグルマッピング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1年毎あるいは数年分をまとめた試料を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせることで最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、まとめた試料の中心の年代を表している。そのため試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料としてまとめた年輪数と、さらにその外側にある年輪数を考慮する必要がある。

表4 7区53号土坑覆土出土炭化材の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッピングの結果

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-21887 試料No.8	-24.42±0.12	231±18	230±20	1651AD (42.3%)1666AD	1645AD (53.7%)1670AD
				1785AD (25.9%)1795AD	1781AD (36.6%)1800AD
					1945AD (5.0%)1954AD
PLD-21888 試料No.8	-26.22±0.16	204±20	205±20	1660AD (18.6%)1676AD	1651AD (26.6%)1683AD
				1777AD (32.5%)1799AD	1737AD (6.1%)1756AD
				1941AD (17.1%)1953AD	1761AD (43.1%)1804AD
					1936AD (19.7%)1955AD
PLD-21889 試料No.8	-26.80±0.13	174±18	175±20	1669AD (14.9%)1681AD	1665AD (18.2%)1690AD
				1738AD (19.8%)1756AD	1729AD (48.5%)1785AD
				1763AD (22.0%)1781AD	1793AD (9.8%)1810AD
				1799AD (3.4%)1802AD	1925AD (19.0%)1954AD
				1938AD (8.1%)1945AD	
					最外年輪の年代

## 4. 考察

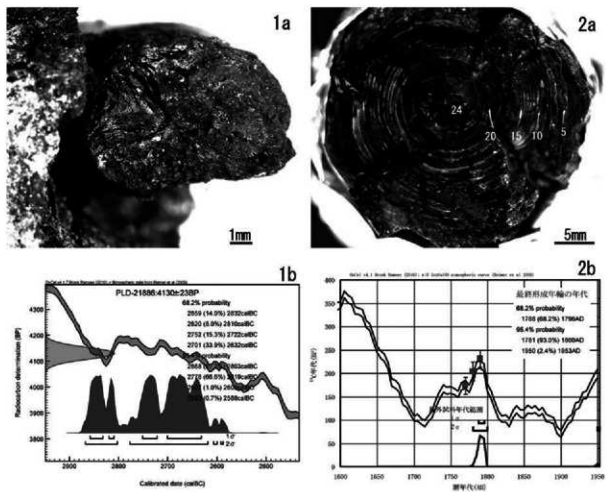
以下に、各遺構から採取された炭化材の年代測定結果について述べる。

95区53号住居跡の床面から出土した炭化材 (PLD-21887) は、2σ 暦年代範囲において、2868-2803 cal BC (27.2%)、2778-2619 cal BC (66.6%)、2607-2600 cal BC (1.0%)、2593-2588 cal BC (0.7%) であった (表3)。小林 (2008) を参照すると、確率の高い範囲は、縄文時代中期後半 (加曾利E2~E3式) に相当する。

一方、落し穴である7区53号土坑の覆土中位から出土した炭化丸木は、ウィグルマツチングを行った結果、1σ 暦年代範囲において1790-1798 cal AD (68.2%) であった (表4の最外年輪の年代に2年を加算して最終形成年輪部の年代を示す)。これは18世紀後半~末の年代であり、調査知見による推定時期である平安時代以降と矛盾はない。なお、この年代は浅間火山天明泥流 (1783年) が発生した時期の直後にあたる。

## 参考文献

- Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43 (2A), 381-389.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
- 小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・丸野健一編『縄文時代の考古学2 歴史のものさし』: 257-269. 同成社.
- 中村復夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編『日本先史時代の<sup>14</sup>C年代』: 3-20. 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, L., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.



図版 1 年代測定試料と暦年較正およびウィグルマッチング結果

1a. 試料No. 1 の炭化材 (4 年輪分を測定)

2a. 試料No. 8 の炭化材 (1-5y, 11-15y, 21-24y の 3 点のウィグルマッチング、数字 : 年輪数)

1b. 試料No. 1 の暦年較正結果 2b. 試料No. 8 のウィグルマッチング結果



## 遺構中の軽石分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

長野原一本松遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松に所在する、縄文時代中期および平安時代以降の遺跡である。南には吾妻川を臨む上位段丘上に位置する。調査では、平安時代以降の落し穴と縄文時代中期の埋裏内から軽石が検出された。ここでは、これらの軽石について、軽鉱物と重鉱物組成の分析、火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定を行った。

## 2. 試料と分析方法

試料は、平安時代以降の落し穴である7区53号土坑と縄文時代中期の95区3号埋裏内から検出された軽石の2試料である(表1、図版1-1a, 2a)。

表1 テフラ分析を行った軽石試料

分析No	試料No	遺 構	時 期	軽 石 の 色 調 と 特 徴
1	3	7区53号土坑	平安時代以降	淡黄色(2.5Y8/4)～灰白色(5Y8/2)～にぶい黄色(2.5Y6/3)、 やや発泡の悪い軽石、最大41mm
2	4	95区3号埋裏	縄文時代中期	淡黄色(2.5Y8/4)～浅黄色(2.5Y7/3)、 やや発泡の悪い軽石、最大45mm

分析では、各試料から典型的な色調を呈する軽石2～3個抽出し、アルミナ乳鉢で粉砕した。粉砕した試料は、1φ(0.500mm)、2φ(0.250mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)の4枚を重ねた篩で湿式篩分けを行った。4φ篩残液の一部について、重液(テトラブromoエタン、比重2.96)を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。

重液分離した軽鉱物は、プレバートを作製し、町田・新井(2003)の分類基準に従って火山ガラスの形態分類を行った。また重鉱物は、プレバートを作製して単斜輝石(Cpx)、斜方輝石(Opx)、磁鉄鉱(Mag)を同定・計数した。

4φ篩残液の火山ガラスは、横山ほか(1986)に従って、温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率を測定した。また、重鉱物中の斜方輝石(Opx)は、横山・山下(1986)に従って屈折率を測定した。

## 3. 分析結果

以下に、各軽石試料の火山ガラスの形態的特徴、重鉱物組成、屈折率測定結果について述べる。

表2 軽石の篩分けおよび重液分離の結果

分析No	試料No	重量(g)	篩 分 け (g)					重液分離(g)	
			1φ	2φ	3φ	4φ	<4φ	重鉱物	軽鉱物
1	3	11.8	0.0172	0.2858	2.8948	1.8470	6.7552	0.0174	0.1731
2	4	16.2	0.0543	0.6063	1.8418	1.4790	12.2186	0.0228	0.1990

[分析No.1:試料No.3(7区53号土坑中の軽石)]

検出された軽石は、淡黄色(2.5Y8/4)～灰白色(5Y8/2)～にぶい黄色(2.5Y6/3)であり、やや発泡の悪い軽石であった。分析は、淡黄色と灰白色の軽石2個について行った。

重液分離した結果、軽鉱物が0.1731 g、重鉱物が0.0174 gであり、重鉱物の含有量は比較的多かった(表2)。

4φ篩残渣の火山ガラスでは、軽石型スポンジ状ガラス(p2)や軽石型繊維状ガラス(p1)が多く、バブル(泡)型Y字状ガラスも含まれていた。重鉱物は、単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、磁鉄鉱(Mag)も含まれていた(表3)。

火山ガラスの屈折率測定では、範囲(range):1.4981-1.5032でやや広く、平均値(mean):1.5010であった(図1)。また、斜方輝石(Opx)の屈折率測定では、範囲(range):1.7028-1.7090、平均値(mean):1.7060であった。

表3 軽石のガラスの形態分類と鉱物組成の結果

試料No.	軽鉱物(粒数)										重鉱物(粒数)							合計
	雲母(Bt)	石英(Qtz)	長石(Pf)	不明(OPq)	火山ガラス					合計	単斜輝石(Cpx)	斜方輝石(Opx)	角閃石(Hor)	磁鉄鉱(Mag)	カンラン石(Oil)	不明(OPq)	合計	
					平板状(Bt)	Y字状(Bs)	繊維状(p1)	スポンジ状(p2)	綿糸型(c0)									
1	-	-	83	2	-	4	31	81	1	-	202	62	87	-	53	-	1	203
2	-	-	42	1	-	7	14	140	-	-	204	53	88	-	60	-	-	201

[分析No.2:試料No.4(95区3号埋裏中の軽石)]

検出された軽石は、淡黄色(2.5Y8/4)～浅黄色(2.5Y7/3)であり、やや発泡の悪い軽石であった。分析は、淡黄色の軽石3個について行った。

重液分離した結果、軽鉱物が0.1990 g、重鉱物が0.0228 gであり、重鉱物の含有量は比較的多かった(表2)。

4φ篩残渣の火山ガラスでは、軽石型スポンジ状ガラスが最も多く、次いで軽石型繊維状ガラス(p1)やバブル(泡)型Y字状ガラスも含まれていた。重鉱物は、単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、磁鉄鉱(Mag)も含まれていた(表3)。

火山ガラスの屈折率測定では、範囲(range):1.5029-1.5052、平均値(mean):1.5041であった。また、斜方輝石(Opx)の屈折率測定では、範囲(range):1.7041-1.7111、平均値(mean):1.7086であった(図1)。

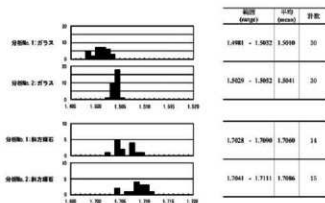


図1 軽石ガラス斜方輝石の屈折率測定結果

#### 4. 考察

2遺構から採取された軽石を分析した結果、火山ガラスの形態分類に違いが見られた。一方、火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率も異なっていた。

以下に、各遺構から検出された軽石の特徴と候補のテフラについて詳細を述べる。

分析No.1(7区53号土坑中の軽石)は、重鉱物が単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、ガラスの屈折率が1.4981-1.5032、斜方輝石の屈折率が1.7028-1.7090であった。これは、浅間火山から噴出した浅間小諸2テフラ(As-Km2:火山ガラスの屈折率1.501-1.503、斜方輝石の屈折率1.708-1.711)、浅間小諸1テフラ(As-Km1:火山ガラスの屈折率1.501-1.503、斜方輝石の屈折率1.708-1.713)、浅間草津テフラ(As-K:火山ガラスの屈折率1.501-1.503、斜方輝石の屈折率1.707-1.712)の更新世の浅間火山テフラの屈折率特性に

近い(町田・新井,2003)。

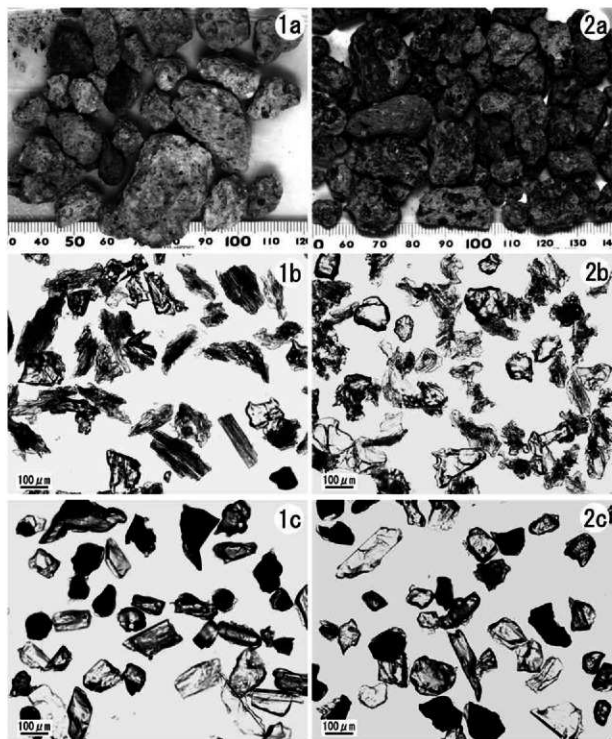
町田・新井(2003)によれば、浅間小諸2テフラ(As-Km2)と浅間小諸1テフラ(As-Km1)は、火山南側に流れ下った火砕流堆積物である。一方、浅間草津テフラ(As-K)は、1.5~1.65万年前の降下軽石や火砕流堆積物からなり、北(東)方向に200kmまで及んだテフラである。このテフラは、比較的遺跡に近い分布範囲であるため、53号土坑中の軽石の起源テフラは浅間草津テフラ(As-K)である可能性が高い。分析No.2(95区3号埋裏中の軽石)は、重鉱物が単斜輝石(Cpx)と斜方輝石(Opx)からなり、ガラスの屈折率が1.5029-1.5052、斜方輝石の屈折率が1.7041-1.7111であった。したがって、浅間板鼻黄色テフラ(As-YP:火山ガラスの屈折率1.501-1.505、斜方輝石の屈折率1.707-1.712)の可能性もある。このテフラは、1.5~1.65万年前の降下軽石や火砕流堆積物からなり、東(南)東方向70kmまで及んだ。

## 5. おわりに

平安時代以降の落し穴である7区53号土坑と縄文時代中期の95区3号埋裏内から検出された軽石について、鉱物組成および屈折率測定を行った。その結果、分析No.1(7区53号土坑中の軽石)は、重鉱物組成や屈折率測定結果および分布域から、1.5~1.65万年前に噴出した浅間草津テフラ(As-K)の可能性が高いと考えられた。一方、分析No.2(95区3号埋裏中の軽石)は、重鉱物組成と屈折率測定結果から、1.5~1.65万年前に噴出した浅間板鼻黄色テフラ(As-YP)の可能性があると考えられた。

### 参考・引用文献

- 町田 洋・新井 剛夫(2003) 新編火山灰アトラス, 336p. 東京大学出版会.  
 横山卓雄・榎原 徹・山下 透(1986) 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定, 第四紀研究, 25, 21-30.  
 横山卓雄・山下 透(1986) 温度変化型屈折率測定装置(RIMS-86)による斜方輝石・角閃石の屈折率測定の試み, 京都大学教養部報告(九十九地学), 21, 30-36.



図版1 各遺構から検出された軽石と4φ残渣中の軽鉱物および重鉱物の顕微鏡写真  
1a. 7区53号土坑の軽石(分析No.1) 2a.95区3号埋壙の軽石(分析No.2)  
1b. 4φ残渣中の軽鉱物(分析No.1) 2b. 4φ残渣中の軽鉱物(分析No.2)  
1c. 4φ残渣中の重鉱物(分析No.1) 2c. 4φ残渣中の重鉱物(分析No.2)

## 長野原一本松遺跡から出土した炭化種実

佐々木由香・バンドリ スダルシャン（バレオ・ラボ）

## 1. はじめに

長野原一本松遺跡は群馬県吾妻郡長野原町に位置し、南に吾妻川を臨む上位段丘上に立地する縄文時代と平安時代の集落遺跡である。ここでは、縄文時代中期後半と平安時代の竪穴住居跡で得られた炭化種実の同定を行い、利用植物について検討した。

## 2. 試料と方法

試料は、発掘調査現場にて目視で取り上げられた10試料である。試料の内訳は、95区13号住居跡の覆土出土が1試料と25号住居跡の床面出土が5試料、1号埋裏の覆土出土が1試料、6区22号住居跡の床面出土が2試料、7区1号住居跡の2号が出土が1試料である。試料の時期は、7区1号住居跡が平安時代（10世紀後半）の他は、縄文時代中期後半である。住居跡はいずれも焼失住居跡ではない。

計数の方法は完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。試料は、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

## 3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ炭化核とクリ炭化子葉、コナラ属クヌギ節（以下クヌギ節）炭化子葉、コナラ属コナラ節コナラ型（以下コナラ型）炭化子葉、コナラ属コナラ節ミズナラ-ナラガシワ型（以下ミズナラ-ナラガシワ型）炭化子葉、コナラ属炭化子葉、ウメ炭化核の7分類群が見いだされた（表1）。

表1 長野原一本松遺跡から出土した炭化種実（括弧は破片を示す）

分類群	試料No.	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		95							6		7
	遺跡名	13住	25住					1号埋裏	22住		1住
	出土位置	覆土	床面					覆土	床面		2号跡
	時期	縄文時代中期後半						平安時代			
オニグルミ	炭化核	(5)									
クリ	炭化子葉								(1)	1	
コナラ属クヌギ節	炭化子葉				(1)						
コナラ属コナラ節コナラ型	炭化子葉						1				
コナラ属コナラ節ミズナラ-ナラガシワ型	炭化子葉		(1)	(1)							
コナラ属	炭化子葉							(1)			
ウメ	炭化核										1

以下に、炭化種実の出土傾向を遺構別に記載する。

95区13号住居跡：オニグルミ破片が5点得られた。割れる前は完形の2分の1程度の大きさであったと推定される。

95区25号住居跡：クヌギ節破片が1点とコナラ型完形が1点、ミズナラ-ナラガシワ型完形が1点と破片が2点得られた。

95区1号埋裏：コナラ属破片が1点得られた。

6区22号住居跡：クリ完形が1点と破片が1点得られた。

7区1号住居跡：ウメ完形が1点得られた。

次に、炭化種実の記載を行い、写真を示して同定の根拠とする。コナラ属子葉の同定方法については、小

畑 (2011) に基づいて行った。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 炭化核 クルミ科  
破片であるが、完形ならば側面観は広卵形。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。浅い溝と凹凸が不規則に入る。割れている破断面は角が尖るものが多い。最大で残存長26.5mm、残存幅25.2mm、残存厚12.3mm。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉 ブナ科  
側面観は広卵形。表面にはしわ状の溝が一面にある。しわ以外の面は平坦。やや光沢があり、硬質。長さ13.5mm、幅17.7mm、厚さ9.2mm。

(3) コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* 炭化子葉 ブナ科  
半分のみが残存であるが、完形ならば球形に近い円柱形。上下端は平坦。下端中央に浅い窪みがある。突出部は短い円錐状。縦方向に浅い皺がある。破片で鱗の形状が観察できずクスギかアベマキかの識別ができなかったため、クスギ節の同定に留めた。高さ14.8mm、幅13.4mm。

(4) コナラ属コナラ節コナラ型 *Quercus serrata* Murray type 炭化子葉 ブナ科  
半分のみが残存であるが、完形ならば長卵形。下端部は平坦で、中央に浅い窪みがある。高さのほぼ中央に最大幅がある。縦方向に浅い皺がある。高さ15.6mm、幅10.7mm。

(5) コナラ属コナラ節ミズナラ-ナラガシワ型 *Quercus crispula* Blume - *Quercus aliena* Blume type  
炭化子葉 ブナ科  
下半部が太い広卵形で、高さの中央部よりもやや下方に最大部がある。上下端部はやや平坦で、平坦部の面積がコナラ型よりも広い。下端部の中央に浅い窪みがある。図版1-6は肩が張り、ナラガシワに近いが、全体的に小さくナラガシワ未熟果の可能性もある。図版1-5は高さ16.8mm、幅12.2mm、図版1-6は高さ12.9mm、幅10.2mm。

(6) コナラ属 *Quercus* spp. 炭化子葉 ブナ科  
破片であるが、完形は卵形ないし広卵形、円柱状を呈すると考えられる子葉の破片をコナラ属とした。破片のため、亜属以下の同定ができなかった。

(7) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 炭化核バラ科  
上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。表面には不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。長さ13.8mm、幅10.9mm、厚さ8.6mm。

#### 4. 考察

縄文時代中期後半の住居跡3軒と埋裏1基、平安時代(10世紀後半)の住居跡1軒から得られた炭化種実を検討したところ、遺構によって異なる種実が得られた。

縄文時代では、95区13号住居跡からオニグルミが得られた。オニグルミの核を食用のために割って子葉を取り出した後、不要な核を燃やした残渣が覆土中に堆積した可能性がある。95区25号住居跡の床面からは、クスギ節とコナラ型、ミズナラ-ナラガシワ型が得られた。少なくとも3種の異なる食用可能なドングリ類が堆積しており、当時食用にされた種実の情報として重要である。いずれも食用にあたってアク抜きが必要な種である。6区22号住居跡からはクリが得られた。これらの炭化子葉は炉の周辺からまとまって出土しており、貯蔵されていたものまたは加工中のものが何らかの要因で炭化した可能性、あるいは炉にあった炭化子葉が周辺に散った可能性などが考えられる。

95区1号埋裏の土器内の覆土からはコナラ属が得られたが、破片のため亜属以下は不明であった。埋裏と

の関係は不明である。

平安時代（10世紀後半）の7区1号住居跡の2号炉からは、栽培植物のウメが得られた。食用後、不要な核を炉に入れて燃やしたと考えられる。

種実はいずれも残存状態が良好であった。今後、土壌に含まれる微細な種実と合わせて検討すれば、当時の食用植物の詳細がより明らかになると期待される。

引用文献

小畑弘己（2011）東北アジア古民族植物学と縄文農耕。320p、同成社。



スケール 1-7:5mm

図版1 長野原一本松遺跡から出土した炭化種実

1. オニグルミ炭化核 (No. 11)、2. クリ炭化子葉 (No. 18)、3. コナラ属クヌギ節炭化子葉 (No. 14)、4. コナラ属コナラ節コナラ型炭化子葉 (No. 16)、5. コナラ属コナラ節ミズナラーナラガシワ型炭化子葉 (No. 12)、6. コナラ属コナラ節ミズナラーナラガシワ型炭化子葉 (No. 15)、7. ウメ炭化核 (No. 20)



## 長野原一本松遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

## 1. はじめに

長野原一本松遺跡で住居跡や陥し穴から出土した炭化材の樹種同定を行なった。なお、試料の一部を用いて、放射性炭素年代測定およびウィグルマッチング法による放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

## 2. 試料と方法

試料は、竪穴住居跡である95区53号住居跡から1点、陥し穴である7区53号土坑から6点、95区108号土坑から1点の、計8点の出土炭化材である。出土遺物から、95区53号住居跡は縄文時代中期、7区53号土坑と95区188号土坑は平安時代以降の遺構と考えられている。なお、放射性炭素年代測定の結果によれば、95区53号住居跡の炭化材は縄文時代中期後葉の年代、7区53号土坑の炭化材は近世の年代を示した。確認できる試料について、残存半径と残存年輪数の計測を行なった。残存半径は、試料で残存する半径を直接計測し、残存年輪数は残存半径内の年輪数を計測した。

炭化材の樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリと手で断面を作成し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後、イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子㈱製 JSM-5900LV）にて鏡検および写真撮影を行った。

## 3. 結果

同定の結果、針葉樹ではスギ1分類群、広葉樹ではクリとカキノキ属の2分類群、単子葉ではイネ科1分類群の、計4分類群が産出した。イネ科が最も多く4点みられ、クリが2点、スギとカキノキ

表1 長野一本松遺跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種	時期	縄文時代中期		平安時代以降		合計
	遺構	95区53号住居跡	7区53号土坑	95区108号土坑	合計	
スギ			1		1	
クリ		1		1	2	
カキノキ属			1		1	
イネ科			4		4	
	合計	1	6	1	8	

属が各1点であった。年輪数の計測では、試料No.5のクリは残存半径1.3cm内に13年輪、試料No.8のスギは残存半径1.8cm内に24年輪、試料No.9のカキノキ属は残存半径0.8cm内に3年輪がみられた。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don スギ科 図版1 1a-1c (No.8)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ1～4列となる。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に普通2個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

(2) クリ *Castanea crenata* Siebold, et Zucc. ブナ科 図版1 2a-2c (No.5)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では径を徐々に減じた道管が火災状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(3) カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 図版1 3a-3c (No.9)

厚壁の中型の道管が単独ないし2～3個複合し、疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1～4列が直立する異性で、1～2列となる。また放射組織は層附状となる。

カキノキ属には栽培種のカキノキや野生種のトキワガキなどがある。日本に自生するトキワガキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布するため、この材は栽培種のカキノキの可能性が高い。カキノキは落葉の小高木～高木の広葉樹であり、材はやや重硬で韌性がある。

(4) イネ科 Gramineae 図版1 4a (No.6), 5a (No.7), 6a (No.10)

向軸側の原生木部、その左右の2個の後生木部、背軸側の篩部の三つで構成される維管束が散在する、単子葉植物の程である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は比較的薄い。

イネ科はタケ亜科やキビ亜科など、7亜科がみられる単子葉植物であるが、対照標本が少なく、同定に至っていない。

#### 4. 考察

縄文時代中期の竪穴住居跡である95区53号住居跡の炭化材はクリであった。材の用途については、建築材や燃料材の残渣などが考えられるが、詳細は不明である。クリは重硬で強靱な材質で建築材にも適しており、燃料材としても長時間燃焼する(伊東ほか, 2011)、有用材である。

長野原一本松遺跡の以前の調査で行われた樹種同定では、縄文時代後期の住居跡5区60号住居跡の61点中60点がクリで、1点がタケ亜科であったと報告されている(植田, 2008)。また、長野原一本松遺跡とは離れるが、洗川市の行幸田山遺跡では、縄文時代中期の住居跡出土炭化材からクリが3点、ケンボナシが1点産出している(山田, 1993)。このように、群馬県内では縄文時代中期や後期には建築材にクリを多く利用する傾向がみられる。埼玉県の大宮台地や青森県の青森平野では、縄文時代前期から後期の集落において人為的な植生改変が行われ、クリ林が管理されていたことが示唆されており(鈴木, 2002; Noshiro and Suzuki, 2006)、クリが有用材として多く利用されていた。長野原一本松遺跡でも周辺にクリが多く生育していた、または周辺の森林からクリを選んで伐採していた、などの可能性が考えられる。

平安時代以降の陥し穴である7区53号土坑では、イネ科が4点、スギとカキノキ属が各1点、同じく平安時代以降の95区108号土坑ではクリが1点産出した。7区53号土坑の炭化材は土坑の中層から出土しており、陥し穴内の仕掛け、または遺構の埋没過程で廃棄された炭化材などの可能性があるが、詳細は不明である。また、95区108号土坑の炭化材も同様に、材の用途は不明である。

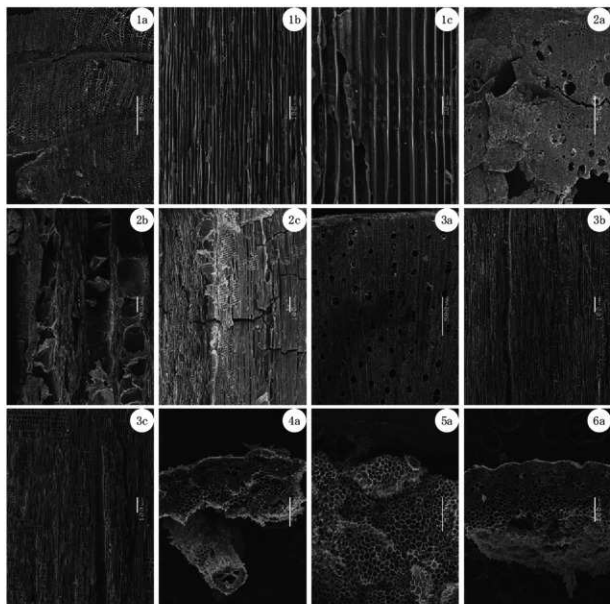
試料No.9のカキノキ属は、前述のように栽培種であるカキノキの可能性が高い。カキノキの果実は食用となるため、遺跡周辺では平安時代以降にカキノキが栽培されていた可能性がある。

## 引用文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳 (2011) 日本有用樹木誌, 238p. 青海社.
- Noshiro, S., Suzuki, M. (2006) Utilization of forest resources in the early Jomon period at and around the Sannai-maruyama site in Aomori Prefecture, northern Japan. 辻 誠一郎・能城修一編「植生史研究 特別第2号」: 83-100. 日本植生史学会.
- 鈴木三男 (2002) 日本人と木の文化. 255p. 八坂書房.
- 植田弥生 (2008) 長野原一本松遺跡住居跡出土炭化材の樹種同定. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「長野原一本松遺跡④」: 269-275. 群馬県埋蔵文化財調査事業団.
- 山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史, 242p. 植生史研究 特別第1号.

付表1 長野一本松遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料No.	遺構名	遺構の種類	樹種	残存半径 (cm)	残存年輪数	備考	年代測定番号	時期
1	95K53号住居跡	竪穴住居跡	クリ	—	—		PLD-21886	縄文時代中期
2	7K53号土坑	陥し穴	イネ科	—	—	直径0.7cm 中実		平安時代以降
5	95K188号土坑	陥し穴	クリ	1.3	13			
6	7K53号土坑	陥し穴	イネ科	—	—			
7			イネ科	—	—	直径0.9cm 中実		
8			スギ	1.8	24		PLD-21887~21889	
9			カキノキ属	0.8	3			
10			イネ科	—	—	直径1.1cm 中実		



図版1 長野原一本松遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c.スギ(No.8)、2a-2c.クリ(No.5)、3a-3c.カキノキ属(No.9)、4a.イネ科(No.6)、5a.イネ科(No.7)、6a.イネ科(No.10)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

## 報告書抄録

書名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせきかっころく
書名	長野原一本松遺跡(6)
副書名	ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	40
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	554
編著者名	小野和之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20130325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせき
遺跡名	長野原一本松遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおざいっぼんまつ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字一本松
市町村コード	10424
遺跡番号	0063
北緯(日本測地系)	363241
東経(日本測地系)	1383914
北緯(世界測地系)	363252
東経(世界測地系)	1383902
調査期間	20040410-20041225
調査面積	16,698㎡
調査原因	ダム建設工事に伴う代替地造成工事
種別	集落
主な時代	縄文/平安/中・近世
遺跡概要	集落-縄文-住居62+掘立柱建物跡7+埋壘5+炉1+土坑+配石1-土器+石器/平安-土坑-土器+石器+鉄製品/中世-陶磁器+銭/近世-土坑-陶磁器-鉄製品+銭
特記事項	本書はハツ場ダム建設工事に伴い平成16年度に調査が実施された、長野原一本松遺跡の報告である。検出された遺構・遺物は縄文時代を中心とし、中期後半から後期の大規模集落である。竪穴住居62軒の他、掘立柱建物跡、土坑、埋壘、配石等が大量の遺物を伴い検出された。集落は径約90mの環状を構成しており、群馬県北西部における拠点集落として注目される。また、出土土器は隣接地域との共通性を強く示している。

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第554集

## 長野原一本松遺跡(6)

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第40集 一本文編一

平成25 (2013) 年3月18日 印刷

平成25 (2013) 年3月25日 発行

編集・発行／公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784-2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

URL <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社



公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第554集

# 長野原一本松遺跡(6)

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第40集

— 写真図版編 —

2013

国 土 交 通 省  
公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





# 図 版 目 次

PL. 1	5・95区全景（南側上空より）	5-156号住居跡遺物出土状態（南より）
	5・95区全景（西側上空より）	5-156号住居跡入り口部立石（南より）
PL. 2	5・95区調査区全景（上空より）	5-156号住居跡全景立石存り（南より）
	5・95区調査区全景（上空より）	5-156号住居跡全景（南より）
PL. 3	5・95区調査前風景（北より）	5-156号住居跡がセクション（南より）
	5・95区調査前風景（北より）	5-156号住居跡が遺物出土状態（南より）
	5・95区西側部分1面全景（北より）	5-156号住居跡掘方全景（南より）
	5・95区西側部分2面全景（北より）	PL.12
	5区・95区西側全景（東より）	95-5号住居跡遺物出土状態（南より）
	95区全景（南より）	95-5号住居跡全景（南東より）
	5・95区全景（北より）	95-5号住居跡2号がセクション（南より）
	95区南および谷地部（西より）	95-5号住居跡が全景（南東より）
PL. 4	5-8号住居跡遺物出土状態（東より）	95-5号住居跡掘方全景（南東より）
	5-8号住居跡掘方全景（南東より）	95-12号住居跡遺物出土状態（南東より）
	5-8号住居跡埋蔵検出状況（南より）	95-12号住居跡遺物出土状態（南東より）
	5-8号住居跡埋蔵セクション（南より）	PL.13
	5-146号住居跡全景（南より）	95-12号住居跡埋蔵セクション（南より）
	5-146号住居跡がセクション（東より）	95-12号住居跡埋蔵石出土状態（南東より）
	5-146号住居跡がセクション（南より）	95-12号住居跡全景（南東より）
	5-146号住居跡埋蔵検出状況（南より）	95-12号住居跡が全景（南東より）
PL. 5	5-147号住居跡遺物出土状態（南より）	95-12号住居跡掘方全景（南東より）
	5-147号住居跡全景（南より）	95-13号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-147号住居跡遺物出土状態（南より）	95-13号住居跡全景（南より）
	5-147号住居跡が全景（東より）	PL.14
	5-148号住居跡遺物出土状態（南より）	95-13号住居跡が全景（東より）
	5-148号住居跡掘方全景（南より）	95-13号住居跡が掘方（南より）
	5-148号住居跡埋蔵検出状況（南より）	95-13号住居跡掘方全景（南より）
	5-148号住居跡埋蔵セクション（東より）	95-14号住居跡遺物出土状態（南より）
PL. 6	5-148号住居跡がセクション（南より）	95-14号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-148号住居跡がセクション（南より）	95-14号住居跡が全景（南より）
	5-149号住居跡遺物出土状態（南東より）	95-14号住居跡が体土器（南より）
	5-149号住居跡遺物出土状態（南東より）	PL.15
	5-149号住居跡遺物出土状態（南東より）	95-14号住居跡全景（南より）
	5-149号住居跡遺物出土状態（南東より）	95-14号住居跡掘方全景（南より）
	5-149号住居跡遺物出土状態（南東より）	95-15号住居跡遺物出土状態（南東より）
	5-149号住居跡遺物出土状態（南東より）	95-15号住居跡全景（南より）
PL. 7	5-149号住居跡が全景（南東より）	95-15号住居跡が遺物出土状態（南より）
	5-150号住居跡遺物出土状態（東より）	95-15号住居跡がセクション（南より）
	5-150号住居跡遺物出土状態（東より）	95-15号住居跡埋蔵（南西より）
	5-150号住居跡遺物出土状態（東より）	95-15号住居跡掘方全景（南より）
	5-150号住居跡遺物出土状態（東より）	PL.16
	5-150号住居跡遺物出土状態（東より）	95-16号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-150号住居跡遺物出土状態（東より）	95-16号住居跡掘方全景（南より）
	5-150号住居跡内土坑セクション（北東より）	95-16号住居跡が遺物出土状態（南より）
	5-150号住居跡内土坑全景（北より）	95-16号住居跡掘方全景（南より）
	5-150号住居跡がおよび土坑全景（南より）	95-17号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-150号住居跡がセクション（西より）	95-17号住居跡掘方全景（南より）
PL. 8	5-151号住居跡掘方全景（南東より）	95-17号住居跡がセクション（南より）
	5-151号住居跡がセクション（南より）	95-17号住居跡が掘方全景（南より）
	5-151号住居跡がセクション（南より）	PL.17
	5-151号住居跡掘方全景（南より）	95-18号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-152号住居跡遺物出土状態（南より）	95-18号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-152号住居跡遺物出土状態（南より）	95-18号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-152号住居跡遺物出土状態（南より）	95-18号住居跡入り口部（南より）
	5-152号住居跡掘方全景（南より）	95-18号住居跡掘方全景（南より）
	5-152号住居跡がセクション（南より）	PL.18
	5-152号住居跡がセクション（南より）	95-18号住居跡が遺物出土状態（南西より）
PL. 9	5-153号住居跡遺物出土状態（南より）	95-18号住居跡がセクション（南より）
	5-153号住居跡が遺物出土状態（南東より）	95-18号住居跡掘方全景（南西より）
	5-153号住居跡が体土器セクション（東より）	95-19号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-154号住居跡遺物出土状態（南より）	95-19号住居跡が遺物出土状態（南東より）
	5-154号住居跡掘方全景（南より）	95-19号住居跡が遺物出土状態（南東より）
	5-154号住居跡掘方全景（南より）	95-19号住居跡が、右組み道溝敷石除去後（南より）
	5-154号住居跡が体土器（東より）	PL.19
PL.10	5-155号住居跡遺物出土状態（南より）	95-19号住居跡掘方全景（南より）
	5-155号住居跡遺物出土状態（南より）	95-19号住居跡遺物出土状態（南東より）
	5-155号住居跡遺物出土状態（南より）	95-19号住居跡石組み道溝敷石（南より）
	5-155号住居跡掘方全景（南より）	95-19号住居跡陶器状態近景（南より）
	5-155号住居跡が石柱出土状態（南より）	PL.20
	5-155号住居跡が体土器（南より）	95-20号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-155号住居跡埋蔵セクション（南より）	95-20号住居跡遺物出土状態（南より）
	5-155号住居跡掘方全景（南より）	95-20号住居跡掘方全景（南より）
PL.11	5-156号住居跡遺物出土状態（南より）	95-20号住居跡埋蔵上部セクション（南より）

	95-20号住居跡埋蔵検出状況（南より）	95-41号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-20号住居跡埋蔵全景（東より）	95-41号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-20号住居跡埋蔵下土器・石出土状態（東より）	95-41号住居跡遺物出土状態（南より）
PL-21	95-21号住居跡全景（北より）	95-41号住居跡全景（南より）
	95-22号住居跡がセクション（東より）	95-41号住居跡が遺物出土状態（南東より）
	95-22号住居跡が全景（南より）	95-41号住居跡が全景（南東より）
	95-22号住居跡が体土器出土状態（南より）	PL-31
	95-22号住居跡全景（南より）	95-42号住居跡遺物出土状態（南より）
PL-22	95-23号住居跡遺物出土状態（南より）	95-42号住居跡全景（南より）
	95-23号住居跡が体土器出土状態（南より）	95-43号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-23号住居跡遺物出土状態（南より）	95-43号住居跡全景（南より）
	95-23号住居跡全景（南より）	95-44号住居跡遺物出土状態（東より）
	95-24号住居跡遺物出土状態（南より）	95-44号住居跡全景（南より）
	95-24号住居跡全景（南より）	95-44号住居跡が全景（南西より）
	95-24号住居跡がセクション（南より）	95-44号住居跡が体土器（南より）
	95-24号住居跡が全景（南より）	PL-32
PL-23	95-25号住居跡遺物出土状態（東より）	95-45号住居跡がセクション（東より）
	95-25号住居跡全景（東より）	95-45号住居跡全景（南より）
	95-25号住居跡が遺物出土状態（南より）	95-46号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-25号住居跡が全景（東より）	95-46号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-26号住居跡遺物出土状態（東より）	95-46号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-26号住居跡遺物出土状態（東より）	95-46号住居跡が全景（東より）
	95-26号住居跡全景（南より）	95-46号住居跡が全景（南東より）
PL-24	95-26号住居跡が遺物出土状態（南より）	PL-33
	95-27号住居跡遺物出土状態（南より）	95-47号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-27号住居跡全景（南より）	95-47号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-27号住居跡がセクション（東より）	95-47号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-27号住居跡が体土器（南より）	95-47号住居跡集石出土状態（南より）
	95-28号住居跡全景（東より）	95-47号住居跡全景（南より）
	95-29号住居跡遺物出土状態（東より）	PL-34
	95-29号住居跡全景（南より）	95-47号住居跡遺物出土状態（東より）
PL-25	95-29号住居跡が全景（東より）	95-47号住居跡が全景（南より）
	95-29号住居跡が体土器（南より）	95-47号住居跡が体土器（南より）
	95-19号住居跡が体土器・30号住居跡遺物出土状態（南より）	95-47号住居跡が体土器（南より）
	95-30号住居跡遺物出土状態（南より）	95-47号住居跡が体土器（南より）
	95-30号住居跡全景（南より）	95-48号住居跡遺物出土状態（南より）
PL-26	95-30号住居跡が遺物出土状態（南より）	PL-35
	95-30号住居跡2号がセクション（東より）	95-48号住居跡全景（南より）
	95-30号住居跡が全景（南より）	95-48号住居跡の埋蔵状況（西より）
	95-30号住居跡2号が埋蔵（南より）	95-48号住居跡の埋蔵状況（南より）
	95-31号住居跡全景（西より）	95-48号住居跡が全景（南より）
	95-31号住居跡が全景（南より）	95-48号住居跡の埋蔵
	95-32号住居跡全景（南より）	PL-36
	95-32号住居跡が全景（南より）	95-49号住居跡全景（南より）
PL-27	95-33号住居跡全景（東より）	95-49号住居跡が全景（南より）
	95-33号住居跡が検出状態（東より）	95-50号住居跡全景（南より）
	95-33号住居跡が内出土器セクション（東より）	95-50号住居跡が全景（南より）
	95-34号住居跡遺物出土状態（南より）	95-51号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-34号住居跡全景（南より）	95-51号住居跡全景（南より）
	95-34号住居跡が全景（南より）	95-52号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-35号住居跡遺物出土状態（南より）	95-52号住居跡全景（南より）
	95-35号住居跡全景（南より）	PL-37
PL-28	95-35号住居跡がセクション（南より）	95-53号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-35号住居跡が全景（南より）	95-53号住居跡遺物出土状態（南東より）
	95-36号住居跡全景（東より）	95-53号住居跡が体土器出土状態（南東より）
	95-36号住居跡が全景（南より）	95-53号住居跡全景（南より）
	95-37号住居跡遺物出土状態（北より）	95-53号住居跡がセクション（東より）
	95-37号住居跡全景（南より）	95-53号住居跡が全景（東より）
	95-38号住居跡遺物出土状態（南より）	95-53号住居跡が体土器（南西より）
	95-38号住居跡全景（南より）	95-54号住居跡遺物出土状態（南より）
PL-29	95-38号住居跡がセクション（東より）	PL-38
	95-38号住居跡が全景（南より）	95-54号住居跡出土石（南より）
	95-39号住居跡遺物出土状態（南より）	95-54号住居跡遺物出土状態（南より）
	95-39号住居跡遺物出土状態（南より）	95-54号住居跡がセクション（南より）
	95-39号住居跡全景（南より）	95-54号住居跡が体土器（南より）
	95-39号住居跡がセクション（東より）	95-54号住居跡全景（南より）
	95-39号住居跡が体土器（南より）	PL-39
	95-39号住居跡が埋蔵（南より）	95-54号住居跡内ビット全景（南より）
	95-40号住居跡遺物出土状態（南より）	95-54号住居跡が埋蔵（南より）
	95-40号住居跡全景（南より）	95-55号住居跡遺物出土状態（南東より）
PL-30	95-40号住居跡が遺物出土状態（南より）	95-55号住居跡全景（南東より）
	95-40号住居跡が埋蔵（南東より）	95-56号住居跡遺物出土状態（南より）
		95-56号住居跡遺物出土状態（北より）
		95-56号住居跡立石出土状態（南より）
		PL-40
		95-56号住居跡全景（南より）
		95-56号住居跡が南西部石種検出状況（南東より）

	95-56号住居跡が遺物出土状態 (南より)		5-5号掘立柱建物跡P-8 (5-1144号土坑) 全景 (南より)
	95-56号住居跡が全景 (南より)	PL.51	5-8号掘立柱建物跡全景 (北より)
	95-56号住居跡が掘方全景 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-1 (5-1185号土坑) セクション (南より)
PL.41	95-57号住居跡遺物出土状態 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-1 (5-1185号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡遺物出土状態 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-2 (5-1175号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡全景 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-3 (5-1166号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡入り口部平石出土状態 (西より)		5-8号掘立柱建物跡P-4 (5-1162号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡が全景 (南より)		5-8号掘立柱建物跡P-5 (5-1171号土坑) 全景 (南より)
PL.42	95-57号住居跡が掘方上坑セクション (東より)		5-8号掘立柱建物跡P-6 (5-1181号土坑) 全景 (南より)
	95-57号住居跡が掘方全景 (南より)	PL.52	95-3号掘立柱建物跡全景 (南より)
	95-58号住居跡遺物出土状態 (南東より)		95-3号掘立柱建物跡検出前状況 (南より)
	95-58号住居跡が遺物出土状態 (南より)		95-3号掘立柱建物跡全景 (南より)
	95-58号住居跡が全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡全景 (東より)
	95-58号住居跡全景 (南東より)		95-3号掘立柱建物跡がセクション (南より)
	95-59号住居跡遺物出土状態 (南より)	PL.53	95-3号掘立柱建物跡がセクション (東より)
	95-59号住居跡全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡埋裏 (95-2号埋裏) 全景 (東より)
PL.43	95-60号住居跡全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-1 (95-94号土坑) セクション (南東より)
	95-60号住居跡が全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-1 (95-94号土坑) 全景 (東より)
	5-2号掘立柱建物跡全景 (南東より)		95-3号掘立柱建物跡P-2 (95-97号土坑) セクション (東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-1 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-2 (95-97号土坑) 全景 (北東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-2 全景 (南より)	PL.54	95-3号掘立柱建物跡P-3 (95-104号土坑) 全景 (東より)
PL.44	5-2号掘立柱建物跡P-3 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-3 (95-104号土坑) セクション (北より)
	5-2号掘立柱建物跡P-4 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-4 (95-103号土坑) セクション (西より)
	5-2号掘立柱建物跡P-5 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-4 (95-103号土坑) 全景 (南より)
	5-2号掘立柱建物跡P-6 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑) セクション (東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-7 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑) セクション (東より)
	5-2号掘立柱建物跡P-8 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑) 全景 (南より)
	5-2号掘立柱建物跡P-9 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-6 (95-100号土坑) 全景 (南東より)
	5-3号掘立柱建物跡全景 (南西より)	PL.55	95-3号掘立柱建物跡P-6 (95-100号土坑) セクション (東より)
PL.45	5-3号掘立柱建物跡P-1 (95-193号ピット) セクション (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-6 (95-100号土坑) 柱痕検出状況 (東より)
	5-3号掘立柱建物跡P-2 (5-1127号土坑) セクション (南西より)		95-3号掘立柱建物跡P-7 (95-96号土坑) セクション (東より)
	5-3号掘立柱建物跡P-2 (5-1127号土坑) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-7 (95-96号土坑) 全景 (南より)
	5-3号掘立柱建物跡P-3 (5-285号ピット) セクション (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-8 (95-95号土坑) セクション (東より)
	5-3号掘立柱建物跡P-3 (5-285号ピット) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-8 (95-95号土坑) 全景 (南より)
	5-3号掘立柱建物跡P-4 (5-286号ピット) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-9 (95-105号土坑) セクション (北より)
	5-3号掘立柱建物跡P-5 (5-287号ピット) 全景 (南より)		95-3号掘立柱建物跡P-9 (95-105号土坑) 全景 (北より)
	5-3号掘立柱建物跡P-6 (5-288号ピット) 全景 (南より)	PL.56	95-4号掘立柱建物跡全景 (東より)
PL.46	5-4号掘立柱建物跡全景 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-1 (95-98号土坑) 全景 (北より)
	5-4号掘立柱建物跡内7、8号土上 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-2 (95-109号土坑) セクション (西より)
	5-4号掘立柱建物跡が、埋裏検出状況 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-2 (95-109号土坑) 全景 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡全景 (東より)		95-4号掘立柱建物跡P-4 (95-110号土坑) セクション (北東より)
	5-4号掘立柱建物跡埋裏セクション (南東より)		95-4号掘立柱建物跡P-4 (95-110号土坑) 全景 (東より)
	5-4号掘立柱建物跡埋裏全景 (南より)		95-4号掘立柱建物跡P-5 (95-265号土坑) 全景 (西より)
PL.47	5-4号掘立柱建物跡P-1 (5-1141号土坑) セクション (西より)		95-4号掘立柱建物跡P-6 (95-99号土坑) セクション (西より)
	5-4号掘立柱建物跡P-1 (5-1141号土坑) 全景 (南より)	PL.57	95-15号埋裏セクション (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-2 (5-1146号土坑) セクション (南より)		95-1号埋裏断面 (南東より)
	5-4号掘立柱建物跡P-2 (5-1146号土坑) 全景 (南より)		95-3号埋裏セクション (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-3 (5-1147号土坑) セクション (南より)		95-3号埋裏土上状況 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-3 (5-1147号土坑) 全景 (南より)		95-4号埋裏セクション (東より)
	5-4号掘立柱建物跡P-4 (5-1148号土坑) セクション (南より)		95-1号出土検出状況 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-4 (5-1148号土坑) 全景 (南より)	PL.58	95-1号焼土遺物出土状態 (南より)
PL.48	5-4号掘立柱建物跡P-5 (5-1149号土坑) セクション (南より)		95-1号焼土全景 (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-5 (5-1149号土坑) 全景 (南より)		95-1号焼土セクション (南東より)
	5-4号掘立柱建物跡P-6 (5-1145号土坑) セクション (南より)		95-1号焼土上下セクション (南より)
	5-4号掘立柱建物跡P-6 (5-1145号土坑) 全景 (南より)		95-1号焼土上下土坑遺物出土状態 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡全景 (南より)	PL.59	95-1号焼土上下土坑遺物出土状態 (南より)
PL.49	5-5号掘立柱建物跡P-1 (5-1140号土坑) セクション (南より)		95-1号焼土上下土坑全景 (東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-1 (5-1140号土坑) 全景 (南より)		95-7号焼土全景 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-2 (5-1215号土坑) セクション (南東より)		95-7号焼土セクション (西より)
	5-5号掘立柱建物跡P-2 (5-1215号土坑) 全景 (南東より)		95-10号焼土 (東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-3 (5-1216号土坑) セクション (南東より)		95-11号焼土 (南東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-3 (5-1216号土坑) 全景 (南東より)		95-12号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-4 (5-1222号土坑) セクション (南東より)		95-13号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-4 (5-1222号土坑) 全景 (南より)	PL.60	95-14号焼土 (南より)
PL.50	5-5号掘立柱建物跡P-5 (5-1218号土坑) セクション (南東より)		95-14号焼土セクション (東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-5 (5-1218号土坑) 全景 (南より)		95-15号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-6 (5-1217号土坑) セクション (南東より)		95-16号焼土 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-6 (5-1217号土坑) 全景 (南東より)		95-17号焼土セクション (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-7 (5-1219号土坑) 根巻石 (南東より)		95-17号焼土全景 (南より)
	5-5号掘立柱建物跡P-7 (5-1219号土坑) 全景 (南より)		95-1号配石全景 (東より)
	5-5号掘立柱建物跡P-8 (5-1144号土坑) セクション (南より)		

	95-2号配石セクション (西より)	PL.70	5-1220号土坑全層 (南より)
PL.61	5-99号土坑全層 (南東より)		5-1221号土坑全層 (南より)
	5-1120号土坑全層 (南より)		5-1223号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1120号土坑全層 (南より)		5-1224号土坑セクション (東より)
	5-1121号土坑全層 (北東より)		5-1224号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1123号土坑全層 (東より)		5-1225号土坑全層 (西より)
	5-1124号土坑全層 (南より)		5-1226号土坑セクション (北より)
	5-1125・1126号土坑全層 (南より)		5-1227号土坑全層 (東より)
PL.62	5-1128号土坑セクション (西より)	PL.71	5-1228号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1128号土坑全層 (南より)		5-1228号土坑全層 (東より)
	5-1129号土坑全層 (南より)		5-1229号土坑全層 (東より)
	5-1130号土坑全層 (南より)		5-1230号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1131号土坑全層 (東より)		5-1231号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1132号土坑全層 (東より)		5-1232号土坑全層 (東より)
PL.63	5-1133号土坑全層 (南より)		5-1233号土坑全層 (東より)
	5-1134号土坑全層 (南より)		5-1234号土坑全層 (東より)
	5-1135号土坑全層 (南より)	PL.72	5-1235号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1136号土坑全層 (南より)		5-1236号土坑全層 (南より)
	5-1137号土坑全層 (南より)		5-1237号土坑全層 (東より)
	5-1138号土坑遺物出土状態 (南より)		5-1238号土坑全層 (南より)
	5-1139号土坑全層 (南より)		5-1239号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1142号土坑全層 (南より)		5-1239号土坑全層 (南東より)
	5-1143号土坑全層 (南より)		5-1240号土坑全層 (南より)
PL.64	5-1150号土坑全層 (南より)		5-1241号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1151号土坑全層 (南より)	PL.73	5-1242号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1152号土坑遺物出土状態 (南より)		5-1243号土坑全層 (南より)
	5-1153号土坑全層 (南東より)		5-1244号土坑全層 (東より)
	5-1154・1155号土坑全層 (南より)		5-1245号土坑全層 (南より)
	5-1156号土坑全層 (南より)		5-1246号土坑全層 (南より)
	5-1157号土坑全層 (南より)		5-1247号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1158・1161・1162・1163号土坑全層 (南より)		5-1247号土坑全層 (東より)
PL.65	5-1159号土坑全層 (南より)		5-1248号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1160号土坑全層 (南より)	PL.74	5-1248号土坑全層 (南より)
	5-1164・1165号土坑全層 (南より)		5-1249号土坑全層 (南より)
	5-1167号土坑全層 (南より)		5-1250号土坑全層 (南より)
	5-1168号土坑全層 (南より)		5-1251号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1169号土坑全層 (南西より)		5-1252号土坑全層 (南より)
	5-1170号土坑全層 (南西より)		5-1253号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1172号土坑全層 (南より)		5-1254号土坑全層 (南より)
PL.66	5-1173・1174号土坑全層 (北西より)		5-1255号土坑全層 (東より)
	5-1176・1177号土坑全層 (南東より)	PL.75	5-1256号土坑全層 (南より)
	5-1178号土坑全層 (南より)		5-1257号土坑遺物出土状態 (南東より)
	5-1179号土坑全層 (南より)		5-1258号土坑全層 (南より)
	5-1180号土坑全層 (南より)		5-1259号土坑遺物出土状態 (東より)
	5-1182号土坑全層 (南より)		5-1260号土坑全層 (東より)
	5-1183・1184号土坑全層 (南より)		5-1261号土坑全層 (南より)
	5-1186号土坑全層 (南より)		5-1262号土坑全層 (南より)
PL.67	5-1187号土坑全層 (南より)		5-1263号土坑全層 (南より)
	5-1188号土坑全層 (南より)	PL.76	5-1264号土坑全層 (南より)
	5-1189号土坑全層 (南より)		5-1265号土坑全層 (南より)
	5-1190号土坑全層 (南より)		5-1266号土坑全層 (南より)
	5-1191号土坑全層 (南より)		5-1267号土坑全層 (南より)
	5-1192号土坑全層 (南東より)		5-1268号土坑全層 (東より)
	5-1193号土坑全層 (南より)		5-1269・1270号土坑全層 (東より)
	5-1194号土坑遺物出土状態 (東より)		5-1271号土坑全層 (南より)
PL.68	5-1194号土坑全層 (東より)		5-1272号土坑全層 (南より)
	5-1195号土坑全層 (南より)	PL.77	5-1273号土坑セクション (東より)
	5-1196号土坑全層 (東より)		5-1273号土坑全層 (南より)
	5-1197号土坑全層 (南より)		5-1274号土坑全層 (南より)
	5-1198号土坑全層 (南より)		5-1275号土坑全層 (東より)
	5-1199号土坑全層 (南より)		95-93号土坑全層 (南より)
	5-1200号土坑全層 (東より)		95-102号土坑全層 (東より)
	5-1201号土坑全層 (東より)		95-106号土坑全層 (北より)
PL.69	5-1149・1202号土坑全層 (南より)	PL.78	95-108号土坑全層 (南より)
	5-1204・1205号土坑セクション (南より)		95-111号土坑全層 (南より)
	5-1206号土坑全層 (南より)		95-112号土坑全層 (南より)
	5-1207号土坑全層 (南より)		95-113号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1208号土坑セクション (南より)		95-113号土坑遺物出土状態 (南より)
	5-1209号土坑遺物出土状態 (東より)		95-114号土坑全層 (南より)
	5-1209・1210・1211号土坑全層 (南より)		95-115号土坑全層 (南より)
	5-1214号土坑全層 (南より)		95-116号土坑全層 (南より)

PL-79	95-117・119号土坑全景 (南西より)	PL-88	95-192号土坑全景 (南より)
	95-118号土坑全景 (南より)		95-193号土坑全景 (南より)
	95-120号土坑セクション (南より)		95-194号土坑全景 (南より)
	95-121号土坑セクション (東より)		95-195号土坑全景 (南より)
	95-122号土坑全景 (南より)		95-196号土坑全景 (南より)
PL-80	95-123号土坑遺物出土状態 (東より)	PL-89	95-197号土坑全景 (南より)
	95-123号土坑全景 (東より)		95-198号土坑全景 (南より)
	95-124号土坑全景 (南より)		95-199号土坑全景 (南より)
	95-125号土坑全景 (東より)		95-200号土坑遺物出土状態 (南西より)
	95-126号土坑全景 (北より)		95-201号土坑全景 (南より)
PL-81	95-127号土坑全景 (東より)	PL-90	95-202号土坑遺物出土状態 (南より)
	95-128号土坑全景 (南より)		95-202号土坑全景 (南より)
	95-129号土坑全景 (東より)		95-203号土坑全景 (南より)
	95-130号土坑遺物出土状態 (南より)		95-204号土坑全景 (南より)
	95-131号土坑遺物出土状態 (南より)		95-205号土坑全景 (南より)
PL-82	95-131号土坑全景 (南より)	PL-91	95-206号土坑全景 (西より)
	95-132号土坑全景 (南より)		95-207・208・209号土坑遺物出土状態 (南より)
	95-133・134号土坑全景 (南より)		95-208号土坑全景 (南より)
	95-135号土坑全景 (東より)		95-210号土坑セクション (南より)
	95-136号土坑全景 (南より)		95-211号土坑遺物出土状態 (南より)
PL-83	95-137号土坑遺物出土状態 (東より)	PL-92	95-212号土坑遺物出土状態 (西より)
	95-137号土坑全景 (西より)		95-212号土坑全景 (東より)
	95-138号土坑セクション (東より)		95-213号土坑全景 (西より)
	95-139号土坑全景 (南より)		95-214号土坑セクション (西より)
	95-140号土坑全景 (南より)		95-214号土坑全景 (南より)
PL-84	95-141号土坑全景 (東より)	PL-93	95-215号土坑全景 (南より)
	95-142号土坑遺物出土状態 (南より)		95-216号土坑遺物出土状態 (南より)
	95-143号土坑セクション (南より)		95-216号土坑全景 (南より)
	95-144号土坑セクション (南より)		95-217号土坑石棒出土状態 (東より)
	95-145号土坑セクション (南より)		95-218号土坑全景 (南より)
PL-85	95-146号土坑セクション (南より)	PL-94	95-219号土坑全景 (南より)
	95-147号土坑セクション (南より)		95-220号土坑全景 (南より)
	95-148号土坑全景 (南より)		95-222号土坑全景 (東より)
	95-149号土坑全景 (南より)		95-223号土坑全景 (南より)
	95-150号土坑全景 (南より)		95-224号土坑セクション (東より)
PL-86	95-151号土坑全景 (南より)	PL-95	95-225号土坑セクション (南より)
	95-152号土坑全景 (南より)		95-226号土坑セクション (南より)
	95-153号土坑全景 (南より)		95-227号土坑セクション (南より)
	95-154号土坑遺物出土状態 (西より)		95-224～227号土坑全景 (南より)
	95-155・156号土坑全景 (南より)		95-228号土坑全景 (東より)
PL-87	95-157号土坑全景 (東より)	PL-96	95-229号土坑全景 (東より)
	95-159号土坑全景 (東より)		95-230号土坑セクション (西より)
	95-160号土坑全景 (南より)		95-230号土坑遺物出土状態 (東より)
	95-161号土坑全景 (南より)		95-230号土坑全景 (南より)
	95-162号土坑全景 (東より)		95-231号土坑全景 (南より)
PL-88	95-163・164号土坑全景 (南より)	PL-97	95-232号土坑遺物出土状態 (南西より)
	95-165号土坑全景 (南より)		95-233号土坑全景 (東より)
	95-166号土坑遺物出土状態 (南より)		95-234号土坑セクション (北より)
	95-166号土坑全景 (南より)		95-234号土坑全景 (東より)
	95-167号土坑全景 (南より)		95-235号土坑全景 (東より)
PL-89	95-168号土坑遺物出土状態 (南より)	PL-98	95-236号土坑セクション (東より)
	95-168号土坑全景 (南より)		95-237号土坑セクション (東より)
	95-169号土坑全景 (南より)		95-238号土坑全景 (東より)
	95-170号土坑全景 (北より)		95-239号土坑遺物出土状態 (南より)
	95-171号土坑全景 (南より)		95-239号土坑全景 (南より)
PL-90	95-172号土坑全景 (西より)	PL-99	95-240号土坑全景 (南より)
	95-173号土坑セクション (北より)		95-241号土坑全景 (南より)
	95-174号土坑全景 (北より)		95-243号土坑全景 (南より)
	95-175号土坑全景 (南より)		95-244号土坑全景 (南より)
	95-176号土坑全景 (西より)		95-245号土坑セクション (東より)
PL-91	95-178号土坑全景 (南より)	PL-100	95-246号土坑遺物出土状態 (西より)
	95-179号土坑全景 (南より)		95-246号土坑全景 (南より)
	95-180号土坑全景 (南より)		95-247号土坑全景 (南より)
	95-182号土坑全景 (北より)		95-248号土坑セクション (南より)
	95-183号土坑全景 (北より)		95-249号土坑全景 (南より)
PL-92	95-184・185号土坑全景 (南より)	PL-101	95-250号土坑全景 (北東より)
	95-186号土坑遺物出土状態 (東より)		95-250号土坑底面ピット
	95-186号土坑全景 (西より)		95-251号土坑全景 (南西より)
	95-189号土坑遺物出土状態 (北より)		95-252号土坑全景 (南より)
	95-190号土坑全景 (南より)		95-253号土坑セクション (東より)
PL-93	95-191号土坑全景 (南より)	PL-102	95-254号土坑セクション (北より)
	95-192号土坑全景 (南より)		
	95-193号土坑全景 (南より)		
	95-194号土坑全景 (南より)		
	95-195号土坑全景 (南より)		

	95-255号土坑遺物出土状態 (南より)	PL.106	95-323号土坑全景 (南より)
PL.97	95-256号土坑セクション (北東より)		95-324号土坑全景 (南西より)
	95-256号土坑全景 (南西より)		95-325号土坑全景 (南西より)
	95-256号土坑底面ビットセクション (北東より)		95-326号土坑遺物出土状態 (南より)
	95-257号土坑遺物出土状態 (東より)		95-327号土坑全景 (南より)
	95-257号土坑全景 (西より)		95-328号土坑全景 (東より)
	95-258号土坑全景 (南より)		95-329号土坑全景 (南より)
	95-259号土坑全景 (南より)		95-331号土坑全景 (南東より)
PL.98	95-260号土坑全景 (南より)	PL.107	5-289号ビット全景 (南より)
	95-261号土坑全景 (南より)		5-290号ビット全景 (南より)
	95-262号土坑全景 (南より)		5-291号ビット全景 (南より)
	95-263号土坑全景 (南西より)		5-292号ビット全景 (南より)
	95-264号土坑全景 (南より)		5-293号ビット全景 (南より)
	95-266号土坑全景 (南より)		5-294号ビット全景 (南より)
	95-267号土坑遺物出土状態 (南より)		5-295号ビット全景 (南より)
	95-268号土坑遺物出土状態 (南より)		5-296号ビットセクション (南西より)
PL.99	95-269号土坑全景 (南より)		5-297号ビット全景 (南より)
	95-270号土坑全景 (南より)		5-298号ビット全景 (南より)
	95-273号土坑セクション (南より)		5-299号ビット全景 (東より)
	95-274号土坑セクション (南より)		5-300号ビット全景 (南より)
	95-275号土坑セクション (北西より)		5-301号ビット全景 (南より)
	95-275号土坑全景 (北西より)		5-302号ビット全景 (東より)
	95-277号土坑全景 (南より)		5-303号ビット全景 (東より)
	95-278号土坑全景 (南より)	PL.108	5-304号ビット全景 (南西より)
PL.100	95-279号土坑遺物出土状態 (南より)		5-305号ビット全景 (南より)
	95-280号土坑全景 (南西より)		5-306号ビット全景 (南より)
	95-281号土坑セクション (東より)		5-307号ビット全景 (東より)
	95-282号土坑セクション (南東より)		5-308号ビット全景 (東より)
	95-282号土坑全景 (南より)		5-309号ビット全景 (南より)
	95-283号土坑全景 (西より)		5-310号ビット全景 (東より)
	95-284号土坑全景 (南より)		5-311号ビット全景 (南より)
PL.101	95-285号土坑全景 (南より)		5-312号ビット全景 (南より)
	95-286号土坑セクション (東より)		5-313号ビット全景 (南より)
	95-286号土坑全景 (南より)		5-314号ビット全景 (南より)
	95-287号土坑全景 (南より)		5-315号ビット全景 (東より)
	95-288号土坑遺物出土状態 (南より)		5-316号ビット全景 (南より)
	95-289号土坑遺物出土状態 (南より)		5-317号ビット全景 (南より)
	95-289号土坑全景 (南より)		5-318号ビット全景 (南西より)
	95-290号土坑遺物出土状態 (東より)	PL.109	5-319号ビット全景 (南より)
PL.102	95-291号土坑全景 (南より)		5-320号ビット全景 (南より)
	95-292号土坑全景 (南より)		5-321号ビット全景 (南より)
	95-293号土坑セクション (東より)		5-322号ビット全景 (南より)
	95-293号土坑全景 (南より)		5-323号ビット全景 (南より)
	95-294号土坑遺物出土状態 (南より)		5-324号ビット全景 (東より)
	95-294号土坑全景 (南より)		5-325号ビット全景 (南より)
	95-295号土坑全景 (南より)		5-326号ビット全景 (南より)
	95-296号土坑遺物出土状態 (南より)		5-327号ビット全景 (南より)
PL.103	95-297号土坑全景 (南より)		95-150号ビットセクション (東より)
	95-298号土坑遺物出土状態 (南より)		95-151号ビット全景 (南より)
	95-298号土坑全景 (南より)		95-152号ビットセクション (南より)
	95-299号土坑遺物出土状態 (南より)		95-158号ビットセクション (南より)
	95-300号土坑全景 (南より)		95-160号ビットセクション (南より)
	95-301号土坑全景 (東より)		95-162号ビットセクション (南より)
	95-303号土坑全景 (南西より)	PL.110	95-163号ビットセクション (南より)
	95-304号土坑全景 (南西より)		95-164号ビット全景 (南より)
PL.104	95-305号土坑全景 (南より)		95-165号ビット全景 (南より)
	95-306号土坑全景 (東より)		95-166号ビット全景 (南より)
	95-307号土坑全景 (北より)		95-167号ビット全景 (南より)
	95-308・309号土坑全景 (南より)		95-168号ビット全景 (東より)
	95-310号土坑全景 (南より)		95-169号ビット全景 (東より)
	95-311号土坑全景 (南より)		95-170号ビット全景 (南より)
	95-312号土坑全景 (南より)		95-171号ビット全景 (南西より)
	95-313号土坑全景 (南より)		95-172号ビット全景 (北西より)
PL.105	95-315号土坑全景 (東より)		95-173号ビット全景 (南より)
	95-316号土坑全景 (南より)		95-174号ビット全景 (南より)
	95-317号土坑全景 (南より)		95-175号ビット全景 (南より)
	95-318号土坑全景 (南より)		95-176号ビット全景 (南より)
	95-319号土坑全景 (東より)		95-177号ビット全景 (東より)
	95-320号土坑遺物出土状態 (南より)	PL.111	95-178号ビット全景 (南より)
	95-321号土坑全景 (南より)		95-179号ビット全景 (南より)
	95-322号土坑全景 (南西より)		95-180号ビット全景 (南より)

95-181号ゼット全層 (南より)	95-87号土坑全層 (南東より)
95-182号ゼット全層 (南より)	PL.121 95-88号土坑全層 (南東より)
95-183号ゼット全層 (南より)	95-89号土坑セクション (南より)
95-184号ゼット全層 (南より)	95-89号土坑全層 (南東より)
95-185号ゼット全層 (南より)	95-90号土坑セクション (南東より)
95-186号ゼット全層 (南より)	95-90号土坑全層 (南東より)
95-187号ゼット全層 (南より)	PL.122 95-91号土坑セクション (南東より)
95-188号ゼット全層 (南より)	95-91号土坑全層 (南東より)
95-189号ゼットセクション (北より)	95-92号土坑全層 (南より)
95-190号ゼット全層 (南より)	95-158号土坑セクション (西より)
95-191号ゼット全層 (南より)	95-158号土坑全層 (東より)
95-192号ゼット全層 (南より)	95-177号土坑全層 (北より)
PL.112 95-谷地部全層 (北より)	PL.123 95-181号土坑全層 (南より)
95-谷地部セクション (西より)	95-187号土坑全層 (西より)
95-谷地部遺物出土状態 (北より)	95-188号土坑全層 (南より)
95-谷地部遺物出土状態 (南より)	95-242号土坑セクション (東より)
95-谷地部遺物 (大珠) 出土状態 (南より)	95-242号土坑全層 (南より)
PL.113 5-6号焼土セクション (南より)	95-271号土坑全層 (南より)
5-6号焼土全層 (西より)	95-272号土坑全層 (南東より)
5-10号焼土全層 (南より)	PL.124 95-276号土坑全層 (南東より)
5-10号焼土セクション (東より)	95-2号溝セクション (東より)
5-11号焼土全層 (東より)	95-2号溝全層 (西より)
5-11号焼土セクション (東より)	5-1号石列全層 (南より)
5-12号焼土全層 (東より)	5-1号石列 (石除去後) 全層 (南より)
5-13号焼土全層 (東より)	PL.125 調査前風景 (南より)
PL.114 5-14号焼土セクション (東より)	第1トレンチ全層 (東より)
5-15号焼土セクション (東より)	第1トレンチセクション (東より)
5-15号焼土上下土坑全層 (南より)	第2トレンチ全層 (東より)
95-2号焼土セクション (南より)	第3トレンチ全層 (西より)
95-3号焼土セクション (東より)	第4トレンチ全層 (西より)
95-4号焼土全層 (南より)	第5トレンチ全層 (西より)
95-5号焼土全層 (南より)	第6トレンチ全層 (西より)
95-6号焼土全層 (南より)	PL.126 5-8号住居跡出土遺物
PL.115 5-30号土坑セクション (南東より)	PL.127 5-8・146号住居跡出土遺物
5-66号土坑セクション (北西より)	PL.128 5-146・147・148号住居跡出土遺物
5-66号土坑全層 (北西より)	PL.129 5-149号住居跡出土遺物
5-182号土坑全層 (南より)	PL.130 5-149・150号住居跡出土遺物
5-1115号土坑全層 (南より)	PL.131 5-150号住居跡出土遺物
5-1116号土坑全層 (北東より)	PL.132 5-150号住居跡出土遺物
5-1117号土坑全層 (南より)	PL.133 5-150号住居跡出土遺物
PL.116 5-1118号土坑全層 (北東より)	PL.134 5-150号住居跡出土遺物
5-1119号土坑全層 (南東より)	PL.135 5-150号住居跡出土遺物
5-1122号土坑全層 (南より)	PL.136 5-150号住居跡出土遺物
5-1212号土坑セクション (南東より)	PL.137 5-150・151・152号住居跡出土遺物
5-1212号土坑全層 (南東より)	PL.138 5-152号住居跡出土遺物
PL.117 5-1213号土坑セクション (南より)	PL.139 5-152・153号住居跡出土遺物
5-1213号土坑全層 (南東より)	PL.140 5-153号住居跡出土遺物
8・18区全層 (東より)	PL.141 5-153号住居跡出土遺物
8-6号土坑セクション (南より)	PL.142 5-153・154号住居跡出土遺物
8-6号土坑全層 (北西より)	PL.143 5-154・155号住居跡出土遺物
17区西・18区東トレンチ全層 (北より)	PL.144 5-155号住居跡出土遺物
17-35号土坑全層 (南より)	PL.145 5-155号住居跡出土遺物
PL.118 18区トレンチ全層 (北東より)	PL.146 5-155号住居跡出土遺物
18-24号土坑全層 (南東より)	PL.147 5-155号住居跡出土遺物
18-25号土坑全層 (南東より)	PL.148 5-155・156号住居跡出土遺物
18-26号土坑全層 (南東より)	PL.149 5-156号住居跡出土遺物
18-27号土坑全層 (北西より)	PL.150 5-156号住居跡出土遺物
18-28・29号土坑セクション (東より)	PL.151 95-5号住居跡出土遺物
19区全層 (東より)	PL.152 95-5号住居跡出土遺物
19-12号土坑セクション (南より)	PL.153 95-5・12号住居跡出土遺物
PL.119 19-13号土坑全層 (南東より)	PL.154 95-12号住居跡出土遺物
19-14号土坑全層 (南より)	PL.155 95-12・13号住居跡出土遺物
95-83号土坑セクション (南西より)	PL.156 95-13号住居跡出土遺物
95-83号土坑全層 (南西より)	PL.157 95-13号住居跡出土遺物
95-84号土坑セクション (南より)	PL.158 95-13号住居跡出土遺物
95-84号土坑全層 (南より)	PL.159 95-14号住居跡出土遺物
PL.120 95-85号土坑セクション (南東より)	PL.160 95-14号住居跡出土遺物
95-85号土坑全層 (南東より)	PL.161 95-14・15号住居跡出土遺物
95-86号土坑セクション (東より)	PL.162 95-15号住居跡出土遺物
95-86号土坑全層 (南東より)	PL.163 95-15号住居跡出土遺物
95-87号土坑セクション (南より)	PL.164 95-15号住居跡出土遺物



PL.165	95-15-16・17号住居跡出土遺物	PL.236	95-168・170号土坑出土遺物
PL.166	95-17・18号住居跡出土遺物	PL.237	95-171～183号土坑出土遺物
PL.167	95-18号住居跡出土遺物	PL.238	95-184～201号土坑出土遺物
PL.168	95-18号住居跡出土遺物	PL.239	95-202～212号土坑出土遺物
PL.169	95-18号住居跡出土遺物	PL.240	95-214～235号土坑出土遺物
PL.170	95-18・19号住居跡出土遺物	PL.241	95-236～251号土坑出土遺物
PL.171	95-19号住居跡出土遺物	PL.242	95-252～280号土坑出土遺物
PL.172	95-19・20号住居跡出土遺物	PL.243	95-282～295号土坑出土遺物
PL.173	95-20号住居跡出土遺物	PL.244	95-296～329号土坑、5・95区ビット出土遺物
PL.174	95-20号住居跡出土遺物	PL.245	5区道橋外出土石器
PL.175	95-20号住居跡出土遺物	PL.246	5区道橋外出土石器
PL.176	95-20号住居跡出土遺物	PL.247	5区道橋外出土石器
PL.177	95-20号住居跡出土遺物	PL.248	5区道橋外出土石器、19区道橋外出土石器
PL.178	95-20号住居跡出土遺物	PL.249	95区道橋外出土石器
PL.179	95-20号住居跡出土遺物	PL.250	95区道橋外出土石器
PL.180	95-20・21・22号住居跡出土遺物	PL.251	95区道橋外出土石器
PL.181	95-23号住居跡出土遺物	PL.252	95区道橋外出土石器
PL.182	95-23・24号住居跡出土遺物	PL.253	95区道橋外出土石器
PL.183	95-24・25号住居跡出土遺物	PL.254	95区道橋外出土石器
PL.184	95-25・26号住居跡出土遺物	PL.255	95区道橋外出土石器
PL.185	95-26・27・28号住居跡出土遺物	PL.256	95区道橋外出土石器
PL.186	95-29号住居跡出土遺物	PL.257	95区道橋外出土石器
PL.187	95-29・30号住居跡出土遺物	PL.258	95区道橋外出土石器
PL.188	95-30号住居跡出土遺物	PL.259	5区道橋外出土石器
PL.189	95-30号住居跡出土遺物	PL.260	5区道橋外出土石器
PL.190	95-30号住居跡出土遺物	PL.261	5区道橋外出土石器
PL.191	95-30・31・33・34号住居跡出土遺物	PL.262	95区道橋外出土石器
PL.192	95-35・36・37・38号住居跡出土遺物	PL.263	95区道橋外出土石器
PL.193	95-38号住居跡出土遺物	PL.264	95区道橋外出土石器
PL.194	95-38・39・40・41号住居跡出土遺物	PL.265	95区道橋外出土石器
PL.195	95-41・42号住居跡出土遺物	PL.266	95区道橋外出土石器
PL.196	95-43・44号住居跡出土遺物	PL.267	95区道橋外出土石器
PL.197	95-44号住居跡出土遺物	PL.268	5-6号焼土、5・95区陶磁器・石器類、5・95区金属製品
PL.198	95-44・45・46号住居跡出土遺物		
PL.199	95-46・47号住居跡出土遺物		
PL.200	95-47号住居跡出土遺物		
PL.201	95-47号住居跡出土遺物		
PL.202	95-47号住居跡出土遺物		
PL.203	95-47・48号住居跡出土遺物		
PL.204	95-48号住居跡出土遺物		
PL.205	95-48・49・50号住居跡出土遺物		
PL.206	95-50・51・52・53号住居跡出土遺物		
PL.207	95-53号住居跡出土遺物		
PL.208	95-54号住居跡出土遺物		
PL.209	95-54号住居跡出土遺物		
PL.210	95-54・55・56号住居跡出土遺物		
PL.211	95-56号住居跡出土遺物		
PL.212	95-56号住居跡出土遺物		
PL.213	95-56号住居跡出土遺物		
PL.214	95-56号住居跡出土遺物		
PL.215	95-56号住居跡出土遺物		
PL.216	95-56・57号住居跡出土遺物		
PL.217	95-57号住居跡出土遺物		
PL.218	95-57号住居跡出土遺物		
PL.219	95-58・59・60号住居跡出土遺物		
PL.220	5-2・3・4号孤立柱建物跡出土遺物		
PL.221	5-4・5、95-3号孤立柱建物跡出土遺物		
PL.222	95-3号孤立柱建物跡出土遺物		
PL.223	95-3号孤立柱建物跡出土遺物		
PL.224	95-3・4号孤立柱建物跡、5-15、95-1号埋藏出土遺物		
PL.225	95-3号埋藏、95-1・7・10・11・13号焼土出土遺物		
PL.226	95-14・15・16号焼土、95-17号炉、95-1・2号配石出土遺物		
PL.227	5-99～1152号土坑出土遺物		
PL.228	5-1154～1209号土坑出土遺物		
PL.229	5-1209～1229号土坑出土遺物		
PL.230	5-1230～1239号土坑出土遺物		
PL.231	5-1240～1256号土坑出土遺物		
PL.232	5-1257～1271、95-28～112号土坑出土遺物		
PL.233	95-113～129号土坑出土遺物		
PL.234	95-130～139号土坑出土遺物		
PL.235	95-142～167号土坑出土遺物		



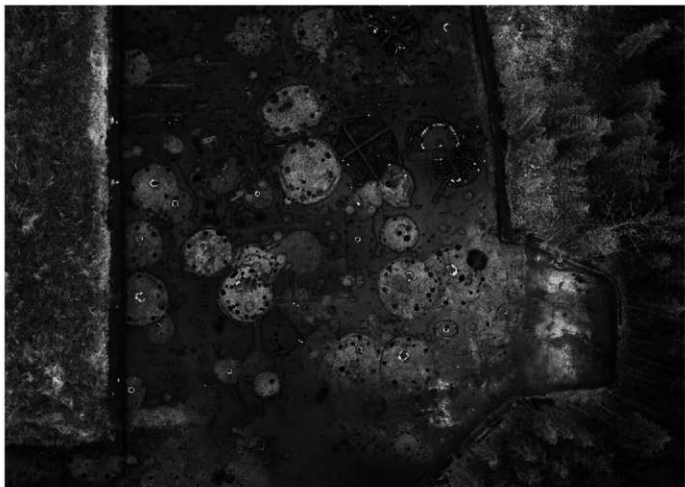
5・95区全景(南側上空より)



5・95区全景(西側上空より)



5・95区調査区全景(上空より)



5・95区調査区全景(上空より)



5・95区調査前風景(北より)



5・95区調査前風景(北より)



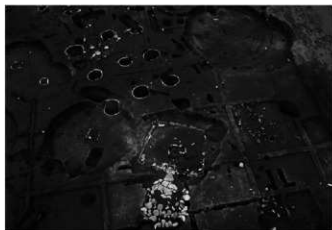
5・95区西側部分1面全景(北より)



5・95区西側部分2面全景(北より)



5・95区西側全景(東より)



95区全景(南より)



5・95区全景(北より)



95区南および谷地部(西より)



5-8号住居跡遺物出土状態(東より)



5-8号住居跡掘方全景(南東より)



5-8号住居跡埋裏検出状況(南より)



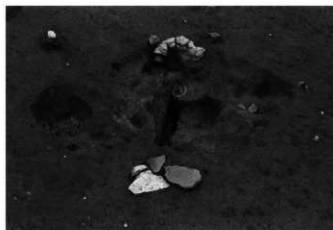
5-8号住居跡埋裏セクション(南より)



5-146号住居跡全景(南より)



5-146号住居跡切セクション(東より)



5-146号住居跡炉全景(南より)



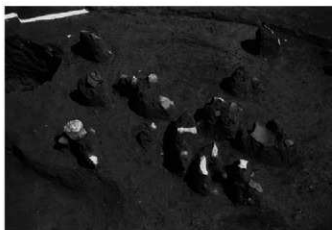
5-146号住居跡埋裏検出状況(南より)



5-147号住居跡遺物出土状態(南より)



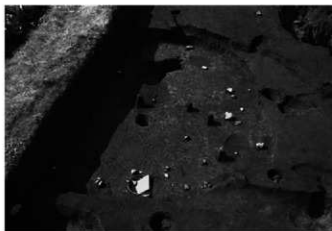
5-147号住居跡全景(南より)



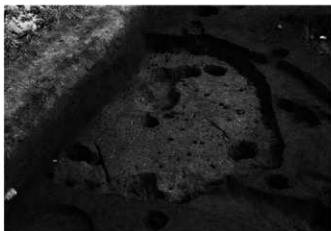
5-147号住居跡遺物出土状態(南より)



5-147号住居跡跡方全景(東より)



5-148号住居跡遺物出土状態(南より)



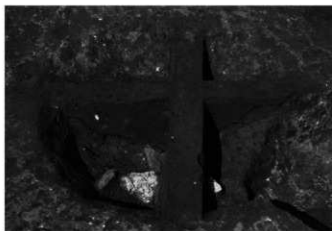
5-148号住居跡跡方全景(南より)



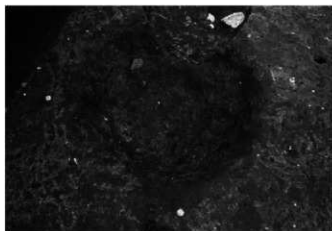
5-148号住居跡埋裏検出状況(南より)



5-148号住居跡埋裏セクション(東より)



5-148号住居跡がセクション(南より)



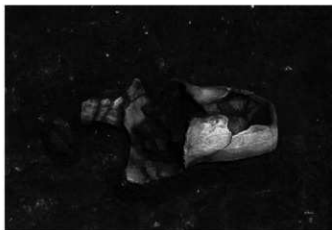
5-148号住居跡が全景(南より)



5-149号住居跡遺物出土状態(南東より)



5-149号住居跡遺物出土状態(南東より)



5-149号住居跡遺物出土状態(南より)



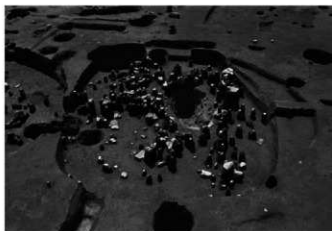
5-149号住居跡遺物出土状態(南東より)



5-149号住居跡全景(南東より)



5-149号住居跡が全景(南東より)



5-150号住居跡遺物出土状態(東より)



5-150号住居跡遺物出土状態(東より)



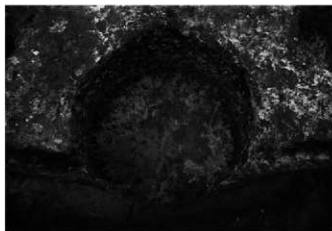
5-150号住居跡遺物出土状態(東より)



5-150号住居跡全景(南東より)



5-150号住居跡内土坑セクション(北東より)



5-150号住居跡内土坑全景(北より)

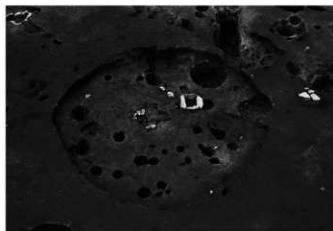


5-150号住居跡炉および土坑全景(南より)



5-150号住居跡炉全景(西より)

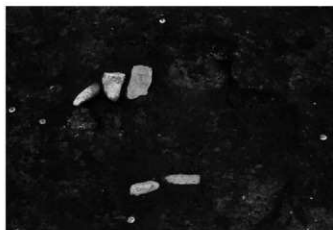




5-151号住居跡全景(南東より)



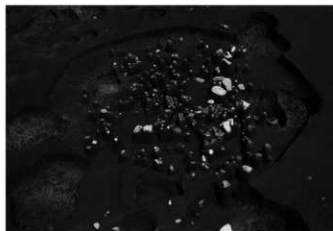
5-151号住居跡如全景(南より)



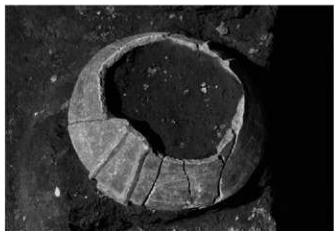
5-151号住居跡如全景(南より)



5-151号住居跡掘方全景(南より)



5-152号住居跡遺物出土状態(南より)



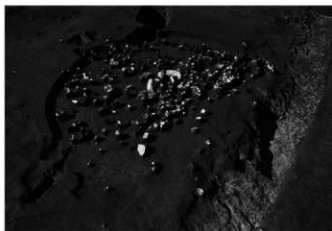
5-152号住居跡遺物出土状態(南より)



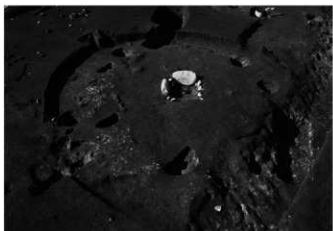
5-152号住居跡全景(南より)



5-152号住居跡如全景(南より)



5-153号住居跡遺物出土状態(南より)



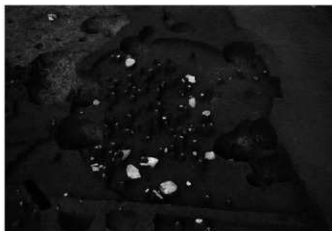
5-153号住居跡全景(南より)



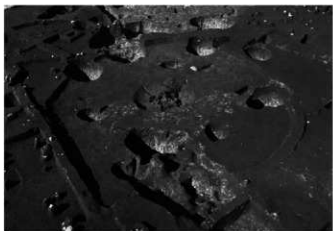
5-153号住居跡炉遺物出土状態(南東より)



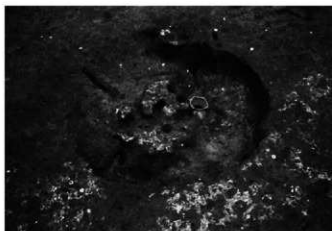
5-153号住居跡炉体土器セクション(東より)



5-154号住居跡遺物出土状態(南より)



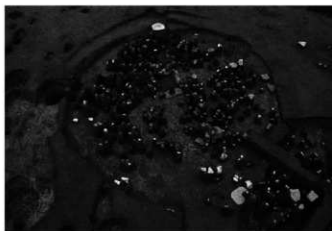
5-154号住居跡全景(南より)



5-154号住居跡炉全景(南より)



5-154号住居跡炉体土器(東より)



5-155号住居跡遺物出土状態(南より)



5-155号住居跡遺物出土状態(南より)



5-155号住居跡全景(南より)



5-155号住居跡炉体全景(南より)



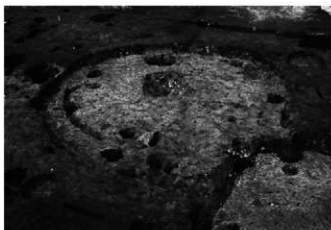
5-155号住居跡炉石棒出土状態(南より)



5-155号住居跡炉体土器(南より)



5-155号住居跡埋喪セクション(南より)



5-155号住居跡掘方全景(南より)



5-156号住居跡遺物出土状態(南より)



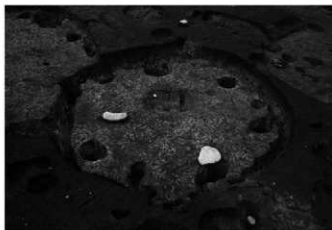
5-156号住居跡遺物出土状態(南より)



5-156号住居跡入り口部立石(南より)



5-156号住居跡全景立石在り(南より)



5-156号住居跡全景(南より)



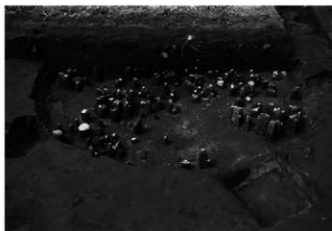
5-156号住居跡切セクション(南より)



5-156号住居跡炉遺物出土状態(南より)



5-156号住居跡掘方全景(南より)



95-5号住居跡遺物出土状態(南より)



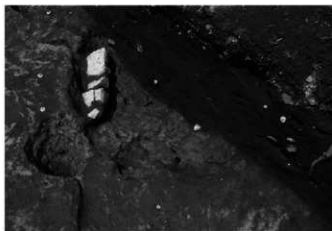
95-5号住居跡遺物出土状態(南より)



95-5号住居跡全景(南東より)



95-5号住居跡2号がセクション(南より)



95-5号住居跡が全景(南東より)



95-5号住居跡掘方全景(南東より)



95-12号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-12号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-12号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-12号住居跡埋裏セクション(南より)



95-12号住居跡黒曜石出土状態(南東より)



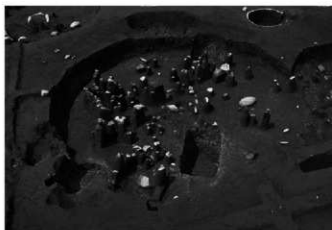
95-12号住居跡全景(南東より)



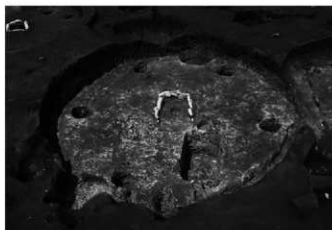
95-12号住居跡跡戸全景(南東より)



95-12号住居跡掘方全景(南東より)



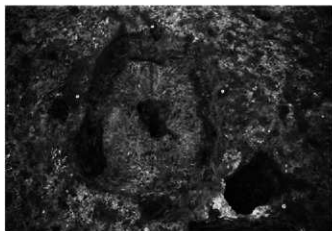
95-13号住居跡遺物出土状態(南より)



95-13号住居跡全景(南より)



95-13号住居跡炉全景(東より)



95-13号住居跡炉弧方(南より)



95-13号住居跡炉方全景(南より)



95-14号住居跡遺物出土状態(南より)



95-14号住居跡遺物出土状態(南より)



95-14号住居跡炉全景(南より)



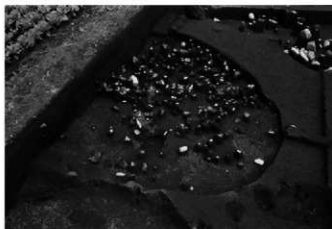
95-14号住居跡炉体土器(南より)



95-14号住居跡全景(南より)



95-14号住居跡掘方全景(南より)



95-15号住居跡遺物出土状態(南より)



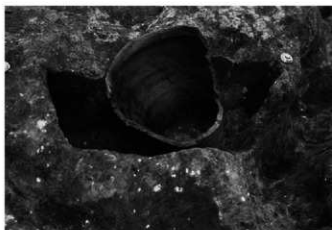
95-15号住居跡全景(南より)



95-15号住居跡遺物出土状態(南より)



95-15号住居跡全景(南より)



95-15号住居跡埋裏(南西より)

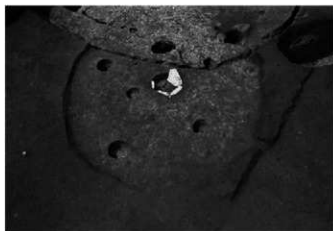


95-15号住居跡掘方全景(南より)





95-16号住居跡遺物出土状態(南より)



95-16号住居跡全景(南より)



95-16号住居跡遺物出土状態(南より)



95-16号住居跡掘方全景(南より)



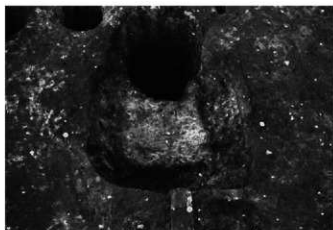
95-17号住居跡遺物出土状態(南より)



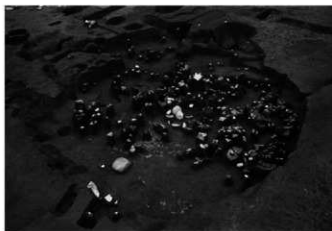
95-17号住居跡全景(南より)



95-17号住居跡全景(南より)



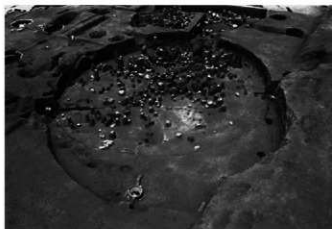
95-17号住居跡掘方全景(南より)



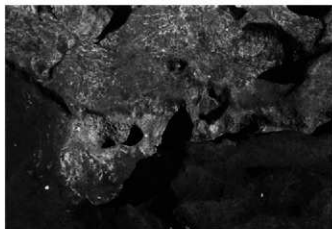
95-18号住居跡遺物出土状態(南より)



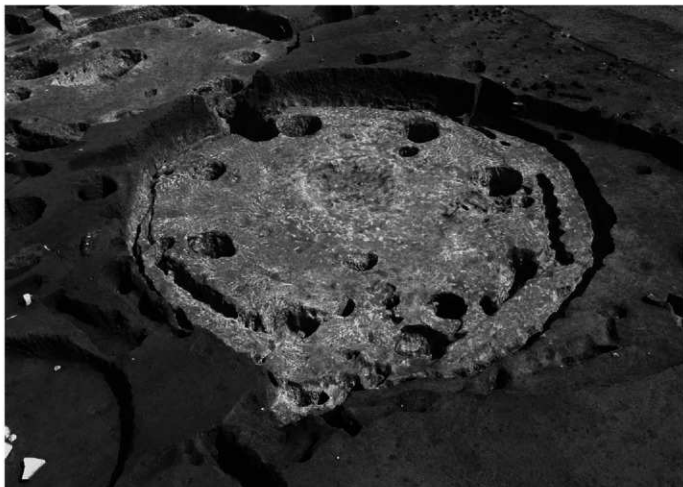
95-18号住居跡遺物出土状態(南より)



95-18号住居跡遺物出土状態(南より)



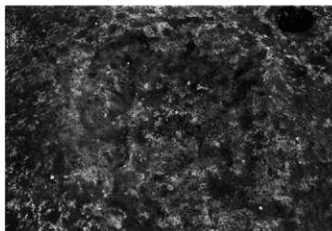
95-18号住居跡出入り口部(南西より)



95-18号住居跡全景(南より)



95-18号住居跡が遺物出土状態(南西より)



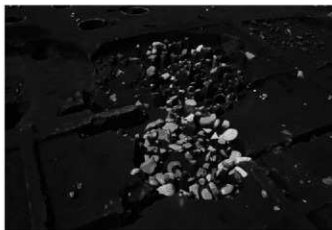
95-18号住居跡が全景(南より)



95-18号住居跡ピット1セクション(南より)



95-18号住居跡掘方全景(南西より)



95-19号住居跡遺物出土状態(南より)



95-19号住居跡が遺物出土状態(南より)



95-19号住居跡が遺物出土状態(南より)



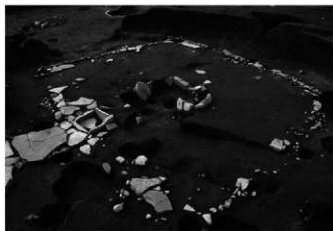
95-19号住居跡が、石組み遺構敷石除去後(南より)



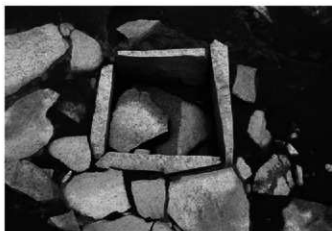
95-19号住居跡全景(南より)



95-19号住居跡全景(南より)



95-19号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-19号住居跡石組み遺構全景(南より)



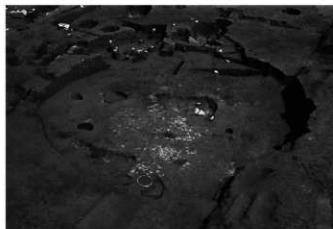
95-19号住居跡周礫状態近景(南より)



95-20号住居跡遺物出土状態(南より)



95-20号住居跡遺物出土状態(南より)



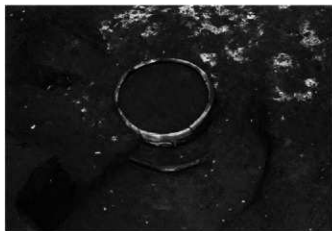
95-20号住居跡全景(南より)



95-20号住居跡炉全景(南より)



95-20号住居跡埋裏上部セクション(南より)



95-20号住居跡埋裏検出状況(南より)



95-20号住居跡埋裏全景(東より)



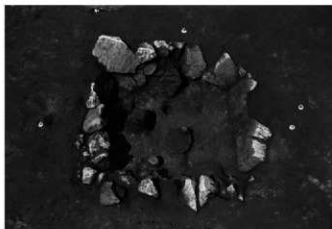
95-20号住居跡埋裏下土器・石棒出土状態(東より)



95-21号住居跡全景(北より)



95-22号住居跡がセクション(東より)



95-22号住居跡が全景(南より)



95-22号住居跡が体土器出土状態(南より)



95-22号住居跡全景(南より)



95-23号住居跡遺物出土状態(南より)



95-23号住居跡炉体土器出土状態(南より)



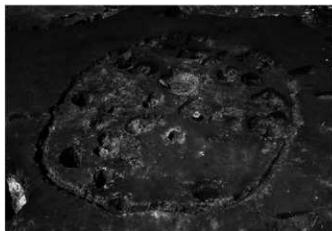
95-23号住居跡遺物出土状態(南より)



95-23号住居跡全景(南より)



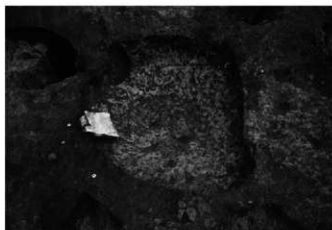
95-24号住居跡遺物出土状態(南より)



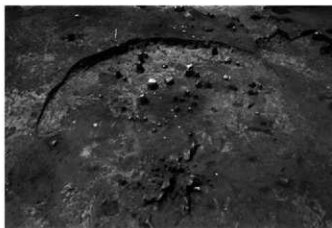
95-24号住居跡全景(南より)



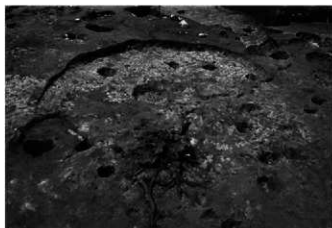
95-24号住居跡炉セクション(南より)



95-24号住居跡炉全景(南より)



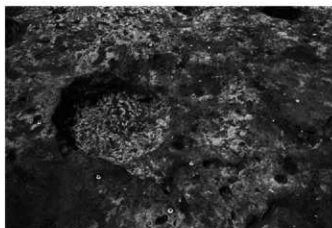
95-25号住居跡遺物出土状態(東より)



95-25号住居跡全景(東より)



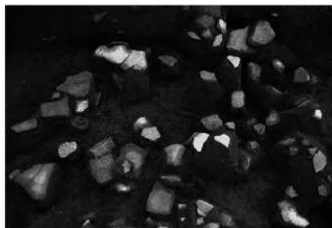
95-25号住居跡遺物出土状態(南より)



95-25号住居跡炉全景(東より)



95-26号住居跡遺物出土状態(東より)



95-26号住居跡遺物出土状態(東より)

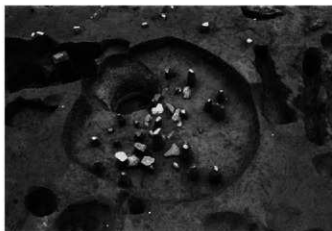


95-26号住居跡全景(南より)

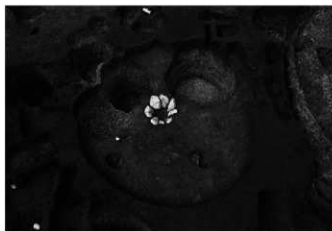


95-26号住居跡遺物出土状態(南より)





95-27号住居跡遺物出土状態(南より)



95-27号住居跡全景(南より)



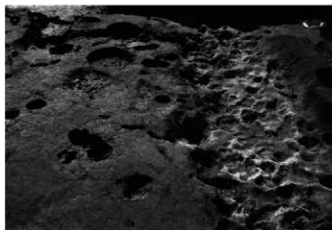
95-27号住居跡跡全景(南より)



95-27号住居跡床下土坑セクション(東より)



95-27号住居跡掘方全景(南より)



95-28号住居跡全景(東より)



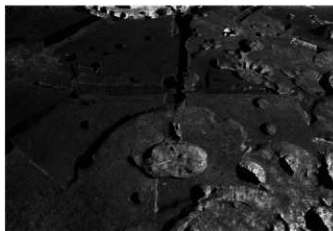
95-29号住居跡遺物出土状態(東より)



95-29号住居跡全景(南より)



95-29号住居跡跡跡全景(東より)



95-29号住居跡振方全景(南より)



95-19号住居跡振方・30号住居跡遺物出土状態(南より)



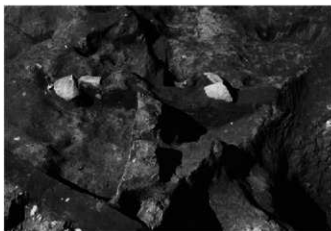
95-30号住居跡遺物出土状態(南より)



95-30号住居跡全景(南より)



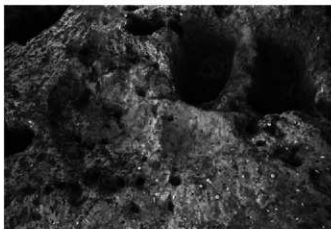
95-30号住居跡が遺物出土状態(南より)



95-30号住居跡2号がセクション(東より)



95-30号住居跡が全景(南より)



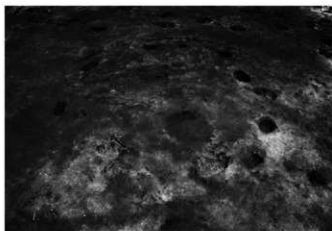
95-30号住居跡2号が掘方(南より)



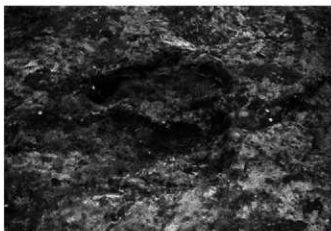
95-31号住居跡全景(西より)



95-31号住居跡が全景(南より)



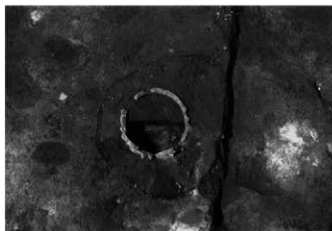
95-32号住居跡全景(南より)



95-32号住居跡が全景(南より)



95-33号住居跡全景(東より)



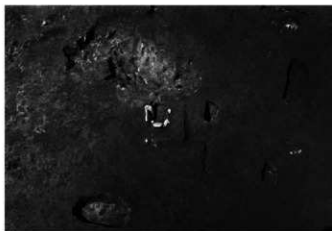
95-33号住居跡が検出状態(東より)



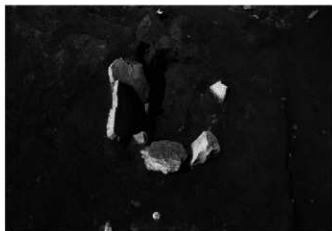
95-33号住居跡が内出土土器セクション(東より)



95-34号住居跡遺物出土状態(南より)



95-34号住居跡全景(南より)



95-34号住居跡が全景(南より)



95-35号住居跡遺物出土状態(南より)



95-35号住居跡全景(南より)



95-35号住居跡がセクション(南より)



95-35号住居跡が全景(南より)



95-36号住居跡全景(東より)



95-36号住居跡が全景(南より)



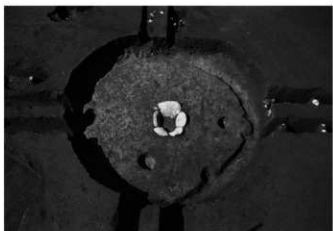
95-37号住居跡遺物出土状態(北より)



95-37号住居跡全景(南より)



95-38号住居跡遺物出土状態(南より)



95-38号住居跡全景(南より)



95-38号住居跡がセクション(東より)



95-38号住居跡が全景(南より)



95-39号住居跡遺物出土状態(南より)



95-39号住居跡全景(南より)



95-39号住居跡が全景(南より)



95-39号住居跡掘方全景(南より)



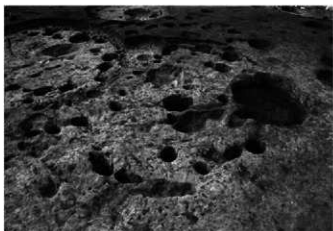
95-40号住居跡遺物出土状態(南より)



95-40号住居跡全景(南より)



95-40号住居跡炉遺物出土状態(南より)



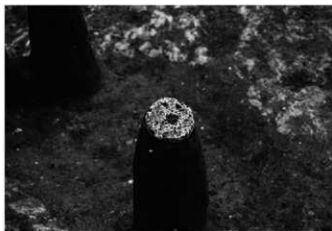
95-40号住居跡掘方全景(南東より)



95-41号住居跡遺物出土状態(南より)



95-41号住居跡遺物出土状態(南より)



95-41号住居跡遺物出土状態(南より)



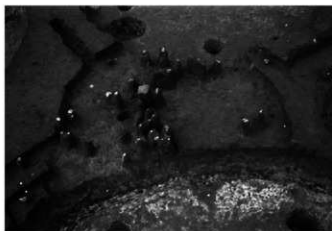
95-41号住居跡全景(南より)



95-41号住居跡炉遺物出土状態(南東より)



95-41号住居跡炉全景(南東より)



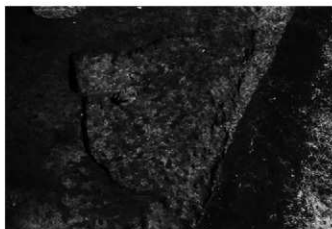
95-42号住居跡遺物出土状態(南より)



95-42号住居跡全景(南より)



95-43号住居跡遺物出土状態(南より)



95-43号住居跡全景(南より)



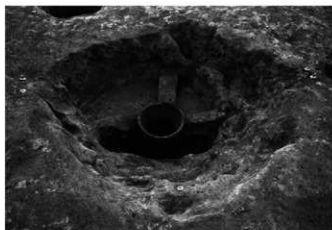
95-44号住居跡遺物出土状態(東より)



95-44号住居跡全景(南より)

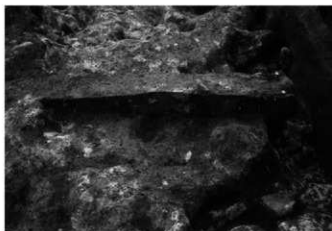


95-44号住居跡炉全景(南西より)

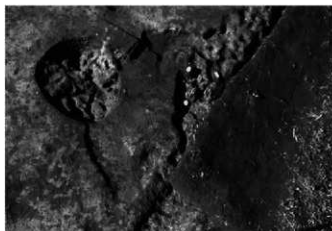


95-44号住居跡炉体土器(南より)





95-45号住居跡切セクション(東より)



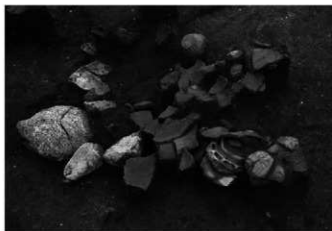
95-45号住居跡全景(南より)



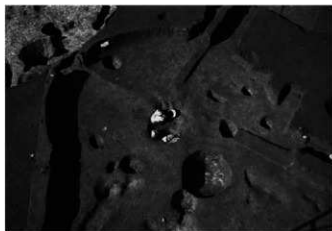
95-46号住居跡遺物出土状態(南より)



95-46号住居跡遺物出土状態(南より)



95-46号住居跡遺物出土状態(南より)



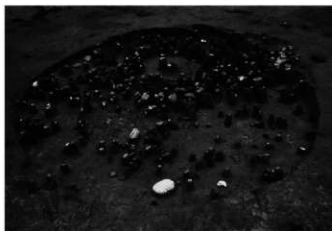
95-46号住居跡全景(南より)



95-46号住居跡炉全景(東より)



95-46号住居跡炉全景(南東より)



95-47号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-47号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-47号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-47号住居跡集石出土状態(南より)



95-47号住居跡全景(南より)



95-47号住居跡遺物出土状態(東より)



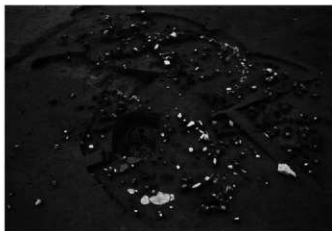
95-47号住居跡が全景(南より)



95-47号住居跡の埴土器(南より)



95-47号住居跡掘方全景(南より)



95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



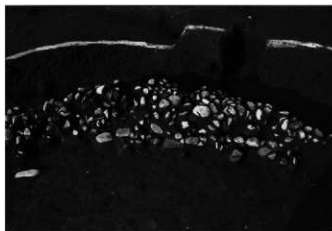
95-48号住居跡遺物出土状態(南より)



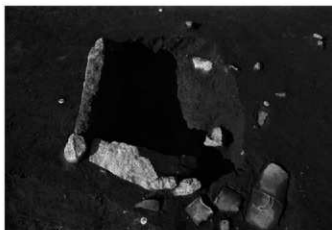
95-48号住居跡全景(南より)



95-48号住居跡周礎状況(西より)



95-48号住居跡周礎状況(南より)



95-48号住居跡炉全景(南より)



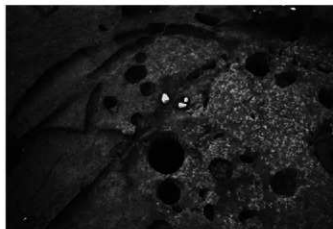
95-48号住居跡周礎



95-49号住居跡全景(南より)



95-49号住居跡が全景(南より)



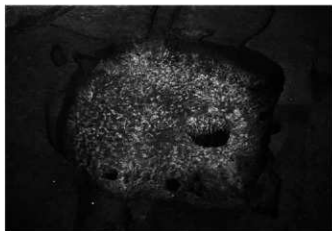
95-50号住居跡全景(南より)



95-50号住居跡が全景(南より)



95-51号住居跡遺物出土状態(南より)



95-51号住居跡全景(南より)



95-52号住居跡遺物出土状態(南より)



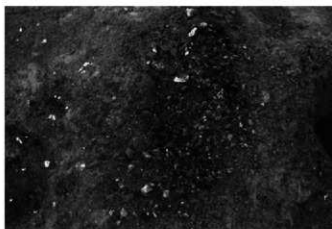
95-52号住居跡全景(南より)



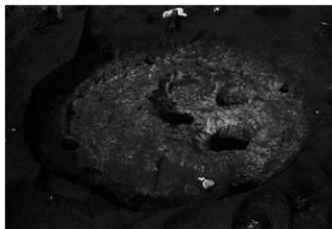
95-53号住居跡遺物出土状態(南東より)



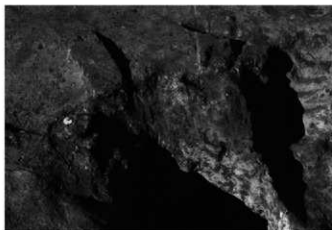
95-53号住居跡遺物出土状態(南東より)



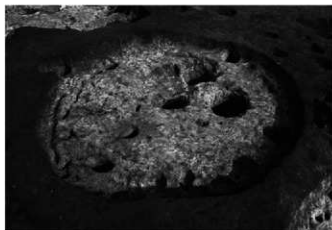
95-53号住居跡炭化クルミ出土状態(南東より)



95-53号住居跡全景(南より)



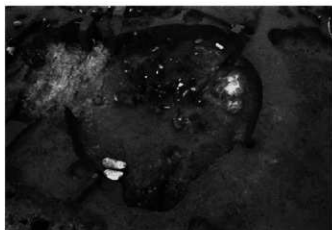
95-53号住居跡跡方全景(東より)



95-53号住居跡掘方全景(南西より)



95-54号住居跡遺物出土状態(南より)



95-54号住居跡遺物出土状態(南より)



95-54号住居跡出土軽石(南より)



95-54号住居跡遺物出土状態(南より)



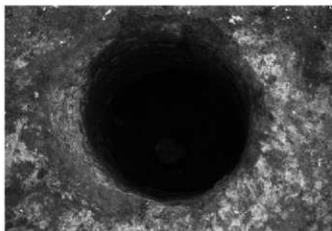
95-54号住居跡がセクション(南より)



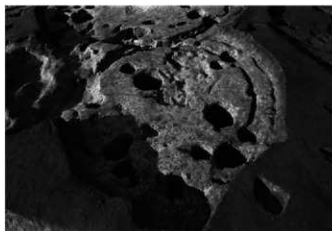
95-54号住居跡が全景(南より)



95-54号住居跡全景(南より)



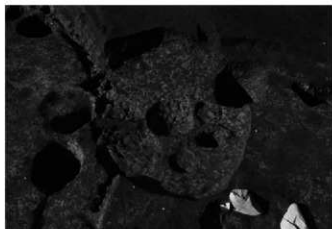
95-54号住居跡内ビット全景(南より)



95-54号住居跡掘方全景(南より)



95-55号住居跡遺物出土状態(南東より)



95-55号住居跡全景(南東より)



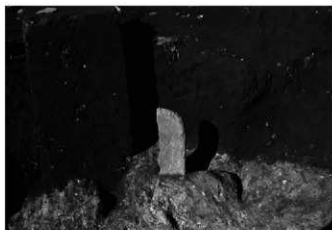
95-56号住居跡遺物出土状態(南より)



95-56号住居跡遺物出土状態(南より)



95-56号住居跡遺物出土状態(北より)

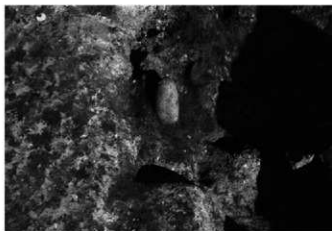


95-56号住居跡立石出土状態(南より)





95-56号住居跡全景(南より)



95-56号住居跡の南西部石枠検出状況(南より)



95-56号住居跡の遺物出土状態(南より)



95-56号住居跡の全景(南より)



95-56号住居跡の掘方全景(南より)



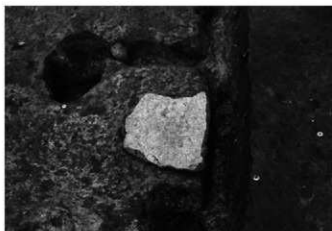
95-57号住居跡遺物出土状態(南より)



95-57号住居跡遺物出土状態(南より)



95-57号住居跡全景(南より)



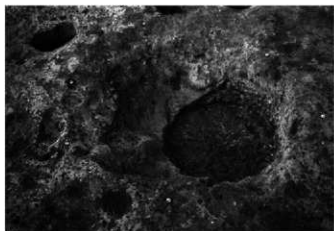
95-57号住居跡入り口部平石出土状態(西より)



95-57号住居跡炉全景(南より)



95-57号住居跡が掘方土坑セクション(東より)



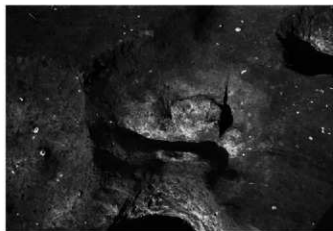
95-57号住居跡が掘方全景(南より)



95-58号住居跡遺物出土状態(南東より)



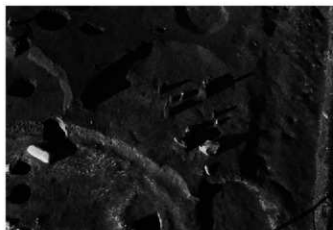
95-58号住居跡が遺物出土状態(南より)



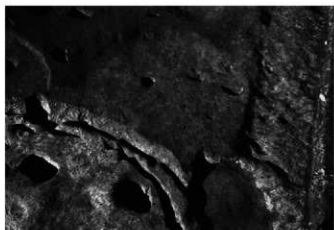
95-58号住居跡が全景(南より)



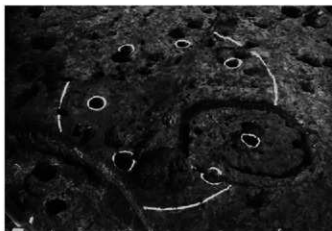
95-58号住居跡全景(南東より)



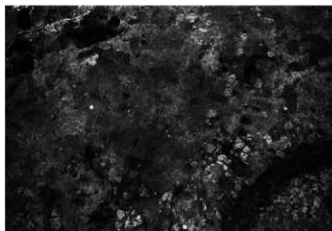
95-59号住居跡遺物出土状態(南より)



95-59号住居跡全景(南より)



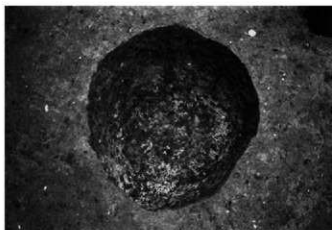
95-60号住居跡全景(南より)



95-60号住居跡が全景(南より)



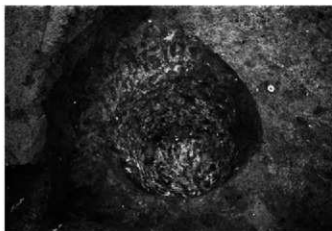
5-2号掘立柱建物跡全景(南東より)



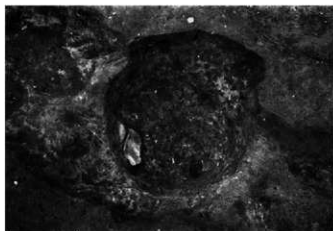
5-2号掘立柱建物跡P-1全景(南より)



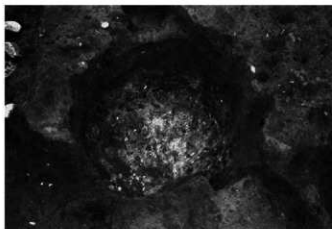
5-2号掘立柱建物跡P-2全景(南より)



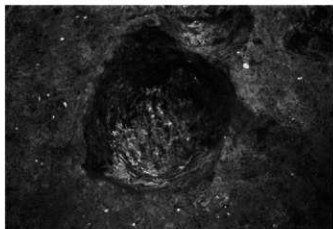
5-2号掘立柱建物跡P-3全景(南より)



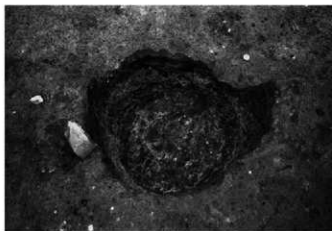
5-2号掘立柱建物跡P-4全景(南より)



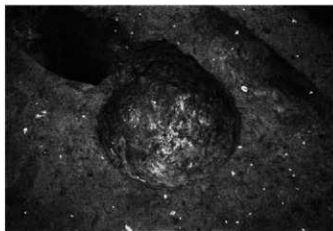
5-2号掘立柱建物跡P-5全景(南より)



5-2号掘立柱建物跡P-6全景(南より)



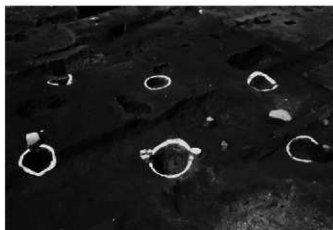
5-2号掘立柱建物跡P-7全景(南より)



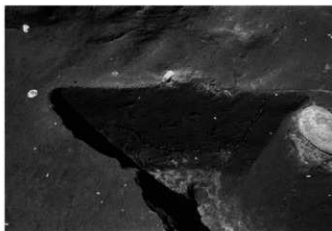
5-2号掘立柱建物跡P-8全景(南より)



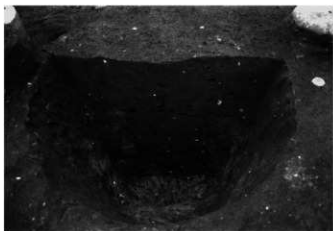
5-2号掘立柱建物跡P-9全景(南より)



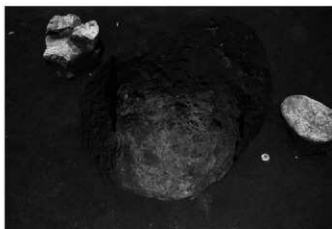
5-3号掘立柱建物跡全景(南西より)



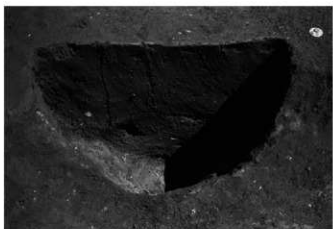
5-3号掘立柱建物跡P-1(95-193号ピット)セクション(南より)



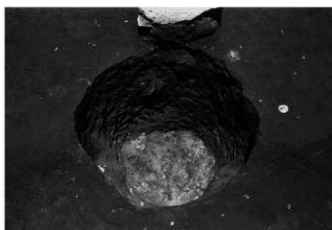
5-3号掘立柱建物跡P-2(5-1127号土坑)セクション(南西より)



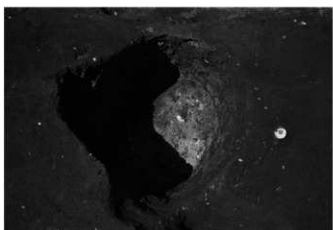
5-3号掘立柱建物跡P-2(5-1127号土坑)全景(南より)



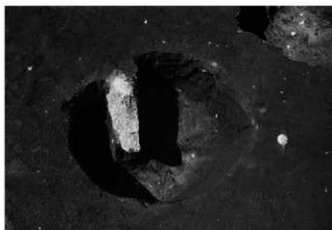
5-3号掘立柱建物跡P-3(5-285号ピット)セクション(南より)



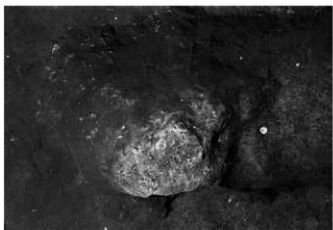
5-3号掘立柱建物跡P-3(5-285号ピット)全景(南より)



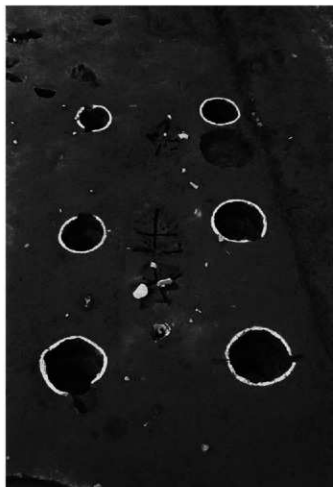
5-3号掘立柱建物跡P-4(5-286号ピット)全景(南より)



5-3号掘立柱建物跡P-5(5-287号ピット)全景(南より)



5-3号掘立柱建物跡P-6(5-288号ピット)全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡内7・8号焼土(南より)



5-4号掘立柱建物跡炉、埋裏検出状況(南より)



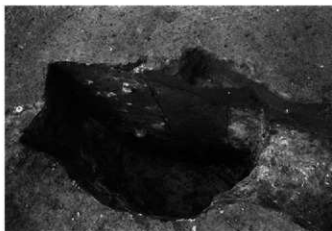
5-4号掘立柱建物跡全景(東より)



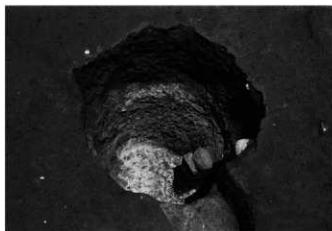
5-4号掘立柱建物跡埋裏セクション(南東より)



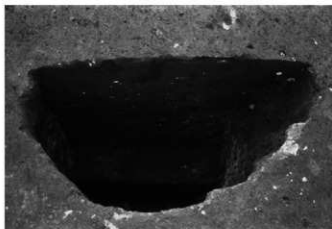
5-4号掘立柱建物跡埋裏全景(南より)



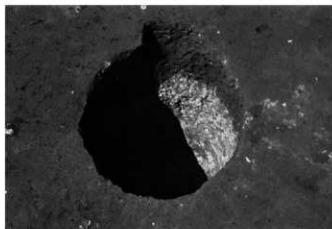
5-4号掘立柱建物跡P-1(5-1141号土坑)セクション(西より)



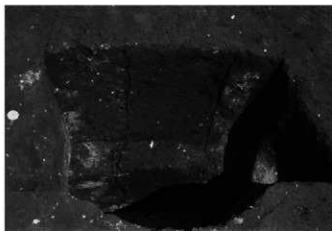
5-4号掘立柱建物跡P-1(5-1141号土坑)全景(南より)



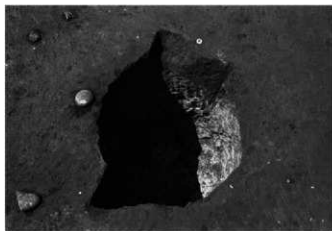
5-4号掘立柱建物跡P-2(5-1146号土坑)セクション(南より)



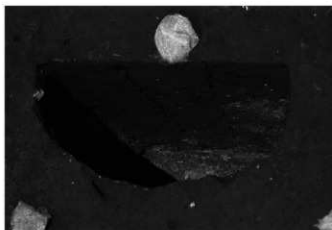
5-4号掘立柱建物跡P-2(5-1146号土坑)全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-3(5-1147号土坑)セクション(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-3(5-1147号土坑)全景(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-4(5-1148号土坑)セクション(南より)

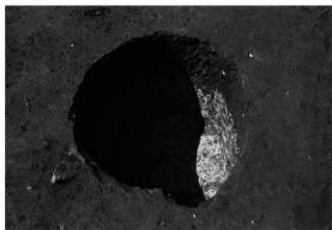


5-4号掘立柱建物跡P-4(5-1148号土坑)全景(南より)

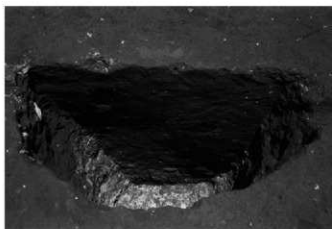




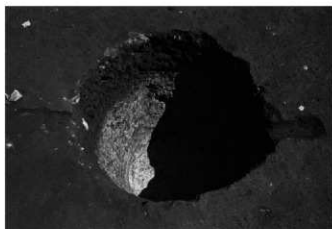
5-4号掘立柱建物跡P-5(5-1149号土坑)セクション(南より)



5-4号掘立柱建物跡P-5(5-1149号土坑)全景(南より)



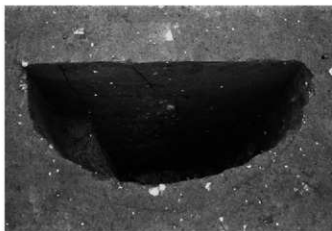
5-4号掘立柱建物跡P-6(5-1145号土坑)セクション(南より)



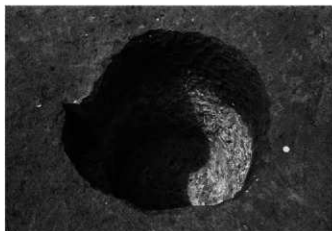
5-4号掘立柱建物跡P-6(5-1145号土坑)全景(南より)



5-5号掘立柱建物跡全景(南より)



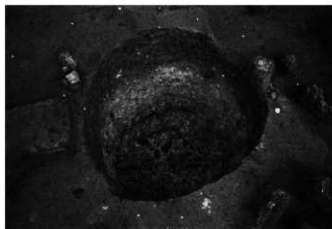
5-5号掘立柱建物跡P-1(5-1140号土坑)セクション(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-1(5-1140号土坑)全景(南より)



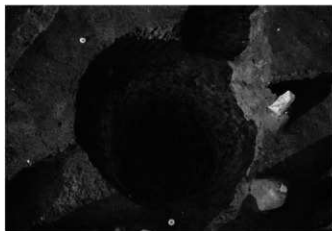
5-5号掘立柱建物跡P-2(5-1215号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-2(5-1215号土坑)全景(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-3(5-1216号土坑)セクション(南東より)



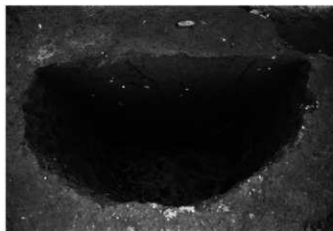
5-5号掘立柱建物跡P-3(5-1216号土坑)全景(南東より)



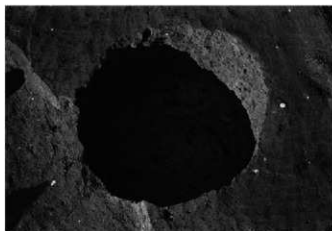
5-5号掘立柱建物跡P-4(5-1222号土坑)セクション(南東より)



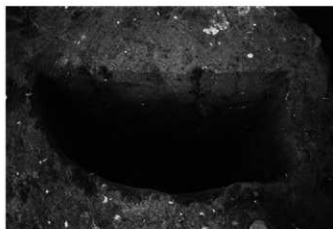
5-5号掘立柱建物跡P-4(5-1222号土坑)全景(南より)



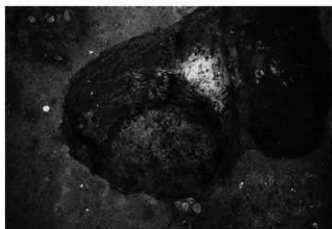
5-5号掘立柱建物跡P-5(5-1218号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-5(5-1218号土坑)全景(南より)



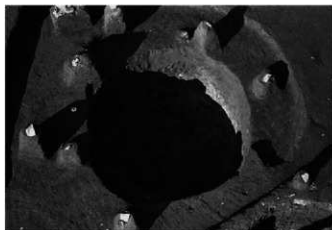
5-5号掘立柱建物跡P-6(5-1217号土坑)セクション(南東より)



5-5号掘立柱建物跡P-6(5-1217号土坑)全景(南より)



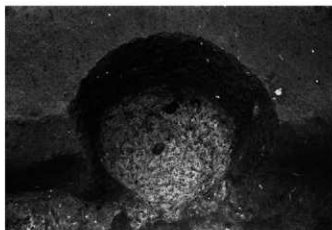
5-5号掘立柱建物跡P-7(5-1219号土坑)根巻き石(南東より)



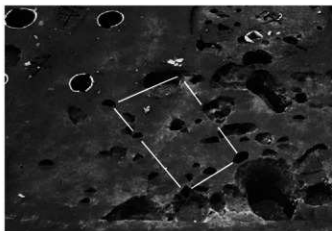
5-5号掘立柱建物跡P-7(5-1219号土坑)全景(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-8(5-1144号土坑)セクション(南より)



5-5号掘立柱建物跡P-8(5-1144号土坑)全景(南より)



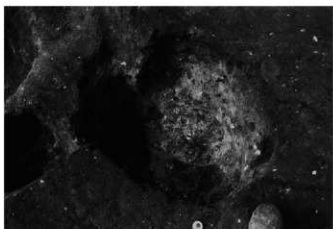
5-8号掘立柱建物跡全景(北より)



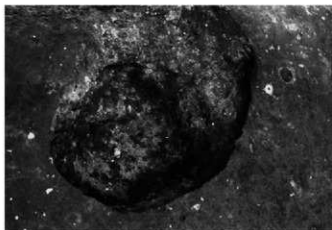
5-8号掘立柱建物跡P-1(5-1185号土坑)セクション(南より)



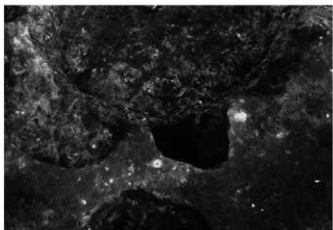
5-8号掘立柱建物跡P-1(5-1185号土坑)全景(南より)



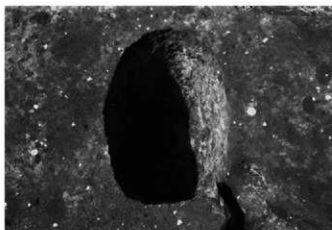
5-8号掘立柱建物跡P-2(5-1175号土坑)全景(南より)



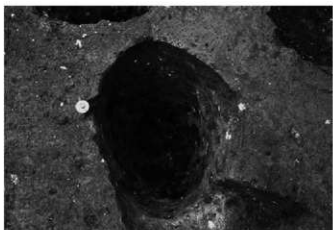
5-8号掘立柱建物跡P-3(5-1166号土坑)全景(南より)



5-8号掘立柱建物跡P-4(5-1162号土坑)全景(南より)



5-8号掘立柱建物跡P-5(5-1171号土坑)全景(南より)



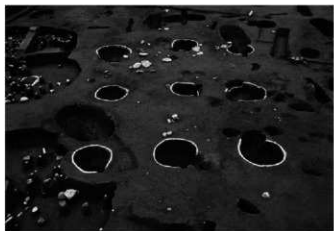
5-8号掘立柱建物跡P-6(5-1181号土坑)全景(南より)



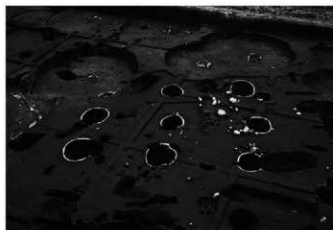
95-3号掘立柱建物跡全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡検出前状況(南より)



95-3号掘立柱建物跡全景(南より)



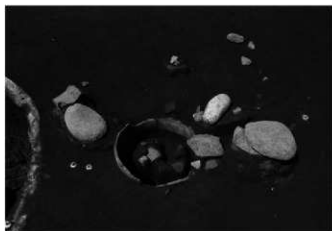
95-3号掘立柱建物跡全景(東より)



95-3号掘立柱建物跡が全景(南より)



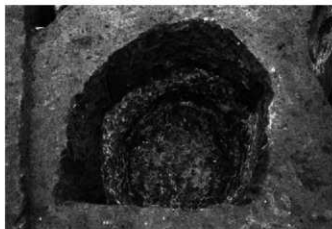
95-3号掘立柱建物跡切セクション(東より)



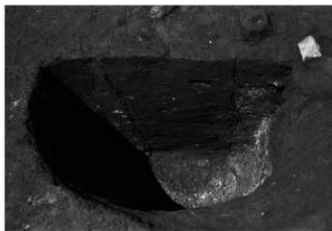
95-3号掘立柱建物跡埋裏(95-2号埋裏)全景(東より)



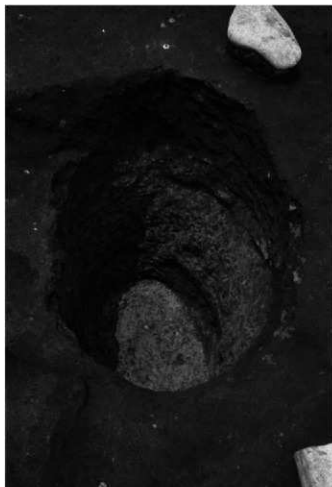
95-3号掘立柱建物跡P-1(95-94号土坑)セクション(南東より)



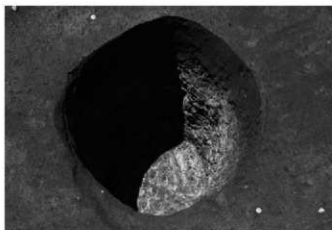
95-3号掘立柱建物跡P-1(95-94号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-2(95-97号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-3(95-104号土坑)全景(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-2(95-97号土坑)全景(北東より)



95-3号掘立柱建物跡P-3 (95-104号土坑)セクション(北より)



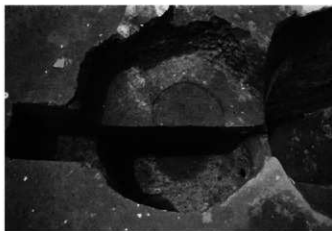
95-3号掘立柱建物跡P-4 (95-103号土坑)セクション(西より)



95-3号掘立柱建物跡P-4 (95-103号土坑)全景(南より)



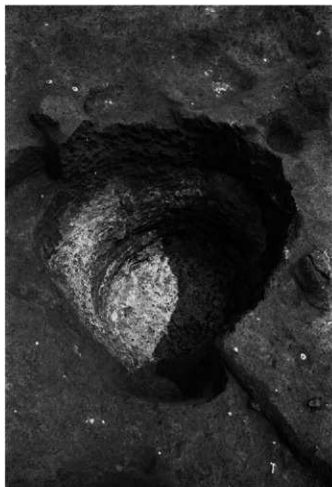
95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-5 (95-101号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-6 (95-100号土坑)全景(南西より)



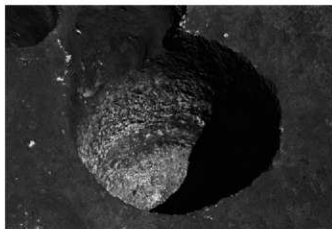
95-3号掘立柱建物跡P-6(95-100号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-6(95-100号土坑)柱痕掘出状況(東より)



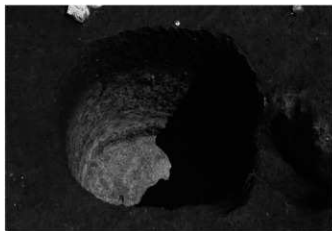
95-3号掘立柱建物跡P-7(95-96号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-7(95-96号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-8(95-95号土坑)セクション(東より)



95-3号掘立柱建物跡P-8(95-95号土坑)全景(南より)



95-3号掘立柱建物跡P-9(95-105号土坑)セクション(北より)

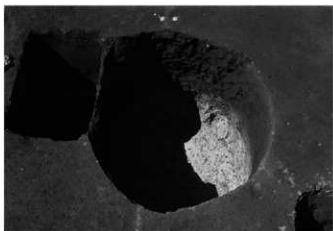


95-3号掘立柱建物跡P-9(95-105号土坑)全景(北より)

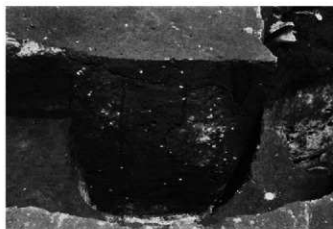




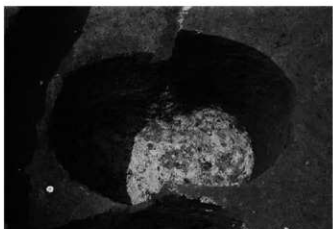
95-4号掘立柱建物跡全景(東より)



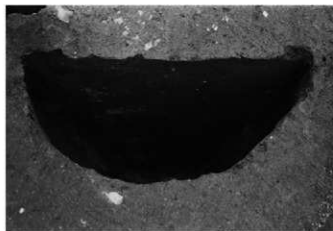
95-4号掘立柱建物跡P-1(95-98号土坑)全景(北より)



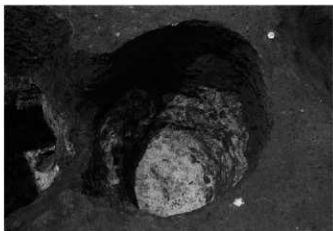
95-4号掘立柱建物跡P-2(95-109号土坑)セクション(西より)



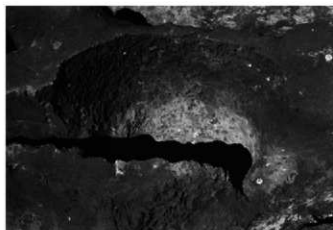
95-4号掘立柱建物跡P-2(95-109号土坑)全景(南より)



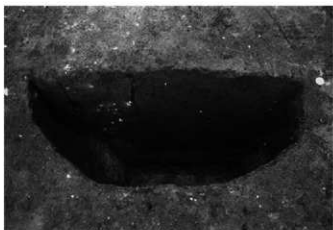
95-4号掘立柱建物跡P-4(95-110号土坑)セクション(北東より)



95-4号掘立柱建物跡P-4(95-110号土坑)全景(東より)



95-4号掘立柱建物跡P-5(95-265号土坑)全景(西より)



95-4号掘立柱建物跡P-6(95-99号土坑)セクション(西より)



5-15号埋喪セクション(南より)



95-1号埋喪セクション(西より)



95-1号埋喪断面(南東より)



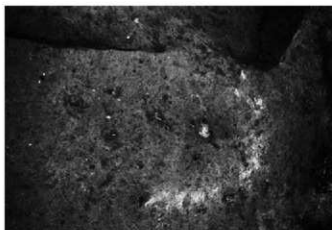
95-3号埋喪セクション(南より)



95-3号埋喪出土状況(南より)



95-4号埋喪セクション(東より)



95-1号焼土検出状況(南より)



95-1号焼土遺物出土状態(南より)



95-1号焼土全景(南より)



95-1号焼土セクション(南東より)



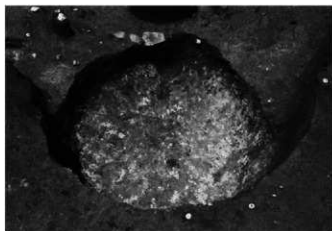
95-1号焼土下セクション(南より)



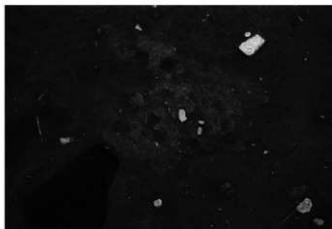
95-1号焼土下土坑遺物出土状態(南より)



95-1号焼土下土坑遺物出土状態(南より)



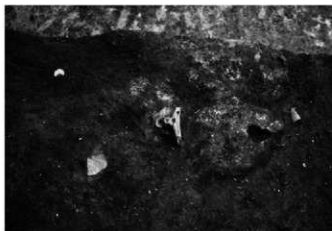
95-1号焼土下土坑全景(東より)



95-7号焼土全景(南より)



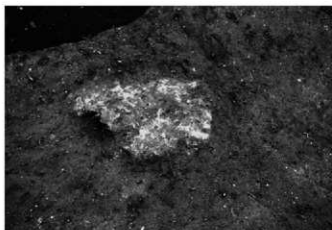
95-7号焼土セクション(西より)



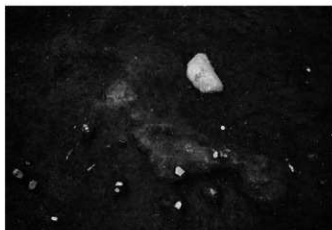
95-10号焼土(東より)



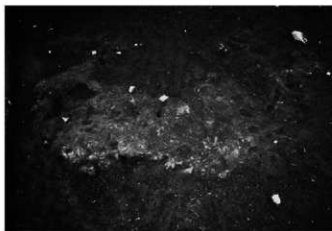
95-11号焼土(南西より)



95-12号焼土(南より)



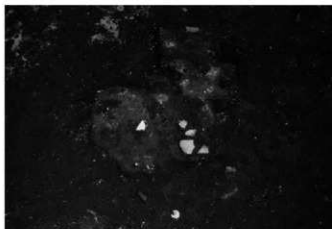
95-13号焼土(南より)



95-14号焼土(南より)



95-14号焼土セクション(東より)



95-15号焼土(南より)



95-16号焼土(南より)



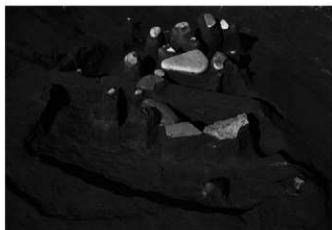
95-17号炉セクション(南より)



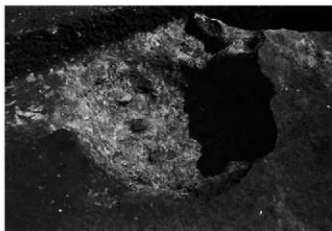
95-17号炉全景(南より)



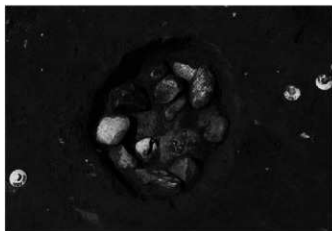
95-1号配石全景(東より)



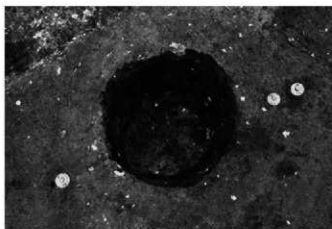
95-2号配石セクション(西より)



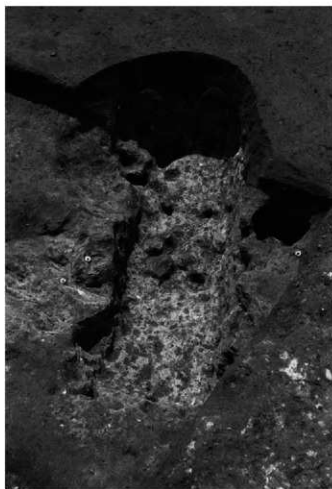
5-99号土坑全景(南東より)



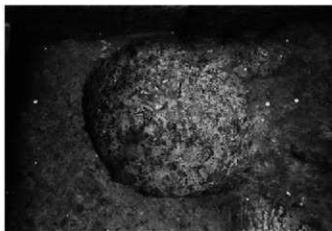
5-1120号土坑全景(南より)



5-1120号土坑全景(南より)



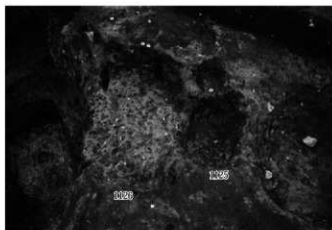
5-1121号土坑全景(北東より)



5-1123号土坑全景(東より)



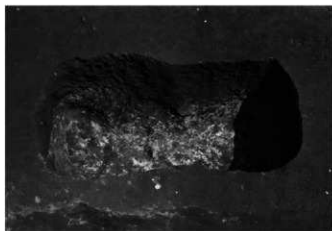
5-1124号土坑全景(南より)



5-1125・1126号土坑全景(南より)



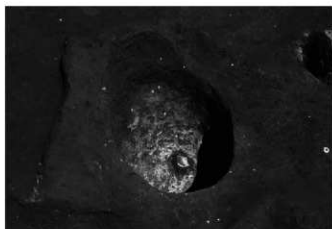
5-1128号土坑セクション(西より)



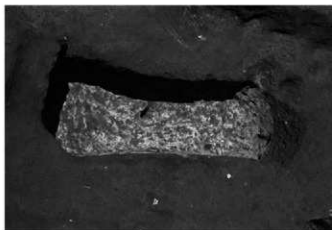
5-1128号土坑全景(南より)



5-1129号土坑全景(南より)



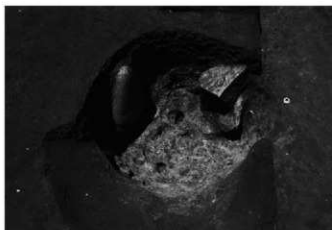
5-1130号土坑全景(南より)



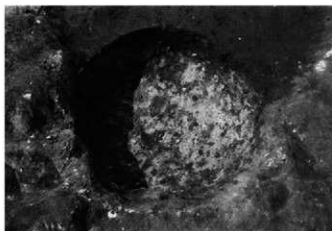
5-1131号土坑全景(東より)



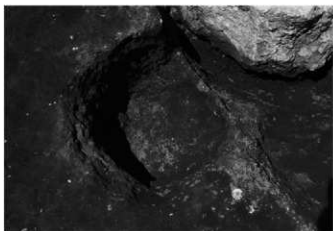
5-1133号土坑全景(南より)



5-1132号土坑全景(東より)



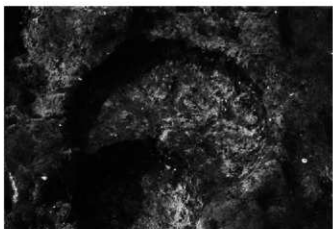
5-1134号土坑全景(南より)



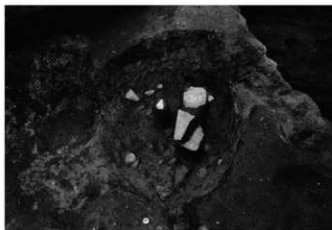
5-1135号土坑全景(南より)



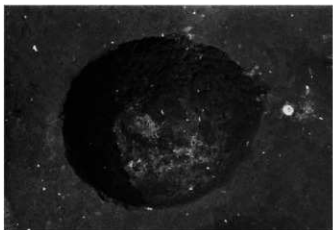
5-1136号土坑全景(南より)



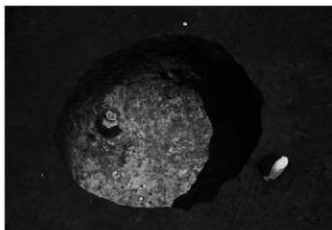
5-1137号土坑全景(南より)



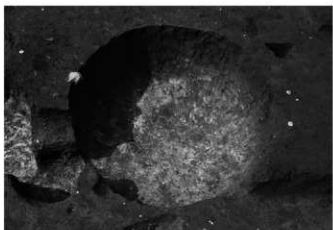
5-1138号土坑遺物出土状態(南より)



5-1139号土坑全景(南より)

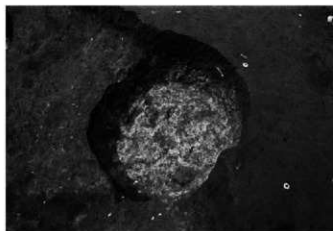


5-1142号土坑全景(南より)

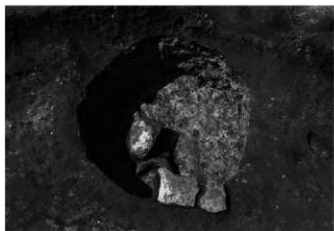


5-1143号土坑全景(南より)





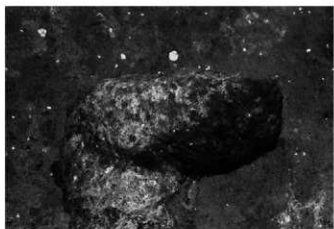
5-1150号土坑全景(南より)



5-1151号土坑全景(南より)



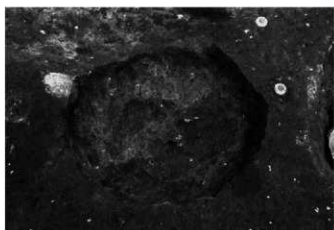
5-1152号土坑遺物出土状態(南より)



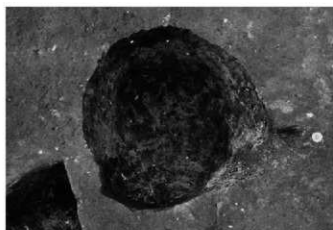
5-1153号土坑全景(南東より)



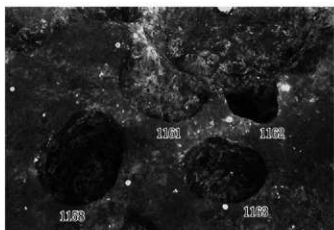
5-1154・1155号土坑全景(南より)



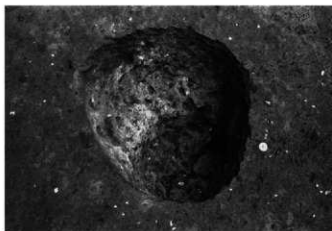
5-1156号土坑全景(南より)



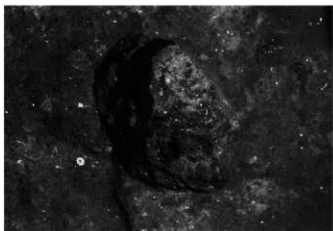
5-1157号土坑全景(南より)



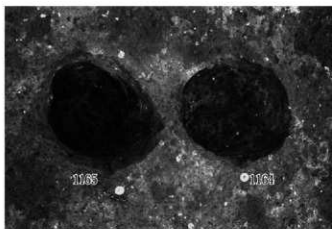
5-1158・1161・1162・1163号土坑全景(南より)



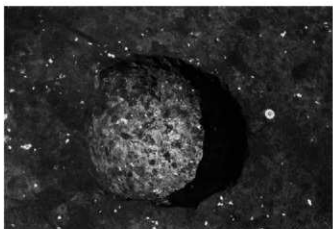
5-1159号土坑全景(南より)



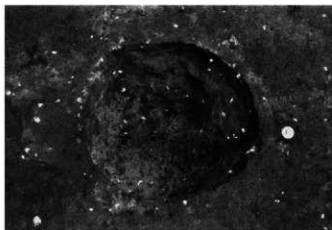
5-1160号土坑全景(南より)



5-1164・1165号土坑全景(南より)



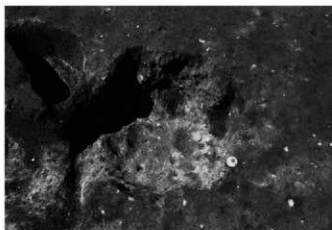
5-1167号土坑全景(南より)



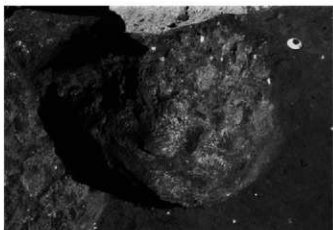
5-1168号土坑全景(南より)



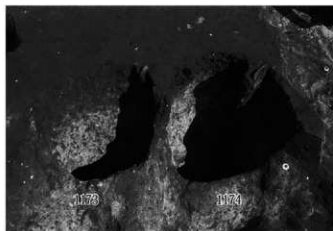
5-1169号土坑全景(南西より)



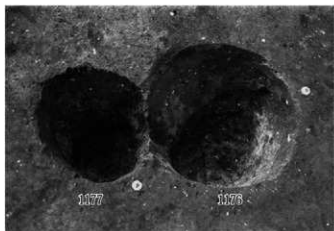
5-1170号土坑全景(南より)



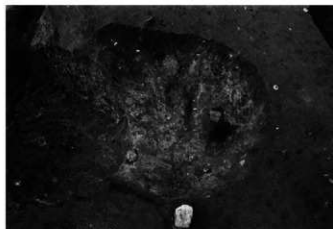
5-1172号土坑全景(南より)



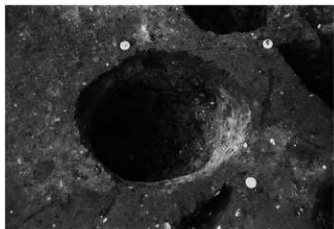
5-1173・1174号土坑全景(北西より)



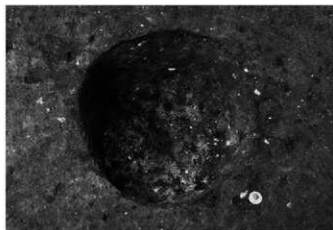
5-1176・1177号土坑全景(南東より)



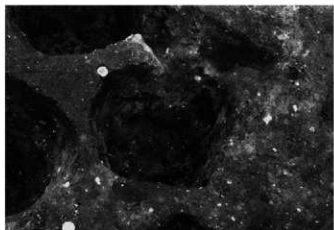
5-1178号土坑全景(南より)



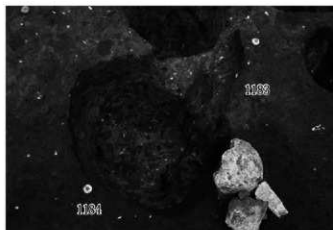
5-1179号土坑全景(南より)



5-1180号土坑全景(南より)



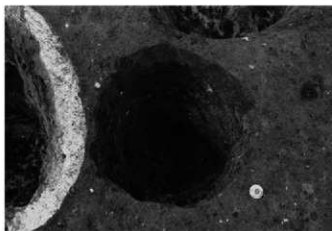
5-1182号土坑全景(南より)



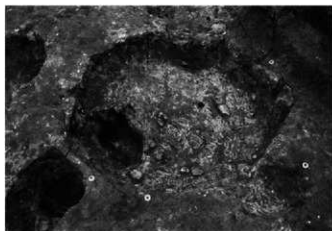
5-1183・1184号土坑全景(南より)



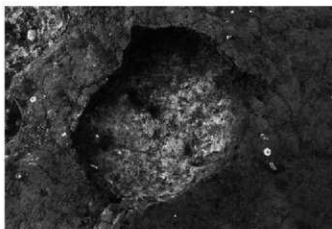
5-1186号土坑全景(南より)



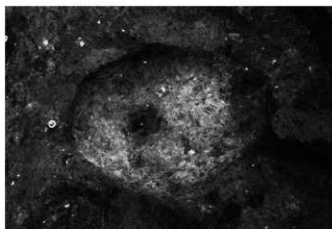
5-1187号土坑全景(南より)



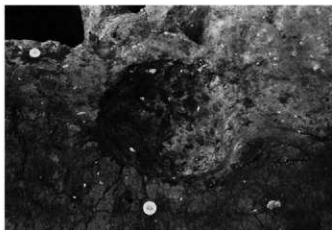
5-1188号土坑全景(南より)



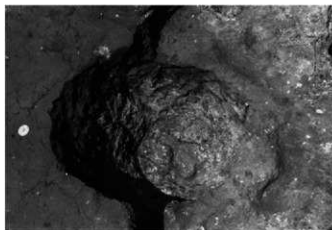
5-1189号土坑全景(南より)



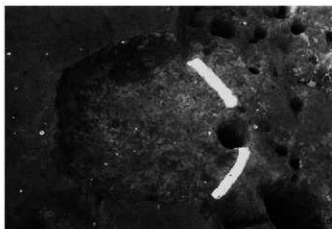
5-1190号土坑全景(南より)



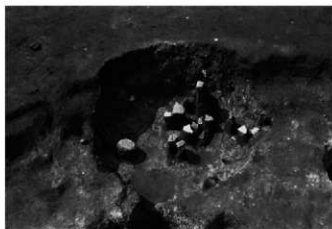
5-1191号土坑全景(南より)



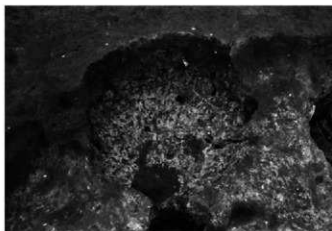
5-1192号土坑全景(南東より)



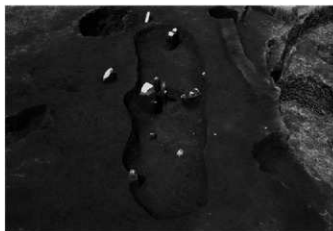
5-1193号土坑全景(南より)



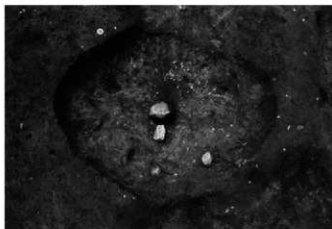
5-1194号土坑遺物出土状態(東より)



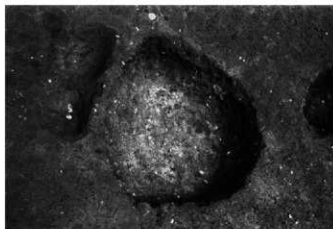
5-1194号土坑全景(東より)



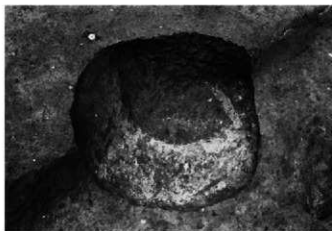
5-1195号土坑全景(南より)



5-1196号土坑全景(東より)



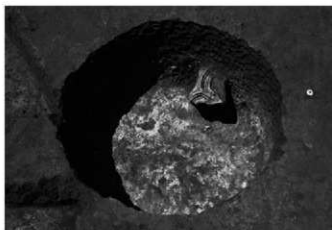
5-1197号土坑全景(南より)



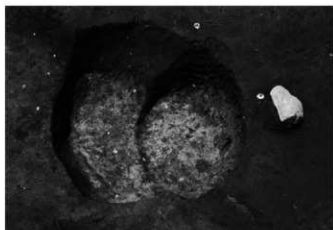
5-1198号土坑全景(南より)



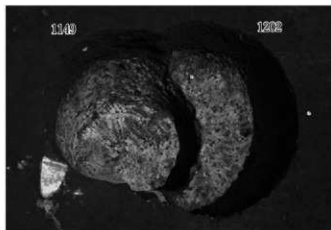
5-1199号土坑全景(南より)



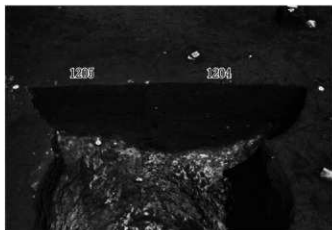
5-1200号土坑全景(東より)



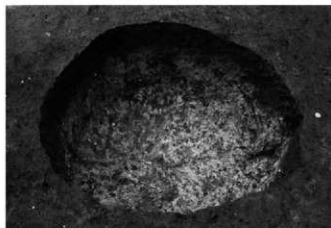
5-1201号土坑全景(東より)



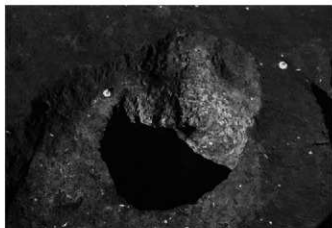
5-1149・1202号土坑全景(南より)



5-1204・1205号土坑セクション(南より)



5-1206号土坑全景(南より)



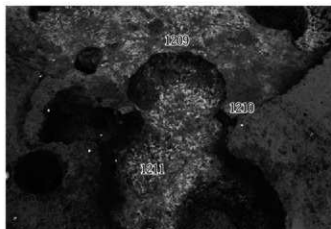
5-1207号土坑全景(南より)



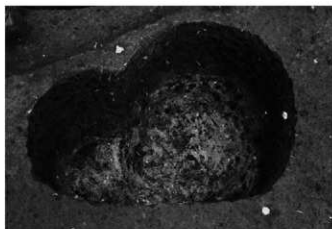
5-1208号土坑セクション(南より)



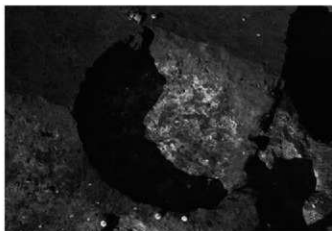
5-1209号土坑遺物出土状態(東より)



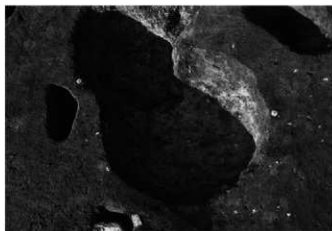
5-1209・1210・1211号土坑全景(南より)



5-1214号土坑全景(南より)



5-1220号土坑全景(南より)



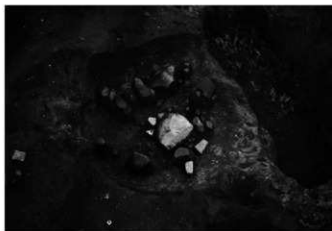
5-1221号土坑全景(南より)



5-1223号土坑遺物出土状態(南より)



5-1224号土坑セクション(東より)



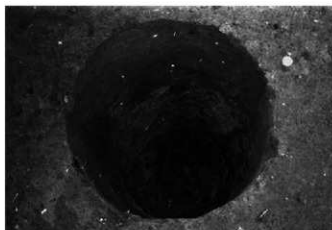
5-1224号土坑遺物出土状態(東より)



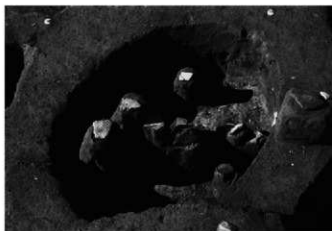
5-1225号土坑全景(西より)



5-1226号土坑セクション(北より)



5-1227号土坑全景(東より)



5-1228号土坑遺物出土状態(東より)



5-1228号土坑全景(東より)



5-1229号土坑全景(東より)



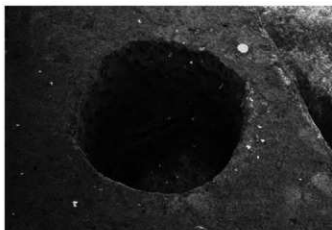
5-1230号土坑遺物出土状態(東より)



5-1231号土坑遺物出土状態(東より)



5-1232号土坑全景(東より)



5-1233号土坑全景(東より)



5-1234号土坑全景(東より)

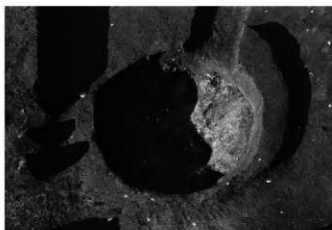




5-1235号土坑遺物出土状態(東より)



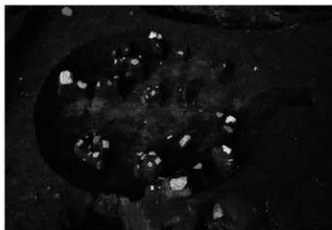
5-1236号土坑全景(南より)



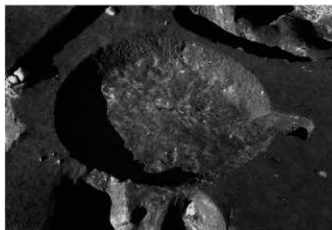
5-1237号土坑全景(東より)



5-1238号土坑全景(南より)



5-1239号土坑遺物出土状態(南より)



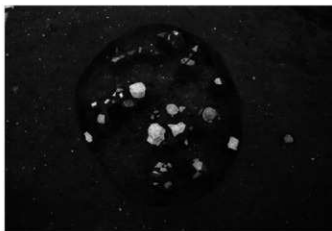
5-1239号土坑全景(南東より)



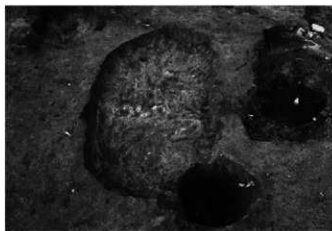
5-1240号土坑全景(南より)



5-1241号土坑遺物出土状態(南より)



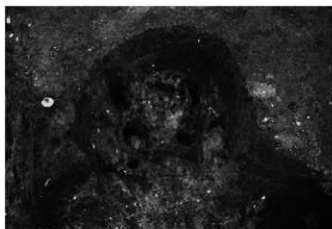
5-1242号土坑遺物出土状態(南より)



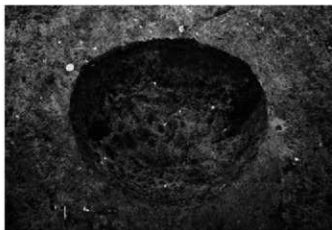
5-1243号土坑全景(南より)



5-1244号土坑全景(東より)



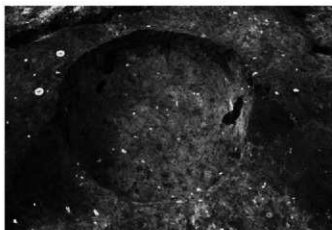
5-1245号土坑全景(南より)



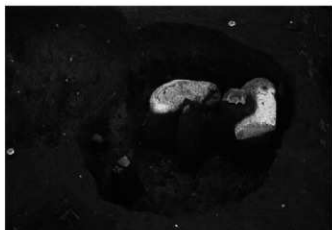
5-1246号土坑全景(南より)



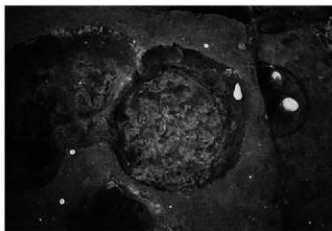
5-1247号土坑遺物出土状態(東より)



5-1247号土坑全景(東より)



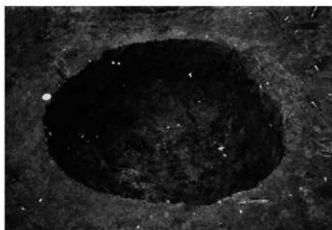
5-1248号土坑遺物出土状態(南より)



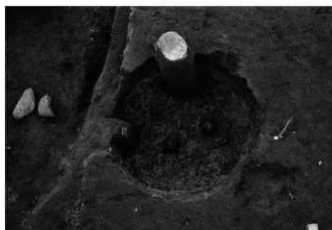
5-1248号土坑全景(南より)



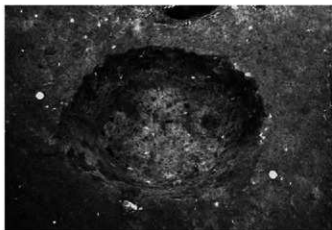
5-1249号土坑全景(南より)



5-1250号土坑全景(南より)



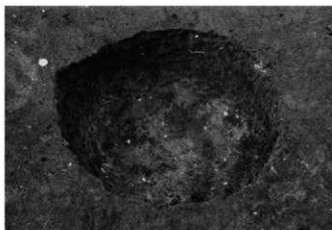
5-1251号土坑遺物出土状態(東より)



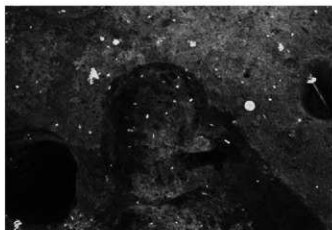
5-1252号土坑全景(南より)



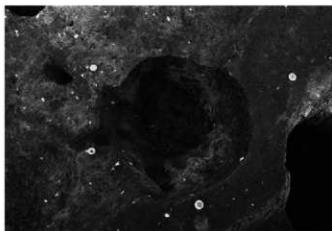
5-1253号土坑遺物出土状態(南より)



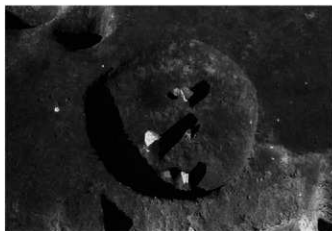
5-1254号土坑全景(南より)



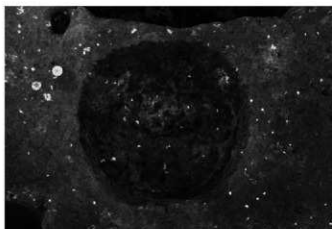
5-1255号土坑全景(東より)



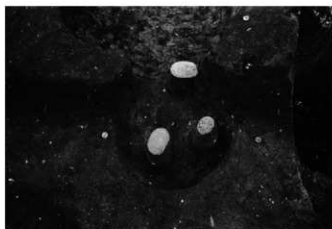
5-1256号土坑全景(南より)



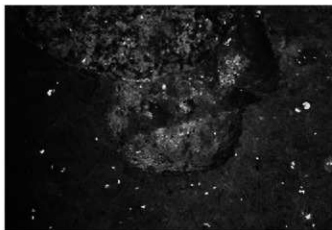
5-1257号土坑遺物出土状態(南東より)



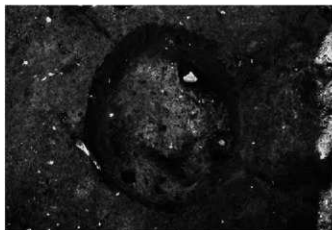
5-1258号土坑全景(南より)



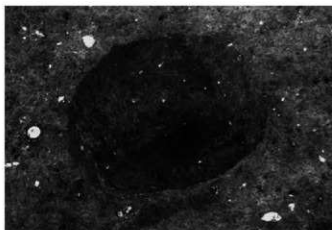
5-1259号土坑遺物出土状態(東より)



5-1260号土坑全景(東より)



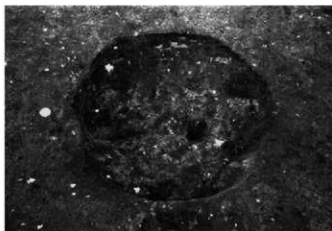
5-1261号土坑全景(南より)



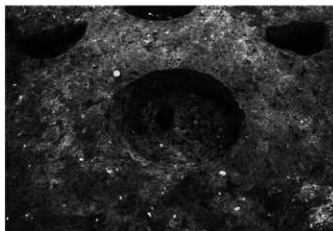
5-1262号土坑全景(南より)



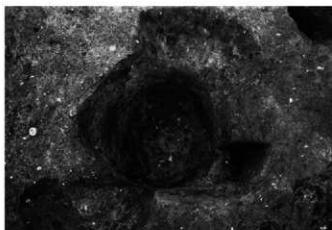
5-1263号土坑全景(南より)



5-1264号土坑全景(南より)



5-1265号土坑全景(南より)



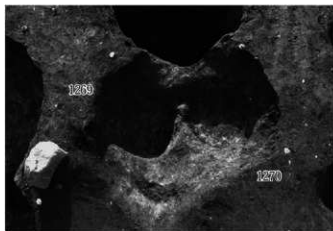
5-1266号土坑全景(南より)



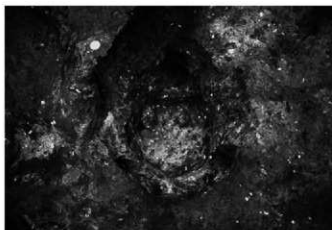
5-1267号土坑全景(南より)



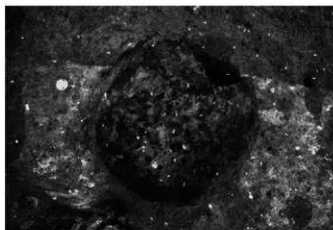
5-1268号土坑全景(東より)



5-1269・1270号土坑全景(東より)



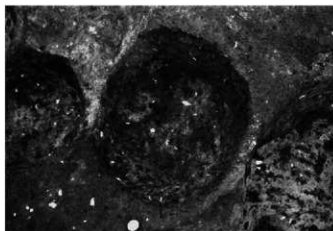
5-1271号土坑全景(南より)



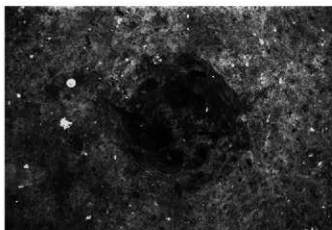
5-1272号土坑全景(南より)



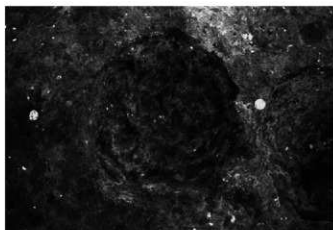
5-1273号土坑セクション(東より)



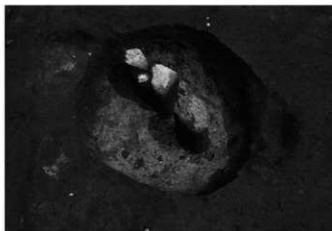
5-1273号土坑全景(南より)



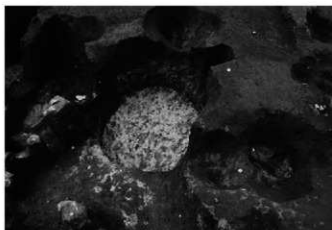
5-1274号土坑全景(南より)



5-1275号土坑全景(東より)



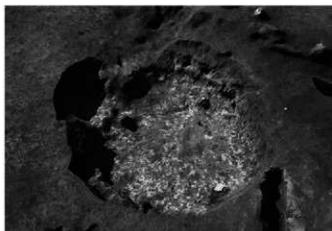
95-93号土坑全景(南より)



95-106号土坑全景(北より)



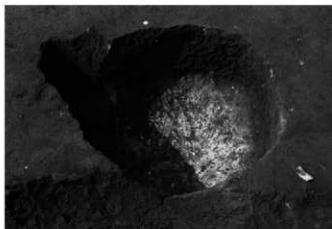
95-102号土坑全景(東より)



95-108号土坑全景(南より)



95-111号土坑全景(南より)



95-112号土坑全景(南より)



95-113号土坑遺物出土状態(南より)



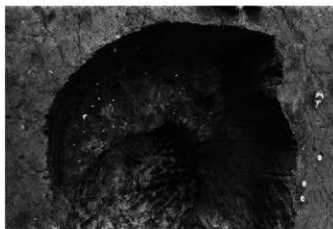
95-113号土坑遺物出土状態(南より)



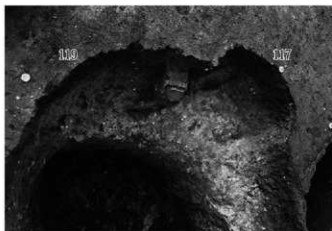
95-114号土坑全景(南より)



95-115号土坑全景(南より)



95-116号土坑全景(南より)



95-117・119号土坑全景(南西より)



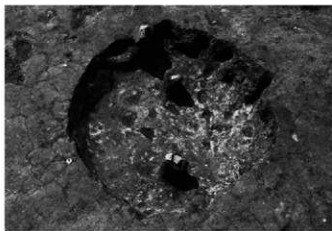
95-118号土坑全景(南より)



95-120号土坑セクション(南より)



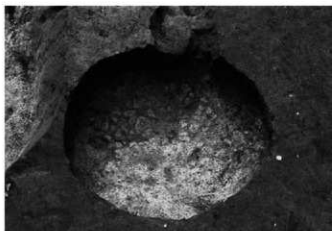
95-121号土坑セクション(東より)



95-122号土坑全景(南より)



95-123号土坑遺物出土状態(東より)

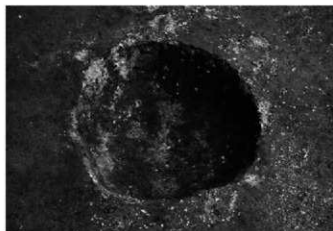


95-123号土坑全景(東より)

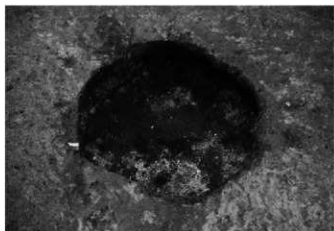


95-124号土坑全景(南より)

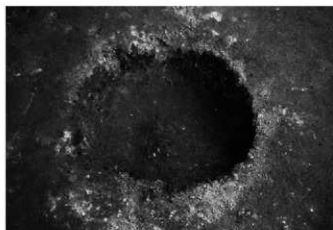




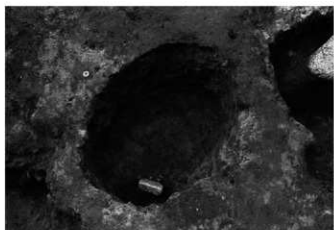
95-125号土坑全景(東より)



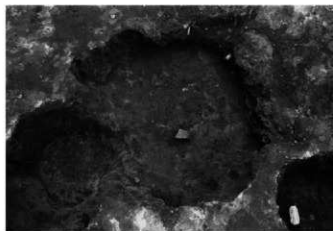
95-126号土坑全景(北より)



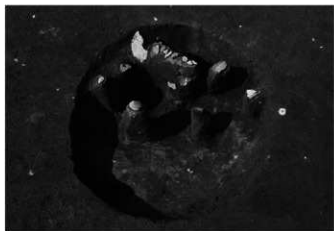
95-127号土坑全景(東より)



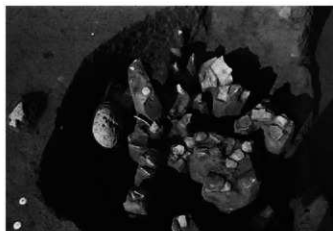
95-128号土坑全景(南より)



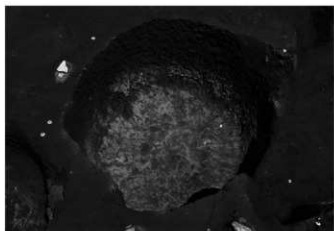
95-129号土坑全景(東より)



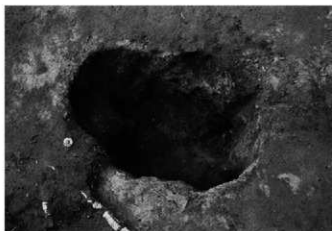
95-130号土坑遺物出土状態(南より)



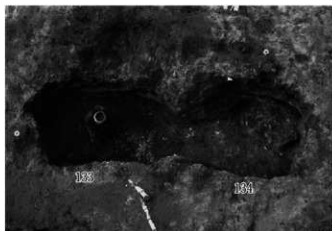
95-131号土坑遺物出土状態(南より)



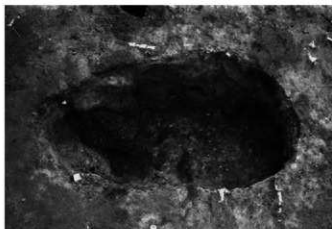
95-131号土坑全景(南より)



95-132号土坑全景(南より)



95-133・134号土坑全景(南より)



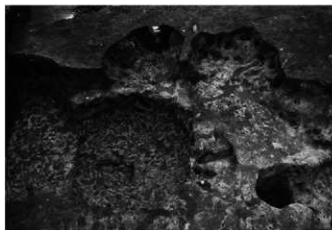
95-135号土坑全景(東より)



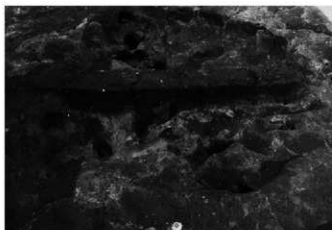
95-136号土坑全景(南より)



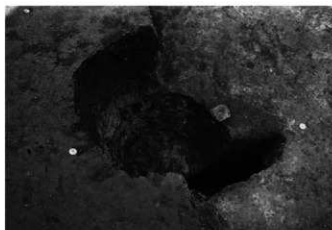
95-137号土坑遺物出土状態(東より)



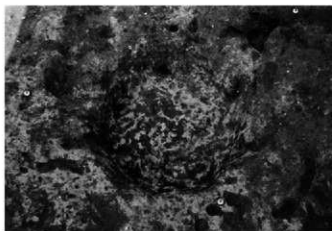
95-137号土坑全景(西より)



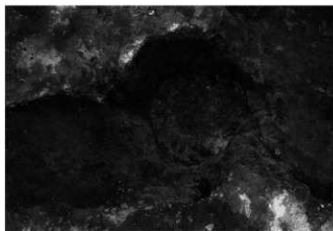
95-138号土坑セクション(東より)



95-139号土坑全景(南より)



95-140号土坑全景(南より)



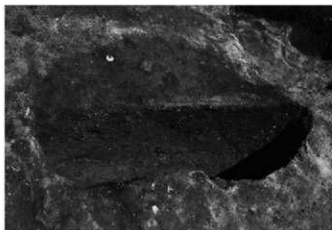
95-141号土坑全景(東より)



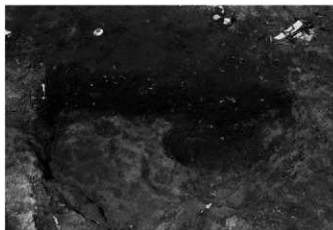
95-142号土坑遺物出土状態(南より)



95-143号土坑セクション(南より)



95-144号土坑セクション(南より)



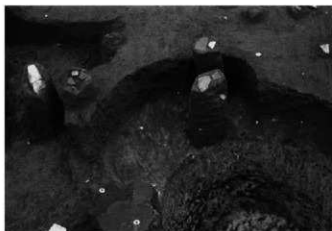
95-145号土坑セクション(南より)



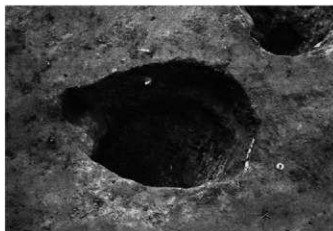
95-146号土坑セクション(南より)



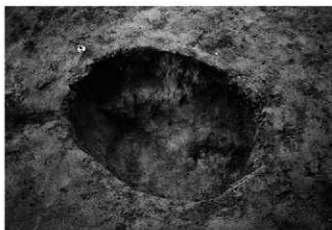
95-147号土坑セクション(南より)



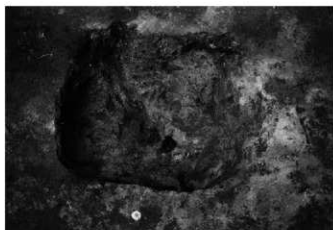
95-148号土坑全景(南より)



95-149号土坑全景(南より)



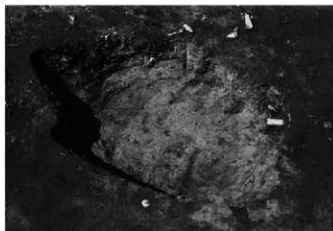
95-150号土坑全景(南より)



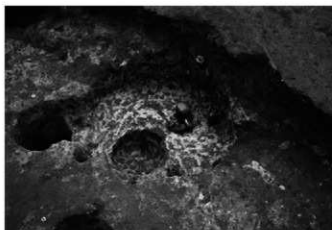
95-151号土坑全景(南より)



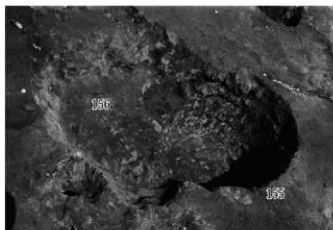
95-152号土坑全景(南より)



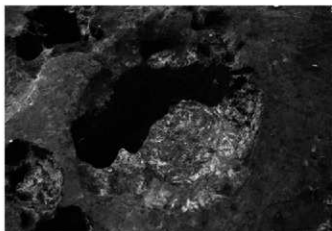
95-153号土坑全景(南より)



95-154号土坑遺物出土状態(西より)



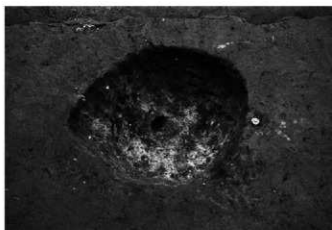
95-155・156号土坑全景(南より)



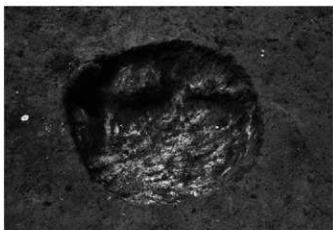
95-157号土坑全景(東より)



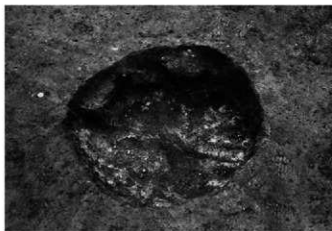
95-159号土坑全景(東より)



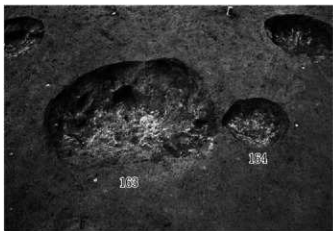
95-160号土坑全景(南より)



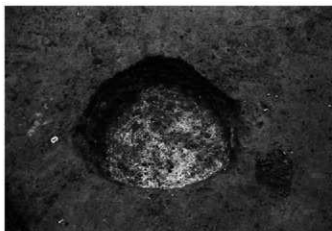
95-161号土坑全景(南より)



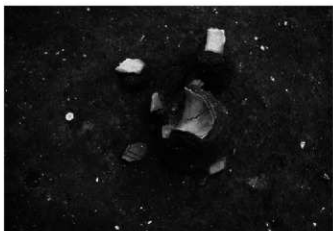
95-162号土坑全景(東より)



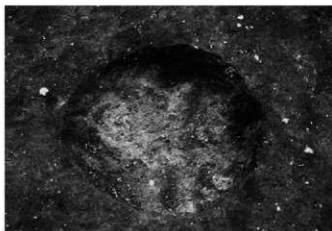
95-163・164号土坑全景(南より)



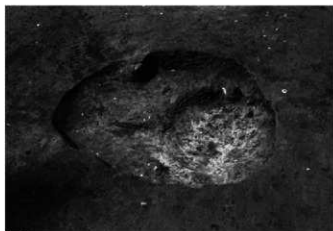
95-165号土坑全景(南より)



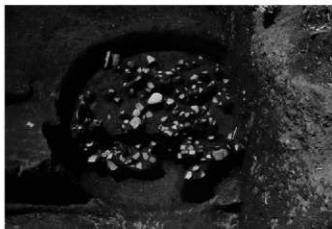
95-166号土坑遺物出土状態(南より)



95-166号土坑全景(南より)



95-167号土坑全景(南より)



95-168号土坑遺物出土状態(南より)



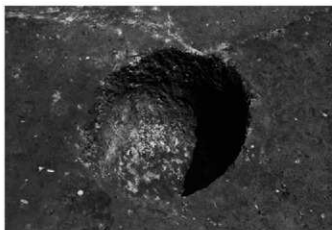
95-168号土坑全景(南より)



95-169号土坑全景(南より)



95-170号土坑全景(北より)



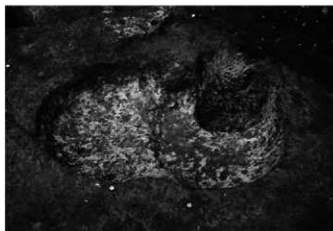
95-171号土坑全景(南より)



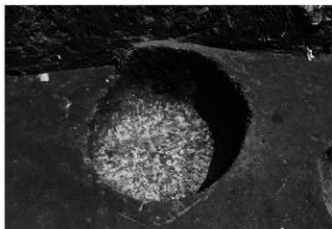
95-172号土坑全景(西より)



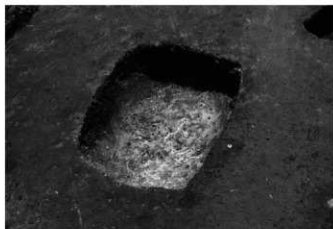
95-173号土坑セクション(北より)



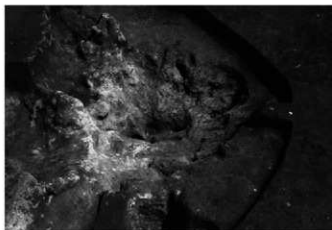
95-174号土坑全景(北より)



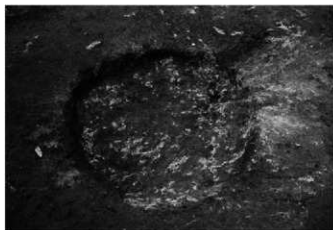
95-175号土坑全景(南より)



95-176号土坑全景(西より)



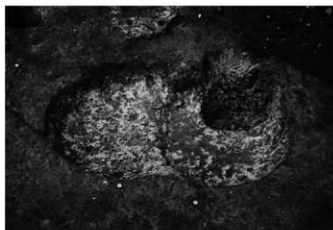
95-178号土坑全景(南より)



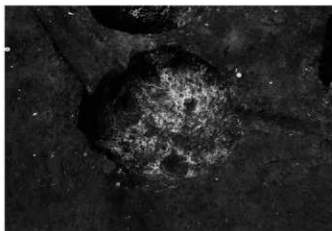
95-179号土坑全景(南より)



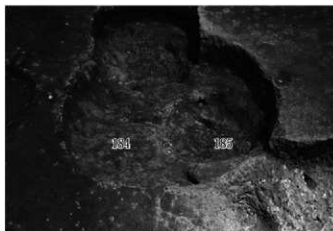
95-180号土坑全景(南より)



95-182号土坑全景(北より)



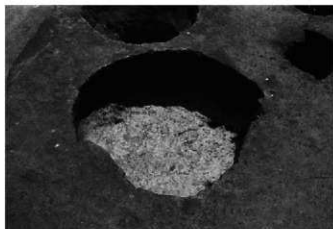
95-183号土坑全景(北より)



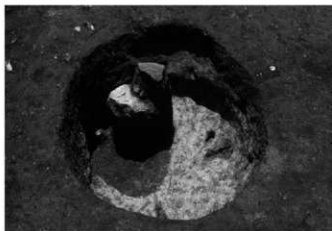
95-184・185号土坑全景(南より)



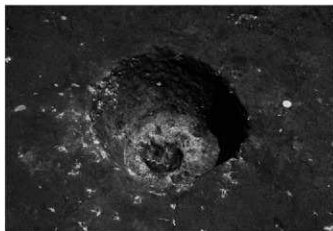
95-186号土坑遺物出土状態(東より)



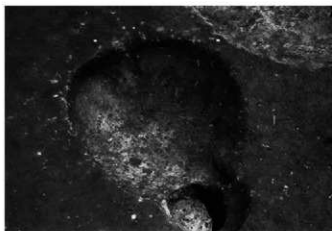
95-186号土坑全景(西より)



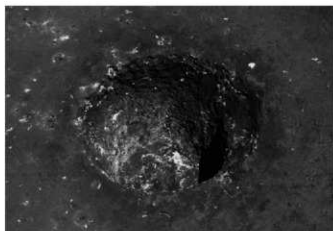
95-189号土坑遺物出土状態(北より)



95-190号土坑全景(南より)

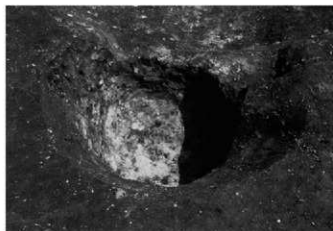


95-191号土坑全景(南より)



95-192号土坑全景(南より)

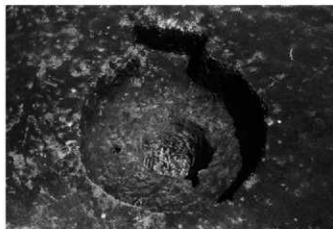




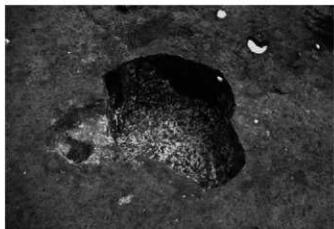
95-193号土坑全景(南より)



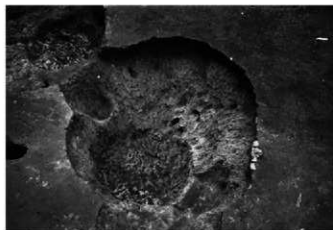
95-194号土坑全景(南より)



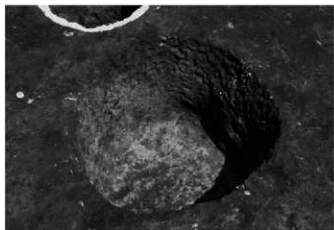
95-195号土坑全景(南より)



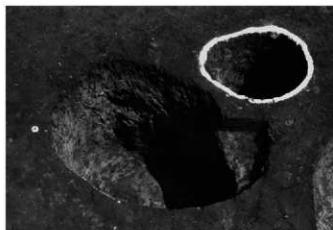
95-196号土坑全景(南より)



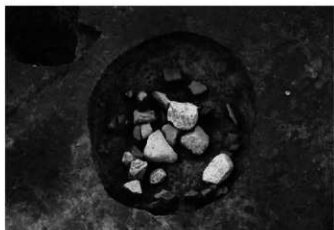
95-197号土坑全景(南より)



95-198号土坑全景(南より)



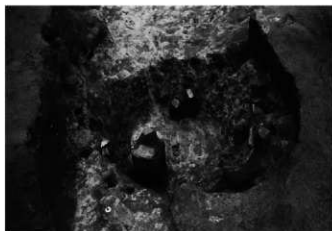
95-199号土坑全景(南より)



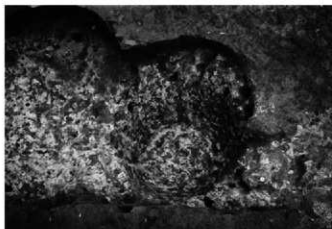
95-200号土坑遺物出土状態(南西より)



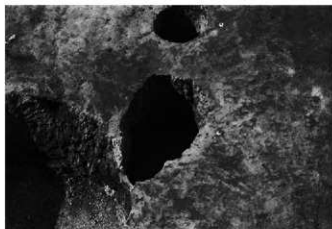
95-201号土坑全景(南より)



95-202号土坑遺物出土状態(南より)



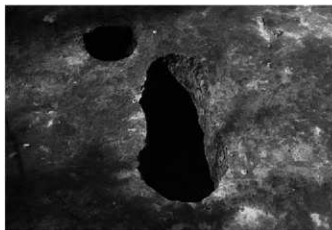
95-202号土坑全景(南より)



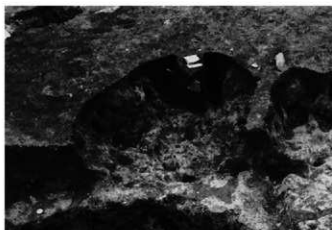
95-203号土坑全景(南より)



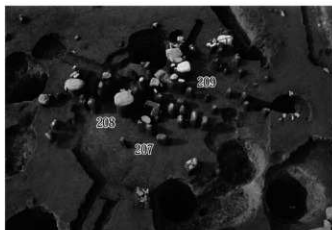
95-204号土坑全景(南より)



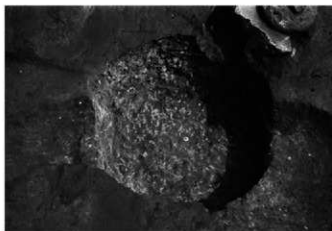
95-205号土坑全景(南より)



95-206号土坑全景(西より)



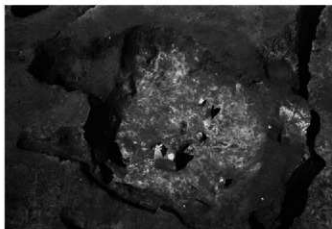
95-207・208・209号土坑遺物出土状態(南より)



95-208号土坑全景(南より)



95-210号土坑セクション(南より)



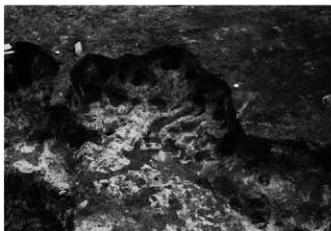
95-211号土坑遺物出土状態(南より)



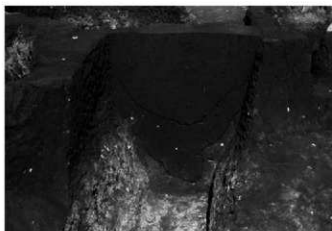
95-212号土坑遺物出土状態(西より)



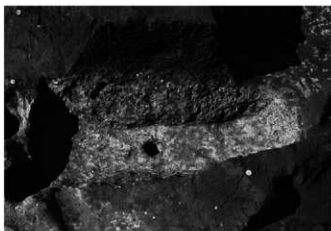
95-212号土坑全景(東より)



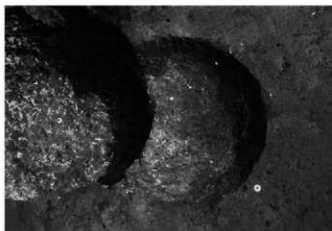
95-213号土坑全景(西より)



95-214号土坑セクション(西より)



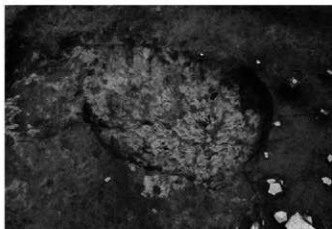
95-214号土坑全景(南より)



95-215号土坑全景(南より)



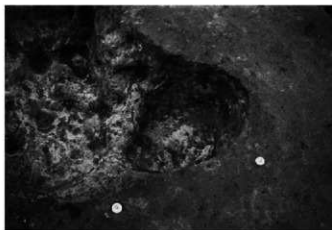
95-216号土坑遺物出土状態(南より)



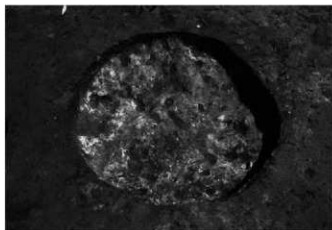
95-216号土坑全景(南より)



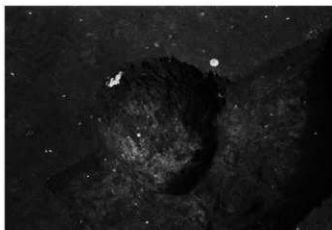
95-217号土坑石棒出土状態(東より)



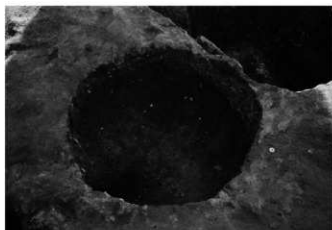
95-218号土坑全景(南より)



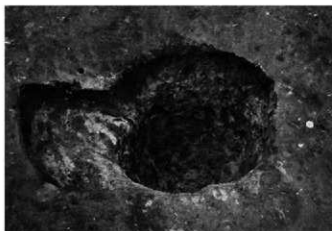
95-219号土坑全景(南より)



95-220号土坑全景(南より)



95-222号土坑全景(東より)



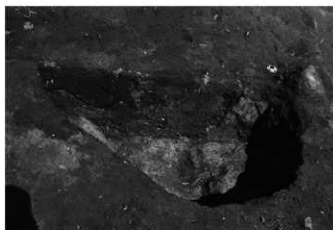
95-223号土坑全景(南より)



95-224号土坑セクション(東より)



95-225号土坑セクション(南より)



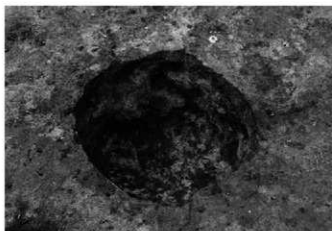
95-226号土坑セクション(南より)



95-227号土坑セクション(南より)



95-224 ~ 227号土坑全景(南より)



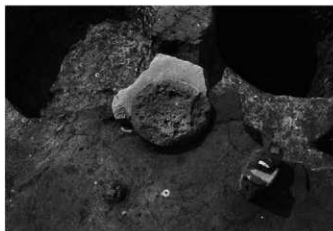
95-228号土坑全景(東より)



95-229号土坑全景(東より)



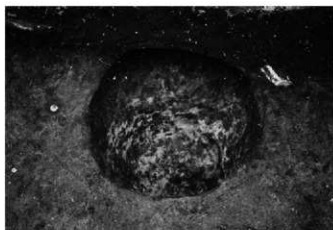
95-230号土坑セクション(西より)



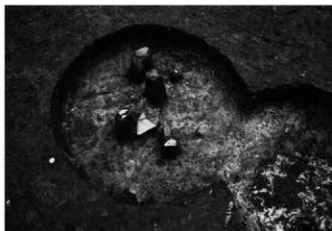
95-230号土坑遺物出土状態(東より)



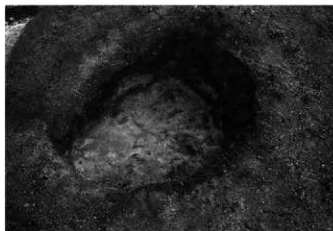
95-230号土坑全景(南より)



95-231号土坑全景(南より)



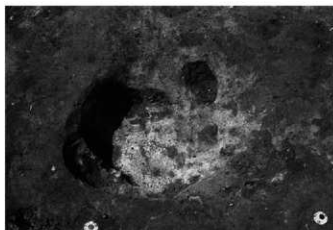
95-232号土坑遺物出土状態(南西より)



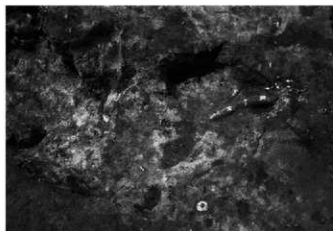
95-233号土坑全景(東より)



95-234号土坑セクション(北より)



95-234号土坑全景(東より)



95-235号土坑全景(東より)



95-236号土坑セクション(東より)



95-237号土坑セクション(東より)



95-238号土坑全景(東より)



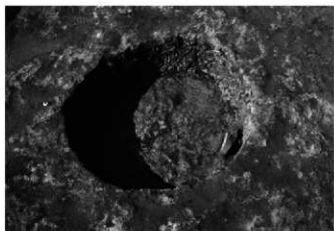
95-239号土坑遺物出土状態(南より)



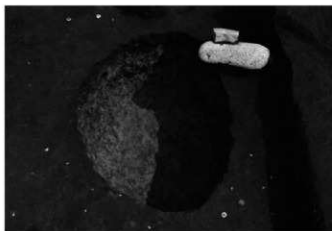
95-239号土坑全景(南より)



95-240号土坑全景(南より)



95-241号土坑全景(南より)



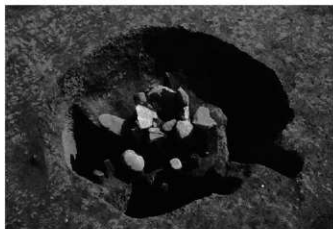
95-243号土坑全景(南より)



95-244号土坑全景(南より)



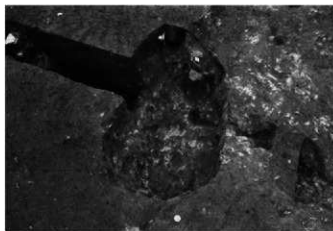
95-245号土坑セクション(東より)



95-246号土坑遺物出土状態(西より)



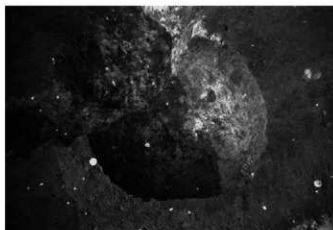
95-246号土坑全景(南より)



95-247号土坑全景(南より)

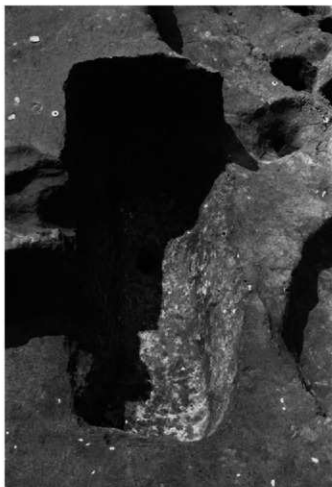


95-248号土坑セクション(南より)

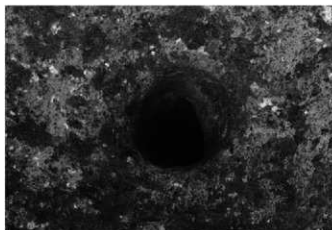


95-249号土坑全景(南より)

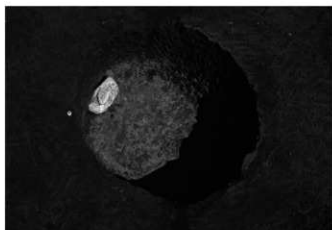




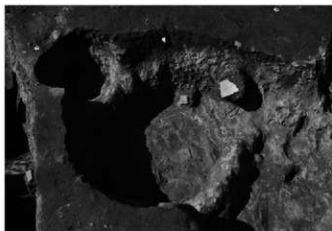
95-250号土坑全景(北東より)



95-250号土坑底面ビット



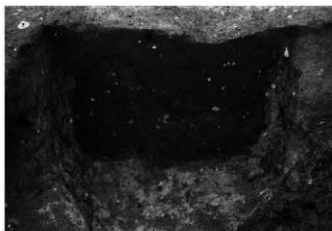
95-251号土坑全景(南西より)



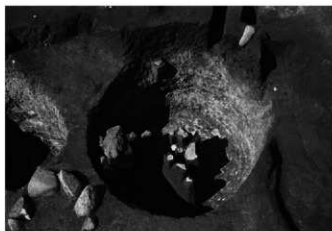
95-252号土坑全景(南より)



95-253号土坑セクション(東より)



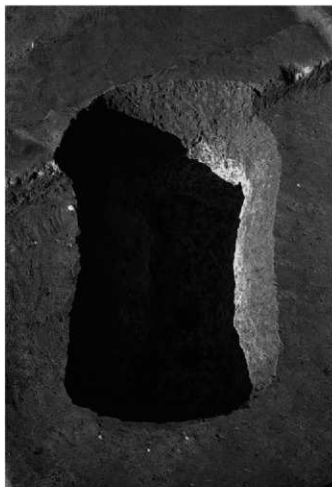
95-254号土坑セクション(北より)



95-255号土坑遺物出土状態(南より)



95-256号土坑セクション(北東より)



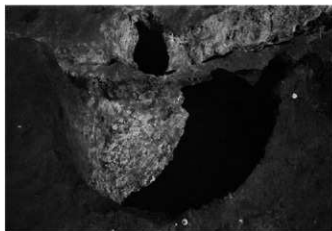
95-256号土坑全景(南西より)



95-256号土坑底面ビットセクション(北東より)



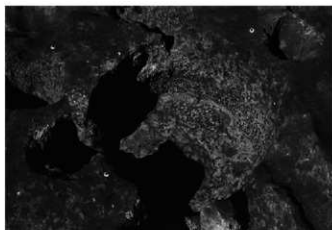
95-257号土坑遺物出土状態(東より)



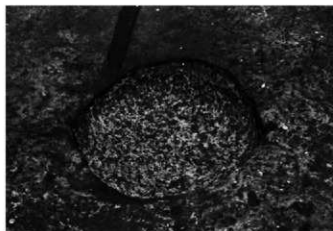
95-257号土坑全景(西より)



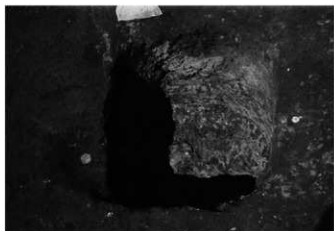
95-258号土坑全景(南より)



95-259号土坑全景(南より)



95-260号土坑全景(南より)



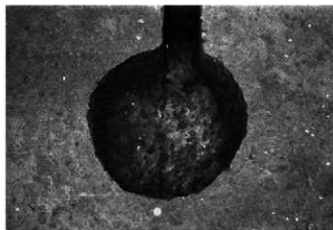
95-261号土坑全景(南より)



95-262号土坑全景(南より)



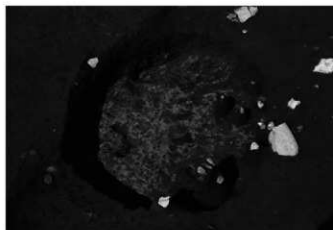
95-263号土坑全景(南西より)



95-264号土坑全景(南より)



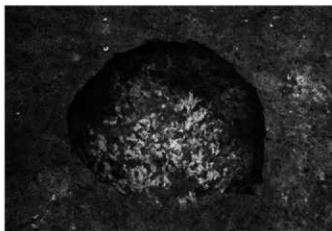
95-266号土坑全景(南より)



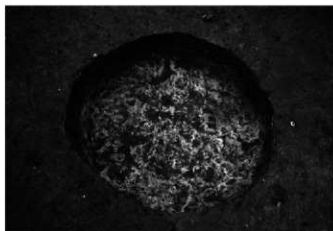
95-267号土坑遺物出土状態(南より)



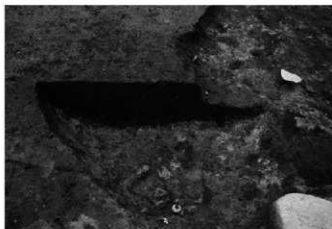
95-268号土坑遺物出土状態(南より)



95-269号土坑全景(南より)



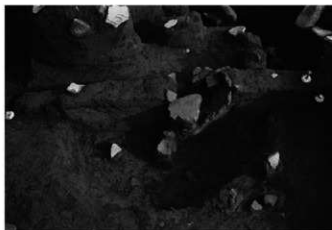
95-270号土坑全景(南より)



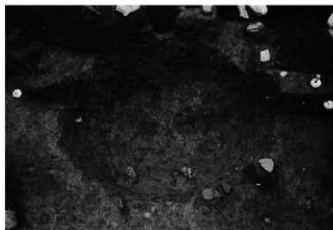
95-273号土坑セクション(南より)



95-274号土坑セクション(南より)



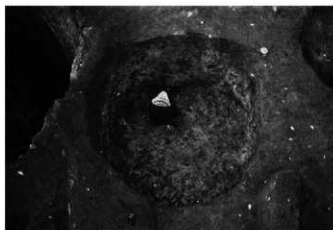
95-275号土坑セクション(北西より)



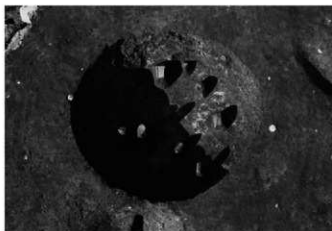
95-275号土坑全景(北西より)



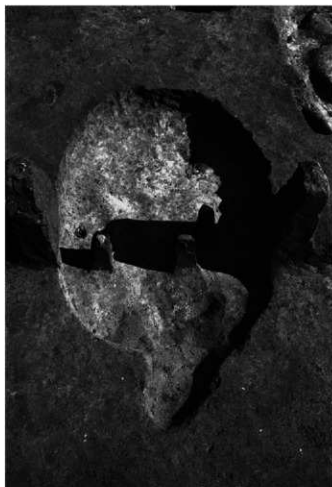
95-277号土坑全景(南より)



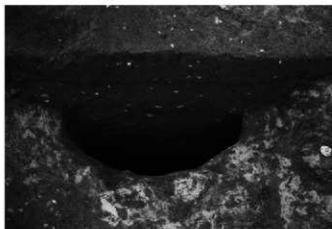
95-278号土坑全景(南より)



95-279号土坑遺物出土状態(南より)



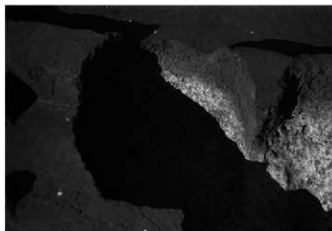
95-280号土坑全景(南西より)



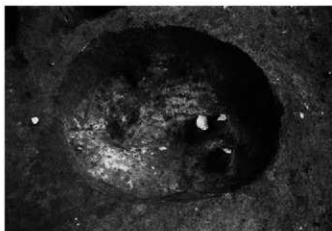
95-281号土坑セクション(東より)



95-282号土坑セクション(南東より)



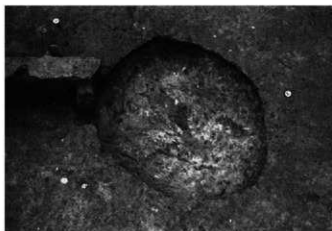
95-282号土坑全景(南より)



95-283号土坑全景(西より)



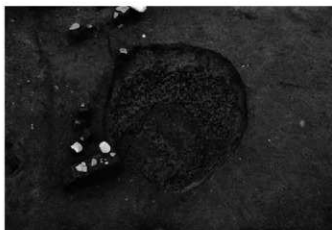
95-284号土坑全景(南より)



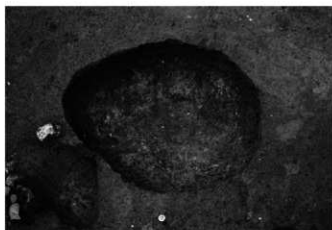
95-285号土坑全景(南より)



95-286号土坑セクション(東より)



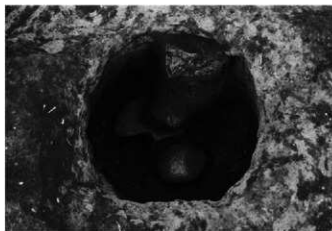
95-286号土坑全景(南より)



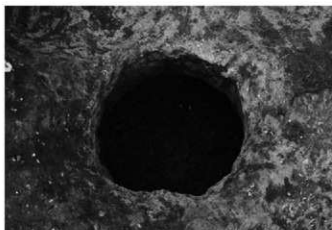
95-287号土坑全景(南より)



95-288号土坑遺物出土状態(南より)



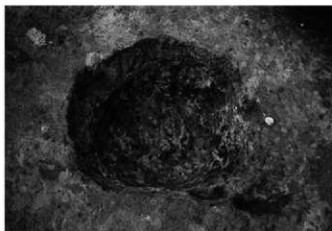
95-289号土坑遺物出土状態(南より)



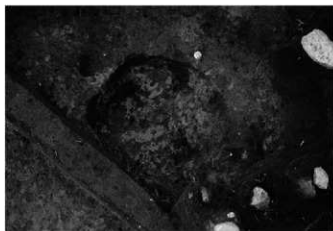
95-289号土坑全景(南より)



95-290号土坑遺物出土状態(東より)



95-291号土坑全景(南より)



95-292号土坑全景(南より)



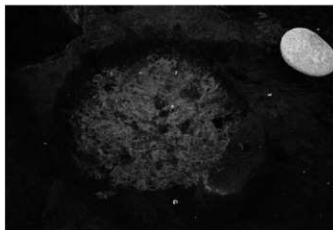
95-293号土坑セクション(東より)



95-293号土坑全景(南より)



95-294号土坑遺物出土状態(南より)



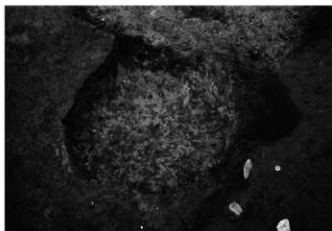
95-294号土坑全景(南より)



95-295号土坑全景(南より)



95-296号土坑遺物出土状態(南より)



95-297号土坑全景(南より)



95-298号土坑遺物出土状態(南より)



95-298号土坑全景(南より)



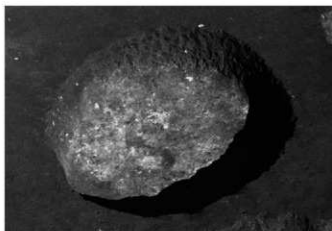
95-299号土坑遺物出土状態(南より)



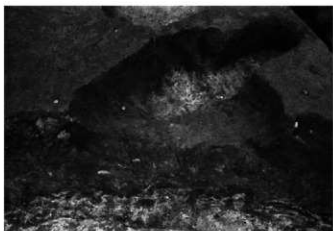
95-300号土坑全景(南より)



95-301号土坑全景(東より)

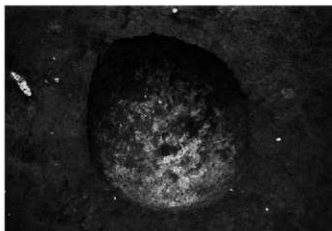


95-303号土坑全景(南西より)



95-304号土坑全景(南西より)

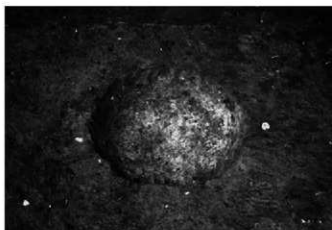




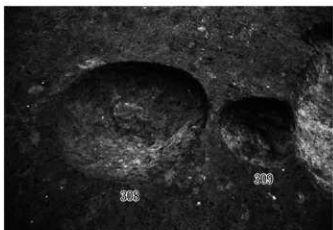
95-305号土坑全景(南より)



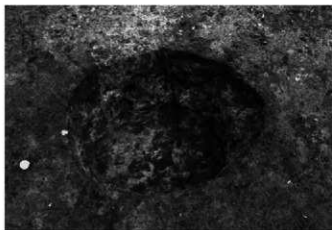
95-306号土坑全景(東より)



95-307号土坑全景(北より)



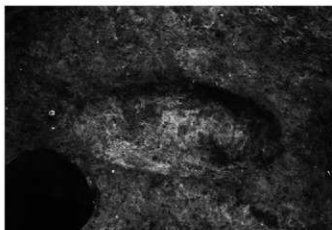
95-308・309号土坑全景(南より)



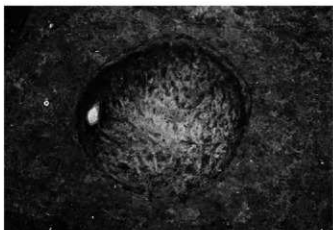
95-310号土坑全景(南より)



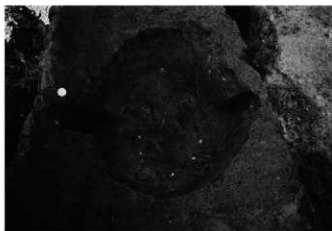
95-311号土坑全景(南より)



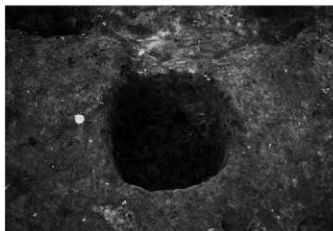
95-312号土坑全景(南より)



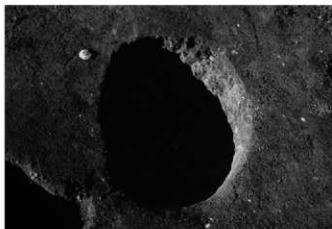
95-313号土坑全景(南より)



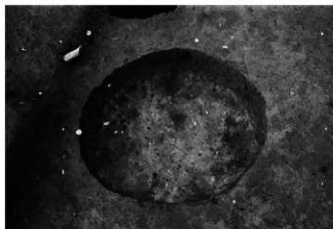
95-315号土坑全景(東より)



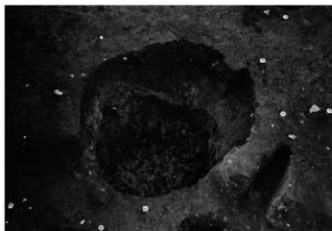
95-316号土坑全景(南より)



95-317号土坑全景(南より)



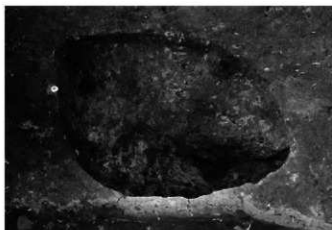
95-318号土坑全景(南より)



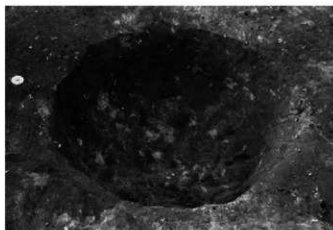
95-319号土坑全景(東より)



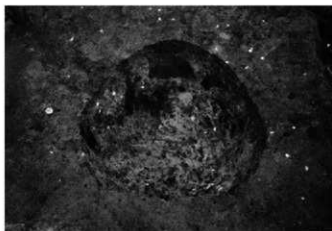
95-320号土坑遺物出土状態(南より)



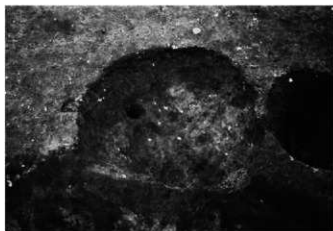
95-321号土坑全景(南より)



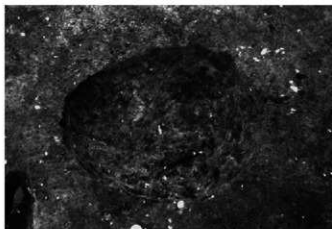
95-322号土坑全景(南より)



95-323号土坑全景(南より)



95-324号土坑全景(南西より)



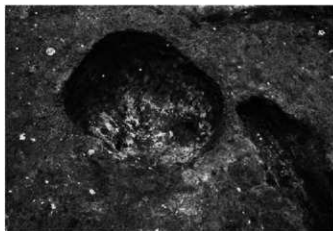
95-325号土坑全景(南西より)



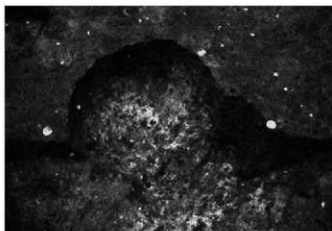
95-326号土坑遺物出土状態(南より)



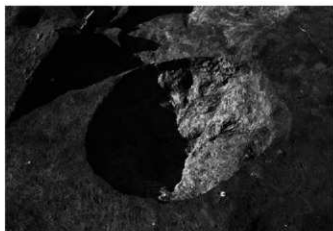
95-327号土坑全景(南より)



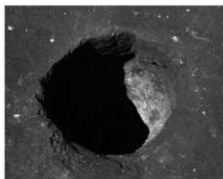
95-328号土坑全景(東より)



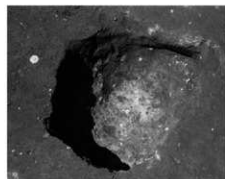
95-329号土坑全景(南より)



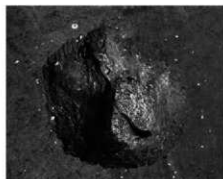
95-331号土坑全景(南東より)



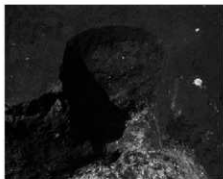
5-289号ピット全景(南より)



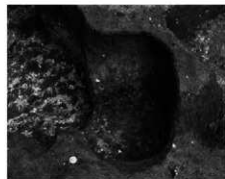
5-290号ピット全景(南より)



5-291号ピット全景(南より)



5-292号ピット全景(南より)



5-293号ピット全景(南より)



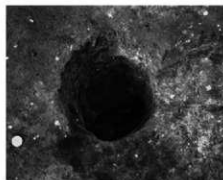
5-294号ピット全景(南より)



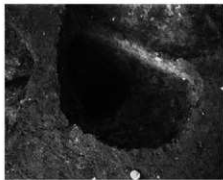
5-295号ピット全景(南より)



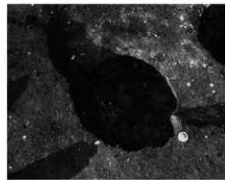
5-296号ピットセクション(南西より)



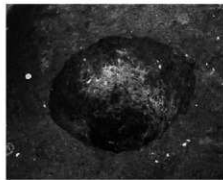
5-297号ピット全景(南より)



5-298号ピット全景(南より)



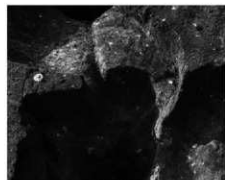
5-299号ピット全景(東より)



5-300号ピット全景(南より)



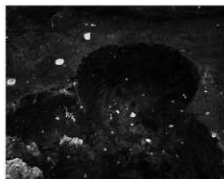
5-301号ピット全景(南より)



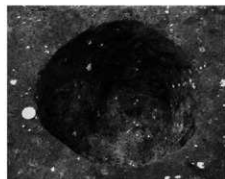
5-302号ピット全景(東より)



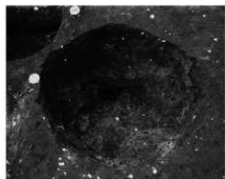
5-303号ピット全景(東より)



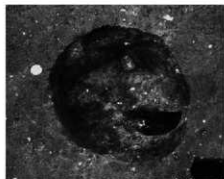
5-304号ビット全景(南西より)



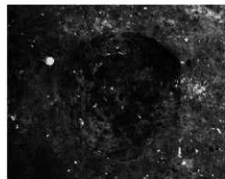
5-305号ビット全景(南より)



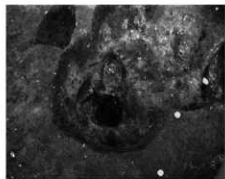
5-306号ビット全景(南より)



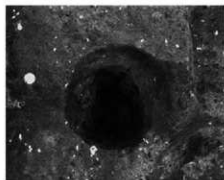
5-307号ビット全景(南より)



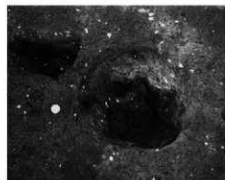
5-308号ビット全景(東より)



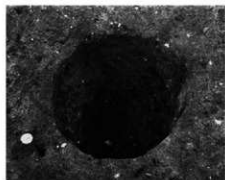
5-309号ビット全景(南より)



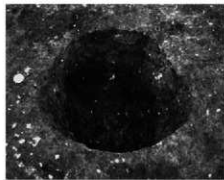
5-310号ビット全景(東より)



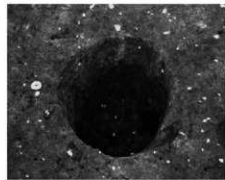
5-311号ビット全景(南より)



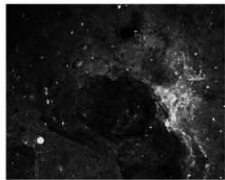
5-312号ビット全景(南より)



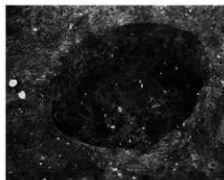
5-313号ビット全景(南より)



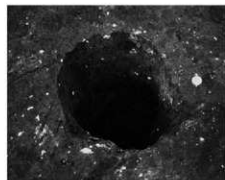
5-314号ビット全景(南より)



5-315号ビット全景(東より)



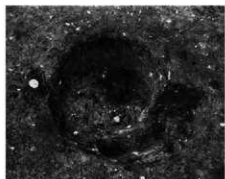
5-316号ビット全景(南より)



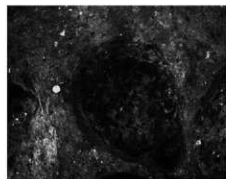
5-317号ビット全景(南より)



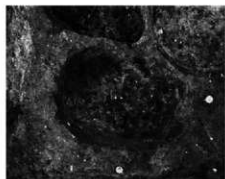
5-318号ビット全景(南西より)



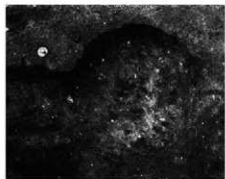
5-319号ビット全景(南より)



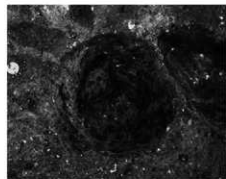
5-320号ビット全景(南より)



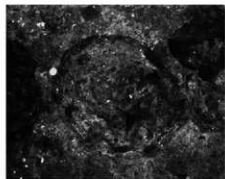
5-321号ビット全景(南より)



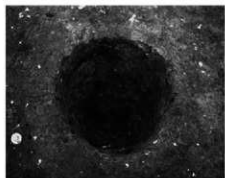
5-322号ビット全景(南より)



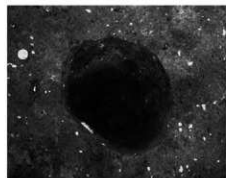
5-323号ビット全景(南より)



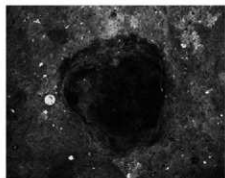
5-324号ビット全景(東より)



5-325号ビット全景(南より)



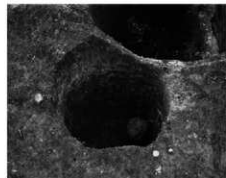
5-326号ビット全景(南より)



5-327号ビット全景(南より)



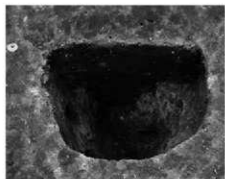
95-150号ビットセクション(東より)



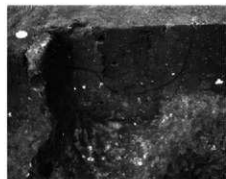
95-151号ビット全景(南より)



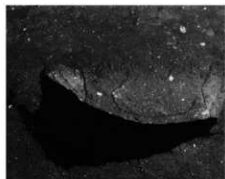
95-152号ビットセクション(南より)



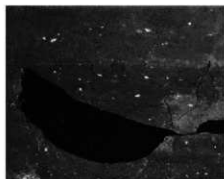
95-158号ビットセクション(南より)



95-160号ビットセクション(南より)



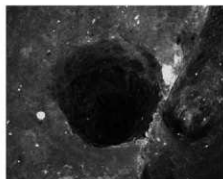
95-162号ビットセクション(南より)



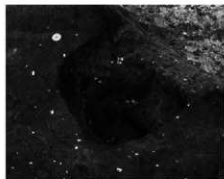
95-163号ビットセクション(南より)



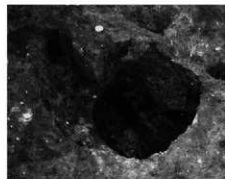
95-164号ビット全景(南より)



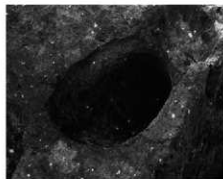
95-165号ビット全景(南より)



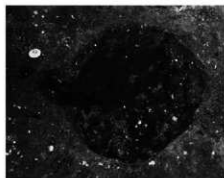
95-166号ビット全景(南より)



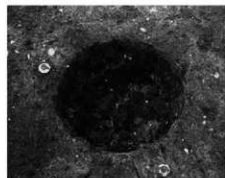
95-167号ビット全景(南より)



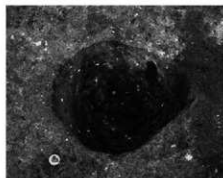
95-168号ビット全景(東より)



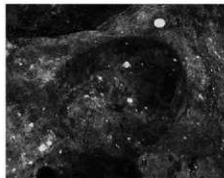
95-169号ビット全景(東より)



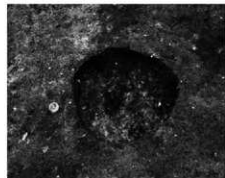
95-170号ビット全景(南より)



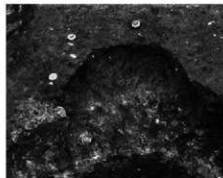
95-171号ビット全景(南西より)



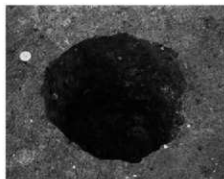
95-172号ビット全景(北西より)



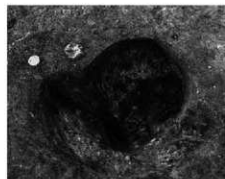
95-173号ビット全景(南より)



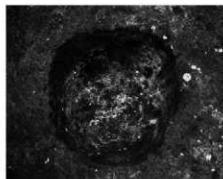
95-174号ビット全景(南より)



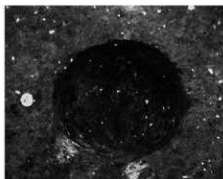
95-175号ビット全景(南より)



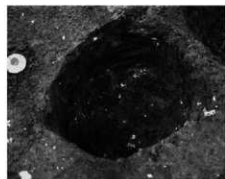
95-176号ビット全景(南より)



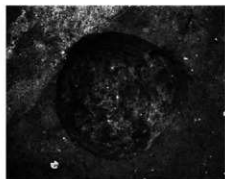
95-177号ビット全景(東より)



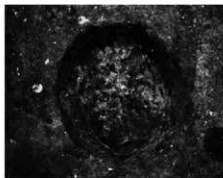
95-178号ビット全景(南より)



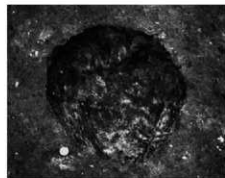
95-179号ビット全景(南より)



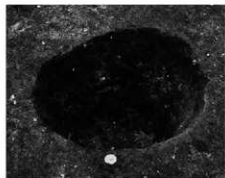
95-180号ビット全景(南より)



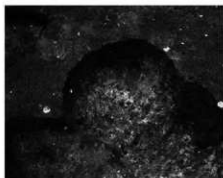
95-181号ビット全景(南より)



95-182号ビット全景(南より)



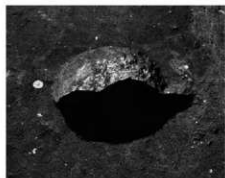
95-183号ビット全景(南より)



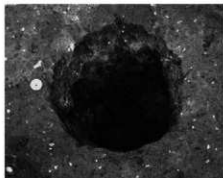
95-184号ビット全景(南より)



95-185号ビット全景(南より)



95-186号ビット全景(南より)



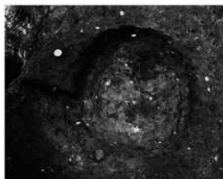
95-187号ビット全景(南より)



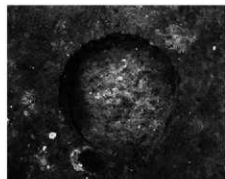
95-188号ビット全景(南より)



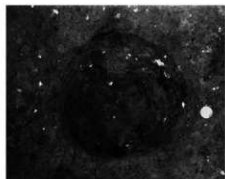
95-189号ビットセクション(北より)



95-190号ビット全景(南より)



95-191号ビット全景(南より)

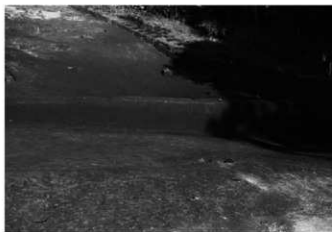


95-192号ビット全景(南より)





95-谷地部全景(北より)



95-谷地部セクション(西より)



95-谷地部遺物出土状態(北より)



95-谷地部遺物出土状態(南より)



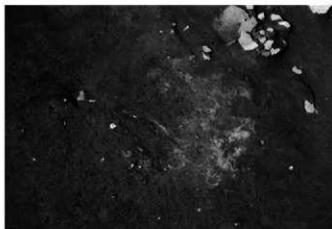
95-谷地部遺物(大珠)出土状態(南より)



5-6号焼土セクション(南より)



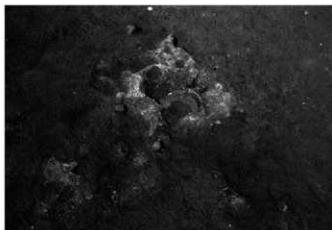
5-6号焼土全景(西より)



5-10号焼土全景(南より)



5-10号焼土セクション(東より)



5-11号焼土全景(東より)



5-11号焼土セクション(東より)



5-12号焼土全景(東より)



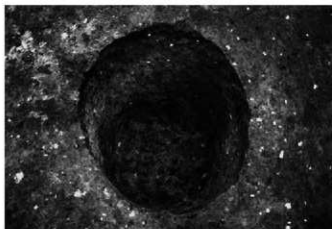
5-13号焼土全景(東より)



5-14号焼土セクション(東より)



5-15号焼土セクション(東より)



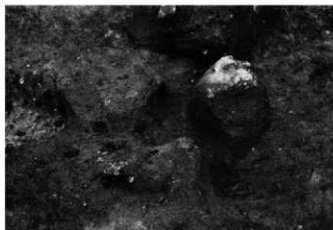
5-15号焼土下土坑全景(南より)



95-2号焼土セクション(南より)



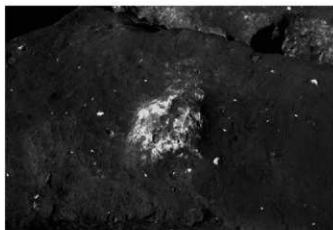
95-3号焼土セクション(東より)



95-4号焼土全景(南より)



95-5号焼土全景(南より)



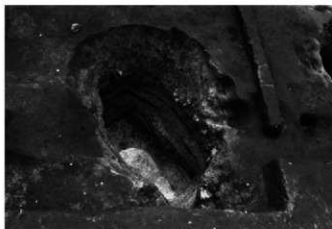
95-6号焼土全景(南より)



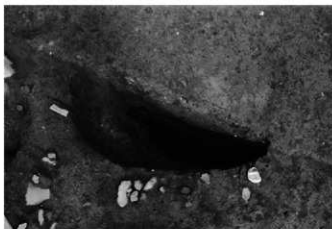
5-30号土坑セクション(南東より)



5-66号土坑セクション(北西より)



5-66号土坑全景(北西より)



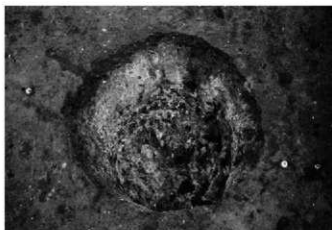
5-182号土坑全景(南より)



5-1115号土坑全景(南より)



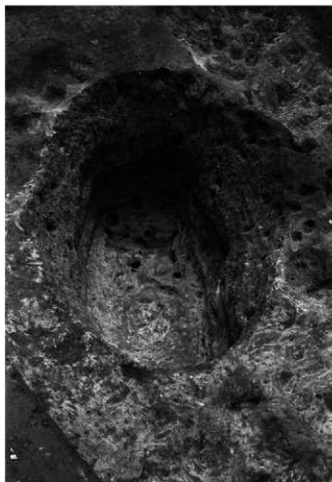
5-1116号土坑全景(北東より)



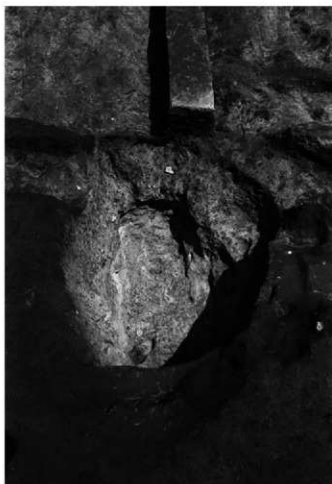
5-1117号土坑全景(南より)



5-1118号土坑全景(北東より)



5-1119号土坑全景(南東より)



5-1122号土坑全景(南より)



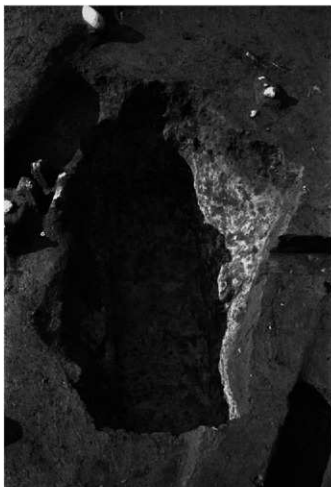
5-1212号土坑全景(南東より)



5-1212号土坑セクション(南東より)



5-1213号土坑セクション(南より)



5-1213号土坑全景(南東より)



8-18区全景(東より)



8-6号土坑セクション(南より)



8-6号土坑全景(北西より)



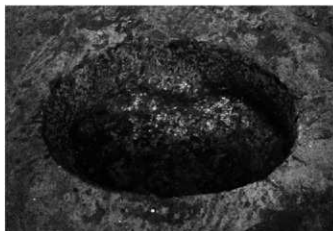
17区西・18区東トレンチ全景(北より)



17-35号土坑全景(南より)



18区トレンチ全景(北東より)



18-24号土坑全景(南東より)



18-25号土坑全景(南東より)



18-26号土坑全景(南東より)



18-27号土坑全景(北西より)



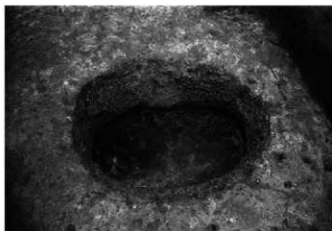
18-28・29号土坑セクション(東より)



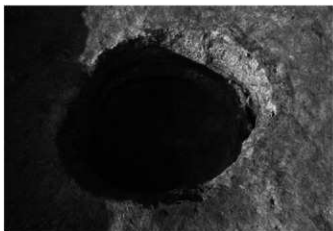
19区全景(東より)



19-12号土坑セクション(南より)



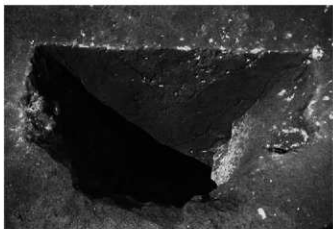
19-13号土坑全景(南東より)



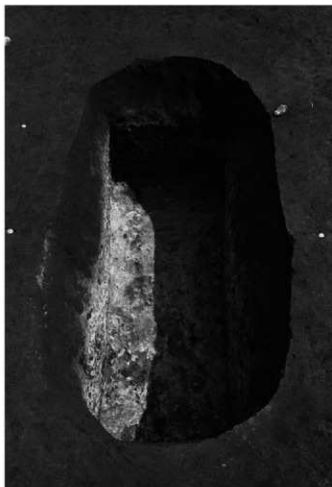
19-14号土坑全景(南より)



95-83号土坑セクション(南西より)



95-84号土坑セクション(南より)



95-83号土坑全景(南西より)



95-84号土坑全景(南より)





95-85号土坑セクション(南東より)



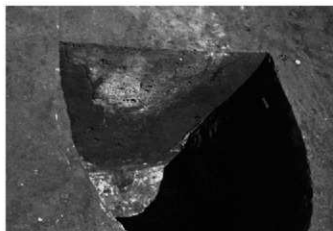
95-86号土坑セクション(東より)



95-85号土坑全景(南東より)



95-86号土坑全景(南東より)



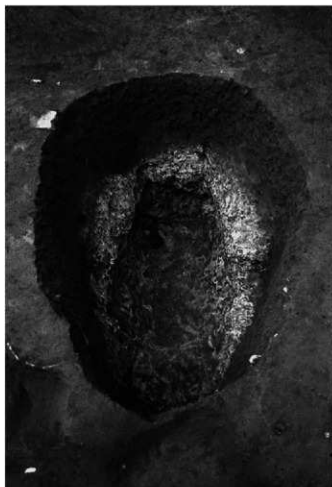
95-87号土坑セクション(南より)



95-87号土坑全景(南東より)



95-88号土坑全景(南東より)



95-89号土坑全景(南東より)



95-89号土坑セクション(南より)



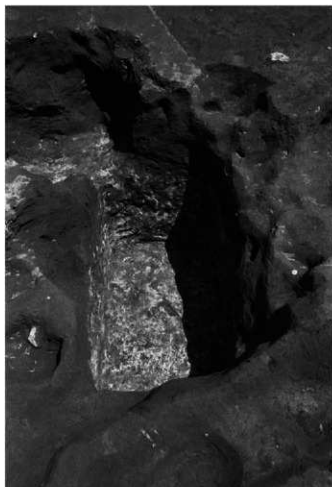
95-90号土坑セクション(南東より)



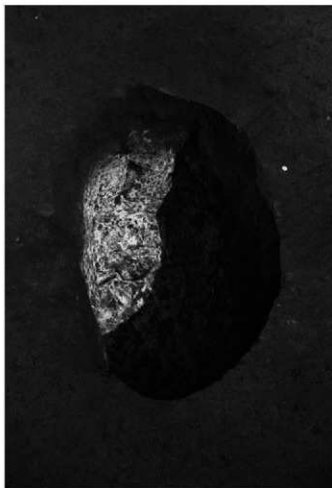
95-90号土坑全景(南東より)



95-91号土坑セクション(南東より)



95-92号土坑全景(南より)



95-91号土坑全景(南東より)



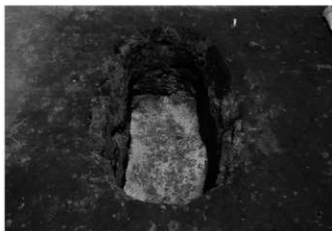
95-158号土坑セクション(西より)



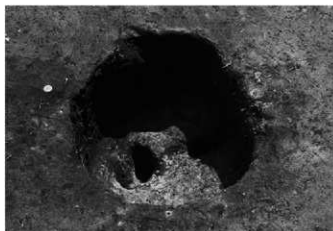
95-158号土坑全景(東より)



95-177号土坑全景(北より)



95-181号土坑全景(南より)



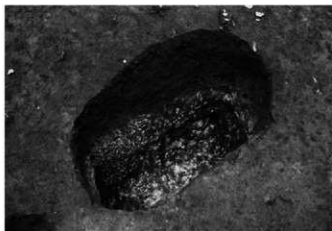
95-187号土坑全景(西より)



95-188号土坑全景(南より)



95-242号土坑セクション(東より)



95-242号土坑全景(南より)



95-271号土坑全景(南より)



95-272号土坑全景(南東より)



95-276号土坑全景(南東より)



95-2号溝セクション(東より)



95-2号溝全景(西より)



5-1号石列全景(南より)



5-1号石列(石除去後)全景(南より)



調査前風景(南より)



第1トレンチ全景(東より)



第1トレンチセクション(東より)



第2トレンチ全景(東より)



第3トレンチ全景(西より)



第4トレンチ全景(西より)



第5トレンチ全景(西より)



第6トレンチ全景(西より)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



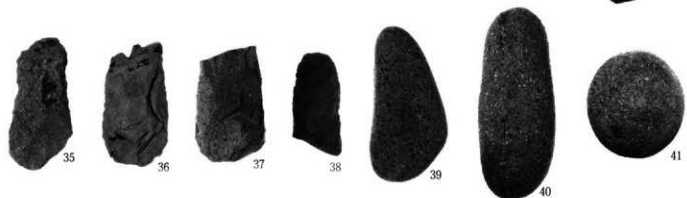
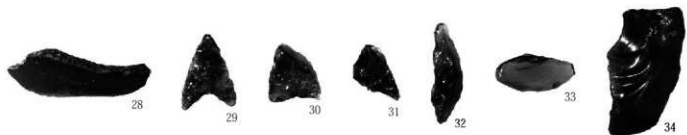
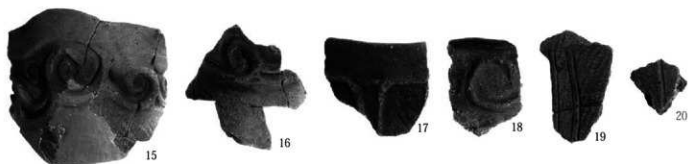
12



13



14

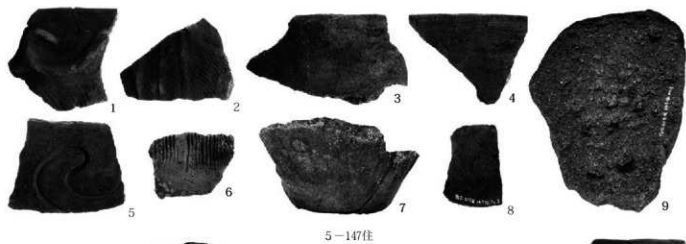
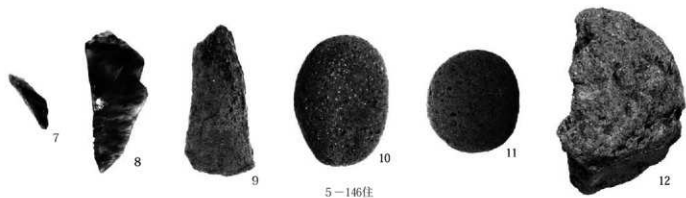


5-8住

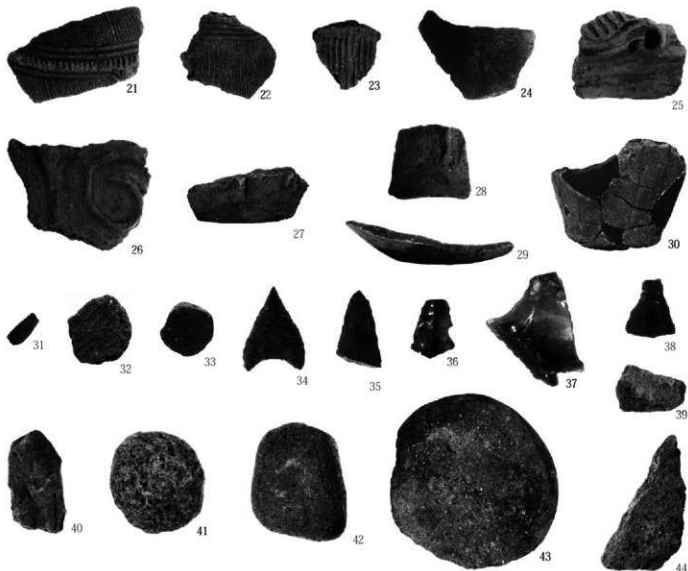


5-146住





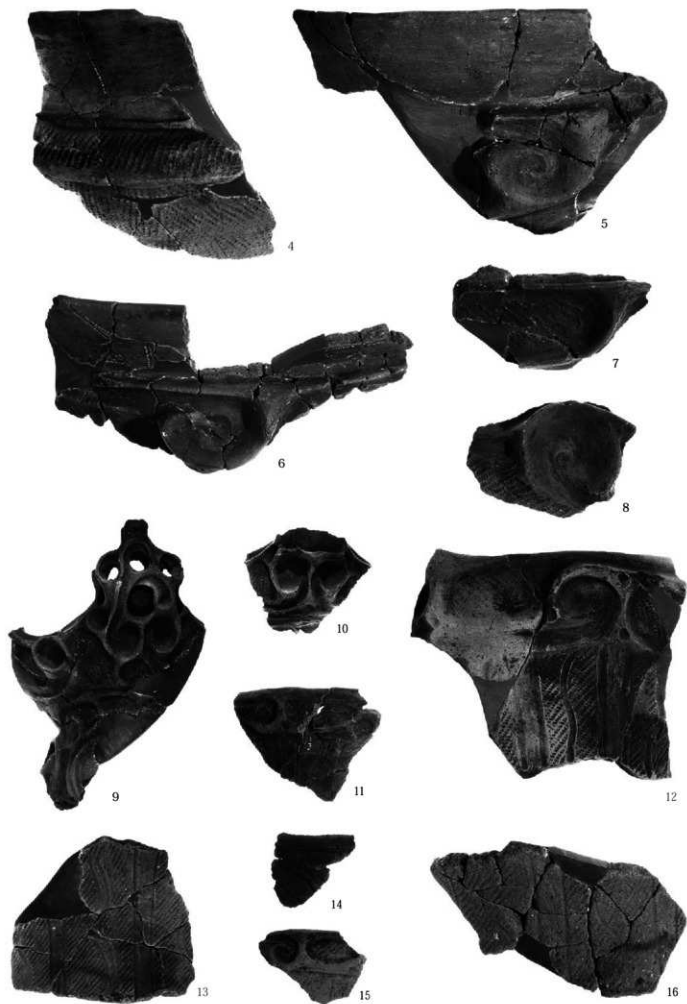




5-149住



5-150住









51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



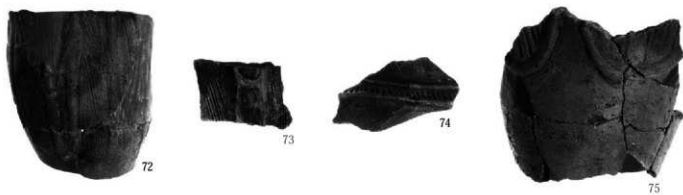
62



63

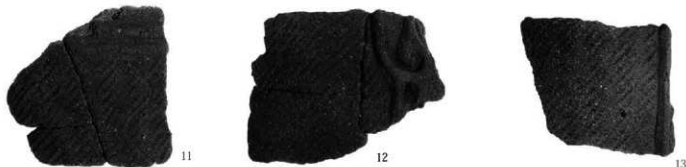
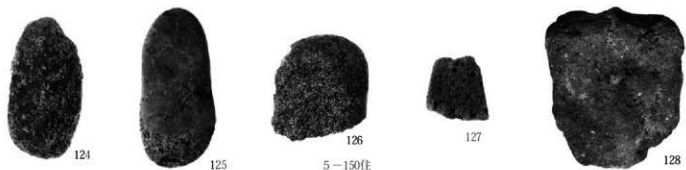


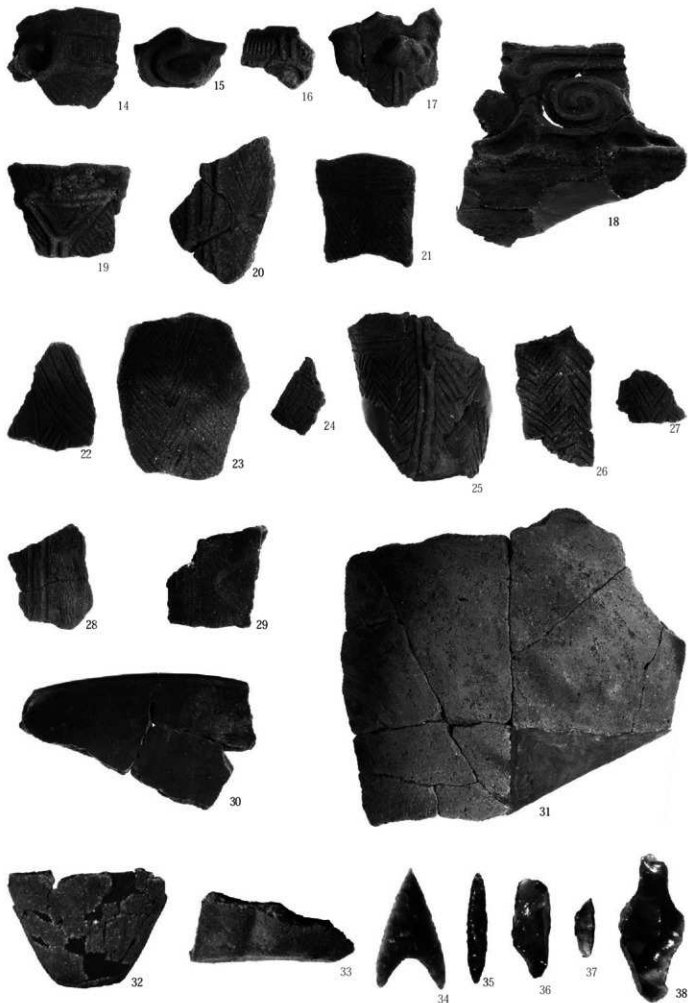
64

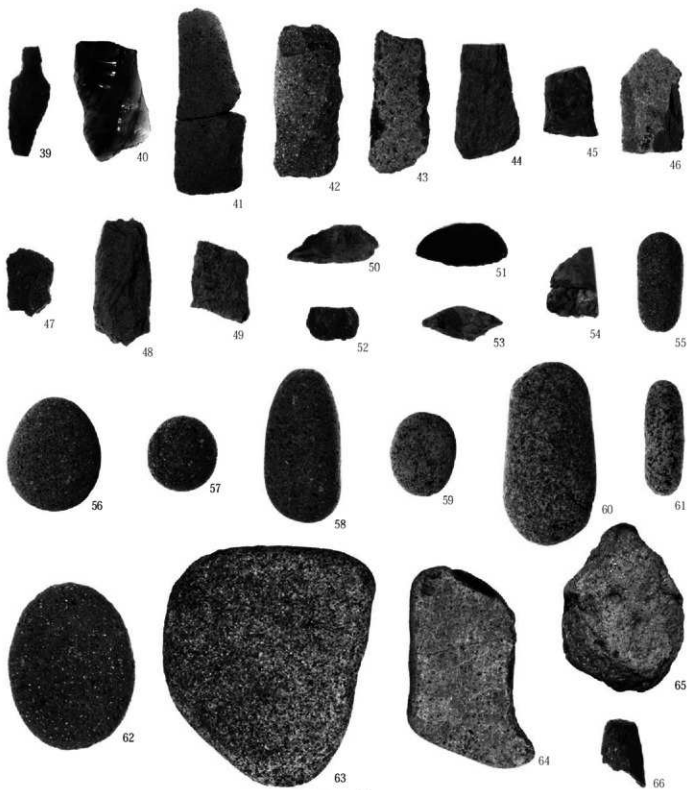












5-152住



5-153住



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



19



20



21



18



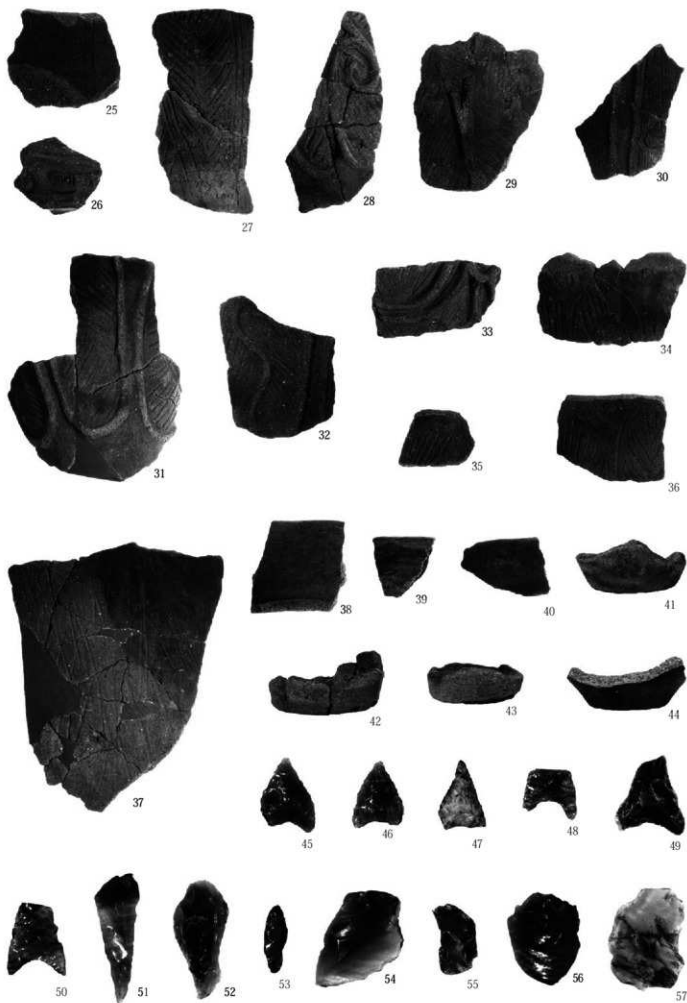
22

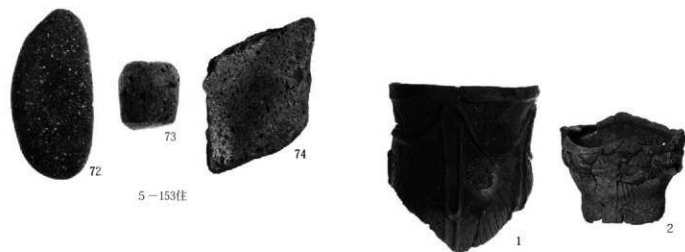


23

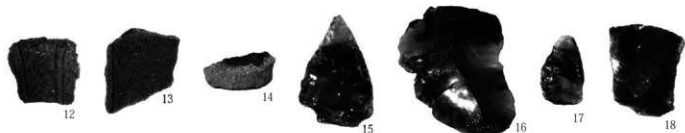


24





5-153住



5-154住

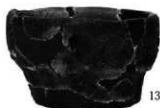


5-154住



5-155住







24



25



26



27



28



29



30



32



33



34



35



31



36



37



39



40



41



42



43



44



45



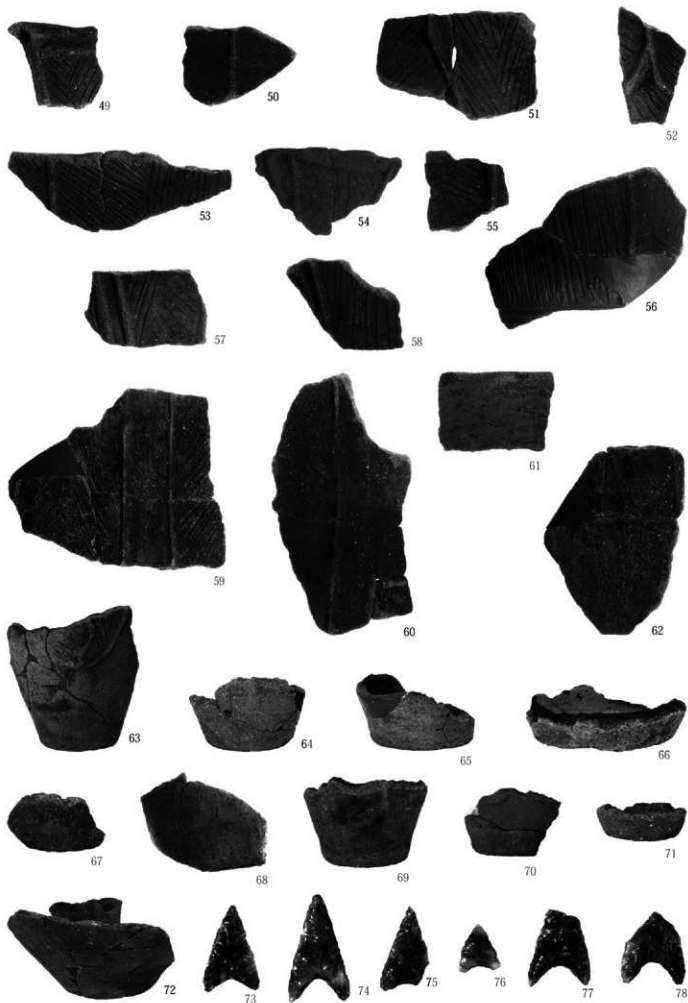
46



47

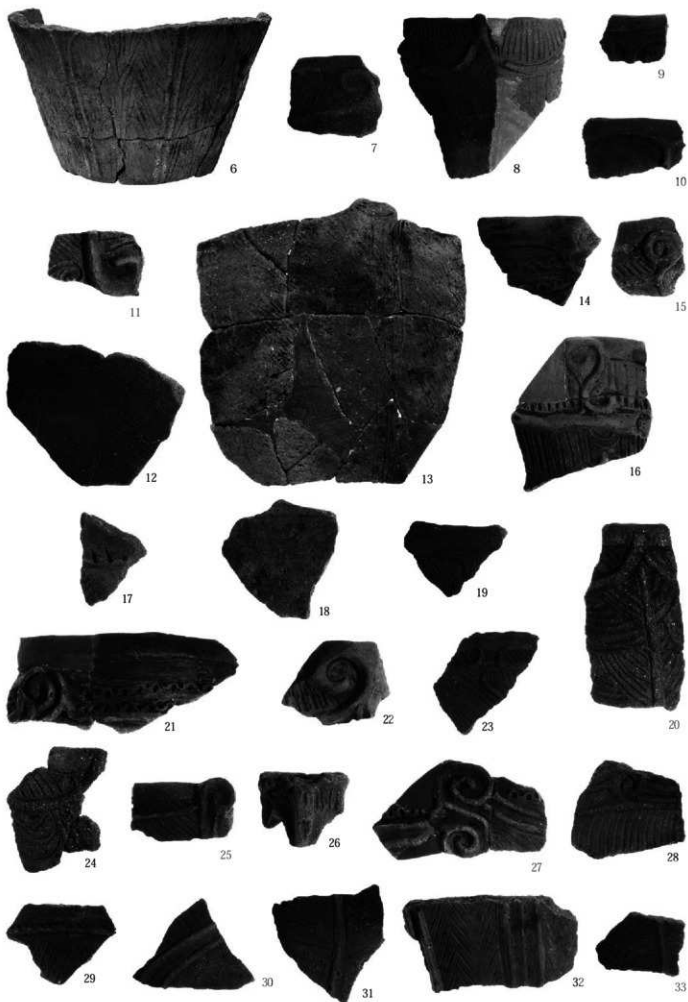


48







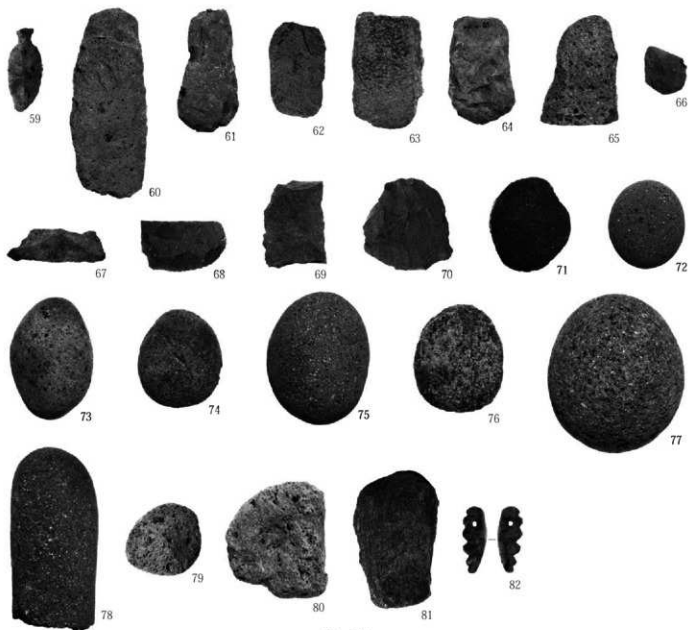










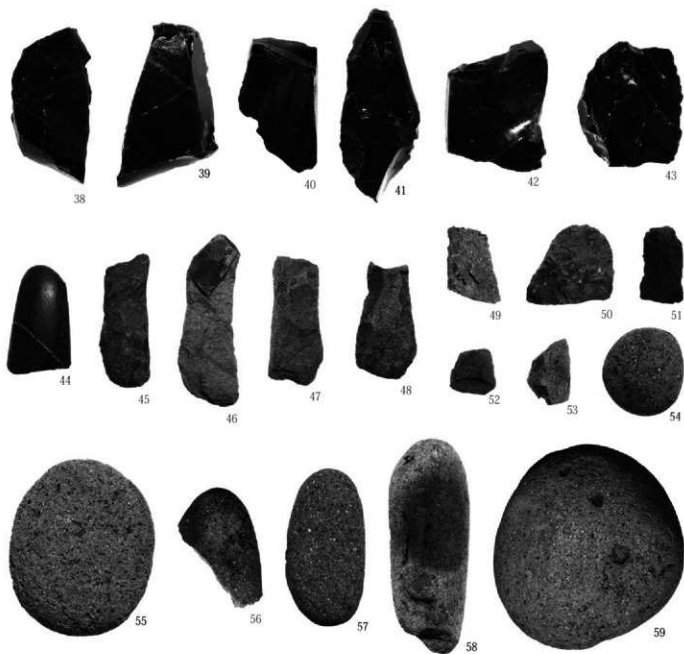


95-5住

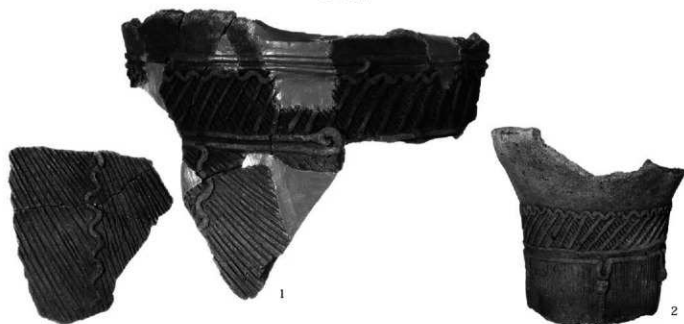


95-12住



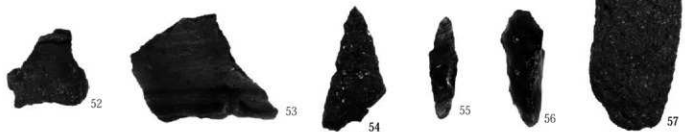
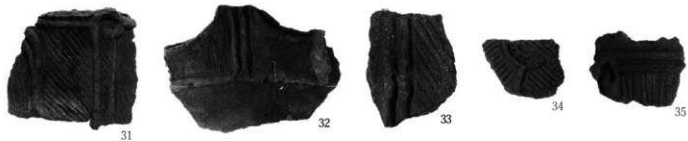


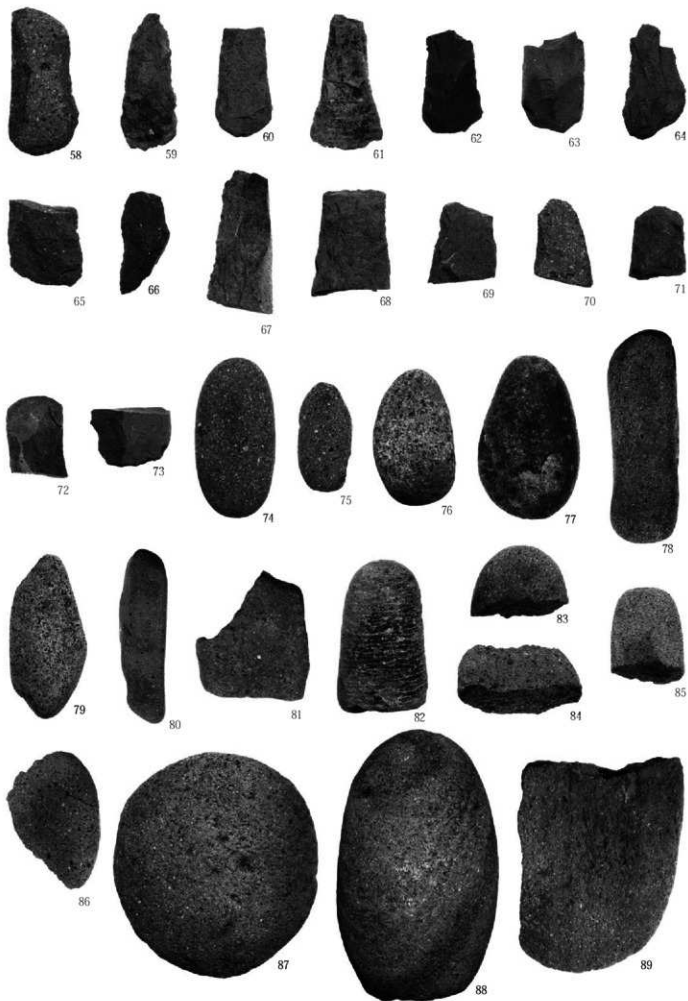
95-12住

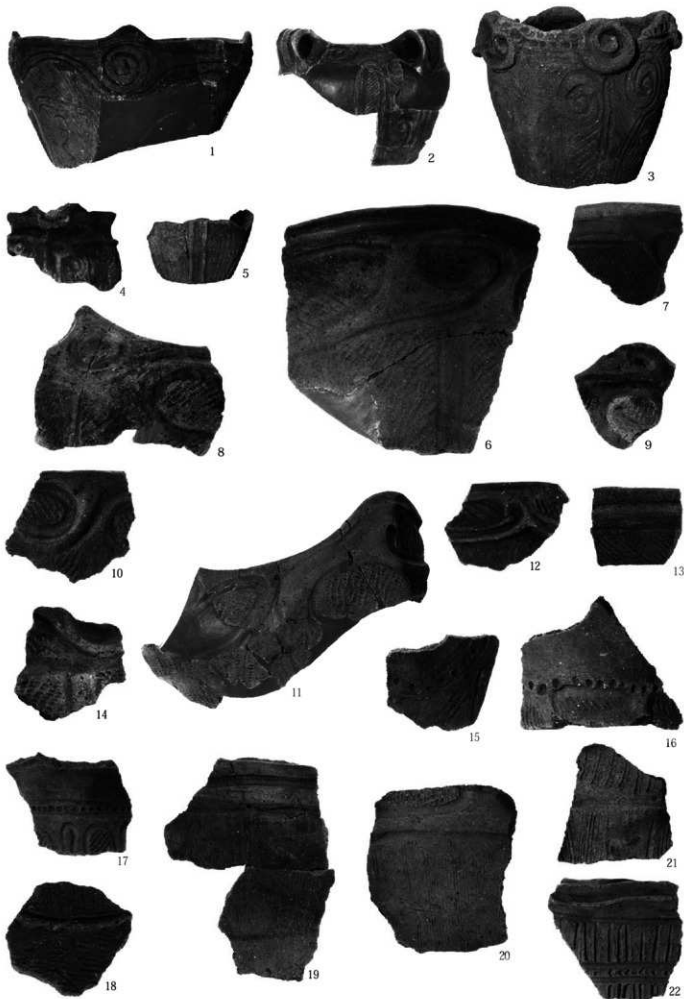


95-13住













23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



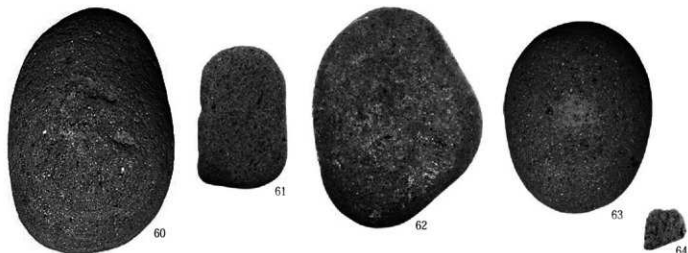
57



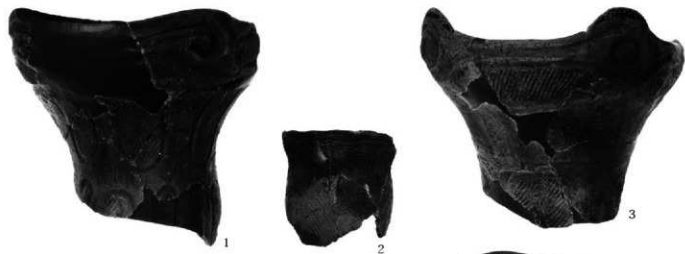
58



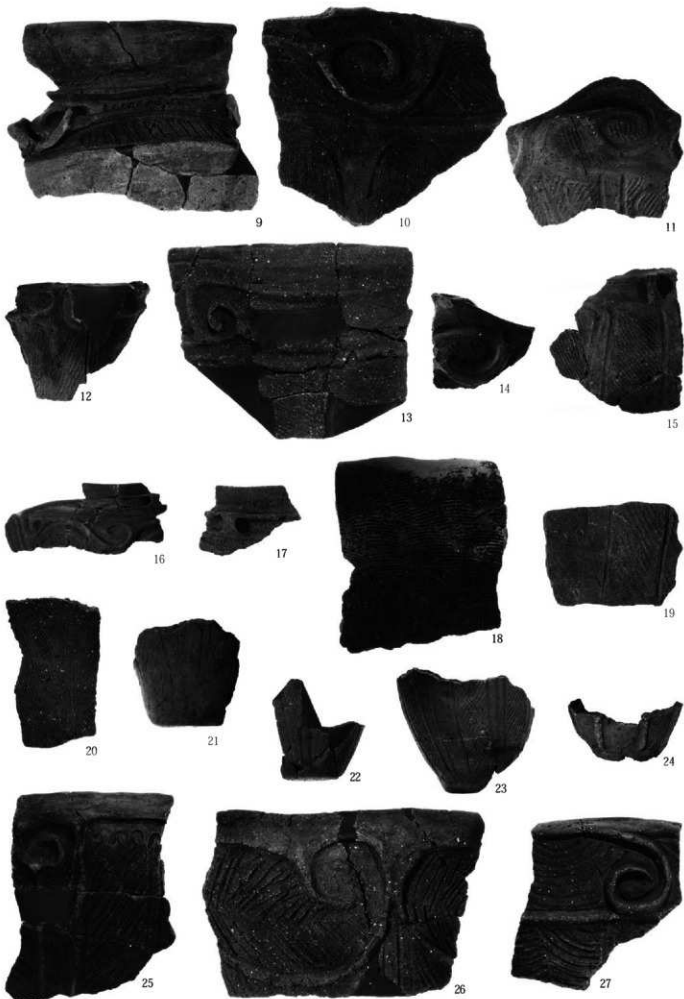
59

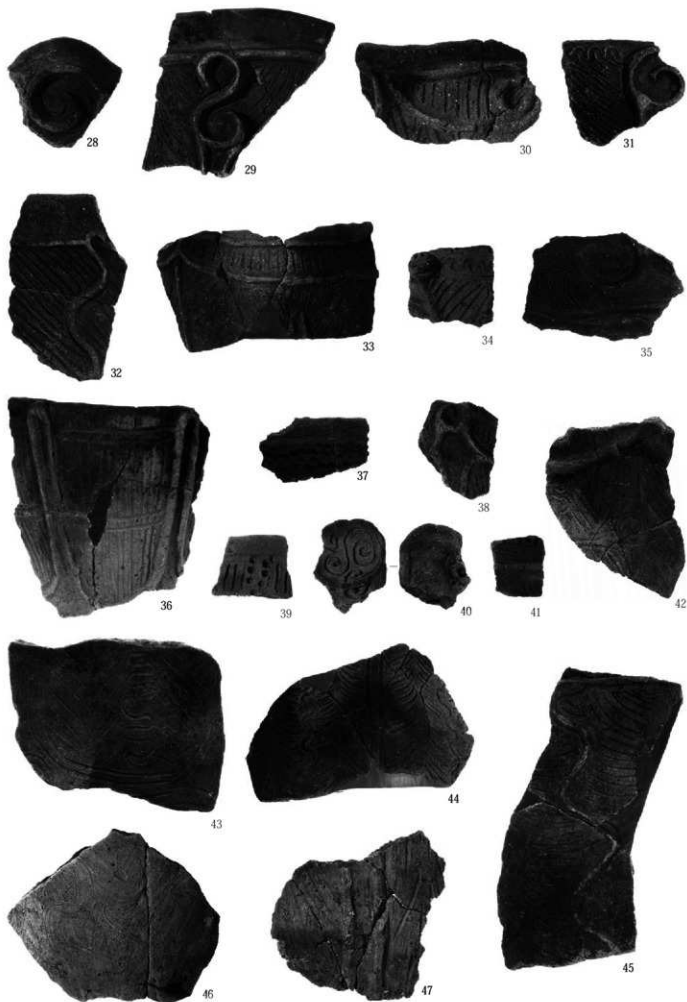


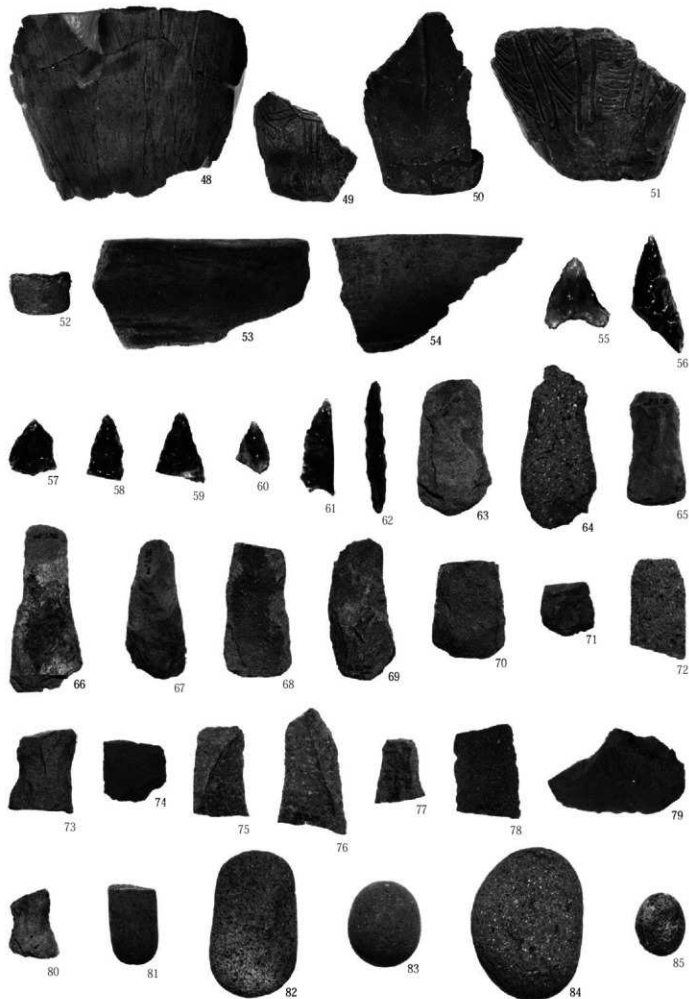
95-14住

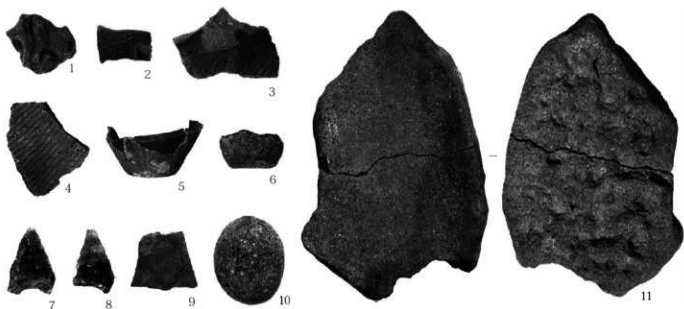


95-15住





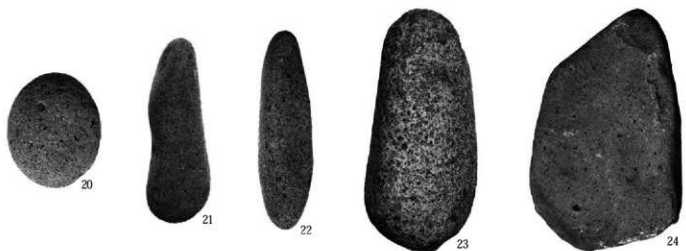
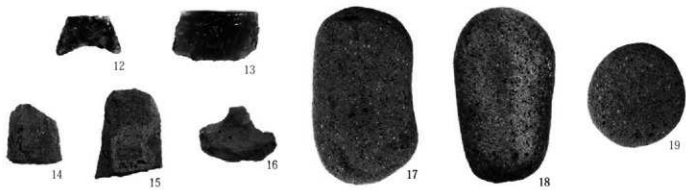
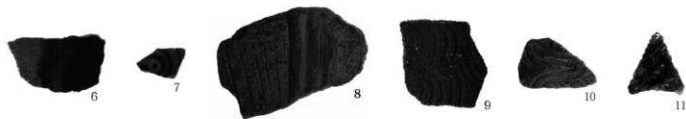




95-16住



95-17住



95-17住

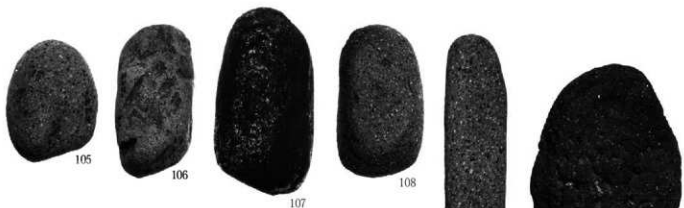
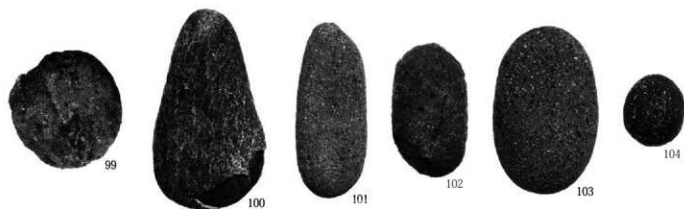
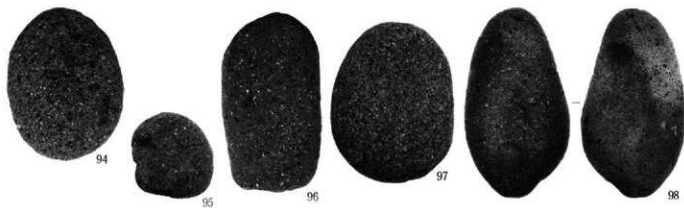
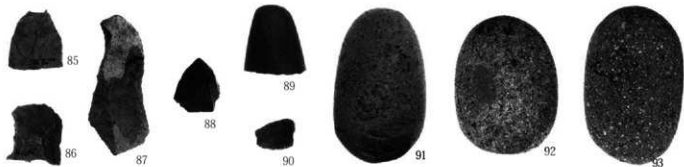


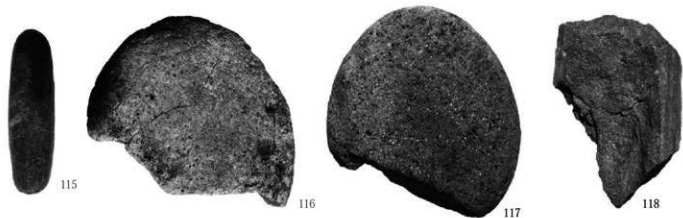
95-18住







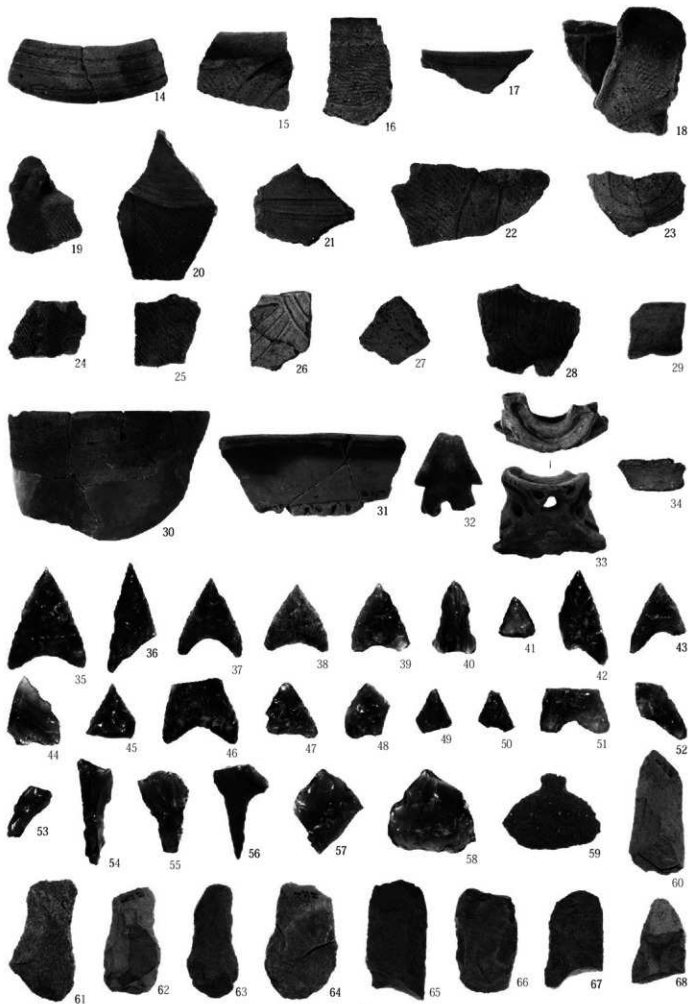


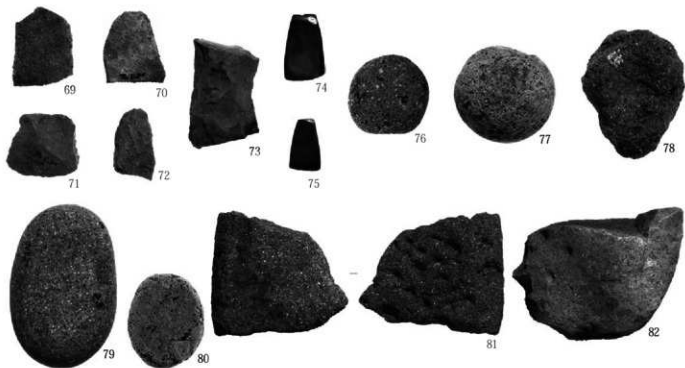


95-18住



95-19住





95-19住



95-20住





13



14



15



19



16



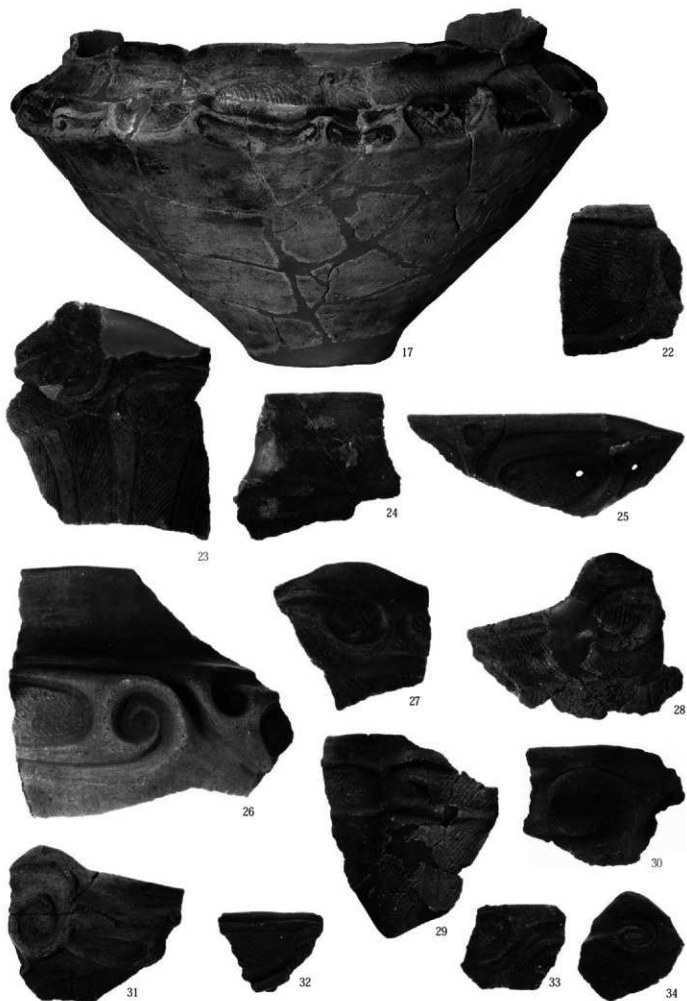
20



18



21











65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



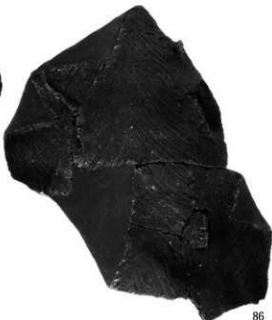
82



83



84



86

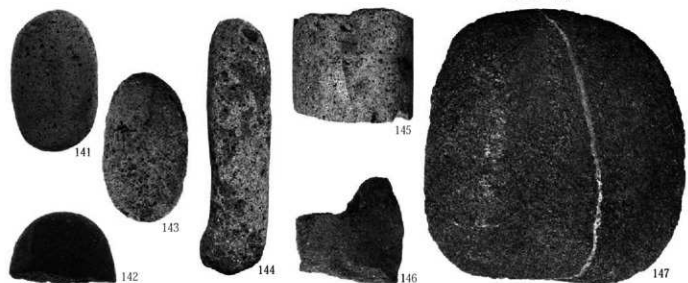
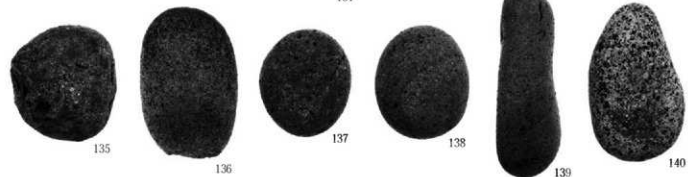
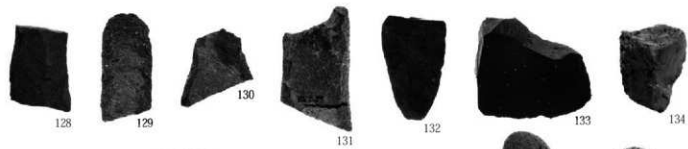


85



87





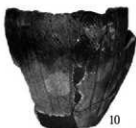
95-20住

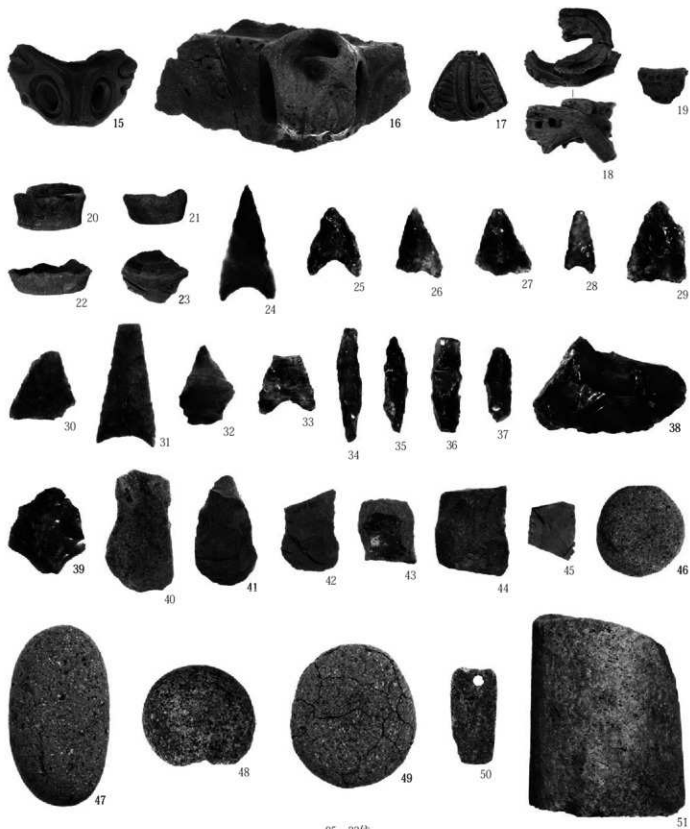


95-21住

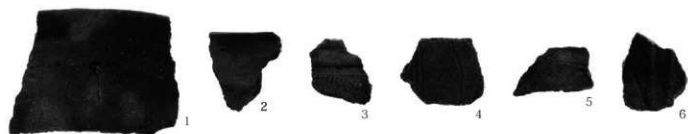


95-22住

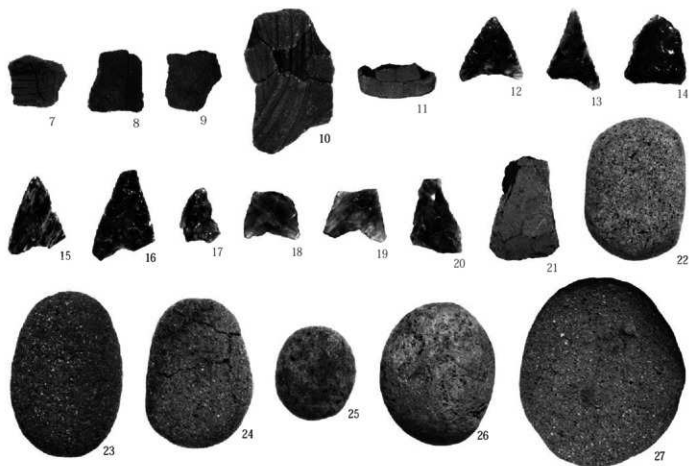




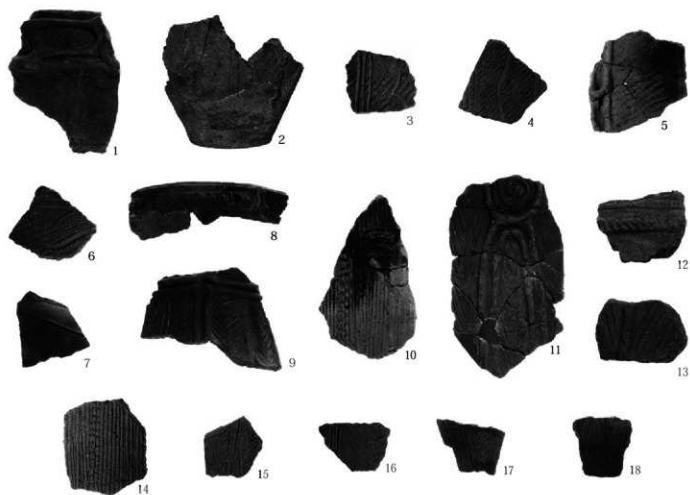
95-23住



95-24住

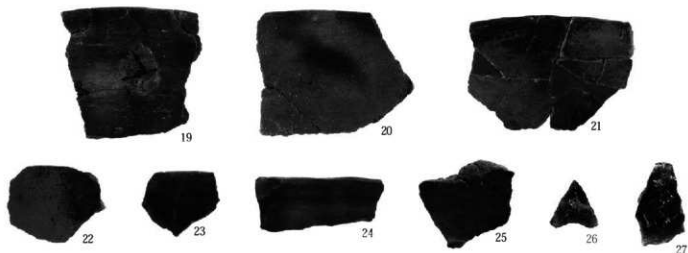


95-24注

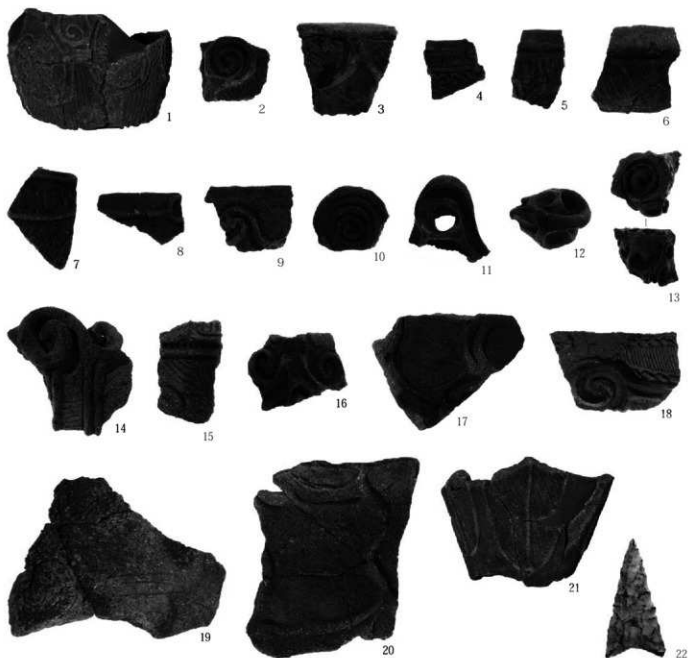


95-25注





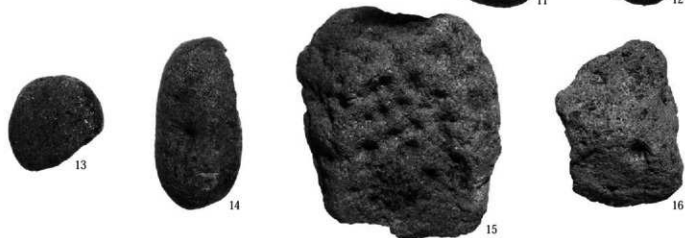
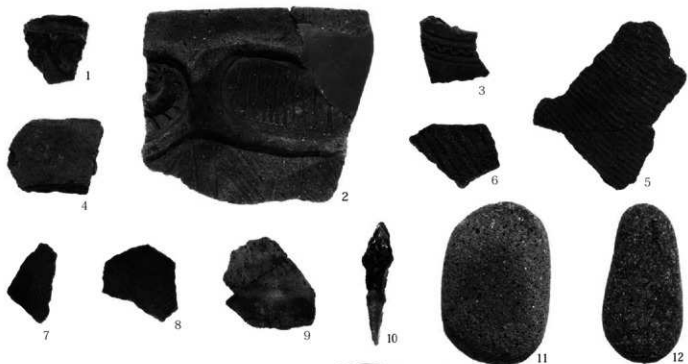
95-25注



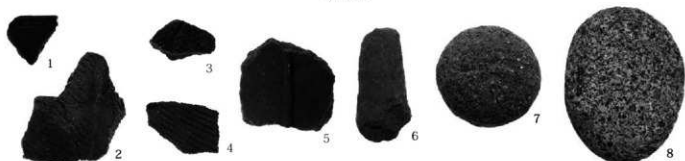
95-26注



95-26住

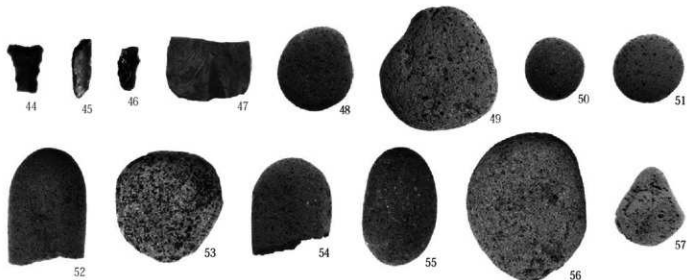


95-27住



95-28住

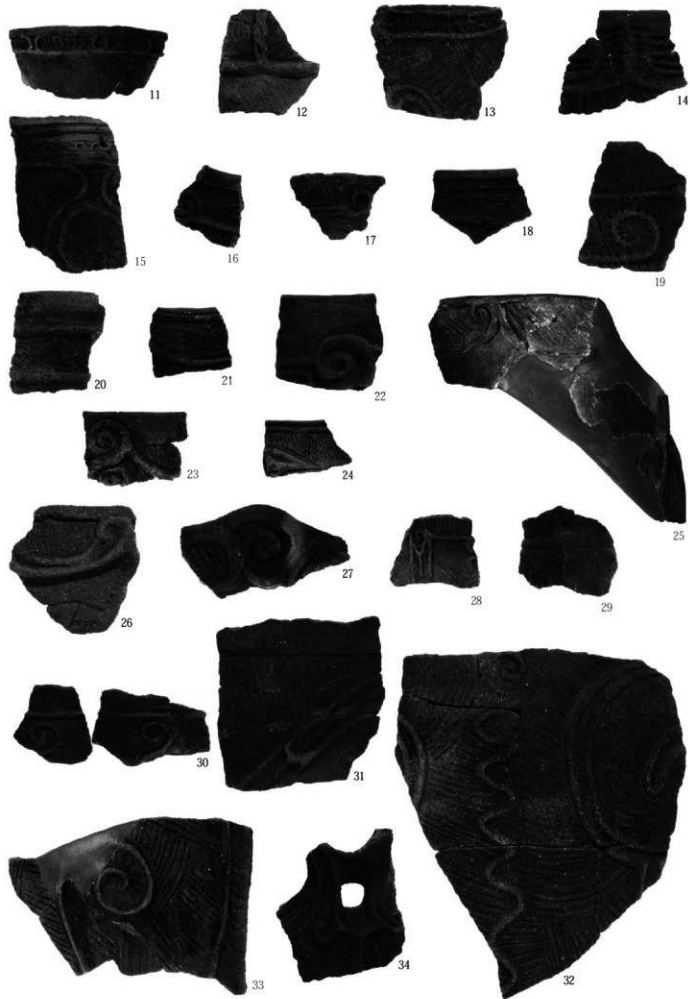


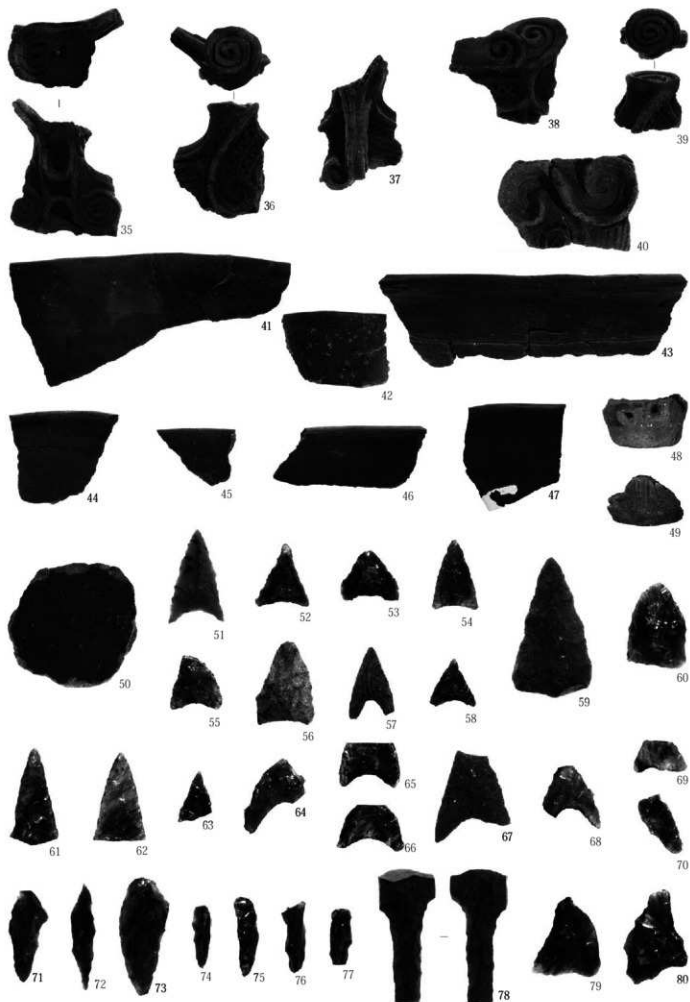


95-29注

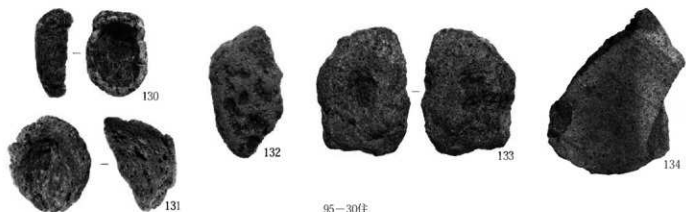
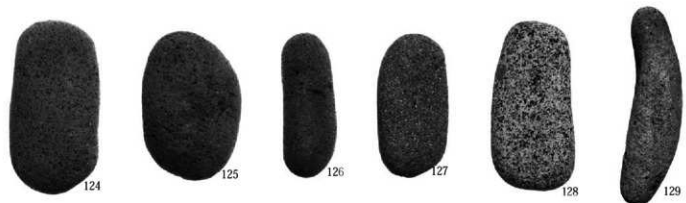
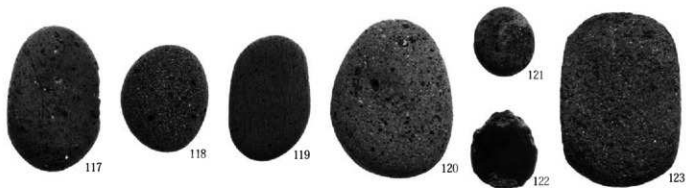


95-30注







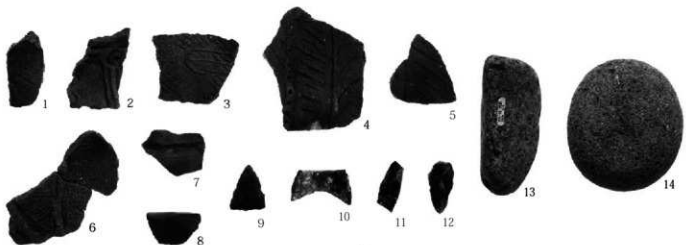


95-30住



95-31住

95-33住



95-34住





95-35住



95-36住

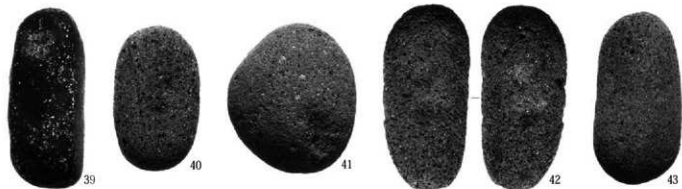


95-37住

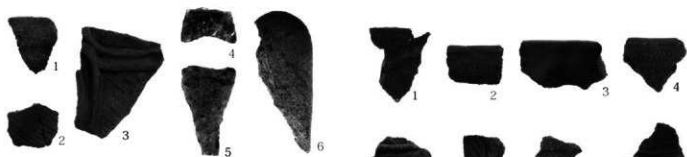


95-38住





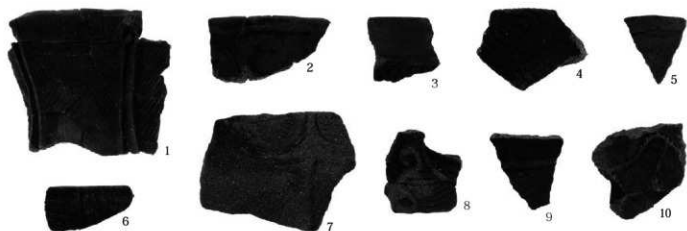
95-38注



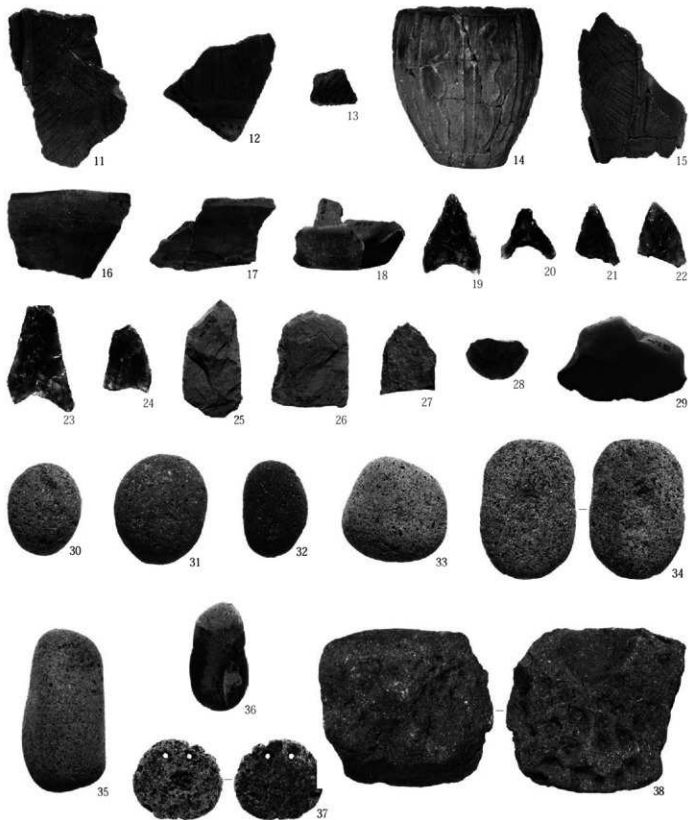
95-39注



95-40注



95-41注



95-41住



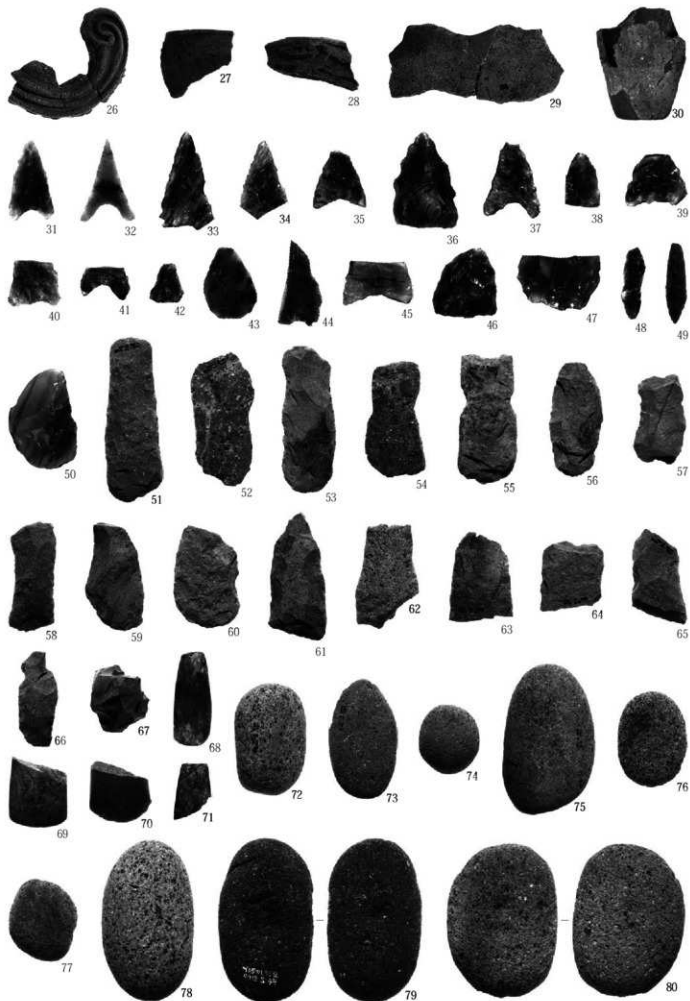
95-42住

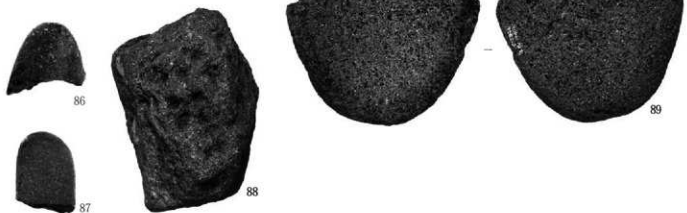
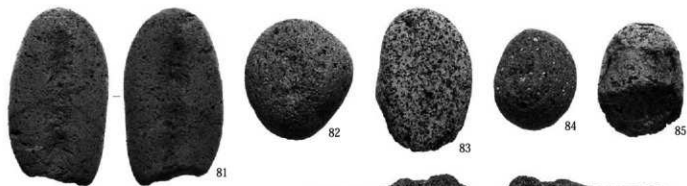


95-43住

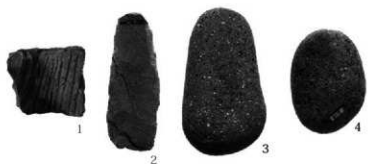


95-44住

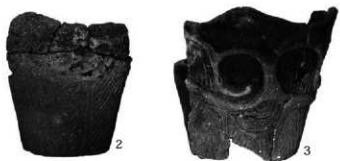




95-44注



95-45注

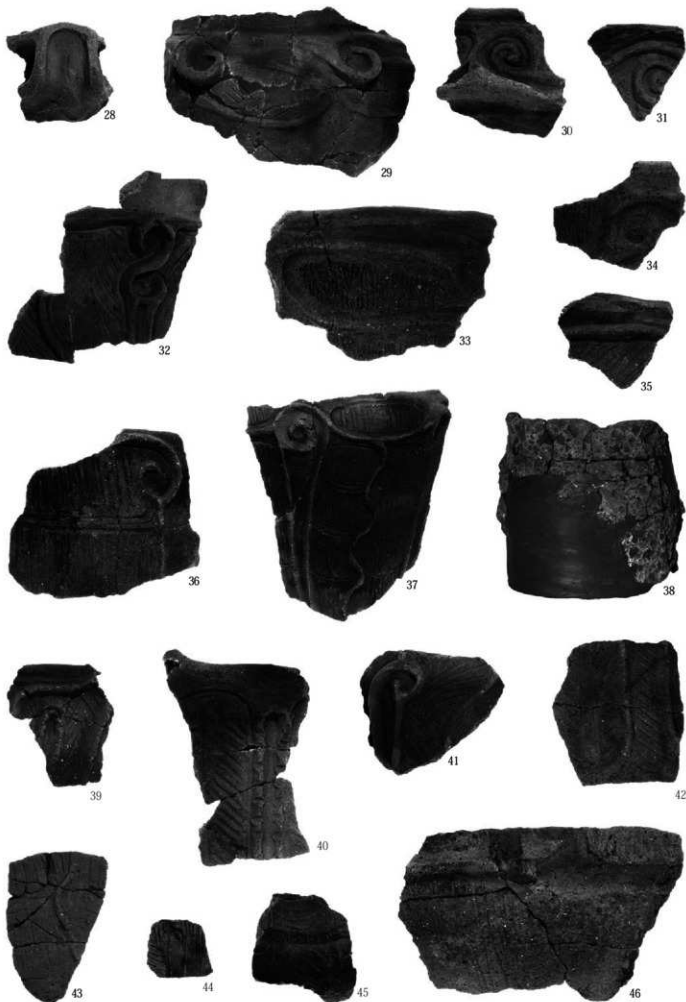


95-46注

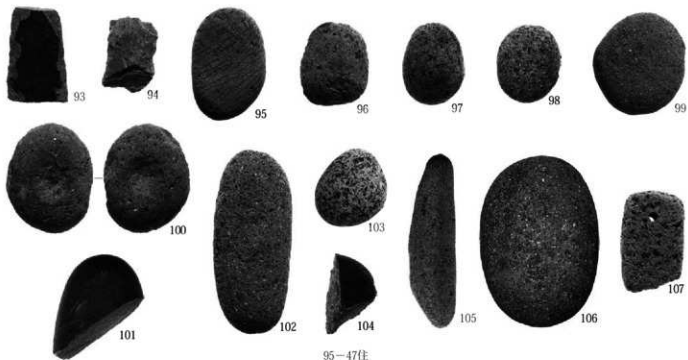
















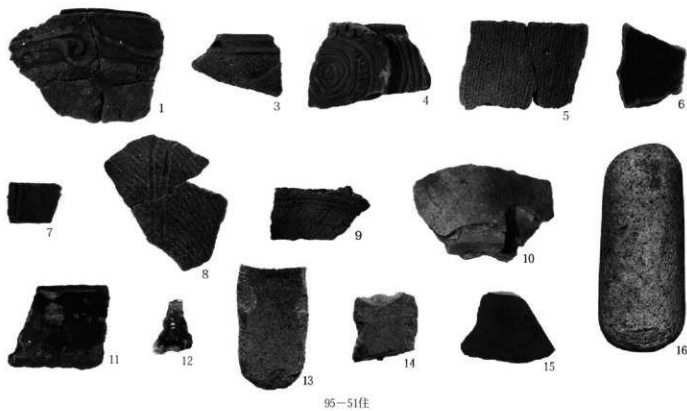
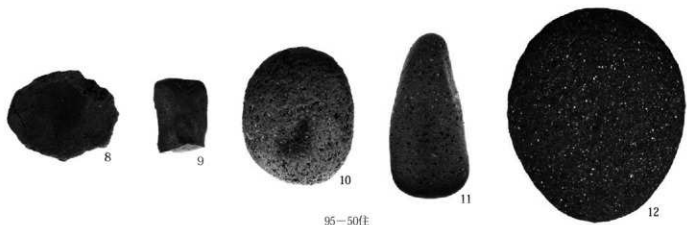
95-48住



95-49住



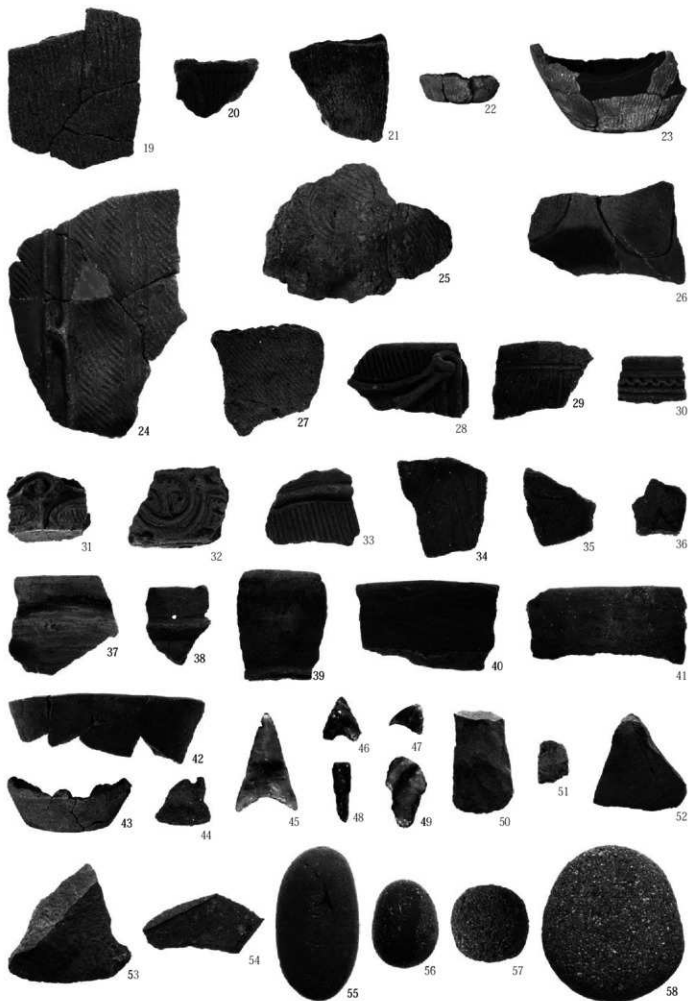
95-50住

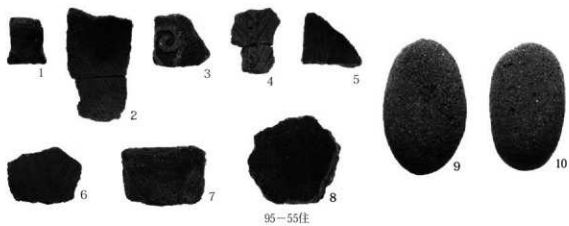




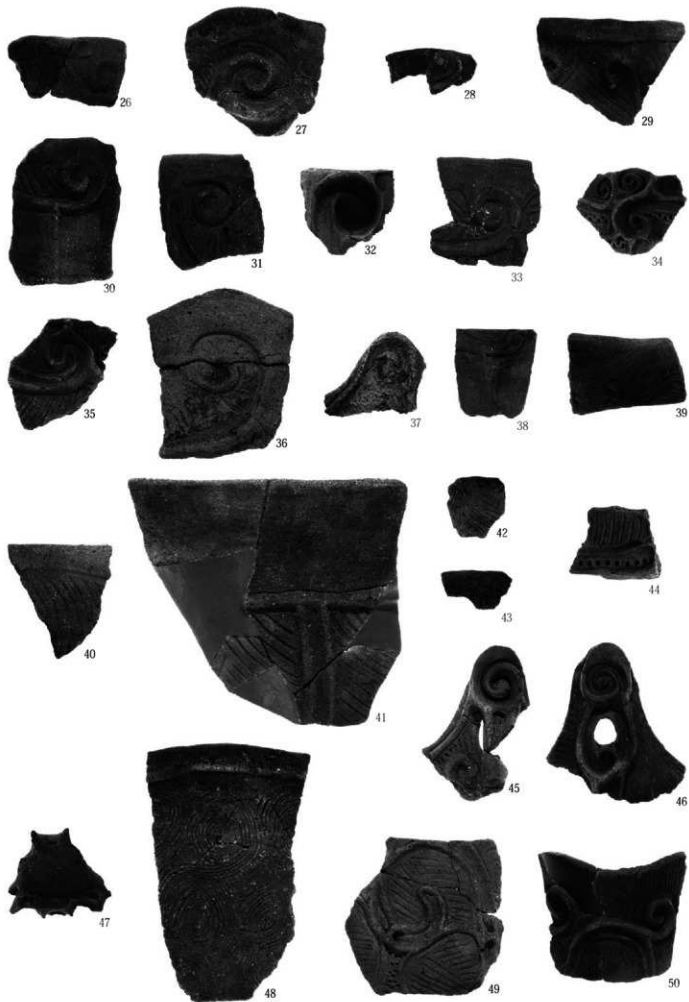










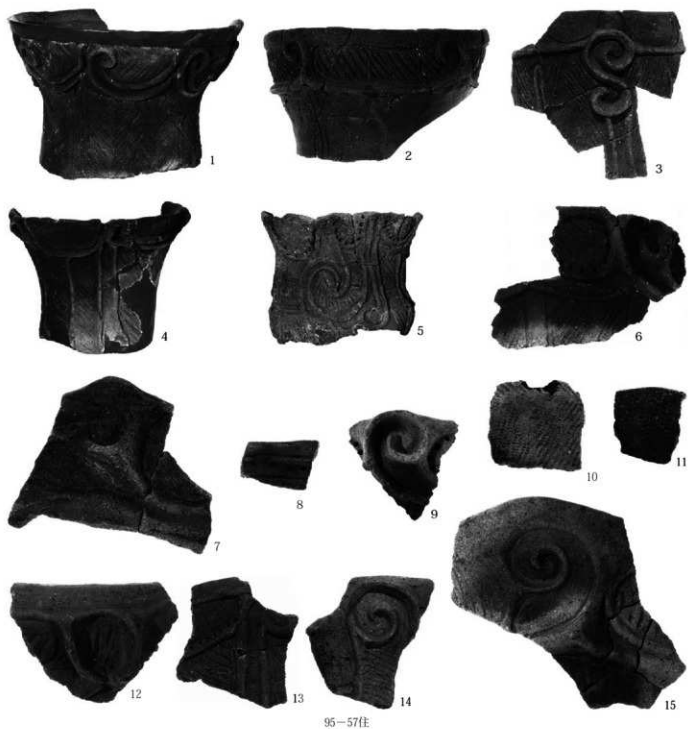
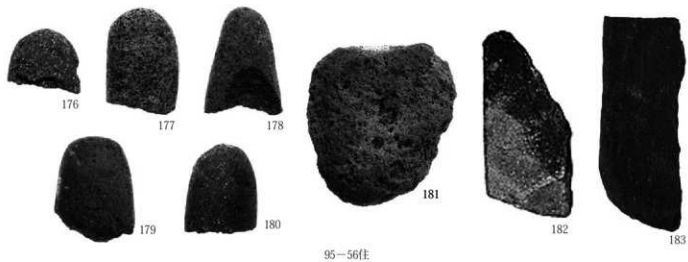


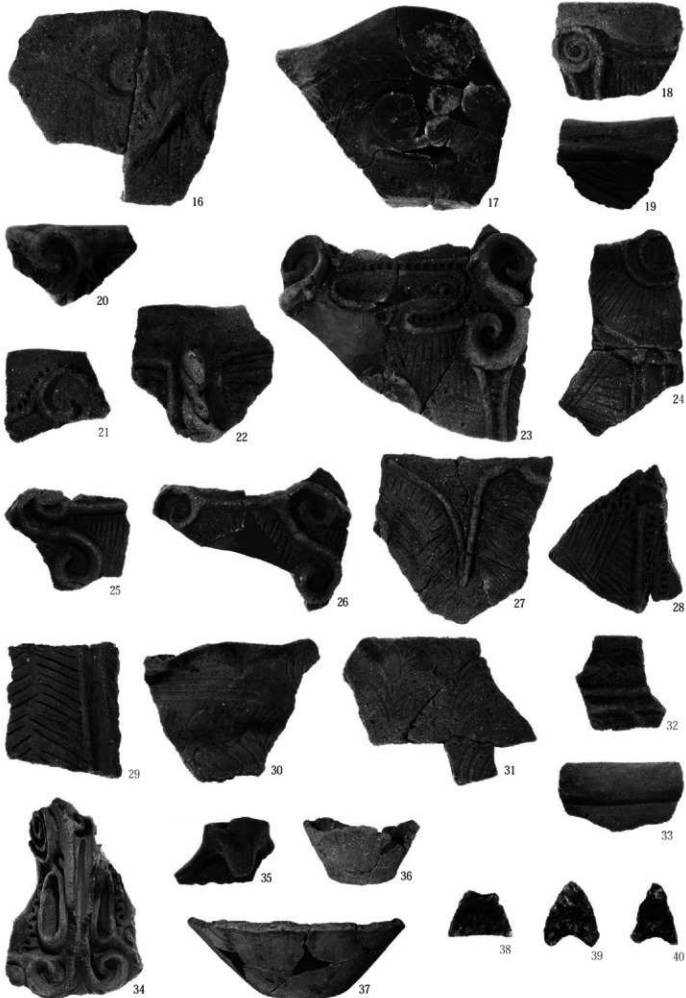




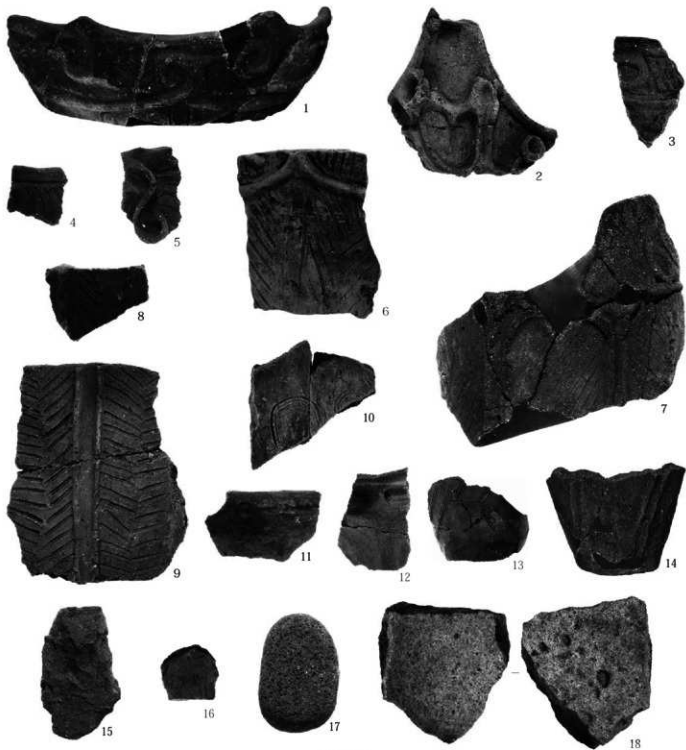




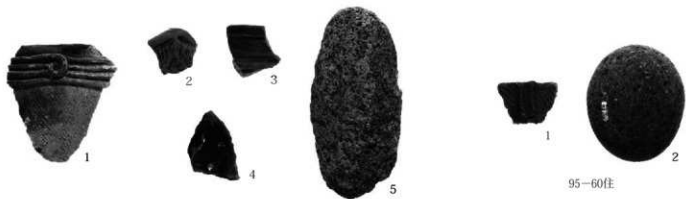






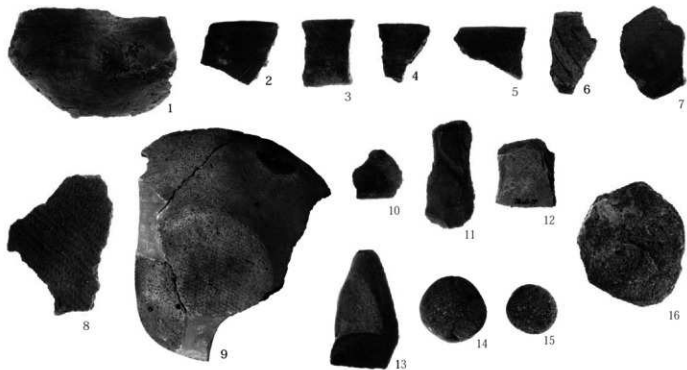


95-58住



95-59住

95-60住



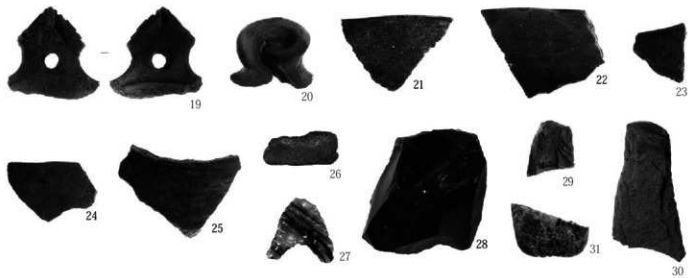
5-2 掘立



5-3 掘立



5-4 掘立



5-4 掘立



5-5 掘立

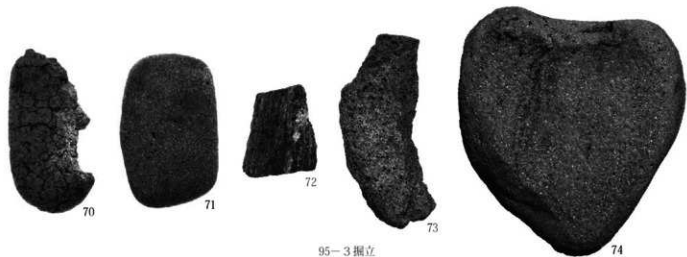


95-3 掘立

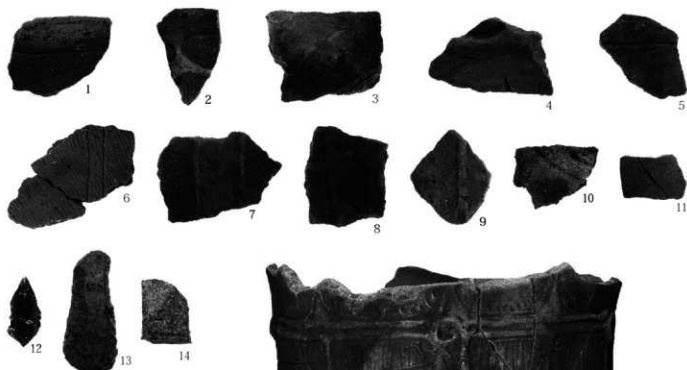








95-3 掘立



95-4 掘立



5-15 埋裏



95-1 埋裏



1

95-3埋裏



1



2



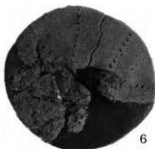
3



4



5



6



7



8



9

95-1 焼土



1

95-7 焼土



1



2



3

95-10 焼土



1



2



3



4



5

95-11 焼土



1



2

95-13 焼土

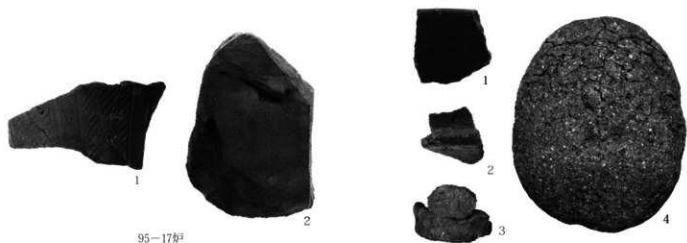


95-14 焼土

95-15 焼土

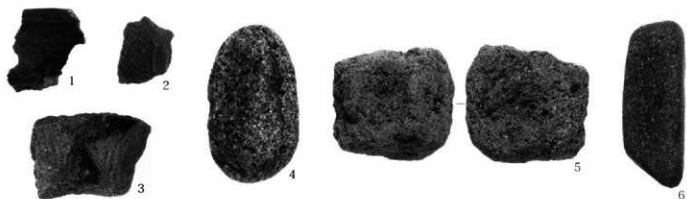


95-16 焼土



95-17 焼土

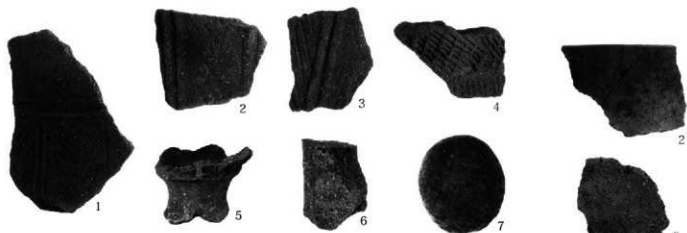
95-1 配石



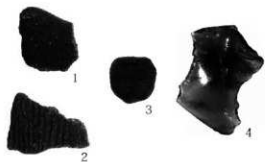
95-2 配石



5-1130±



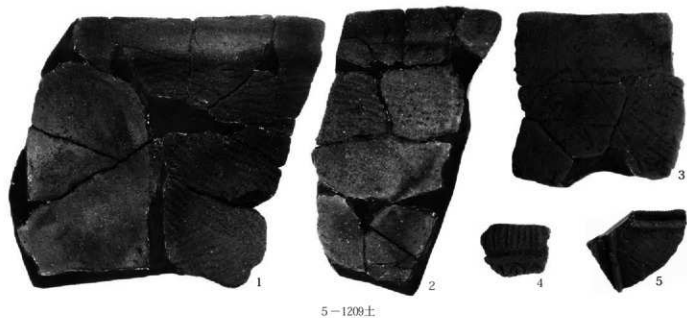
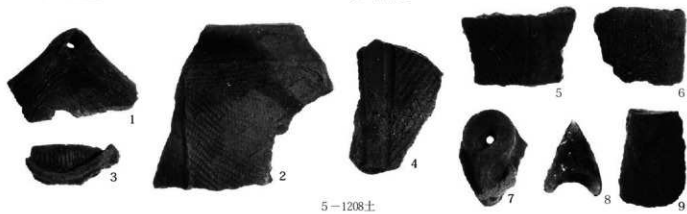
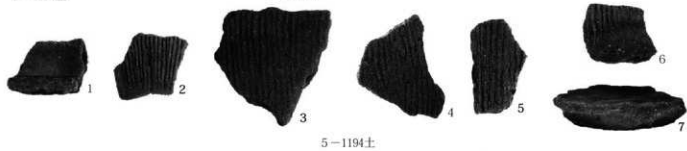
5-1142±

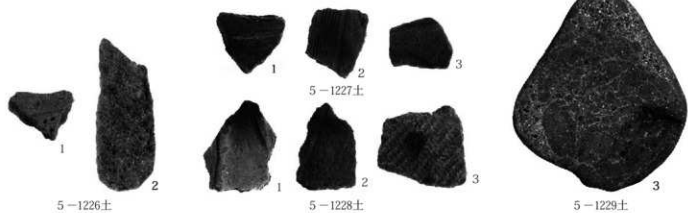
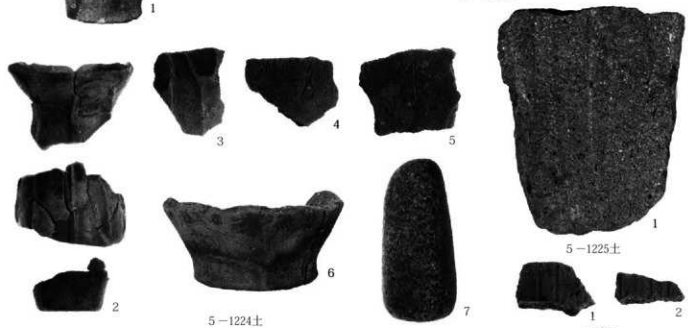
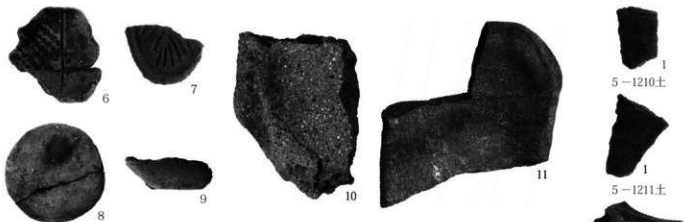


5-1151±

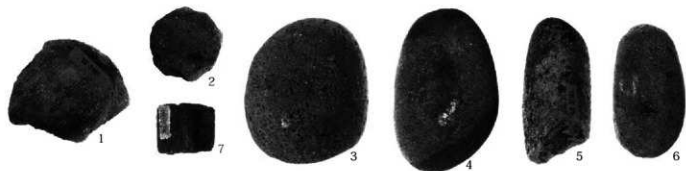


5-1152±





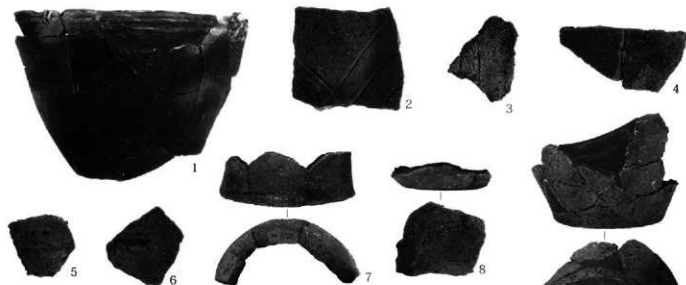




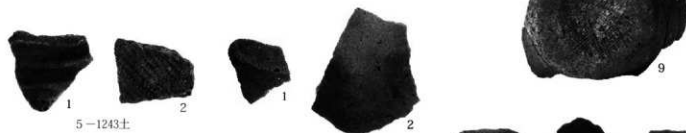
5-1240±



5-1241±



5-1242±



5-1243±

5-1247±



5-1248±

5-1253±

5-1256±

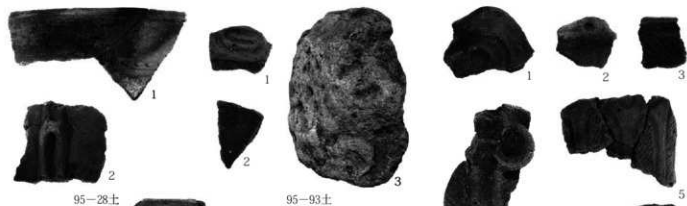




5-1257±

5-1259±

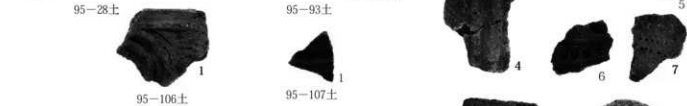
5-1271±



95-28±

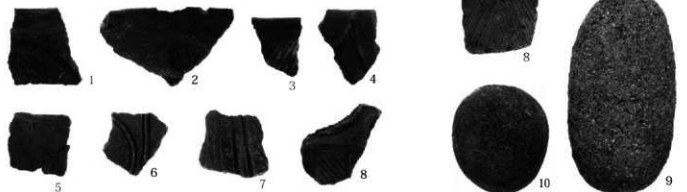
95-93±

95-107±



95-106±

95-102±

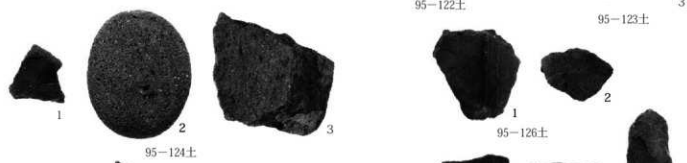
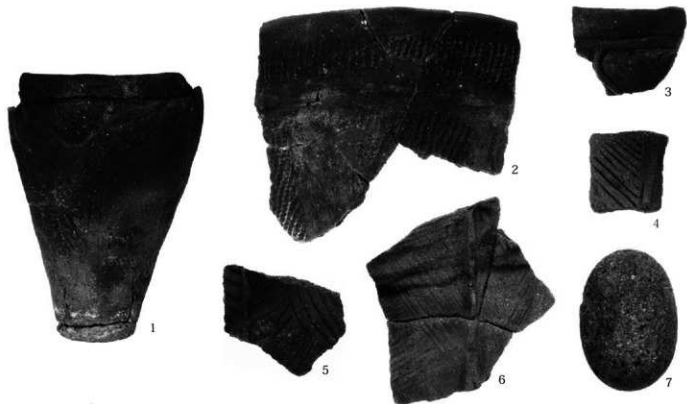


95-108±

95-111±

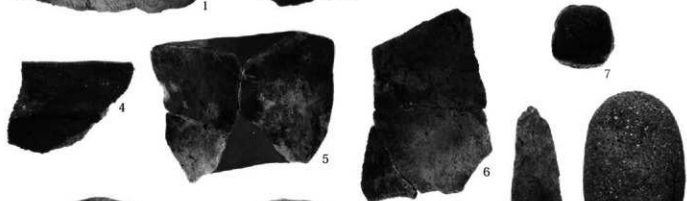


95-112±





95-130±



95-131±

95-133±

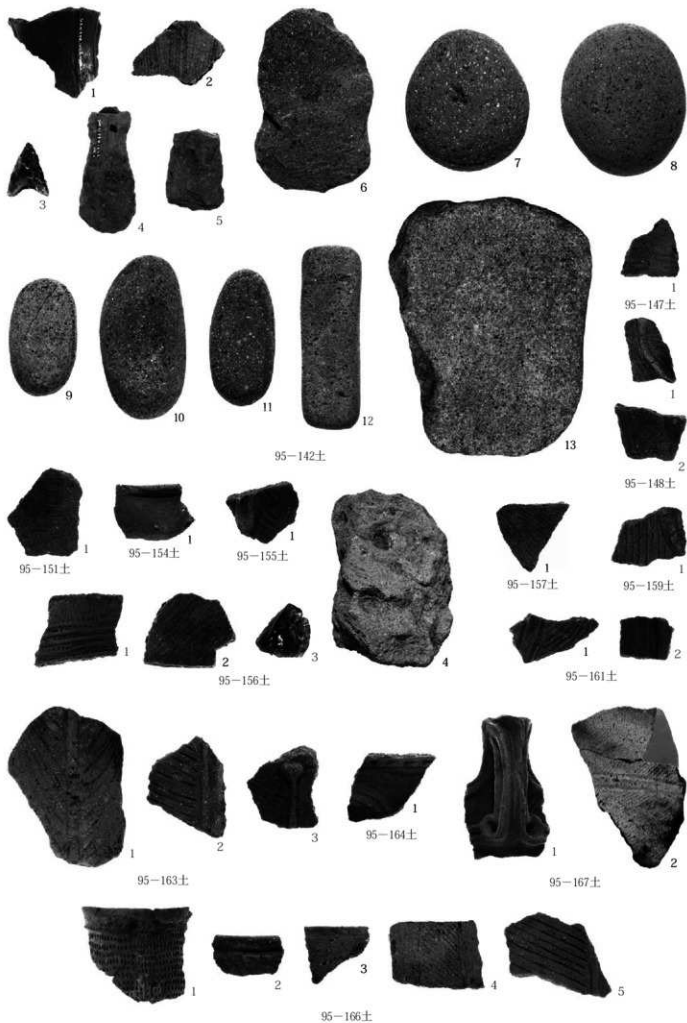


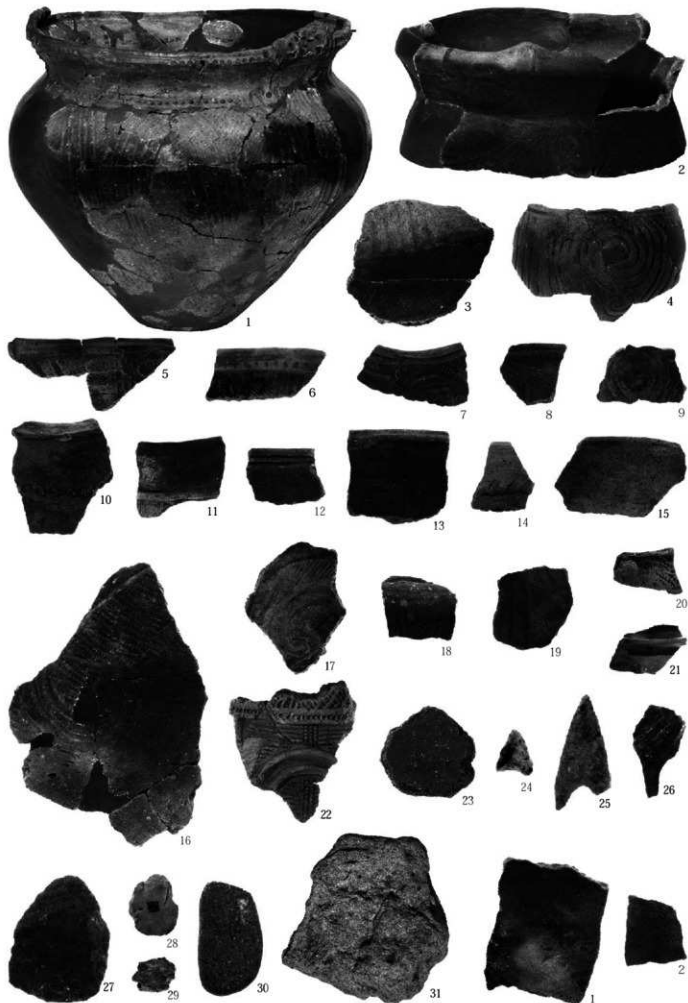
95-136±

95-138±

95-137±

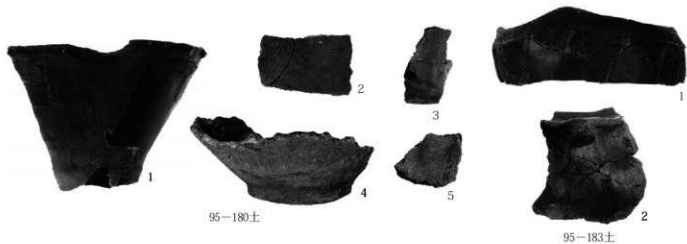
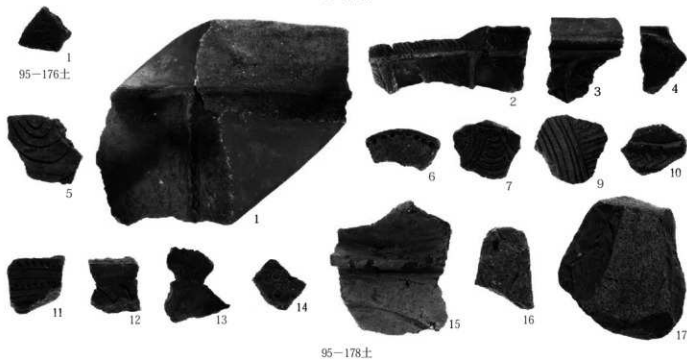
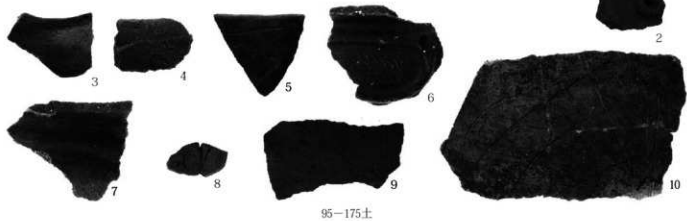
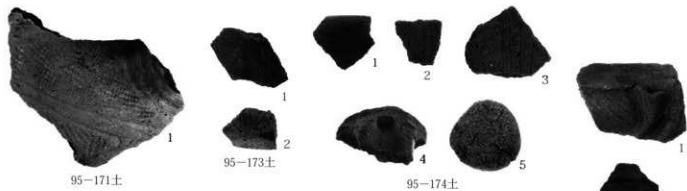
95-139±

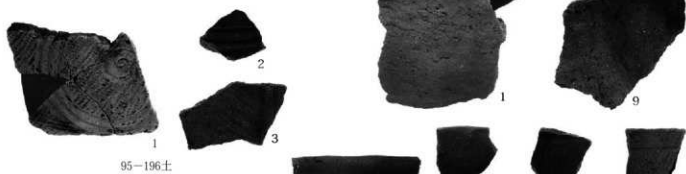
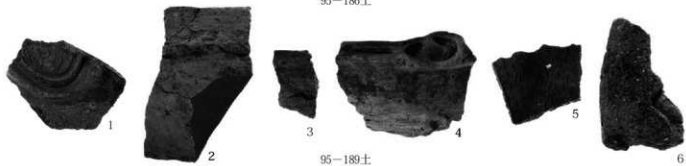
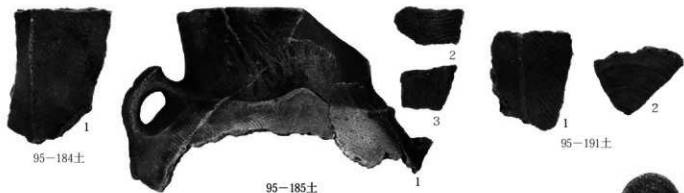


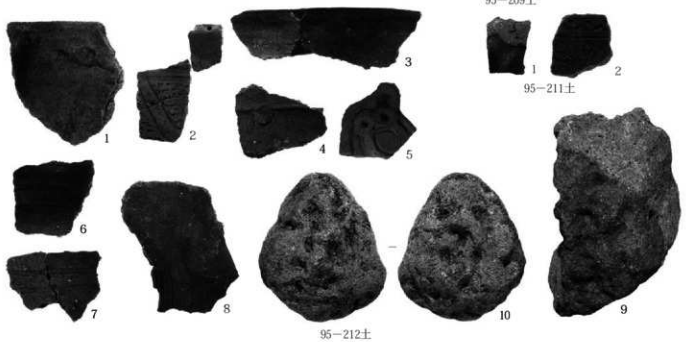
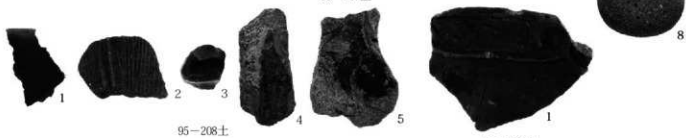
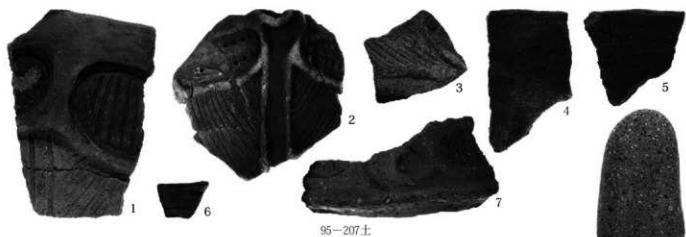


95-168土

95-170土

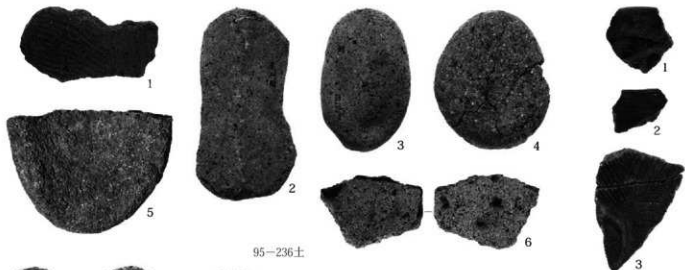










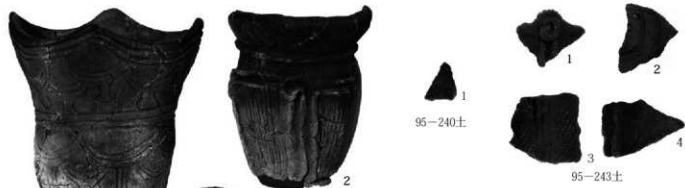


95-236土



95-237土

95-238土



95-239土

95-240土

95-243土



95-244土



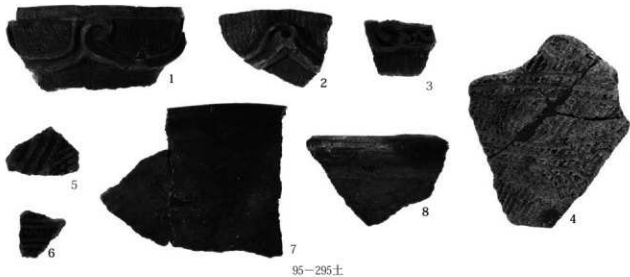
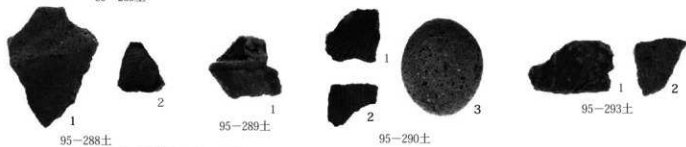
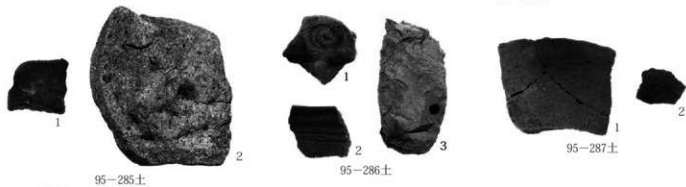
95-247土

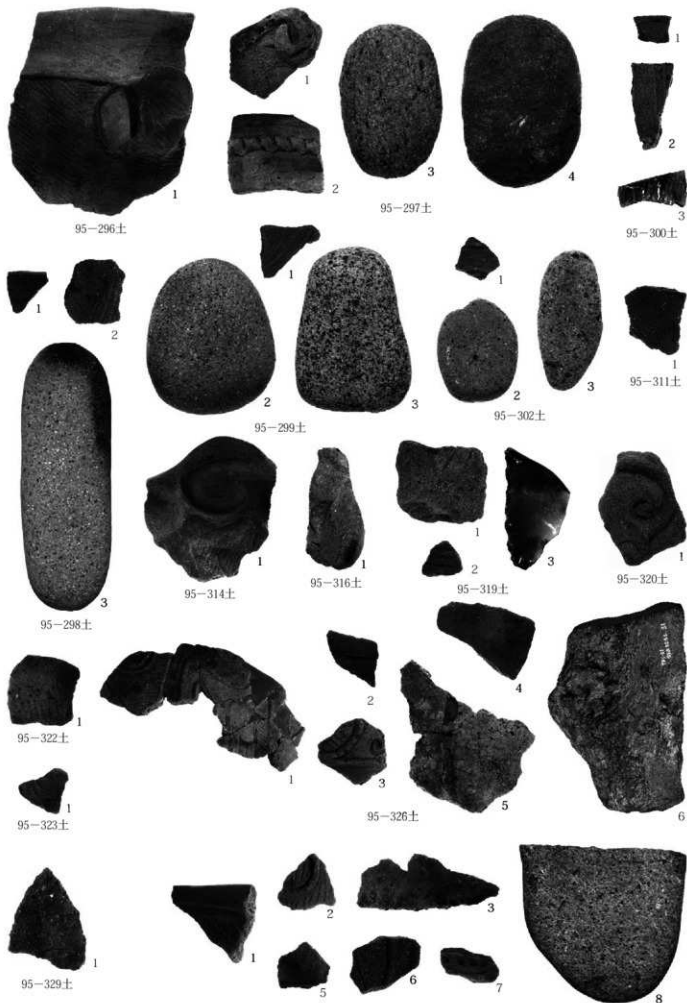
95-248土

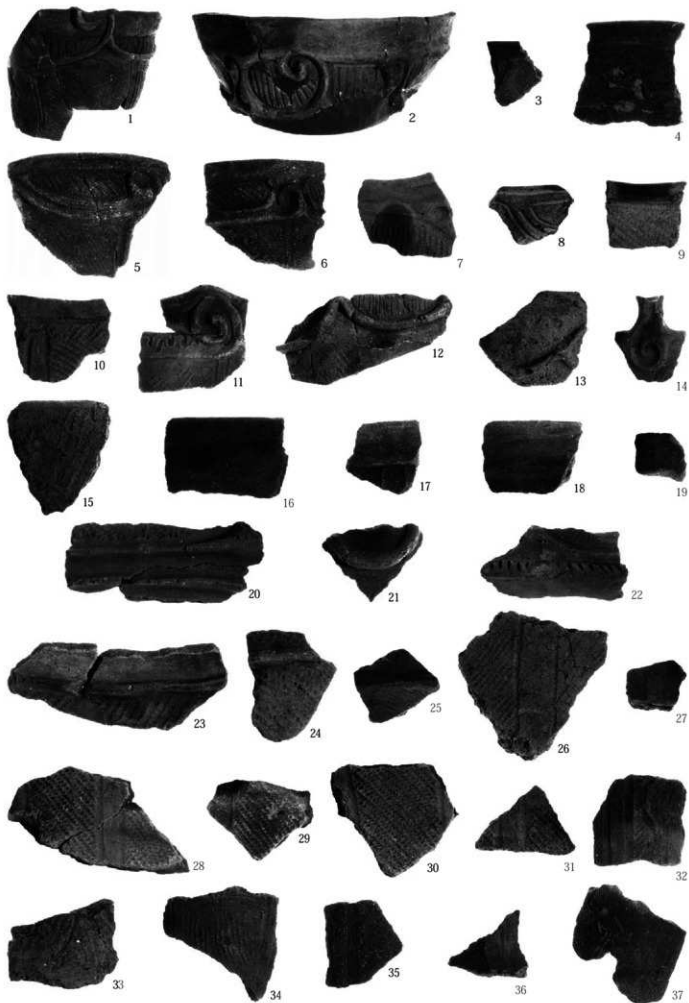
95-251土

95-246土

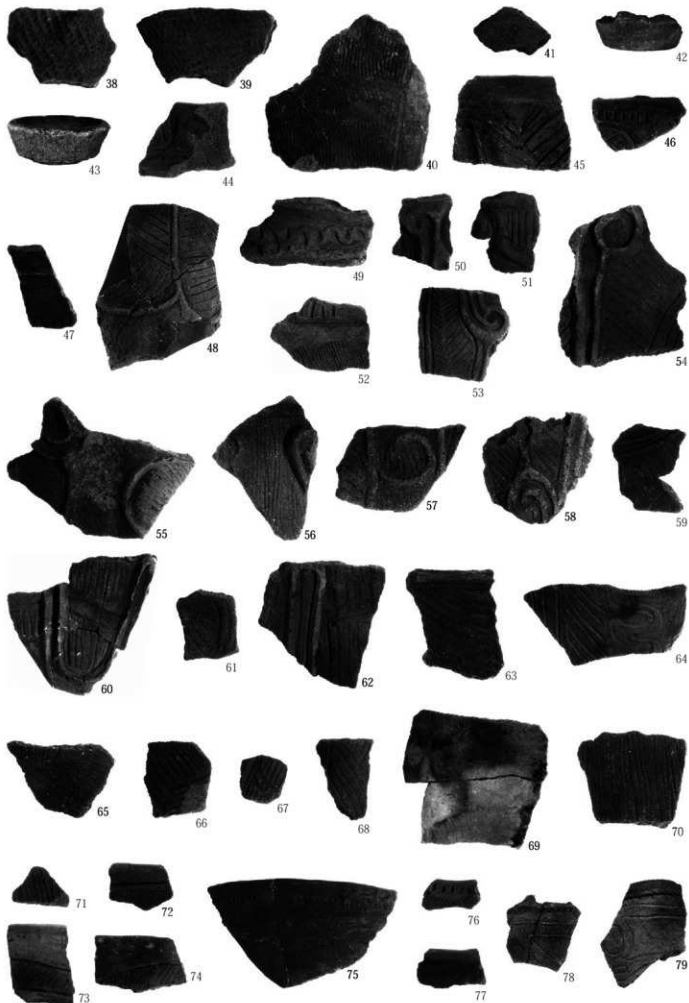


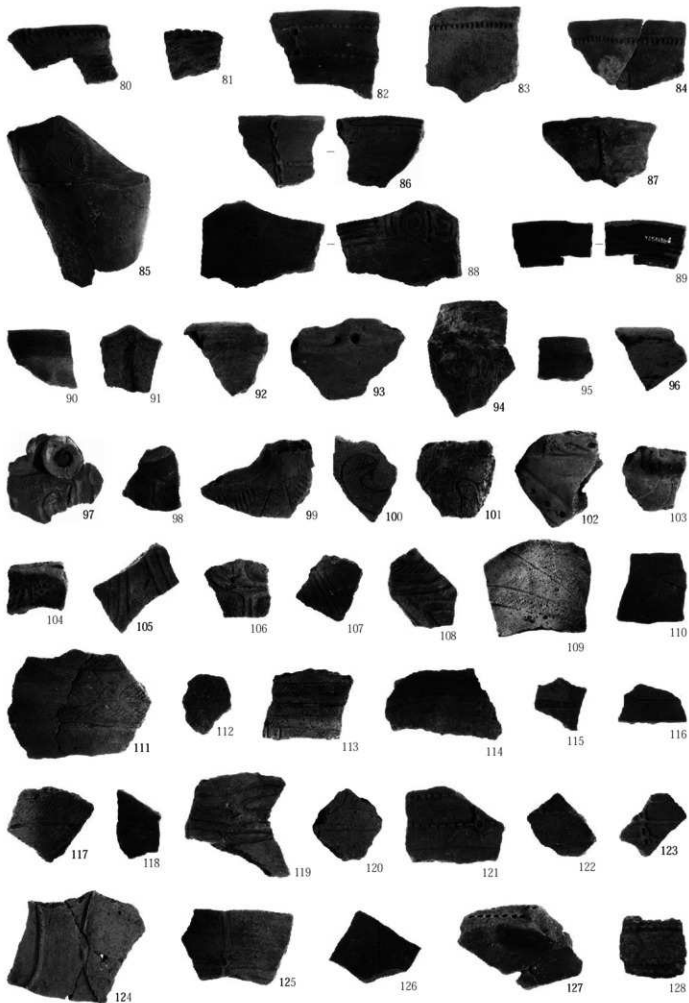




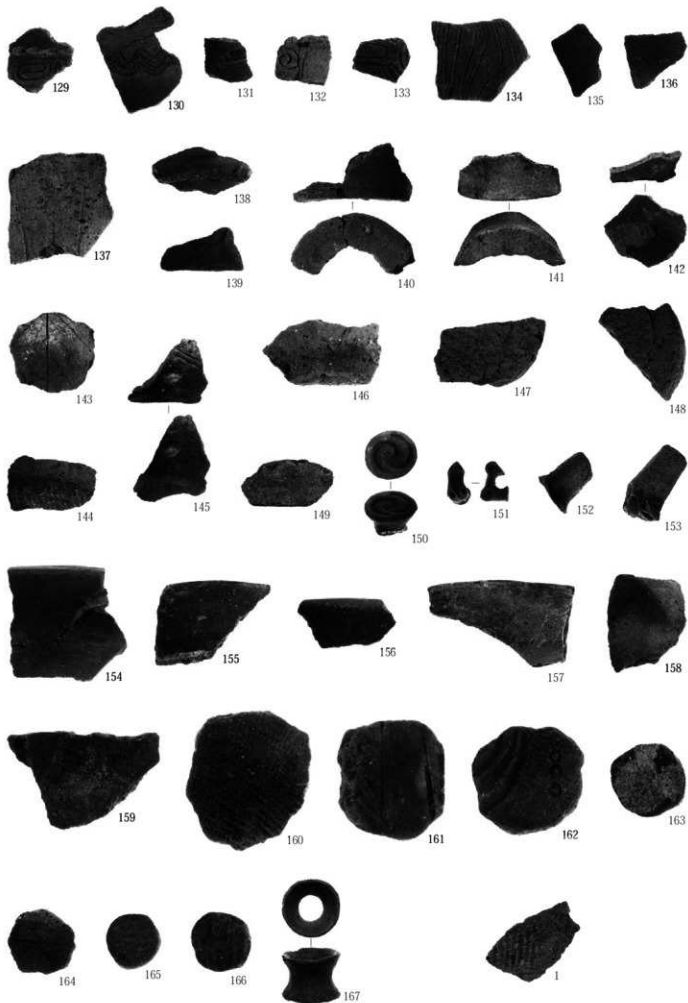


5区 遺構外出土土器



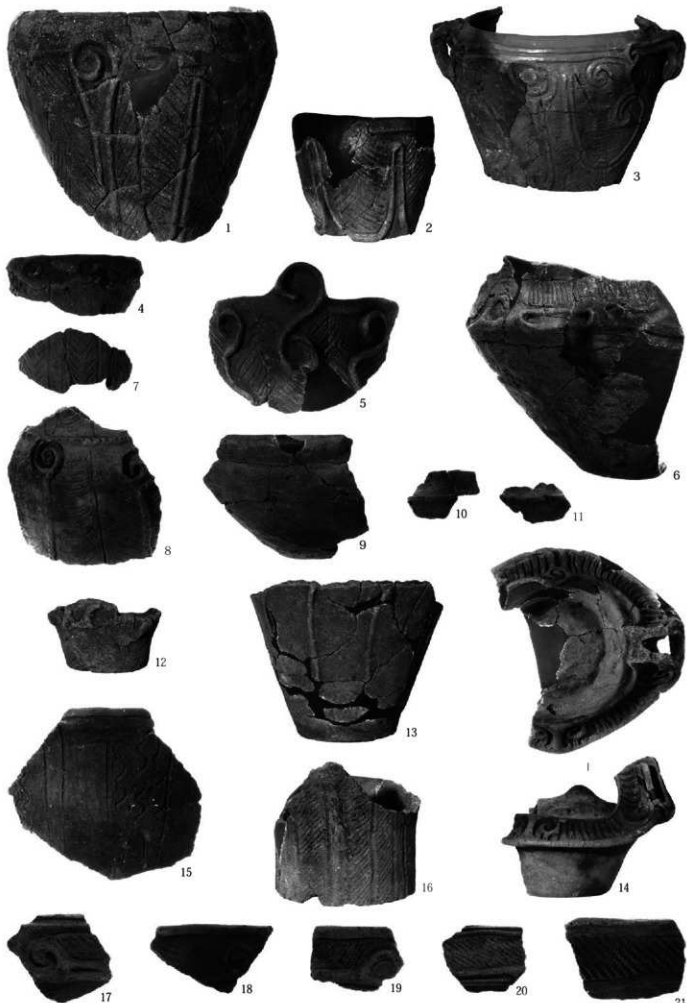


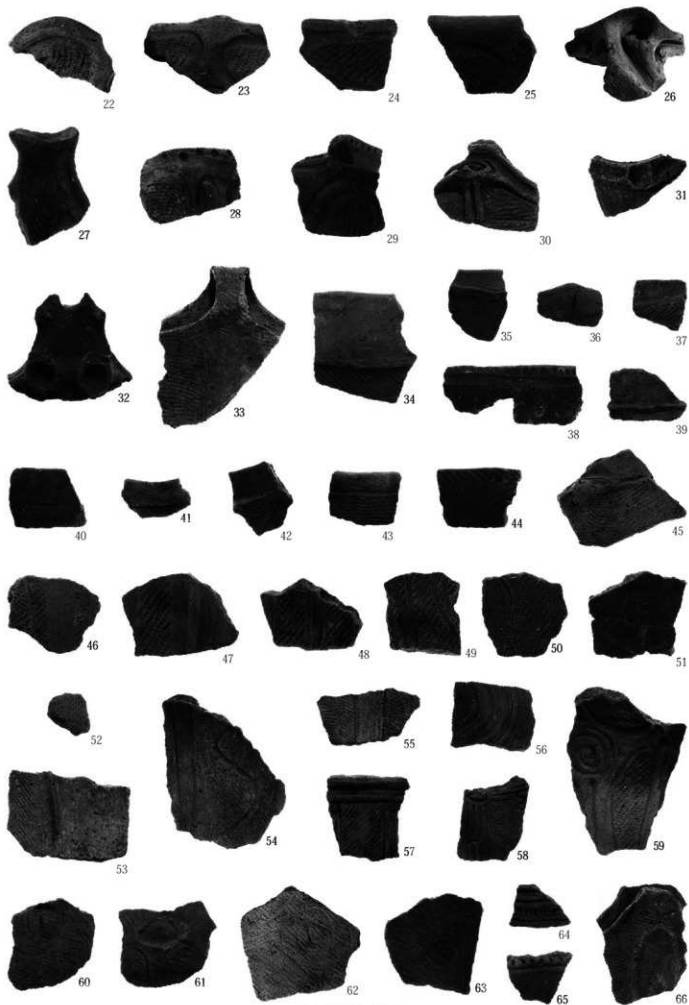




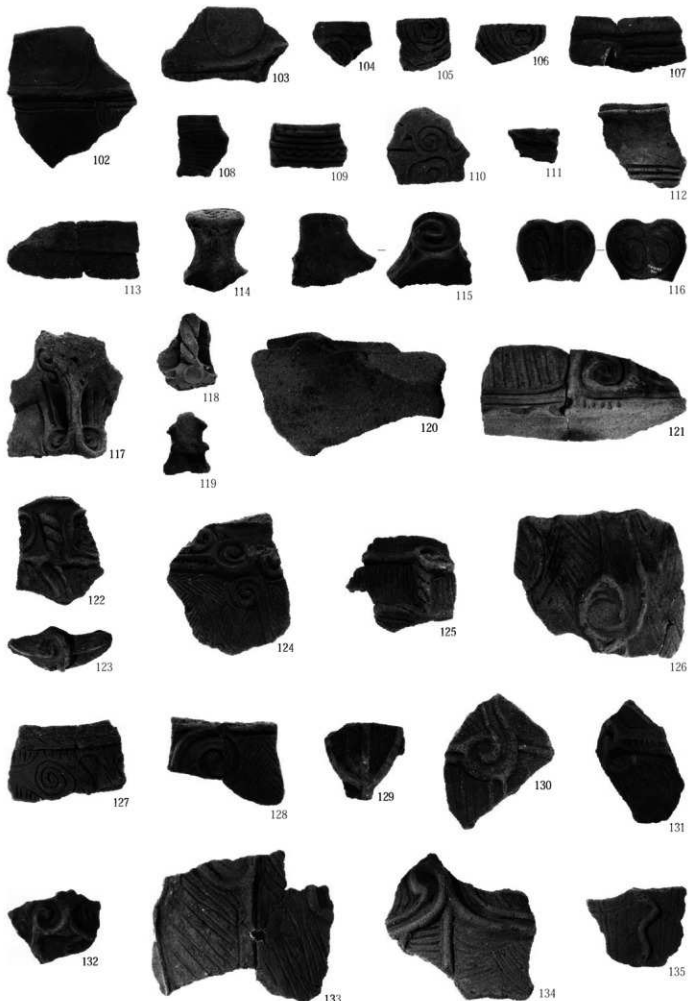
5区 遺構外出土土器

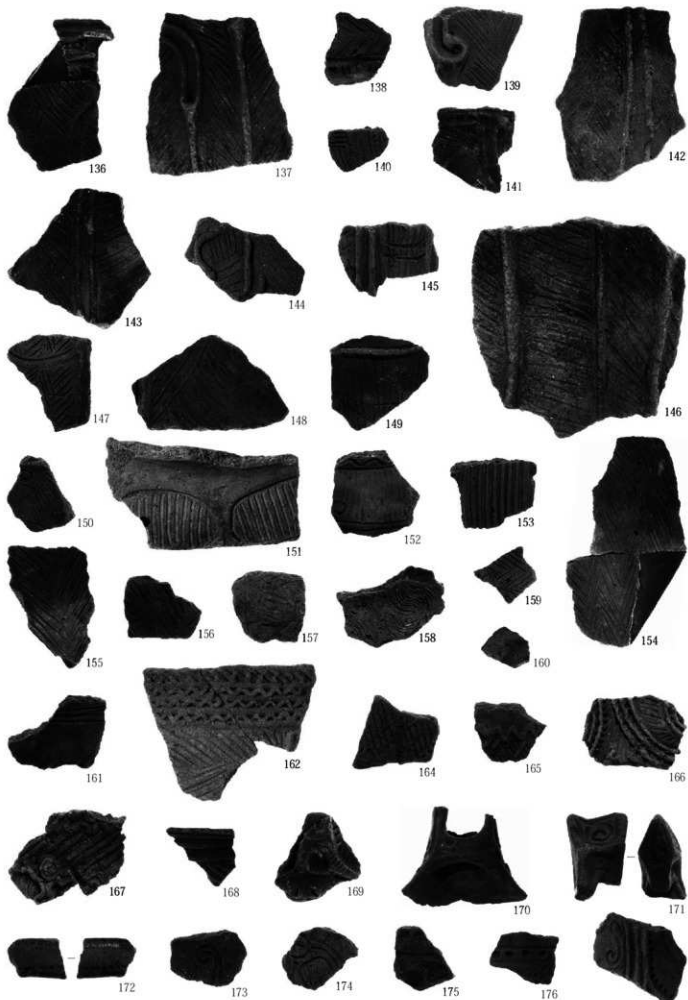
19区 遺構外出土土器

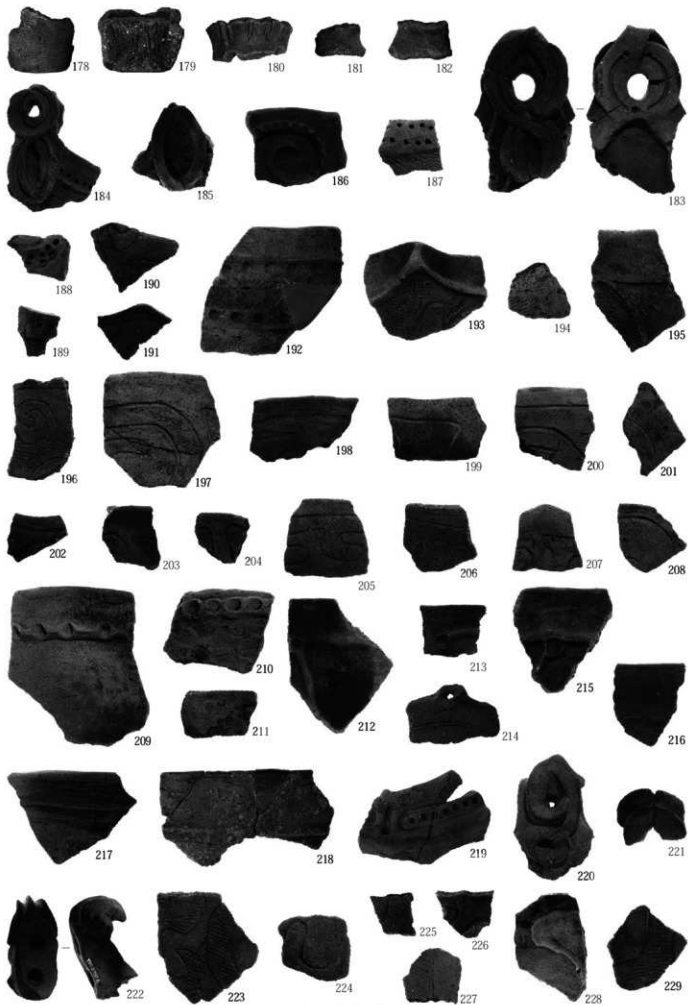


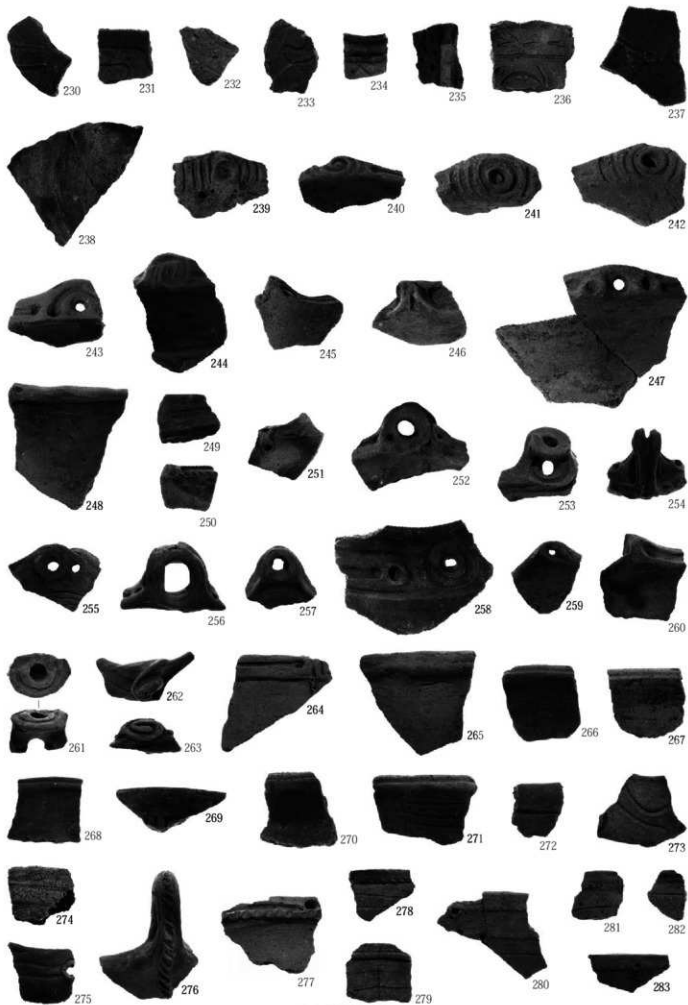




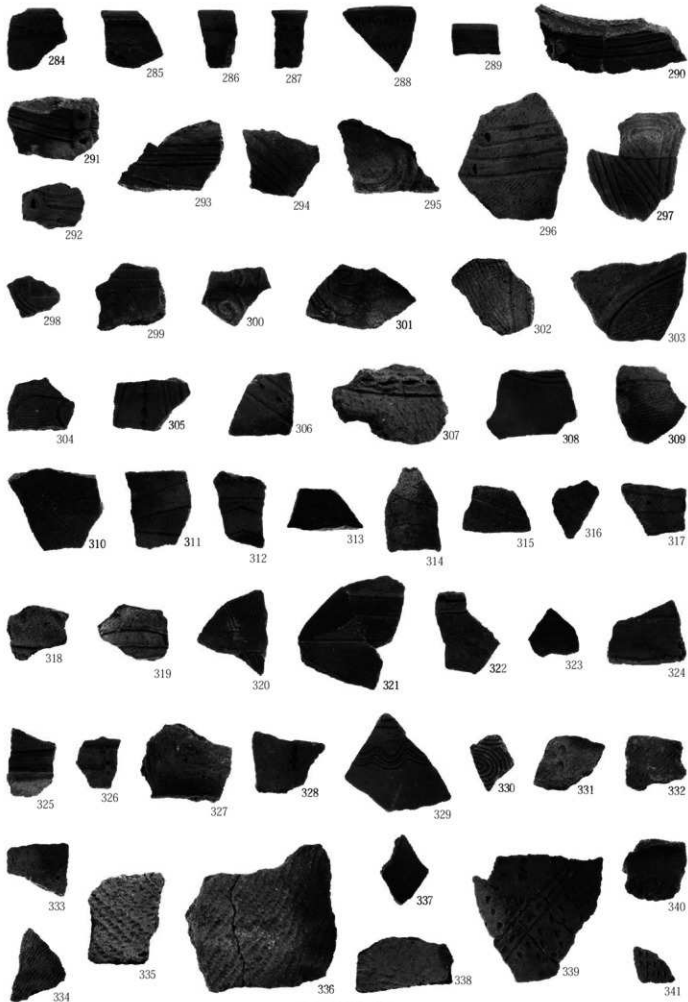


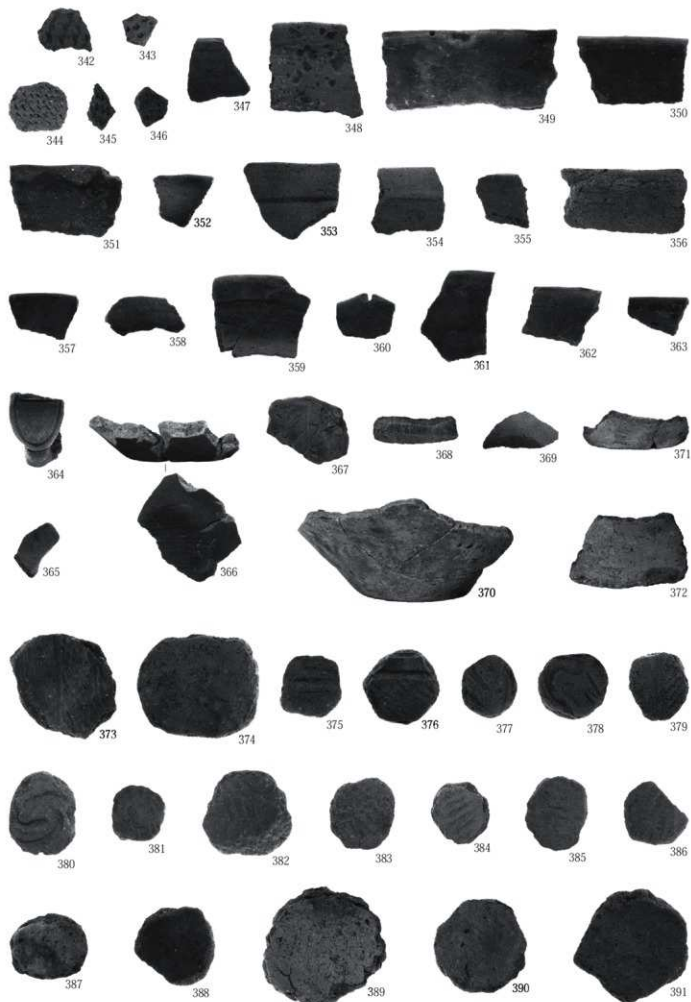


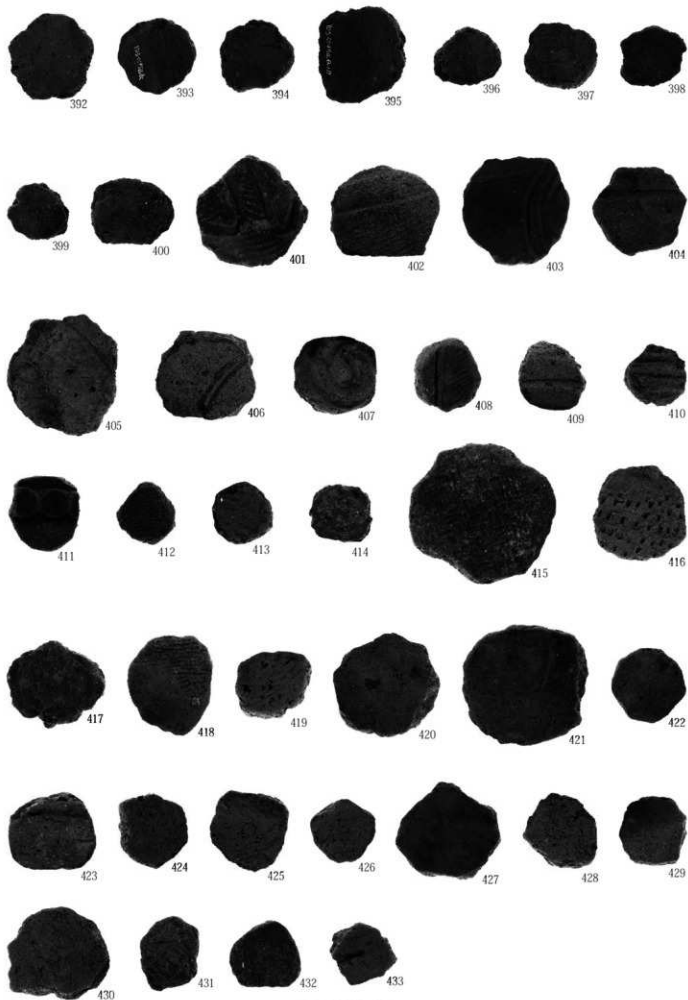


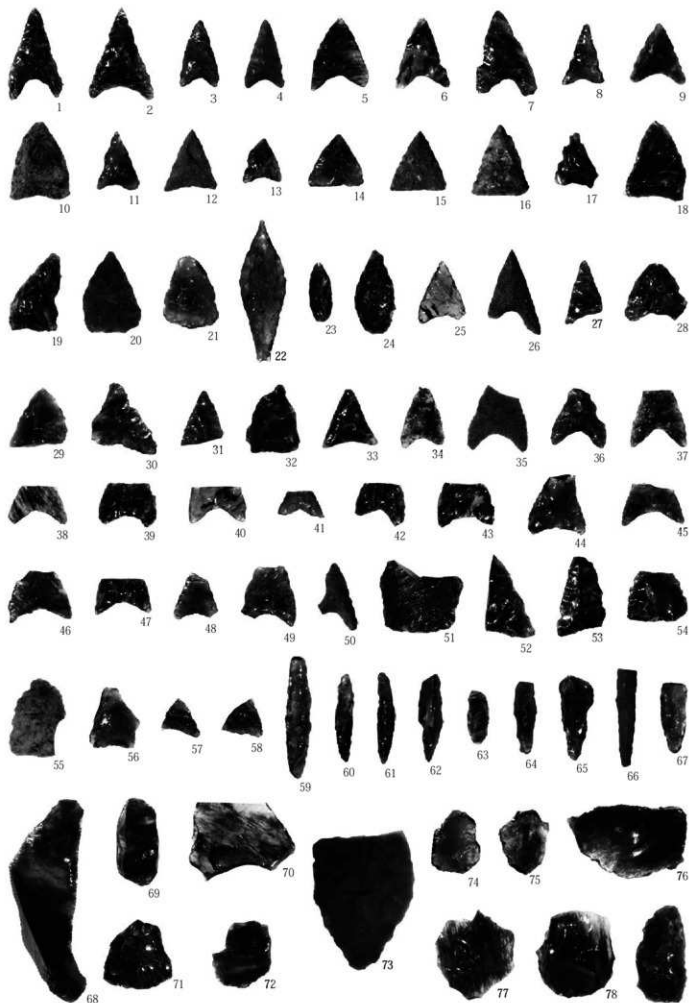






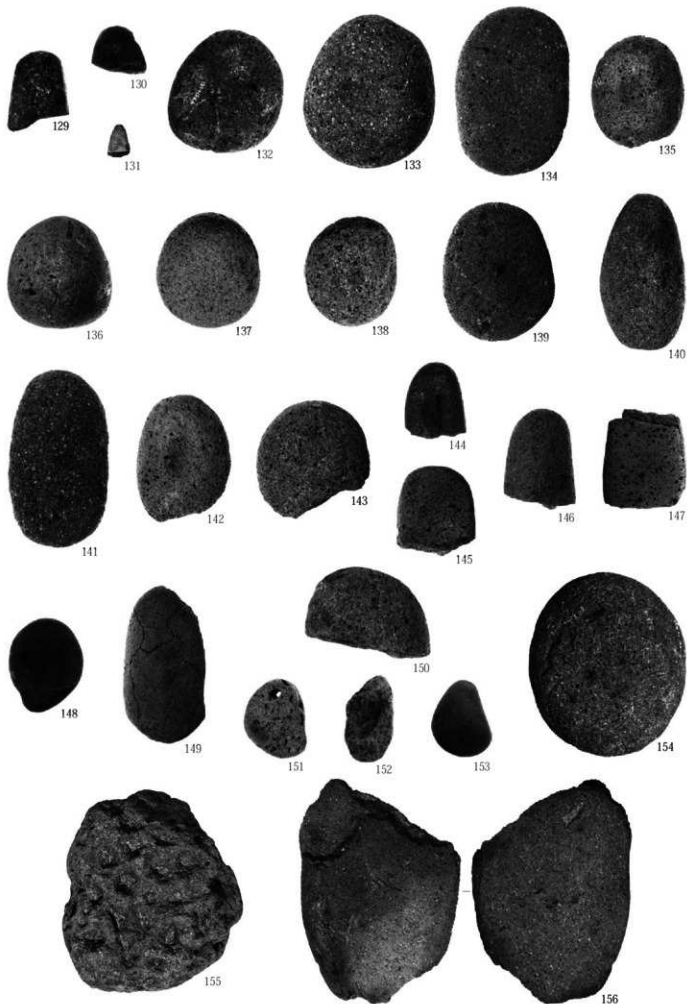


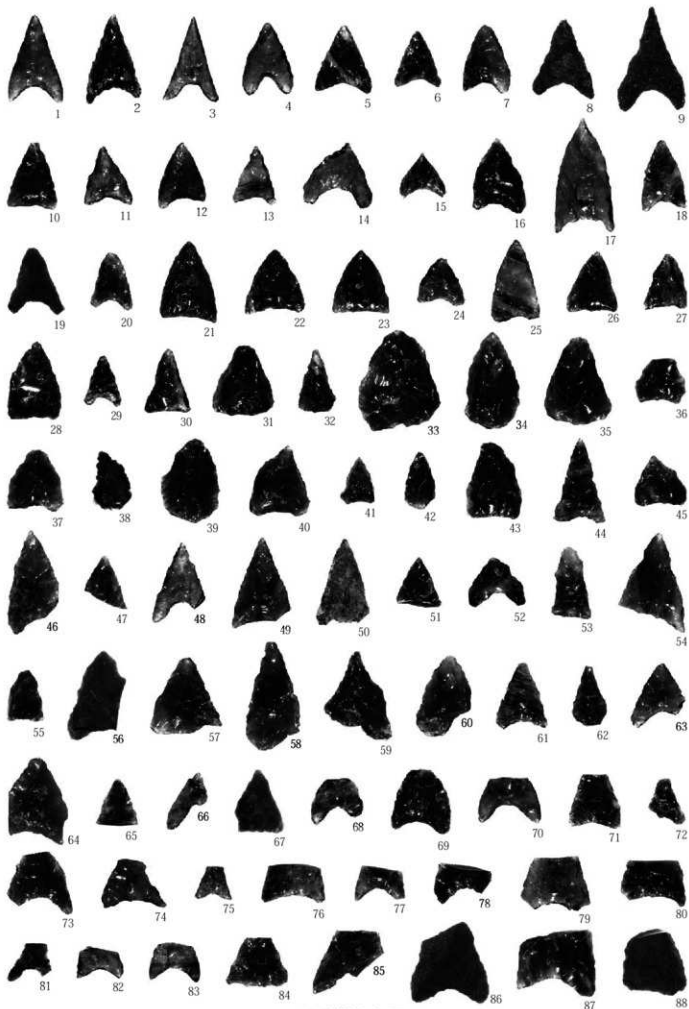


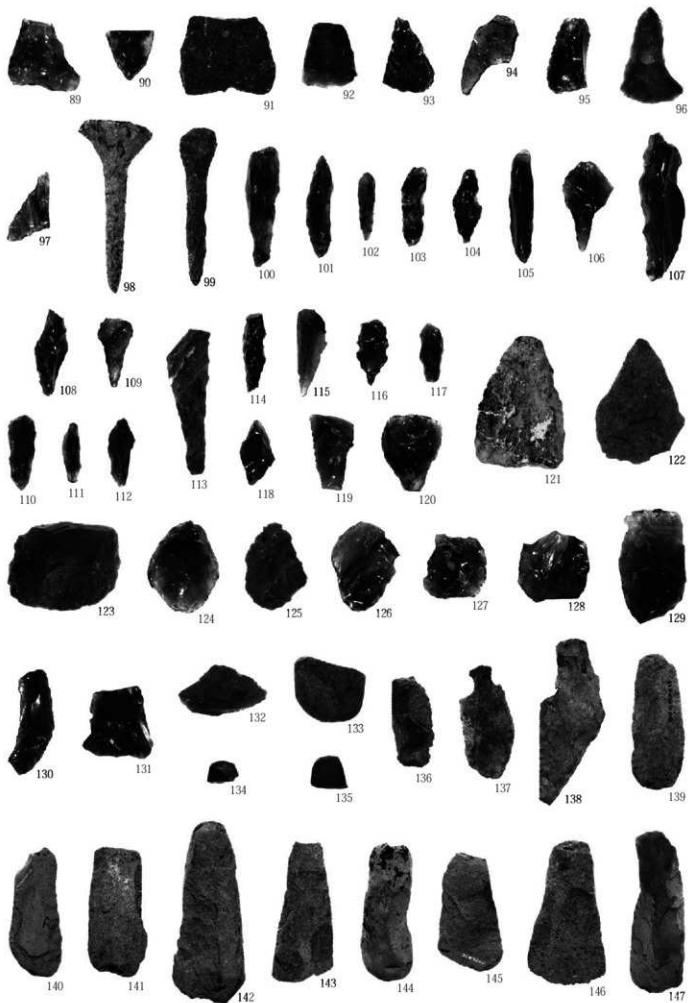




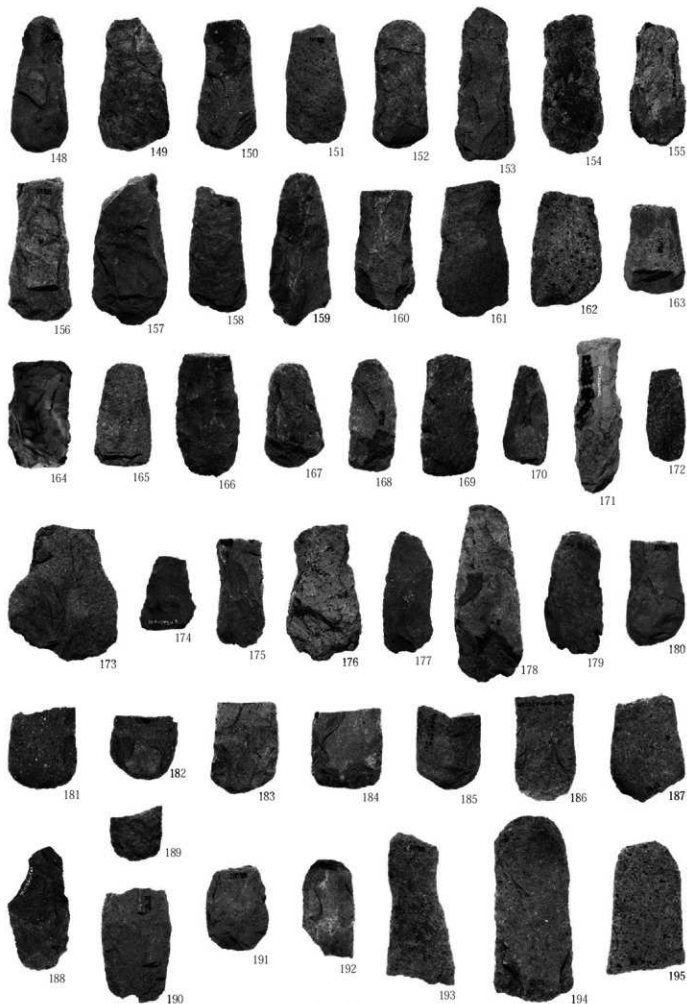
5区 遺構外出土石器

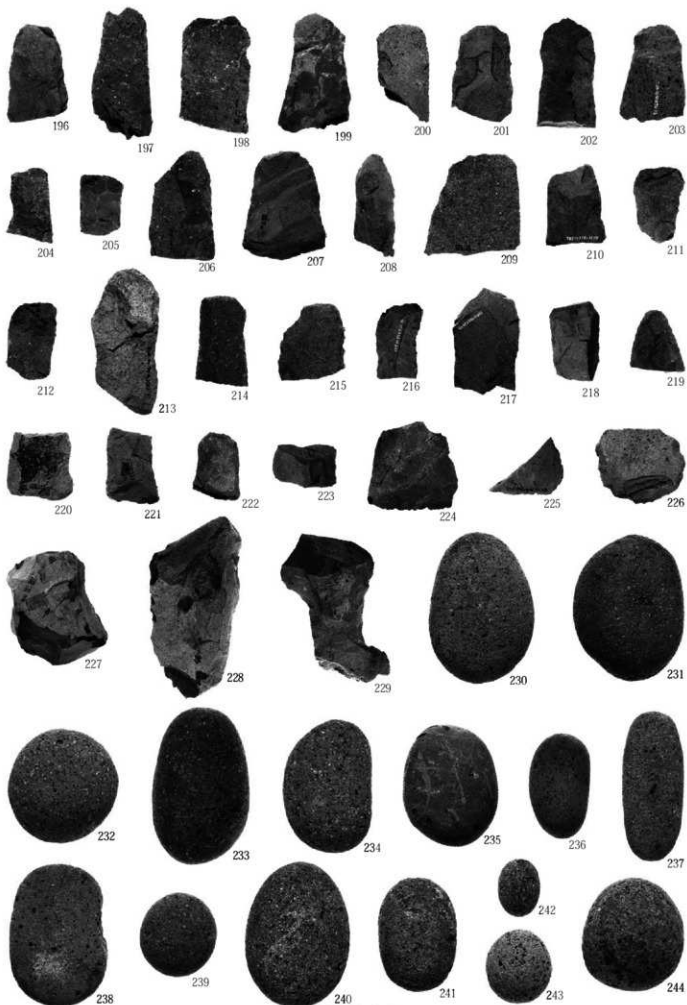




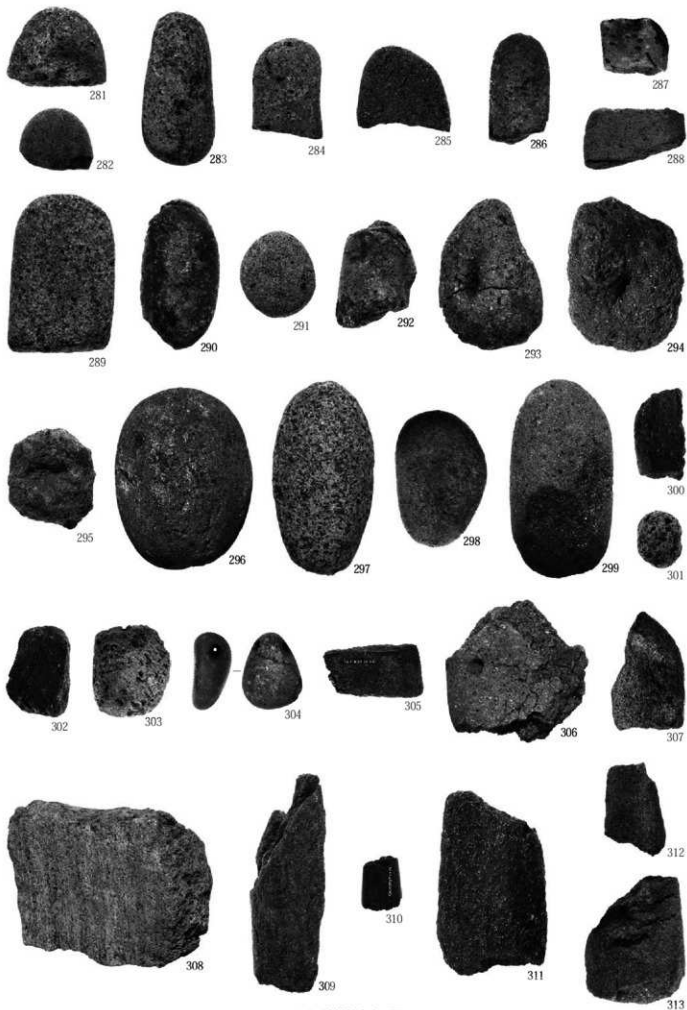






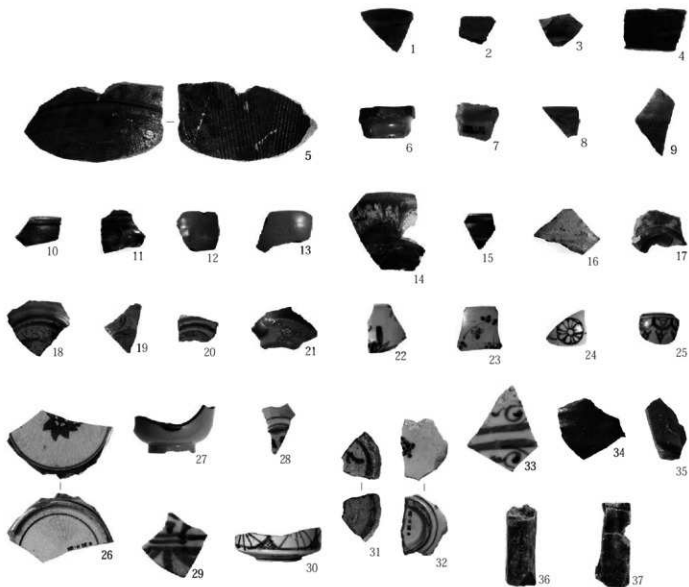








5-6 烧土



5·95区陶磁器・石器類



5·95区金属製品

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第554集

## 長野原一本松遺跡(6)

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第40集 一写真図版編一

平成25 (2013) 年3月18日 印刷

平成25 (2013) 年3月25日 発行

編集・発行／公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784-2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

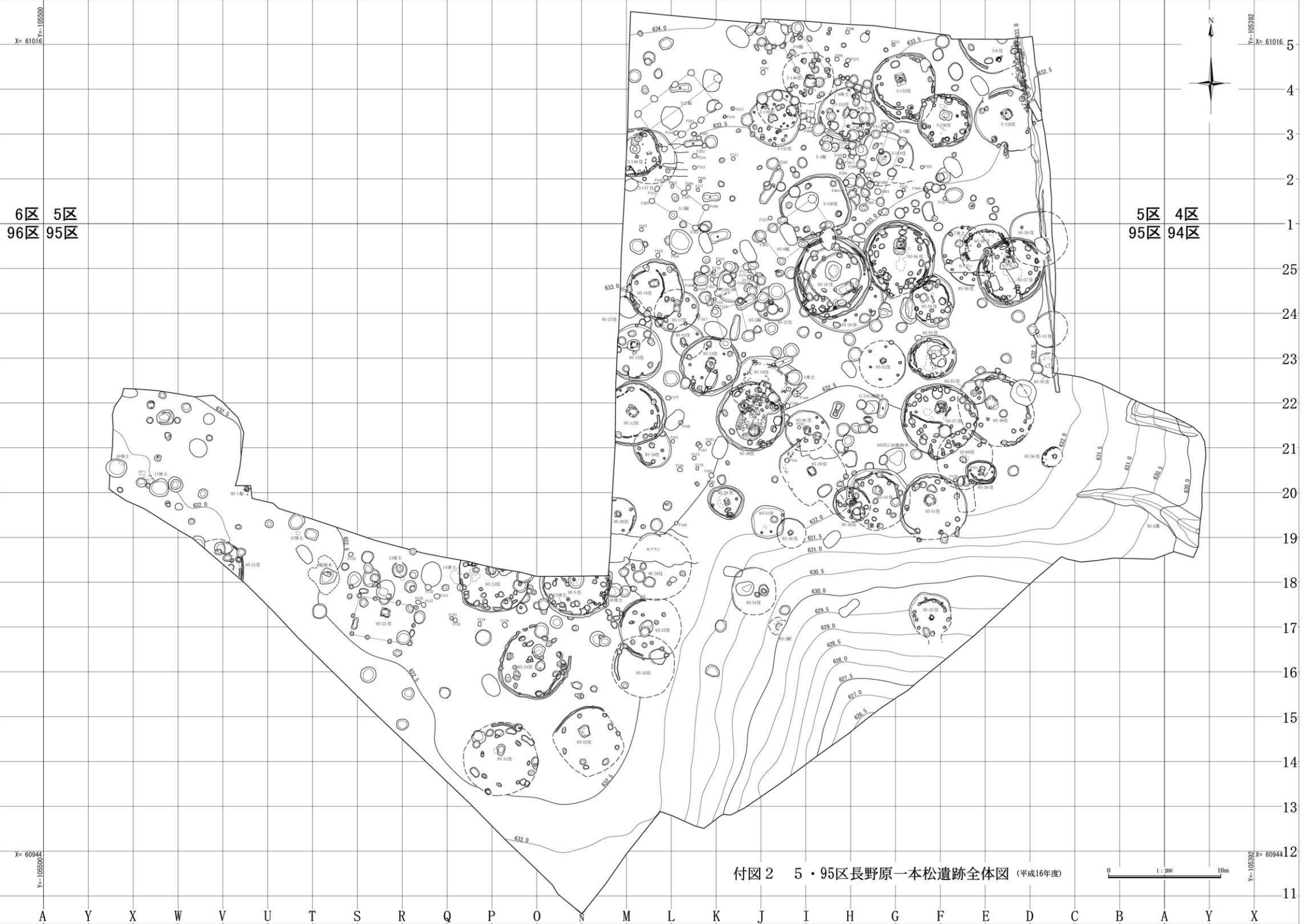
URL <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社









6区 5区  
96区 95区

5区 4区  
95区 94区

付図2 5・95区長野原一本松遺跡全体図 (平成16年度)

0 1:200 10m



付図1 長野原一本松遺跡全体図 (平成6～16年度)